ISSN　0913−5901

地方独立行政法人　神奈川県立病院機構
神奈川県立がんセンター

年報

第35号　　令和元年度

神奈川県立がんセンター

年　　報

第35号　令和元年度

神奈川県立がんセンター

ミッション（病院の使命）

神奈川県のがん医療の中枢機関として、県内の医療機関と連携をはかり、
県民に最良のがん医療を提供します。

ビジョン（目指す病院像）

患者さんに選ばれ、職員が生きがいと誇りを持てる病院を目指します。

バリュー（行動指針）

●患者さんの人権尊重と個人情報の保護
患者さんの意思と権利を尊重し、個人情報を適正に管理します

●安全で質の高い医療の提供
がん専門病院として最良の医療を提供します

●先進医療の開発と臨床研究の推進
新しいがんの診断治療法の開発と臨床研究機能の強化を行います

●人材の育成
優れた医療人の育成のため、がん診療に係わる医療従事者の教育研修を推進します

●経営基盤の強化
医療資源の最大利活用に努め、健全な病院経営のため不断の努力をします

KANAGAWA CANCER CENTER

〈がんセンターマークの由来〉令和元年制定
神奈川県立がんセンター Kanagawa Cancer Center の頭文字「KCC」を図案化。
最新鋭の技術や機器等の近未来をイメージし、さらに、がんセンター「K」が
情報等を波動のように発信していく様を「CC」で表したもの。

はじめに

令和になって最初の年報をお届けします。この年報から、医療局の業務報告の記述を変更しました。これまで自由記載でしたが、診療科により記述の濃淡があり、記述内容も統一されていませんでした。今回から、スタッフ、診療実績、教育・人材育成、今後の展望の項目を設け、それぞれの項目ごとに記載するようにしました。各項目は、当院のミッション・ビジョン・バリューに沿って設定しました。今後は他部門にも広げていきたいと思います。

さて当院はここ数年の間厳しい財務状況でありましたが、令和元年度の決算では、21.7億円収支が改善し、経常ベースで6.8億円の黒字となりました。全職員の大変な努力の賜物です。職員の士気も上がりもうひと頑張りというときに、新型コロナウイルス感染症が発生し、経営面で大きな打撃を受けました。この原稿を書いている時点では第3波が猛威を振るい、医療機関を中心に大規模クラスターが発生し、医療スタッフの不足、診療の縮小や停止に陥っています。検診控えはがん専門病院である当院にも少なからず影響があり、検診発見の初診患者が激減し、相対的に症状のある進行がん患者が多くなるという傾向がはっきりと見て取れました。がん検診の有用性を実臨床で目の当たりにした次第です。

一方で、コロナ禍は医療を取り巻く環境を激変させました。感染防止のため電話・オンライン診療が代表例です。少子高齢化により人口は減少し、社会のデジタル化が進んでいます。これに対応すべく、医療分野のデジタル化、AIやIoTなどのデジタルテクノロジーを医療現場に取り込むいわゆるデジタルホスピタル構想がありますが、コロナ禍はそのような取り組みの加速化につながると感じます。

今後医療を取り巻く社会情勢は大きく変動すると予測されます。時々刻々と変化する医療環境に柔軟に対応できる組織、現状に満足せず自ら変化し前進できる組織作りがますます重要になるでしょう。「患者さんに選ばれ、職員が生きがいと誇りを持てる病院を目指す」という当センターのビジョン達成に向け精力的に取り組む所存です。

皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年12月

神奈川県立がんセンター
総長　**中山治彦**

目　　次

はじめに

＜総　括　編＞

第１章　概　　要

第１節　設立趣旨・沿革…… 1

第２節　施設・設備…… 3

1　施設概要…… 3

2　病棟・病床構成…… 5

3　主なる医療機器一覧…… 6

第３節　組　　織

1　組　　織…… 8

⑴　組 織 表…… 8

⑵　組織別常勤職員配置状況…… 10

⑶　役 職 者…… 12

⑷　任期付医師／配置状況…… 13

第４節　所内会議・委員会…… 14

第２章　病院業務

第１節　概　　要…… 16

第２節　医 療 局…… 17

第３節　がんゲノム診療センター…… 29

第４節　重粒子線治療センター…… 29

第５節　医療技術部…… 30

第６節　看 護 局…… 32

第７節　医療管理部…… 32

第８節　患者支援部…… 37

第９節　生体試料センター…… 42

第３章　事務局業務

第１節　概　　要…… 42

第２節　総務企画課…… 42

図 書 室

第３節　財務経営課…… 43

第４節　医事・診療情報管理課…… 44

第５節　地域連携課…… 45

第４章　臨床研究所業務

第１節　概　　要…… 46

第２節　研究業務…… 47

第３節　実験動物施設…… 49

第４節　神奈川県悪性新生物登録事業…… 50

第5章　研修・研究…… 51
第6章　病院ボランティア会ランパスの活動…… 55

＜研　究　編＞

第1章　臨床研究所
第1節　研究課題一覧…… 57
第2節　研究業績…… 58
第3節　臨床研究所・病院共同研究一覧…… 68
第4節　その他の学術講演…… 69
第5節　公的研究費による研究一覧…… 71
第6節　臨床研究所セミナー…… 75
第7節　県民のための公開行事…… 76
第2章　病　　院
第1節　研究課題一覧…… 77
第2節　研究業績…… 104
第3節　その他の学術講演…… 159
第4節　公的研究費による研究一覧…… 171
第5節　主催学会・セミナー…… 178
第6節　県民のための公開行事…… 179
第3章　所内研究会
第1節　所内カンファレンス一覧…… 180
第2節　所内研究会…… 181
1　病院・研究所研究会…… 181
2　看護研究会…… 182
3　臨床腫瘍セミナー…… 183
4　学術セミナー…… 183

＜統　計　編＞

凡　　例
表1　診療業務総括表…… 186
表2　収益的収入及び支出（令和元年度）
⑴　一般会計…… 187
⑵　重粒子会計…… 188
表3　診療報酬診療行為別割合（令和元年度）…… 189
表4　診療科別外来患者数…… 190
表5　外来新患者年齢別数…… 194
表6　外来新患者地域別数…… 195
表7　診療科別入院・退院患者数…… 196
表8　入院患者年齢階級別数…… 200

表９　入院患者地域別数…… 201
表10　科別死亡退院患者数・剖検数…… 202
表11　手術件数
⑴　臓器・部位別手術件数…… 204
⑵　科別手術件数…… 205
表12　麻酔別手術件数…… 205
表13　放射線検査件数…… 206
表14　放射線治療件数（光子線）
⑴　第１リニアック…… 208
⑵　第２リニアック…… 209
⑶　第３リニアック…… 210
⑷　第４リニアック…… 212
⑸　小線源治療…… 214
表15　放射線治療件数（重粒子線）
⑴　重粒子照射室１…… 216
⑵　重粒子照射室２…… 217
⑶　重粒子照射室３…… 218
⑷　その他関連業務件数…… 219
表16　ラジオアイソトープ検査件数（体外測定）…… 220
表17　臨床検査統計
⑴　臨床検査統計…… 222
⑵　病理検査詳細…… 224
⑶　血液形態検査詳細…… 225
⑷　細菌検査詳細…… 226
⑸　生理機能・超音波検査詳細…… 227
⑹　治験検体処理検査詳細…… 228
⑺　輸血検査詳細…… 229
⑻　委託検査の概要…… 230
⑼　日直・当直検査の詳細…… 231
表18　内視鏡室実績…… 232
表19　外来化学療法室／処置室／外来採血室実績
⑴　外来化学療法室業務量…… 233
⑵　処置室業務量…… 233
⑶　外来化学療法数の年次推移（平成19年度～令和元年度）…… 233
⑷　外来採血室業務量…… 233
表20　薬剤科業務統計
⑴　薬剤件数…… 234
⑵　医薬品情報（ＤＩ）業務件数…… 234
⑶　薬剤管理指導業務…… 234

⑷　麻薬使用数量…… 236
表21　⑴　患者給食数…… 238
⑵　栄養相談・指導数…… 238
表22　退院患者年齢階級別性別数…… 239
表23　退院患者地域別数…… 240
表24　⑴　退院患者（延）疾病分類⑴…… 241
⑵　退院患者（延）疾病分類⑵…… 242
表25　院内がん登録
⑴　院内がん新登録（平成30年）…… 244
⑵　年次別院内がん登録数及び追跡調査状況（平成30年）…… 246
⑶　新登録患者数（主要部位別・性別・年齢階級別）（平成30年）…… 248
⑷　新登録患者数（地区別）（平成30年）…… 249
表26　神奈川県悪性新生物登録事業
⑴－１　がん罹患数・粗罹患率・年齢調整罹患率（部位・性別）（平成28年）…… 250
⑴－２　罹患数（主要部位・性・年齢階級別）（平成28年）…… 252
⑴－３　罹患率（主要部位・性・年齢階級別）（平成28年）…… 253
⑵－１　罹患数（主要部位・性・二次保健医療圏別）（平成28年）…… 254
⑵－２　粗罹患率（主要部位・性・二次保健医療圏別）（平成28年）…… 255
⑵－３　年齢調整罹患率（主要部位・性・二次保健医療圏別）（平成28年）…… 256
⑶　届出罹患の５年相対生存率（主要部位・性別）（平成24年）…… 257

総　　括　　編

第１章　概　　要

第１節　設立趣旨・沿革

昭和38年に、成人病センターとして発足し、主にがんを中心に高血圧症、糖尿病などの成人病患者を対象に診療を行ってきたが､三大成人病の増加傾向が目立つようになり、高度専門医療の重要性が高まってきた。

このため、神奈川県は、成人病センターをがん診療の中枢的機関として機能させるため、昭和61年４月からがんセンターと名称を変更し、悪性腫瘍患者の診断と進行癌の集学的治療を行うこととした。また、臨床研究所を付置し、がんの発生原因に関する基礎研究と併行し、臨床部門と緊密な連携のもとに、がんの診断方法、治療法の開発など臨床に直結した研究を行っている。

平成11年度にはさらなる専門性を目指してICU病棟、無菌病棟、緩和ケア対応病棟を整備し、併せて平成12年４月に診療科の再編を行った。平成14年度からは緩和ケア病棟の運用を開始した。

平成17年４月から県立６病院は地方公営企業法の一部適用から全部適用となり、病院事業の経営組織を一般行政組織から独立させ病院事業庁とした。

さらに、平成22年４月からは地方独立行政法人法に基づいて設立した「地方独立行政法人神奈川県立病院機構」に移行し、柔軟で弾力的な経営を行うことにより経営改善を図り改善の効果を持って病院の医療機能の充実に生かしこれまで以上に良質な医療を安定的、継続的に提供していくこととした。

昭和36年	4月	県立成人病センター建設準備事務局の設置
	37　3	建設工事着工（本館部分）
	38　3	許可病床31床完成
	38　4	診療開始（内科、外科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科）
	39　10	本館内部改造、許可病床55床となる。
	40　3	深部治療棟新築工事着工
	41　2	深部治療棟新築工事完成
	41　4	放射線科が診断部門と治療部門に分かれる。
	41　6	許可病床65床となる。
	42　3	新館建設工事並びに本館増改築工事着工
	44　2	新館建設工事完成、許可病床250床となる。
	44　4	泌尿器科の設置 放射線科診断部門が放射線第一科となる。 治療部門が放射線第二科となる。 ラジオアイソトープ棟新築工事着工
	45　3	ラジオアイソトープ棟新築工事完成
昭和52年	4月	許可病床244床となる。 呼吸器科、消化器科、循環器科設置、放射線第一科が放射線診断科、放射線第二科が放射線治療科となり、検査部門が検査科と病理科に分かれる。
	56　6	麻酔科の設置
	57　7	第一期増改築工事着工（管理診療棟）
	57　12	CT・ラルス東完成
	59　10	第一期増改築工事完成 （管理診療棟　188床）
	60　6	第二期改築工事着工（東病棟他）
	61　3	第二期改築工事完成（東病棟227床　研究棟、放射線治療棟、講堂棟、機械棟）
	61　4	許可病床415床となる。整形外科､形成外科､脳神経外科、皮膚科の設置。 神奈川県立がんセンターに名称変更（総務局、病院、臨床研究所）
	62　1	紹介型病院承認（制度改正により平成６年３月廃止）
	62　4	レジデント制度の設置
平成４年	11月	新医療従事者公舎（88戸）完成
	5　2	がんセンター総合整備検討委員会の発足
	6　6	がんセンター総合整備検討会議、検討部会の設置
	6　11	倫理会議の発足
	8　4	企画調査室と地域保健課を統合し、新企画調査室を設置
	9　1	がんセンター緊急整備検討会の設置
	10　9	増改築工事（管理・医局棟）着工
	11　3	増改築工事（Ｂ棟）着工
	11　5	事故防止対策会議の設置
	11　7	増改築工事（管理・医局、Ｂ棟）完成
	11　9	院外処方の全面実施
	12　3	増改築工事（Ａ棟）完成
	12　4	ICU病棟、無菌病棟、緩和ケア対応病棟の開設。総務局及び診療科の再編。精神科、歯科口腔外科の設置。修練医制度の設置。治験管理室の設置
	12　10	検査第四科、検査第五科が設置される。 検査の一部を院内委託検査（ブランチ・ラボ）へ移行
	13　3	トータルオーダリングシステムー部稼働開始

平成14年 3 月　トータルオーダリングシステムに伴う予約センター業務開始。緩和ケア病棟の運用開始

14　12　厚生労働大臣から地域がん診療拠点病院として指定される。

15　2　㈶日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定証が交付される。

15　3　㈱日本環境認証機構（JASO）よりISO14001環境マネジメントシステムの認証を得る。

17　4　地方公営企業法を全部適用。病院事業の経営組織を一般行政組織から独立し、病院事業庁としてスタート

18　4　治験管理室、地域医療連携室、総合整備推進室の設置

19　1　厚生労働大臣から都道府県がん診療連携拠点病院として指定される。

20　2　㈶日本病院機能評価機構による病院機能評価の更新認定

20　4　企画情報部を設置し、その下に医療相談支援室（旧・地域医療連携室）を設置した。
2 年間の準備を経てDPC算定病院となる。

22　4　地方独立行政法人へ移行（地方独立行政法人神奈川県立病院機構）、総合整備推進部と医療評価安全部を設置組織を再編した。
レジデントと修練医を任期付職員とした。

24　1　電子カルテシステム稼働

24　4　組織規程の改正に伴い、医療安全推進等の院内組織が正式な組織に位置づけられたほか、企画情報部、総合整備推進部を病院に移行。組織を再編した。

25　11　11月 2 日に入院患者を移送するとともに新病において業務を開始し病棟編成を新病院に併せ改編した。外来業務は 5 日から開始。
※新病院の整備に当たってはPFI方式を採用し、プロポーザルにより選定された特定目的会社（specific purpose company：SPC）が設立され、病院施設等を設計・建設を行い建物引き渡し後も施設の維持管理・医療周辺業務等の運営業務を行っている。また運営の委託化に伴い院内組織としての保育所、電話交換室を廃止。

26　4　感染制御室、漢方サポートセンター、がんワクチンセンター、東洋医学科、免疫療法科、リハビリテーション科及び臨床研究所にがん免疫療法研究開発学部を設置。核医学科の廃止に伴い放射線診断科を放射線診断・IVR科と精神科を精神腫瘍科と改称した。
また、総合整備推進室を 3 月末で廃止。

平成26年 6 月　神奈川がん臨床研究・情報機構について 6 月20日をもって発展的に組織を解消した。

26　10　腫瘍組織センター設立

27　4　緩和ケア・患者支援部を新設し、その下に緩和ケアセンター及び患者支援センターを設置、診療施設管理部を新設し、その下に一般診療施設管理室及び重粒子線治療管理室を設置、放射線治療部を新設し、その下に放射線腫瘍科、重粒子線治療科（重粒子線治療センター）及び物理工学科を設置した。
また、東洋医学科（漢方サポートセンター）、免疫療法科（がんワクチンセンター）と改編した。

27　12　がん専門病院に併設される施設としては、世界で初めてとなる重粒子線治療施設「i-Rock」を開設し、治療を開始した。

28　4　病院の下に腫瘍組織センター及び臨床研究所を位置づけ、診療施設管理部及び放射線治療部を廃した。
緩和ケア・患者支援部にアピアランスサポートセンター及びリハビリテーションセンターを新設。
医療局に放射線治療科、その下に放射線腫瘍科、重粒子線治療科を設置。
病院の下に重粒子線治療センターを設置し、その下に重粒子線診療部、放射線技術科（重粒子線担当）を新設するとともに物理工学科及び重粒子線治療管理室を配した。

29　1　腫瘍組織センターを生体試料センターへ改正し、事務局を病院配下へ統合

29　3　検査科・委託検査室で国際規格であるISO15189を認定取得した。

29　4　医療技術科を臨床工学科へ改正

29　5　二俣川駅北口と病院正面玄関とを結ぶシャトルバスの運行を開始

30　9　手術支援ロボット「ダビンチ」を導入
前立腺センター設立

31　4　事務局を総務企画課、財務経営課、医事・診療情報管理課、地域連携課に再編し、企画情報部を廃止した。
緩和ケア・患者支援部を患者支援部に改称し、その下に患者医療対話推進室を新設した。
病院の下にがんゲノム診療センターを設置し、医療局にがんゲノム診療科を設置した。
放射線治療科の下の放射線腫瘍科、重粒子線治療科の区分を廃止した。
物理工学科を重粒子治療センターから医療技術部に移管した。

令和元年６月　治験管理室を新規治療開発支援センターと改称した。
元　９　公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定（機能種別版評価項目 3rdG：Ver.2.0）を受けた。
令和元年９月　厚生労働大臣からがんゲノム医療拠点病院に指定された。

第２節　施 設 ・ 設 備

１　施設概要

所在地	横浜市旭区中尾２丁目３番２号	横浜市旭区中尾１丁目２番８号
用途	病院敷地ほか	医療従事者宿舎ほか
面積	37,425.56㎡	4,992.00㎡

⑴　建築概要

敷地面積	37,425.56㎡	
	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
建築面積	11,842.14㎡	3,009.12㎡
延床面積	51,463.93㎡	6,999.47㎡
構造	RC造／免震	RC造／耐震
階数	地上７階、地下１階	地上２階、地下１階
病床数・定員数	415＋外来化学療法60	—
工期	2011年７月～2013年７月	2012年11月～2014年10月
付属施設	駐車場棟、院内保育施設、防災倉庫、マニホールド室、バイク置場、自転車置場	—
容積率	149.07%	
建蔽率	39.68%	
軒高	28.462m	

⑵　部門別面積

	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
病棟	14,838.91㎡	—
外来	4,440.38㎡	—
診療	13,664.89㎡	1,840.31㎡
供給	6,585.85㎡	0㎡
管理	6,555.35㎡	893.53㎡
その他	5,378.55㎡	4,265.63㎡
計	51,463.93㎡	6,999.47㎡

⑶　設備概要

	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
空　調　設　備	中央式、冷5,510kW、温2,100kW、熱源：都市ガス、電気　熱源機器：空冷HPチラー、ガス焚冷温水（ジェネリンク）・ターボ冷凍機（水蓄熱用）、蒸気ボイラー、空調方式：外調機＋FCU、PAC	空調方式：空気調和機（全空気）、空気調和機（外調機）+パッケージ型空気調和機（EHP） 熱源機器：空冷HPチラー温水・冷水 精密温調チラー温水
衛　生　設　備	給水：市水・受水槽・加圧給水方式、給湯：中央式給湯、排水：屋内合流、ガス：都市ガス（中圧導管）、雑用水：加圧給水方式	給水：加圧給水方式（管理棟より供給） 雑用水：加圧給水方式（管理棟より供給） 排水：合流式、 ガス：都市ガス（管理棟より供給）
電　気　設　備	特別高圧66kV　2回線受電　特高変圧器12,500kVA×2、非常用発電機：ガスタービン2,500kVA　A重油　CGS 370kW×2 直流電源設備：800Ah　MSE　無停電電源設備：150ｋVA　MSE、情報通信設備　PBX、セキュリティ、ナースコール	特別高圧66kV（本館特高変電所より受電） 非常用発電機：ディーゼル544kVA　A重油、直流電源設備：400Ah、無停電電源設備：150kVA、ITV、セキュリティ、ナースコール
搬　送　設　備	昇降機：乗用1,000kg 6台/1,600kg 1台/900kg 1台/750kg 1台、寝台用1,000kg 3台、人荷用1,750kg 1台 エスカレータ2台、搬送機：小荷物専用昇降機50kg 4台、オートリフト50kg 1台、気送管8ステーション	昇降機：乗用1,000kg 2台

2　病棟・病床構成

病床数415床のうち１床室119室、４床室74室で、各病床はそれぞれカーテンで区切ることができる。

平成31年４月１日現在

階　別	病　棟	主な診療科	病床数	室　数
7 階	7 E	緩和ケア内科	20	1 床室　20
	7 W	血液内科 腫瘍内科	30	4 床室　3 1 床室　18
6 階	6 E	形成外科 皮膚科 乳腺内分泌外科 婦人科	50	4 床室　10 1 床室　10
	6 W	呼吸器内科 呼吸器外科 脳神経外科	49	4 床室　10 1 床室　9
5 階	5 E	頭頸部外科 形成外科 皮膚科 乳腺内分泌外科 泌尿器科	50	4 床室　10 1 床室　10
	5 W	呼吸器内科 腫瘍内科 血液内科 骨軟部腫瘍外科	50	4 床室　10 1 床室　10
4 階	4 E	消化器内科（消化管・肝胆膵） 消化器外科（大腸・肝胆膵）	50	4 床室　10 1 床室　10
	4 W	消化器内科（肝胆膵） 消化器外科（胃食道）	50	4 床室　10 1 床室　10
3 階	3 E	ICU科	24	4 床室　3 1 床室　12 （HCU　24床）
	3 S	循環器内科 腫瘍内科 消化器内科（消化管） 放射線腫瘍科	42	4 床室　8 1 床室　10
計			415	4 床室　74 1 床室　119

3　主なる医療機器一覧

病院棟１階

品　　名	型　　式	関係セクション
（放射線診断部門）		
全身用コンピュータ断層撮影装置	キャノン Aquilion ONE	放射線診断技術科
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝 Aquilion CXL	〃
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝 Aquilion RX	〃
一般撮影Ｘ線装置	東芝 MRAD-A80S/1H	〃
血管撮影Ｘ線装置	フィリップス Allra Xper FD20	〃
フラットパネル型Ｘ線テレビ装置	東芝 Winscope 6000	〃
デジタル乳房Ｘ線撮影装置	シーメンス MAMMOMAT Inspiration	〃
デジタルFPD搭載型Ｘ線テレビ装置	日立 Medites CREA	〃
画像処理装置（FCR）	富士 PROFECT	〃
画像処理装置（FPD）	富士 CALNEO システム	〃
骨密度測定装置	GE PRODIGY PRIMO	〃
磁気共鳴断層撮影装置	シーメンス MAGNETOM Skyra 3T	〃
磁気共鳴断層撮影装置	シーメンス MAGNETOM Aera 1.5T	〃
多目的デジタルFED搭載型Ｘ線テレビ装置	日立 VerseFlex VISTA	〃
（検査部門）		
全自動輸血検査機器システム	オーソ･クリニカル･ダイアグノスティックス社オーソビジョン	検　査　科
超音波診断装置	GE ロジックE10	〃
超音波診断装置	フィリップスエレクトロニクスジャパン社EPIQ5	〃
超音波診断装置	日立 ARIETTA850	〃
超音波診断装置	フィリップス・ジャパンCX50Xper	〃
心臓用超音波診断装置	アジデントテクノロジー・M2425A	〃
全自動細胞解析システム	ベックマン・コールター社製 Naviosハイエンドクリニカルフローサイトメーター	〃
（手術部門）		
内視鏡下手術用ビデオシステム	ストライカー 1488HD	手　術　室
外科用Ｘ線撮影装置	日立シリウス100CV	〃
移動型デジタル式汎用X線透視診断装置	GEヘルスケア社 OEC Elite CFD 31 ErgoC	〃
CT及びMRI定位脳手術装置	（米国）ラジオニクス社 BRW型	〃
手術用顕微鏡システム	カールツァイス社 OPMPENTERO900	〃
低温プラズマ滅菌機	ジョンソンエンドジョンソンステラッド100S	〃
手術室モニタリングシステム及び手術部門コンピューターシステム	日本光電工業㈱ モニタリングシステムBSM-6701、コンピューターシステムCAP-2500	〃
手術支援ロボットサージカルシステム	Intuitive Surgical社 daVinci X	〃
ICU患者監視装置	日本光電工業㈱ CNS-9601、BSM6701	I　C　U　科
集中治療室等モニタリングシステム及び集中治療部門生体情報管理	日本光電 CAP-2100	〃
（外来部門）		
コルポスコープ	オリンパス OCS5-STD	婦　人　科
超音波内視鏡装置	オリンパス EU-M30、GF-UM200	内　視　鏡　室
内視鏡ビデオ装置システム	オリンパス EVIS-260	〃
マルチキャピラリーDNA解析装置（シークエンサー）	ベックマンコールター・CE2000システム	検　査　科
マイクロダイセクション装置	オリンパス・LM200	〃

病院棟地下１階

品　　名	型　　式	関係セクション
（放射線治療部門）		
Ｘ線位置決め装置	東芝メディカルシステムズ社製 LX-40A	放射線治療技術科
Ｘ線位置決め装置	VARIAN社製　Acuity	〃
Ｘ線位置決め装置	島津製作所社製 UD150L-40F	〃
CT位置決め装置	東芝メディカル社製 AquilionLB	〃
CT位置決め装置	GEヘルスケア社製 Optima CT580W	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製 Trilogy+Exc Trac Xray System	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製 CLINAC iX	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製 CLINAC iX	〃
治療装置（リニアック装置）	東芝メディカルシステムズ社製 PRIMUS M2-6323	〃
治療装置（腔内照射装置）	Nucletron社製 microSelectron HDR	〃
治療計画装置	VARIAN社製 Eclipse	〃
治療計画装置	ELEKTA社製 Xio	〃
治療計画装置（腔内照射）	Nucletron社製 Oncentra	〃
治療計画支援ソフト	MIM Software社製 MIM Maestro	〃
（核医学部門）		
全身機能撮像システム	シーメンス E-cam Signature 180	放射線診断技術科
２検出器型デジタルガンマカメラ	シーメンス Symbia S	〃
陽電子－Ｘ線コンピュータ断層複合撮像システム	シーメンス Biograph 16	〃

管理研究棟

品　　名	型　　式	関係セクション
（研究部門）		
レーザー走査型共焦点顕微鏡	カール・ツァイス社 LSM710	実　験　室
タイムラプス撮影機能つき蛍光顕微鏡	キーエンス BZ9000	
自動遺伝子分析装置	アプライドバイオシステム社製 ジェネティックアナライザ3130	〃
次世代型DNAシークエンサー	ライフテクノロジー社 Ion PGM	〃
マルチバイオイメージャー	GEヘルスケア社　Typhoon FLA9500	〃
逆相プロテインアレイ作製装置	オーションバイオシステムズ社製Aushon2470マイクロアレイヤー	〃
電気化学発光法測定装置	Mesoscale社　Quick Plex SQ120	〃
デジタルPCR解析システム	バイオラッド・ラボラトリーズ社　QX200 Droplet Digital PCR C1000 Touch,PX1	中　央　機　器　室
全自動発光プレートリーダー	モレキュラーデバイスジャパン社　SpectraMax L	〃
サイトカイン産生細胞解析装置	エムエステクノシステムズ社　ImmunoSpot S6 ENTRY Analyzer	〃
小動物用in vivo イメージングシステム	パーキンエルマー社製　IVIS Lumina LT	動　物　実　験　施　設
実験用Ｘ線照射装置	日立パワーソリューションズ社　MBR-1520R-4	〃
自動細胞分離解析装置	ベクトン・ディッキンソン社 BD FACSAria™ Ⅱセルソーター	がん免疫療法研究開発学部
自動細胞解析装置	ベクトン・ディッキンソン社 BD FACSCanto™ Ⅱフローサイトメーター	〃
循環腫瘍細胞（CTC）解析装置	ClearBridge Biomedics社 ClearCell FX システム	〃
タンパク質多項目同時測定システム	BIO-RAD社 Bio-Plex200	〃
全自動磁気細胞分離装置	Miltenyi社 autoMACS Pro Separator	〃
プレートリーダー	パーキンエルマー社 ARVOX4	〃

重粒子線治療棟地下１階

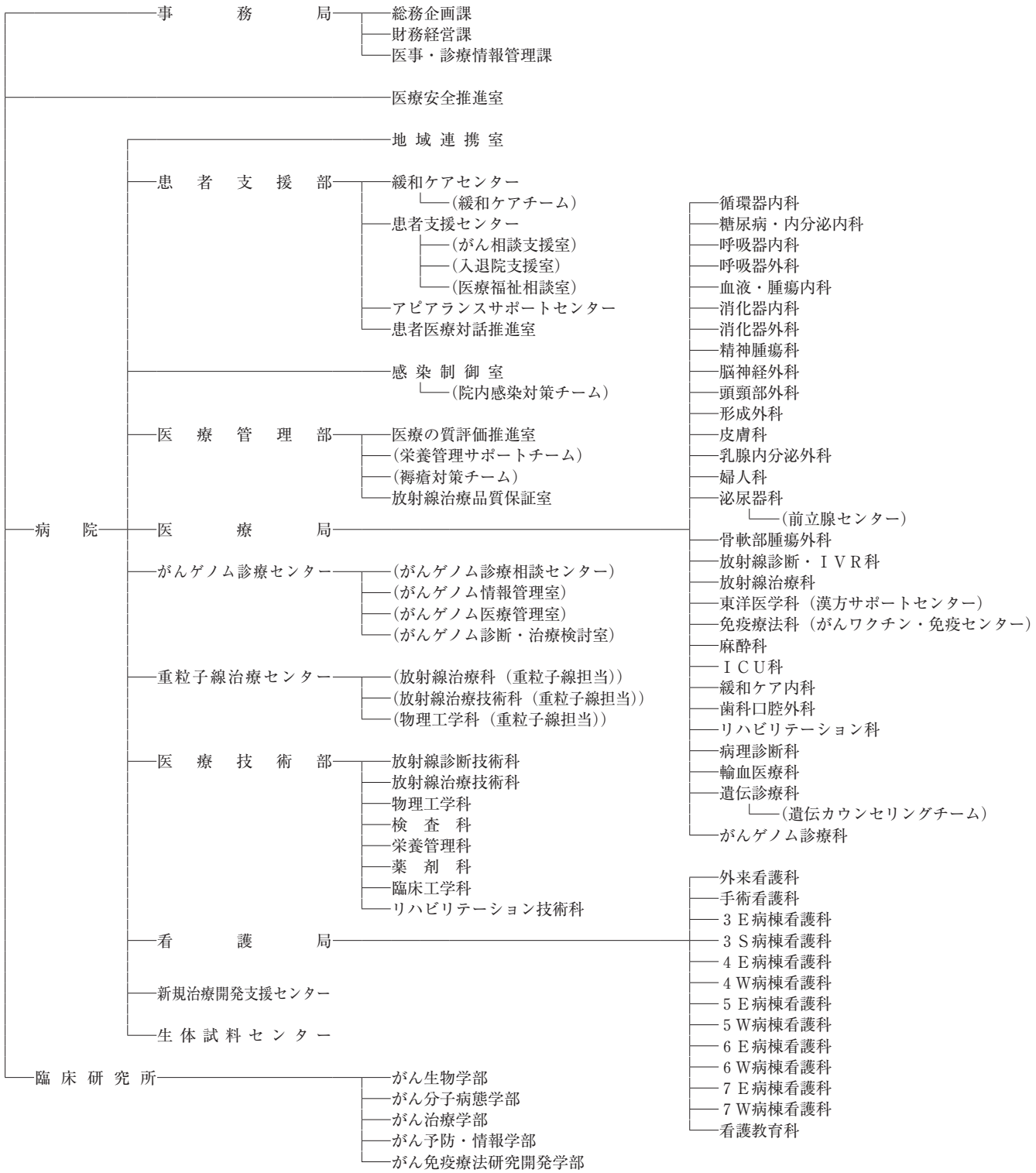
品　　名	型　　式	関係セクション
（重粒子線治療部門）		
重粒子線治療装置	東芝製 CI-1000	重粒子線治療科
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝メディカルシステムズ社製 Aquilion TSX-201A	〃
治療計画装置	エレクタ社製 Monaco	〃
内視鏡ビデオ装置システム	オリンパス社製 VISERA Pro	〃

第３節　組　　織

１　組　　織

⑴　組織表

組　　織　　表　　（令和２年４月１日現在）



組　織　表

（平成31年４月１日現在）

- がんセンター
  - 事務局
    - 総務企画課
    - 財務経営課
      - （経営戦略向上チーム）
    - 医事・診療情報管理課
    - 地域連携課
  - 病院
    - 患者支援部
      - 緩和ケアセンター
        - （緩和ケアチーム）
      - 患者支援センター
        - （がん相談支援室）
        - （医療福祉相談室）
        - （入退院支援室）
      - アピアランスサポートセンター
      - リハビリテーションセンター
      - 患者医療対話推進室
    - 医療管理部
      - 医療安全推進室
      - 感染制御室
        - （院内感染対策チーム）
      - （栄養管理サポートチーム）
      - （褥瘡対策チーム）
      - 医療の質評価推進室
      - 放射線治療品質保証室
      - 新規治療開発支援センター
    - 医療局
      - 循環器内科
      - 糖尿病内科
      - 呼吸器内科
      - 呼吸器外科
      - 血液・腫瘍内科
      - 消化器内科
      - 消化器外科
      - 精神腫瘍科
      - 脳神経外科
      - 頭頸部外科
      - 形成外科
      - 皮膚科
      - 乳腺内分泌外科
      - 婦人科
      - 泌尿器科
        - （前立腺センター）
      - 骨軟部腫瘍外科
      - 放射線診断・IVR 科
      - 放射線治療科
      - 東洋医学科（漢方サポートセンター）
      - 免疫療法科（がんワクチン・免疫センター）
      - 麻酔科
      - ICU 科
      - 緩和ケア内科
      - 歯科口腔外科
      - リハビリテーション科
      - 病理診断科
      - 輸血医療科
      - 遺伝診療科
        - （遺伝カウンセリングチーム）
      - がんゲノム診療科
    - がんゲノム診療センター
      - （がんゲノム診療相談センター）
      - （がんゲノム情報管理室）
      - （がんゲノム医療情報調査室）
      - （がんゲノム医療管理室）
      - （がんゲノム診断・治療検討室）
    - 重粒子線治療センター
      - （放射線治療科（重粒子線担当））
      - （放射線治療技術科（重粒子線担当））
      - （物理工学科（重粒子線担当））
      - 重粒子線治療管理室
    - 医療技術部
      - 放射線診断技術科
      - 放射線治療技術科
      - 物理工学科
      - 検査科
      - 栄養管理科
      - 薬剤科
      - 臨床工学科
    - 看護局
      - 外来看護科
      - 手術看護科
      - ３Ｅ病棟看護科
      - ３Ｓ病棟看護科
      - ４Ｅ病棟看護科
      - ４Ｗ病棟看護科
      - ５Ｅ病棟看護科
      - ５Ｗ病棟看護科
      - ６Ｅ病棟看護科
      - ６Ｗ病棟看護科
      - ７Ｅ病棟看護科
      - ７Ｗ病棟看護科
      - 看護教育科
    - 生体試料センター
  - 臨床研究所
    - がん生物学部
    - がん分子病態学部
    - がん治療学部
    - がん予防・情報学部
    - がん免疫療法研究開発学部

(2) 組織別常勤職員配置状況

令和元年6月1日現在
（単位：人）

組織	一般事務	医師〈任期付〉	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	医学物理士	品質管理士	保健師	福祉職	看護師	研究職	物理職	遺伝カウンセラー	診療情報管理士	合計
管理者	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7
総長		1																		1
病院長		1																		1
副院長		3													1					4
統括部長		1																		1
事務局	26 (1)	11 〈11〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	38 (1)
事務局長	1																			1
副事務局長	1																			1
総務企画課	10	11 〈11〉																		21
財務経営課	7																			7
医事・診療情報管理課	5																		1	6
地域連携課	2 (1)																			2 (1)
患者支援部	(2)	0 (5)	0	0	0	0	0	5	2	1	0	0	0	2	21 (3)	0	0	0	0	31 (10)
患者支援部長		(1)																		0 (1)
緩和ケアセンター		(1)													4					4 (1)
患者支援センター		(1)												2	16					18 (1)
アピアランスサポートセンター															1					1
リハビリテーションセンター		(1)						5	2	1										8 (1)
患者医療対話推進室	(2)	(1)													(3)					0 (6)
医療管理部	1 (1)	0 (9)	5 (2)	(2)	(1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4 (1)	0	0	0	0	11 (16)
医療管理部長		(1)																		0 (1)
医療安全推進室	(1)	(2)	(1)												2					2 (4)
感染制御室		(2)	(1)		(1)										1 (1)					1 (5)
医療の質評価推進室		(2)																		0 (2)
放射線治療品質保証室				(2)								1								1 (2)
新規治療開発支援センター	1	(2)	5												1					7 (2)
医療局	0	106 〈20〉 (11)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	1	0	107 (11)
医療局長		0 (1)																		0 (1)
糖尿病内科		1																		1
循環器内科		1																		1
呼吸器内科		6 〈1〉 (1)																		6 (1)
呼吸器外科		5 〈1〉																		5
血液・腫瘍内科		8 〈1〉 (2)																		8 (2)
消化器内科		12 〈4〉 (1)																		12 (1)
消化器外科		16 〈5〉																		16
精神腫瘍科		1																		1
脳神経外科		2																		2
頭頸部外科		4 〈2〉																		4
形成外科		1																		1
皮膚科		0																		0
乳腺内分泌外科		8 〈2〉																		8
婦人科		6 〈1〉																		6

組織	一般事務	医師〈任期付〉	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	医学物理士	品質管理士	保健師	福祉職	看護師	研究職	物理職	遺伝カウンセラー	診療情報管理士	合計
泌尿器科		6〈1〉																		6
骨軟部腫瘍外科		3〈1〉																		3
放射線診断・ＩＶＲ科		6																		6
放射線治療科		7〈1〉																		7
東洋医学科（漢方サポートセンター）		1																		1
免疫療法科（がんワクチンセンター）		(1)																		0 (1)
麻酔科		3																		3
ＩＣＵ科		1																		1
緩和ケア内科		1																		1
歯科口腔外科		1																		1
リハビリテーション科		(1)																		0 (1)
病理診断科		6 (1)																		6 (1)
輸血医療科		(1)																		0 (1)
遺伝診療科		(1)																1		1 (1)
がんゲノム診療科		(1)																		(1)
がんゲノム診療センター	(2)	(6)	(1)		(1)										(2)	(2)				(14)
重粒子線治療センター	2	0 (1)	0	(8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (9)
重粒子線治療管理室	2	(1)																		2 (1)
医療技術部	0	1 (1)	25〈4〉 0	43	29	11	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	114 (1)
医療技術部長		1																		1
放射線診断技術科				19																19
放射線治療技術科				24																24
物理工学科											2									2
検査科					29															29
栄養管理科						11														11
薬剤科			25〈4〉																	25
臨床工学科		(1)					3													3 (1)
看護局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	416 (2)	0	0	0	0	416 (2)
看護局長															(1)					0 (1)
副看護局長															3					3
外来看護科															54					54
手術看護科															30					30
３Ｅ病棟看護科															30					30
３Ｓ病棟看護科															30					30
４Ｅ病棟看護科															32					32
４Ｗ病棟看護科															30					30
５Ｅ病棟看護科															30					30
５Ｗ病棟看護科															31					31
６Ｅ病棟看護科															29					29
６Ｗ病棟看護科															31					31
７Ｅ病棟看護科															26					26
７Ｗ病棟看護科															33					33
看護教育科															4 (1)					4 (1)
看護局															23					23
生体試料センター	0	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (1)
生体試料センター部長		(1)																		0 (1)
生体試料センター																				0
臨床研究所	0	6〈1〉	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13〈5〉	0	0	1	22
臨床研究所長		1																		1
臨床研究所		5〈1〉			2											13〈5〉			1	21
現員	29 (6)	130〈32〉(34)	30〈4〉(3)	43 (10)	31 (2)	11	3	5	2	1	2	1	0	2	442 (3)	13〈5〉	0	1	2	748 (65)

※ （ ）は、所内の兼務業務職員で外数
※ □は、兼務で外数
※ 〈 〉は、任期付医師（旧修練医），任期付研究員、任期付職員で内数

(3) 役 職 者

令和元年6月1日現在

役職名	氏名
総長	中山治彦
病院長	大川伸一
事務局長	和田篤
副院長	金森平和
〃	酒井リカ
〃	森本学
〃	丹下純子
統括部長(リハビリテーション部門)	水落和也
副事務局長	市田明子
総務企画課長	山口陽弘
財務経営課長	清水裕一
医事・診療情報管理課長	松葉菊子
地域連携課長	(兼)松葉菊子
患者支援部長	(兼)森本学
緩和ケアセンター長	(兼)太田周平
患者支援センター長	(兼)森本学
リハビリテーションセンター長	(兼)水落和也
患者医療対話推進室長	(兼)金森平和
医療管理部長	(兼)酒井リカ
新規治療開発支援センター室長	(兼)齋藤春洋
医療安全推進室長	(兼)酒井リカ
放射線治療品質保証室長	(兼)井手紳介
医療の質評価推進室長	(兼)酒井リカ
感染制御室長	(兼)田中正嗣
医療局長	(兼)金森平和
循環器内科部長	常松尚志
呼吸器内科部長	(兼)山田耕三
呼吸器外科部長	伊藤宏之
血液・腫瘍内科部長(血液)	(兼)金森平和
血液・腫瘍内科部長(腫瘍)	(兼)酒井リカ
消化器内科部長(肝胆膵)	(兼)森本学
消化器外科部長(胃食道)	大島貴
〃(〃)	尾高高士
〃(肝胆膵)	森永聡一郎
〃(大腸)	塩澤学
精神腫瘍科部長	横尾実乃里
脳神経外科部長	佐藤秀光
頭頸部外科部長	久保田彰
形成外科部長	清水調
乳腺内分泌外科部長(内分泌)	岩崎博幸
〃(乳腺)	山下年成

役職名	氏名
婦人科部長	加藤久盛
泌尿器科部長	岸田健
骨軟部腫瘍外科部長	比留間徹
放射線診断・IVR科部長	栗原宏明
放射線治療科部長	加藤弘之
〃	吉田大作
免疫療法科(がんワクチンセンター)部長	(兼)笹田哲朗
麻酔科部長	藤田久栄
ICU科部長	髙野修身
緩和ケア内科部長	太田周平
リハビリテーション科部長	(兼)水落和也
病理診断科部長	横瀬智之
輸血医療科部長	(兼)金森平和
遺伝診療科部長	(兼)成松宏人
がんゲノム診療センター長	(兼)金森平和
重粒子線治療センター長	鎌田正
重粒子線診療部長	(兼)加藤弘之
放射線治療技術科長(重粒子線担当)	(兼)井手紳介
重粒子線治療管理室長	(兼)溝口信貴
医療技術部長	山田耕三
放射線診断技術科長	渡辺優
放射線治療技術科長	井手紳介
物理工学科長	蓑原伸一
検査科長	堀口早苗
栄養管理科部長	藤井理恵薫
薬剤科長	岸本有佳
臨床工学科長	(兼)山田耕三
看護局長	(兼)丹下純子
副看護局長(業務担当(総務))	清水奈緒美
〃(教育担当)	杉山恵子
〃(業務担当)	砂田麻奈美
生体試料センター長	(兼)宮城洋平
臨床研究所長	宮城洋平
がん生物学部長	越川直彦
がん分子病態学部長	(兼)宮城洋平
がん治療学部長	(兼)宮城洋平
がん予防・情報学部長	成松宏人
がん免疫療法研究開発学部長	笹田哲朗

⑷　任期付医師

①　任期付常勤医

がん診療における専門かつ高度な知識と技術を習得した臨床医を育成し、神奈川県のがん医療を支援する目的として任期付常勤医制度を設けている。

期間は３年以内、雇用形態は週38時間45分勤務の任期付職員である。医学部卒業後４年以上の臨床経験を修了した医師（麻酔医及びICU科医師について３年以上）を対象とし、希望する診療科に専属しながら専門的な臨床を経験する。採用は配属指名を受けた診療科の科長が責任を持って人員を確保し、院内の配属される診療科の指定は診療状況を勘案、調整して総長が決定する。採用人数は年度によって変わることがある。なお、終了後、常勤スタッフになる場合もある。

②　レジデント

医学部卒業後、臨床研修を修了した医師を対象に、幅広い視野と優れた技量をもった「がん臨床医」の育成を目的としてレジデント制度を設けている。

期間は原則２年間（平成15年度採用までは原則３年間。現在は本人希望により３年間の場合もある。）、雇用形態は週38時間45分勤務の任期付職員である。平成18年度までは、医学部卒業後２年以上の臨床経験を修了した医師を対象としたが、臨床研修制度の改定に伴い、平成19年度から24年度まで、原則として後期研修を２年以上経験した卒後４年以上の医師、平成25年度募集からは後期研修を１年以上経験した医師を対象とする専門研修とした。平成24年度までは最初の年に放射線診断科および病理診断科を各３ヶ月必修研修で、その他の期間は希望する専攻科あるいは専攻コースの診療科で研修した。

募集の詳細はホームページに掲載し、筆記試験・面接により採用が決定される。

採用実績は全国からで、平成29年度６名、平成30年度６名、平成31年度６名となっており、令和２年度については５名程度の募集となっている。

任期付常勤医及びレジデント配置状況

平成31年４月１日

（単位：人）

診療科名	任期付常勤医	レジデント
循環器内科		
糖尿病内科		
呼吸器内科	1	1
呼吸器外科	1	1
血液内科		
腫瘍内科	1	
消化器内科	4	2
消化器外科	5	3
精神腫瘍科		
脳神経外科		
頭頸部外科	2	
形成外科		
皮膚科		
乳腺内分泌外科	2	1
婦人科	1	1
泌尿器科	1	
骨軟部腫瘍外科	1	
放射線診断・IVR科		
放射線治療科	1	
東洋医学科		
免疫療法科		
麻酔科		
ICU科		
緩和ケア内科		
歯科口腔外科		1
リハビリテーション科		
病理診断科		1
輸血医療科		
遺伝診療科		
計	20	11

第４節　所内会議・委員会

	名　　称	事　務　局
1	管理者会議	総務企画課
2	病院運営会議	総務企画課
3	病院経営企画会議	財務経営課
4	機種等選定会議	財務経営課
5	薬事審議会議	薬剤科
6	診療材料検討会議	財務経営課
7	ＤＰＣ・適正診療報酬請求検討会議	医事・診療情報管理課
8	経営懇談会	財務経営課
9	医療安全管理会議	総務企画課
10	リスクマネージャー会議	総務企画課
11	医療安全推進室会議	医療安全推進室
12	院内感染対策会議（ＩＣＣ）	総務企画課
13	院内感染対策チーム（ＩＣＴ）	総務企画課
14	医療機器安全管理会議	財務経営課
15	倫理委員会	新規治療開発支援センター
16	治験審査委員会・研究倫理審査委員会	新規治療開発支援センター
17	利益相半反（ＣＯＩ）委員会	新規治療開発支援センター
18	放射線治療安全管理委員会	重粒子線治療管理室
19	診療録検討会議	医事・診療情報管理課
20	クリニカルパス会議	医事・診療情報管理課
21	輸血療法検討会議	検査科
22	がん薬物療法検討会議	薬剤科
23	外来化学療法運営会議	医事・診療情報管理課
24	キャンサーボード運営会議	地域連携課
25	がん薬物療法専門医取得に関わる研修制度運営会議	地域連携課
26	緩和ケアセンター会議	地域連携課
27	栄養管理会議	栄養管理科
28	栄養サポートチーム（ＮＳＴ）運営委員会	栄養管理科
29	遺伝カウンセリングチーム運営会議	医事・診療情報管理課
30	リハビリテーション運営会議	リハビリテーションセンター
31	手術支援ロボット運用検討会議	財務経営課
32	内視鏡室運営会議	財務経営課
33	希少がんボード運営会議	地域連携室
34	外来運営会議	医事・診療情報管理課
35	病棟運営・地域医療連携会議	医事・診療情報管理課
36	診療科科長会議	総務企画課
37	看護科長会議	看護局
38	ＨＣＵ病棟運営会議	看護局
39	手術室運営会議	財務経営課

	名　　称	事　務　局
40	臨床検査会議	検査科
41	放射線画像診断運営会議	放射線診断技術科
42	超音波検査運営会議	検査科
43	生体試料センター運営委員会	生体試料センター
44	医療技術部会議	1年ごとに輪番
45	周術期センター会議	医事・診療情報管理課
46	患者サービス検討会議	財務経営課
47	投書箱運営会議	総務企画課
48	ボランティア活動推進会議	総務企画課
49	相談・苦情対応検討会議	総務企画課
50	情報セキュリティー管理会議	総務企画課
51	広報企画会議	総務企画課
52	都道府県がん診療連携拠点病院企画会議	地域連携室
53	図書室運営会議	総務企画課
54	ゆめいろネット運用検討会議	患者支援センター
55	レジデント制度運営会議	総務企画課
56	診療情報統合データベースシステム運用調整会議	総務企画課
57	医療情報システム運用調整会議	医事・診療情報管理課
58	病院情報システム更新検討会議	総務企画課、財務経営課、医事・診療情報管理課
59	学術セミナー運営委員会	総務企画課
60	防災対策会議	総務企画課
61	安全衛生委員会	総務企画課
62	放射線・ＰＥＴ安全会議	総務企画課
63	医療ガス安全管理会議	総務企画課
64	勤務環境改善委員会	総務企画課
65	がんセンター院内保育施設あり方検討会議	総務企画課
66	兼業許可等検討委員会	総務企画課
67	工事発注方法審査会議	財務経営課
68	組換えＤＮＡ実験安全委員会	臨床研究所
69	連携研究会議	臨床研究所
70	動物実験運営会議	臨床研究所
71	勤務発明等検討会議	臨床研究所
72	重粒子線治療センター管理運営会議	重粒子線治療管理室
73	重粒子線治療施設診療委員会	重粒子線治療管理室
74	神奈川県立病院がん基金運営会議	総務企画課
75	神奈川県がん診療連携協議会	地域連携室
76	国外出張選考委員会	総務企画課
77	病院機能評価受審準備委員会	財務経営課
78	服務・人権侵害調査会	総務企画課
79	病院の質向上委員会	総務企画課

第2章　病　院　業　務

第1節　概　　要

当センターは都道府県がん診療連携拠点病院として､「全県的ながん医療の中枢機関として、県民に高度で心あたたかい医療を提供する」ことを基本理念に掲げ、県内にある地域がん診療連携拠点病院（18病院）および神奈川県がん診療連携指定病院（12病院）と共に、質の高いがん医療の提供に携わっている。

病院組織は、医療局、看護局、医療技術部、患者支援部、医療管理部、がんゲノム診療センター、重粒子線治療センター、生体試料センターからなり、各部門が連携をとりながら診療を行っている。昨年度の入院延患者数は137,159人で前年度（131,031人）より増加した。平均在院日が11.6日（前年度11.4日）とわずかに延長した影響もあり、病床稼働率は初めて90%台に到達した。外来延患者数は前年度243,867人より5,000人以上増加して249,343人となった。一日平均外来患者数も1,038人と増加傾向にあり、逆紹介の必要性が再認識された。一方で、初来院者数は6,161人と前年度に比べて73人の増加に止まった。セカンドオピニオンは784人で、前年度より64人増加した。年間手術件数は3,702件で、前年度（3,376件）より大幅に増加した。放射線治療においては、照射延べ人数は外部照射23,767人（前年度19,622人）に増加した。このうち強度変調放射線治療（IMRT）は7,183人、定位放射線治療は180人で、高度の技術を要する放射線治療法が占める割合が高くなってきている。化学療法は入院から外来にシフトする傾向が続き、外来化学療法件数は25,354件と毎年増加の一途にある。昨年度はいずれの指標も良好な数値であり、過去にない良好な経営状況であった。

看護局では、年度目標に“看護の質の向上と効率性”を掲げ、患者・家族が満足できる看護、経営に貢献する看護、働きやすく、誇りに思える病院づくり、社会のニーズに柔軟に対応できる看護に取り組んだ。

令和元年９月に「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、エキスパートパネルも自施設開催となって、がんゲノム診療センターの活動がより活性化された。また、県内４施設とがんゲノム医療連携病院の協定を結んだ。

重粒子線治療センターは診療開始から５年目に入り、令和元年度は目標500人に対して96%（480人）の達成率であった。

医療技術部は放射線診断技術科、放射線治療技術科（光子線部門および重粒子線部門）、物理工学科、検査科、栄養管理科、薬剤科、臨床工学科からなっている。すべての診療の重要な下支え部門であり、各部門が協調して質の高いがん医療の提供に貢献している。

医療管理部は医療安全推進室、感染制御室、医療の質評価推進室、放射線治療品質保証室、新規治療開発支援センターからなっている。医療安全推進室では、職種間の相互理解を深めながら、それぞれの専門性を発揮して患者の安全確保に努めた。ヒヤリ・ハット事例および医療事故報告は3,2798件で、前年度より61件減少した。レベル別内訳はレベル０が401件、レベル１が2,117件、レベル２が681件、レベル３ａが76件、レベル３ｂが３件、レベル４が０件、レベル５が１件であった。事象別では、薬剤関連、ドレーン･チューブ類の管理､転倒転落､検査関連が多くみられた。薬剤種類の増加、患者の高齢化等が影響していると推測された。医療安全の前期および後期講習会の出席率はそれぞれ96.6%、92%であった。感染制御室では院内感染対策チーム（ICT）による院内ラウンドや抗菌剤適正使用ラウンドが行われている。また、講習会や各種サーベイランス（薬剤耐性菌、血流感染、針刺し切創血液体液暴露、手術部位感染など）を実施した。年度末からはCOVID-19感染症対策のために多くの時間が必要になり、次年度以降も重点課題と想定される。医療の質評価推進室では、Cancer Quality Indicator（CQI）研究会およびCancer Quality Indicator（QI）研究会を利用して、医療の質を測定・評価してその向上を目指している。今年度は前年度に受審した日本医療機能評価機構の機能評価（一般病院２　3rdG：Ver2.0）の補足を病院の質向上委員会で行い、９月に正式に合格となった。新規治療開発支援センターでは治験や医学系研究の管理や実務を行っており、特に治験数は毎年増加している。

患者支援部は緩和ケアセンター、患者支援センター、アピアランスサポートセンター、リハビリテーションセンター、患者医療対話推進室で構成されている。緩和ケアセンターは緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟を有機的に統合する役割を担っている。患者支援センターは地域医療連携機能と相談機能を担当している。後者はがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの役目も果たしており、昨年度は8,034件の相談に対応した。アピアランスサポートセンターはがん治療に伴う外見上の変化による苦痛を抱える患者の支援を担当している。昨年度は1,000人を超える患者相談に応じた。リハビリテーションセンターは組織改編に伴い、今年度は患者支援の視点から支持療法としてがん診療に貢献した。患者医療対話推進室では25件のメディエーションに関与した。また、相談案件（主に職員から）として92回の相談に対応した。

生体試料センターは、初来院患者全員から包括同意を得ることを目標として活動を続けている。様々な工夫によって､今年度の包括同意取得数は3,505件（前年度より約1,000件増加）となった。試料提供も年間1,500件以上あり、がん研究の発展に欠くことのできない貴重な試料保存・提供の充実が期待されている。

第２節　医　　療　　局

循環器内科

１．スタッフ

部長　常松尚志、他非常勤３名

２．診療実績（平成31年~令和元年度診療実績）

定時併診依頼患者数2,210名、心臓超音波検査2641件、下肢静脈超音波検査876件、運動負荷心電図検査262件、ホルター型心電図検査164件、薬物負荷心筋シンチ52件

３．教育・人材育成

救急体制指導他

４．展望

当科の業務内容は「当センターでがん治療を行う患者さんの循環器領域の疾患に関しての適切なサポートを行い、手術、化学療法、放射線療法等が循環器合併症を起こすことなく円滑に安全に施行できるように努める事」となります。

①　担がん患者さんの循環器疾患の診療

高齢者が多くなり循環器系疾患合併症率が高くなっています。不安定であったり、新たに疾患がみつかった患者さんは、担当科と協力して当科でフォローし、がんの治療が一段落したところで、かかりつけ医に紹介しています。

②　がん治療前の循環器リスク評価

担当各科からの依頼に従いリスク評価を行います。耐術能評価や化学療法施行前の心機能評価です。心エコー、トレッドミル負荷試験、ホルター心電図、下肢静脈エコー、薬物負荷心筋シンチ等を組み合わせて評価を行います。冠動脈CT，冠動脈造影が必要になった場合は、他院に検査を依頼しています。

③　急患対応

がん治療中に発症する循環器系疾患に対し迅速な対応を心がけています。重症例は当センターでは対応困難であり、近隣病院に転院をお願いしています。

④　定期的な心機能評価

心毒性のある薬剤を使用する化学療法では、開始前及び治療中に心エコーを行い、心機能が低下していないかチェックします。

さらなる進歩により、がん患者さんの質の高い生活を応援したいと考えています。

文責：常松尚志

糖尿病内科

１．スタッフ

堀井三儀

２．診療実績

当科の診療内容は当院でがん治療を行う方の糖尿病・代謝疾患、内分泌疾患の診断・治療を行い、がん治療が円滑に行えるようサポートすることである。令和元年度の診療実績は外来新患件数267件、入院併診新患件数214件、外来延べ患者数2,488名であった。病状が安定した患者はかかりつけ医に逆紹介する一方で、地域医療機関から当院への頻回通院が必要な患者の紹介を受けるなど、当科開設３年目を受けて病診連携が深まりつつある。

３．教育・人材育成

令和元年11月に県民を対象としたがんと糖尿病に関する講演会を行った。

４．展望

糖尿病・内分泌疾患を持つ方が安心してがん診療を受けられるよう、スタッフへの教育・研修機会の設定や新たな患者教育資材の作成・利用を通じて診療レベルの向上を目指す。

文責：堀井三儀

呼吸器内科

１．スタッフ（H31年４月～R ２年３月まで）

山田耕三、齋藤春洋、加藤晃史、近藤哲郎、村上修司、中原善朗、臼井　亮

２．診療実績

令和元年の呼吸器内科の外来患者数は累計21,977人、その内の初診患者数は1,061人、セカンド・オピニオン123件。入院患者数は累計11,700人、新入院患者数1,270人であり、前年度に比べ横ばいであった。週２回の気管支鏡検査および週１回の胸部CT検査を呼吸器内科が担当している。気管支鏡検査件数は年間533件であり、前年度に比べ増加した。CT検査は年間約3,000件であり、読影レポートの作成も行っている。2019年度に新たに開始された治験は39件、臨床研究は38件であった。また、学術英語論文は38本、筆頭は５本であった。

３．教育・人材育成

近隣（旭区、泉区、瀬谷区、南区など）の医師会で胸部Ｘ線写真読影のサポートを行っており、このような連携が紹介患者の維持に寄与している。また、月１回第３㈭に、近隣施設の医師を対象とした「肺がん読影会/診断会」を開催している。全国より招聘した講師による肺癌に関する講演会であり、地域医療を担う医師の教育・啓蒙活動に寄与している。

毎年９月には全国の若手医師対象の画像診断の講習会として、「肺がん画像診断セミナー」を開催し、若手医師の指導・育成にも努めている。

４．展望

引き続き治験・臨床試験に積極的に参加し、あらたな治療のエビデンスの確立に貢献する。横浜市の肺がん検診受

診率の底上げを行い、早期肺癌の発見・治療に貢献する。

文責：齋藤春洋

呼吸器外科

1．スタッフ

伊藤宏之、永島琢也、鮫島譲司、江里口大介、根本大士

2．診療実績

診療の「見える化」を重視しており、積極的にクリニカルパスを活用している。2019年度は約92.5%にパスを適用し、完遂率は93.3%、パス適応例の平均在院期間は9.6日であった。朝と夕方はチーム全員で検査結果や患者さんの訴え，看護師からの報告を確認し、情報・方針・問題点の共有化と多職種連携に重点を置いている。

日本胸部外科学会に報告した2019年の手術件数は507件であり、前年より4件減少した。原発性肺癌335件（前年同数)、転移性肺腫瘍64件（－6件)、縦隔腫瘍22件（－2件）などであった。原発性肺癌に対する術式は、肺葉切除223件（気管支形成17例)、区域切除62件（気管支形成1件)、部分切除50件、肺全摘1件であった。

3．教育・人材育成

レジデント2名（壺井貴朗, 小野沢博登）を受け入れた。県内呼吸器外科医師を対象とした講演会を2回行った。

4．展望

県民に信頼される診療科を目指して、患者さんとご家族の気持ちを尊重しつつ最良の医療が提供できるように、職員間および患者・家族とのコミュニケーションを充実していきたい。また呼吸器内科、病理診断科、放射線・重粒子線治療科との連携を深め、呼吸器グループとしての活動をホームページ上で宣伝するだけでなく、地域医療機関との連携を図り、肺がん検診の推進に助力していきたい。

文責：伊藤宏之

血液・腫瘍内科（血液）

1．スタッフ

金森平和（部長)、田中正嗣（医長)、立花崇孝（医長)、鈴木泰生（医師)、安藤太基（医師）

2．診療実績

7W病棟（無菌）入院延患者数は9,452人（H29)、9,678人（H30）から9,797人に増加し、患者一人当たりの単価も105,142円（H29)、106,008円（H30）から112,868円に増加していた。無菌治療室加算額は19.3千万（H29)、20.1千万（H30）から20.3千万に増加した。同種造血幹細胞移植は66例に69回の移植（生着不全2人と再発1人に2回移植）が行われ、過去最多の移植数であった。移植年患者の年齢は15～71歳（中央値52.5歳）で、高齢患者と再発再移植患者の増加（7人）により、強度減弱前処置は47例（71%）と多いが､昨年よりは若干減少した。疾患別では､AML 28例、ALL 10例、その他の白血病 9例、MDS 9例、CML 2例、MPN 1例、ML 7例であった。ドナー別では、血縁ドナーから12例、骨髄バンクドナーから6例、臍帯血バンクから48例の移植が行われ、臍帯血移植は過去最多であった。外来患者延数はH30（4,332人）より若干減少（4,059人）した。移植後患者指導管理料の算定は115件（H29)､176件（H30）と増加していたが、136件と減少した。算定の対象となる外来ができる看護師の異動の影響が大きいと考えられる。また、患者同士の親交を深め、病棟スタッフとのつながりを継続する「白血病患者を対象とした講演会･交流会」（第9回）も開催された。

3．教育・人材育成

若手スタッフの鈴木泰生、安藤太基に診療、研究について指導した。

4．展望

令和2年度は国立がん研究センター中央病院が行う移植拠点病院事業に地域拠点病院として参加する。この事業を通して核移植施設との連携、情報交換を密に行い移植診療の技術向上を図ると共に地域の紹介元施設との連携を深め、患者リクルートを積極的に行う。

文責：田中正嗣

血液・腫瘍内科（腫瘍）

1．スタッフ

酒井リカ、本橋賢治、高橋寛行、松村彩子、佐久間浩之

2．診療実績

2019年4月～2020年3月の延べ新患数（他科からの併診含む）は386人であり、内訳は成熟リンパ系悪性腫瘍184人（悪性リンパ腫164人、骨髄腫20人)、上皮性悪性腫瘍169人（原発不明がん48人、神経内分泌がん29人、悪性黒色腫2人、甲状腺がん5人、悪性腹膜中皮腫2人、結腸・直腸がん20人、その他62人）であった。原発不明がんとして紹介される患者割合が増加した。2019年度の延べ外来患者数12,651名、初来院患者220名、セカンドオピニオン外来25件、逆紹介239件、入院延患者数10,342名、平均在院日数15.2日、自家造血幹細胞移植数19件であった。また、外来化学療法室担当診療科として副作用対策等のマネージメント業務も担当した。企業治験4件、医師主導臨床試験4件であった。学術英語論文は12件（うち筆頭2件）であった。

3．教育・人材育成

1名が総合内科専門医の資格を取得した。医療者向けの血液疾患の研究会を2回主催した。また、患者会での講演を1回、都道府県がん診療連携拠点病院を対象にした講演を2回おこなった。

4．展望

今後も患者・家族へ寄り添いながら診断と治療方針にかかわる丁寧な説明を行い、多職種と連携して安全・安心な

医療を提供するとともに、新たな治療開発にむけても積極的に取り組んでいきたい。

文責：酒井リカ

消化器内科（消化管）

1．スタッフ

井口靖弘、仲ありさ（7月まで)、林　公博、金田義弘、林慧、石田彩花

2．診療実績

前年度から大幅なスタッフの減少（7名→5名）と入れ替え（5名のうち新任3名）があったが診療制限することなく、外科系の協力を得て診療内容を堅持した。初診患者数に関しては2020年に入ってCOVID-19の影響があったが、前年度と比較しほぼ維持（942→918）された。また、内視鏡枠や外来枠の見直し、入院パスの作成、逆紹介の推進など業務の効率化に努めた。その結果、内視鏡処置数は別表のごとく満遍なく増え、特に消化管ESD件数は前年度比115%と顕著に増加した。

3．教育・人材育成

3名の新任医師を受け入れた。診療科キャンサーボード、外科･放射線科合同キャンサーボードを通じて教育した他、神奈川胃癌治療研究会、内科地方会、横浜西部消化器カンファレンスにて研究発表を行った。

4．展望

県民・連携医療機関に選ばれる、親切で丁寧な診療を続けていきたい。同時に、高度に専門的な機関としてエビデンスに基づいた診療と、新たなエビデンス構築のための研究に注力していく。

文責：井口靖弘

消化器内科（肝胆膵）

1．スタッフ

森本　学、上野　誠、小林　智、福島泰斗、河野邦幸、佐野裕亮、長島周平、浅間宏之（レジデント)、田中　聡（レジデント）

2．診療実績

肝胆膵がんの早期診断、進行がんにおける化学療法を主として集学的治療を行っている。2019年度は、肝細胞がん150人、膵がん440人、胆道がん170人を診療した。集学的治療として、肝細胞がんに対し、経皮的ラジオ波焼灼術90件、肝動脈塞栓術210件を行った。内視鏡的胆管膵管造影、胆道ドレナージ810件、超音波内視鏡710件を施行した。臨床試験として、肝胆膵癌で複数の企業治験、JCOGグループの複数の医師主導臨床研究を行っている。

3．教育・人材育成

2名のレジデントを受け入れた。

4．展望

県民に信頼される病院を目指して、一日でも早く、絶対に患者を断らないをモットーに診療を行っている。難治癌である肝胆膵がんの克服、早期診断のため、近隣病院との連携を重視して、診療を行う方針である。

文責：上野　誠

消化器外科（胃食道）

1．スタッフ

大島　貴、尾形高士、山田貴允、藤川寛人、熊頭勇太、下田陽太、神尾一樹、渡邊勇人、公盛啓介

2．診療実績

本年度の総手術件数は286例。胃外科で206例、食道外科で80例、その他1例であった。本年度より胃癌に対するロボット支援手術を開始した。新規の医師主導臨床研究は8件あった。学術英語論文は33本あり、うち責任著者は13本、筆頭著者は6本であった。

3．教育・人材育成

1名のレジデントを受け入れた。本年度に2名が消化器外科学会専門医および消化器癌治療認定医を取得し、1名が内視鏡外科認定医を取得した。現在、2名が食道専門医を、3名が内視鏡外科認定医の取得を目指している。英論文の書き方講演会、腹腔鏡手術ビデオセミナーなどの教育を目的とした講演会を複数開催した。臨床研究所および国内外との共同研究を行い、若手も積極的に参加している。

4．展望

患者さんおよびその家族はもとより、県民レベルで信頼され、一人でもより多くの胃癌、食道癌の診療を行い、最善の治療ができるようにあらゆる努力を行っていきたい。さらに、教育、人材育成、研究にも力を入れ、数多くの国内外および臨床研究所との共同研究を積極的に行い、多くの学会発表、学術英論文の発表することに力を入れていきたい。

文責：大島　貴

消化器外科（大腸）

1．スタッフ

塩澤　学、菅野伸洋、佐藤純人、加藤　綾、岡本浩直、内山　護、高村卓志

2．診療実績

1年間の手術件数は、原発巣手術で272例。結腸癌は145例でそのうち腹腔鏡手術は88例。直腸癌は126例でそのうち腹腔鏡手術は95例であった。周術期合併症による緊急再手術は3例でわずか1％に過ぎず質の高い手術がなされている。現在も登録中の全国レベルの臨床試験においては、JCOG-EORTC国際共同試験（大腸癌肝転移）では世

界で登録数１位、JCOG1805（ステージⅡ補助療法）では全国登録数４位、JCOG1801（直腸癌局所再発）では３位、JCOG1805（大腸癌アスピリン試験）では３位である。またSCRUM JAPANへ参加しておりUkit project（リキッドバイオプシー）登録全国１位など治療開発への貢献もしている。

３．教育・人材育成

神奈川県内の医師を対象としたがん薬物療法セミナーを７回開催、手術手技に関するセミナーを３回開催。手術教育では他の病院では手術困難な症例の手術を行っており手術技術の継承にも貢献している。

４．展望

当科では、質の高い医療の提供、高い安全性と根治性を目指した手術提供、標準治療のさらなる先の個別化治療の提供、他医では根治困難な症例に対する集学的治療による大腸癌治癒を基本方針として診療を行っている。今後も単なる消化器外科医ではなく腫瘍外科医として目に見えない腫瘍から目に見える腫瘍までを対象とした治療戦略立案と開発により患者を根治していくことを目標とする。

文責：塩澤　学

消化器外科（肝胆膵）

１．スタッフ

森永聡一郎、山本直人、村川正明、神谷真梨子、上岡祐人（レジデント）

２．診療実績

2019年の全手術は226例で、主な手術術式では、膵切除132例（亜全胃温存膵頭十二指腸切除術　87例、 膵全摘出術　11例、膵体尾部切除　34例うち腹腔鏡下３例）、肝切除　33例（うち腹腔鏡下４例）、胆道再建を伴う肝切除６例であった。膵体尾部切除、肝切除（部分切除、外側区域切除）に腹腔鏡下手術を導入し増加傾向にある。膵癌治療件数は全国でも上位となるハイボリュームセンターであり、JCOG，JASPAC，AMED等の多施設共同研究のメンバーとして積極的に症例登録し新規治療の開発に貢献している。近年の化学療法の進歩に伴い当初切除不能であった膵癌から切除可能にコンバージョンする症例も増加しており､膵癌コンバージョン手術にも積極的に取り組んでいる。

３．教育・人材育成

１名のレジデントを受け入れ、肝胆膵外科学会高度技能医修練中である。

４．展望

低侵襲手術にも取り組んでおり、低悪性度膵腫瘍や肝細胞癌に対する腹腔鏡下手術を推進していく。今後は、重粒子センターとの共同をさらに進め、重粒子線治療を組み入れた膵癌術前治療の開発、膵癌コンバージョン切除症例の治療成績向上に向けた治療開発、肝細胞癌切除例と重粒子線治療例の前向きコホート比較試験等に取り組んでいく。

文責：森永聡一郎

精神腫瘍科

１．スタッフ

横尾実乃里

２．診療実績

精神腫瘍科の主な診療内容は、入院および外来患者の精神症状に関するコンサルテーション･リエゾン業務であり、令和元年度の新規紹介患者数は289名であった。

３．教育・人材育成

県内外における緩和ケア関連研修会（６回)、がんリハビリテーション関連研修会（１回)、神奈川県立保健福祉大学実践教育センターがん患者支援講座（１回）にて、精神腫瘍学に関する講義を行った。

４．展望

精神面のみならず、身体面や心理社会的背景を考慮した包括的なアセスメントと対応を行い、患者がその人らしさを失わずに治療に取り組めるよう、チームでささえるがん医療を今後もめざしたい。

文責：横尾実乃里

脳神経外科

１．スタッフ

佐藤秀光、山田幸子

２．診療実績

おもにグリオーマ、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍の治療を集学的に行っている。当院の特徴としては、がん性髄膜炎にともなう水頭症の緩和のための手術を必要に応じておこなっている。

国立がんセンターと当院の共同で治験をあらたに開始した。グリオーマ、悪性髄膜腫、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍を対象とした世界初の治療法である「放射性薬剤64Cu-ATSMを用いた悪性脳腫瘍に対する革新的治療法の開発研究」を2019年度より開始した。

また開頭腫瘍摘出術25例、シャント・オマヤ貯留槽設置15例を含む計51例の手術を行った。

３．教育・人材育成

昨今の社会的要請となった女性活躍推進をはかるために、子育て中の部下（女医）の負担を軽減させるため、平日の脳神経外科緊急オンコール対応はすべて部長の佐藤がおこなった。平時でも負担がおおきかったが、１～３月のコロナ対策のために、夜間だけでなく日中も育児のために抜けられたため、その分をすべて一人で対応した。恩恵をうけた医師は、育児がひと段落ついたら社会へ還元していただきたいものである。

４．展望

当院でしかできない上記の第一相臨床試験を無事終了させ､第二相､第三相試験へとつなげていきたいと考えている。この結果がよければ世界初の治療法の開発となる。また当院でしか行えない重粒子治療は脊索腫等脳が脳外科の対象疾患であり脳神経外科が窓口となって対応している。

文責：佐藤秀光

頭頸部外科

1．スタッフ

久保田　彰　古川まどか　岩村　泰　勝又徳行

2．診療実績

外来新患は順調に増加し、年度の後半では月に平均30例の新規患者を受け入れた。令和２年に入り若干の減少は一時的に見られたがその後はCOVID-19の影響も軽く安定した新規患者数を受け入れ、逆紹介症例も増加し新規患者の受け入れ態勢の強化を図ることができた。放射線治療症例、重粒子線治療は原則として外来通院で施行、手術症例や化学放射線治療症例でもクリニカルパスやレジメン内容の見直しを行い、平均在院人数の短縮を12日から８日に短縮することができた。手術実績は、頭頸部手術116件（頸部郭清術25件　頭頸部腫瘍摘出術91件）、口腔咽喉頭手術95件気管切開術35件。頭頸部外科医師による頸部超音波診断（穿刺吸引細胞診含む）は924例であった。

3．教育・人材育成

耳鼻咽喉科専門医・指導医、頭頸部がん専門医・指導医を有する指導者のもと、耳鼻咽喉科専門医を目指す専攻医、頭頸部がん専門医を目指す各段階に置かれた医師が、それぞれの研修プラグラムに乗っ取った形で教育をうけ研修を行った。

4．展望

一般医療者にはなかなか理解されにくい領域である頭頸部領域の疾患や治療、治療後の状態などについて、地域の医療施設や介護関係者に対して勉強会、講習会などの場を積極的に設け、地域医療と連携を取りながら安全かつ質の高いがん医療を患者がうけられるような仕組みを構築していく。

文責：古川まどか

形 成 外 科

1．スタッフ

清水　調

2．診療実績

がんセンターの形成外科は他診療科と協力して、円滑なあるいは、より良い癌治療を行うことが主な任務である。症例としては乳癌術後の乳房再建手術、頭頸部腫瘍外科の手術後の機能的あるいは整容的再建、骨軟部腫瘍外科やその他の科の腫瘍切除後の再建手術などが挙げられる。また、内科やその他の科からの依頼で、リンパ節生検や皮膚生検も多数行っている。その中でも乳房再建手術は当科の中で高い比重を占めるが、2019年度は、７月に保険適応で使用されていた人工乳房（シリコンインプラント）と同じく再建で使用する組織拡張器（エキスパンダー）が使用できなくなったため、８月以降は乳房再建手術がしばらく出来なくなった。また、悪性黒色腫を中心に、皮膚悪性腫瘍の手術も行ってきたが、2019年度は皮膚科の常勤医が不在のため、皮膚悪性腫瘍の治療自体を縮小したため、これらの手術は行わなかった。2019年の手術内訳は、入院手術104のうち、形成外科40、乳腺外科35、骨軟部腫瘍外科10、頭頸部腫瘍外科２、脳神経外科４、婦人科３、消化器外科２、その他８。外来手術88のうち、他科からの依頼のリンパ節生検を含む生検手術が81。

3．教育・人材育成

特記事項なし

4．展望

2019年７月より使用できなくなった乳房再建用のシリコンインプラントと組織拡張期の代わりに、数種類の代用品が使用できるようになり、2018年までと同数くらいまで症例数を戻していきたい。また、リンパ節生検は複数の科より依頼されるようになり、さらに多くの科からの依頼を積極的に引き受け、症例を増やしていきたい。

文責：清水　調

乳腺内分泌外科（乳腺）

山下　年成（乳腺外科部長、S63卒）、山中　隆司（H15卒）、12月まで菅原　裕子（H20卒）、松原　由佳（H24卒）、古波蔵　かおり（H25卒）、レジデントとして岡本　咲（H26卒）

乳腺の場合は手術を除き、外来での検査・診断や薬物療法が中心となるため外来診療が非常に重要です。また、インフォームドコンセントのためにも化学療法や手術についての説明に多くの時間を割く必要があります。医長については外来日を週２日としましたが、欠員もあり埋められない金曜日午後の手術枠を返還しましたが、2019年度の実績は乳腺手術件数435件（乳房切除275件、部分切除152件、良性８件）とやや増加しました。在院日数を減らすためにセンチネルリンパ節生検を行わない患者さんは手術前日入院とし、病床を有効利用して新規症例数の増加を目指します。

臨床研究に関しては多くの治験、医師主導治験、臨床試験に参加しています。企業治験も急増しています。去年乳癌の一部のタイプ対して免疫チェックポイント阻害剤が認可となり使用しています。当院が認可に大きく関わったトラスツズマブデルクステカンが日本でも使えるようになりました。効果が得られる反面、通常の抗癌剤と違う免疫関連有害事象や間質性肺炎といった副作用があり各科の先生方にコンサルテーションも増える可能性があります。各科の先生方にはお手数をお掛けするかもしれませんが何卒、よろしくお願いします。今後も多くの臨床試験、治験に関わっていき有効な新規薬剤の承認や、新たなエビデンスの創出に向けて尽力していきます。

一部の乳癌・甲状腺癌は遺伝性のものが存在し注目を集めています。遺伝性乳癌にのみ効果が期待できるPARP阻害剤が認可され、使用に関しては遺伝子検査が必須となっ

ています。当科でもHBOC（遺伝性乳癌卵巣癌）に対してカウンセリングや予防手術を行っており、新設された遺伝診療科や他科とも連携して遺伝性腫瘍への対応を積極的に進めています。また、臨床研究については臨床研究所の宮城先生を始め研究所の先生方と新規研究を立ち上げており、基礎研究の幅を広げていきたいと考えています。

文責：山下年成

乳腺内分泌外科（内分泌）

1．スタッフ

岩崎博幸、菅沼伸康、戸田宗治

2．診療実績

内分泌外科の対象疾患は、甲状腺がんだけではなく、甲状腺腫の大きなバセドウ病や副甲状腺疾患も専門としている。手術症例は進行がんが多く、進行再発甲状腺がんや未分化がんの治療が中心である。他院で手術を受けた後に再発や転移が起きた症例にも再手術や追加治療を行うがん拠点病院としての役割を担っている。特に進行症例に対する拡大手術に加えて､遠隔転移に対するI-131（放射性ヨード）内用療法や、病勢進行分化がんや未分化がんに対する分子標的薬の治療を数多く経験し、その成績を国内外に発信している。2019年度手術件数は101件であった。そのうち甲状腺がんは77例であるが、甲状腺がんの紹介は進行がんが多いため、手術内容は、縦隔郭清や他臓器合併切除などの拡大手術の比率が高くなっている。I-131内用療法は､入院、外来アブレーションと合わせて2019年度は71件であった。

3．教育・人材育成

主に甲状腺がんの手術を難易度の高い手術まで習得する目的でスタッフを受け入れている。高度の進行がんや未分化がんであっても､必要ならば手術と放射性ヨウ素（I-131）内用療法や分子標的薬治療を行い、長期生存を目指している。

4．展望

2021年６月には日本内分泌外科学会総会を当科部長岩崎が学会長として開催する予定であり、全国的に当施設をアピールできる良い機会と考える。

文責：岩崎博幸

婦　人　科

1．スタッフ

加藤久盛、小野瀬亮、近内勝幸、北川雅一、内山亜弥、上野悠太、小澤雅代

2．診療実績

新患数について2018年度は557名に対し2019年度は576名と増加している。また新規治療件数は2018年273名に対し2019年304名と増加している。腹腔鏡手術件数は日本産科婦人科内視鏡学会認定医を擁し2018年26件、2019年47件と堅調に増やしている。疾患別の治療件数であるが2019年も神奈川県内で子宮頸癌および子宮体癌治療数は１位であった。全国集計の最新の集計結果である2017年では子宮頸癌６位、子宮体癌11位であった。研究面においては日本医療開発機構AMEDによる３つの臨床研究の参加施設として現在積極的に関与している。日本臨床腫瘍研究グループJCOGおよび婦人科腫瘍研究機構JGOGにも積極的に症例登録している。新規の医師主導臨床研究は３件あった。学術英語論文は４編あった。

3．教育・人材育成

婦人科腫瘍専門医２名、細胞診専門医２名の合格を導いた。

１名のレジデントを受け入れた。県民を対象とした病院主催の市民公開講座に婦人科がんに関するテーマで婦人科医１名が講演した。

4．展望

当センターが発信している行動指針のうち、安全で質の高い医療の提供を目指したい。具体的には腹腔鏡手術の充実および適応拡大、ロボット支援下手術の施設認定取得、既存の治療では根治性の低い進行子宮頸部腺癌を中心に新しい治療方法である重粒子線治療の受け入れ充実を目指していきたい。

文責：加藤久盛

泌 尿 器 科

1．スタッフ

岸田　健、梅本　晋、逢坂公人、野口　剛、鈴木孝尚、柴田洋佑

2．診療実績

外来；新患数（４－３月）推移。平成21年度～300、303、318、369、422、460、608、664、560（平成29年度）、平成30年９月からは重粒子初診も前立腺センターとして対応。H30年度新患＋重粒子；723＋172＝895人、H31　960＋282＝1242人と急増。診察日まで平均日数：5.86－6.33－6.83－6.87－6.45－5.81－7.9－6.66日。１週間以内診察継続。再来患者H25年11,299人H27年～13,574、14,674、14,791、14,275、13,543人と積極的逆紹介で減少傾向。セカンドオピニオン52，66，66，65，79，85，101，107，97，99，118件と増加。外来膀胱鏡検査（１－12月）543，579，601，642，697，798，975，1,068，1,051，689件。梅本クリニック紹介により激減。エコー440、679、611、720、597、949、1124件。低スペック機種の更新が課題。

入院;入院患者延数　H26年～7,665－8,461－8,625－8,727－9,157－9,145、実患者数898－919－973－1076－1180と着実に増えており、これをこなすため平均在院日数H20年16.4日➡H25年～11.5－9.7－9.4－9.4－9.0－8.5－7.8日と10年で半減。

手術（１月～12月）。経尿道的内視鏡手術　111－141－127－140－165－172－151－121－145件、前立腺全摘　15－14－22－28－63－53－56－36件、ロボット支援腹腔鏡前立腺全摘18件➡141件　１日２件も可能となり飛躍的に増加。腹腔鏡下腎摘　17－12－21－30－39－44－39－27件、開放腎摘　13－18－9－15－6－6－11－7－11件、開放腎部分切除　7－6－4－8－5－1－3－2－2件、腹腔鏡下腎部分切除 0－2－3–1－6－12－13－20－16件、ロボット支援腎部分切除14件、膀胱全摘　16－22－23－10－21－25－26－17－21件、後腹膜リンパ節郭清4－4－4－7－4－1－7－6－9件。前立腺生検163－134－120－82－116－124－190－193－183－207－265。総手術数は541－732件と３割増。膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍においては県内および国内でもトップレベルの症例数を診療している。

３．教育・人材育成

ロボット支援前立腺全摘プロクター　２名新規取得。腹腔鏡手術技術認定に向けて指導、次年度申請予定者２名。研究所との共同研究３本遂行中でその成果から英文論文２本、投稿中１本。

４．展望

今後は数より質の向上に努め、臨床研究にも積極的に取り組んでいきたい。

文責　岸田　健

骨軟部腫瘍外科

１．スタッフ

比留間 徹、藤田 真太朗、徳永 雅彦

２．診療実績

2019年度はスタッフが若年化したが、初診患者数は387人、手術件数が226件とほぼ例年同様であった。

手術の内訳は、切開生検術65件、原発性骨腫瘍切除術は13件で良性が３件、悪性（骨の肉腫）が10件、原発性軟部腫瘍は95件で良性33件（脊髄腫瘍２件含む）、悪性62件（軟部肉腫61、悪性黒色腫１）であった。転移性骨軟部腫瘍の手術は23件で骨腫瘍16件、軟部腫瘍７件であった。その他の手術は30件で、重粒子線治療のための吸収性スペーサー留置術１件が含まれている。

重粒子線治療を行った骨軟部腫瘍症例のうち当科が介入した件数は26件であった。組織型は、骨の肉腫では骨肉腫・骨未分化多型肉腫４件、軟骨肉腫２件、脊索腫４件であり、軟部肉腫は脂肪肉腫８件、未分化多型肉腫３件、その他５件であった。

３．教育・人材育成

当科は、日本整形外科学会の専門医制度研修施設および複数の大学の整形外科専門研修連携施設を担っている。2019年度は連携施設として４名の専攻医を受け入れた。

第11回市民公開講座「がんを知る」／ AYA世代（若年者）のがんを学ぼう／にて講演を行った。

４．展望

稀少がんである骨軟部腫瘍診療において、今後も神奈川県内の中心的役割を担っていく。一方全国的には、手術・化学療法・放射線治療・重粒子線治療が可能な数少ない施設であり、これらを併用した新たな治療開発を行っていきたい。

文責：比留間 徹

放射線診断・IVR科

１．スタッフ

栗原宏明、土井内恒弘、堀川歩、山本弥生、日野彩子、小嶋大地

２．診療実績

放射線診断科では診療業務として年間約26,000件のCT検査と年間約6,900件のMRI検査、年間3,900件程のPET検査を含む核医学検査を実施し、その管理・運営を行うと同時に画像検査結果として画像診断報告書を作成している。これらの検査実績についてがんの診療を専門とするがん診療拠点病院の中では、医師一人あたりの検査数は年約6,000件を超える。また、IVR実施件数も年間450件実施しており、近年著明な増加傾向にある。このように、限られた人員と設備の中で検査の管理運用を行い、効率よく検査を実施してきている。

３．教育・人材育成

日本専門医機構認定　神奈川県立病院機構放射線科先行プログラムの基幹施設として２名の専攻医を受入れた。

４．展望

日本では少子高齢化が進み、がんの好発年齢ともいえる65歳以上の人口は年々増加し2040年には3,868万人をピークに達すると推計されている。治療の進歩に伴うがん患者の予後改善とフォローアップ期間の延長を考慮すれば、今後も当センターを受診される患者数は増加し、必要とされる放射線画像診断検査数、IVR件数も増加していくことと予想される。引き続き放射線画像診断検査の管理運用を適切に行い、効率よく検査を実施しつつ、これら検査に係る診療体制の強化を目指す。

文責：栗原宏明

放射線治療科（光子線治療部門）

1．スタッフ

今年度から新たに任期付き常勤医とレジデント１名ずつ迎える事が出来ました。両名とも意欲も高く、頑張ってくれています。まずは専門医取得を目指し、臨床のみならず研究にも取り組んで行く予定です。

2．診療実績

今年度の患者数の総数は1661名でした。新規の放射線治療患者の疾患別内訳は、乳癌（236例）、肺癌（220例）、頭頸部腫瘍（104例）、婦人科腫瘍（92例）泌尿器腫瘍（86例）の順でした。高精度放射線治療は強度変調回転照射（VMAT）導入によりスループットの向上が得られています。297例と過去最大の件数となっています。また体幹部定位放射線治療（SBRT）も37例と過去最高の件数となっております。

3．教育・人材育成

今年度より２名の医師が仲間に加わりました。２名とも放射線科専門医取得前で研修中ですが、前向きに業務に取り組んでくれています。増加傾向の患者への対応に大きく貢献してくれており、今後益々の活躍を期待しています。

4．展望

皆様のご協力により概ね従来の業務を行うことが出来ました。今後はさらに増加する患者への対応に加え、研究にも力を入れていきたいと考えております。様々な環境の変化も予想されますが、状況に合わせた柔軟な部門運営を行っていきたいと考えています。

文責：吉田大作

放射線治療科（重粒子線治療部門）・重粒子線治療センター

1．スタッフ

鎌田　正、加藤弘之（兼任）、吉田大作（兼任）、芹澤慈子（兼任）、溝口信貴（兼任）、高草木陽介（兼任）、土田圭祐（兼任）、阿武　和（兼任）、加納希生（放射線科専攻医）

2．診療実績

現在、先進医療Ａ、先進医療Ｂ、保険診療の３つの枠組みで重粒子線治療を行っている。2019年度で計480症例に対して重粒子線治療を施行した。2015年の治療開始以降の累計で1,133症例に達し、1,000例の大台を超えた。保険診療症例を含め、神奈川県立がんセンター・新規医療開発センターを通して重粒子線治療多施設共同臨床研究（J-CROS）の全例登録事業への登録を行なっている。重粒子線治療に関連した国際発表は６件、国内発表は11件、英語論文は１本、和文論文は１本であった。

3．教育・人材育成

１名の放射線科専攻医を受け入れた。群馬大学、横浜市立大学、埼玉医科大学・国際医療センター、それぞれの医機構認定放射線科専門研修プログラムの研修連携施設となっている。これらに加えて、自治医科大学、杏林大学、がん研究会有明病院などから非常勤医師を受け入れ、重粒子線治療を含む当施設での研鑽を積んでいただいている。また、杏林大学、自治医科大学には当スタッフを社会人大学院生として受け入れていただいている。

4．展望

「安全かつ継続可能で科学を推進する放射線治療の提供」をスローガンに、世界的にも稀有な医療技術である重粒子線治療を、より多くの必要とする患者さんに適切に提供していきたい。

文責：加藤弘之

東洋医学科（漢方サポートセンター）

1．スタッフ

板倉英俊

2．診療実績

手術・放射線・抗がん剤等の治療補助・合併症の軽減、ならびに体力維持によるQOLの向上を主目的とした診療を行い、累計外来人数は、昨年度の3,528人から4,781人と大幅に増加した。

3．教育・人材育成

日本東洋医学会の研修施設として、一人の研修医師を受け入れた。東邦大学薬学部と横浜薬科大学薬学部での講義を行った。横浜薬科大学からは一人の臨床実習生を受け入れ二ヶ月の外来研修を施行した。

4．展望

神奈川県における漢方医学の教育・研修の機会を増やしていきたい。

文責：板倉英俊

免疫療法科（がんワクチン･免疫センター）

1．スタッフ

笹田哲朗、氷室秀知

2．診療実績

当科では、がん免疫療法の臨床的有用性を科学的に検証するため、がん免疫療法の臨床試験・臨床研究を実施している。令和元年度には、① 肺がんに対する術後補助化学療法後のペプチドワクチン維持療法（第Ⅱ相）、② 難治性軟部肉腫に対するNY-ESO-1抗原を標的としたワクチン併用TCR遺伝子改変Ｔ細胞輸注療法（第Ⅰ・Ⅱ相）、③ 標準療法不応進行膵癌に対するS-1併用WT1ペプチドパルス樹状細胞（TLP0-001）のランダム化比較試験（第Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ相）、④ 標準治療不応の進行・再発胃がんに対する局所放射線療法と抗PD-1抗体併用療法（第Ⅰ・Ⅱ相）の４種の臨床試験を実施した。さらに、免疫チェックポイント阻害薬や重粒子線治療の免疫学的影響に関する臨床研究を、呼吸器

内科、泌尿器科、血液・腫瘍内科、頭頸部外科、放射線治療科と共同で実施した。学術英語論文は11本あり、学会発表17件（海外９件、国内８件）を行った。

３．教育・人材育成

がん免疫療法に関する一般向け講演を２回（県民対象の講演会および放送大学）行った。

４．展望

当科の医師は臨床研究所（がん免疫療法研究開発学部）を兼任し、がん免疫診断・治療に関する基礎研究・トランスレーショナル研究を実施している。臨床研究所で得られた研究成果をもとに当科で臨床試験を実施することにより、現時点では治療法のないがん患者に新しいがん免疫療法の提供を可能とすることを目標としている。

文責：笹田哲朗

麻　酔　科

１．スタッフ

藤田久栄、佐々木俊郎、加治真由　他非常勤医師42名

２．診療実績

手術室で行われる手術のうち局所麻酔以外のすべての手術の麻酔管理を行っている。外来診療では麻酔管理症例の術前診察のほか慢性疼痛症例の内服治療を行っている。

今年度麻酔科管理症例は3,386件であり内訳は。全身麻酔　2,243件，硬膜外麻酔併用全身麻酔　877件，脊髄くも膜下麻酔　118件，その他（静脈麻酔　鎮静など）248件であった。分離肺換気麻酔は536件であった。

３．教育・人材育成

提携病院より初期研修医を受け入れた。特殊な麻酔管理を要する手術や当院で初めて行われる術式などでは手術前に麻酔科医だけではなく主治医　看護師を含めてカンファランスを行った。手術室安全ワーキングに参加し手術室内での安全管理を主導した。

４．展望

安全　安心　快適な周術期を患者さんに提供できるようスタッフは技術の研鑽に励みと知識を深める努力をスタッフは行っている。今後さらに複雑な手術術式や長時間に及ぶ手術が増加することが予想されマンパワーの充実が求められる。看護師はじめコメディカルとのコミュニケーションをはかり業務を進めていく。

文責：藤田久栄

ＩＣＵ科

１．スタッフ

高野修身

２．診療実績

ICU科は、HCU病棟での主治医による診療に対し、主に呼吸、循環などを中心に全身管理のサポートを行っている。平成31年４月より令和２年３月までの１年間の当病棟への入室総数は2,877名で、前年度に比べ189名増加した。診療科別では、乳腺内分泌外科529名、呼吸器外科520名、消化器外科大腸385名、消化器外科胃食道286名、泌尿器科278名、消化器外科肝胆膵249名、婦人科217名、骨軟部腫瘍外科196名、頭頚部外科104名、脳外科48名、形成外科32名、血液内科13名、呼吸器内科６名、消化器内科肝胆膵６名、腫瘍内科６名、消化器内科消化管２名であった。HCUへの入室目的では、予定手術の術後管理目的2,656名、緊急手術の術後管理目的138名、呼吸管理目的35名、循環管理目的25名、血液浄化目的８名、蘇生後管理目的５名、中枢神経系管理目的３名、その他11名であった。人工呼吸器装着患者数は105名、延べ管理日数は671日、血液浄化療法では、CHDFを10名の患者に行い延べ施行日数は77日、血漿交換を１名の患者に14回行った。

３．教育・人材育成

当科では、継続的な研修医、レジデントの受け入れは行っていないが、昨年度は、足柄上病院の初期研修医１名、１ヶ月間の研修を受け入れた。今年度は、２名の受け入れを予定している。

４．展望

HCU病棟では、医療事故、院内感染防止を重点目標として取り組んできた。今後も継続してこれらの防止に努めていきたい。必ずしも最先端の医療を追うわけではなく、標準的な医療を安全に提供できることを目標とし、スタッフの知識や意識を高めることが重要と考えている。

文責：髙野修身

緩和ケア内科

１．スタッフ

太田周平、田村文彦

２．診療実績

緩和ケア病棟：H31年度は304名の入院患者数であり、ここ数年とほぼ同数で経過した。膵癌、肺癌だけで128名と全体の1/3を超え、この２疾患の割合は年々増えている。268名が死亡退院となり、ここ数年では最も多かった。重度の症状を持つ患者を中心に受け入れている結果と思われた。

緩和ケア内科外来：院内併診がほとんどで48件であった。帯状疱疹後神経痛のような非がんの痛みを診ることも多い。極めて少数だが在宅支援診療所から痛みのコントロールの相談を受け、在宅療養中の患者に神経破壊薬を用いたブロックを行うことがあった。

３．教育・人材育成

不定期になるが横浜市大医学部学生の実習を受け入れた。例年通り、がん医療従事者のための緩和ケアの集合研修会を行った。

4．展望

かつてはがんが不治の病と位置付けられ終末期の諸問題解決のために「緩和ケア」という言葉が用いられてきた。多くのがん患者が後ろの時期までがん治療を継続する中で、緩和ケア病棟での終末期を中心とした入院医療は時代遅れになりつつある。外来で、タイムリーに、サポートが必要な患者に緩和医療を提供していきたいと考えている。

文責：太田周平

歯科口腔外科

1．スタッフ（令和元年度）：

歯科医師　光永幸代（医長）、柳田健（レジデント）、小栗千里（非常勤）

歯科衛生士　織田典代（非常勤）、見目真紀子（非常勤）、松田喜久美（非常勤）

2．診療実績

歯科口腔外科初診（併診・再初診含む）668件

3．教育・人材育成

令和元年度までレジデント２期目の柳田健先生（横浜市立大学顎顔面口腔機能制御学所属）が在籍され、がん口腔支持療法のエビデンス、理論、臨床を学び、令和２年３月に研修修了しました。令和２年４月からはレジデントとして髙瀬さやか先生（同所属）が着任しております。

4．展望

当科は中央診療部門の一つとして、がん治療に際して必要な歯科治療や、治療合併症への対応としての口腔外科診療に携わっています。当科外来予約の混雑のせいで十分お手伝いできない患者さんもおられますが、がんセンターにおける均等な歯科受診の機会と、原病の治療に沿った歯科介入、口腔支持療法が提供できるよう努力を続けて参ります。

当科は歯科治療ユニット２台のみの小さな診療室で診療しており，ハード面での制約は否めません。一方でがん治療に際しての口腔管理介入も浸透し、患者さんの理解だけでなく地域の歯科医院での連携の受け入れも広がりつつあります。令和元年度は横浜市、鎌倉市など近隣歯科医師会様との交流も深められる機会を多く頂きました。これからも地域歯科医院との連携や、口腔外科としての病診連携にも引き続き力を入れて参りたいと考えております。臨床とは離れますが、令和２年12月に特定非営利活動法人　日本がん口腔支持療法学会第６回学術大会の大会長を務めさせていただきます。このような機会を通じて国内外の最新の知見を学び、当院での研究にも繋げて参る所存です。

文責：光永幸代

リハビリテーション科

1．スタッフ

水落和也（部長）

2．診療実績

リハビリテーション科新患患者数は1845名で2018年度1682名から9.7％の増であった。入院新患は1484名から1587名の6.9％の増、外来新患は198名から258名の30.3％増であり外来患者の伸び率が大きい。

2016年のリハビリテーションセンター開設以来患者数の増加は続いている。

依頼元科の内訳は円グラフに示す通り。手術患者全員に周術期作業療法をパス運用している乳腺内分泌外科が26％と最も多いが、その割合は年々減少（2016年40％、2017年34％、2018年27％）しており、他科からの患者数が増加している。

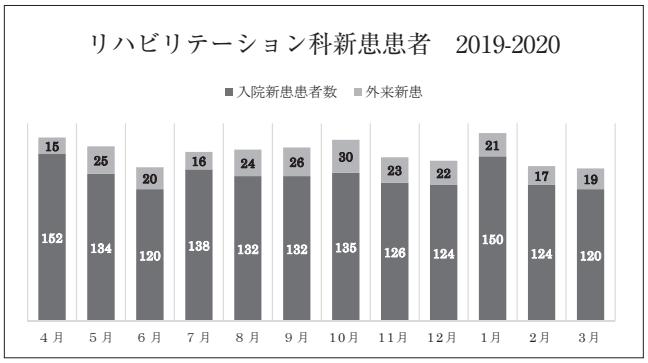
2019年度も院内すべての主診療科にリハビリテーションサービスを提供できた。

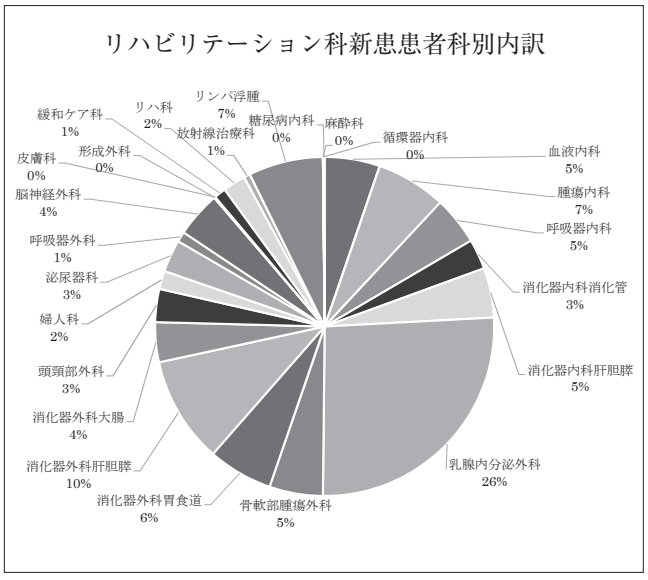
3．教育・人材育成

リハビリテーション科医師は１名であり人材育成を行う環境にない。

4．展望

日本がんリハビリテーション研究会を中心とした啓発活動により、令和２年度診療報酬改定ではがん患者リハビリ





テーション料の対象拡大がなされた。次のステップである、外来患者への対象拡大に向けて、当センターにおいても外来リハビリテーションサービスの環境を整備していきたい。

文責：水落和也

病理診断科

1．スタッフ

横瀬智之、河内香江、大久保陽一郎、鷲見公太、鈴木理樹、吉岡恵美

2．診療実績

1．病理組織検査

2019年１月１日から同年12月31日の集計である．病理組織検査総件数は12,574件、迅速組織診断763件、細胞診8,727件、病理解剖16件。

2．業務改善／新規業務

病理報告書未読（確認漏れ）の対策継続中。核酸品質管理の為の基盤創成を行った。

3．院内活動

各種カンファレンスに参加。CPC開催（15回）。

4．治験業務

４年前より病理診断科で病理組織関連の治験について担当し始め、事前の病理検体処理の打合せ、スタートアップにも参加。常時、薄切業務の技術向上に努めている。

3．教育・人材育成

1．病理ローテーター－レジデント：3から６ヶ月の期間、当科で研修するレジデントに病理診断学の基礎を教え，がんに関する研究・発表を指導した。

2．当科研修生：小野響子先生が登録更新された。

3．CRC、SMOに対する病理検体取扱いの研修を行った。

4．展望

がんゲノム診療が始まり、当院における核酸の精度管理を進め、県内のモデルとなるシステム構築を行いたい。また、病理診断科独自のレジデント教育を行い、病理医不足の現状に対し、人材を育成・供給したいと考える。

文責：横瀬智之

輸血医療科

輸血医療科は輸血に関わる検査や血液製剤の注文・管理等を行い、原病あるいは治療に伴って輸血が必要になった患者に血液製剤を確実に供給する役目を担っている。輸血療法検討会議を２ヶ月毎に開催してアルブミンを含めた血液製剤の使用状況・廃棄率、輸血に関するアクシデント・インシデント、その他輸血に関わる諸問題について報告・検討を行っている。

1．業務改善

1）血液製剤使用指針が一部改定され、大量出血時の輸血は赤血球濃厚液、新鮮凍結血漿、濃厚血小板を１：１：１で投与することが推奨された。輸血療法マニュアル、院内のルールも指針に準じて改定した。

2）輸血前の製剤照合確認は医師と看護師で行っていたが、医師と看護師または看護師と看護師で行うよう運用変更した。輸血療法マニュアル改訂、看護マニュアル改訂、看護部への周知を行った。

3）輸血拒否患者対応のマニュアルや報告書の見直しを行い、病院の現状に沿った内容に改定した。

2．製剤別使用量と廃棄量（2019年１月～12月）

1）赤血球濃厚液（前年）：使用量6,356単位（6,776単位）、廃棄量38単位（42単位）、廃棄率0.6%（0.62%）、損失額336,794円（372,246円）

2）新鮮凍結血漿（前年）：使用量448単位（690単位）（120ml＝１単位換算）、廃棄量24単位（12単位）、廃棄率5.36%（1.74%）、損失額214,944円（107,472円）

3）濃厚血小板（前年）：使用量21,280単位（22,695単位）、廃棄量40単位（40単位）、廃棄率0.19%（0.18%）、損失額319,500円（319,483円）

廃棄に伴う損失は、871,238円で前年（799,201円）よりやや増加した。有効期限切れや出庫後輸血中止による廃棄が多く、貴重な献血の有効利用および病院経営の視点から引き続き廃棄血を減らす努力が必要である。

3．インシデント・アクシデント報告

医師の指示忘れによる輸血未実施、輸血セット接続時の製剤漏れ、輸血過少投与、輸血前後の認証忘れ、血小板の発注忘れによる投与日変更など。

4．有害事象

血小板輸血時の呼吸困難１件。

文責：田中正嗣

遺伝診療科

1．スタッフ

成松　宏人、羽田　恵梨、佐藤　杏

2．診療実績

【遺伝カウンセリング外来】

本年度は外来枠を週一日に増設し、51家系54名のクライエントに対してのべ79回の遺伝カウンセリングを行った。51家系のうち、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）については41家系（内、コンパニオン診断後の受診が10家系）、Lynch症候群は４家系（内、がんゲノムプロファイリング検査後の受診が１家系）、家族性大腸腺腫症は３家系、複数の遺伝性腫瘍が疑われた家系は３家系であった。乳癌患者に加えて卵巣癌患者でもコンパニオン診断の遺伝学的検査が始まり、がんゲノム医療拠点病院の指定を受けたことによって、治療法選択を契機とした遺伝カウンセリング件

数の増加がみられた。また、複数の遺伝性腫瘍が疑われる患者を対象とした生殖細胞系列のパネル検査を新たに導入し、研究も含め全21件の遺伝学的検査を実施した。

【遺伝カウンセラーのみの面談】

遺伝性腫瘍の拾い上げを行う目的で、乳がん患者750名と面談を実施した。その他、各科からの依頼や遺伝性腫瘍患者のフォロー目的では52名と面談を行った。また、コンパニオン診断の遺伝学的検査に関する説明補助として98名に面談を実施した。

【リスク低減手術】

乳腺外科・婦人科と連携し、HBOCのリスク低減卵巣卵管摘出術が１例実施された。

【研究】

HBOCの拾い上げ業務を効率化するため、IBM社のWatson® を活用した拾い上げChatbotのプロトタイプを昨年度開発した。本年度は開発者によるテストと改良を経て臨床実地での実装可能性を評価し、有効なツールとなり得ることを示した。

３．教育・人材育成

２名の臨床遺伝専門医研修を受け入れた。

４．展望

多くのクライエントに充実した遺伝診療を提供できるよう、引き続き体制整備を行っていく。また、治療選択を契機に遺伝性腫瘍と向き合う機会が今後さらに増えることが想定されるため、医療従事者及び患者を対象とした教育の場を増やしていきたい。

文責：佐藤　杏

がんゲノム診療科

１．スタッフ

廣島幸彦

２．診療実績

2019年８月からがんゲノムプロファイリング検査を開始し､2020年３月末までに118例実施した｡2019年９月には｢がんゲノム拠点病院｣に指定され、12月から自施設内でエキスパートパネルを開催し、合計76症例を検討した。外来診療では、院外からの検査依頼患者を担当し、初診患者40名に対して検査説明、同意取得、結果説明を行った。

３．教育・人材育成

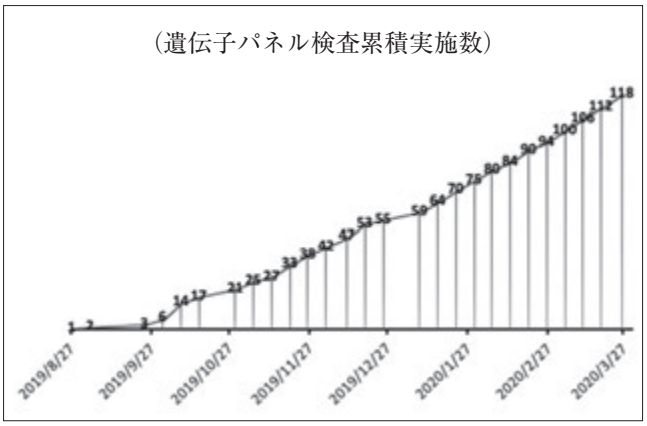
がんゲノムプロファイリング検査に関する院内説明会を２回開催した。

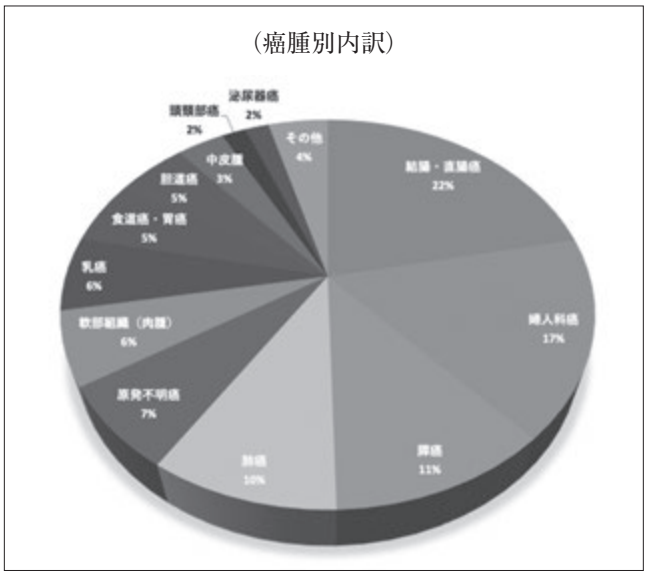
周辺開業医や県内がん相談員を対象としたがんゲノム医療に関する講演を３回行った。

４．展望

現行の遺伝子パネル検査のエキスパートパネルの運営整備とともに、現行検査は未だ不充分であることから、新規ゲノム検査の開発研究（全遺伝子を対象、微量検体、血液検体にも対応）を臨床研究所と協力して行っていく。

文責：廣島幸彦





第３節　がんゲノム診療センター

がんゲノム診療センター

がんゲノム診療センターは、県内の医療施設に対してがんゲノム診療の連携拠点病院としての取組を推進する目的で設置された。がんゲノム診断・治療検討室、ゲノム情報管理室、がんゲノム医療情報調査室、がんゲノム診療相談センター、がんゲノム医療管理室の５室で構成され、センター長以下15名（兼務14名、専従１名）が、がんゲノム医療に係る諸手続や県民からの電話相談等に対応している。

当センターでは令和元年８月よりがんゲノムプロファイリング検査の受検者登録を開始（同年６月に保険収載）した。令和元年度の同検査の登録数は154件であった。がんゲノムプロファイリング検査は指定医療機関の専門家会議（エキスパートパネル：EP）での結果検討とレポート作成が必須である。当院は令和元年９月19日に厚生労働省より「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、12月より自施設のEPを開始した（それ以前は国立がん研究センターEPと連携）。令和元年度は、自施設EPで75症例の検査結果を検討、レポートを作成した。また、県民からの電話相談は139件あり、情報提供等を行った。

また、神奈川県立こども医療センター、昭和大学横浜市北部病院、藤沢市民病院、横浜市立みなと赤十字病院を「がんゲノム医療連携病院」に選定し、これらの施設に対してがんゲノムプロファイリング検査の実施に向けた研修会を開催した。

第４節　重粒子線治療センター

重粒子線治療管理室

重粒子線治療管理室は、重粒子線治療施設の整備を進めるため、平成22年４月に「重粒子線治療施設整備室」として設置され、医学物理士と一般事務等により構成されていたが、平成27年４月より、医学物理部門は「物理工学科」、事務部門は「重粒子線治療管理室」へ組織を変更した。

平成31年度は、室長（放射線治療科医長と兼務）、一般事務２名（内訳：本務２名）の体制で業務を行った。

重粒子線治療施設の整備については、平成26年度に重粒子線治療施設（建物）の引渡を受け、平成27年12月15日に重粒子線治療を開始した。平成28年２月１日から先進医療として算定を開始し、このうち平成28年４月１日から切除非適応の骨軟部腫瘍が保険収載され、平成30年４月１日から前立腺癌、頭頸部悪性腫瘍（扁平上皮癌を除く）も保険収載された。

平成31年度の主な業務

（運営業務委託）

重粒子線治療施設で発生する清掃や施設設備管理等の日常的な業務について、病院棟と同じく「神奈川メディカルサービス㈱」に運営業務委託している。

（周知活動）

医療機関、研究機関を対象に重粒子線治療施設の見学対応を平成31年度中に52件実施し、のべ545名に重粒子線治療施設の紹介を行った。このうち、海外の医療機関、研究機関等は17件、121名が含まれ、海外に向けた重粒子線治療施設の紹介、情報発信へとつながった。

放射線治療技術科　（重粒子線担当）

i-ROCKはがんセンター病院棟と一体となった重粒子線施設の名称で日本では５番目に出来た施設となり放射線治療部門と地下１階でつながっている。放射線治療技術科では、高精度で安全な重粒子線治療を提供するため、固定具作成室、位置決め室、治療計画室、治療室などで業務に当たっている。

前立腺、頭頸部、骨軟部、肺、肝臓、膵臓などに対する治療を行い、臓器の呼吸性移動を伴う部位に対する呼吸同期スキャニング照射も行いる。

令和元年の年間新規治療患者数は420名であった。（令和元年度は480名）

固定具作成では医師や治療計画担当者と協議し、日々のセットアップ再現性が得られ易く、線量分布への影響を及ぼさないように注意を払って固定具作成を行っている。

位置決めCTでは重粒子線治療計画に用いるCT画像の撮影、呼吸同期照射の場合には体内に留置したマーカーの移動量、及び外部センサーとの相関性の解析などを行っている。

治療計画では計画の立案・解析、検証計画の作成、治療計画の転送やin-Room CTを用いた検証等、重粒子線治療計画に関わる業務全般を行っている。

治療室では治療照射業務、治療装置への治療計画データの登録・承認業務などを主として行う。その他、患者の治療時間管理や、治療スケジュール変更に伴う日程調整なども各部門と相談し最適な治療を目指し日々取り組んでいる。

第５節　医 療 技 術 部

放射線診断技術科

１．スタッフ

渡邉　優、片野克彦、大塚叔宏、石井幸弘、百武亜希子、岩本里美、石渡靖、江成一二、新開佐和子、長瀬智明、林智史、木幡良子、鈴木悠一、深井正隆、佐藤伶美、中村浩希、大槻有紀、悴田優紀、清本龍正

２．業務実績

病院全体の患者数増加に伴い、前年比増となる検査が多かった。

一般撮影は患者増に最もよく反応する値で年間57,476人（前年比＋7.6%）。

CT検査は76,045人（前年比＋2.1%）, MRI検査9,670人（前年比＋4,7%）ともにフル稼働であった。血管撮影は519人（前年比＋19.9%）と高い伸びで、主にポート造設の伸びが顕著だった。核医学部門は、近年漸減であったシンチグラムが1,228人（前年比＋13.5%）と減少に歯止めがかかった。PET-CTは2,413人（前年比＋6.0%）、内服療法による放射線治療は89人（前年比＋27.1%）であった。

３．教育・人材育成

放射線取扱主任者講習等認定資格に関するもの５件。学会発表２件。

４．展望

他部署と協力し、待ち時間の少ない高度な医療情報の提供を科全体で心掛けている。ただ長年、当院で処理しきれない検査が他院依頼となり、患者サービスの観点で問題がある。予約時間の工夫や自助努力によりPET-CTについては改善しつつあるが、CT、MRIはその数が大きく限界にきており、今後装置の新規増設も含め病院全体で取り組む必要がある。

放射線治療技術科（光子線部門）

放射線治療技術科は高精度な放射線治療を積極的に取り入れ、従来の治療も含め安全で安心できる放射線治療を行っている。今年度は新規に導入した機器は無く外部放射線治療装置（リニアック）４台と、密封小線源治療装置１台、Ｘ線位置決め装置２台、CT位置決め装置２台、治療計画装置８台、放射線治療計画支援装置１台、放射線治療RISが稼動している。患者への負担も少なく高精度な放射線治療として、強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療（SRT）に加えて、呼吸同期治療法、VMAT等の新しい治療にも取り組んでいる。

治療実績は、通常治療延べ人数（平成30年：11,138人、令和元年：17,103人）5,965人の増加、強度変調放射線治療（IMRT）延べ人数（平成30年:4,362人、令和元年:7,293人）2,931人の増加、定位放射線治療（SRT）延べ人数（平成30年:96人、令和元年:183人）87人の増加、小線源治療（RALS）延べ人数（平成30年：97人、令和元年：189人）92人の増加となった。平成30年に対して通常治療 1.54倍、強度変調放射線治療（IMRT）1.67倍、定位放射線治療（SRT）1.91倍、密封小線源治療（RALS）1.78倍とすべての治療で大幅な伸びを示し、がんセンター開院以来２番目の収益を上げることができた。また、放射線治療計画の一部を放射線技師が担当することによりスキルアップを行っている。

今後も常に情報収集に努め、機器の更新、人材育成を行い一人でも多くの患者さんに対してより良い医療が提供できるように日々の研鑽に努めて行く。

物理工学科

当科は重粒子線治療に係わる装置の運転維持管理、及び個々の症例に対する治療計画立案とその線量分布検証を通して、高品質の重粒子線治療を安定して供給することを主な業務としている。重粒子線治療装置i-ROCKは、世界最先端の炭素線高速３次元スキャニング照射法を有し、また世界的にも類の少ない全治療室にRail-on in-room CTを備えた施設である。2019年度は４名の常勤（うち任期付１名）、２名の非常勤の体制で業務をおこなってきた。重粒子装置の日常的な運転・維持管理は、支援業務委託先のエンジニア（８名）と一緒に行っている。朝６時半から装置の点検・立ち上げを開始し、ビームの調整・線量校正、室内機器の動作確認を経て、９時からの患者治療にあたる。治療終了後には、患者治療計画の全例に対してビームを用いた線量分布検証をおこなう。その他、治療チームのワークフローに沿った治療スケジュールの管理・調整を行ってきた。患者の治療計画立案においては、医師の処方のもとで、スキャニング線量分布の最適化をおこなっているが、さらに治療期間中に取得したin-room CTを用いた線量分布の臨床的検証を通して、個々の患者の治療精度のさらなる向上に努めている。また2019年度からは新たな研究外部資金を複数獲得し、従来からの共同研究と合わせて放射線治療部門全体の研究体制の強化とその推進を担っている。

検　査　科

検査科は、臨床検査の技術・能力を保証する国際規格「ISO15189」を2017年３月に取得し、この要求事項に基づき、迅速で質の高い検査と情報を提供することで、がん専門病院の診療の一端を担っている。業務としては採血、品質管理、病理検査、細菌検査、血液形態検査、生理検査、輸血検査、治験検体処理検査、検体検査（SRLに委託）を総勢66名（常勤32名、非常勤18名、SRL16名）で行っており、輸血と検体は24時間体制で対応している。

今年度は９月に細菌検査の全自動同定・感受性検査システム、３月に輸血検査の全自動輸血検査装置、生理検査のポータブル超音波診断装置が更新され、今まで以上に病気の診断、治療方針の決定、治療効果の判断など臨床に貢献できるようになった。ICT、NST、治験、がんゲノム医療等、チーム医療へも積極的に参加し、幅広くサポートを行っている。また８月には検査科への要望を募り、対応可能な意見は順次、取り組み、臨床へのサービス向上にも努めている。

院内検査総数は3,175,570件（前年度2,934,112件、前年比108.2％）、採血件数は103,304件（前年度96,751件、前年比106.8％）、採血１日平均427人（前年度394人、前年比108.3％）と年々、増加しており、今後さらなる業務の効率化、検査の迅速化に取り組み、患者さんの待ち時間短縮に繋げていきたい。

来年度のISO更新審査に向け、より一層の品質管理と技術の向上に努め、認定施設の維持を目指します。

栄養管理科

栄養管理科では、全入院患者さんの栄養管理、給食管理を行っている。また、外来患者さんで、療養に際し食事・栄養療法を必要とする場合に栄養指導を行っている。

入院中良好な栄養状態で治療を受けられるよう、管理栄養士を病棟配置とし栄養管理を行っている。摂取状況のモニタリング、治療に伴う副作用の出現や嗜好による摂取不足等給食内容の見直しが必要な時、適切な食事の提案調整を行っている。

給食管理部門は全面委託で、調理方式はニュークックチル方式を採用し、HACCPの基準に準じた衛生管理が徹底できるとともに、温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たく提供でき好評である。

食事摂取量低下時の対応として、禁食や食事形態選択を行っている。また、単品メニューから料理を選択する「みなと応援食」、量を半量にして栄養補助食品や副菜１品をプラスした「ハーフ食plus」、口腔内粘膜障害や嚥下困難症状に対応した「なめらか食」などがん治療応援食を用意し、全提供食数の24％を占めた。

栄養相談は、入院・外来を問わず個別指導で、入院中の患者さんには、がん治療中の食事や治療食に対する理解を深め摂取量の維持を図っている。退院後の変化が顕著な胃、大腸、膵臓の術後の患者さんには術後定期的に外来時栄養相談でフォローアップした。外来化学療法の患者さんにも栄養指導対象の拡大をして「化学療法を乗り切る栄養・料理教室」の開催も含めて経口摂取継続の支援をした。

薬　剤　科

薬剤科では調剤、注射薬の個人別セット、抗がん剤のミキシング、院内製剤、麻薬管理、医薬品情報提供、薬剤管理指導等、治験薬管理等薬に関する様々な業務に取り組んでいる。

令和元年度の院外処方箋発行率は90.2％であった。今年度外来における内服抗がん剤についてコンプライアンスや安全性の向上をめざし、研修会の企画や相談会を通じて地域の病院や薬局との連携を推進した。今後さらにその活動を深めてゆきたいと考えている。

更に令和元年度21品目の医薬品を後発品に切り替えた。そのうち抗がん剤は３品目で、後発品の採用率は数量ベースで87.4％となっている。入院ミキシング件数は10,726件、外来ミキシング件数は25,009件。年々件数は増加しているが、CSTD（閉鎖式薬物移送システム）を用いる抗がん剤の品目を増やし、職員の暴露防止対策にも積極的に取り組んでいる。入院の薬剤管理指導については7,209件で特に抗がん剤の治療や手術を行う患者について力を入れており、指導料も算定できる。

外来においては、化学療法実施の際、外来化学療法担当薬剤師が説明し、患者さんが安心して治療を受けられるよう努めている。また、様々な相談や副作用の収集等を行い、医師へのフィードバックも行っている。しかし指導算定はがん薬物療法の専門資格をもつ薬剤師が行う必要があり、令和元年度の外来化学療法指導件数は3.694件だった。資格取得者の育成が課題となっている。

チーム医療にも積極的に参画している。感染・医療安全・緩和分野については専従者も求められており、今後の課題である。

臨床工学科

臨床工学技士が４名在籍している。主な業務として手術支援ロボットダヴィンチ・人工呼吸器の管理を行っている。また、特殊体外循環療法、幹細胞採取等の臨床業務、院内医療機器の保守点検・管理を行っている。

本年度のダヴィンチ手術件数は212件（前年比433％）、人工呼吸器点検ラウンドは536件（前年比96％）、医療機器保守点検業務数は19849件（前年比106％）となった。

特殊体外循環療法件数は133件（前年比143％）であり、夜間及び休日にも緊急及び時間外の対応を行った。

幹細胞採取、骨髄処理、ドナーリンパ球採取件数は55件（前年比115％）行った。

その他業務として「医療機器安全使用のための研修」「医療機器の正しい取扱い」「医療機器新規購入に伴う取扱い説明」など医療従事者への勉強会・講習会を30回（前年比111％）開催した。「医療機器安全使用に必要な情報の収集と周知」に対し、医療機器の不具合や安全情報等の必要な情報を収集し、医療従事者に「医療安全ニュース」を提供した。

さらに、足柄上病院に出向し、不整脈治療及び医療機器の保守点検を行っている。

また、技術・知識向上のため、学会・講習会などにも積

極的に参加し、医療機器、治療成績の向上に努めている。参加した学会・講習会は以下の通り。
※COVID-19の影響により２月以降の学会及び講習会は延期となった。

〈学会〉
・日本臨床工学会
・全国自治体病院学会
〈講習会〉
・CE取扱者保安講習会

第６節　看　　護　　局

〈ミッション〉
がんと共に今を生きる患者に寄り添い、その人らしさを大切にした最良の看護を提供します
〈ビジョン〉
1　患者家族の尊厳および権利を擁護し、患者の意思決定に必要な支援をします。
2　がん看護の専門性を重視した、患者家族に信頼される看護を提供します。
3　専門職として看護に誇りとやりがいを持てる組織を作ります。

平成31年度看護局目標
“看護の質の向上と効率性”
⑴　患者・家族が満足できる看護
⑵　経営に貢献する看護
⑶　働きやすく、誇りに思える病院づくり
⑷　社会のニーズに柔軟に対応できる看護

重点課題
⑴　医療の質・向上を目指した多職種連携
⑵　共に育つ職場風土の醸成

到達目標評価
⑴　その人らしく地域で生活し続ける看護の提供
今年度は新たに入院支援に関するシステムを検討し、入院前問診やオリエンテーションの実施など患者サービス向上に努めた。入退院支援は目標値に達し、7,437件であった。今後も継続し、患者・家族のニーズに合わせたサービスの質向上に努める。

⑵　働きやすい職場環境の調整
看護局全体で、長時間拘束勤務後の超過勤務（時間外）を把握・可視化し、業務整理やタスクシェア・シフトに繋げる取り組みを行った。取り組みを継続し成果をとおして職場環境の改善に活かす。

第７節　医 療 管 理 部

医療安全推進室

医療安全推進室は、病院全体の医療安全に関することを担当する部署として、2005年４月に開設され、担当副院長を室長として副事務局長、医薬品安全管理者（薬剤科部長）、医療機器安全管理者（医療技術部長）、専従の医療安全管理者で構成されている。

近年、がん治療はますます高度で専門的になっており、それに伴うリスクも生じている。そのため、より一層の安全管理体制の充実を目的とし、安全に関する情報の共有化、マニュアルの整備および周知、職員に対する医療安全研修・教育などを行い、医療安全の推進に力を注いでいる。医療安全と医療の質の向上は切り離すことができず、部門・職種を問わず組織横断的な活動が重要である。各医療チームとの連携を強化しながら、職種間の相互理解を深め、それぞれの専門性を発揮しながら患者の安全を確保し、質の高い医療の実現に貢献することを目標に活動している。

■　医療安全推進室の主な業務
1　ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告、有害事象報告の収集と分析
2　医療事故防止策の立案と運用状況の評価
3　医療事故発生時の情報収集と対応
4　医療安全に関わる患者からの相談と対応
5　医療安全に関する研修の企画と実施
6　医療安全に関する情報の収集と広報

■　令和元年度の主な活動内容
- 安全な医薬品の取り扱いに関するルール整備
- 医療安全対策マニュアルの改定
- 患者誤認防止強化週間
- 医療安全推進週間

■　月別　ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告

レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
0	40	25	37	41	38	19	35	42	39	25	32	28	401	367
1	160	190	183	182	197	182	184	185	176	161	164	153	2,117	2,155
2	71	52	62	56	58	45	60	49	58	70	59	41	681	746
3a	5	4	3	8	7	2	11	10	6	6	9	5	76	71
3b	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3	1
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
合計	276	271	285	287	301	249	290	286	280	263	264	227	3,279	
前年度	286	302	269	332	288	278	318	296	278	241	201	251	3,340	

■　事象別ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告

事　　象		レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	件数	(内：患者誤認件数)
指示・情報伝達		55	107	15	0	0	0	0	177	3
薬剤(処方･与薬･調剤･製剤管理)		149	941	239	28	0	0	0	1,357	16
	注射・点滴	74	323	115	25	0	0	0	537	4
	内服薬	65	577	115	2	0	0	0	759	12
	その他	10	41	9	1	0	0	0	61	0
輸血		4	70	3	0	0	0	0	77	0
治療・処置・診察		23	76	6	3	0	0	0	108	5
	手術	7	2	0	0	0	0	0	9	0
	麻酔	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	その他治療	11	28	1	2	0	0	0	42	4
	処置	1	40	3	1	0	0	0	45	1
	診察	4	5	2	0	0	0	0	11	0
医療用具（機器）使用管理		24	47	8	1	0	0	0	80	2
ドレーン･チューブ類使用･管理		4	274	129	21	0	0	0	428	0
検査		46	170	51	1	0	0	0	268	28
療養上の場面		15	233	214	22	2	0	1	487	3
	転倒・転落	1	149	197	18	2	0	1	368	0
	給食・栄養	9	61	9	0	0	0	0	79	3
	その他	5	23	8	4	0	0	0	40	0
その他		81	199	16	0	1	0	0	297	25
合　　計		401	2,117	681	76	3	0	1	3,279	82

■　報告者内訳

職　　種	平成30年度 件数（%）	平成31年度（令和1年度） 件数（%）	内　患者誤認件数
医　　師	261（ 6.6）	81（ 2.5）*	9
看　護　師	3,232（81.9）	2,848（86.9）	54
薬　剤　師	40（ 1.0）	62（ 1.9）	1
臨床検査技師	158（ 4.0）	90（ 2.7）	0
放射線技師	56（ 1.4）	62（ 1.9）	6
理学・作業・言語療法士	2（ 0.1）	2（ 0.1）	0
栄　養　士	46（ 1.2）	21（ 0.6）	0
事　務　職	16（ 0.4）	98（ 3.0）	5
そ　の　他	134（ 3.4）	15（ 0.5）	7
合　　計	3,945（100）	3,279（100）	82

＊平成31年度からは、医師報告は「ヒヤリ・ハット」に限ったものとし、「有害事象」はカウントに含めず。

■ **医療安全研修受講率**

- 第１回医療安全研修　「麻薬・向精神薬・毒薬の安全・安心な使用を目指して」　96.6%
- 第２回医療安全研修　「患者誤認防止」　92%
- 救急蘇生訓練
  ナンバーファイブ実施訓練

感染制御室　院内感染対策チーム（Infection Control Team：ICT）

ICTは、すべての患者・職員を感染から守り、安全な医療環境を提供するための院内感染対策会議の実働組織であり、感染制御を担う感染制御医師（ICD）と感染管理認定看護師（CNIC)、薬剤師、臨床検査技師、事務局職員ほか多職種で構成する。平成26年４月医療管理部に感染制御室が設置され、令和２年３月現在ICD ２名とCNIC １名、薬剤師１名、臨床検査技師１名が所属する。平成27年４月からは横浜市立大学附属市民総合医療センターの感染症専門医師が感染症コンサルトを開催している。

平成30年度より感染防止対策加算１、感染防止対策地域連携加算に加え､抗菌薬適正使用支援加算を申請している。

感染防止対策加算１連携施設
：横浜市立大学附属市民総合医療センター
感染防止対策地域連携加算連携施設
：桜ヶ丘中央病院、横浜鶴ヶ峰病院　横浜甦生病院

〈平成31年度の主な活動内容〉

・感染症対策会議（月１回）
・ICTミーティング（月１回）
・ICTラウンド（毎週１回）
・抗菌剤適正使用ラウンド（毎週1回）
・院内感染対策講習会
　前期内容：血液培養･カンジダ血症診断とバンドル･手指衛生
　後期内容：インフルエンザ・ノロウイルス
・抗菌薬適正使用講習会
　前期内容：周術期感染対策
　後期内容：抗菌薬の適正使用
・院内感染対策マニュアルの改訂：カンジダ血症バンドル、結核発生、COVID-19など
・サーベイランス：薬剤耐性菌、血流感染、針刺し切創血液体液曝露、手術部位感染
・手指消毒剤使用量調査、手指衛生直接観察による手指衛生実施率調査
・感染事例発生時の対応：VRE検出、CRE検出、カンジダ血症例、インフルエンザ発生、COVID-19疑いと陽性例

医療の質評価推進室

医療の質評価推進室は、医療の質を測定・評価してその向上を図ることを目的とし、以下の活動を主導している。

Cancer Quality Indicator（CQI）研究会：５大がんを対象に診療プロセスをDPCデータ等を用いて分析し、その結果をCQI研究会参加施設間で比較・評価することで、医療の質の改善・均てん化を支援している全国CQI研究会に参加している。参加施設数も190施設以上に増え､疾患･術式ごとの件数や平均在院日数等の様々な項目について参加施設間の比較がグラフで表示される「がん診療分析ツール」の利用も可能となった。全国CQI研究会（隔年開催）が2019年８月に開催されたが、院内報告会で職員への周知を図っている。

Quality Indicator（QI）研究会：平成22年に発足した当センター独自の活動組織であり、多職種により構成されている。「質の高い医療を提供しているか」「安全で安心な医療を提供しているか」「患者さんの視点にたった病院経営が行われているか」「医療人材の確保が適切か」「業務運営の改善や効率化が行われているか」という５つの視点に基づいて測定項目を設定し、測定結果は総括報告書の作成・配布によって公表・フィードバックしている。

病院の質向上委員会：病院機能評価の受審活動を引き継ぎ、令和１年度に発足した病院の質改善に関する活動を行う会で、管理者および各部署からの多職種職員により構成されている。昨年度は、病院機能評価における指摘事項を元に、改善への具体的な取り組みを開始した。

放射線治療品質保証室

当室は室長（放射線治療科部長兼任）と専従の医学物理士２名で構成される。 放射線治療科および放射線治療技術科と連携した、外部放射線治療および小線源治療の品質保証を主たる業務とする。日常的な業務としては、リニアック・治療計画装置のハードウエア・ソフトウエアの品質管理、医師が作成した治療計画の物理的・技術的な検証を含めたダブルチェック、高精度放射線治療（強度変調放射線治療、定位放射線治療）の治療計画作成・データ検証を担当している。

日常的に多くの高精度放射線治療実施可能な環境が順調に整備されてきている。高精度放射線治療は腫瘍に高線量を効果的に投与することが可能である。い方、システムや人的なエラーが発生すると重大な医療事故につながる危険もはらんでいる。当室では日本放射線腫瘍学会をはじめとした放射線治療関連学会から発行されている各種ガイドラインに準じ、放射線治療の安全性確保に努めている。これからも安全に放射線治療を実施することができるよう、絶えずシステムの品質管理や医療安全に対する取り組みを精力的に継続していく。

新規治療開発支援センター

１　概　　要

新薬の開発は、医学の進歩にとってかかすことのできないものであり、近年の新治療によりがんの生存率は大きく向上している。新薬開発までには、十分に安全性と有効性を確認する必要があり、そのために科学的根拠に基づいた、品質の高い臨床試験を実施することが求められている。新規治療開発支援センターは、当初治験管理室として平成12年４月から設置されていたが、令和元年６月の組織改正で新規治療開発支援センターとして新発足したものである。

具体的には、「医薬品（医療機器・再生医療等製品）の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「医薬品（医療機器・再生医療等製品）の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に関する省令」、及び神奈川県立がんセンターにおいて実施される治験に必要な手続き等を定めた「神奈川県立がんセンターにおける治験に係る標準的業務手順書」に基づき治験等の受託研究を実施している。

また、「臨床研究法」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、及び神奈川県立がんセンターにおいて実施される医学系研究に必要な手続き等を定めた「神奈川県立がんセンターにおける人を対象とする医学系研究に関する取扱い手順書」に基づき医学系研究を実施している。

職員は、医療職のセンター長・副センター長・薬剤師のもと、一般事務２名、非常勤事務９名、CRC（Clinical Research Coordinator）10名、DM（Data Manager）７名の計31名となっている。

⑴　CRC業務

治験コーディネーター（CRC）は、治験実施計画を遵守した精度の高い治験を実施するため、医師をはじめ治験に係わる各スタッフに治験について正しく理解してもらうよう説明すること、被験者に対しては人権・福祉を保証し安心して治験に参加してもらえるよう十分なケアを提供するなど治験が適正に実施できるように調整する重要な役割を担っている。

当室は６名常勤・２名契約・２名非常勤のCRCを配置しており、薬剤師５名、看護師３名、臨床検査技師２名となっている。

⑵　DM業務

データマネージャー（DM）は臨床研究の質を確保するため、臨床研究用データベースへのデータ入力やスケジュールの管理など、臨床研究を適正に実施できるように調整する重要な役割を担っている。

⑷　令和元年度　受託研究実施状況

区　　分	新規受託件数（件）		実施件数（症例）		収入額（円）	
	元年度	30年度	元年度	30年度	元年度	30年度
治　　験	52	44	306	233	477,415,130	460,399,526
製造販売後臨床試験	3	6	7	7	1,992,201	1,413,458
製造販売後調査	9	9	133	194	3,476,500	4,628,470
副作用報告	4	5	10	14	170,158	208,723
臨床研究	27	29	403	434	11,037,080	13,424,203
計	95	93	859	882	494,091,069	480,074,380

※実施した52件の治験は、新規抗がん剤を始め第Ⅰ相～第Ⅲ相の臨床試験である。

⑸　令和元年度　臨床試験研究実施状況

科	件	科	件
呼吸器内科	8	骨軟部腫瘍外科	1
呼吸器外科	2	乳腺内分泌外科	1
血液腫瘍内科	2	婦人科	1
消化器内科	3	臨床研究所	1
消化器外科	8		

※２科以上の共同研究は責任医師所属科による

栄養サポートチーム（NST）

栄養サポートチーム（以下、NST）は、がんセンターにおいて全ての患者が適切な栄養管理を受けられるよう院内栄養管理の向上を図るため、栄養管理会議の下部組織として設置された。平成17年７月31日より稼働し、同年10月１日、日本静脈経腸栄養学会で稼働施設として認定された。平成19年４月１日よりNST 専門療法士教育認定施設として許可された。

メンバーは、医師、歯科口腔外科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、リハビリテーション科、管理栄養士、計33名で、消化器外科 尾形医師をリーダーに活動した。

１．NST対象患者の回診及び栄養処方の提言

毎週水曜日午後、主治医、看護師などの他職種からの依頼に対するカンファレンス・病棟回診を行った。依頼症例について、栄養評価、病態に合わせた経静脈栄養および経腸栄養の投与プランの提案を行った。栄養状態モニタリング対象者のうち、栄養状態が治療に負の影響を及ぼすとNSTが判断した患者もサポート対象に含め、必要栄養量と投与栄養状況の報告、輸液内容の提案を行った。

依頼症例数：44人

NSTカンファレンス開催回数：54回

延べ回診回数：163回

栄養状態モニタリングにおける延べ提言回数：３回

２．運営委員会の開催

奇数月の第２木曜日にNST活動の適正かつ効率的な運営を図るため、NST運営委員会を開催した。

３．教育および広報活動の実施

患者の栄養管理向上を目的として、院内外医療関係者を対象に勉強会を１回開催した。

令和元年度NST勉強会の参加者数

日程	内　　容	講　　師	医師	看護師	薬剤師	栄養士	その他	院外	合計
１月９日㈭	①「NSTとは、栄養障害をピックアップした理由」 ②「栄養障害のリスク」 ③「注意喚起」	NSTリーダー　尾形医師 NST歯科口腔外科　光永医師 NST看護部　廣瀬看護師	2	4	1	8	3	4	22

褥瘡対策チーム

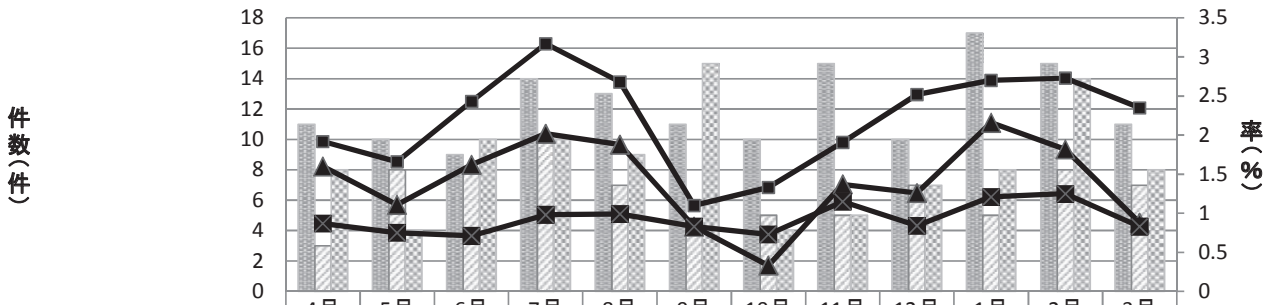
褥瘡対策は入院基本料の算定要件となっており、医療の質保証のひとつとして位置づけられています。褥瘡は、患者のQOLの低下をきたすだけでなく、医療費の増大にもつながり、予防ケアが重要です。褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定のための施設基準を整備し、重点的な褥瘡予防ケアに取り組んでいます。

褥瘡対策チームでは、褥瘡発生率や有病率などのデータを蓄積し、毎月の会議で動向をモニタリングしており、2019年度の褥瘡患者はのべ223件で、褥瘡発生率は0.93%でした。褥瘡回診は152件／年行い、褥瘡の改善・治癒に取り組みました。褥瘡ハイリスク患者ケア加算の実績は、2426件／12,130,000円でした。

当院では標準マットレスにウレタンフォームマットレスを採用しています。エアマットレスやポジショニングクッションなども整備し、褥瘡予防ケアに努めています。また、スキンケアリンクナース委員会と協力して、褥瘡対策に関わる書類の入力の徹底、継続的な褥瘡に関する勉強会の実施を行い、基本的な褥瘡予防ケアを実践しています。その結果、褥瘡発生率は１％以下で推移しています。

高齢化、がん治療の継続による皮膚や組織の脆弱化、病状進行による全身状態の悪化により、褥瘡発生リスクが高い患者が多くなることが予測されます。今後も、褥瘡対策チームは院内の褥瘡対策の中心的な存在として、褥瘡対策に取り組み引き続き褥瘡発生率１％以下を目指していきます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
算定数（500点）	211	184	202	216	196	207	199	206	218	203	181	203	2,426
収益金額(加算×5,000円)	1,055,000	920,000	1,010,000	1,080,000	980,000	1,035,000	995,000	1,030,000	1,090,000	1,015,000	905,000	1,015,000	12,130,000



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡発生数	11	10	9	14	13	11	10	15	10	17	15	11
持込み褥瘡数	3	8	8	10	7	4	5	5	7	5	8	7
繰越褥瘡数	8	4	10	10	9	15	4	5	7	8	14	8
推定褥瘡発生率(%)	1.6	1.11	1.62	2.02	1.88	0.83	0.33	1.37	1.26	2.16	1.82	0.88
褥瘡発生率(%)	0.87	0.75	0.71	0.98	0.99	0.83	0.73	1.15	0.84	1.21	1.25	0.83
有病率(%)	1.92	1.66	2.43	3.17	2.68	1.1	1.33	1.91	2.52	2.7	2.73	2.35

第8節　患 者 支 援 部

概　　要

令和元年度の患者支援部の目標は以下の３つ、すなわち「入院前から退院にむけての療養支援をより円滑に行います」、「地域連携室の設置により初来院患者の増加を目指します」、「医療の質向上を目指し、チーム医療を推進します」であった。「患者さんはじめ県民に、より信頼され選ばれる病院を目指します」が病院目標として掲げられており、これを達成すべく都道府県がん診療連携病院として、院内外のがん相談支援体制や病診連携、緩和ケア体制の強化に努めた。

当部門は、緩和ケアセンター・患者支援センター（がん相談支援室、医療福祉相談室、入退院支援室）・アピアランスサポートセンター、リハビリテーションセンターと密な連携をとり業務を行なっている。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンターは、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟を有機的に統合する役割を担っている。苦痛のスクリーニングの実施、がん看護外来、リエゾン精神看護専門看護師外来、緩和ケアチーム活動により、診断期からの緩和ケアの提供を行った。月１回の定例会議のほか、テーマ別に関係者が集まり、定期的にカンファレンスを開催した。また、患者・家族を対象に緩和ケアについての啓発活動として緩和ケア週間を開催した。

１．看護外来実績

令和元年度のがん看護外来での対応件数は、延べ患者数372件、リエゾン精神看護専門看護師外来での対応件数は、484件であった。

2．医療従事者対象研修会の開催

研修会開催実績

No	研修会名	テーマ	対象者	参加者数
1	介護職のためのストーマケア講習会	ストーマケアについて	介護職	10 名
2	介護職のためのストーマケア講習会	ストーマケアについて	介護職	11 名
3	看護師のための緩和ケア研修会（院外出張研修）	がん治療の今と緩和ケア病棟ついて	看護師	コロナにより中止
4	看護師のための緩和ケア研修	基本的緩和ケアについて	院内看護師	28 名
5	訪問看護のための緩和ケア研修会	がんの親をもつ子どもへ病気を伝えること	訪問看護師	39 名

3．緩和ケア週間

令和元年10月７日㈫～10月11日㈮の期間、緩和ケア週間を開催した。緩和ケアに関する､ポスター掲示､リーフレット･ポケットティッシュの配布、イベントなどを開催した。院内を緩和ケアのテーマカラーであるオレンジの花や横断幕・のぼりで装飾を行った。患者・家族からのアンケートの結果から、啓発活動となったと評価する。

患者支援センター

患者支援センターは、地域医療連携機能と相談機能を担い､がん患者の心理社会的な問題へ総合的に対応するよう、メディカルソーシャルワーカーと看護師、メディカルアシスタント、事務の多職種で構成された部署である。がん相談支援室、医療福祉相談室、入退院支援室で組織され、役割分担しつつ業務を遂行している。相談支援担当は、がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの機能を併せて担う。

令和元年度に担当した主な業務と実績は次のとおりである。

〈受付機能〉

受付業務：初診受付、セカンドオピニオン受付、検査申し込み受付、緩和ケア病棟入棟申し込み受付

〈医療連携機能〉

がん相談支援室：患者受け入れに関する紹介元との医療連携

入退院支援室：逆紹介の推進、院内・院外（医療・福祉資源）の関係者との連携による療養支援

地域連携クリニカルパス（悪性リンパ腫G-CSF注射パス４件）

逆紹介335件（歯科連携89件含む）

医療連携強化を目的とした研修会・会議の開催

医療連携の強化を目的とした連携医療機関の訪問

〈相談機能〉

がん診療連携拠点病院がん相談支援センターとして、院内・院外の患者・家族、医療機関等からの相談対応（電話相談2,886件、対面相談4,858件、その他290件／計8,034件）

療養等に関する患者・家族の意思決定支援（実件数1,675件、延べ6,546件）

〈がん診療連携拠点病院がん相談支援センターとしての機能〉

患者会活動支援およびがん患者サロンの運営支援

ハローワーク、社会保険労務士との連携、両立支援コーディネータ（がん専門相談員）による就労支援

がん診療連携拠点病院　相談支援部会事務局として会議・研修会等の活動推進

表１　医療連携実績（患者支援センター）

		平成30年度	令和元年度
病院	外来	542	663
	入院	117	100
	他院	4	1
	不明	0	0
	小計	663	764
診療所	外来	573	520
	入院	113	130
	他院	0	31
	不明	5	0
	小計	691	681
訪問看護ステーション	外来	215	244
	入院	167	190
	不明	2	2
	小計	384	436
福祉施設	外来	5	1
	入院	7	7
	他院	2	5
	小計	14	13
合計		1,752	1,894

表 2　相談対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援	629	638	650	765	784	696	706	659	622	643	586	656	8,034
退院支援延べ数	456	402	441	515	608	548	635	614	608	563	560	596	6,546
退院支援実数	120	103	136	175	153	135	162	143	124	147	135	142	1,675

表 3　がん相談支援における主な相談内容（上位10項目，重複カウントあり）

No	相談内容	件数
1	がんの治療	2,602
2	受診方法・入院	1,965
3	不安・精神的苦痛	1,778
4	症状・副作用・後遺症	1,266
5	医療費・生活費・社会保障制度	868
6	医療機関との関係	829
7	セカンドオピニオン	797
8	医療機関紹介	661
9	転院	535
10	緩和ケア	477

表 4　研修会・会議の実績

研修会名	テーマ	対象者	参加者数	日　時
地域連携懇親会	「がん医療の中のACPを考える」～在宅における意思決定支援～	院内外医師及び地域連携に関わる医療スタッフ	117名	令和元年11月14日㈭ 18:30～20:30
相談支援部会主催　第１回神奈川県がん相談員研修会	がんゲノム医療とがん相談	神奈川県内のがん専門相談員	29施設 61名	平成31年５月31日㈭ 15:15～17:15
相談支援部会主催　第２回神奈川県がん相談員研修会	災害における相談支援センターの役割を考える	神奈川県内のがん専門相談員	30施設 50名	令和元年７月18日㈭ 13:30分～17:00
相談支援部会共催　第３回神奈川県がん相談員研修会	胃癌腹膜播種の腹腔内化学療法について	神奈川県内のがん専門相談員	30施設 53名	令和２年２月12日㈬ 15:15～17:15
地域相談支援フォーラムin東京・埼玉・千葉・神奈川	災害における相談支援センターの役割を考える	４都県のがん専門相談員	80名	令和元年11月９日㈯ 10:00～17:00
第１回がん患者サロンピアサポーター研修	がん患者サロンの意義と方法	患者会関係者	14名	令和元年９月27日㈮ 15:00～17:00
第２回がん患者サロンピアサポーター研修	がん患者サロンの意義と方法（ロールプレイ）	患者会関係者	19名	令和２年１月31日㈮ 13:30分～16:00

アピアランスサポートセンター

アピアランスサポートセンターは、がん治療等に伴う外見上の変化による苦痛を抱える患者支援を行う目的で、平成28年度から新たに設置された。専従の看護師１名とアピアランスサポートセンター長の組織でスタートし、ウイッグなどのサンプルを準備し、専用の相談室を１室整備している。アピアランスサポートセンターの業務は、専従看護師のほか患者支援センター相談支援担当の看護師、MSWが専従看護師と協働して業務を遂行した。

令和元年度に担当した主な業務と実績は次のとおりである。

① 個別相談　677人
② セミナー（脱毛、スキンケア、メイク等）34回開催　440名参加
③ 治療期の方を対象とした研修会とかつらや補正下着等の展示会　１回開催：52人参加

表１　個別相談件数

男女	男	女	計
外　来	34	524	558
入　院	11	79	90
他　院	4	25	29
合計件数	49	628	677

化療関連	45	583	628
手術関連	2	25	27
そ の 他	2	20	22
合計件数	49	628	677

リハビリテーションセンター

１．スタッフ

2018年度末には理学療法士３名（２名欠）、作業療法士２名、言語聴覚士１名（１名欠）の人員不足に苦しんだが、2019年度は理学療法士５名、作業療法士２名、言語聴覚士１名（１名欠）で業務を開始することができた。しかしながら第１四半期で理学療法士１名が退職し、第３四半期には理学療法士１名が長期休暇となり、年度末にはさらに１名が退職し大変厳しい状況となった。

２．診療実績

新患患者数は医療局リハビリテーション科の項に示した。診療報酬上の患者数（各月患者数の総和）は2,651人であり、前年度（2,528人）を上回ったが、年間リハビリテーション実施数（単位数）は22,950単位であり、開設後初めて前年度（26,644単位）を下回った。

今年度は患者支援部の一員として、数値目標を以下のように定め、地域連携以外の項目で目標を達成した。

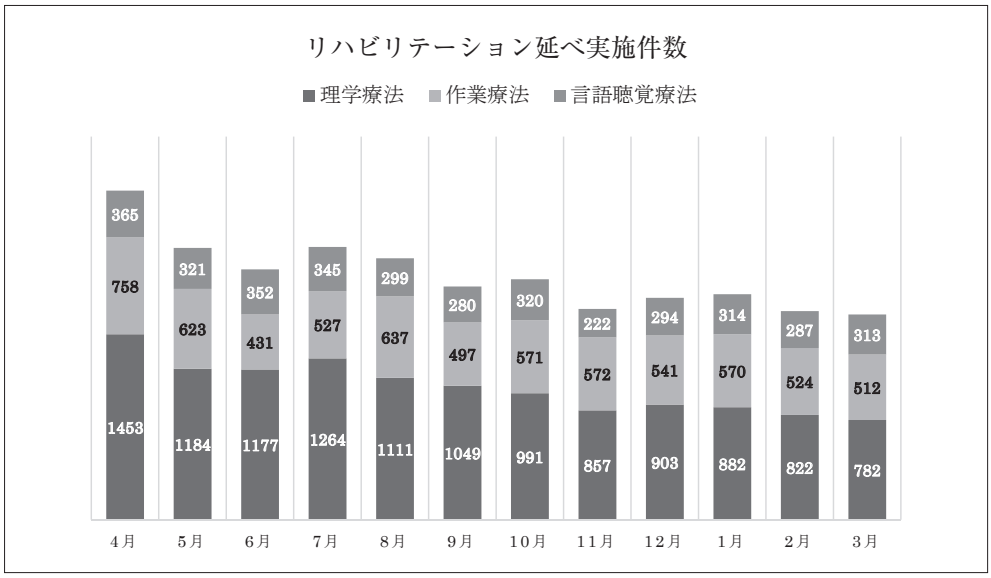
① リハビリテーション実施件数　2,651件（目標2,160件）
② リンパ浮腫外来診察件数　130件（目標80件）
③ 施設間連絡票（リハサマリー）作成数　57件（目標40件）
④ 顔の見える地域連携（地域包括支援・在宅ケアチームとの連携）12件（目標20件）

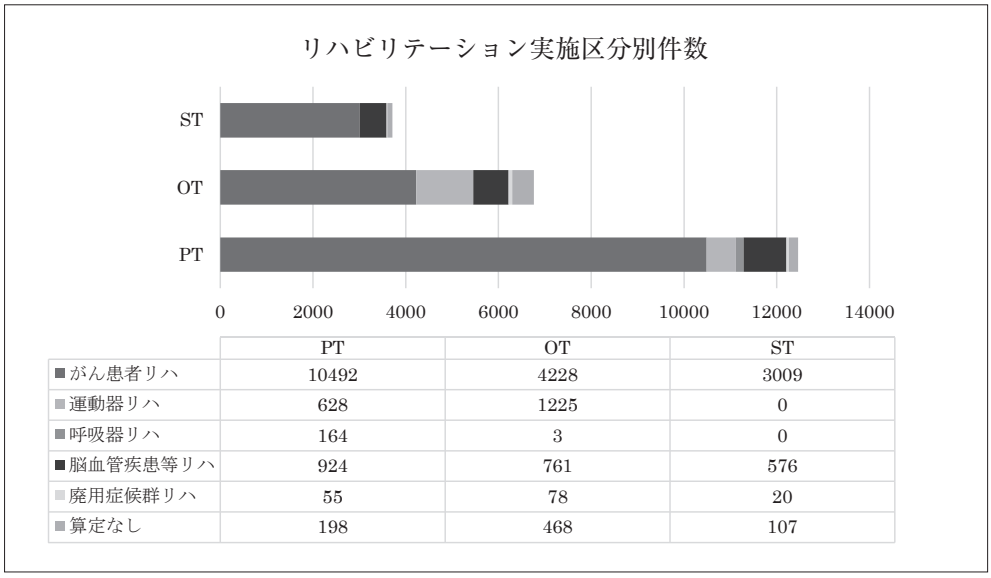
３．教育・人材育成

県立保健福祉大学から、作業療法士の臨床実習を受け入れ、卒前教育に貢献した。

４．課題

今年度は患者支援部の元に組織改編されたことにより、患者支援部と連携し、質の高いがんサポーティブケアを提供することができた。残念ながら年度末にリハビリテーションセンターの廃止が決定され、次年度は医療技術部へと組織改編がなされることとなったが、診療の質を低下させることのないよう努力を続けたい。





	PT	OT	ST
がん患者リハ	10492	4228	3009
運動器リハ	628	1225	0
呼吸器リハ	164	3	0
脳血管疾患等リハ	924	761	576
廃用症候群リハ	55	78	20
算定なし	198	468	107

患者医療対話推進室

2019年度の患者支援部患者医療対話推進室は、医療メディエーターの平田と室長の森本の２名体制であった。2019年４月～2020年３月のメディエーション件数は25件であり、これにかかわる三者面談を20回、二者面談を31回、計51回の面談を当推進室で行った。また、患者医療対話推進室への相談・問い合わせ件数は59件あり、これにかかわる医療者からの相談への対応を89回、患者・家族からの相談への対応３回､延べ92回の相談に推進室として対応した。これらの案件は、必要に応じ投書箱検討会議や相談・苦情検討会議等で共有した。

教育・人材育成として、神奈川県立病院機構本部が開催した県立病院のスタッフに向けた医療メディエーション研修のサポートを行った。また、山形県病院事業新規採用研修において、医療メディエーションにかかわる講演をおこなった。また、学術活動として、当院における相談・苦情検討会議の取組みについて､日本医療コンフリクト･マネージメント学会で報告した

今後も医療スタッフと患者・家族の懸け橋となるべく、多職種と連携して患者医療対話推進室の運営に取り組んでいきたい。

第９節　生体試料センター

生体試料センターは、センター長１名（臨床研究所長が兼任）、医師１名（臨床研究所がん分子病態学部と兼務）、臨床検査技師３名（うち１名は非常勤）、事務補助・informed consent（IC）業務補助３名（非常勤）の人員構成で、患者への包括的な研究協力へのIC業務と、組織および研究用血液試料の収集、保管・管理業務を中心に、個別同意で実施される臨床研究での検体収集支援、IC業務支援も業務の一環として定め、積極的に実施した。

初回、初来院全員への包括同意IC実現に向け、本年度は、骨軟部腫瘍外科での患者ICを開始し、外科系全科でセンタースタッフによるICを実現した。また、医師による予約制であった肝胆膵内科では入院時全ICを開始した。休日入院翌日手術患者への対応として、泌尿器科の病棟ICを外来ICに移行し、併せて代行入力でIC機会を確保した結果、総IC数は前年度比で約1,000件増加し3,505件となった。

本年度は、凍結組織818件、血液（血清／ゲノムDNA）1,935件を収集し、IC数増加に伴い血液試料の収集が前年比15%増となった。別途、神奈川県立病院機構・循環器呼吸器病センターより凍結組織68件を受け入れた。試料提供は、がんセンターの医師、研究者の研究、或いは外部施設との共同研究に、凍結組織148件、新鮮生組織48件、血清1,344件、末梢血ゲノムDNA 332件、を提供した。この中には、生体試料センターが試料収集・提供の中核を担う文部科学省科学研究費新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」の「コホート・生体試料支援プラットフォーム」（http://cohort.umin.jp/）との共同研究分も含まれる。試料を提供した全ての研究課題について、がんセンター研究倫理審査委員会での審査・承認を受けている。

平成27年度から開始した超低温庫管理業務の外部委託は、検体利用頻度が高まり、がんセンター外で管理委託している冷凍庫からの検体試料取出し業務が増加した。

第３章　事務局業務

第１節　概　　要

事務局は、事務局長、副事務局長のもと総務企画課、財務経営課、医事・診療情報管理課、地域連携課の４課により構成されており、センターの運営の調整、人事給与、施設管理、経理、診療費等の管理等に関する業務を行っている。

第２節　総務企画課

総務企画課は、常勤職員９名、契約職員４名及び非常勤職員４名、合計17名（平成31年４月１日現在）でセンターの運営に関わる院内、院外との調整、人事・給与、施設管理、中期計画・年度計画等の取りまとめ及び広報業務等を行っている。

図　書　室

１　利用者サービス

⑴　利用時間：24時間
（司書不在時でもテンキーで入室可）

⑵　主な業務

・資料の貸出、返却
・文献複写
・相互貸借
・文献検索
・レファレンスサービス　等

２　図書館設備・機器

・利用者用パソコン　８台
・電子カルテ（GX）用パソコン　１台
・カラープリンター　１台
・コピー機　１台
・閲覧席　10席
・キャレル席　８席

３　電子リソース

・Up to Date
・ProQuest Medical Library
・メディカルオンライン
・医中誌Web
・最新看護索引Web

図書室資料　利用状況

1．単行本・雑誌購入数：令和元年度予算執行額

単行本購入数	洋書	0冊	0円
	和書	0冊	0円
	計	0冊	0円
雑誌購入数	外国雑誌※	63誌	17,910,177円
	国内雑誌	43誌	1,185,993円
	計	106誌	19,096,170円
図書費合計			19,096,170円

※データーベース等含む

2．蔵書冊数

	平成30年度末	令和元年度増加分	合計
単行本	3,289冊	30冊	3,319冊
製本雑誌	2,058冊	0冊	2,058冊
計	5,377冊	30冊	5,377冊

図書室利用統計

		平成30年度	令和元年度
入室者数（*24時間開室だが、司書在室時間内での数とした）		3,435	3,033
資料利用	貸出冊数	503	478
	返却冊数	488	463
相互貸借	依頼件数	230	257
	受付件数	186	337
データベース	Up to Date	517	1,159
	ProQuest Medical Library	367	299
	メディカルオンライン	2,906	3,805
	医中誌Web	8,092	7,112
	最新看護索引Web	54	76

第3節　財務経営課

財務経営課は、常勤職員8名と非常勤職員2名の合計10名（平成31年4月1日現在）であった。

1　主な業務

・予算・決算・監査業務
・経費（委託料、賃借料、修繕費、消耗品費等）の執行
・材料費（薬品、診療材料等）の執行
・医療機器等の資産の購入と管理
・受託研究費、研究研修費の管理と執行
・各研究助成金の管理と執行
・PFI事業の契約及び調整
・出納事務

2　令和元年度の実績

・競争性の確保及び経費の有効活用のため、緊急時以外の薬品購入について、入札を実施するとともに、価格交渉を粘り強く行った。
・材料の購入、医療機器の保守及び修繕について、医師や技師と連携した価格交渉を積極的に行った。

第４節　医事・診療情報管理課

令和元年度に従来の医事課と情報システム管理室、企画調査室のがん登録担当が統合され、医事・診療情報管理課として新たに組織された。令和元年度の職員数は、常勤職員７名（うち診療情報管理士１名）、契約職員１名、非常勤職員10名の合計18名であった。

１　主な業務

・医業収益等の収入調定業務
・未収金対策
・DPC請求及びDPC調査データの作成に係る業務
・院内がん登録
・病歴管理、診療統計に係る業務
・医療情報システムの運用管理・調整
・ネットワーク管理、情報セキュリティ管理
・医師の事務作業補助に係る業務
・その他診療業務全般の調整に関すること

２　令和元年度の実績

・CQI研究会の分析データをもとに、診療科ごとに医師、管理職及び事務職員でディスカッションを行い、経営改善を図った。
・令和２年度診療報酬改定への対応として、各部門との調整や医事会計システム等の設定及び施設基準の届出を行うとともに、説明会の実施により職員へ周知し、新たに保険収載された医学管理料や処置等の確実な算定に向けて取り組んだ。

３　院内がん登録

院内がん登録は、成人病センターとして発足した昭和38年から登録カードにより開始し、登録の対象は悪性腫瘍と一部の良性・境界悪性の腫瘍を登録している。平成２年より電算化の処理を行っている。

院内がん登録の目的は、病院内の対がん活動の状況を把握しがんの早期発見と治療、予後の向上に役立つことにあり、ひいては地域レベル、国レベルのがん対策や腫瘍登録などの共同研究への参加を容易にして、研究・研修にも役立てることにある。

平成28年より「がん登録等の推進に関する法律」の施行により全国がん登録が開始され、法令により標準登録様式2016年版に準拠した院内がん登録を行っている。

院内におけるがん患者の把握漏れがないように資料の集積と、より正確・迅速な情報の入手と提供を主眼として登録業務を行っている。

昭和38年から医師主導による入院患者を対象とした院内がん登録を行っていたが、平成22年より院内がん登録担当者による全診療科の全がん登録を入院・外来に関わらず開始した。

平成30年の院内がん登録数は4,799件となっており、前年より1.7%増となっている。

昭和38年からの院内がん登録累積数は統計編 表25-⑵に示すとおり93,347件となっている。

主要部位における新登録状況は、統計編 表25-⑴に示すとおりで 肺がん676件（14.1%）と最も多く、次いで、乳がんが572件（11.9%）、前立腺がん488件（10.2%）、胃がん（8.9%）、大腸がん406件（8.5%）（結腸239件・直腸167件）、膵臓がん360件（7.5%）の順に多い。

地区別では統計編 表25-⑷に示すとおりで県内全域にわたってはいるが、横浜市内が2,904件で60.5%を占め、そのうち旭区が892件（18.6%）、ついで瀬谷区が353件（7.4%）と周辺地区の患者が多い。県外の患者は317件(6.6%)となっている。

当院への来院経路は、紹介によるものが4,239件で88.3%と最も多く、他疾患経過観察中491件（10.2%）、自主受診64件（1.3%）、剖検・その他・不明５件であり、紹介制が定着している。

症例区分は、初発がんの初回治療または治療継続症例が3,877件（80.8%）、初回治療終了後の紹介が514件（10.7%）であった。

初発がんの登録数は3,515件だった。このうち診断時病期（治療前病期）は０期210件（6.0%）、Ⅰ期1,145件（32.6%）、Ⅱ期486件（13.8％）、Ⅲ期458件（13.0％）、Ⅳ期745件（21.2%）、適応外または不明471件（13.4%）であった。

平成11年より登録後５年目および10年目を対象とする予後調査を施行し、平成18年からは登録後３年目についても施行し、登録内容の充実を図っている。予後に関する個人情報の把握は年々困難になってきているが院内の各セクションからの情報・紹介医師や家族からの連絡・外来の通院状況の把握・地域がん登録からの情報等により予後情報が集積されるよう周知を図っている。令和元年は11,102件の予後調査を実施した。受診確認による判明数は7,779件（70.1%）、住民票による照会は3,323件（29.9%）であった。消息不明は255件（前年より63件増）であり、そのうち当院へ申請された居住地に住民票が登録されていないもの、住民票照会不同意が155件（前年より72件増）、住民票交付不可が100件（前年９件減）であった。予後調査実施内の消息判明率は97.7%であった。

平成30年におけるがん登録死亡判明数は、院内死亡数が699件（前年より2.3%増）、院外死亡数が1,081（前年より1.2%増）、その内訳としては他施設死亡277件（10.5%減）、自宅死亡335件（24.2%増）、不明及びその他469件（8.3%減）であった。全登録に対する死亡判明率は44.3%であり、その約半数はすでに死亡が判明している。

平成11年よりMicrosoft Accessによる院内がん登録を開始、平成24年11月より Hos-canR puls、平成29年Hos-canR

Nextにシステムを変更した。

がん登録の分類は標準登録様式に準拠し平成16年よりICD-O-3を使用し、平成18年よりがん登録の局在分類にもICD-O-3 を使用している。病期分類は平成30年登録はUICCによるTNM悪性腫瘍の分類第 8 版を使用している。（統計編はICD10に変換 表22～表25参照）

第5節　地 域 連 携 課

平成30年度に地域連携室が立ち上がり、令和元年に地域連携課として組織変更された。

令和元年度の職員数は、地域連携課課長（兼務）及び常勤職員 2 名、契約職員 1 名の合計 4 名であった。患者支援センターと協力して地域医療機関との連携強化に努めている。

1　主な業務

・診療情報提供依頼の窓口機能
・地域医療機関への当院機能の紹介
・他院への患者紹介（逆紹介の強化）
・かもめゆめいろネット（診療情報公開サービス）の推進
・がん診療連携拠点病院の事務局

2　主な活動

・地域医療機関への訪問活動
・懇話会開催などを通じた地域医療連携の推進
・広報誌「リンクKANAGAWA」の発行
・至急の診療情報提供依頼書の対応窓口
・紹介先医療機関への診療予約対応
・ 2 人主治医制の周知

地域連携課　2019 年度　実績

●地域医療連携機関への訪問実績

区　　分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
①幹部訪問	5	4	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	15
②各診療科の訪問	0	1	1	1	0	0	14	5	0	0	0	1	23
③地域連携課の訪問	0	0	0	0	2	3	1	0	0	2	0	2	10
合　　計	5	5	6	2	2	3	15	5	0	2	0	3	48

●医療連携調整実績（地域連携課；紹介先が決まっている逆紹介の予約等の患者対応を担当）

区　　分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
地域連携課	47	40	39	63	55	53	57	64	49	55	50	38	610

●情報提供依頼対応実績

区　　分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
他院からがんセンターへ依頼	35	44	57	45	45	35	42	40	58	32	45	41	519
がんセンターから他院へ依頼	35	34	32	45	43	45	55	60	69	64	41	67	590
合　　計	70	78	89	90	88	80	97	100	127	96	86	108	1,109

第４章　臨床研究所業務

第１節　概　　要

Ⅰ　はじめに

神奈川県立がんセンター臨床研究所は、がんの総合的な研究を臨床部門との連係のもとに行いがん医療に貢献するとして、昭和61年４月に開設されている。神奈川県立がんセンター及び神奈川県立病院機構の使命である、県内医療水準の向上、県民の健康の確保及び増進に貢献する研究を遂行した。年度末の２月、３月は、COVID-19への対応に追われたが、通常通り研究業務を継続した。

Ⅱ　組織体制と運営

病院との密接な協調・連携のもと、本年度は、がん生物学部、がん分子病態学部、がん治療学部、がん免疫療法研究開発学部、がん予防・情報学部の５研究学部に加えて、学部横断的に課題に取り組む研究チームとして、患者由来オルガノイド開発ユニット、がん教育・サバイバーシップ支援研究ユニットを新設した。学部長／ユニット長のもと、常勤の研究員、技官に加えて、ポスドクに相当する特別研究員、特任研究員、外部資金で雇用する多数の研究員、実験助手、事務補助、大学／企業から研究員・研究生を受け入れて精力的に研究業務を進めた。

研究業務は、各研究学部の研究室に加えて、臨床研究所共通部門である、細胞培養室、組織標本作製室、二つの共焦点顕微鏡・蛍光顕微鏡用暗室、次世代シークエンサー、逆相タンパク質アレイ（RPPA）など大型共通機器が設置されている中央機器・共通実験室、動物実験施設と液体窒素保管室などの施設設備を利用して実施した。臨床研究所事務局には４名（常勤１名、非常勤３名）が勤務し、科学研究費補助金、日本医療研究開発機構（AMED）の研究開発費を始めとする外部研究資金の管理、研究者登録、研究費申請・成果報告などの実務を支援し、外部資金の獲得にも寄与した。また、組換えDNA実験安全委員会、動物実験委員会、RI実験委員会、など研究活動に必要な委員会の遂行を補助した。

本年度は６回、外部講師を招いた臨床研究所セミナーを開催、また、４月に第32回県民のための公開講演会「がん免疫療法を知る（旭区民文化センター・サンハートホール）、７月に「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」に参加し重粒子線治療、がんワクチン・免疫治療、神奈川県がん登録事業について紹介、８月には中学生・高校生を対象としたかながわサイエンスサマー2019参加行事・科学教室「がん細胞を見つけ出せ！」を開催した。

運営体制としては、従来のがんセンター連携研究会議を発展的に解消し、臨床研究所運営会議、病院・臨床研究所共同研究会議、を新設した。また、研究員の流動性を高め研究活動をより活発化するため、業績評価を含む臨床研究所任期付研究員制度を新たに整備した。臨床研究所運営会議は毎月開催し、議事録を管理者会議に報告した。この他、臨床研究所長が主催する研究所全体会議と主任研究員以上によるスタッフ会議、及び、研究プログレス（研究学部、研究ユニットの研究進捗状況報告会）（原則として月１回）、臨床研究所長と研究学部部長による部長会（原則として週１回）を実施し、円滑な研究業務の遂行に努めた。論文抄読会、詳細な研究データの検討会などは、各研究学部／研究ユニット単位で実施した。

Ⅲ　業務

⑴　各部門の研究概要

１）がん生物学部

がん生物学部では、がん悪性化進展制御の機構を解明する過程で見出した知見を基にして、新たな難治がんの早期診断法や創薬開発を進めており、それら成果を社会実装することで、県民、国民のがんへの脅威を取り除くことに貢献する。

２）がん分子病態学部

遺伝子変異・発現解析、病理形態学的解析を軸にがん分子診断技術の開発研究を進めると同時に、より効果的な診断法、治療法・治療薬を開発するための新たな分子標的発掘を目指して、がんの虚血低栄養微小環境、癌患者に合併する血栓塞栓症を標的に、がんセンター内外とも共同して研究を進めた.

３）がん治療学部

遺伝子発現解析、ゲノム解析やタンパク質の解析から標的となる分子を探索し、新たな診断薬、治療薬に関する研究・開発を行っている。また、患者腫瘍を移植したモデルマウスを作製し、研究開発の基盤整備を行っている。

４）がん予防・情報学部

本学部は30年以上にわたり神奈川県のがん登録を担っている。2016年には大規模ゲノムコホート研究「神奈川県みらい未病コホート研究」立ち上げた。これらの疫学・公衆衛生の研究資産を知的基盤としての活用し、神奈川県および神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーションと連携してヘルスイノベーションにつながるチャレンジングな取り組みを行っている。

５）がん免疫療法研究開発学部

がん免疫診断･治療に関する基礎研究･トランスレーショナル研究を実施し、得られた研究成果をがんワクチン・免疫センター（免疫療法科）で臨床応用することにより、科学的根拠に基づいた“次世代がん免疫療法”の確立を目指している。

⑵ 共同研究

共同研究はセンター病院および外部機関と積極的に行っている。

1）病院との共同研究は臨床各科の医師が主となって研究テーマを提案し、それに研究員が協力する形で行われている。本年度は12課題が選定され研究が実施されたが、例年３月に開催している成果報告会はCOVID-19の状況を鑑み次年度に延期した。

2）外部研究機関との共同研究は、国内外、産学を問わず積極的に行っている。共同研究先は以下の通りである（順不同）。国立がん研究センター、千葉県立がんセンター、愛知県がんセンター研究所、東京大学、東京大学医科学研究所、東北大学、岩手医科大学、金沢大学、大阪大学、東京農工大学、岐阜大学、滋賀医科大学、大阪府立大学、京都府立医科大学、山形大学、帝京大学、札幌医科大学、日本女子体育大学、早稲田大学、横浜市立大学、名古屋大学、名古屋市立大学、静岡県立大学、日本大学、久留米大学、和歌山県立医科大学、福島県立医科大学、三重大学、愛媛大学、徳島大学、岡山大学、富山大学、群馬大学、佐賀大学、鹿児島大学、明治薬科大学、敦賀市立看護大学、東海大学、聖マリアンナ医科大学、Vanderbilt大学、National Institute of Gastroenterology Italy、Rutgers Center for Pharmacoepidemiology & Treatment Science、復旦大学公衆衛生大学院、理化学研究所、一般社団法人JBCRG（Japan Breast Cancer Research group）、ブライトパスバイオ株式会社、Abnova Corporation、東ソー株式会社。

⑶ 研究成果

当研究所の研究員が関与した英文論文は59編、学会発表数は国際学会18題、国内学会51題であった。また特許の取得・出願は４件であった。研究内容や成果の詳細は各研究部門の項を参照されたい。

⑷ その他の業務

その他、１）「生体試料センター」の運営、２）県民の方々への情報発信として「県民のための公開講演会」の主催、「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」および「かながわサイエンスサマー」およびの行事に参加している。

１）「生体試料センター」の運営

臨床研究所は生体試料センターの運営に中心的役割を果たしている。（詳細は「生体試料センター」の項を参照。）

２）県民の方々への情報発信

① 県民のための公開講演会：研究所開設以来毎年４月に科学技術週間への参加行事をかねて県民を対象としたがんに関する公開講演会を開催し、がんに関するさまざまな情報を提供している。令和元年度は「がん免疫治療を知る」をテーマに公開講演会を行った。

② 「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」への参加：平成30年度から県内の16大学および神奈川県立の試験研究機関、神奈川科学技術アカデミーが科学研究を対象を中高生とその保護者に紹介する「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」が実施されることとなり、臨床研究所もポスターの展示とミニ講演を行った。

③ 「かながわサイエンスサマー」への参加：神奈川県在住の子供たちの科学に対する興味の向上に資する目的で、夏休み期間中の一日を使って、中学生・高校生を対象に講義・観察・実験を交えた「かながわサイエンスサマー」参加行事の教室を開催している。毎年多くの参加希望者がいるが、施設規模と内容の関係で30人程度に制限せざるを得ない状況となっている。

第２節 研 究 業 務

がん生物学部

がん生物学部では、がん細胞周囲の微小環境において、がん悪性化進展の動力源となりうる分子群を標的としたがん診断・治療法の開発を進めている。これまでに、がん微小環境の改変やがん悪性化進展に重要な役割を担う膜型マトリックスメタロプロテアーゼ（MT1-MMP）とその基質に着目した研究を進め、がん細胞膜上のMT1-MMP基質の蛋白限定分解（プロセシング）によるがん悪性化進展制御の新たな分子機序を見出した。本年度、先行研究で見出したシーズをがんの体外、体内診断に応用する試みを他機関と共に進めている。また、がん治療・診断の新たなシーズを見出すための探索研究を継続して進め、新たなシーズの候補分子を見出しており、これら候補分子の臨床有用性（proof of concept）を得るための臨床研究を推進する。

文部科学省・新学術領域研究からの支援を受け、新たながん研究領域を開拓する目的で、数理学、医学、生物学の異分野を融合した数理腫瘍学の研究領域の立ち上げを行っている。臨床研究所に設置している逆相蛋白質アレイ（RPPA）マイクロアレイヤーによる多検体のがん組織、細胞のがん悪性化シグナル経路を網羅的な定量解析を行。そして、これら情報を基に悪性化進展を制御する経路の数

理シミュレーションで生物実験では可視化が困難な、新たな標的分子の探索を行う。

がん分子病態学部

がん分子病態学部では、がんセンター臨床各科と共同し、「がん組織における低酸素環境を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発」、「がん関連血栓塞栓症を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発」の経常研究課題を遂行すると共に、臨床研究所他学部と学部横断的に連携し、当センターのがんゲノム診療体制の整備、診療、並行して進める臨床研究体制の整備に研究面から参画し、また、質の高い臨床研究基盤の構築と、それを用いた研究、特に個別化医療開発のための患者マウスモデルとして、患者由来異種移植片（Patient Derived Xenograft；PDX）の作製を進めた。

がん組織における低酸素環境を標的とした研究では、低酸素と共に欠乏する栄養因子との相加、相乗効果でがん細胞に発現が誘導される遺伝子に標的を絞り、遺伝子機能の詳細が未だ解明されていない新規遺伝子OR51E1、RIMLKLA、及び、CD69、ICAM、血液凝固第７因子FⅦについて研究を進めた。特に、FⅦに関する研究では、低酸素と低コレステロールの細胞環境が、本来は肝細胞が産生するFⅦの発現をがん細胞に誘導すること等を明らかにして論文発表した。FⅦは、がん関連血栓塞栓症（Cancer Associated Thromboembolism；CAT）の研究課題とも密接に関わっており、肝胆膵内科と共同で、患者血漿中での組織因子TF／FⅦ複合体の活性解析を中心に研究を進め、発足間もない第２回日本腫瘍循環器学会学術集会で発表し優秀演題賞を獲得した。がんゲノム関連の研究では、東京大学医科学研究所・ゲノム解析センター／健康医療データサイエンス分野と協力して、バイオインフォマティクス解析のレベルアップに努め、次世代シークエンサーを用いた前立腺がん遺伝子変異解析を中心とする論文も発表した（論文業績５）。また、先進医療NCCオンコパネルで経験した特異なEGFR遺伝子変異を示した症例を呼吸器科と共に詳細に解析し、当センターがんゲノム診療の一環として論文に纏め投稿した。マウスPDXに関する研究は、国、県のがん対策にも呼応する形で、当センターの希少がん（主として、骨軟部腫瘍）と小児がんに標的を絞って、がん治療学部と共に研究を進めた。特に、小児がんについては、県立病院機構内での連携・共同研究の点からも、県立こども医療センターとの間で体制を整え、12例の肺・胸膜転移手術例の切除組織からPDXの作製に成功し、ゲノム解析、動物実験を開始した。極めて貴重な肝芽腫のPDXも１例含まれている。

がん治療学部

先端的がん医療開発・支援ユニット：

本ユニットは、がんゲノム医療の体制整備に専門的知識を活かして尽力し、当院は「がんゲノム医療拠点病院」に指定された。また、病院医師と協力してエキスパートパネル（がん遺伝子パネル検査結果を検討する専門家会議）を実施し、これまでに100例以上を検討した。

研究面では、次世代のがんゲノム医療に対応できるよう、がん臨床検体を用いたWhole exome sequenceやRNA sequenceを実施し、新規治療ターゲットやバイオマーカーの探索を開始し、一定の成果を上げている。また、治療開発研究基盤整備の一環として、難治性がん、希少がん、小児がんの患者由来がんモデル（PDX）の整備をがん分子病態学部と共に進め、これまでに希少がんPDX９系統、小児がん肺転移PDX12系統の樹立に成功した。

がん分子標的探索ユニット：

これまでに悪性中皮腫の高精度診断マーカー・シアル化HEG1を発見し、特異的抗体SKM9-2を開発した。令和元年度は、SKM9-2を用いて中皮腫患者の体液中に存在する可溶型HEG1の超高感度測定系を構築し、中皮腫患者検体を用いた性能検証を行った。開発した測定系を用いることで高精度の可溶型HEG1の測定が可能となり、健常人と比べて中皮腫患者では有意に可溶型HEG1の濃度が高いことが明らかとなった。また、SKM9-2の治療応用のためにヒトキメラ抗体を作製し性能検証を行った。キメラ抗体は元の抗体と同等の親和性と安定性を有し、抗体医薬への応用が可能と考えられた。

がん予防・情報学部

本学部は30年以上にわたり神奈川県のがん登録を担っている。2016年には大規模ゲノムコホート研究「神奈川県みらい未病コホート研究」立ち上げた。これらの疫学・公衆衛生の研究資産を知的基盤としての活用し、ヘルスイノベーションにつながる取り組みを行っている。

特に、ヘルスケア・ニューフロンティア政策および効果的ながん対策を目標に掲げる神奈川県や、次世代のヘルスケア・医療のイノベーターを育成を掲げる神奈川県立保健福祉大ヘルスイノベーション研究科と密接に連携して研究活動を進めている。主な研究活動は以下である。

がん登録事業：罹患および死亡情報を合計した2019年12月末の総マスター件数は1,400,393件となった。

がん検診精度管理事業：がん検診の精度（感度・特異度）をがん登録とがん検診のデータをマッチングさせることにより精度管理指標として算出するものです。2019年より横浜市から事業委託された横浜市医師会との共同研究として事業を開始している。

ゲノムコホート研究（神奈川県みらい未病コホート研究）：健康な状態からゲノム情報を含めた網羅的な生活習

慣、健診検診データをビックデータ化し、疾患リスクを明らかにして、未病対策（疾病予防）に役立てることが目的。2019年度は松田町、箱根町、小田原市でベースライン調査を実施し300人の新規研究協力者を獲得し、のべ1,616人の研究協力者の情報を収集した。

介入コホート研究（ME-BYO and ME-RISEプロジェクト）：ゲノムコホートのプラットフォームを使い、最先端技術を使った、予防医療介入を行い評価し、社会実装につなげる、先進的かつ挑戦的な取り組み。民間企業やアカデミアと連携で2019年から研究を開始している。2019年は「疾患リスク予測モデルを介入指標にした健康介入」、「ヘルスケアロボットを使った介護予防法開発プログラム」の2研究を開始した。

AIを活用した医療介入システムの開発：拡張知能（Augmented intelligence：AI）の機能の一つであるChatbotを遺伝診療に活用する研究。2019年度はプロトタイプを作成した。

がん免疫療法研究開発学部

科学的根拠に基づいた新規がん免疫療法を確立するため、がん免疫診断・治療に関する基礎研究・トランスレーショナル研究を実施している。本学部の目標は、得られた研究成果をもとに新たなシーズを育成し、がんワクチン・免疫センターで臨床試験（治験）を実施することにより、現時点では治療法のないがん患者に新しいがん免疫療法の提供を可能とすることである。現在、以下の研究プロジェクトに取り組んでいる。

⑴　次世代がん免疫療法の開発

がんワクチン療法は新しいがん治療法として注目され、多くの臨床試験が試みられてきたが、残念ながら“第4の治療法”として公認されるには至っていない。これまでの臨床試験で明らかとなった問題点を克服するために ① 免疫系からは非自己として認識されるために強力な特異的T細胞反応の誘導が期待できる“がん特異的遺伝子変異”を標的としたがんワクチン療法、② 悪性中皮腫特異抗原を標的としたキメラ抗原受容体遺伝子導入T（CAR-T）細胞療法、などの開発を行っている。

⑵　がん免疫抑制メカニズムの解明とバイオマーカー開発

がん免疫療法の治療効果が得られない原因の一つとして、がん細胞での免疫逃避や担がん患者における免疫抑制などの問題が指摘されている。本研究では、がん細胞や免疫細胞による免疫抑制メカニズムを詳細に検討することにより、がん免疫療法の臨床効果を予測するための診断法・バイオマーカーを開発するとともに、がん免疫療法の臨床効果改善に応用しうる情報を得ることを目指している。

第3節　実験動物施設

実験動物施設は、SPF区画（マウス用飼育室3室、実験室）、Conventional区画（マウス･ラット用飼育室、ウサギ飼育室、実験室）、洗浄室等からなり、総面積317.4㎡の施設である。本施設は「動物の愛護及び管理に関する法律」、「実験動物の適正な実施に向けたガイドライン」（日本学術会議）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（環境省告示）等に基づいた「がんセンター動物実験規程」を定めて管理運営されている。すべての研究計画は動物実験委員会において審議され、上記の法令等を遵守した計画が承認される。また、遺伝子改変動物等を取り扱う計画は、当センターの「遺伝子組換え生物等安全委員会」による事前承認を申請条件とし、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」をはじめとする関連法令を遵守する形で実施されている。また、本施設では国際規格の飼育ケージやインビボイメージングシステムを導入し、動物愛護に則した飼育環境と低侵襲的な観察および動物数の低減化を実現している。

全施設は年1回の消毒が行われていて、毎月の施設内落下細菌検査により飼育環境の清浄度がチェックされている。また、施設内で飼育されているマウス・ラットの微生物学的モニタリングを定期的に実施している。令和元年度は28研究課題が実施され、使用動物総数はマウス1,859匹、ラット6匹（延べ総数）であった。研究のために犠牲となった動物に感謝するとともに、動物愛護の精神を再確認するために、関係者全員による動物慰霊祭を毎年実施している。

第４節　神奈川県悪性新生物登録事業

本登録事業は、神奈川県下における悪性新生物（がん）の罹患と死亡の情報を収集、整理、解析することにより罹患の現状を把握し、今後におけるがん対策の推進及び医療水準の向上に資することを目的とする。

神奈川県の悪性新生物登録事業（地域がん登録）は全国の中で５番目に早い昭和45年から開始され、50年もの長い歴史の間に蓄積された腫瘍データは189万件に及ぶ。

全国がん登録の登録状況

平成28年１月１日より「がん登録等の推進に関する法律」に基づき始まった全国がん登録では、全ての病院が、原発性のがん罹患情報の届出義務を負う。令和元年は230医療機関（病院210、診療所20）より、92,048件の届出があった（暦年集計）。

地域がん登録の継続

神奈川県ではこれまで蓄積されたデータの継続性を鑑み、全国がん登録の26項目に加え、病期「T, N, M, ステージ」情報の提供を求めている。また、死亡票についても引き続き厚生労働省の承認を得て県下各保健所において作成した平成30年人口動態調査死亡小票を採録した。

令和元年度事業の実施状況

１．情報の収集

悪性新生物登録票の届出件数92,048件、死亡小票の採録件数88,456件、合計180,504件収集した。

２．入力件数

悪性新生物登録票入力件数92,048件（暦年集計）、死亡小票入力件数26,493件、合計185,411件入力した。

令和２年６月末の総マスタ件数は1,446,989件であった。

３．生存確認調査

平成25年に診断された者で死亡情報のない30,260名を住民基本台帳ネットワークシステム（以下、住基ネット）と照合した。照合条件を変え複数回実施し、照合できなかった6,430名について県内58市区町村へ住民照会を実施し、さらに県外転出者1,151名の住民票照会を482市区町村へ実施し予後の把握につとめた。

４．データの利用

悪性新生物登録資料の研究的利用申請が29件、うち届出医療機関からの予後調査は23件、行政・研究者への提供は６件（匿名化情報５件、非匿名化情報１件）であった。

その他、神奈川県がん・疾病対策課による検診リーフレット作成のための５年相対生存率を提供した。

５．住所異動確認調査（全国がん登録）

住所異動確認調査とは、国立がん研究センターにおける2017年診断罹患確定へ向けた全国照合において、複数の候補者がいるものの、同一人物と判断しかねる症例について、住所異動の追加の情報を得ることによって同一人物判定を補助するものである。令和元年度は1,223件を県内市区町村55か所へ実施し、回答結果を全国がん登録システムへ入力した。

６．遡り調査（全国がん登録）

遡り調査とは、死亡者情報票で初めて把握されたがんについて、死亡診断書の作成にかかる医療機関または診療所へ遡ってのがん登録届出を求めるものである。国より対象者と遡り調査対象医療機関が通知され（DCN通知）、都道府県がん登録室は対象医療機関へ遡り調査を通知、回答結果を全国がん登録システムに登録する。令和元年度は1,936件を266医療機関へ実施した。全国がん登録が開始され届出が義務となったことから、遡り調査対象件数は減少傾向にある。

７．神奈川県のがんの罹患状況

平成28年の本県のがんの罹患数は、68,426人（男38,473人、女29,953人）であった。そのうち県下の医療機関からの届出によって登録されたのは、64,018人、死亡票により確認されたものが4,408人であった。がんの部位別割合をみると、男で最も多かったのは胃、次いで前立腺、結腸、女は乳房、次に結腸、子宮の順である。男では結腸、胃、前立腺の割合が、女では乳房、結腸、直腸の割合が増加し、男の肺、肝・肝内胆管、女の悪性リンパ腫、肺、膵は減少している。

平成24年に診断された者の５年相対生存率は男64.6%、女71.2%であり、平成23年診断に比べ男女ともに高くなっている。生存率の高い部位は男で前立腺、皮膚、甲状腺、女は甲状腺、皮膚、乳房の順であり、逆に低いのは男女ともに膵、胆のう・胆管の順である。

第5章　研修・研究

国内研究（研修）受入

所　　属	研　修　者	受　入　部　署	受　入　期　間
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	病　理　診　断　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	呼　吸　器　内　科	H31.4.1～R1.7.5
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
東京大学分子予防医学	学　　生	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
明神台クリニック	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器内科（肝胆膵）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	遺　伝　診　療　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	遺　伝　診　療　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	乳腺内分泌外科	H31.4.1～R2.3.31
東京医科大学	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
協立総合病院	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
はせがわ内科クリニック	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	病　理　診　断　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	呼　吸　器　内　科	H31.4.1～R2.3.31
JCHO東京山手メディカルセンター	医　　師	呼　吸　器　内　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	婦　　人　　科	H31.4.1～R2.3.31
国立がん研究センター	研究補助員	消化器内科（肝胆膵）	H31.4.1～R2.3.31
東京女子医科大学東医療センター	医　　師	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
横浜市立大学大学院	医　　師	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
聖マリアンナ医科大学	医　　師	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
綜合画像研究	理　　事	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
横浜市立大学	医　　師	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
日本大学医学部	医　　師	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
山形大学医学部	医　　師	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
山形大学医学部	医　　師	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
済生会横浜市南部病院	医　　師	消化器外科（胃食道）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	乳腺内分泌外科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	婦　　人　　科	H31.4.1～R1.5.31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	呼　吸　器　外　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	呼　吸　器　外　科	H31.4.1～R2.3.31

所　　属	研　修　者	受　入　部　署	受　入　期　間
個人	医　　師	婦　人　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器内科（肝胆膵）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	呼　吸　器　外　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（肝胆膵）	H31.4.1～R2.3.31
山形大学大学院医療政策学講座	医　　師	臨　床　研　究　所	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	乳腺内分泌外科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	呼　吸　器　外　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	婦　人　科	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（肝胆膵）	H31.4.1～R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	R1.6.2～R2.3.31
小国町立病院	医　　師	臨　床　研　究　所	R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	R2.3.31
個人	医　　師	消化器内科（消化管）	R1.7.1～R1.7.31
川崎幸病院	医　　師	消化器外科（胃食道）	R1.12.31
横浜市立大学附属病院	医　　師	呼　吸　器　外　科	R2.3.31
横浜旭中央総合病院	医　　師	頭　頚　部　外　科	R1.9.11～R2.3.31
個人	医　　師	泌　尿　器　科	R2.3.31
がん・感染症センター都立駒込病院	医　　師	消化器外科（胃食道）	R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（大腸）	R2.3.31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	R2.3.31
国立がん研究センター	研　究　員	消化器内科（肝胆膵）	R1.12.16～R2.3.31
国立がん研究センター	研　究　員	消化器内科（肝胆膵）	R1.12.16～R2.3.31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨　床　研　究　所	R2.2～R2.3
横浜鶴ヶ峰病院付属予防医療クリニック	医　　師	東　洋　医　学　科	R2.2.14～R2.3.31

実習生受入

所　　属	人　　員	受　入　部　署	受　入　期　間
横浜市立大学医学部	75名（各日6～8）	乳腺内分泌外科 消化器外科 呼吸器外科	R2.2.3～R2.12.18
横須賀高等学校	4名	臨　床　研　究　所	R1.7.3
福島県立医科大学	2名	放射線治療科	H31.4.23
横浜市立大学医学部	1名	婦　人　科	H31.4.22～H31.4.23
横浜市立大学医学部	1名	婦　人　科	R1.6.10～R1.6.11
横浜市立大学医学部	1名	婦　人　科	R1.7.1～R1.7.2
横浜市立大学医学部	1名	婦　人　科	R1.9.17
横浜市立大学医学部	1名	婦　人　科	R1.10.7～R1.10.8
横浜市立大学医学部	1名	婦　人　科	R1.10.28～R1.10.29
横浜市立大学医学部	2名	婦　人　科	R1.11.14
横浜市立大学医学部	1名	婦　人　科	R1.11.18～R1.11.19
横浜市立大学医学部	1名	婦　人　科	R1.12.9～R1.12.10
新横浜リハビリテーション病院	1名（10日間）	栄　養　管　理　科	R1.10.1～R2.3.3
神奈川県立循環器呼吸器病センター	1名（10日間）	栄　養　管　理　科	R1.10.1～R2.3.3
湘南厚木病院	1名（10日間）	栄　養　管　理　科	R1.10.1～R2.3.3
三井記念病院	1名（10日間）	栄　養　管　理　科	R1.10.1～R2.3.3

所　　属	人　　員	受　入　部　署	受　入　期　間
横　浜　薬　科　大　学	1名	薬　　剤　　科	R1．5．27～R1．8．11
横　浜　薬　科　大　学	2名	薬　　剤　　科	R1．11．25～R2．2．16
横　浜　薬　科　大　学	1名	薬　　剤　　科	R1．9．9～R1．11．2
北　里　大　学　薬　学　部	1名	薬　　剤　　科	R1．5．27～R1．8．11
北　里　大　学　薬　学　部	1名	薬　　剤　　科	R1．8．26～R1．11．10
北　里　大　学　薬　学　部	1名	薬　　剤　　科	R1．11．25～R2．2．16
千　葉　科　学　大　学　薬　学　部	1名	薬　　剤　　科	R1．8．26～R1．11．10
帝　京　平　成　大　学　薬　学　部	1名	薬　　剤　　科	R1．11．25～R2．2．16

（看護局）2019年度　院外からの研究受け入れ状況

所　　属	内　　容	受け入れ部署	対象者	期　間
北里大学大学院 看護学研究科 博士後期課程	婦人科腫瘍患者へのセクシャルケアを行う看護職への教育プログラムの開発 ―看護師のセクシャルに影響する要因の分析から―	看　護　局	婦人科経験1年以上の看護師	～2027年3月31日
横浜創英大学大学院 看護学研究科	看護実践経験のない部署へ配置転換となった副看護師長の経験	看　護　局	選定要件を満たす看護師1名	2020年3月31日

（看護局）2019年度　看護実習生の受け入れ

所　　属	人　数	日　数	延べ人数	受け入れ期間
神奈川県立よこはま看護専門学校	160	160	1,430	R1年5月～R2年2月
神奈川県立保健福祉大学	22	59	264	R1年6月～R1年12月
東海大学健康科学部看護学科	18	8	72	R1年7月～R1年10月
慶應義塾大学看護医療学部	12	19	57	R1年10月～R2年1月
関東学院大学看護学科	7	7	49	R1年8月～R1年9月
神奈川県立衛生看護専門学校	36	41	223	R1年5月～R1年12月
神奈川県立二俣川看護福祉高等学校	78	2	78	R1年5月

（看護局）2019年度　卒後教育実習受入れ

所　　属	目　　的	研修者	人員	日数	延べ人数	受入期間等
神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 看護領域	がん看護専門看護師の役割の参加観察を通して、がん看護専門看護師の役割を深く理解し、がん看護専門看護師が実践している複雑な諸問題を持つ患者及び家族への支援における臨床判断能力を養う。地域や組織、他職種を含む医療チームにおいて、がん看護の質向上のために実践している相談・調整、教育等の場面や倫理的な問題解決に取り組む場面での、がん看護専門看護師の行動とその意図を分析し、役割開発に必要な能力と自己の課題を明確にすることができる	看護師	2	10	40	7月22日～8月9日の内10日間 7月29日～9月6日の内10日間

所　　属	目　　的	研修者	人員	日数	延べ人数	受入期間等
北里大学大学院 看護学研究科	がん患者に対する長期的な支援の観点から、地域医療連携におけるがん看護専門看護師の役割と資源の活用について学ぶ	看護師	2	5	10	9月2日～ 13日
東京慈恵会医科大学 大学院 看護学専攻修士課程	複雑で対応の難しい緩和ケアを必要とするがん患者を受持ち診断・治療を理解し、患者及び家族が質の高いケアを受けられることを目的として、直接的ケアならびに、がん看護専門看護師としての役割を実践する	看護師	1	19	19	7月8日～ 19日の内 9日間 7月29日～ 8月9日の内 10日間
新潟県立看護大学大学院 修士課程	がん専門看護師の指導のもとに、実際の活動を経験し、がん看護専門看護師の役割を理解する。複雑で対応の難しいがん患者家族への実践、院内教育、病棟看護師の教育、コンサルテーション他職種との調整、臨床研究の指導、倫理的問題の解決などのがん看護専門看護師の実践力を養う	看護師	2	10	20	10月7日～ 10月18日
岩手県立大学大学院 看護学研究科	がん看護専門看護師の指導のもとで、実際に行われている臨床での活動（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）を理解し、がん看護専門看護師としての自己の課題を明らかにする	看護師	1	10	10	12月2日～ 13日
横浜市立大学大学院 医学研究科看護学専攻	がん看護についての先駆的な看護実践の体験を通して、がん看護専門看護師の役割と機能を探求する	看護師	2	9	18	1月20日～ 30日
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター 感染管理認定看護師教育課程	所属施設での感染管理活動に活用できるよう、実習施設における医療関連感染予防・管理プログラムと感染管理担当看護師の役割を理解し、一部実践できる	看護師	2	20	40	9月17日～ 10月21日
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター 実習指導者講習会	臨地実習の場における様々な体験を通して、実習指導者としての役割や求められる能力、自己の課題について考えることができる	看護師	3	3	9	9月30日～ 10月18日の内 3日間
日向台病院	精神科領域以外の看護・環境・医療を知ることにより視野を広げ、それらの経験を精神科看護の上に役立てる	看護師	10	5	50	9月30日～ 10月4日

（看護局）2019年度　研修･見学受け入れ状況

所　　属	目　　的	研修者	人員	日数	延べ人数	受入期間等
神奈川県立よこはま看護専門学校	緩和ケア病棟の活動を知り、終末期にある人がその人らしい生活を全うできるようにするためのケアと支援の実際を学ぶ	看護学生	55	1	55	6月29日
神奈川県立保健福祉大学	最新のがん医療の動向、最新の医療の実際を理解する	看護師 介護支援専門員 理学療法士 作業療法士 他	34	1	34	9月28日 （13：30～ 14：30）
（ブータン）	神奈川県海外技術研修	看護師	1	1	1	2月14日

第６章　病院ボランティア会ランパスの活動

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため2020年２月20日で活動を休止せざるを得なくなりました。病院の面会制限と衛生用品不足等を考えあわせて当面の間休止とさせて頂きました。1990年11月がんセンターでの活動開始の当初より「患者様に寄り添う活動」を大事に考えて活動してまいりましたが、３密を避けて人と人の間隔を物理的に開けながら精神的に寄り添うことの難しさを痛感しております。「がんセンターだより」VoI.76では活動記事を掲載いただき感謝申し上げます。30年の間、私たちボランティアを受け入れ活動させていただき有難うございました。次年度からの活動についてはボランティア推進会議でご相談し活動の見直しを行いたいと存じます。

◇病院との連携

・ボランティア活動推進会議　6/27　9/12　11/28
・ボランティア調整ミーティング　6/13　9/ 5　11/21
・行事コンサートの手伝い
　看護週間5/16　緩和ケア週間10/10　クリスマス12/12
・緩和ケア病棟「たんぽぽの会」手伝い
　5/18　7/20　9/21　11/16　1/18
・インフルエンザ予防接種　接種者数29名
・院内PCへボランティア活動日時の表示

◇活動部門（会員50名）

・移動図書（1990年11月開始）毎週木曜日　会員７名
・病棟（1991年３月開始）毎週木曜日　会員10名
・無菌病棟（1998年３月開始）毎週木曜日　会員２名
・緩和ケア病棟（2000年４月開始）月～金曜日　会員18名
・外来受付（1995年３月開始）月～金曜日　会員18名
・音楽（2001年２月開始）毎週木曜日　会員５名

◇活動集計表（2019年１月～12月）

	実働日数	のべ人数	のべ時間	手足浴	洗髪	洗濯	マッサージ	買物	話し相手	散歩	お茶のサービス	その他の活動
緩和ケア病棟７E	230	687	1,936			29	645	38	135		2,758	花のサービスと管理89回・行事手伝い13回 フロアーコンサート2/7・3/7・4/11・7/4・10/17・11/7
無菌病棟７W	47	87	330	1		131	20	65	103			白衣のボタン付け３枚・繕い１枚 フロアーコンサート6/20・12/19
６E	47	84	191	114	2		114	4	93			繕い物２
６W	47	47	141	18		1	37	54	75			依頼本探しと貸し出し
５E	47	61	183	3		6	31	34	138			TVカード清算・身の回りの手伝い６・ボタン付け 洗濯袋修繕・クリスマスカード作成50枚
５W	47	51	153	1		9	185	84	64			本返却・朗読・コップ洗い・身の回りの手助け11・車いす付添い・繕い物・アイスノン交換・クリスマスカード作成50枚
４E	47	90	270	114			114	3	115			コップ洗い・心電図カバー製作５個
４W	47	90	270	20	4	3	25	41	86	2		歯磨き補助・タオル・寝間着を届ける
３S	47	57	161	1	11		141		11			付き添い・クリスマスカード作成40枚
その他	22	72	66									ミーティング・会議・繕い物・たんぽぽの会手伝い等
小計	628	1,326	3,701	272	17	179	1,312	323	820	2	2,758	
音楽	43	317	727	演奏回数43回　演奏時間220時間　演奏者数128名　木曜ミニコンサート14：00～フロアーコンサート15：00～								
図書	47	256	768	貸出人数 1,949名　貸出冊数 2,313冊　蔵書3,300冊　　情報コーナー，ディルーム，４F家族待合室								
受付	230	644	2,008	患者支援センター内での案内・手助け、院内の案内・付添、採血室での案内（月・木）								
合計	948	2,543	7,204	※緩和ケア病棟での行事：２月節分　３月お雛様　４月花まつり　５月端午の節句 ７月七夕祭り　８月夏祭り　12月クリスマス								

研　　究　　編

第1章　臨　床　研　究　所

第1節　研究課題一覧

科　別	研　究　課　題	研究者名
がん生物学部	1　新規がん診断法開発に関する研究 2　数理学手法を用いた上皮構築と破綻を制御する分子機序の解明 3　超早期がん及び浸潤性がんをターゲットとした抗体医薬開発	越川　直彦ほか5名 室井　　敦ほか5名 星野　大輔ほか3名
がん分子病態学部	1　がん組織における低酸素環境を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発 2　がん関連・血栓塞栓症を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発	小井詰史朗ほか3名 小井詰史朗ほか3名
がん治療学部	先端的がん医療開発・支援ユニット： 1　大腸がん細胞における細胞接着によるvemurafenibに対する耐性の出現とその分子論的背景 2　患者由来腫瘍モデルをベースとした治療開発基盤整備 3　消化器癌（特に膵癌）微小環境における細胞間相互作用の解明 4　小児、AYA世代がん肺転移モデルの樹立とインタラクトーム解析による新規標的分子の探索 5　がんゲノム医療におけるがん関連遺伝子の意義不明変異（VUS）に対するDrug screeningプラットホームの開発 がん分子標的探索ユニット： 1　新しい中皮腫のがんマーカーの研究	 菊地　慶司 大津　　敬ほか2名 廣島　幸彦 大津　　敬ほか1名 廣島　幸彦ほか1名 辻　祥太郎
がん予防・情報学部	1　地域がん登録の精度向上と有効活用に関する研究 2　がん予防を目的としたゲノムコホート研究の実施 3　がん登録データとがん検診データのリンケージによるがん検診精度管理 4　抗がん剤の費用対効果シミュレーションを活用した安全性評価方法の提案（レギュラトリーサイエンス研究） 5　AIを用いた医療補助システムの開発 6　介入コホート研究（ME-BYO and ME-RISEプロジェクト）	阪口　昌彦ほか2名 中村　　翔ほか6名 阪口　昌彦ほか8名 成松　宏人 成松　宏人ほか2名 中村　　翔ほか1名
がん免疫療法研究開発学部	1　次世代がん免疫療法の開発 2　がん免疫抑制メカニズムの解明とバイオマーカー開発	紅露　　拓ほか20名 五十嵐友香ほか30名

第2節　研　究　業　績

がん生物学部

発表論文

1　Sato A, Kakinuma S, Miyoshi M, Kamiya A, Tsunoda T, Kaneko S, Tsuchiya J, Shimizu T, Takeichi E, Nitta S, Kawai-Kitahata F, Murakawa M, Itsui Y, Nakagawa M, Azuma S, **Koshikawa N**, Seiki M, Nakauchi H, Asahina Y, Watanabe M. Vasoactive Intestinal Peptide Derived from Liver Mesenchymal Cells Mediates Tight Junction Assembly in Mouse Intrahepatic Bile Ducts, Hepatology Communications, 24; 4(2): 235-254. 2020

2　Suzuki M, **Muroi A**, Nojima M, Numata A, Takasaki H, Sakai R, Yokose T, **Miyagi Y**, **Koshikawa N**. Utility of a reverse phase protein array to evaluate multiple biomarkers in diffuse large B-cell lymphoma. Proteomics Clinical Applications, e1900091. 2020,

3　Aoki M, Koga K, Miyazaki M, Hamasaki M, **Koshikawa N**, Oyama M, Kozuka-Hata H, Seiki M, Toole BP, Nabeshima K. CD73 complexes with emmprin to regulate MMP-2 production from co-cultured sarcoma cells and fibroblasts. BMC Cancer, 19: 9212, 2019

4　Yasuda H, **Nakagawa M**, Kiyokawa H, Yoshida E, Yoshimura T, **Koshikawa N**, Itoh F, Seiki M. Unique Biological Activity and Potential Role of Monomeric Laminin-γ2 as a Novel Biomarker for Hepatocellular Carcinoma: Int J Mol Sci. 20(1). p ii : E226. 2019

5　**Miyazaki K**, Oyanagi J, **Hoshino D**, Togo S, Kumagai H, **Miyagi Y**. Cancer cell migration on elongate protrusions of fibroblasts in collagen matrix. Sci Rep. 22; 9(1): 292, 2019

6　**Kikuchi K**, **Hoshino D**. Sensitization of HT29 colorectal cancer cells to vemurafenib in three-dimensional collagen cultures. Cell Biology International, 44(2): 621-629, 2020

その他出版物

1　**星野大輔**，**室井　敦**，清木元治，**越川直彦**：がんの悪性化：浸潤と転移，細胞運動と浸潤，がん生物学イラストレイテッド（羊土社），Page 242-261，2019

2　**室井　敦**，**星野大輔**，清木元治，**越川直彦**：MT1-MMPのプロテアーゼ活性を通じたがん悪性化進展制御，膜タンパク質工学ハンドブック，Page 300-3006，2020

学会等発表

1　鈴木理樹，**室井　敦**，野島　寛，酒井リカ，横瀬智之，**宮城洋平**，**越川直彦**：びまん性大細胞Ｂ細胞性リンパ腫における新規診断補助ツールとしての逆相蛋白質アレイの有用性について．第78回日本癌学会総会，京都，9/2019

2　**越川直彦**，清木元治：細胞表面の蛋白質分解が産生する悪性がんの特異的診断バイオマーカーの検討．第28回日本がん転移学会学術集会，横浜，7/2019

3　**越川直彦**：数理モデルを用いたがんの悪性化進展制御の解明．第92回 日本生化学会大会，横浜，9/2019

4　鈴木　貴，榎本将士，朝倉暢彦，**室井　敦**，**越川直彦**：数理モデルと逆相蛋白質アレイデータによる肝細胞がん悪性化シグナル経路の解析．第92回 日本生化学会大会，横浜，9/2019

5　**室井　敦**，榎本将士，森　達樹，石渡道徳，**星野大輔**，鈴木　貴，**越川直彦**：数理モデルを用いたがんの悪性化進展制御の解明．第92回 日本生化学会大会，横浜，9/2019

6　**室井　敦**，榎本将士，朝倉暢彦，森　達樹，**星野大輔**，石渡道徳，鈴木　貴，**越川直彦**：逆相蛋白質アレイおよび数理モデルを用いた肝細胞がん悪性化制御シグナルの解析.第19回日本蛋白質化学学会年会・第71回日本細胞生物学会大会 合同年次大会，神戸，6/2019

特許

- 成立：清木元治，**越川直彦**，中川将利，吉田栄作，吉村　徹：共同出願　欧州出願 03356828，（登録日：2020. 2. 12）
- 出願：清木元治，**越川直彦**，中川将利，吉田栄作，吉村徹：共同出願　国際出願 US16/388251（出願日：2019. 4. 18）
- 出願：清木元治，**越川直彦**，**星野大輔**：共同出願　国際出願（出願日：2020. 2. 25）

がん分子病態学部

発表論文

1　Komatsu T, Shimizu T, Kanoh M, Miyakawa T, Satta Y, Yasukochi Y, **Fujimoto-Kasajima R**, Tada M, Machida K, Kataoka S, Udaka K. Development of a novel monoclonal antibody that binds to most HLA-A allomorphs in a conformation-dependent yet peptide-promiscuous fashion. Immunogenetics, (in press)

2　Hagiwara A, **Nakamura Y**, Nishimoto R, Ueno S, **Miyagi Y**. Induction of tryptophan hydroxylase in the liver of subcutaneous tumor model of prostate cancer.

Cancer Sci, 2020 Jan 30. doi: 10.1111/cas.14333. [Epub ahead of print]

3 Samanta S, Tamura S, Dubeau L, Mhawech-Fauceglia P, **Miyagi Y**, Kato H, Lieberman R, Buckanovich RJ, Lin YG, Neamati N. Clinicopathological significance of endoplasmic reticulum stress proteins in ovarian carcinoma. Sci Rep, 10(1): 2160, 2020

4 **Kasajima R**, Yamaguchi R, Shimizu E, Tamada Y, Niida A, Tremmel G, Kishida T, Aoki I, Imoto S, Miyano S, Uemura H, **Miyagi Y**. Variant analysis of prostate cancer in the Japanese and a new attempt to predict related biological pathways. Oncology Reports, 43(3): 943-952, 2020.

5 Okamoto N, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Yamamoto N, Takiguchi N, Nabeya Y, Soda H, Fukasawa S, Kishida T, Shiozawa M, Yoshida A, Shimizu T, Fujimoto S, Ueda M, Inagaki S, **Miyagi Y**, Nagase H. A Nobel Multivariate Index for Cancer Risk Detection Based On the Serum Trace Elements: Metallo-Balance Method. J Cancer Epidemiol Prev (iMedPub), 5(1): 1-9, 2020

6 Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, Hiroshima Y, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, **Oshima T**. Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo, 34(1): 461-467, 2020 doi: 10.21873/invivo.11796.

7 Endo H, Hama N, Baghdadi M, Ishikawa K, Otsuka R, Wada H, Asano H, Endo D, Konno Y, Kato T, Watari H, Tozawa A, Suzuki N, **Yokose T**, Takano A, Kato H, **Miyagi Y**, Daigo Y, Seino KI. Interleukin-34 expression in ovarian cancer: a possible correlation with disease progression. Int Immunol, 2019 Dec 23. pii: dxz074. doi: 10.1093/intimm/dxz074. [Epub ahead of print]

8 Oneyama M, Sakamoto N, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Fujikawa H, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Yukawa N, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, **Miyagi Y**, Yasui W, Oshima T. Clinical Significance of KIAA1199 as a Novel Target for Gastric Cancer Drug Therapy. Anticancer Res, 39(12): 6567-6573, 2019 doi: 10.21873/anticanres.13872.

9 Kobayashi T, Baghdadi M, Han N, Murata T, Hama N, Otsuka R, Wada H, Shiozawa M, Yokose T, **Miyagi Y**, Takano A, Daigo Y, Seino KI. Prognostic value of IL-34 in colorectal cancer patients. Immunol Med, 42(4): 169-175, 2019. doi: 10.1080/25785826.2019.1691429.

10 Maezawa Y, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Kano K, Aoyama T, Hiroshima Y, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, Oshima T. High gamma-glutamyl hydrolase and low folylpolyglutamate synthetase expression as prognostic biomarkers in patients with locally advanced gastric cancer who were administrated postoperative adjuvant chemotherapy with S-1. J Cancer Res Clin Oncol, 146(1): 75-86, 2019. doi: 10.1007/s00432-019-03087-8.

11 Suzuki M, **Muroi A**, Nojima M, Numata A, Takasaki H, Sakai R, Yokose T, **Miyagi Y**, **Koshikawa N**. Utility of a Reverse Phase Protein Array to Evaluate Multiple Biomarkers in Diffuse Large B-Cell Lymphoma. Proteomics Clin Appl, e1900091. doi: 10.1002/prca.201900091. [Epub ahead of print]

12 **Hiroshima Y**, **Kasajima R**, Kimura Y, Komura D, Ishikawa S, Ichikawa Y, Bouvet M, Yamamoto N, Oshima T, Morinaga S, Singh SR, Hoffman RM, Endo I, **Miyagi Y**. Novel targets identified by integrated cancer-stromal interactome analysis of pancreatic adenocarcinoma. Cancer Lett, 469: 217-227, 2019. doi: 10.1016/j.canlet.2019.10.031

13 Yoshikawa T, Aoyama T, Sakamaki K, Oshima T, Lin J, Zhang S, Sapari NS, Soong R, Tan I, Chan XB, Bottomley D, Hewitt LC, Arai T, Teh BT, Epstein D, Ogata T, Kameda Y, **Miyagi Y**, Tsuburaya A, Morita S, Grabsch HI, Tan P. Comprehensive biomarker analyses identifies HER2, EGFR, MET RNA expression and thymidylate synthase 5'UTR SNP as predictors of benefit from S-1 adjuvant chemotherapy in Japanese patients with stage Ⅱ/Ⅲ gastric cancer. J Cancer, 10(21): 5130-5138, 2019 doi: 10.7150/jca.34741.

14 Hashimoto I, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, Oshima T. Clinical significance of PRKCI gene expression in cancerous tissue in patients with gastric cancer. Anticancer Res, 39(10): 5715-5720, 2019.

15 Matsumura Y, Ito Y, Mezawa Y, Sulidan K, Daigo Y, Hiraga T, Mogushi K, Wali N, Suzuki H, Itoh T, **Miyagi Y**, Yokose T, Shimizu S, Takano A, Terao Y, Saeki H, Ozawa M, Abe M, Takeda S, Okumura K, Habu S, Hino O, Takeda K, Hamada M, Orimo A. Stromal fibroblasts induce metastatic tumor cell clusters via epithelial-mesenchymal plasticity. Life Sci Alliance, 2(4), 2019. pii: e201900425. doi: 10.26508/lsa.201900425.

16 Wong JYY, Zhang H, Hsiung CA, Shiraishi K, Yu K, Matsuo K, Wong MP, Hong YC, Wang J, Seow WJ, Wang Z, Song M, Kim HN, Chang IS, Chatterjee N, Hu W, Wu C, Mitsudomi T, Zheng W, Kim JH, Seow A, Caporaso NE, Shin MH, Chung LP, An SJ, Wang P, Yang Y, Zheng H, Yatabe Y, Zhang XC, Kim YT, Cai Q, Yin Z, Kim YC, Bassig BA, Chang J, Ho JCM, Ji BT, Daigo Y, Ito H, Momozawa Y, Ashikawa K, Kamatani Y, Honda T, Hosgood HD, Sakamoto H, Kunitoh H, Tsuta K, Watanabe SI, Kubo M, **Miyagi Y**, Nakayama H, Matsumoto S, Tsuboi M, Goto K, Shi J, Song L, Hua X, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Shimizu K, Tanaka K, Wei F, Matsuda F, Su J, Kim YH, Oh IJ, Song F, Su WC, Chen YM, Chang GC, Chen KY, Huang MS, Chien LH, Xiang YB, Park JY, Kweon SS, Chen CJ, Lee KM, Blechter B, Li H, Gao YT, Qian B, Lu D, Liu J, Jeon HS, Hsiao CF, Sung JS, Tsai YH, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Wang WC, Chung CC, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Berndt SI, Wu W, Pang H, Li Y, Choi JE, Park KH, Sung SW, Liu L, Kang CH, Zhu M, Chen CH, Yang TY, Xu J, Guan P, Tan W, Wang CL, Hsin M, Sit KY, Ho J, Chen Y, Choi YY, Hung JY, Kim JS, Yoon HI, Lin CC, Park IK, Xu P, Wang Y, He Q, Perng RP, Chen CY, Vermeulen R, Wu J, Lim WY, Chen KC, Li YJ, Li J, Chen H, Yu CJ, Jin L, Chen TY, Jiang SS, Liu J, Yamaji T, Hicks B, Wyatt K, Li SA, Dai J, Ma H, Jin G, Song B, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Cui P, Iwasaki M, Shimazu T, Tsugane S, Zhu J, Chen Y, Yang K, Jiang G, Fei K, Wu G, Lin HC, Chen HL, Fang YH, Tsai FY, Hsieh WS, Yu J, Stevens VL, Laird-Offringa IA, Marconett CN, Rieswijk L, Chao A, Yang PC, Shu XO, Wu T, Wu YL, Lin D, Chen K, Zhou B, Huang YC, Kohno T, Shen H, Chanock SJ, Rothman N, Lan Q. Tuberculosis infection and lung adenocarcinoma: Mendelian randomization and pathway analysis of genome-wide association study data from never-smoking Asian women. Genomics, 112(2): 1223-1232, 2020

17 Sawada Y, Kikugawa T, Iio H, Sakakibara I, Yoshida S, Ikedo A, Yanagihara Y, Saeki N, Győrffy B, Kishida T, Okubo Y, **Nakamura Y**, **Miyagi Y**, Saika T, Imai Y. GPRC5A facilitates cell proliferation through cell cycle regulation and correlates with bone metastasis in prostate cancer. Int J Cancer, 146(5): 1369-1382, 2020. doi: 10.1002/ijc.32554.

18 Mezawa Y, Daigo Y, Takano A, **Miyagi Y**, Yokose T, Yamashita T, Morimoto C, Hino O, Orimo A. CD26 expression is attenuated by TGF-β and SDF-1 autocrine signaling on stromal myofibroblasts in human breast cancers. Cancer Med, 8(8): 3936-3948, 2019

19 **Koizume S**, **Takahashi T**, **Yoshihara M**, **Nakamura Y**, Ruf W, **Takenaka K**, Miyagi E, **Miyagi Y**. Cholesterol Starvation and Hypoxia Activate the FⅦ Gene via the SREBP1-GILZ Pathway in Ovarian Cancer Cells to Produce Procoagulant Microvesicles. Thromb Haemost, 119(7): 1058-1071, 2019

20 Mochizuki M, Nakamura M, Sibuya R, Okazaki T, Abe J, Nakagawa T, Takahashi S, Yamazaki T, Imai T, Takano A, Ito H, Yokose T, **Miyagi Y**, Daigo Y, Sato I, Satoh K, Sugamura K, Yamaguchi K, Tamai K. CD271 is a negative prognostic factor and essential for cell proliferation in lung squamous cell carcinoma. Lab Invest, 99(9): 1349-1362, 2019

21 Odaka M, Kim H, Nakamura Y, Hattori A, Matsuura K, Iwamura M, **Miyagi Y**, Yasuda K. Size Distribution Analysis with On-Chip Multi-Imaging Cell Sorter for Unlabeled Identification of Circulating Tumor Cells in Blood. Micromachines (Basel), 25; 10(2), 2019. pii: E154. doi: 10.3390/mi10020154.

22 Murakawa M, Aoyama T, **Miyagi Y**, Kobayashi S, Ueno M, Morimoto M, Numata M, Yamamoto N, Tamagawa H, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Morinaga S. The impact of SPARC expression on the survival of pancreatic ductal adenocarcinoma patients after curative resection. J Cancer, 10(3): 627-33, 2019. doi: 10.7150/jca.28660

23 **Miyazaki K**, Oyanagi J, Hoshino D, Togo S, Kumagai H, **Miyagi Y**. Cancer cell migration on elongate protrusions of fibroblasts in collagen matrix. Sci Rep, 9(1): 292, 2019. doi: 10.1038/s41598-018-36646-z

24 Kouga T, **Koizume S**, Aoki S, Jimbo E, Yamagata T, Inoue K, Osaka H. Drug screening for Pelizaeus-Merzbacher disease by quantifying the total levels and membrane localization of PLP1. Mol Genet Metab Rep, 20: 100474, 2019, doi: 10.1016/j.ymgmr.2019.100474

25 Nakamura S, Yokoyama K, Shimizu E, Yusa N, Kondoh K, Ogawa M, Takei T, Kobayashi A, Ito M, Isobe M, Konuma T, Kato S, **Kasajima R**, Wada Y, Nagamura-Inoue T, Yamaguchi R, Takahashi S, Imoto S, Miyano S, Tojo A. Prognostic impact of circulating tumor DNA status post-allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in AML and MDS. Blood, 133(25): 2682-95, 2019. Epub 2019/04/03. doi: 10.1182/blood-2018-10-880690. PMID: 30936070

その他出版物

1 **大津　敬**, 北河徳彦, 後藤裕明, 田中祐吉, **宮城洋平**: 非上皮性腫瘍（GIST, 小児がん）のPDX作製法. 実験医学別冊「患者由来がんモデルを用いたがん研究実践ガ

イド」（佐々木博己編）：195-204，2019
2　**矢田英里香**，**和田　聡**，**宮城洋平**：膵がんのPDX作製法．実験医学別冊「患者由来がんモデルを用いたがん研究実践ガイド」（佐々木博己編）：161-168，201．
3　**小井詰史朗**，**宮城洋平**：腫瘍循環器学の現況と展望：クリニカルトピック・組織因子の機能調節メカニズム．BIO Clinica 34(10): 56-61, 2019

学会等発表

1　吉岡恵美，河内香江，鷲見公太，鈴木理樹，大久保陽一郎，横瀬智之，**宮城洋平**：上皮成分も悪性であった悪性葉状腫瘍の一例．第108回日本病理学会総会，4/2019
2　大久保陽一郎，野口　剛，**宮城洋平**，吉岡恵美，鈴木理樹，鷲見公太，河内香江，岸田　健，亀田陽一，横瀬智之：前立腺生検における生検前MRIの臨床病理学的意義．第108回日本病理学会総会，4/2019
3　鈴木理樹，**笠島理加**，横瀬智之，山口　類，井元清哉，吉岡恵美，鷲見公太，大久保陽一郎，河内香江，**宮城洋平**：全エクソーム解析による高悪性度胎児型肺腺癌の遺伝子異常の解明．第108回日本病理学会総会，4/2019
4　**小井詰史朗**, **中村圭靖**, **吉原光代**, 宮城悦子, **竹中克也**, **宮城洋平**：転写因子HIF1とSREBP1による共同的GILZ発現増強は卵巣がん細胞の凝固性細胞外小胞生成に重要である．第78回日本癌学会学術集会，京都，9/2019
5　鈴木理樹，**室井　敦**，野島正寛，酒井リカ，横瀬智之，**宮城洋平**，**越川直彦**：びまん性大細胞B細胞性リンパ腫における新規診断補助ツールとしての逆相蛋白質アレイの有用性について．第78回日本癌学会学術集会,京都，9/2019
6　**宮崎　香**，小柳　潤，**星野大輔**，**宮城洋平**：インテグリン $\alpha 5\beta 1$: 細胞表面フィブロネクチン相互作用を介した新規がん浸潤モデル．：第78回日本癌学会学術集会，京都，9/2019
7　**廣島幸彦**，**笠島理加**，木村弥生，河村大輔，石川俊平，市川靖史，遠藤　格，**宮城洋平**：膵癌における包括的癌―間質インタラクトーム解析．第78回日本癌学会学術集会，京都，9/2019
8　**竹中克也**，**小森由香子**，**中村圭靖**，**小井詰史朗**，**宮城洋平**：血清飢餓低酸素環境で発現誘導される酵素とその産物による腫瘍悪性化機序.第78回日本癌学会学術集会，京都，9/2019
9　中村正子，高野　淳，フン マン タン，**宮城洋平**，醍醐弥太郎：トリプルネガティブ乳癌に対する新規予後バイオマーカーおよび治療標的として．URST1の特性．第78回日本癌学会学術集会，京都，9/2019
10　本村　瞳，尾崎綾栞，多森翔馬，野崎優香，高澤涼子，佐々木和教，石黒　斉，**宮城洋平**，長嶋洋治，田沼靖一，大野茂男，秋本和憲：ステージⅢ－Ⅳ乳癌におけるGLO1-PKCλ共発現患者は予後不良である．第78回日本癌学会学術集会，京都，9/2019
11　山口貴世志，**笠島理加**，清水英悟，高根希世子，池上恒雄，山口　類，井元清哉，宮野　悟，古川洋一：ロングリードシーケンスによるリンチ症候群患者のミスマッチ修復遺 伝子の構造異常の解析．第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019
12　Takei T, Yokoyama K, Nakamura S, Ogawa M, Kondoh K, Shimizu E, **Kasajima R**, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Tojo A: The utility of exome sequence of circulating tumor DNA in drug-resistant and/or advanced phase chronic myeloid leukemia. 第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019
13　有馬直輝，宇高恵子，池　成基，梅村孟司，**笠島理加**，小松利広，山下慶子，宮川知也，土肥　俊，横山彰仁，北岡裕章：Promiscuous binding of HLA-DRB1*04:05-binding peptides to other HLA class Ⅱ molecules. 第23回日本がん免疫学会総会，高知，8/2019
14　Udaka K, **Kasajima R**, Umemura T, Komatsu T, Doi S, Matsumoto M: Deciphering the specificity of MHC class Ⅱ molecules by exploiting peptidase-resistant peptides. 第92回日本生化学会大会，横浜，9/2019
15　Suzuki M, **Kasajima R**, Yokose T, Yamamoto R, Imoto S, Furukawa Y, Miyano S, Yoshioka E, Washimi K, Okubo Y, Kawachi K, **Miyagi Y**: Whole-exome sequencing of high-grade fetal lung adenocarcinomas. 第16回日韓合同スライドカンファレンス，韓国，11/2019
16　近藤幹也，横山和明，遊佐　希，伊藤美香，清水英悟，中村聡介，小川弥穂，武井智美，小林麻子，**笠島理加**，和田結花，山口　類，井元清哉，長村登紀子，内丸　薫，宮野　悟，東條有伸：治療関連骨髄系腫瘍15例のゲノム解析と液体生検によるファウンダークローンの後方視的追跡．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019
17　小川弥穂，横山和明，塚田信弘，余語孝夫，近藤幹也，武井智美，中村聡介，伊藤美香，小林麻子，遊佐　希，山本茉子，**笠島理加**，清水英悟，山口　類，井元清哉，宮野 悟，東條有伸：臨床シークエンスにて確定診断に至った慢性好中球生白血病の 2 例．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019
18　**小井詰史朗**, 小林　智, **高橋朋子**, 森本　学, 上野　誠, **宮城洋平**：胆道癌における血栓塞栓症リスクと血液中の組織因子との関連解析．第 2 回日本腫瘍循環器学会学術集会，旭川，9/2019
19　小林　智, **小井詰史朗**, 上野　誠, **宮城洋平**, 森本　学：膵癌患者の血液中組織因子による血栓塞栓症発症予測．第 2 回日本腫瘍循環器学会学術集会，旭川，9/2019

がん治療学部

発表論文

（先端的がん医療開発・支援ユニット）

1 **Kikuchi K**, **Hoshino D**. Sensitization of HT29 colorectal cancer cells to vemurafenib in three-dimensional collagen cultures. Cell Biology International, 44(2): 621-629, 2020

2 Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, **Hiroshima Y**, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, Oshima T. Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo, 34(1): 461-467, 2020

3 Oneyama M, Sakamoto N, Oue N, Kimura Y, **Hiroshima Y**, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Fujikawa H, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Yukawa N, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, **Miyagi Y**, Yasui W, Oshima T. Clinical Significance of KIAA1199 as a Novel Target for Gastric Cancer Drug Therapy. Anticancer Res, 39(12): 6567-6573, 2019

4 Maezawa Y, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Kano K, Aoyama T, **Hiroshima Y**, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, Oshima T. High gamma-glutamyl hydrolase and low folylpolyglutamate synthetase expression as prognostic biomarkers in patients with locally advanced gastric cancer who were administrated postoperative adjuvant chemotherapy with S-1. J Cancer Res Clin Oncol. Nov 21, 2019

5 **Hiroshima Y**, **Kasajima R**, Kimura Y, Komura D, Ishikawa S, Ichikawa Y, Bouvet M, Yamamoto N, Oshima T, Morinaga S, Singh SR, Hoffman RM, Endo I, **Miyagi Y**. Novel targets identified by integrated cancer-stromal interactome analysis of pancreatic adenocarcinoma. Cancer Lett, pii: S0304-3835(19) 30534-8, 2019

6 Igarashi K, Kawaguchi K, Murakami T, Miyake K, Kiyuna T, Miyake M, **Hiroshima Y**, Higuchi T, Oshiro H, Nelson SD, Dry SM, Li Y, Yamamoto N, Hayashi K, Kimura H, Miwa S, Singh SR, Tsuchiya H, Hoffman RM. Patient-derived orthotopic xenograft models of sarcoma. Cancer Lett, pii: S0304-3835(19) 30525-7, 2019

7 Hashimoto I, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, **Hiroshima Y**, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, Oshima T. Clinical Significance of PRKCI Gene Expression in Cancerous Tissue in Patients With Gastric Cancer. Anticancer Res, 39(10): 5715-5720, 2019

8 Kubo H, **Hiroshima Y**, Mori R, Saigusa Y, Murakami T, Yabushita Y, Sawada Y, Homma Y, Kumamoto T, Matsuyama R, Endo I. MiR-194-5p in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Peritoneal Washings is Associated with Peritoneal Recurrence and Overall Survival in Peritoneal Cytology-Negative Patients. Ann Surg Oncol, 26(13): 4506-4514, 2019

9 Murakami T, **Hiroshima Y**, Miyake K, Kiyuna T, Endo I, Zhao M, Hoffman RM. Efficacy of Tumor-Targeting Salmonella typhimurium A1-R against Malignancies in Patient-Derived Orthotopic Xenograft (PDOX) Murine Models (Review). Cells, 8(6) pii: E599, 2019

10 Miyake K, Higuchi T, Oshiro H, Zhang Z, Sugisawa N, Park JH, Razmjooei S, Katsuya Y, Barangi M, Li Y, Nelson SD, Murakami T, Homma Y, **Hiroshima Y**, Matsuyama R, Bouvet M, Chawla SP, Singh SR, Endo I, Hoffman RM. The combination of gemcitabine and docetaxel arrests a doxorubicin-resistant dedifferentiated liposarcoma in a patient-derived orthotopic xenograft model. Biomed Pharmacother, 117: 109093, 2019

11 Kawaguchi D, **Hiroshima Y**, Kumamoto T, Mori R, Matsuyama R, Ichikawa Y, Inayama Y, Endo I. Effect of Portal Vein Ligation Plus Venous Congestion on Liver Regeneration in Rats. Ann Hepatol, 18(1): 89-100, 2019

12 Murakami T, **Hiroshima Y**, Matsuyama R, Homma Y, Hoffman RM, Endo I. Role of the tumor microenvironment in pancreatic cancer. Ann Gastroenterol Surg, 3(2): 130-137, 2019

13 Kikuchi Y, Matuyama R, **Hiroshima Y**, Murakami T, Bouvet M, Morioka D, Hoffman RM, Endo I. Surgical and histological boundary of the hepatic hilar plate system: basic study relevant to surgery for hilar cholangiocarcinoma regarding the“true”proximal ductal margin. J Hepatobiliary Pancreat Sci, 26(5): 159-168, 2019

14 Miyake K, Kiyuna T, Kawaguchi K, Higuchi T, Oshiro H, Zhang Z, Wangsiricharoen S, Razmjooei S, Li Y, Nelson SD, Murakami T, **Hiroshima Y**, Matsuyama R, Bouvet M, Chawla SP, Singh SR, Endo I, Hoffman RM.

Regorafenib regressed a doxorubicin-resistant Ewing's sarcoma in a patient-derived orthotopic xenograft (PDOX) nude mouse model. Cancer Chemother Pharmacol, 83(5): 809-815, 2019

15 Miyake K, Kiyuna T, Li S, Han Q, Tan Y, Zhao M, Oshiro H, Kawaguchi K, Higuchi T, Zhang Z, Razmjooei S, Barangi M, Wangsiricharoen S, Murakami T, Singh AS, Li Y, Nelson SD, Eilber FC, Bouvet M, **Hiroshima Y**, Chishima T, Matsuyama R, Singh SR, Endo I, Hoffman RM. Combining Tumor-Selective Bacterial Therapy with Salmonella typhimurium A1-R and Cancer Metabolism Targeting with Oral Recombinant Methioninase Regressed an Ewing's Sarcoma in a Patient-Derived Orthotopic Xenograft Model. Chemotherapy, 63(5): 278-283, 2019

16 Miyake K, Kiyuna T, Miyake M, Kawaguchi K, Zhang Z, Wangsiricharoen S, Razmjooei S, Oshiro H, Higuchi T, Li Y, Nelson SD, Murakami T, **Hiroshima Y**, Kumamoto T, Matsuyama R, Bouvet M, Singh SR, Chawla SP, Endo I, Hoffman RM. Gemcitabine combined with docetaxel precisely regressed a recurrent leiomyosarcoma peritoneal metastasis in a patient-derived orthotopic xenograft (PDOX) model. Biochem Biophys Res Communm, 509(4): 1041-1046, 2019

（がん分子標的探索ユニット）

1 Julia R. Naso, **Shoutaro Tsuji**, and Andrew Churg. HEG1 is a highly specific and sensitive marker of epithelioid malignant mesothelioma. Am J Surg Pathol, 3/19/2020 (in press).

2 Tomomi Fujii, Hiroe Itami, Tomoko Uchiyama, Kohei Morita, Tokiko Nakai, Kinta Hatakeyama, Aya Sugimoto, Keiji Shimada, **Shoutaro Tsuji**, Chiho Ohbayashi. HEG1-responsive microRNA-23b regulates cell proliferation in malignant mesothelioma cells. Biochem Biophys Res Commun, 526: 927- 933, 2020.

その他出版物

（がん分子標的探索ユニット）

1 **辻　祥太郎**．中皮腫の糖鎖修飾がん抗原を標的とする抗体医薬の開発．Drug Delivery System, 34(4): 284- 290, 2019

2 **辻　祥太郎**，**今井浩三**．新しい悪性中皮腫マーカー・シアル化HEG1による精密・早期診断の開発と臨床への展開．医学のあゆみ（医歯薬出版株式会社），271(9): 810- 816, 2019

学会等発表

（先端的がん医療開発・支援ユニット）

1 **廣島幸彦**、**笠島理加**、木村弥生、河村大輔、石川俊平、遠藤　格、**宮城洋平**：Impact of comprehensive cancer-stromal interactome analysis in pancreatic cancer. 第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019

2 E. Yoshida, K. Usui, Y. Ito, Y. Ueno, M. Ozawa, S. Nojiri, Y. Kogo, T. Kato, **T. Ohtsu**, H. Kato, M. Itoh, H. Kawaji, Y. Terao: Novel approach to noninvasive assessment of lymph-nodes metastases with one-step isothermal quantification of mRNAs in primary tumor of endometrial cancer. 21th European Congress on Gynaecological Oncology，ギリシャ・アテネ，11/2019

3 E. Yoshida, K. Usui, Y. Ito, Y. Ueno, M. Ozawa, S. Nojiri, Y. Kogo, T. Kato, **T. Ohtsu**, H. Kato, M. Itoh, H. Kawaji, Y. Terao: Development of novel diagnosis method of uterine cancer using lymph node metastasis predictive biomarker for more personalized lymphadenectomy. 6th Biennal Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology，韓国・仁川，10/2019

4 **菊地慶司**：3次元コラーゲン培養系での大腸がん細胞のvemurafenibに対する高感受性．第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019

（がん分子標的探索ユニット）

1 Tahara T, **Tsuji S**, **Imai K**, Cui Y et al：悪性中皮腫特異的マーカーを標的とした抗体PETイメージング，第14回日本分子イメージング学会総会・学術集会，札幌，5/2019.

2 Hiroshima K, Wu D, Ozaki D, Hasegawa M, Koh E, Sekine Y, Tsuruoka S, Hamakawa S, Nabeshima K, **Tsuji S**, **Miyagi Y**, **Imai K**: HEG1 is useful for cytologic diagnosis of malignant mesothelioma with serosal effusions. The Pulmonary Pathology Society Biennial Meeting in Dubrovnik, クロアチア，6/2019.

3 **辻　祥太郎**，**今井浩三**：ジオール結合タグを用いた回収型分子標的薬の開発．第70回日本電気泳動学会総会，宮崎，7/2019.

4 **加藤嵩大**，森脇康博，三澤日出巳，**今井浩三**，**辻　祥太郎**：血液中の中皮腫マーカー・HEG1を測定可能なsandwich ELISA系の構築．第39回日本分子腫瘍マーカー研究会，京都, 9/2019.

5 **紅露　拓**，**辻祥太郎**，**今井浩三**，**笹田哲朗**：悪性中皮腫抗原を標的としたキメラ抗原受容体の最適化．第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019.

6 **金守悠希**，森脇康博，三澤日出巳，**今井浩三**，**辻　祥太郎**：抗中皮腫効果を有する二重特異性抗体．第10回グライコバイオロジクス研究会，東京，11/2019.

7 **金守悠希**、森脇康博、三澤日出巳、**今井浩三**、**辻　祥太郎**：抗中皮腫効果を有する二重特異性抗体薬の開発．

第42回日本分子生物学会年会，福岡，12/2019.

8　**小畑翔太郎**，森脇康博，三澤日出巳，**辻　祥太郎**：回収型分子標的薬・インテレクチン融合TNF受容体を用いた血中TNFの選択的除去．第42回日本分子生物学会年会，福岡，12/2019.

がん予防・情報学部

発表論文

1　**Nakamura S**, **Narimatsu H**, Nakata Y, **Sakaguchi M**, Konta T, Watanabe M, Ueno Y, Ishizawa K, Yamashita H, Kayama T, Yoshioka T. Efficiency score from data envelopment analysis can predict the future onset of hypertension and dyslipidemia: A cohort study. Sci Rep, 9: 16309, 2019

2　Nakata Y, Watanabe Y, **Narimatsu H**, Yoshimura T, Otake H, Sawa T. Japanese surgical resource utilization in 2016. Int J Health Care Qual Assur, 32(6): 1013-21, 2019

3　Okamura Y, Yasukawa S, **Narimatsu H**, Boku N, Fukutomi A, Konishi M, Morinaga S, Toyama H, Kaneoka Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sata N, Yamakita K, Takahashi A, Kainuma O, Hishinuma S, Yamaguchi R, Nagino M, Hirano S, Yanagisawa A, Mori K, Uesaka K. The hENT1 expression is a predictor in patients with resected pancreatic cancer treated with adjuvant S-1 chemotherapy. Cancer science, 111: 548-560, 2020

4　Isaka T, Nakayama, H, Ito H, Yokose T, **Katayama K**, Yamada K, Masuda M. Efficacy of platinum-based adjuvant chemotherapy on prognosis of pathological stage Ⅱ/Ⅲ lung adenocarcinoma based on EGFR mutation status: a propensity score matching analysis. Mol Diagn Ther, 23(5): 657-665,. 2019 doi: 10.1007/s40291-019-00419-9.2019

5　Taniuchi K, Furihata M, Naganuma S, **Sakaguchi M,** Saibara T: Overexpression of PODXL/ITGB1 and BCL7B/ITGB1 accurately predicts unfavorable prognosis compared to the TNM staging system in postoperative pancreatic cancer patients. PLoS One, 5; 14(6): e0217920, 2019 doi: 10.1371/journal.pone．0217920. e Collection 2019.

6　Takeda H, Ohe R, Fukui T, Suzuki S, **Nakamura S,** Watanabe K, Yoshioka T. Rapid Progression of Intracranial Dural Metastases in a Patient with Carcinoma of Unknown Primary Site. Case Rep Oncol, 12: 666-670, 2019

その他出版物

1　齊藤真美，松田美香，髙橋將人，**片山佳代子**，**阪口昌彦**，田中里奈，松坂方士．北海道と神奈川県における乳がん罹患数の将来推計と医療施設および医療従事者の配置の検討，JACRモノグラフ，2019

2　**成松宏人**．ゲノム研究の進歩とがん検診―今までの道のりと未来への期待―．日本がん検診・診断学会誌，27(2)：134-7，2020

学会等発表

1　de Luise C, Chen H, Nonnenmacher E, Sugiyama N, Hase R, Kinjo M, Suzuki D, **Katayama K**, Higuchi T, Jinno S, Tanaka Y, Morishima T, Setoguchi S: Validity of Claims-based Definitions for Rheumatoid Arthritis, Selected Cancers And Infectious Diseases In Japan: Results From Validate-J Study. 35th ICPE Meeting, 米国・フィラデルフィア，8/2019

2　de Luise C, Chen H, Nonnenmacher E, Sugiyama N, Hase R, Kinjo M, Suzuki D, **Katayama K**, Higuchi T, Jinno S, Tanaka Y, Morishima T, Setoguchi S: Validity Of Claims-based Definitions For Rheumatoid Arthritis, Selected Cancers And Infectious Diseases In Japan: Results From Validate-J Study Ⅱ. ISPE's 12th Asian Conference on Pharmacoepidemiology，京都，9/2019

3　Ito Y, Kanoh A, Yuasa M, Saran U, Satyajit Rout, Ito H, **Katayama K**, Katanoda K, Matsuda T, Saruki N: Challenge in translating information about cancer survival to general people: sharing messages for cancer survivors using statistics of conditional survival. NAACCR/IACR Combined Annual Conference, カナダ，6/2019

4　**Katayama K**, Ishikawa D, **Sakaguchi M**: Cancer education support project: Spread of cancer education in Japan based on web search. 12th European Public Health Conference, フランス・マルセイユ，11/2019

5　**Katayama K**, Sato Asai M, Ougihara A, Suketomo H. Development and validation of a Peer Education program for cervical cancer prevention. EUROGIN 2019 International multidisciplinary HPV congress, モナコ公国, 12/2019

6　Sato A, Haneda E, Suganuma N, **Narimatsu H**: Preliminary screening for hereditary breast and ovarian cancer using a chatbot augmented intelligence genetic counselor. 64th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics，長崎，11/2019

7　羽田恵梨，佐藤　杏，瀬畑善子，清水　哲，谷島和美，**成松宏人**：小学生の娘へ遺伝性乳がん卵巣がん症候群を伝えた１症例．第25回日本家族性腫瘍学会学術集会，東京，6/2019

8　佐藤　杏，羽田恵梨，上野　誠，菅沼伸康，山下年成，**成松宏人**：がん遺伝子パネル検査を契機に診断された遺伝性乳がん卵巣がん症候群の１家系．第43回日本遺伝カ

ウンセリング学会学術集会，北海道，8/2019

9　**中村　翔**：肥満の遺伝×環境相互作用研究およびオペレーションズリサーチの応用研究：高血圧の一次予防研究．令和元年度コホート・生体試料支援プラットフォーム若手支援研究成果発表会，豊橋，1/2020

10　斎藤裕麿，施　建明，**中村　翔**，**成松宏人**：凸包とデータの距離による2型糖尿病の判別．日本オペレーションズ・リサーチ学会 2020年春季研究発表会，奈良，3/2020

11　助友裕子，**片山佳代子**，扇原　淳，佐藤美紀子：大学生のヘルスリテラシーとがん知識との関連（第5報）ピア学生の養成プロセス．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，10/2019

12　**片山佳代子**，助友裕子，扇原　淳，佐藤美紀子．大学生のヘルスリテラシーとがんの知識との関連（第6報）ピア教育の効果検証．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，10/2019

13　鈴木大介，王　鴻，周　思宇，扇原　淳，助友裕子，**片山佳代子**：大学生のヘルスリテラシーとがんの知識との関連（第7報）中国大学生による検討．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，10/2019

14　石川大介，**片山佳代子**：がん電話相談の質的分析に基づいたテキストマイニングによる可視化．第39回医療情報学連合大会・第20回日本医療情報学会学術大会，千葉，11/2019

15　**阪口昌彦**，**中村　翔**，**成松宏人**：DEAを用いた予防医療確立への挑戦．OR学会秋季研究発表会，広島，9/2019

がん免疫療法研究開発学部

発表論文

1　Suekane S, Yutani S, Yamada A, **Sasada T**, Matsueda S, Takamori S, Toh U, Kawano K, Yoshiyama K, Sakamoto S, Sugawara S, Komatsu N, Yamada T, Naito M, Terasaki M, Mine T, Itoh K, Shichijo S, Noguchi M. Identification of Biomarkers for Personalized Peptide Vaccination in 2,588 Cancer Patients. Int J Oncol. 56(6): 1479-1489, 2020.

2　Kazama K, **Otake J**, Satoyoshi T, Shiozawa M, Sugano N, Sato S, Atsumi Y, Kano K, Murakawa M, Maezawa Y, Hashimoto I, Numata M, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, **Sasada T**, Masuda M: Distribution of Regulatory T-Cells and Other Phenotypes of T-Cells in Tumors and Regional Lymph Nodes of Colorectal Cancer Patients. In Vivo. 34(2): 849-856, 2020.

3　Noguchi M, Arai G, Egawa S, Ohyama C, Naito S, Matsumoto K, Uemura H, Nakagawa M, Nasu Y, Eto M, Suekane S, **Sasada T**, Shichijo S, Yamada A, Kakuma T, Itoh K. Mixed 20-peptide cancer vaccine in combination with docetaxel and dexamethasone for castration-resistant prostate cancer: a randomized phase Ⅱ trial. Cancer Immunol Immunother. 69(5): 847-857, 2020.

4　Ohkuma R, **Yada E**, Ishikawa S, Komura D, Ishizaki H, Tamada K, Kubota Y, Hamada K, Ishida H, Hirasawa Y, Ariizumi H, Satoh E, Shida M, Watanabe M, Onoue R, Ando K, Tsurutani J, Yoshimura K, Yokobori T, **Sasada T**, Aoki T, Murakami M, Norose T, Ohike N, Takimoto M, Izumizaki M, Kobayashi S, Tsunoda T, **Wada S**. High expression of olfactomedin-4 is correlated with chemoresistance and poor prognosis in pancreatic cancer. PLoS One. 15(1): e0226707, 2020.

5　Shimizu Y, Yoshikawa T, Kojima T, Shoda K, Nosaka K, Mizuno S, **Wada S**, **Fujimoto Y**, **Sasada T**, Kohashi K, Bando H, Endo I, Nakatsura T. Heat shock protein 105 peptide vaccine could induce antitumor immune reactions in a phase I clinical trial. Cancer Sci. 110(10): 3049-3060, 2019.

6　Hirakawa Y, Ogata T, **Sasada T**, Yamashita T, Itoh K, Tanaka H, Okuda K: Immunological consequences following splenectomy in patients with liver cirrhosis. Exp Ther Med. 18(1): 848-856, 2019.

7　**Iiizumi S**, **Ohtake J**, **Murakami N**, **Kouro T**, **Kawahara M**, **Isoda F**, Hamana H, Kishi H, Nakamura N, **Sasada T**. Identification of Novel HLA Class Ⅱ-Restricted Neoantigens Derived from Driver Mutations. Cancers (Basel). 11(2), 2019.

8　Narita Y, Arakawa Y, Yamasaki F, Nishikawa R, Aoki T, Kanamori M, Nagane M, Kumabe T, Hirose Y, Ichikawa T, Kobayashi H, Fujimaki T, Goto H, Takeshima H, Ueba T, Abe H, Tamiya T, Sonoda Y, Natsume A, Kakuma T, Sugita Y, Komatsu N, Yamada A, **Sasada T**, Matsueda S, Shichijo S, Itoh K, Terasaki M. A randomized, double-blind, phase Ⅲ trial of personalized peptide vaccination for recurrent glioblastoma. Neuro Oncol. 21(3):348-359, 2019.

9　Matsuo N, Azuma K, Hattori S, **Ohtake J**, Kawahara A, Ishii H, Tokito T, Yamada K, Shibata Y, Shimokawaji T, Kondo T, Kato T, Saito H, Yamada K, **Sasada T**, Hoshino T. Association between soluble immune mediators and tumor responses in patients with nonsmall cell lung cancer treated with anti-PD-1 inhibitor. Int J Cancer. 144(5): 1170-1179, 2019.

10　Matsuo N, Azuma K, **Sasada T**. Assessment of soluble immune mediators as potential biomarkers during immune checkpoint inhibitor therapy. Oncotarget. 10(20): 1866-1867, 2019.

11　Nakahara Y, **Kouro T**, **Igarashi Y**, **Kawahara M**,

Sasada T. Prospects for a personalized peptide vaccine against lung cancer. Expert Rev Vaccines. 18(7): 703-709, 2019.

その他の出版物

1　**笹田哲朗**，西川博嘉．がん免疫成立の基礎となるCancer-Immunity Cycle. Trends in Cancer Immunology 2(1)：2-5，2019

2　**紅露　拓**，**笹田哲朗**．遺伝子変異由来ネオアンチゲンを標的とした特異的免疫療法．医学のあゆみ　271(2)：163-168，2019

3　松尾規和，**笹田哲朗**．がん免疫療法のバイオマーカーの現状および今後の展望．実験医学 増刊 Vol.37 No.15「がん免疫療法の個別化を支える新・腫瘍免疫学」180-188，2019

4　**氷室秀知**：オゾンの腸管上皮に及ぼす影響について．医療・環境オゾン研究 26(1)：21-22，2019

学会等発表

1　Ohkuma R, **Yada E**, Kubota Y, Hamada K, Ishida H, Hirasawa Y, Ariizumi H, Satoh E, Tsurutani J, Yoshimura K, **Sasada T**, Aoki T, Murakami M, Norose T, Ohike N, Takimoto M, Tsunoda T, **Wada S**: High expression of Olfactomedin-4 correlates with chemoresistance and poor prognosis for pancreatic cancer. AACR Annual Meeting 2019，米国・アトランタ，4/2019

2　Ishihara M, Kitano S, Hattori H, Miyahara Y, Kato H, Mishima H, Yamamoto N, Funakoshi T, Kojima T, **Sasada T**, Sato E, Okamoto S, Tomura D, Chono H, Nukaya I, Mineno J, Ikeda H, Watanabe T, Kageyama S, Shiku H: Tumor responses and early onset cytokine release syndrome in synovial sarcoma patients treated with a novel affinity-enhanced NY-ESO-1-targeting TCR-redirected T cell transfer. ASCO Annual Meeting 2019, 米国・シカゴ，6/2019

3　Ishihara M, Hattori H, Arai E, Nishida Y, Takada K, Emori M, Kawai A, Ueda T, Endo M, Matsumoto Y, **Sasada T**, Sato E, Yamada T, Matsumine A, Nagata Y, Harada N, Shiku H, Kageyama S: Phase Ⅰ/Ⅱ clinical trial of NY-ESO-1-specific TCR-engineered T-cell transfer combined with a novel T-cell stimulator CHP: NE1 for patients with refractory soft tissue sarcoma. ASCO Annual Meeting 2019，米国・シカゴ，6/2019

4　Matsuo N, Azuma K, Murotani K, Ishii H, Tokito T, Yamada K, Shibata Y, Shimokawaji T, Nakahara Y, Kondo T, Kato T, Saito H, Yamada K, **Sasada T**, Hoshino T: Early changes in plasma CXCL2 and MMP2 levels predicts the response to anti-PD-1 therapy in non-small-cell lung cancer. 2019 World Conference on Lung Cancer，スペイン・バルセロナ，9/2019

5　Azuma K, Nakahara Y, Matsuo N, Ishii H, Tokito T, Murotani K, Hoshino T, **Sasada T**: Changes of BCR Repertoire Are Predictive Biomarker for the Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitor in NSCLC. 2019 World Conference on Lung Cancer，スペイン・バルセロナ，9/2019

6　Hattori H, Ishihara M, Kitano S, Miyahara Y, Kato H, Mishima H, Yamamoto N, Funakoshi T, Kojima T, **Sasada T**, Sato E, Okamoto S, Tomura D, Chono H, Nukaya I, Mineno J, Ikeda H, Watanabe T, Kageyama S, Shiku H: A novel affinity-enhanced NY-ESO-1-targeting TCR-redirected T cell transfer exhibited early-onset cytokine release syndrome and subsequent tumor responses in synovial sarcoma patients. ESMO 2019 Congress，スペイン・バルセロナ，9/2019

7　**Sasada T**, **Iizumi S**, **Kouro T**, **Kawahara M**, Nakamura N: Immunogenicity of HLA class Ⅱ-restricted neoantigens derived from driver mutations. Fifth CRI-CIMT-EATI-AACR International Cancer Immunotherapy Conference，フランス・パリ，9/2019

8　Nakamura Y, **Iizumi S**, Ueda H, Yamamoto S, Tatsuno K, Nakayama A, Yamamoto K, **Koro T**, **Hasegawa K**, Nakamura N, Aburatani H, **Sasada T**, Kawamura T: Proteogenomics-based identifying neoantigens in refractory cancers using xenograft mice. 18th Human Proteome Organization World Congress，オーストラリア・アデレード，9/2019

9　**Himuro H**, Matsumura H, Abe T: The effect of ozone on colonic epithelial cells. 24th IOA Ozone World Congress & Exhibition，フランス・ニース，10/2019

10　Matsuo N, Azuma K, Murotani K, Naito Y, Ishii H, Tokito T, Shimokawaji T, Nakahara Y, Kondo T, Kato T, Saito H, Yamada K, **Sasada T**, Hoshino T: Changes in plasma CXCL2 and MMP2 levels reflect response to anti-PD-1 therapy in non-small-cell lung cancer patients. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，東京，7/2019

11　Nakahara Y, Matsuo N, Azuma K, Naito Y, Ishii H, Tokito T, **Igarashi Y**, **Kouro T**, Usui R, Shimokawaji T, Kondo T, Kato T, Saito H, Yamada K, Tomoaki Hoshino T, **Sasada T**: Changes of BCR repertoire are predictive biomarker for the efficacy of immune checkpoint inhibitor in NSCLC. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，東京，7/2019

12　**Iizumi S**, **Ohtake J**, **Kouro T**, **Kawahara M**, **Igarashi Y**, Nakamura N, **Sasada T**: Immunogenicity of frequent driver mutations; identification of novel HLA class Ⅱ-restricted neoantigens. 第23回日本がん免疫学会総会，

高知，8/2019

13　**五十嵐友香**, 中原善朗, 松尾規和, 東　公一, **笹田哲朗**: B細胞受容体（BCR）のレパトア解析は非小細胞肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤のバイオマーカーとして有用である．第23回日本がん免疫学会総会, 高知, 8/2019

14　**Kouro T**, Tsuji S, Imai K, **Sasada T**: Optimization of chimeric antigen receptor construct targeting malignant mesothelioma antigen. 第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019

15　**Kouro T**, Imai K, **Sasada T**: Optimization of CAR T cells recognizing malignant mesothelioma specific antigen. 第48回日本免疫学会学術集会，浜松，12/2019

16　**Igarashi Y**, **Ohtake J**, **Fujimoto Y**, **Tetsuro Sasada**: Enhanced lymphocyte accumulation through chemokine overexpression in tumor microenvironment. 第48回日本免疫学会学術集会，浜松，12/2019

17　**氷室秀知**: オゾン注腸による腸炎に対する影響の検討．第23回日本統合医療学会，鹿児島，12/2019

特許

1　国際出願 PCT/JP2020/18
発明の名称：新規ネオアンチゲン及びそれらを用いたがん免疫治療薬
発明者：**笹田哲朗**、**大竹淳也**、**飯泉　晋**、中村徳弘、**磯田扶美子**、小高和彦
出願人：地方独立行政法人神奈川県立病院機構、ブライトパス・バイオ株式会社
出願日：2020年 1 月 6 日

第３節　臨床研究所・病院共同研究一覧

	研　　究　　課　　題	研 究 者 名
共同１	ペンシルビームスキャニング法による重粒子線治療のRBE測定	塚原愛海ほか３名
共同２	逆相蛋白質アレイ解析を用いたEGFR exon 21 L858R point mutationを有するstage Ⅱ, Ⅲ肺癌の再発、死亡リスクを制御する分子機序の解明	伊藤宏之ほか６名
共同３	レーザーマイクロダイセクションを用いた甲状腺分化癌と未分化癌の遺伝子解析	戸田宗治ほか２名
共同４	腎細胞癌に対するnivolumab治療におけるバイオマーカー探索	野口　剛ほか９名
共同５	非小細胞肺癌における血清PD-1/PD-L1の発現解析と免疫チェックポイント阻害剤の耐性メカニズムの検討	村上修司ほか８名
共同６	肝内胆管癌根治術後症例のTissue microarrayを用いたtumor-infiltrating myeloid cellsの発現解析と臨床的意義の検討	上岡祐人ほか７名
共同７	膀胱癌におけるEphA2発現の免疫組織学的研究	逢坂公人ほか８名
共同８	小細胞肺癌における化学療法と免疫チェックポイント療法の併用療法が免疫チェックポイント分子におよぼす影響	中原善朗ほか10名
共同９	神経内分泌系の分化を有する乳癌の分子病態の解明	吉岡恵美ほか８名
共同10	甲状腺癌オルガノイドを用いた新規治療標的の同定とプレシジョンメディシンの確立	菅沼伸康ほか１名
共同11	腹腔内洗浄液中microRNA解析による胃癌再発予測マーカーの探索	渡邊勇人ほか２名
共同12	治癒切除後早期再発膵癌におけるマイクロサテライト不安定性（MSI）の発現率とその臨床的意義	村川正明ほか５名

第４節　その他の学術講演

氏　名	題　　名	会　　合　　名	年月日	形式
〈がん生物学部〉 越川直彦	細胞表層でのプロテオリシスよるがん悪性化進展制御の解明とその産物の臨床応用	宮崎大学大学院特別セミナー	令和元年12月	講演
越川直彦	逆相蛋白質アレイ（reverse phase protein array：RPPA）によるリンパ腫診断の検討	第４回宮崎組織微小環境セミナー	令和元年12月	講演
〈がん分子病態学部〉 宮城洋平	Patient-derived xenograft models for a strategy to develop drugs targeting cancer cells and microenvironment interaction	患者由来がんモデル―基礎研究から臨床応用まで―　シンポジウム （国立がん研究センター）	令和元年８月	講演
宮城洋平	リキッド診断概説	第27回日本がん検診・診断学会総会	令和元年９月	講演
宮城洋平	リキッド診断の展望：前立腺がん	第27回日本がん検診・診断学会総会	令和元年９月	講演
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	膵癌の新規治療戦略創出に向けての多角的アプローチ	臨床研究所セミナー	令和元年５月	講演
辻　祥太郎	中皮腫の糖鎖修飾がん抗原を標的とする抗体医薬の開発	第35回日本DDS学会学術集会	令和元年７月	第12回 日本DDS学会 水島賞受賞講演
辻　祥太郎、 今井浩三	中皮腫がん抗原の探索と臨床への応用	第１回日本石綿・中皮腫学会学術集会	令和元年９月	講演
辻　祥太郎	新しい中皮腫マーカー抗体SKM9-2とその抗原・シアル化HEG1	第14回中皮腫細胞診セミナー	令和元年10月	講演
〈がん予防・情報学部〉 成松宏人	ゲノム研究の進歩とがん検診 ～今までの道のりと未来への期待～	第27回日本がん検診・診断学会総会	令和元年９月	セミナー 講演
成松宏人	Hybrid” Genomic Cohort Study: A Novel Approach for Innovation School of Public Health	復旦大学公共衛生学院セミナー （中国・上海）	平成31年４月	セミナー 講演
成松宏人	がんと遺伝～遺伝情報を治療と予防に活かす～	日本海総合病院　遺伝カウンセリング研修会	令和元年５月	講演
成松宏人	「ハイブリッドゲノムコホート」―イノベーションのための新しいアプローチ	千葉県がんセンター研究所 第867回集談会	令和元年10月	講演
成松宏人	がん予防でいちばん大事なこと―今までの役割、未来への期待― 2019	保健医療セミナー	令和元年10月	講演
成松宏人	“ハイブリッド”コホート研究から発信するヘルスイノベーションの可能性　未病社会の取り組み	国際シンポジウム・ME-BYOサミット神奈川 2019	令和元年11月	講演
成松宏人	“ハイブリッド”コホート研究から発信するME-BYOのデザイン ME-BYOでデザインするまちづくり	国際シンポジウム・ME-BYOサミット神奈川 2019	令和元年11月	講演

氏　名	題　　名	会　　合　　名	年月日	形式
片山佳代子	がん教育に必要な正しいがん予防知識とは　学校教育におけるがん教育	令和元年第１回がん教育指導者研修講座（神奈川県教育委員会主催）	令和元年６月	講演
片山佳代子	がん電話相談から見えたがんサバイバーの性差とアンメットニーズ	がん患者学会2019	令和元年９月	指定講演
片山佳代子	全国がん登録から考える日本のがんの現状と対策～神奈川県からの報告	第78回日本公衆衛生学会総会公募シンポジウム	令和元年10月	講演
片山佳代子	子どもたちに伝えるがんの知識とは	2019年度がん教育研修会（横浜）	令和元年10月	講演
片山佳代子	がんの情報発信最前線	肺がん市民公開講座（第60回日本肺癌学会学術集会）（横浜）	令和元年12月	講演
片山佳代子	がん教育の実践	学校保健研究会（神奈川学校保健会主催）	令和２年１月	講演
〈がん免疫療法研究開発学部〉笹田哲朗	がん免疫治療を知る	第60回科学技術週間　第32回県民のための公開講演会「がん免疫療法の現状と最近の進歩」（横浜）	平成31年４月	講演
笹田哲朗	免疫チェックポイント阻害剤におけるバイオマーカー探索	第２回がん免疫療法セミナー（横浜）	平成31年４月	講演
笹田哲朗	がん免疫治療の現状と最近の進歩	Diabetes Summer Seminar 2019（東京）	令和元年７月	講演
笹田哲朗	がん免疫療法の現状とがんワクチン・免疫センターでの取組み	放送大学神奈川学習センター（横浜）	令和元年12月	講演

第５節　公的研究費による研究一覧

１　厚生労働省・文部科学省

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・若手研究（B）
課　　題　名：生体組織の構築と破綻を制御する分子機構の理数モデル解析（2017－2021年度）
研究代表者名(所属)：室井　敦（がん生物学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：膜型プロテアーゼの基質分解産物に着目したがん特異的に発現するバイオマーカーの解析（2017－2019年度）
研究代表者名(所属)：越川直彦（がん生物学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究（研究提案型）
課　　題　名：細胞社会ダイバーシティーの統合的解明と制御（2017－2020年度）
研究分担者名(所属)：越川直彦（がん生物学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：前立腺がん「脂質欠乏低酸素環境」の病態解析と進行度予測腫瘍マーカーの開発（2017－2021年度）
研究代表者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）
研究分担者名(所属)：小井詰史朗（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：PDXとCDK４阻害剤を用いた脱分化型脂肪肉腫の治療戦略の確立（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）
研究分担者名(所属)：笠島理加（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：甲状腺未分化癌患者由来オルガノイドによる新規薬剤感受性予測とバイオマーカーの確立（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：異所発現性血液凝固第７因子の癌の静脈血栓塞栓症,悪性化への役割の解明（平成29－32年度）
研究代表者名(所属)：小井詰史朗（がん分子病態学部）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：甲状腺未分化癌におけるエピジェネティクスをターゲットとした治療戦略（2017－2019年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：特発性間質性肺炎に合併する肺腺癌の病理学的特性と組織発生（2017－2019年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：卵巣明細胞癌の血液凝固異常・抗がん剤耐性に着目したトランスレーショナルリサーチ
（2017－2019年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：エリスロポエチンの子宮筋腫に対する増大効果をターゲットとした分子標的療法の開発
（2017－2019年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：腫瘍由来のエリスロポエチンが子宮筋腫を巨大に増大させる機序の解明と臨床的応用（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：エリスロポエチンの子宮筋腫に対する増大効果をターゲットとした分子標的療法の開発
（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・新学術領域（研究領域提案型）
課　　題　名：「学術研究支援基盤形成」コホート・生体試料支援プラットフォーム（2016－2022年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：膵癌微小環境におけるTGFβシグナリングの制御と腫瘍免疫との関連（2019－2021年度）
研究代表者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：膵癌における癌局所免疫が果たす役割の解明（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：膵癌・膵前癌病変における神経軸索ガイダンス因子CRMP4の機能解明（2017－2019年度）
研究分担者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：PDXとCDK 4 阻害剤を用いた脱分化型脂肪肉腫の治療戦略の確立（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：大津　敬（がん治療学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：腫瘍血管の分子標的・シアル化HEG1 の分子性状解析.（2019－2021年度）
研究代表者名(所属)：辻　祥太郎（がん治療学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（A）
課　　題　名：生命の生存限界を探る：海底下高温高圧環境での活動的生命圏の限界と生き残り戦略（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：阪口昌彦（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・新学術領域「学術研究支援基盤形成」
課　　題　名：コホート・生体試料支援プラットフォーム（2016－2021年度）
研究分担者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：データ包括分析法を活用した個別化予防医療の開発（2017－2020年度）
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）
研究分担者名(所属)：片山佳代子（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：認可外保育所に勤務する保育士の離職原因の解明（2015－2019年度）
研究分担者名(所属)：片山佳代子（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：Peer Educationによる子宮頸がん及びHPV関連がん予防教育プログラムの開発（2016－2019年度）
研究代表者名(所属)：片山佳代子（がん予防・情報学部）
研究分担者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）
課　　題　名：進行膵癌に対するがん化学療法の費用対効果に関する検討（2019－2024年度）
研究分担者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
課　　題　名：全国がん登録とがん検診のリンケージによるがん検診勧奨（2018－2020年度）
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）
研究分担者名(所属)：片山佳代子、中村翔、阪口昌彦（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
課　　題　名：がん対策の進捗管理のための指標と測定の継続的な発展に向けた研究（2016－2019年度）
研究分担者名(所属)：片山佳代子（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
課　　題　名：パートナーシップでつくるがん統計情報の国民への還元方法に関する研究（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：片山佳代子（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）
課　　題　名：ネオアンチゲン特異的な抗腫瘍免疫応答の解析と個別化がん免疫治療への応用（2017－2019年度）
研究代表者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・挑戦的研究（萌芽）
課　　題　名：抗PD－１抗体治療後の末梢血Ｂ細胞のレパトア解析と抗原特異性の解明（2018－2019年度）
研究代表者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）
研究分担者名(所属)：紅露　拓（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　名：免疫チェックポイント阻害剤の汎用性向上の為の異所性リンパ濾胞誘導法の確立（2019－2021年度）
研究代表者名(所属)：五十嵐友香（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・若手研究（B）
課　　題　名：IL－22BP依存性制御性Ｂ細胞がアブスコパル効果に及ぼす影響の検討（2016－2019年度）
研究代表者名(所属)：氷室秀知（がん免疫療法研究開発学部）

2　日本医療研究開発機構

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：革新的がんバイオマーカーラミニンγ2単鎖測定による高悪性度膵がん診断の実用化研究（2018－2021年度，金沢大学山下班）
研究分担者名(所属)：越川直彦（がん生物学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
課　　題　名：新たな肝がん高危険群患者層別化マーカーの開発実用化研究（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：越川直彦（がん生物学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　肝炎等克服実用化研究事業,肝炎等克服緊急対策研究事業
課　　題　名：C型慢性肝炎からの肝発がんを予防する研究（2019 ～ 2021年度）
研究分担者名(所属)：越川直彦（がん生物学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：アミノ酸プロファイルによるがん免疫微小環境の代謝リプログラミング評価とがん免疫治療患者層別化技術の開発（2019－2023年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構補助事業　次世代がん医療創生研究事業
課　　題　名：子宮体がんリンパ節転移予測診断マーカーを用いた術中迅速検査技術の開発（2019－2020年度）
研究分担者名(所属)：大津　敬（がん治療学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（糖鎖創薬）
課　　題　名：新しい糖鎖創薬の標的・HEG1に対する抗体医薬の開発.（2018－2020年度）
研究代表者名：辻　祥太郎（がん治療学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構 次世代がん医療創生研究事業
課　　題　名：新規マーカーによる悪性中皮腫の精密・早期診断の開発.（2016－2021年度）
研究分担者名：辻　祥太郎（がん治療学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
課　　題　名：アミノ酸プロファイルによるがん免疫微小環境の代謝リプログラミング評価とがん免疫治療患者層別化技術の開発（2019－2023年度）
研究代表者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：難治性がんにおけるペプチドミクス解析によるネオアンチゲン同定法の確立と個別化がん免疫療法への応用（2017－2019年度）
研究代表者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）
研究分担者名(所属)：紅露　拓（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：難治性肉腫に対するワクチン併用TCR遺伝子改変T細胞輸注療法の多施設共同医師主導治験（2017－2019年度）
研究分担者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構・次世代がん医療創生研究事業
課　　題　名：新規マーカーによる悪性中皮腫の精密・早期診断の開発（2016－2021年度）
研究分担者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

3　その他

研　究　費　名：公立大学法人横浜市立大学,東ソー株式会社　受託研究費
課　　題　名：卵巣がんの診断・治療に資する分子生物学的研究（2018－2019年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平，小井詰史朗，太田幸秀（がん分子病態学部）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金研究助成
課　　題　名：AIを活用した家族性腫瘍拾い上げシステムの開発研究
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：財団法人武田科学振興財団 ビジョナリーリサーチ継続助成（ホップ）
課　　題　名：敗血症から救命する革新技術.（2017- 2019年度）
研 究 代 表 者 名：辻　祥太郎（がん治療学部）

研　究　費　名：公益財団法人 内藤記念科学振興財団奨励金・研究助成
課　　題　名：悪性中皮腫に対する新規キメラ抗原受容体（CAR－T）療法の開発（2017－2019年度）
研究代表者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

第6節　臨床研究所セミナー

第1回
演　　題：膵癌の新規治療戦略創出に向けての多角的アプローチ
演者(所属)：廣島幸彦（神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん治療学部／がんゲノム診療センター／がんゲノム診療科 医長）
開催年月日：令和元年5月23日㈭

第2回
演　　題：びまん型胃がんのゲノムと免疫ゲノム
演者(所属)：石川俊平（東京大学大学院 医学系研究科衛生学分野 教授）
開催年月日：令和元年5月24日㈮

第3回
演　　題：マウスモデルを用いた皮膚発がん関連遺伝子の探索
演　　者（所属）：若林雄一（千葉県がんセンター研究所がんゲノムセンター 実験動物研究部 部長）
開催年月日：令和元年7月5日㈮

第4回
演　　題：人工知能とスーパーコンピューターによるがんゲノムビッグデータ解析
演者(所属)：井元清哉（東京大学医科学研究所ヘルスインテリジェンスセンター 健康医療データサイエンス分野 教授）
開催年月日：令和元年11月7日㈭

第5回
演　　題：遺伝環境相互作用の解明～「神奈川県みらい未病コホート」の取り組み～
演者(所属)：中村　翔（神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科 講師）
開催年月日：令和元年12月2日㈪

第6回
演　　題：Undruggableな遺伝子異常を標的とした 新規治療薬開発
演者(所属)：高取敦志（千葉県がんセンター研究所 先進治療開発室 室長）
開催年月日：令和2年1月23日㈭

第７節　県民のための公開行事

Ⅰ　第32回科学技術週間講演会

テーマ：「がん免疫治療を知る」
日　時：平成31年４月17日（水曜日）14：00－16：30
場　所：旭区民文化センター（サンハート）ホール
演題と講師
1．「がん免疫治療の現状と最近の進歩」
　臨床研究所・がん免疫療法研究開発学部部長　笹田哲朗
2．「腎がん、膀胱がん、腎盂尿管がんに対する免疫療法」
　泌尿器科部長　岸田　健
3．「肺がんの免疫治療の最新情報」
　呼吸器内科部長　山田耕三
来場者数：198人

Ⅱ　かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア2019

日　時：令和元年７月13日㈯　10：00 ～ 17：30
場　所：新都市ホール ホワイエ（そごう横浜店９階）
臨床研究所の展示テーマ：
　つくる！！　変える！！　未来のがん医療

Ⅲ　神奈川サイエンスサマー参加行事

青少年の「理科離れ」に対する取り組みとして、神奈川県では毎年夏に県の試験研究機関、県内の博物館、科学館、大学、企業の研究機関で科学講座や体験教室などを通して若い世代に科学に親しんでもらう企画「神奈川サイエンスサマー」を実施しており、当研究所でも中学生・高校生を対象として科学教室を実施している。

テーマ「がん細胞を探し出せ！」
日　時：令和元年８月８日㈭
場　所：がんセンター管理研究棟５階講堂および４階臨床研究所
参加者：中学生と高校生　23人
講　師：臨床研究所がん生物学部　主任研究員　星野大輔
内　容：遺伝子と細胞の説明および遺伝子とがんの関係についての講義、がん細胞の顕微鏡による観察と細胞からのDNA抽出、PCR法を用いたDNA鑑定実験を行なった。

第2章　病　　院

第1節　研究課題一覧

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
糖尿病内科	1　免疫チェックポイント阻害薬使用患者における内分泌代謝関連免疫学的有害事象発症事例の検討 2　担癌患者に対する血糖管理におけるリラグルチドの有効性の検討	堀井三儀 堀井三儀
呼吸器内科	1　非小細胞肺癌完全切除後Ⅱ-Ⅲ期のEGFR変異陽性例に対するシスプラチン＋ビノレルビン併用療法を対照としたゲフィチニブの術後補助化学療法のランダム化比較第Ⅲ相試験（多施設共同医師主導治験） 2　A PhaseⅢ, open-label, multicenter trial of avelumab（MSB0010718C）versus platinum based doublet as a first line treatment of recurrent or Stage Ⅳ PD L1+ non-small-cell lung cancer再発性またはステージⅣのPD-L1陽性非小細胞肺癌の一次治療としてavelumab（MSB0010718C）と白金製剤を含む2剤併用化学療法とを比較する第Ⅲ相非盲検多施設共同試験（メルクバイオファーマ株式会社依頼の企業治験） 3　治療歴のないEGFR遺伝子変異を有する転移性非小細胞肺癌患者を対象としてエルロチニブとラムシルマブの併用療法とエルロチニブとプラセボの併用療法とを比較する多施設共同無作為化二重盲検試験（日本イーライリリー株式会社依頼の企業治験） 4　A PHASE Ⅲ PROSPECTIVE DOUBLE BLIND PLACEBO CONTROLLED RANDOMIZED STUDY OF ADJUVANT MEDI4736 IN COMPLETELY RESECTED NON-SMALL CELL LUNG CANCER非小細胞肺癌完全切除例に対するMEDI4736アジュバント療法のプロスペクティブ二重盲検プラセボ対照ランダム化第Ⅲ相比較試験（クリニペース株式会社依頼の企業治験） 5　ⅠB～ⅢA期非小細胞肺癌の完全切除患者を対象に，シスプラチンをベースとする術後補助化学療法を施行した後にatezolizumab（抗PD-L1抗体）の有効性及び安全性を支持療法と比較する，第Ⅲ相非盲検ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 6　進行性又は転移性非小細胞肺癌（NSCLC）患者に対する一次治療におけるMEDI4736＋tremelimumab の併用療法を白金製剤を用いた標準化学療法と比較する第Ⅲ相無作為化非盲検国際多施設共同試験（NEPTUNE）（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 7　化学療法歴のないⅣ期の非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象として、atezolizumab（MPDL3280A，抗PD-L1抗体）とカルボプラチン又はシスプラチン＋ペメトレキセドの併用療法をカルボプラチン又はシスプラチン＋ペメトレキセドと比較する、第Ⅲ相非盲検ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 8　化学療法未治療のⅣ期扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に，atezolizumab（MPDL3280A，抗PD-L1抗体）とカルボプラチン＋パクリタキセルの併用若しくはatezolizumabとカルボプラチン＋nabパクリタキセルの併用の有効性及び安全性をカルボプラチン＋nabパクリタキセルと比較する第Ⅲ相非盲検多施設共同ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験）	

科　別	研　究　課　題	研究者名
	9　未治療の進展型小細胞肺癌患者を対象としたアテゾリズマブ（抗PD-L1抗体）又はプラセボとカルボプラチン及びエトポシドの併用を検討する第Ⅰ/Ⅲ相二重盲検ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 10　A Phase Ⅱ single-arm trial to investigate tepotinib in advanced（Stage ⅢB/Ⅳ）non-small cell lung cancer with MET exon 14 (METex14) skipping alterations or MET amplification（VISION）METエクソン14スキッピング変異又はMET増幅を有する進行（ⅢB/Ⅳ期）非小細胞肺癌患者を対象としたtepotinibの第Ⅱ相単群臨床試験（VISION）（メルクバイオファーマ株式会社依頼の企業治験） 11　ALK 陽性進行非小細胞肺癌患者を対象に，1次治療としてLORLATINIB（PF-06463922）単剤療法とクリゾチニブ単剤療法を比較する第3相，無作為化，非盲検試験（ファイザー株式会社依頼の企業治験） 12　進展型小細胞肺癌（SCLC）患者に対する一次治療におけるデュルバルマブ又はデュルバルマブ＋トレメリムマブと白金製剤ベースの化学療法との併用療法の有効性を検討する第Ⅲ相無作為化非盲検多施設共同比較試験（CASPIAN）（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 13　進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象に、MK-3475をエトポシド及びシスプラチン又はカルボプラチンと併用投与する無作為化二重盲検プラセボ対照第Ⅲ相試験（KEYNOTE-604）（MSD株式会社依頼の企業治験） 14　転移性非小細胞肺癌（NSCLC）患者に対する一次治療においてデュルバルマブ単剤又はデュルバルマブ＋トレメリムマブに白金製剤を含む化学療法を併用した場合の有効性を検討する第Ⅲ相無作為化非盲検国際多施設共同比較試験（POSEIDON）（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 15　A Randomized, Open-Label, Multicenter, Phase 3 Study of Rovalpituzumab Tesirine Compared with Topotecan for Subjects with Advanced or Metastatic DLL3high Small Cell Lung Cancer（SCLC）who have First Disease Progression During or Following Front-Line Platinum-Based Chemotherapy（TAHOE）白金製剤を含む初回化学療法中又は終了後に最初の病勢進行が認められたDLL3高発現の進行又は転移性小細胞肺癌（SCLC）患者を対象にrovalpituzumab tesirineとtopotecanを比較する無作為化，非盲検，多施設共同，第Ⅲ相臨床試験（TAHOE）（アッヴィ合同会社依頼の企業治験） 16　A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Phase 3 Study of Rovalpituzumab Tesirine as Maintenance Therapy Following First-Line Platinum-Based Chemotherapy in Subjects with Extensive Stage Small Cell Lung Cancer（MERU）進展型小細胞肺癌患者を対象に，白金製剤を含む一次化学療法後の維持療法としてrovalpituzumab tesirineを投与する無作為化，二重盲検，プラセボ対照第Ⅲ相臨床試験（MERU）（アッヴィ合同会社依頼の企業治験） 17　EGFR遺伝子変異陽性非扁平上皮非小細胞肺癌に対する、初回化学療法としてのOsimertinib+BevacizumabとOsimertinibのランダム化第Ⅱ相試験（医師主導治験） 18　PD-L1高発現の転移性非小細胞肺癌の未治療患者を対象としたMK-	

科　別	研　究　課　題	研究者名
	3475及びINCB024360の併用療法とMK-3475及びプラセボの併用療法を比較する無作為化二重盲検第Ⅱ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 19　治療薬を検討可能な体細胞遺伝子変異が血液検体より検出された，進行又は転移性の非小細胞肺癌患者を対象とした様々な標的療法薬の有効性及び安全性を評価する第Ⅱ/Ⅲ相多施設共同試験（BFAST: BLOOD FIRST ASSAY SCREENING TRIAL）（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 20　ⅡB期又はⅢA期の切除可能非小細胞肺癌患者を対象とした術前補助療法／術後補助療法としてMK-3475併用又は非併用のプラチナ製剤併用化学療法を比較する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（KEYNOTE-671）（MSD株式会社の企業治験） 21　局所進行切除不能非小細胞肺癌（ステージⅢ）の患者を対象として、デュルバルマブと白金製剤を含む化学放射線療法とを同時併用する第３相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 22　日本人ALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌（NSCLC）患者を対象としたBrigatinibの単群多施設共同第２相試験（武田薬品工業株式会社依頼の企業治験） 23　A Phase 1 Study to Investigate the Safety and Pharmacokinetics of REGN2810（anti-PD-1）in Japanese Patients with Advanced Malignancies　日本人進行癌患者を対象としてREGN2810（抗PD-1 抗体）の安全性及び薬物動態を検討する第１相試験（パレクセル･インターナショナル株式会社依頼の企業治験） 24　EGFR遺伝子変異陽性非扁平上皮非小細胞肺癌に対する、初回化学療法としてのオシメルチニブ＋ラムシルマブとオシメルチニブのランダム化第Ⅱ相試験（医師主導治験） 25　TKI抵抗性EGFR遺伝子変異陽性の転移性非小細胞肺癌（非扁平上皮癌）患者を対象としたペメトレキセド及びプラチナ製剤にMK-3475又はプラセボを併用投与する二重盲検、無作為化、第Ⅲ相試験（KEYNOTE-789）（MSD株式会社依頼の企業治験） 26　A PHASE Ⅲ, OPEN-LABEL, RANDOMIZED STUDY TO EVALUATE THE EFFICACY AND SAFETY OF ADJUVANT ALECTINIB VERSUS ADJUVANT PLATINUM-BASED CHEMOTHERAPY IN PATIENTS WITH COMPLETELY RESECTED STAGE IB（TUMORS ≥4CM）TO STAGE ⅢA ANAPLASTIC LYMPHOMA KINASE-POSITIVE NON-SMALL CELL LUNG CANCER　IB（腫瘍径　4 cm以上）～ⅢA期の未分化リンパ腫キナーゼ（ALK）陽性非小細胞肺癌の完全切除患者を対象に，術後補助療法におけるアレクチニブとプラチナ製剤併用化学療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相非盲検ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 27　ステージⅣの非小細胞肺癌（NSCLC）を対象とした、一次治療としてのニボルマブ＋イピリムマブと化学療法との併用療法を、化学療法単独と比較する第Ⅲ相ランダム化試験（ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社依頼の企業治験） 28　PD-L1高発現非扁平上皮非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用臨床第Ⅱ相試験（医師主導治験）	

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	29　白金製剤を含む根治的化学放射線療法後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能EGFR変異陽性非小細胞肺癌（ステージⅢ）患者を対象とした、維持療法としてのオシメルチニブの第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験（LAURA）（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 30　A PHASE I, OPEN-LABEL, NON-RANDOMIZED, DOSE-ESCALATING, SAFETY, TOLERABILITY, PHARMACOKINETIC, PHARMACODYNAMIC AND EFFICACY STUDY OF TAS-120 IN PATIENTS WITH ADVANCED SOLID TUMORS固形癌患者を対象としたTAS-120の第Ⅰ相臨床試験（大鵬薬品工業株式会社依頼の企業治験） 31　進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン＋ペメトレキセド＋アテゾリズマブ療法とカルボプラチン＋ペメトレキセド＋アテゾリズマブ＋ベバシズマブ療法の多施設共同オープンラベル無作為化第Ⅲ相比較試験（医師主導治験） 32　高度催吐性抗悪性腫瘍薬（シスプラチン）投与患者を対象としたPro-NETU第Ⅲ相二重盲検比較試験（大鵬薬品工業株式会社依頼の企業治験） 33　PD-L1陽性［Tumor Proportion Score（TPS）≥1%］の転移性非小細胞肺癌の未治療患者を対象にレンバチニブ（E7080/MK-7902）の併用又は非併用下でペムブロリズマブ（MK-3475）を投与する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（LEAP-007試験）（MSD株式会社依頼の企業治験） 34　局所進行又は転移性の非扁平上皮／扁平上皮型非小細胞肺癌患者を対象に，一次治療としてのペムブロリズマブとプラチナダブレット化学療法にカナキヌマブを併用投与し有効性および安全性をプラセボ併用投与と比較し評価するランダム化，二重盲検，プラセボ対照，第Ⅲ相試験（CANOPY-1）（ノバルティス ファーマ株式会社依頼の企業治験） 35　PD-(L)1阻害薬及び白金製剤をベースとする化学療法による治療歴のある非小細胞肺癌（NSCLC）患者を対象に，ドセタキセルとカナキヌマブの併用投与の有効性及び安全性をドセタキセルとプラセボの併用投与と比較し評価するランダム化，二重盲検，プラセボ対照，第Ⅲ相試験（CANOPY-2）（ノバルティス ファーマ株式会社依頼の企業治験） 36　ONO-7643 第Ⅲ相試験　がん悪液質を対象とした多施設共同非盲検非対照試験（小野薬品工業株式会社依頼の企業治験） 37　転移性非扁平上皮非小細胞肺癌の未治療患者を対象としたペムブロリズマブ＋ペメトレキセド＋プラチナ製剤（カルボプラチン又はシスプラチン）併用投与後のペムブロリズマブ＋オラパリブ維持療法とペムブロリズマブ＋ペメトレキセド維持療法を比較する第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 38　転移性扁平上皮非小細胞肺癌の未治療患者を対象としたペムブロリズマブ＋カルボプラチン／タキサン（パクリタキセル又はnab-パクリタキセル）併用投与後のペムブロリズマブ＋オラパリブ維持療法併用投与とペムブロリズマブ単独投与を比較する第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 39　A Multicenter, Double Blind, Randomized, Controlled Study of M7824 with Concurrent Chemoradiation Followed by M7824 versus Concurrent Chemoradiation Plus Placebo Followed by Durvalumab in	

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	Participants with Unresectable Stage Ⅲ Non-small Cell Lung Cancer 切除不能なステージⅢ非小細胞肺癌患者を対象に、M7824及び化学放射線同時併用療法を使用後にM7824を投与した場合と化学放射線同時併用療法及びプラセボを使用後にデュルバルマブを投与した場合を比較する多施設共同、二重盲検、無作為化、比較対照試験（メルクバイオファーマ株式会社依頼の企業治験）	
	40　AJCC/UICC 第8版ステージⅡ－ⅢA及びⅢB（最大腫瘍径5cm超，リンパ節転移N2）非小細胞肺癌（non-small cell lung cancer, NSCLC）の完全切除（R0）を受けた成人患者を対象に術後補助療法としてカナキヌマブの投与をプラセボと比較し有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相，多施設共同，無作為化，二重盲検，プラセボ対照試験（ノバルティスファーマ株式会社依頼の企業治験）	
	41　Phase 2, Open-Label Safety and Efficacy Study of Telisotuzumab Vedotin (ABBV-399) in Subjects with Previously Treated c-Met+ Non-Small Cell Lung Cancer治療歴を有するc-Met陽性非小細胞肺癌患者を対象としてTelisotuzumab Vedotin（ABBV-399）の安全性及び有効性を検討する第Ⅱ相非盲検試験（アッヴィ合同会社依頼の企業治験）	
	42　高悪性度神経内分泌肺癌完全切除例に対するイリノテカン+シスプラチン療法とエトポシド+シスプラチン療法のランダム化比較試験（JCOG1205/JCOG1206）	加藤晃史ほか1名
	43　高齢者進展型小細胞肺がんに対するカルボプラチン+エトポシド併用療法（CE療法）とカルボプラチン+イリノテカン併用療法（CI療法）のランダム化比較第Ⅱ/Ⅲ相試験（JCOG1201）	加藤晃史ほか1名
	44　EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン＋ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験（JCOG1404/WJOG8214L）	加藤晃史ほか6名
	45　非小細胞肺癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1701）	加藤晃史ほか6名
	46　JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク	加藤晃史ほか6名
	47　Cell free DNAを用いた次世代シーケンサーによる multiplex 遺伝子解析の有効性に関する前向き観察研究（LC-SCRUM-Liquid）	加藤晃史ほか6名
	48　アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究（LC-SCRUM-Asia）	加藤晃史ほか6名
	49　EGFR-TKIに不応となったT790M陽性、進行・再発肺腺癌を対象としたオシメルチニブ＋ベバシズマブの第Ⅰ相試験と、オシメルチニブ単剤との無作為化第Ⅱ相試験（WJOG8715L）	齋藤春洋ほか1名
	50　EGFR遺伝子変異を有する切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対するゲフィチニブと胸部放射線治療同時併用療法の第Ⅱ相試験（WJOG 6911L）	中原善朗ほか6名
	51　高齢進行非小細胞肺癌患者に対するPEG-G-CSF支持下のドセタキセル＋ラムシルマブ療法の多施設共同単群第Ⅱ相試験（WJOG9416L）	
	52　特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン＋nab-パクリタキセル＋ニンテダニブ療法とカルボプラチン＋nab-パクリタキセル療法のランダム化第Ⅱ相試験（J-SONIC）	加藤晃史ほか6名
	53　EGFR遺伝子変異陰性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するシスプラチン＋ペメトレキセド＋ベバシズマブ併用療法後の維持療法としてペ	齋藤春洋ほか6名

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	メトレキセドとペメトレキセド＋ベバシズマブを比較するランダム化第Ⅱ相試験（TORG1321）	
	54　既治療の進行・再発非小細胞肺癌に対するニボルマブとニボルマブ+ドセタキセルのランダム化比較第Ⅱ/Ⅲ相試験（TORG1630）	中原善朗ほか６名
	55　Sensitizing EGFR uncommon mutation陽性未治療非扁平上皮非小細胞肺癌に対するAfatinibとChemotherapyを比較する第Ⅲ相試験（TORG1834）	加藤晃史ほか６名
	56　特発性肺線維症合併した切除不能な小細胞肺癌に対するカルボプラチン＋エトポシド+ニンテダニブ併用療法の第Ⅱ相試験（TORG1835）	加藤晃史ほか６名
	57　切除不能局所進行（Ⅲ期）非小細胞肺癌に対する化学放射線療法完遂直後のデュルバルマブ維持療法の第Ⅱ相試験（TORG1937）	臼井亮ほか６名
	58　上皮成長因子受容体（EGFR）遺伝子変異陽性非扁平上皮非小細胞肺癌の初回治療におけるアファチニブからオシメルチニブへの切替療法の無作為化第Ⅱ相試験（TORG1939）	村上修司ほか５名
	59　完全切除非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペメトレキセド+シスプラチン併用療法とビノレルビン+シスプラチン併用療法のランダム化比較第Ⅲ相試験（JIPANG）	齋藤春洋ほか６名
	60　EGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺癌患者に対する一次療法としてのベバシズマブ＋エルロチニブ併用療法とエルロチニブ単剤療法を比較する非盲検無作為化比較第Ⅲ相臨床試験（NEJ026）	齋藤春洋ほか２名
	61　根治照射可能な進行・再発非小細胞肺癌でＰＳ2あるいは高齢者に対する低用量カルボプラチン連日と胸部放射線同時併用療法後、デュルバルマブ維持療法の第Ⅱ相試験（NEJ039A）	臼井亮ほか５名
	62　EGFRチロシンキナーゼ阻害薬と免疫チェックポイント阻害薬の投与順・投与間隔と間質性肺疾患発症リスクの関連を検討する多施設共同後ろ向き観察研究（NEJ040）	加藤晃史ほか６名
	63　限定型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射による認知機能への影響を評価する前向き観察研究（LOGIK1901）	中原善朗ほか６名
	64　局所進行胸腺癌に対するS-1とシスプラチンによる化学放射線同時併用療法の第Ⅱ相試験（LOGIK1605）	中原善朗ほか６名
	65　第３世代EGFR-TKI（オシメルチニブ）の耐性機序にかかわるバイオマーカー探索に関する研究（LOGIK1607）	中原善朗ほか６名
	66　希少なEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺がんに対するオシムルチニブの第Ⅱ相試験（TCOG UNICORN）	村上修司ほか５名
	67　免疫チェックポイント阻害療法を受けた非小細胞肺癌患者の観察研究（REAL-KEY） 研究者氏名：	村上修司ほか５名
	68　切除不能stageⅢ非小細胞肺癌患者における同時化学放射線療法後のデュルバルマブの長期安全性および有効性に関する観察研究（AYAME-Study）	中原善朗ほか６名
	69　Epidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive（EGFRm+）進行非小細胞肺がん（NSCLC）初回オシメルチニブ治療の効果、安全性及び増悪後の治療に関する観察研究（CSPOR-LC07-REIWA）	加藤晃史ほか６名
	70　切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの他施設共同前向き観察研究（J-TAIL）	臼井　亮ほか６名
	71　小細胞肺癌における化学療法と免疫チェックポイント療法の併用療	中原善朗ほか14名

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	法が免疫チェックポイント分子におよぼす影響の解明 72　肺がん患者におけるニボルマブ投与中の肺障害及び放射線肺臓炎に関する研究 73　放射線治療が免疫チェックポイント分子に及ぼす影響の解明	 加藤晃史 中原善朗ほか12名
呼吸器外科	1　早期NSCLC患者を対象にニボルマブ及びイピリムマブとプラチナダブレットによる化学療法を比較するランダム化オープン第Ⅲ相試験（Checkmate816，企業治験） 2　非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期ONO-1101投与の多施設共同ランダム化比較試験（P-LAND，医師主導治験） 3　再発高リスク臨床病期Ⅰ期非小細胞肺がんに対する術前ニボルマブ療法の安全性・有効性探索試験（POTENTIAL,医師主導治験） 4　特発性肺線維症（IPF）合併非小細胞肺癌に対する周術期ピルフェニドン療法の術後急性増悪抑制効果に関する第Ⅲ相試験（NEJ034） 5　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。病理病期Ⅰ期（T1＞2cm）非小細胞肺癌完全切除例に対する術後化学療法の臨床第Ⅲ相試験（JCOG0707） 6　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。肺野末梢小型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と縮小切除（区域切除）の第Ⅲ相試験（JCOG0802/WJOG4607Ｌ） 7　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。胸部薄切CT所見に基づく肺野型早期肺癌に対する縮小切除の第Ⅱ相試験（JCOG0804/WJOG4507L） 8　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。胸部薄切CT所見に基づくすりガラス影優位のcT1N0肺癌に対する区域切除の非ランダム化検証的試験（JCOG1211） 9　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。高悪性度神経内分泌肺癌完全切除例に対するイリノテカン+シスプラチン療法とエトポシド＋シスプラチン療法のランダム化比較試験（JCOG1205/1206） 10　臨床病期Ⅰ/Ⅱ期非小細胞肺癌に対する選択的リンパ節郭清の治療的意義に関するランダム化比較（JCOG1413） 11　特発性肺線維症合併臨床病期Ⅰ期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1708） 12　研究課題：完全切除された非小細胞肺がんに対する術後補助化学療法後のS-588410によるペプチドワクチン維持療法の第２相試験（医師主導治験） 13　縦隔リンパ節転移を有するⅢA期非扁平上皮非小細胞癌に対する術前導入療法としてのシスプラチン＋ペメトレキセド＋ベバシズマブ併用療法もしくは、シスプラチン＋ペメトレキセド＋同時胸部放射線照射（45Gy）後の手術のランダム化比較第Ⅱ相試験（PIT-1） 14　縦隔リンパ節転移を有するⅢA期肺原発扁平上皮癌に対する術前導入療法としてのシスプラチン＋ティーエスワン＋同時胸部放射線照射（45Gy）後の手術の第Ⅱ相試験（PIT-2） 15　肺尖部胸壁浸潤がん（Superior sulcus tumor）に対する術前導入療法としてのシスプラチン+ ティーエスワン+同時胸部放射線照射（66Gy）後の手術の有効性検証試験（CRES3T）	伊藤宏之ほか12名 伊藤宏之ほか12名 伊藤宏之ほか12名 伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか12名 伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか10名 伊藤宏之ほか12名 伊藤宏之ほか12名 伊藤宏之ほか12名

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	16　肺切除後肺瘻に対するデジタルモニタリング胸腔ドレナージ法の至適胸腔内圧の検証：多施設共同無作為化比較試験（トパーズRCT2） 17　肺切除後肺瘻のない患者に対する胸水排液量によらない胸腔ドレーン抜去の有用性・安全性の検証：多施設共同無作為化比較試験（トパーズRCT3） 18　術前喀痰細胞診による経気道散布性腫瘍成分の検出に関する前向き介入研究	伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか６名 伊藤宏之ほか６名
血液・腫瘍内科（血液）	1　ドナーコーディネート終了理由についての解析 2　同種造血幹細胞移植後の免疫再構築に関する疫学研究 3　成人白血病関連疾患に対する同種造血幹細胞移植の成績向上に関する研究	金森平和 安藤太基 安藤太基
血液・腫瘍内科（腫瘍）	1　疫学調査「血液疾患登録」 2　未治療CD5陽性びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫に対するDose-adjusted EPOCH-R/HD-MTX療法の第Ⅱ相試験 3　新規移植適応症候性多発性骨髄腫に対する移植後療法VRD/Rの有効性に関する前向き臨床研究 4　消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたEP療法とIP療法のランダム化比較試験 5　びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫高齢患者に対する高齢者機能評価を用いた適正治療に関する研究 6　リツキシマブ＋ステロイド併用化学療法後のＢ型肝炎ウイルス（HBV）再活性化リスク因子に関する、ヒト遺伝子解析プロジェクト 7　アグレッシブATL前向きコホート研究多施設共同前方視的観察研究。附随研究/検体バンキング 8　アグレッシブATL前向きコホート研究　多施設共同前方視的観察研究 9　再発の多発性骨髄腫に対するポマリドミド、デキサメタゾン併用療法に関する第Ⅱ相試験、およびポマリドミド、デキサメタゾン療法でPR未達成の患者に対するポマリドミド、ボルテゾミブ、デキサメタゾン併用療法に関する第Ⅱ相試験 10　新世代治療導入後の未治療NK/T細胞リンパ腫における治療実態把握と予後予測モデル構築を目的とした国内および東アジア多施設共同後方視的調査研究 11　甲状腺原発悪性リンパ腫における分子生物学的解析に基づく臨床病理学的特徴 12　原発不明がんの検討 13　新たに診断された濾胞性リンパ腫患者に関する多施設前方視的観察研究 14　神奈川エリアＴ細胞リンパ腫レジストリ 15　高齢者古典的ホジキンリンパ腫の臨床病理学的特徴と治療に関する多施設共同後方視的観察研究 16　未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化第Ⅲ相試験 17　再発濾胞性リンパ腫に対するobinutuzumab+bendamustine併用の第Ⅱ相試験	酒井リカほか４名 酒井リカほか１名 酒井リカほか４名 酒井リカほか26名 酒井リカほか４名 酒井リカ 酒井リカほか４名 酒井リカほか４名 酒井リカほか２名 酒井リカほか２名 沼田　歩ほか２名 酒井リカほか４名 酒井リカほか４名 酒井リカほか10名 本橋賢治ほか４名 酒井リカほか４名 酒井リカほか４名

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
消化器内科（消化管）	1　食道癌術後難治性吻合部狭窄に対するステロイド併用EBDおよびステロイド併用RICのランダム化比較第Ⅱ/Ⅲ相試験　JCOG1207	井口靖弘ほか5名
	2　早期食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄予防を目的とするステロイド内服療法およびステロイド局注療法のランダム化比較第Ⅲ相試験　JCOG1217	井口靖弘ほか5名
	3　早期胃癌における内視鏡的粘膜切除術の適応拡大に対する第Ⅱ相試験　JCOG0607	井口靖弘
	4　未分化型早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の適応拡大に関する第Ⅱ相試験（JCOG1009/1010）	井口靖弘
	5　臨床病期ⅠA食道癌の深達度診断における超音波内視鏡の有用性に関する非ランダム化検証的試験（JCOG1604）	井口靖弘ほか5名
	6　局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌（pT1癌）に対するカペシタビン併用放射線療法の単群検証的試験（JCOG1612）	井口靖弘ほか5名
	7　大腸癌・大腸進行腺腫患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析（COSMOS-CRC-01）	井口靖弘ほか5名
	8　標準治療不応の切除不能な進行・再発胃がんに対する局所放射線療法とNivolumab（抗PD-1抗体）併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験（CIRCUIT試験）	井口靖弘ほか5名
消化器内科（肝胆膵）	1　胆膵がんにおける血栓症リスクとTissue factorについての前向き調査試験	上野　誠ほか
	2　根治切除後胆道癌に対する術後補助療法としてのS-1療法の第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	3　切除不能肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法（TACE）とソラフェニブの併用療法第Ⅱ相臨床試験	森本　学ほか
	4　JCOG1113：進行胆道癌を対象としたゲムシタビン＋シスプラチン併用療法（GC療法）とゲムシタビン＋S-1併用療法（GS療法）の第Ⅲ相比較試験の付随研究 胆道癌に対する薬剤の効果を予測する因子に関する研究”	森本　学ほか
	5　FGFR2融合遺伝子陽性胆道癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究	上野　誠ほか
	6　消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたEP療法とIP療法のランダム化比較試験	森本　学ほか
	7　血清ヘリコバクター属抗体測定の正確度に関する研究	上野　誠ほか
	8　Direct acting antivirals（DAAs）併用療法の前向き観察研究	森本　学ほか
	9　“遠隔転移を有する膵癌患者におけるPegfilgrastim併用FOLFIRINOX療法（PegG FFX）の第Ⅱ相試験”	上野　誠ほか
	10　家族性膵癌登録制度の確立と日本国内の家族性膵癌家系における膵癌発生頻度の検討	上野　誠ほか
	11　PROP-UPⅡ（治癒切除不能進行性消化器・膵神経内分泌腫瘍の予後に関する前向き観察研究）	上野　誠ほか
	12　PROP-UPⅡ付随研究（治癒切除不能進行性消化器・膵神経内分泌腫瘍患者の血清クロモグラニンA・NSEに関する研究）	上野　誠ほか
	13　進行再発大腸癌におけるがん関連遺伝子異常のプロファイリングの多施設共同研究SCRUM-Japan GI-screen 2013-01-CRC	上野　誠ほか
	14　大腸癌以外の消化器・腹部悪性腫瘍におけるがん関連遺伝子異常の	上野　誠ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	プロファイリングの多施設共同研究SCRUM-Japan GI-screen 2015-01-Non CRC	
	15　C型肝炎患者におけるソホスブビル併用療法による肝線維化改善効果の検討	森本　学ほか
	16　進行・再発消化器・腹部悪性腫瘍におけるmicrosatellite instability（MSI）を検討する多施設共同研究 GI-SCREEN MSI	上野　誠ほか
	17　膵・胆道癌患者の血清由来マイクロRNA発現を用いた検出マーカーの研究	上野　誠ほか
	18　局所進行膵癌を対象としたmodified FOLFIRINOX療法とゲムシタビン+ナブパクリタキセル併用療法のランダム化第Ⅱ相試験	森本　学ほか
	19　膵癌・乳癌・卵巣癌・前立腺癌いずれかの家族歴を有する、または、乳癌・卵巣癌・前立腺癌いずれかの既往歴を有する、遠隔転移を伴う膵癌を対象としたゲムシタビン/オキサリプラチン療法（GEMOX療法）の多施設共同第Ⅱ相試験（FABRIC study）附随研究 家族歴を有する膵癌患者における生殖細胞系列変異に関する研究”	上野　誠ほか
	20　JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク肝胆膵内科・外科グループ”	森本　学ほか
	21　複数病巣または合併症を有する肝細胞癌症例に対する重粒子線治療の第Ⅱ相臨床試験	加藤　弘之ほか
	22　局所進行膵癌に対するゲムシタビン併用炭素イオン線治療の第Ⅱ相臨床試験	加藤　弘之ほか
	23　膵がん・胆道がんのリスク要因としての遺伝子多型と生活習慣との交互作用解明のための症例対照研究（厚生労働省がん研究助成金：膵臓・胆道がんのリスク要因の分子疫学的分析のための検体セットの構築と仮説の設定）	上野　誠ほか
	24　局所進行膵癌に対するゲムシタビン併用重粒子線治療に関する有効性・安全性試験　J-CROS 1502	加藤　弘之ほか
	25　Borderline Resectable 膵癌を対象とした術前ゲムシタビン＋ナブパクリタキセル療法と術前S-1併用放射線療法のランダム化比較試験	森永聡一郎ほか
	26　JCOG1502C：治癒切除後病理学的StageⅠ/Ⅱ/Ⅲ小腸腺癌に対する術後化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	27　JCOG1315C 切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化比較同時対照試験	森永聡一郎ほか
	28　切除不能、局所療法不適の肝細胞癌に対する重粒子線治療の多施設共同臨床試験　J-CROS1505	加藤　弘之ほか
	29　局所進行膵癌に対する炭素イオン線治療の第Ⅱ相臨床試験	加藤　弘之ほか
	30　【Cancer-VTE Registry】がんと静脈血栓塞栓症の臨床研究：多施設共同前向き登録研究	山田　貴允ほか
	31　進行再発大腸癌における Angiogenesis Panelを検討する多施設共同研究 GI-SCREEN CRC-Ukit	上野　誠ほか
	32　結腸・直腸癌を含む消化器・腹部悪性腫瘍患者を対象としたリキッドバイオプシーに関する研究　GI-screen 付随研究	上野　誠ほか
	33　文部科学省基盤研究(S)包括的統合的アプローチによる日本人早期膵癌の高精度診断の具現化	森永聡一郎ほか
	34　高齢進行非小細胞肺がん/膵がんに対する早期栄養・運動介入の多施設共同ランダム化第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	35　個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査研究	宮城　洋平ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	（Protocol No. NCCH1616）	
	36　直腸癌術後骨盤内再発に対する重粒子線治療に関する有効性安全性試験 J-CROS 1506 Rectum	加藤　弘之ほか
	37　進行肝細胞癌を対象としたレンバチニブとシスプラチン肝動注化学療法の併用療法 - 多施設共同第Ⅱ相試験	森本　学ほか
	38　切除不能・術後再発胆道癌に対するFOLFIRINOX療法の第 2 相試験	上野　誠ほか
	39　急速進行性がん患者・家族と医師の共感的コミュニケーションを促進するためのプログラムの有効性を検証する無作為化比較試験実施計画書（研究番号J-SUPPORT1704）	上野　誠ほか
	40　遠隔転移を有するまたは再発膵癌に対するゲムシタビン＋ナブパクリタキセル併用療法/modified FOLFIRINOX 療法/S-IROX 療法の第Ⅱ/Ⅲ相比較試験	上野　誠ほか
	41　消化器癌に対する全身化学療法施行時に発生した無症候性静脈血栓塞栓症に対するエドキサバンの安全性および有効性を検討する多施設共同前向き介入研究（ExCAVE study）	上野　誠ほか
	42　消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス＋ランレオチド併用療法のランダム化第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	43　肝細胞癌における予後予測モデルの構築	森本　学ほか
	44　肝がん治療に関する後方視的観察研究	森本　学ほか
	45　75歳以上の進行膵癌患者に対するゲムシタビン+ナブパクリタキセル併用療法の安全性に関する後ろ向き研究	上野　誠ほか
	46　胆道癌の術後補助療法における薬剤感受性予測因子に関する探索的研究ver1.0	森本　学ほか
	47　Borderline resectable 膵癌に対する術前S-1併用放射線療法後のCT検査における切除可能性診断法の検討	森永　聡一郎ほか
	48　SCRUM-Japan疾患レジストリを活用した新薬承認審査時の治験対照群データ作成のための前向き多施設共同研究	上野　誠ほか
	49　C型肝炎に対するDAA治療後の肝発がん予測におけるM2BPGi の有用性を検討する多施設共同観察研究	森本　学ほか
	50　治癒切除不能な進行･再発の結腸･直腸癌を対象としたHER2スクリーニングに関する研究 GI-screen 2013-01-CRC 付随研究	上野　誠ほか
	51　膵・消化管および肺・気管支・胸腺神経内分泌腫瘍の患者悉皆登録研究	森永　聡一郎ほか
	52　膵癌術前治療後症例における組織学的評価法の検討	森永　聡一郎ほか
	53　腹腔洗浄細胞診陽性と診断された膵がん症例に関する後ろ向き観察研究	森永　聡一郎ほか
	54　BCLC stage Bの肝細胞癌を対象としたレンバチニブの前向きコホート研究	森本　学ほか
	55　膵癌患者におけるLaminin γ-2 monomerおよびEphA2 断片発現の意義の解明	越川　直彦ほか
	56　JCOG1502C 登録患者の腫瘍組織試料・血液試料のバンキング	森本　学ほか
	57　膵全摘後糖尿病患者におけるインスリンポンプ療法の有用性	堀井　三儀ほか
	58　膵全摘後糖尿病患者におけるFGM（flash glucose monitoring）の有用性	堀井　三儀ほか
	59　革新的がんバイオマーカーラミニン γ 2単鎖測定による高悪性度膵がん診断の実用化研究	越川直彦ほか

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
	60　76歳以上の切除非適応膵癌患者に対する非手術療法の前向き観察研究	上野　誠ほか
	61　膵癌および胆道癌に対する胆管ステント留置後の閉塞性胆管炎についての研究	上野　誠ほか
	62　切除不能・再発膵腺扁平上皮癌に対する化学療法の治療成績に関する多施設共同後ろ向き観察研究	上野　誠ほか
	63　膵癌の生検組織を用いた予後予測因子の後ろ向き臨床研究	上野　誠ほか
	64　血液中のマイクロRNAを用いた各種がんの診断技術開発	上野　誠ほか
	65　内科系医療技術負担度調査	森本　学ほか
	66　切除不能退形成膵癌の治療成績に関する多施設共同後ろ向き観察研究	上野　誠ほか
	67　肝細胞がんに対するレンバチニブの有用性と生存期間に寄与する因子の多施設共同研究	森本　学ほか
	68　がん患者におけるHLA遺伝子の多様性に関する検討	笹田　哲朗ほか
	69　HER2発現胆道癌スクリーニング研究（HERB preSCR）	上野　誠ほか
	70　膵癌の術前および術後予後予測因子の臨床応用に向けた前向き臨床試験	上野　誠ほか
	71　切除不能膵癌に対するFOLFIRINOX療法またはゲムシタビン＋ナブパクリタキセル併用療法により切除可能と判断された膵癌患者の登録解析研究	森永聡一郎ほか
	72　十二指腸狭窄を有する切除不能膵腺癌を対象とした初回化学療法導入前の狭窄解除方法に関する多施設共同後ろ向き観察研究	小林　智ほか
	73　放射線治療の免疫学的影響の解析	笹田　哲朗ほか
	74「進行胆道癌に対するニボルマブ+レンバチニブ併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相試験」に附随するバイオマーカーの探索研究（JCOG1808/NCCH1817-A1）	上野　誠ほか
	75　治癒切除不能な固形悪性腫瘍における血液循環腫瘍DNAのがん関連遺伝子異常及び腸内細菌叢のプロファイリング・モニタリングの多施設共同研究	上野　誠ほか
	76　消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベース構築	井口　靖弘ほか
	77　【COSMOS】大腸癌･大腸進行腺腫患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム･エピゲノム統合解析	塩澤　学ほか
	78　ソラフェニブ単剤投与後の肝細胞癌症例に対するレゴラフェニブ投与の有効性と安全性の検討	森本　学ほか
	79　DS-8201aを投与された胆道がん患者における不応答機序および免疫関連バイオマーカーについての探索研究	上野　誠ほか
	80　膵癌症例に対する十二指腸ステントの有用性の検討	森本　学ほか
	81　血漿中細胞外RNA（ExRNA）プロファイルに基づく、新規がん診断補助人工知能（AI）の開発研究	宮城　洋平ほか
	82　日本イーライリリー株式会社の依頼による第Ⅰ相試験	森本　学ほか
	83　ナノキャリア株式会社の依頼による局所進行性又は転移性膵癌患者を対象としたNC-6004の第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	84　ONO-4538 第Ⅰ相試験	上野　誠ほか
	85　ONO-4538 肝細胞がんを対象とした第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	86　日本イーライリリー株式会社の依頼による第Ⅰ相試験	森本　学ほか
	87　ナノキャリア株式会社の依頼による局所進行性又は転移性膵癌患者を対象としたNC-6004の第Ⅲ相試験	上野　誠ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	88　ONO-4538 第Ⅰ相試験	上野　誠ほか
	89　ONO-4538 肝細胞がんを対象とした第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	90　大鵬薬品工業株式会社の依頼によるABI-007の第Ⅰ相試験	上野　誠ほか
	91　MSD株式会社の依頼によるMK-3475 第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	92　転移性膵がん患者を対象としたBBI608とnab-パクリタキセル＋ゲムシタビン併用の第 3 相試験	上野　誠ほか
	93　治癒切除不能な膵癌患者を対象としたTBI-1401（HF10）の化学療法併用第Ⅰ相試験	上野　誠ほか
	94　エーザイ株式会社の依頼による臨床第 1 相試験	上野　誠ほか
	95　シミック（治験国内管理人）による進行性又は転移性の胆道癌患者を対象としたvarlitinibの第Ⅱ/Ⅲ相試験”	上野　誠ほか
	96　アストラゼネカ株式会社の依頼による進行肝細胞癌患者を対象としたデュルバルマブとトレメリムマブの第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	97　日本人進行悪性腫瘍患者を対象としたINCB054828の安全性及び忍容性の非盲検、用量漸増、用量拡大、第Ⅰ相試験	上野　誠ほか
	98　中外製薬株式会社の依頼による後期第Ⅰ相試験	森本　学ほか
	99　株式会社ヤクルト本社の依頼によるYHI-1001の第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	100　（治験国内管理人）パレクセル・インターナショナル株式会社の依頼による切除不能肝細胞がんを対象としたBGB-A317の第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	101　パレクセル・インターナショナル株式会社の依頼による切除不能肝細胞がんを対象としたBGB-A317の第Ⅰ相試験	森本　学ほか
	102　過去に奏効しなかったFGFR2転座を伴う進行性／転移性又は外科的切除不能な胆管細胞癌患者を対象としたINCB054828の有効性及び安全性を評価する非盲検、単群、多施設共同、第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	103　大鵬薬品工業株式会社の依頼によるTAS-120の第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	104　武田薬品工業株式会社の依頼によるCabozantinibの第 2 相試験	森本　学ほか
	105　ONO-4538及びONO-7703の併用投与の第Ⅰ/Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	106　ジェイファーマ株式会社の依頼によるJPH203の第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	107　標準療法不応進行膵癌に対するS-1併用WT1ペプチドパルス樹状細胞（TLP0-001）の安全性・有効性を検討する二重盲検ランダム化比較試験	上野　誠ほか
	108　ONO-4538第Ⅱ相試験 膵がんを対象とした多施設共同非盲検試験	上野　誠ほか
	109　MSD株式会社の依頼による肝細胞癌を対象としたMK-7902（E7080）とMK-3475の第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	110　アジア人の進行固形癌患者を対象としたBI 754091単剤投与及びBI 754091とBI 754111併用投与に関する非盲検，第Ⅰ相試験	ほか
	111　１次治療のプラチナ系化学療法に不応又は不耐であった、局所進行又は転移性胆道癌患者を対象に、M7824単剤療法の臨床的有効性を検討する第Ⅱ相多施設共同非盲検試験	上野　誠ほか
	112　アストラゼネカ株式会社の依頼による局所肝細胞癌患者を対象としたデュルバルマブの第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	113　HER2陽性の切除不能または再発胆道癌に対するDS-8201aの医師主導治験	上野　誠ほか
	114　アストラゼネカ株式会社の依頼による進行胆道癌患者を対象としたゲムシタビン+シスプラチンとの併用療法におけるデュルバルマブの第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	115　進行胆道癌に対するニボルマブ＋レンバチニブ併用療法の第Ⅰ/Ⅱ	上野　誠ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	相試験	
	116　アステラス製薬株式会社の依頼によるZolbetuximabの第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	117　アストラゼネカ株式会社の依頼による肝細胞癌患者を対象としたDurvalumabの第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	118　メルクバイオファーマ株式会社の依頼によるbintrafusp alfa（M7824）又はプラセボとゲムシタビン及びシスプラチンを併用投与する1L BTC 第Ⅱ/Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	119　局所進行性／転移性又は外科的切除不能な固形悪性腫瘍患者を対象としたPemigatinibの第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	120　MSD株式会社の依頼による胆道癌患者を対象としたMK-3475の第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	121　中外製薬株式会社の依頼による術後肝細胞癌患者を対象としたAtezolizumabの第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	122　切除不能又は転移性の胆管癌患者を対象としたINCB054828の第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	123　ボストン・バイオメディカル社主導のナパブカシンの治験に登録された被験者を対象とする、ナパブカシンの継続投与のためのロールオーバー試験	上野　誠ほか
	124　胆道がんを対象とした第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	125　エーザイ株式会社の依頼による胆管癌患者を対象としたE7090の第2相試験	上野　誠ほか
	126　治癒切除不能な膵癌患者を対象としたTBI-1401（HF10）の化学療法併用第Ⅰ相試験	上野　誠ほか
	127　エーザイ株式会社の依頼による臨床第1相試験	上野　誠ほか
	128　シミック（治験国内管理人）による進行性又は転移性の胆道癌患者を対象としたvarlitinibの第Ⅱ/Ⅲ相試験”	上野　誠ほか
	129　アストラゼネカ株式会社の依頼による進行肝細胞癌患者を対象としたデュルバルマブとトレメリムマブの第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	130　日本人進行悪性腫瘍患者を対象としたINCB054828の安全性及び忍容性の非盲検、用量漸増、用量拡大、第Ⅰ相試験	上野　誠ほか
	131　中外製薬株式会社の依頼による後期第Ⅰ相試験	森本　学ほか
	132　株式会社ヤクルト本社の依頼によるYHI-1001の第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	133　（治験国内管理人）パレクセル・インターナショナル株式会社の依頼による切除不能肝細胞がんを対象としたBGB-A317の第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	134　パレクセル・インターナショナル株式会社の依頼による切除不能肝細胞がんを対象としたBGB-A317の第Ⅰ相試験	森本　学ほか
	135　過去に奏効しなかったFGFR2転座を伴う進行性／転移性又は外科的切除不能な胆管細胞癌患者を対象としたINCB054828の有効性及び安全性を評価する非盲検、単群、多施設共同、第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	136　大鵬薬品工業株式会社の依頼によるTAS-120の第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	137　武田薬品工業株式会社の依頼によるCabozantinibの第2相試験	森本　学ほか
	138　ONO-4538及びONO-7703の併用投与の第Ⅰ/Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	139　ジェイファーマ株式会社の依頼によるJPH203の第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	140　標準療法不応進行膵癌に対するS-1併用WT1ペプチドパルス樹状細胞（TLP0-001）の安全性・有効性を検討する二重盲検ランダム化比較試験	上野　誠ほか
	141　ONO-4538第Ⅱ相試験 膵がんを対象とした多施設共同非盲検試験	上野　誠ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	142　MSD株式会社の依頼による肝細胞癌を対象としたMK-7902（E7080）とMK-3475の第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	143　アジア人の進行固形癌患者を対象としたBI 754091単剤投与及びBI 754091とBI 754111併用投与に関する非盲検，第Ⅰ相試験	森本　学ほか
	144　1次治療のプラチナ系化学療法に不応又は不耐であった、局所進行又は転移性胆道癌患者を対象に、M7824単剤療法の臨床的有効性を検討する第Ⅱ相多施設共同非盲検試験	上野　誠ほか
	145　アストラゼネカ株式会社の依頼による局所肝細胞癌患者を対象としたデュルバルマブの第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	146　HER2陽性の切除不能または再発胆道癌に対するDS-8201aの医師主導治験	上野　誠ほか
	147　アストラゼネカ株式会社の依頼による進行胆道癌患者を対象としたゲムシタビン+シスプラチンとの併用療法におけるデュルバルマブの第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	148　進行胆道癌に対するニボルマブ＋レンバチニブ併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	149　アステラス製薬株式会社の依頼によるZolbetuximabの第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	150　アストラゼネカ株式会社の依頼による肝細胞癌患者を対象としたDurvalumabの第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	151　アステラス・アムジェン・バイオファーマ株式会社の依頼によるAMG510の第Ⅰ/Ⅱ相試験	加藤　晃史ほか
	152　メルクバイオファーマ株式会社の依頼によるbintrafusp alfa（M7824）又はプラセボとゲムシタビン及びシスプラチンを併用投与する1L BTC 第Ⅱ/Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	153　局所進行性／転移性又は外科的切除不能な固形悪性腫瘍患者を対象としたPemigatinibの第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	154　MSD株式会社の依頼による胆道癌患者を対象としたMK-3475の第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	155　中外製薬株式会社の依頼による術後肝細胞癌患者を対象としたAtezolizumabの第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	156　切除不能又は転移性の胆管癌患者を対象としたINCB054828の第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	157　ボストン・バイオメディカル社主導のナパブカシンの治験に登録された被験者を対象とする、ナパブカシンの継続投与のためのロールオーバー試験	上野　誠ほか
	158　胆道がんを対象とした第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	159　小野薬品工業株式会社の依頼による第Ⅰ相試験	大島　貴ほか
	160　エーザイ株式会社の依頼による胆管癌患者を対象としたE7090の第2相試験	上野　誠ほか
消化器外科（胃食道）	1　標準治療不応の切除不能な進行・再発胃がんに対する局所放射線療法とNivolumab（抗PD-1抗体）併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験（CIRCUIT試験）（福島県立医大および神奈川県立がんセンター共同の特定臨床研究）	大島　貴ほか1名
	2　進行胃癌に対する大網温存のランダム化第Ⅱ相試験	山田貴允ほか
	3　COMPASS試験バイオマーカー研究	大島　貴ほか3名
	4　胃癌のバイオマーカーを探索するJapan-UK-Singapore共同研究	大島　貴ほか1名

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	5　SAMIT試験バイオマーカー研究	大島　貴ほか3名
	6　胃癌における「癌/間質」比	大島　貴ほか2名
	7　固形腫瘍術後標本におけるCancer stem cell marker発現の再発予測因子としての有用性の検討	大島　貴ほか2名
	8　腹腔内洗浄液中のmicroRNA解析による胃癌再発予測マーカーの検索	渡邊勇人ほか2名
	9　胃癌腹膜播種の免疫学的メカニズムの解明	公盛啓介ほか3名
	10　胃癌におけるKIAA1199発現のバイオマーカーおよび治療ターゲットとしての有用性	大島　貴ほか1名
	11　COMPASS-D試験バイオマーカー研究	大島　貴ほか2名
	12　固形癌患者の早期診断および個別化治療を目指したリキッドバイオプシーによる新規診断法の開発	大島　貴ほか5名
	13　食道癌の横断面による壁在性は術後の無再発生存に影響する	大島　貴ほか2名
	14　胃切除後骨粗鬆症の効率的スクリーニング方法の開発 Efficient screening program of osteoporosis after gastrectomy（E-SPOG）	大島　貴ほか7名
	15　胃切除後骨粗鬆症患者に対するアレンドロン酸ナトリウムの経口投与および静脈投与の効果を評価する無作為化比較臨床第Ⅱ相試験	大島　貴ほか7名
	16　StageⅡ/Ⅲ胃癌根治切除後の再発リスク層別化マーカーの同定	大島　貴ほか2名
	17　胃癌の周術期の炎症が予後に影響を及ぼす分子メカニズムの解明	大島　貴ほか13名
	18　胃癌症例における再発予後危険因子としての術前サルコペニアの意義	大島　貴ほか8名
	19　胃癌に対する胃全摘周術期のEPA加栄養剤ON/OFFの体重減少に及ぼす効果：PhaseⅢ試験	山田貴允ほか8名
	20　臨床病期ⅠB/Ⅱ/Ⅲ食道癌に対する術前CF療法/DCF療法/CF-RT療法の第Ⅲ相比較試験（JCOG1109）	尾形高士ほか
	21　切除不能または再発食道癌に対するCF療法とDCF療法のランダム化第Ⅲ相比較試験（JCOG1314）	尾形高士ほか
	22　臨床病期Ⅰ期胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除に対する非劣性を検証するランダム化比較試験（JCOG0912）	山田貴允ほか7名
	23　深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網嚢切除の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1001）	山田貴允ほか7名
	24　切除不能進行・再発胃癌を対象としたS-1/シスプラチン併用（CS）療法に対するドセタキセル/シスプラチン/S-1併用（DCS）療法の生存における優越性を検証するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1013）	山田貴允ほか7名
	25　病理学的StageⅡ胃癌に対するS-1術後補助化学療法の期間短縮の意義を検討するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1104）	山田貴允ほか7名
	26　高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/l-LV療法vs. FLTAX（5-FU/l-LV+PTX）療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試（JCOG1108）	山田貴允ほか7名
	27　高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃がん/胃食道接合部腺がんに対する術前Trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化PhaseⅡ試験（JCOG1301C）	山田貴允ほか7名
	28　臨床病期Ⅰ期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術および腹腔鏡下噴門側胃切除術の安全性に関する非ランダム化検証的試験（JCOG1401）	山田貴允ほか7名
	29　術前化学療法によりpCRとなった進行胃癌症例の長期予後調査	大島　貴ほか
	30　胃癌手術におけるサルコペニアの意義を評価する前向きの探索的研究	大島　貴ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	31　Stage Ⅳ胃癌に対するConversion surgery	大島　貴ほか7名
	32　胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術　患者要因での対象拡大の妥当性に関する前向き研究	山田貴允ほか
	33　病理学的StageⅡ/Ⅲで「vulnerable」な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1507）	山田貴允ほか
	34　局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1509）	山田貴允ほか
	35　StageⅢの治癒切除胃癌に対する術後補助化学療法としてのTS-1＋Docetaxel 併用療法とTS-1単独療法のランダム化比較第Ⅲ相試験JACCRO GC-07（START-2）	山田貴允ほか
	36　ハイリスク消化管間質腫瘍（GIST）に対する完全切除後の治療に関する研究	山田貴允ほか
	37　食道胃接合部癌に対する縦隔リンパ節および大動脈周囲リンパ節の郭清効果を検討する介入研究	大島　貴ほか
	38　Ramucirumab抵抗性進行胃癌に対するramucirumab＋Irinotecan併用療法のインターグループランダム化第Ⅲ相試験（RINDBeRG試験）	山田貴允ほか
	39　T3/T4aもしくはリンパ節転移を有する食道胃接合部腺癌に対する術前S-1＋Oxaliplatin併用療法の第Ⅱ相臨床試験（E-SOX）	尾形高士ほか
	40　T1-T4a/M0胃癌に対する胃全摘術の術後アップリード®摂取の忍容性を検証する第Ⅱ相試験	山田貴允ほか
	41　胃癌に対する全摘術後の末梢神経障害を伴う血清ビタミンB12低下症例を対象に経口ビタミンB12製剤の有効性と製剤の有効性と安全性を検証する多施設共同無作為化比較試験	山田貴允ほか
	42　切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ治療不応・不耐後の化学療法における有効性と安全性の前向き観察研究（RIVIVE）	山田貴允ほか
	43　切除不能進行性胃癌症例におけるニボルマブのバイオマーカー探索を含めた観察研究	山田貴允ほか
	44　化学療法未治療の高齢者切除不能進行・再発胃癌に対するCapeOX療法の第Ⅱ相臨床試験〈TCOG GI-1601〉	山田貴允ほか
	45　切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入Docetaxel＋CDDP＋5-FU療法後のConversion Surgeryを比較するランダム化第Ⅲ相試験	尾形高士ほか
	46　漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験：JCOG1711	山田貴允ほか
	47　高齢（70歳以上）の切除可能病期胸部食道扁平上皮がん患者に対する高齢者アセスメントツールの前向き観察研究	尾形高士ほか
	48　食道がんEMR症例におけるヨード不染帯をバイオマーカーにした多発がん発生のリスクと多発がん発生までの期間の検討に関する多施設共同前向きコホート研究：JEC-1	尾形高士ほか
	49　食道がん内視鏡治療後のヨード不染帯程度別の異時性他臓器がんの発生状況を調査する多施設共同前向きコホート研究：JEC-2	尾形高士ほか
	50　胃がん治癒切除後の大量腹腔内洗浄に関する国際第Ⅲ相比較臨床試験：EXPEL試験	尾形高士ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	51　がんと静脈血栓塞栓症の臨床研究：多施設共同前向き登録研究：Cancer-VTE Registry	山田貴允ほか消化器外科、呼吸器外科、肝胆膵内科、呼吸器内科医師
	52　Stage Ⅰ胃癌に対する胃全摘術におけるアプローチ別のQOL評価：CCOG1504	山田貴允ほか
	53　Stage Ⅰ胃癌に対する噴門側胃切除術と胃全摘術の術後QOL評価：CCOG1602	山田貴允ほか
	54　高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel+Oxaliplatin+S-1の第Ⅱ相試験：JCOG1704	山田貴允ほか
	55　大弯に浸潤する胃上部進行胃癌に対する腹腔鏡下脾温存脾門郭清の安全性に関する第Ⅱ相試験実：JCOG1809	山田貴允ほか
	56　高齢者臨床病期ⅠB-Ⅲ食道癌に対するPaclitaxelと放射腺同時併用療法（PTX+RT）の第Ⅰ/Ⅱ相試験	尾形高士ほか
	57　胃癌術前補助化学療法の対象選択における術前病期診断の妥当性の検討	大島　貴ほか
	58　胃癌手術における術後の経口摂取量の変化についての検討（胃全摘・幽門側胃切除の比較）	大島　貴ほか
	59　高齢者胃癌に対する胃切除術後における体組成変化の検討	大島　貴ほか
	60　胃癌術前補助化学療法の対象選択における術前病期診断の妥当性の検討	大島　貴ほか
	61　進行食道癌主病変に対する術前治療の臨床的効果判定は生存のSurrogate end point となり得るか？	大島　貴ほか
	62　周術期ERAS/ステロイド管理下における食道癌術後CRP値の長期予後予測因子としての有用性	大島　貴ほか
	63　GIST（Gastrointestinal Stromal Tumor）の悪性度、薬剤耐性に関する多施設共同研究	山田　貴允ほか
	64　修練医と技術認定医によるLADGの安全性と合併症危険因子の検討	山田貴允ほか１名
	65　胃癌周術期のSystemic inflammation scoreと予後の関係	大島　貴ほか
	66　胃癌術後合併症症例と非合併症症例の術後短期の体組成変化の比較	大島　貴ほか
	67　胃癌術後補助化学療法施行中または早期（６ヶ月以内）再発症例を対象とした治療成績調査：多施設共同後ろ向き観察研究	山田貴允ほか
	68　腹腔鏡下胃がん手術修練における腹腔鏡手術経験数と合併症発生割合に関する研究	山田貴允ほか
	69　StageⅣ胃がんにおけるConversion therapy（Adjuvant surgery）の意義に関する国際多施設共同後ろ向き研究（CONVO-GC01）試験におけるサブグループ解析	山田貴允ほか
	70　腹膜播種に対する胃切除術の意義	大島　貴ほか２名
	71　高齢者特有の胃癌術後合併症リスク因子の検討	大島　貴ほか２名
	72　胃癌術中出血量が長期成績に与える影響	大島　貴ほか２名
	73　根治的胃切除術とS-1補助化学療法を受けたStageⅡ/Ⅲ胃癌におけるESM-1 発現の臨床的意義	神尾一樹ほか２名
	74　食道癌に対する食道切除後の筋肉量減少が予後に与える影響	下田陽太ほか２名
	75　胃癌術後のD dimer 上昇は長期予後予測因子となる	大島　貴ほか
	76　胃癌における手術の待機時間は長期生存に影響を与えるか?	熊頭勇太ほか２名
	77　進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした１次治療としてのMK-3475の単独療法並びにMK-3475、シスプラチン及び5-フルオロウラシルの併用療法とプラセボ、シスプラチン及び5-フルオロウラシ	大島　貴　ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	ルの併用療法を比較する部分盲検化無作為化実薬対照バイオマーカー選択第Ⅲ相試験	
	78　クローディン（CLDN）18.2陽性，HER2陰性の局所進行性切除不能又は転移性胃癌及び食道胃接合部（GEJ）腺癌患者を対象とした，Zolbetuximab（IMAB362）＋CAPOXとプラセボ＋CAPOXの一次治療としての有効性を比較する，第Ⅲ相国際多施設共同二重盲検ランダム化試験	大島　貴　ほか
	79　固形がん患者を対象としたE7389リポソーム製剤の非盲検第１相試験	大島　貴　ほか
	80　切除不能の局所進行性又は転移性の胃腺癌又は食道胃接合部腺癌の患者を対象とした一次治療としてのtislelizumab（BGB-A317）+白金製剤及びフルオロピリミジンの有効性と安全性をプラセボ＋白金製剤及びフルオロピリミジンと比較する無作為化二重盲検プラセボ対照第３相臨床試験	大島　貴　ほか
	81　HER2陰性の切除不能又は転移性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした一次治療としてのMK-3475と化学療法の併用療法と、プラセボと化学療法を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（KEYNOTE-859）	大島　貴　ほか
	82　進行性／転移性食道癌患者を対象とした１次治療としてのMK-3475、シスプラチン及び5-フルオロウラシルの併用療法とプラセボ、シスプラチン及び5-フルオロウラシルの併用療法を比較する二重盲検無作為化プラセボ対照第Ⅲ相試験	尾形高士　ほか
	83　HER2発現の進行胃腺癌又は胃食道接合部腺癌の患者を対象としたDS-8201aの多施設共同非盲検第Ⅱ相試験	大島　貴　ほか
	84　胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法としてMK-3475及び化学療法（XP又はFP）とプラセボ及び化学療法（XP又はFP）を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（KEYNOTE-585）	大島　貴　ほか
	85　進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした１次治療としてのMK-3475、TS-1及びオキサリプラチンの併用療法とMK-3475、TS-1及びシスプラチンの併用療法の第Ⅱ相試験（KEYNOTE-659）	大島　貴　ほか
	86　治療歴のない切除不能進行性，再発又は転移性の食道扁平上皮がん患者を対象に，ニボルマブとイピリムマブの併用療法又はニボルマブとフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法をフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法と比較する無作為化第Ⅲ相試験	尾形高士　ほか
	87　切除不能、局所進行再発性又は転移性食道扁平上皮がん患者を対象に、ファーストライン治療としてtislelizumab（BGB-A317）を化学療法と併用した場合の有効性及び安全性を評価する第３相無作為化プラセボ対照二重盲検試験	尾形高士　ほか
	88　１次治療を受け疾患進行が認められた切除不能進行又は再発食道癌（腺癌又は扁平上皮癌）の患者を対象としたMK-3475単独療法と治験担当医師選択のパクリタキセル、ドセタキセル又はイリノテカン単独療法を比較する第Ⅲ相無作為化非盲検試験（KEYNOTE-181）	尾形高士　ほか
	89　HER2陽性進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした１次治療としてのトラスツズマブ＋化学療法＋MK-3475療法をトラスツズマブ＋化学療法＋プラセボ療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（KEYNOTE-811）	尾形高士　ほか
	90　ONO-4538 第Ⅲ相試験 胃がんに対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験	山田貴允　ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	91　切除不能、局所進行性または転移性の胃腺癌または胃食道接合部腺癌の被験者を対象に維持療法としてのアベルマブ（MSB0010718C）と一次化学療法の継続とを比較する第Ⅲ相非盲検多施設共同試験	山田貴允　ほか
	92　ONO-4538 第Ⅱ/Ⅲ相試験　切除不能な進行又は再発胃がんに対する多施設共同無作為化試験	山田貴允　ほか
消化器外科（大腸）	1　大腸癌肝転移切除後患者を対象としたフルオロウラシル/l-ロイコボリンとオキサリプラチン併用補助化学療法（mFOLFOX6）vs. 手術単独によるランダム化Ⅱ/Ⅲ相試験	塩澤　学ほか6名
	2　臨床病期Ⅱ/Ⅲ 肛門管扁平上皮癌に対するS-1＋MMC を同時併用する根治的化学放射線療法の臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験	塩澤　学ほか6名
	3　StageⅢ治癒切除大腸癌に対する術後補助化学療法としてのCapecitabine療法とS-1療法とのランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	塩澤　学ほか6名
	4　大腸癌切除における適切な切除手順に関するランダム化比較試験	塩澤　学ほか6名
	5　高齢切除不能進行大腸癌に対する全身化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤　学ほか6名
	6　治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤　学ほか6名
	7　直腸癌側方リンパ節転移の術前診断能の妥当性に関する観察研究	塩澤　学ほか6名
	8　治癒切除後病理学的StageⅠ/Ⅱ/Ⅲ 小腸腺癌に対する術後化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤　学ほか6名
	9　StageⅢ治癒切除大腸癌に対する術後補助療法としてのアスピリンの有用性を検証する二重盲検ランダム化比較試験	塩澤　学ほか6名
	10　化学療法にて消失した大腸癌肝転移病変に対するDW-MRIの術前診断能の妥当性に関する研究	塩澤　学ほか6名
	11　直腸癌局所再発に対する術前化学放射線療法の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤　学ほか6名
	12「再発リスク因子」を有するStageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験	塩澤　学ほか6名
	13　StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6またはXELOXにおける5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較試験	塩澤　学ほか6名
	14　再発危険因子を有するハイリスクStageⅡ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6またはXELOXの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較試験	塩澤　学ほか6名
	15　標準化学療法に不応・不耐の切除不能進行・再発大腸癌に対するTFTD（ロンサーフ）＋Bevacizumab併用療法のRAS遺伝子変異有無別の有効性と安全性を確認する第Ⅱ相試験	塩澤　学ほか6名
	16　RAS野生型進行大腸癌患者におけるFOLFOXIRI＋CmabとFOLFOXIRI＋Bevの最大腫瘍縮小率（DpR）を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験	塩澤　学ほか6名
	17「RAS野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI＋セツキシマブとFOLFOXIRI＋ベバシズマブの最大腫瘍縮小率（DpR）を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験」におけるバイオマーカー研究	塩澤　学ほか6名
	18　RAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発 大腸癌患者に対するmFOLFOX6＋ベバシズマブ併用療法と mFOLFOX6＋パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較	塩澤　学ほか6名

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	する 第Ⅲ相無作為化比較試験	
	19　RAS遺伝子（KRAS/NRAS 遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発 大腸癌患者に対するmFOLFOX6＋ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6＋パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験における治療感受性、予後予測因子の探索的研究	塩澤　学ほか6名
	20　肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の前向き第Ⅱ相試験	塩澤　学ほか6名
	21　“リンチ症候群の拾い上げ及び遺伝子診断に関する　多施設共同研究”	塩澤　学ほか6名
	22　FOLFOX plus panitumumabによる一次治療抵抗または不耐となったRAS wild-type、切除不能進行・再発大腸癌に対する2次治療としてのFOLFIRI plus panitumumab療法の有効性に関す多施設共同第Ⅱ相試験―Liquid Biopsyによるバイオマーカー発現の変化と抗腫瘍効果についての検討―	塩澤　学ほか6名
	23　結腸癌の至適切離腸管長に関する前向き研究	塩澤　学ほか6名
	24　全国大腸癌登録事業及び登録情報に基づく研究	塩澤　学ほか6名
	25　肛門管癌の病態解明とStagingに関する研究	塩澤　学ほか6名
	26　虫垂腫瘍の臨床病理学的特徴に関する後ろ向き研究	塩澤　学ほか6名
	27　全国大腸癌肝転移登録事業及び登録情報に基づく研究	塩澤　学ほか6名
	28　RAS遺伝子野生型の治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する一次治療での抗VEGF抗体薬と抗EGFR抗体薬併用療法の有効性を腫瘍占拠部位別に比較する観察研究	塩澤　学ほか6名
	29　直腸癌治療における側方郭清に関する多施設前向き観察研究	塩澤　学ほか6名
	30　次世代医療機器開発へ向けた内視鏡外科手術における暗黙知のデータベース構築	塩澤　学ほか6名
	31　直腸癌におけるOne Step Nucleic Acid Amplification法を用いた側方リンパ節転移予測	塩澤　学ほか6名
	32　“腹腔鏡下直腸癌手術における腹膜外経路人工肛門造設術の安全性に関する　非ランダム化検証的試験”	塩澤　学ほか6名
	33　腹腔鏡下直腸癌手術後の縫合不全予防に対する近赤外光観察を用いた腸管血流評価の有効性に関するランダム化比較試験	塩澤　学ほか6名
	34　RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI＋ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験ランダム化比較試験	塩澤　学ほか6名
	35　RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI＋ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験におけるバイオマーカー研究	塩澤　学ほか6名
	36　肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡下手術の腫瘍学的安全性を評価する後ろ向き試験	塩澤　学ほか6名
	37　“結腸・直腸癌を含む消化器・腹部悪性腫瘍患者を対象としたリキッドバイオプシーに関する研究GI-screen付随研究”	塩澤　学ほか6名
	38　進行再発大腸癌におけるAngiogenesis Panelを検討する多施設共同研究	塩澤　学ほか6名
	39　抗EGFR抗体薬の治療歴のあるRAS/BRAF V600E野生型の切除不能進行・再発大腸癌患者に対するctDNA解析に基づくパニツムマブ＋イリノテカン療法リチャレンジの有効性と安全性を探索する第Ⅱ相試験	塩澤　学ほか6名
	40　抗EGFR抗体薬の治療歴のあるRAS/BRAF V600E野生型の切除不能進行・再発大腸癌患者を対象としたctDNA解析によるRAS変異モニタリングの臨床的有用性を評価する観察研究	塩澤　学ほか6名

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
	41　治癒切除不能な固形悪性腫瘍における血液循環腫瘍DNAのがん関連遺伝子異常及び腸内細菌叢のプロファイリング・モニタリングの多施設共同研究	塩澤　学ほか6名
	42　大腸癌・大腸進行腺腫患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析	塩澤　学ほか6名
	43　腹腔鏡下直腸癌術後性機能障害に関する多施設前向き観察研究	塩澤　学ほか6名
	44　高齢者StageⅢ大腸癌に対する術後補助化学療法の現状調査	塩澤　学ほか6名
	45　右側結腸癌のリンパ節郭清に関する多施設観察研究	塩澤　学ほか6名
	46　右側結腸癌のリンパ節転移に関する多施設前向き研究	塩澤　学ほか6名
	47　大腸切除術の機能的端々吻合における術後合併症に関する前向きコホート緩急	塩澤　学ほか6名
	48　左右部位別のStageⅢ大腸がんリンパ節/遠隔転移進展形式と分子生物学的profileの関連性の探索研究	塩澤　学ほか6名
	49　内視鏡外科手術の多施設データベース構築	塩澤　学ほか6名
消化器外科（肝胆膵）	1　膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC） 「膵がん切除後の補助化学療法における塩酸ゲムシタビン療法とS-1療法の第Ⅲ相比較試験」（研究代表者　上坂克彦：静岡県立静岡がんセンター肝胆膵外科）	森永聡一郎ほか7名
	2　厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究（SURF trial）」研究代表者　國土典宏：東京大学肝胆膵外科	森永聡一郎ほか
	3　厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業H22-がん臨床¬「膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究」JSAP-04「膵がん切除患者を対象としたゲムシタビンとS-1の併用療法（GS療法）をゲムシタビン単独療法と比較する術後補助化学療法のランダム化第Ⅲ相試験」 JSAP-04研究代表者小菅智男　国立がん研究センター中央病院	森永聡一郎ほか
	4　厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「膵癌術前化学療法としてのGemcitabine+S-1療法（GS 療法）の第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験（Prep-02/JSAP-05）」研究代表者　海野倫明　東北大学　消化器外科	森永聡一郎ほか
	5　膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC） 「切除可能膵癌に対する術前治療としてのS-1併用放射線療法とゲムシタビン＋S-1併用療法のランダム化第II相試験、JASPAC 04」研究代表者　上坂克彦	森永聡一郎ほか
	6　膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC） 「Borderline resectable膵癌に対する術前S-1併用放射線療法の第Ⅱ相試験、JASPAC 05」研究代表者　池田公史，国立がん研究センター東病院 肝胆膵腫瘍科	森永聡一郎ほか
	7　Japan Clinical Oncology Group（日本臨床腫瘍研究グループ）「根治切除後胆道癌に対する術後補助療法としてのS-1療法の第Ⅲ相試験JCOG1202」研究代表者　小西　大　国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科	森永聡一郎ほか
	8　文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（S）括的統合的アプローチによる日本人早期膵癌の高精度診断の具現化、膵臓癌の診療向上のための分子遺伝学的および分子疫学的研究　研究代表者　森　正樹　大阪大学消化器外科	森永聡一郎

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
	9　Japan Clinical Oncology Group（日本臨床腫瘍研究グループ）「切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対象比較試験　JCOG1315」研究代表者：帝京大学医学部外科学講座　佐野圭二	森永聡一郎ほか
	10　平成27年度日本医療研究開発機構研究費AMED（革新的がん医療実用化研究事業）「Borderline resectable膵癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究」「Borderline Resectable 膵癌を対象とした術前ゲムシタビン+ナブパクリタキセル療法と術前S-1併用放射線療法のランダム化比較試験、AMED　GABARNANCE Trial」研究代表者：高橋進一郎　国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科	森永聡一郎
	11　多施設共同臨床研究組織（J-CROS）先進B 局所進行膵癌に対するゲムシタビン併用重粒子線治療に関する有効性・安全性試験計画書 J-CROS 1502 Pancreas 研究代表者：鎌田　正　放射線医学総合研究所　病院	
	12　ヒト膵癌幹細胞の特性解析および分子発現のプロファイリング　研究代表：大学院医学研究科臓器再生医学教授　谷口英樹	森永聡一郎ほか
	13　プロテオミクスによるがん患者の新規血清診断マーカーの開発　研究代表者　横浜市立大学医学部外科治療学　大島　貴	森永聡一郎
	14　がん特異的な突然変異遺伝子に由来するがん膠原の同定　研究代表者　神奈川県立がんセンター　臨床研究所　笹田哲郎	森永聡一郎ほか
	15　臨床研究所共同研究膵癌術後補助化学療法施行例のtissue microarrayを用いた、long noncording RNA（HOTAIR, MALAT, HOTTIP, PVT, H19）の発現と生物学的統制の解析	宮城洋平ほか１名
	16　膵癌術後再発症例におけるFOLFIRINOX療法の忍容性について、JASPAC06　副次研究	森永聡一郎ほか１名
	17　Health-related Quality of Life of Adjuvant Chemotherapy with S-1 Versus Gemcitabine for Resected Pancreatic Cancer: Results from a Randomized Phase Ⅲ Trial（JASPAC 01）	森永聡一郎ほか１名
	18　胆管癌組織におけるWilms Tumor1（WT1）分子の発現と生物学的特性の解析	笹田哲郎ほか１名
	19　膵神経内分泌腫瘍における予後予測因子ならびに転移・浸潤機構の解明	四元宏和ほか１名
	20　中部胆管癌に対するPD と胆管切除の比較	森永聡一郎
	21　肝内胆管癌に対するリンパ節郭清範囲の標準化：完全郭清 vs サンプリング	森永聡一郎
	22　浸潤性膵管癌切除後の残膵再発に対する再切除の意義の検討	村川正明
	23　Borderline resectable 膵癌に対する術前S-1併用放射線療法後のCT検査における切除可能性診断法の検討	森永聡一郎
	24　膵・消化管および肺・気管支・胸腺神経内分泌腫瘍の患者悉皆登録研究	森永聡一郎
	25　膵癌術前治療後症例における組織学的評価法の検討	森永聡一郎
	26　腹腔洗浄細胞診陽性と診断された膵がん症例に関する後ろ向き観察研究	森永聡一郎
	27　肝内胆管癌組織における免疫抑制分子の発現解析と臨床的意義の検討	山本直人
	28　long noncoding RNA（HOTTIP, PVT1, H19）の発現は膵癌術後補	神谷真梨子

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
	助化学療法の効果予測因子となるか？ 29　切除不能膵癌に対するFOLFIRINOX療法またはゲムシタビン＋ナブパクリタキセル併用療法により切除可能と判断された膵癌患者の登録解析研究 30　十二指腸癌外科的切除症例の臨床病理学的因子と予後に関する研究	 森永聡一郎 森永聡一郎
頭頸部外科	1　頭頸部癌に対する薬物療法の検討 2　頭頸部癌頸部リンパ節転移診断基準多施設研究（科学研究費補助金基盤研究Ｃ）（日本超音波医学会研究開発委員会助成） 「厚生労働科学研究費補助金　がん臨床研究事業　頭頸部がんの頸部リンパ節転移に対する標準的手術法の確立に関する研究」班による研究の継続として施行中） 3　超音波診断による頭頸部癌の治療効果判定と予後因子の解析 4　造影超音波による頭頸部癌リンパ節転移診断研究 5　頭頸部癌放射線治療による唾液腺超音波像の変化と口内乾燥に関するQOLの検討（かながわ県立病院がん基金研究助成金） 6　唾液腺癌頸部リンパ節転移超音波診断に関する研究 7　臨床的N0早期舌癌における免疫的特徴と予後因子の検討 8　超音波診断による早期頭頸部癌深達度判定と予後因子の解析	久保田　彰ほか３名 古川まどかほか３名 古川まどかほか３名 久保田　彰ほか３名 古川まどかほか３名 古川まどかほか３名 久保田　彰ほか４名 古川まどかほか３名
形成外科	1　頭頚部領域の機能的再建 2　人口乳房を用いた乳房再建	清水　調ほか３名 清水　調
婦人科	1　神奈川県内の職域における癌検診実施状況調査の集計結果報告についての検討 2　JCOG1412リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する傍大動脈リンパ節郭清の治療的意義に関するランダム化第Ⅲ相試験 3　腹腔鏡下準広汎子宮全摘術におけるIRIS（Infrared illumination system）の有用性に関する検討 4　再発・進行子宮頸癌に対するベバシズマブ併用化学療法の安全性・有効性の検討 5　JGOG3020ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌Ⅰ期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験 6　個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査研究（Protocol No. NCCH1616） 7　子宮頸がん根治的放射線治療における組織内照射併用腔内照射の第Ⅰ/Ⅱ相試験 8　カルボプラチン過敏性反応症例に対する減感作療法（4-step）の安全性について検討する多施設共同試験 9　卵巣明細胞腺癌が産生するTFPI2の臨床病理学的解析 10　卵巣がんにおけるIL-34関連分子発現の解析 11　子宮体がんリンパ節転移予測診断マーカーを用いた術中迅速検査技術の開発 12　子宮原発血管肉腫に関する検討 13　当院におけるOlaparibの使用経験 14　卵巣がん患者血清における腫瘍マーカーの解 15　分葉状頸管腺過形成（LEGH）の臨床細胞学的検討	加藤久盛 小野瀬　亮 近内勝幸 小澤雅代 内山亜弥 加藤久盛 加藤久盛 加藤久盛 加藤久盛、上野悠太、小澤雅代ほか 近内勝幸 上野悠太 加藤久盛ほか 小澤雅代ほか

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
	16　JCOG1203上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	小野瀬亮、加藤久盛
	17　JCOG1101：腫瘍径２cm以下の子宮頸癌ＩＢ１期に対する準広汎子宮全摘術の非ランダム化検証的試験	小野瀬亮　加藤久盛
	18　局所進行子宮頸部腺癌に対する炭素イオン線治療の第Ⅱ相臨床試験	加藤久盛ほか
	19　日本産科婦人科学会データベース登録事業（婦人科腫瘍登録）	加藤久盛、小野瀬亮、近内勝幸
	20　子宮内膜間質肉腫の組織型別予後と治療法に関する調査研究（日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）婦人科腫瘍グループ共同研究）	小野瀬亮、加藤久盛
	21　プラチナ製剤を含む化学療法による一次試験が奏功した卵巣癌患者を対象に、Rucaparibおよびニボルマブの維持療法を検討する、他施設共同、無作為化、プラセボ対照、第Ⅲ相試験	加藤久盛ほか
	22　日本人進行固形悪性腫瘍患者を対象とするTisotumab Vedotinの非盲検第Ⅰ/Ⅱ相試験　GCT1015-06	加藤久盛ほか
	23　子宮頸部上皮内腫瘍に対するME2906およびPNL6405CINを用いた光線力学的療法の他施設共同臨床試験第Ⅱ/Ⅲ相オープン試験	近内勝幸、加藤久盛ほか
泌　尿　器　科	1　進行性腎細胞癌に対する分子標的薬使用例の治療成績の検討	岸田　健ほか２名
	2　進行性腎細胞癌に対する分子標的薬治療の実態調査	岸田　健ほか４名
	3　腎細胞癌の臨床的特徴と予後に関する後ろ向き観察研究	岸田　健ほか４名
	4　非尿路上皮・尿路悪性腫瘍に関する臨床病理学的検討	岸田　健ほか５名
	5　陰茎癌患者の予後追跡調査	岸田　健ほか３名
	6　免疫チェックポイント阻害剤治療におけるバイオマーカー同定および耐性メカニズムの解明	笹田哲朗、岸田　健ほか２名
	7　精巣癌に特異的な質問票EORTC QLQ-TC26日本語版を用いた横断的多施設共同研究、東北大との多施設協同研究	岸田　健ほか４名
	8　本邦における精巣腫瘍患者レジストリの作成およびコホート研究の基盤創出　大阪大との多施設協同	岸田　健ほか
	9　腎細胞癌におけるHE-4発現の分子生物学的研究	岸田　健、野口　剛、宮城洋平ほか
	10　尿路外悪性腫瘍に対する尿路変更と経過観察の転帰に関する検討	蓼沼知之、岸田　健
	11　スニチニブ抵抗性となった転移性もしくは進行性腎細胞癌に対するアキシチニブの治療薬物モニタリングに基づく個別化投薬法の第Ⅱ相試験　研究者氏名　虎ノ門病院　腫瘍内科　高野利実　三浦裕司	岸田　健、水野伸彦
	12　膀胱がん組織における免疫抑制分子の発現解析と臨床的意義の検討	岸田　健ほか４名
	13　尿路上皮がんの新たな診断マーカーとしてのラミニンγ２単鎖の臨床的評価研究	岸田　健ほか５名
	14　膀胱癌に対するラミニンγ２単鎖の治療効果判定マーカーとしての臨床評価研究	岸田　健ほか６名
	15　腎臓がん組織における免疫抑制分子の発現解析と臨床的意義の検討	岸田　健ほか４名
	16　骨転移性去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）を有する無症候性又は軽度症候性の化学療法未治療患者における abiraterone acetate 及びプレドニゾン／プレドニゾロンとの併用投与による塩 化ラジウム－223の第Ⅲ相、無作為化、二重盲検、プラセボ対照比較試験	岸田　健ほか４名
	17　尿路上皮癌の発生・悪性化に対する酸化ストレスの役割に関するMicroRNAを用いた解析	岸田　健ほか７名
	18　人口動態調査に基づく将来推計人口による神奈川県のがん患者数の	成松宏人、岸田　健ほか

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
	将来推計と医療施設および医療従事者の配置の関係―神奈川県悪性新生物登録事業―	6名
	19　地域がん登録を使った前立線がんの治療成績解析	成松宏人、岸田　健ほか6名
	20　治療抵抗性胚細胞腫を対象としたニボルマブ単群の第Ⅱ相臨床治験多施設共同医師主導臨床試験	岸田　健ほか
	21　尿路生殖器悪性腫瘍におけるEphA2発現の免疫組織学的研究	岸田　健ほか8名
	22　転移性ホルモン感受性前立腺癌患者を対象とした標準的アンドロゲン遮断療法及びドセタキセルと併用した際のODM-201とプラセボを比較評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相臨床試験　バイエル社	
	23　プラチナ製剤を含む一次化学療法完了後に進行が認められていない局所進行または転移性の尿路上皮癌患者を対象に，維持療法としてAVELUMAB（MSB0010718C）およびBEST SUPPORTIVE CAREの併用療法とBEST SUPPORTIVE CARE単独療法を比較する第3相多施設，国際共同，無作為化，非盲検，並行群間試験　Pfizer社	
	24　進行性腎細胞癌患者を対象とした、一次治療としてのエベロリムス又はペムブロリズマブ併用時のレンバチニブとスニチニブ単剤の有効性及び安全性を比較する多施設共同、オープンラベル、無作為化、第3相試験　エーザイ社	
	25　筋層浸潤性膀胱癌患者においてネオアジュバント療法としてデュルバルマブをゲムシタビン＋シスプラチンと併用し、その後アジュバント療法としてデュルバルマブを単独投与したときの有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相無作為化非盲検多施設国際共同試験（NIAGARA）アストラゼネカ社	
	26　ニボルマブおよびカボザンチニブの腎細胞がんに対する治験　小野薬品工業	
	27　切除不能な局所進行性又は転移性尿路上皮癌患者を対象に、一次治療としてのデュルバルマブ＋標準化学療法及びデュルバルマブ＋トレメリムマブ＋標準化学療法と標準化学療法単独とを比較する第Ⅲ相国際多施設共同無作為化非盲検比較対照試験　アストラゼネカ	
骨軟部腫瘍外科科	1　高悪性度非円形細胞軟部肉腫に対するIfosfamide，Adriamycinによる補助化学療法の第2相臨床試験（JCOG 0304）	比留間　徹
	2　骨肉腫術後補助化学療法におけるIfosfamide併用の効果に関するランダム化比較試験（JCOG 0905）	比留間　徹
	3　脊椎および骨盤骨に発生した骨肉腫･骨悪性線維性組織球腫に対する至適局所治療に関する多施設共同レトロスペクティブ研究（HOPES 003）	比留間　徹
	4　病巣掻爬可能骨巨細胞腫に対する術前デノスマブ療法のランダム化第Ⅲ相試験（JCOG 1610）	比留間　徹
東洋医学科	1　漢方サポートとがんのQOL	板倉英俊
免疫療法科	1　完全切除された非小細胞肺がんに対する術後補助化学療法後のS-588410によるペプチドワクチン維持療法の第2相試験	笹田哲朗ほか ほか国内5施設
	2　難治性軟部肉腫に対するNY-ESO-1抗原を標的としたワクチン併用	笹田哲朗ほか

科　別	研　究　課　題	研 究 者 名
	TCR遺伝子改変T細胞輸注療法の多施設共同医師主導治験	ほか国内７施設
	3　標準療法不応進行膵癌に対するS-1併用WT1ペプチドパルス樹状細胞（TLP0-001）の安全性・有効性を検討する二重盲検ランダム化比較試験	笹田哲朗ほか ほか国内14施設
	4　標準治療不応の切除不能な進行・再発胃がんに対する局所放射線療法とNivolumab（抗PD-1抗体）併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	笹田哲朗ほか ほか国内１施設
	5　免疫チェックポイント阻害剤治療におけるバイオマーカー同定および耐性メカニズムの解明	笹田哲朗ほか
	6　進行・再発非小細胞肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤の患者層別化マーカーに関する探索的研究	笹田哲朗ほか ほか国内３施設
	7　放射線治療の免疫学的影響の解析	笹田哲朗ほか ほか国内１施設
物理工学科	1　重粒子線装置の高度化に関する研究；色素ゲルを使った照射線量分布測定システムの検討（横浜国立大学―東芝―神奈川県立病院機構 共同研究）	蓑原伸一ほか３名
	2　画像高精細化手法とそれを用いた機械学習による高精度３次元動態追尾システムの研究（横浜国立大学―東芝―神奈川県立病院機構 共同研究）	蓑原伸一ほか３名
	3　炭素線ペンシルビーム高速スキャニング照射法による臨床的照射精度の解析評価、および部位別治療効果の評価（委託研究）	蓑原伸一ほか３名
	4　重粒子線がん治療装置の品質管理及び運用実績のデータベース構築と運用解析、ならびに中・長期的な装置維持手法の検討（共同研究）	蓑原伸一ほか４名
看　護　局	1　ロボット支援型手術の安全な導入に向けた取り組みについて	石橋優友ほか
	2　ロボット支援型手術導入における看護師への教育について	新家　修ほか
	3　国内におけるがん患者の就労および就労支援に関する研究の動向と課題の検討』（文献レビュー）	成川明子
	4　がん看護外来の看護実践内容の分析	山口里枝
	5　食道がん術後せん妄ハイリスクパスの評価と修正の検討	谷島和美
	6　重粒子線治療を受けた前立腺がん体験者の情報ニーズと情報探索行動 ～治療終了後６カ月に焦点を当てて～	シュワルツ史子、塩澤　綾
	7　全科共通パスを適切に運用していく上で必要なこと	甲斐康夫
	8　夜勤業務におけるスタッフ連携強化へのとりくみ ～優しい気持ちの確保～	中村佐知子
	9　救急外来を受診し入院した「がん患者」への支援に関する研究 ～入院に至った経緯に焦点を当てて～	中村佐知子

第2節　研　究　業　績

循環器内科

発表論文

1　Kikuchi S, Tsukahara K, Sakamaki K, Morita Y, Takamura T, Fukui K, Endo T, Shimizu M, Sawada R, Sugano T, Himeno H, Kobayashi S, Arakawa K, Mochida Y, **Tsunematsu T**, Shigemasa T, Okuda J, Ishikawa T, Kimura K, Tamura K: Comparison of anti-inflammatory effects of rivaroxaban vs. dabigatran in patients with non-valvular atrial fibrillation (RIVAL-AF study): multicenter randomized study. Heart Vessels. 2019 Jun; 34(6): 1002-1013. doi: 10.1007/s00380-018-01324-7. Epub 2019 Jan 1. PMID: 30599063 Clinical Trial.

糖尿病内科

学会等発表

1　**堀井三儀**，伊藤　譲，寺内康夫．当院で経験した免疫チェックポイント阻害薬関連下垂体障害発症例の検討．第92回日本内分泌学会学術総会，仙台，5/2019.

2　**堀井三儀**，近藤義宣，長田　潤，寺内康夫：担癌患者に対する血糖管理におけるリラグルチドの有効性の検討．第62回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，5/2019.

呼吸器内科

発表論文

1　Samejima J, Yokose T, Ito H, Nakayama H, Nagashima T, Suzuki M, Hamanaka R, **Yamada K**, Masuda M: Prognostic significance of blood and lymphatic vessel invasion in pathological stage IA lung adenocarcinoma in the 8th edition of the TNM classification. Lung Cancer: 137 144-148, 2019

2　Inafuku K, Yokose T, Ito H, Eriguchi D, Samejima J, Nagashima T, Nakayama H, Suzuki M, **Yamada K**, Masuda M: Two cases of lung neuroendocrine carcinoma with carcinoid morphology. Diagn Pathol: 104, 2019

3　**Nakahara Y**, Hosomi Y, Shibuya M, Mitsufuji H, Katagiri M, Naoki K, Soejima K, Nogami N, Nagase S, Nishikawa M, Minato K, Takiguchi Y, Seki N, **Yamada K**, Seto T, Okamoto H: Multicenter study of zoledronic acid administration in non-small-cell lung cancer patients with bone metastasis Thoracic Oncology Research Group (TORG) 1017. Molecular and Clinical Oncology: 349-353, 2019

4　Inafuku K, Yokose T, Ito H, Narimatsu H, Samejima J, Nagashima T, Nakayama H, Suzuki M, **Yamada K**, Masuda M: Should Pathologically Noninvasive Lung Adenocarcinoma Larger Than 3cm Be Classified as T1a?. The Annals of Thoracic Surgery: 1678-1684, 2019

5　Isaka T, Ito H, Nakayama H, Yokose T, Katayama K, **Yamada K**, Masuda M: Efficacy of Platinum-Based Adjuvant Chemotherapy on Prognosis of Pathological Stage Ⅱ/Ⅲ Lung Adenocarcinoma based on EGFR Mutation Status. Molecular Diagnosis and Therapy Journal: 657-665, 2019

6　Samejima J, Ito H, Nakayama H, Nagashima T, Osawa J, Inafuku K, Suzuki M, Yokose T, **Yamada K**, Masuda M: Which Window Setting Is Best for Estimating Pathologic Invasive Size and Invasiveness?. The Annals of Thoracic Surgery: 384-391, 2019

7　**Murakami S**, **Saito H**, **Kondo T**, Oshita F, **Yamada K**: Phase Ⅱ study of bevacizumab, cisplatin, and pemetrexed in advanced non-squamous non-small cell lung cancer (NS-NSCLC) with EGFR wild-type. Journal of experimental therapeutics & oncology: 131-138, 2019

8　Morita R, Okishio K, Shimizu J, **Saito H**, Sakai H, Kim YH, Hataji O, Yomota M, Nishio M, Aoe K, Kanai O, Kumagai T, Kibata K, Tsukamoto H, Oizumi S, Fujimoto D, Tanaka H, Mizuno K, Masuda T, Kozuki T, Haku T, Suzuki H, Okamoto I, Hoshiyama H, Ueda J, Ohe Y: Real-world effectiveness and safety of nivolumab in patients with non-small cell lung cancer. A multicenter retrospective observational study in Japan. Lung Cancer: 8-18, 2019

9　**Saito H**, Fukuhara T, Furuya N, Watanabe K, Sugawara S, Iwasawa S, Tsunezuka Y, Yamaguchi O, Okada M, Yoshimori K, Nakachi I, Gemma A, Azuma K, Kurimoto F, Tsubata Y, Fujita Y, Nagashima H, Asai G, Watanabe S, Miyazaki M, Hagiwara K, Nukiwa T, Morita S, Kobayashi K, Maemondo M: Erlotinib plus bevacizumab versus erlotinib alone in patients with EGFR-positive advanced non-squamous non-small-cell lung cancer (NEJ026): interim analysis of an open-label, randomised, multicentre, phase 3 trial. Lancet Oncology: 625-635, 2019

10　Papadimitrakopoulou VA, Han JY, Ahn MJ, Ramalingam SS, Delmonte A, Hsia TC, Laskin J, Kim SW, He Y, Tsai CM, Hida T, Maemondo M, **Kato T**, Jenkins S, Patel S, Huang X, Laus G, Markovets A, Thress KS, Wu YL, Mok T: Epidermal growth factor receptor mutation analysis in tissue and plasma

from the AURA3 trial: Osimertinib versus platinum-pemetrexed for T790M mutation-positive advanced non-small cell lung cancer. Cancer: 1002, 2019

11 Mazieres J, Kowalski D, Luft A, Vicente D, Tafreshi A, Gümüş M, Laktionov K, Hermes B, Cicin I, Rodríguez-Cid J, Wilson J, **Kato T**, Ramlau R, Novello S, Reddy S, Kopp HG, Piperdi B, Li X, Burke T, Paz-Ares L: Health-Related Quality of Life With Carboplatin-Paclitaxel or nab-Paclitaxel With or Without Pembrolizumab in Patients With Metastatic Squamous Non-Small-Cell Lung Cancer. Journal of clinical Oncology 1901348, 2019

12 Hosomi Y, Morita S, Sugawara S, **Kato T**, Fukuhara T, Gemma A, Takahashi K, Fujita Y, Harada T, Minato K, Takamura K, Hagiwara K, Kobayashi K, Nukiwa T, Inoue A: Gefitinib Alone Versus Gefitinib Plus Chemotherapy for Non-Small-Cell Lung Cancer With Mutated Epidermal Growth Factor Receptor NEJ009 Study. Journal of clinical Oncology1901488, 2019

13 Kenmotsu H, Yoh K, Mori K, Ono A, Baba T, Fujiwara Y, Yamaguchi O, Ko R, Okamoto H, Yamamoto N, Ninomiya T, Ogura T, **Kato T**: Phase Ⅱ study of nab-paclitaxel + carboplatin for patients with non-small-cell lung cancer and interstitial lung disease. Cancer Science 110(12): 3738-3745, 2019

14 Doi T, Muro K, Ishii H, **Kato T**, Tsushima T, Takenoyama M, Oizumi S, Gemmoto K, Suna H, Enokitani K, Kawakami T, Nishikawa H, Yamamoto N: A Phase I Study of the Anti-CC Chemokine Receptor 4 Antibody, Mogamulizumab, in Combination with Nivolumab in Patients with Advanced or Metastatic Solid Tumors. Clinical Cancer Research 25(22): 6614-6622, 2019

15 Hirashima T, Satouchi M, Hida T, Nishio M, **Kato T**, Sakai H, Imamura F, Kiura K, Okamoto I, Kasahara K, Uchida H, Vowler SL, Mitsudomi T: Osimertinib for Japanese patients with T790M-positive advanced non-small-cell lung cancer: A pooled subgroup analysis. Cancer Science110(9): 2884-2893, 2019

16 Okada M, Kijima T, Aoe K, **Kato T**, Fujimoto N, Nakagawa K, Takeda Y, Hida T, Kanai K, Imamura F, Oizumi S, Takahashi T, Takenoyama M, Tanaka H, Hirano J, Namba Y, Ohe Y: Clinical Efficacy and Safety of Nivolumab Results of a Multicenter, Open-label, Single-arm, Japanese Phase Ⅱ study in Malignant Pleural Mesothelioma (MERIT). Clinical Cancer Research 25(18): 5485-5492, 2019

17 Park K, Bennouna J, Boyer M, Hida T, Hirsh V, **Kato T**, Lu S, Mok T, Nakagawa K, O'Byrne K, Paz-Ares L, Schuler M, Sibilot DM, Tan EH, Tanaka H, Wu YL, Yang JC, Zhang L, Zhou C, Märten A, Tang W, Yamamoto N: Sequencing of therapy following first-line afatinib in patients with EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer. Lung Cancer: 126-131, 2019

18 Baba T, Sakai F, **Kato T**, Kusumoto M, Kenmotsu H, Sugiura H, Tominaga J, Oikado K, Sata M, Endo M, Yanagawa N, Sasaki S, Iwasawa T, Saito Y, Fujiwara Y, Ohe Y, Yamazaki N, Sakamoto T, Koshiba T, Kuwano K: Radiologic features of pneumonitis associated with nivolumab in non-small-cell lung cancer and malignant melanoma. Future Oncology: 1911-1920, 2019

19 Watanabe S, Yoshioka H, Sakai H, Hotta K, Takenoyama M, Yamada K, Sugawara S, Takiguchi Y, Hosomi Y, Tomii K, Niho S, Yamamoto N, Nishio M, Ohe Y, **Kato T**, Takahashi T, Kamada A, Suzukawa K, Omori Y, Enatsu S, Nakagawa K, Tamura T: Corrigendum to "Necitumumab plus gemcitabine and cisplatin versus gemcitabine and cisplatin alone as first-line treatment for stage Ⅳ squamous non-small cell lung cancer: A phase 1b and randomized, open-label, multicenter, phase 2 trial in Japan. Lung Cancer: 157-158, 2019

20 **Nakahara Y**, Kouro T, Igarashi Y, Kawahara M, Sasada T: Prospects for a personalized peptide vaccine against lung cancer. Expert Review of Vaccines :703-709, 2019

21 **Nakahara Y**, Hosomi Y, Shibuya M, Mitsufuji H, Katagiri M, Naoki K, Soejima K, Nogami N, Nagase S, Nishikawa M, Minato K, Takiguchi Y, Seki N, Yamada K, Seto T, Okamoto H: Multicenter Study of Zoledronic Acid Administration in Non-Small-Cell Lung Cancer Patients With Bone Metastasis: Thoracic Oncology Research Group (TORG) 1017. Molecular and clinical oncology: 349-353, 2019

22 **Murakami S**: Durvalumab for the treatment of non-small cell lung cancer. Expert Review of Anticancer Therapy: 1009-1016, 2019

23 Hui R, Özgüroğlu M, Villegas A, Daniel D, Vicente D, **Murakami S**, Yokoi T, Chiappori A, Lee KH, de Wit M, Cho BC, Gray JE, Rydén A, Viviers L, Poole L, Zhang Y, Dennis PA, Antonia SJ: Patient-reported outcomes with durvalumab after chemoradiotherapy in stage Ⅲ, unresectable non-small-cell lung cancer (PACIFIC): a randomised, controlled, phase 3 study. Lancet Oncology: 1670-1680, 2019

24 Masuda K, Fujiwara Y, Shinno Y, Mizuno T, Sato J, Morita R, Matsumoto Y, **Murakami S**, Goto Y, Kanda S, Horinouchi H, Yamamoto N, Ohe Y: Efficacy and safety of crizotinib in patients with ROS1 rearranged non-small cell lung cancer: a retrospective analysis.

Journal of Thoracic Disease: 2965-2972, 2019
25 Naito T, Udagawa H, Sato J, Horinouchi H, **Murakami S**, Goto Y, Kanda S, Fujiwara Y, Yamamoto N, Zenke Y, Kirita K, Matsumoto S, Yoh K, Niho S, Motoi N, Ohe Y, Ishii G, Goto K: A Minimum Of 100 Tumor Cells in a Single Biopsy Sample Is Required to Assess Programmed Cell Death Ligand 1 Expression in Predicting Patient Response to Nivolumab Treatment in Nonsquamous Non-Small Cell Lung Carcinoma. Journal of thoracic oncology: 1818-1827, 2019
26 Shibaki R, **Murakami S**, Oki K, Ohe Y: Nivolumab-induced autoimmune encephalitis in an anti-neuronal autoantibody-positive patient. Japan Journal of clinical oncology: 793-794, 2019
27 Shibaki R, **Murakami S**, Matsumoto Y, Goto Y, Kanda S, Horinouchi H, Fujiwara Y, Yamamoto N, Motoi N, Kusumoto M, Yamamoto N, Ohe Y: Tumor expression and usefulness as a biomarker of programmed death ligand 1 in advanced non-small cell lung cancer patients with preexisting interstitial lung disease. Medical oncology: 49, 2019
28 Tamura N, Horinouchi H, Sekine K, Matsumoto Y, **Murakami S**, Goto Y, Kanda S, Fujiwara Y, Yamamoto N, Ohe Y: Efficacy of subsequent docetaxel +/- ramucirumab and S-1 after nivolumab for patients with advanced non-small cell lung cancer. Thorac Cancer: 1141-1148, 2019
29 Shibaki R, **Murakami S**, Shinno Y, Matsumoto Y, Goto Y, Kanda S, Horinouchi H, Fujiwara Y, Motoi N, Yamamoto N, Ohe Y: Malignant pleural effusion as a predictor of the efficacy of anti-PD-1 antibody in patients with non-small cell lung cancer. Thorac Cancer: 815-822, 2019
30 Shinno Y, Goto Y, Sato J, Morita R, Matsumoto Y, **Murakami S**, Kanda S, Horinouchi H, Fujiwara Y, Yamamoto N, Ohe Y: Mixed response to osimertinib and the beneficial effects of additional local therapy. Thorac Cancer: 738-743, 2019
31 Shibaki R, **Murakami S**, Matsumoto Y, Yoshida T, Goto Y, Kanda S, Horinouchi H, Fujiwara Y, Yamamoto N, Kusumoto M, Yamamoto N, Ohe Y: Association of immune-related pneumonitis with the presence of preexisting interstitial lung disease in patients with non-small lung cancer receiving anti-programmed cell death 1 antibody. Cancer Immunol Immunother: 15-22, 2020
32 Gray JE, Villegas A, Daniel D, Vicente D, **Murakami S**, Hui R, Kurata T, Chiappori A, Lee KH, Cho BC, Planchard D, Paz-Ares L, Faivre-Finn C, Vansteenkiste JF, Spigel DR, Wadsworth C, Taboada M, Dennis PA, Özgüroğlu M, Antonia SJ: Three-Year Overall Survival with Durvalumab after Chemoradiotherapy in Stage Ⅲ NSCLC-Update from PACIFIC. Journal of thoracic oncology: 288-293, 2020
33 Ida H, Goto Y, Sato J, Kanda S, Shinno Y, Morita R, **Murakami S**, Matsumoto Y, Yoshida T, Horinouchi H, Fujiwara Y, Yamamoto N, Fukuda T, Ohashi K, Ohe Y: Clinical characteristics of adrenal insufficiency as an immune-related adverse event in non-small-cell lung cancer. Medical oncology: 37 30, 2020
34 hibaki R, **Murakami S**, Shinno Y, Matsumoto Y, Yoshida T, Goto Y, Kanda S, Horinouchi H, Fujiwara Y, Yamamoto N, Yamamoto N, Ohe Y: Predictive value of serum VEGF levels for elderly patients or for patients with poor performance status receiving anti-PD-1 antibody therapy for advanced non-small-cell lung cancer. Cancer Immunol Immunother, 2020
35 Mazieres J, Kowalski D, Luft A, Vicente D, Tafreshi A, Gümüş M, Laktionov K, Hermes B, Cicin I, Rodríguez-Cid J, Wilson J, **Kato T**, Ramlau R, Novello S, Reddy S, Kopp HG, Piperdi B, Li X, Burke T, Paz-Ares L: Health-Related Quality of Life With Carboplatin-Paclitaxel or nab-Paclitaxel With or Without Pembrolizumab in Patients With Metastatic Squamous Non-Small-Cell Lung Cancer. Journal of clinical Oncology: 271-280, 2020
36 Takahama T, Azuma K, Shimokawa M, Takeda M, Ishii H, **Kato T**, **Saito H**, Daga H, Tsuboguchi Y, Okamoto I, Otsubo K, Akamatsu H, Teraoka S, Takahashi T, Ono A, Ohira T, Yokoyama T, Sakai K, Yamamoto N, Nishio K, Nakagawa K: Plasma screening for the T790M mutation of EGFR and phase 2 study of osimertinib efficacy in plasma T790M-positive non-small cell lung cancer: West Japan Oncology Group 8815L/LPS study. Cancer: 1940-1948, 2020
37 Yoshioka H, **Kato T**, Okamoto I, Tanaka H, Hida T, Seto T, Kiura K, Tian Y, Azuma H, Yamamoto N: Therapies after first-line afatinib in patients with EGFRm+ NSCLC in Japan: retrospective analysis of LUX-Lung 3. Future Oncology: 49-60, 2020
38 Shimizu J, Masago K, **Saito H**, Nishino K, Kurata T, Itoh Y, Yoshimura Y, Yabuki Y, Dosaka-Akita H: Biomarker testing for personalized, first-line therapy in advanced nonsquamous non-small cell lung cancer patients in the real world setting in Japan: a retrospective, multicenter, observational study (the BRAVE study). Therapeutic advances in medical oncology: 12, 020
39 壺井貴朗，**臼井　亮**，**中原善朗**，下川路伊亮，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**斎藤春洋**，伊藤宏之，中山治彦，横瀬智

之，**山田耕三**，岩崎正之：気管支鏡検査で診断した非小細胞肺癌におけるPD-L1の発現とその臨床的因子およびCT画像所見との関連について．日本がん検診・診断学会誌（1881-8846）26巻3号：254-258，2019

40　堤　壮吾，大久保陽一郎，滝沢明利，安井将人，野口　剛，梅本　晋，**加藤晃史**，岸田　健：ニボルマブによる間質性肺炎発症後も有効性が維持されている転移性腎癌の一例．日本泌尿器科学会雑誌（110巻2号，124-128，2019

41　壺井貴朗，**臼井　亮**，**中原善朗**，下川路伊亮，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**斎藤春洋**，伊藤宏之，中山治彦，横瀬智之，**山田耕三**，岩崎正之：気管支鏡検査で診断した非小細胞肺癌におけるPD-L1の発現とその臨床的因子およびCT画像所見との関連について．日本がん検診・診断学会誌26巻3号，254-258，2019

その他出版物

1　**加藤晃史**：肺癌薬物療法の副作用対策．肺癌（0386-9628）59巻Suppl：1122-1124，2019

2　**村上修司**：小細胞肺がんに対する免疫チェックポイント阻害薬．腫瘍内科（1881-6568）23巻5号：484-490，2019

3　**村上修司**：Ⅲ期非小細胞肺癌に対する化学放射線療法の変遷と新しい時代．肺癌（0386-9628）59巻2号：117-122，2019

4　**中原善朗**：今の流れに乗り遅れない！―プライマリ・ケアでの呼吸器疾患の診かた・薬の使いかた】肺がんと間質性肺炎の最新事情　肺がんの最新治療　薬剤のオーバービューと注意すべき副作用．Medicina（0025-7699）57巻1号：130-133，2020

学会等発表

1　矢ヶ崎秀彦，伊藤宏之，鮫島譲司，永島琢也，稲福賢司，江里口大介，加藤弘之，吉田大作，土田佳祐，**山田耕三**，中山治彦：75歳以上の高齢者に対する縮小手術と定位放射線照射の治療効果比較．第36回日本呼吸器外科学会学術集会，大阪，2019/5

2　稲福賢司，横瀬智之，伊藤宏之，矢ヶ崎秀彦，江里口大介，鮫島譲司，永島琢也，中山治彦，**山田耕三**，益田宗孝：肺神経内分泌癌においてソマトスタチン受容体発現は予後因子となるか．第36回日本呼吸器外科学会学術集会，大阪，2019/5

3　鮫島譲司，横瀬智之，伊藤宏之，中山治彦，永島琢也，稲福賢司，江里口大介，矢ヶ崎秀彦，**山田耕三**，益田宗孝：肺癌の転移リンパ節における免疫担当細胞の発現と術後再発の相関．第36回日本呼吸器外科学会学術集会，大阪，2019/5

4　高橋祥子，大木宏一，山田　哲，荒川千晶，足立智英，柴木亮太，**村上修司**，星野晴彦：悪性胸膜中皮腫に対する抗PD-1抗体投与後に発症した抗Ma2抗体陽性脳炎の1例．第651回日本内科学会関東地方会，東京，2019/6

5　小野沢博登，**斎藤春洋**，**臼井　亮**，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，壺井貴朗，江里口大介，根元大士，鮫島譲司，永島琢也，伊藤宏之，**山田耕三**，横瀬智之：原発性肺癌との鑑別が術前に困難であった肺胞蛋白症疑いの症例．第185回日本肺癌学会関東支部学術集会，東京，2019/7

6　**臼井　亮**，片　佑樹，**中原善朗**，染川弘平，下川路伊亮，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**齋藤春洋**，**山田耕三**：肺門リンパ節からのEBUS-TBNAで診断したPro GRP著明高値のALK遺伝子転座陽性進行非小細胞肺癌の一例．第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会，東京，2019/7

7　片　佑樹，**中原善朗**，**臼井　亮**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**齋藤春洋**，横瀬智之，伊藤宏之，**山田耕三**：オシメルチニブによる抗腫瘍効果が異なる肺内転移に対して気管支鏡検査により耐性機序の評価を行った肺腺癌の一例．第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会，東京，2019/7

8　**齋藤春洋**，守田　亮，沖塩協一，清水淳市，酒井　洋，金　永学，畑地　治，四方田真紀子，西尾誠人，青江啓介，金井　修，熊谷　融，木畑佳代子，塚本宏壮，大泉聡史，富井啓介，田中洋史，水野圭子，星山弘敏，越智研也，大江裕一郎：Real-World Effectiveness and Safety of Nivolumab in NSCLC pts in Japan: A Multicenter Retrospective Observational Study．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019/7

9　**加藤晃史**，酒井文和，楠本昌彦，遠藤正浩，齋藤好信，馬場智尚，佐多将史，山口　央，坂本　慶，菅野公寿，田村令子，時本敏充，清水　渉，弦間昭彦，大江裕一郎：Safety and efficacy of osimertinib: final report of the Japan-local All-patient Clinical Experience Investigation．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019/7

10　**中原善朗**，松尾規和，東　公一，内藤佳子，石井秀宣，時任高章，五十嵐友香，紅露　拓，**臼井　亮**，下川路伊亮，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**齋藤春洋**，**山田耕三**，星野友昭，笹田哲朗：Changes of BCR repertoire are predictive biomarker for the efficacy of immune checkpoint inhibitor in NSCLC．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019/7

11　水野孝昭，藤原　豊，山本　昇，角南久仁子，久保　崇，市川　仁，守田　亮，佐藤　潤，後藤　悌，堀之内秀仁，神田慎太郎，**村上修司**，吉田達哉，大江裕一郎，河野隆志：Clinical impact of NCC Oncopanel for precision medicine in patients with non-small-cell lung cancer．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019/7

12　松本慎吾，葉　清隆，大江裕一郎，瀬戸貴司，西野和美，**加藤晃史**，片山　稔，伊藤竜二，後藤功一：Performance of OncomineDx Target Test as molecular diagnostics for EGFR―, ALK― and ROS1-positive

lung cancer．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019/7

13　中村有希子，下川恒生，**中原喜朗**，**加藤晃史**，滝口裕一，岡本浩明：TORGにおける医師主導治験/先進医療の取り組みと問題点.第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019/7

14　磯村玲子，**加藤晃史**，下川路伊亮，植草希美子，星るみ子，片　佑樹，**臼井　亮**，**中原善朗**，**近藤哲郎**，**齋藤春洋**，**山田耕三**：全国ゲノムスクリーニングプロジェクトLC-SCRUM-Japanへの登録推進のための多職種連携システム．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019/7

15　國政　啓，松本慎吾，葉　清隆，**加藤晃史**，宮本信吾，菅原俊一，中尾美香，大江裕一郎，瀬戸貴司，榊原　純，古屋直樹，後藤功一：Clinical development of molecular-targeted therapies for non-small cell lung cancer through LC-SCRUM-Japan．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019/7

16　**加藤晃史**：薬物療法による副作用のマネージメント　がん薬物療法と肺臓炎出たら終わり、の時代は終わり．第27回日本乳癌学会学術集会，東京，2019/7

17　五十嵐友香，**中原善朗**，松尾規和，東　公一，笹田哲朗：B細胞受容体（BCR）のレパトア解析は非小細胞肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤のバイオマーカーとして有用である．第23回日本がん免疫学会総会，高知，2019/8

18　小野沢博登，**斎藤春洋**，**臼井　亮**，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，壺井貴朗，江里口大介，根元大士，鮫島譲司，永島琢也，伊藤宏之，**山田耕三**：原発性肺癌術後脳転移症例に対する背景因子の検討．第27回日本がん検診・診断学会総会，横浜，2019/8

19　**中原善朗**：肺癌治療における免疫チェックポイント阻害薬の位置づけと展望．第27回日本がん検診・診断学会総会，横浜，2019/8

20　**中原善朗**：進行肺癌における免疫チェックポイント療法を用いた治療戦略と今後の展望．第236回日本呼吸器学会関東地方会・第176回日本結核学会関東支部会 合同学会，東京，2019/9

21　**齋藤春洋**：リキッド診断の展望　肺がんにおけるリキッド診断の展望．第27回日本がん検診･診断学会総会，横浜，2019/8

22　大田隆代，福井朋也，**中原善朗**，竹田隆之，内野順治，毛利貴子，工藤慶太，中島早希，鈴村倫弘，福岡正博：非小細胞肺癌における抗PD-1抗体療法による血清perforinのベースライン（Serum baseline perforin levels with anti-PD-1 antibody therapies in non-small cell lung cancer）．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，2019/10

23　**加藤晃史**：進行がんの治療継続をめぐる葛藤の共有　がん薬物療法にやめどきはあるか？凄まじいがん薬物療法の進歩に、私たちの意識改革がついていってない．第43回日本死の臨床研究会年次大会，神戸，2019/11

24　**齋藤春洋**，小野沢博登，**臼井　亮**，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**山田耕三**：免疫チェックポイント阻害剤に対してMixed responseを示した症例の検討．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

25　小野沢博登，**斎藤春洋**，**臼井　亮**，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，壺井貴朗，江里口大介，根本大士，鮫島譲司，永島琢也，伊藤宏之，**山田耕三**：肺癌術後oligo-recurrence metastasisに対する局所治療の有用性の検討．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

26　**加藤晃史**：「PS-3/Large-scale nationwide genomic screening system for small cell lung cancer（LC-SCRUM Japan）．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

27　**村上修司**，**臼井　亮**，**中原善朗**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**斎藤春洋**，**山田耕三**：ペムブロリズマブによる初回治療と抗核抗体との関係．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

28　**近藤哲郎**，**中原善朗**，**臼井　亮**，**村上修司**，**加藤晃史**，**齋藤春洋**，伊藤宏之，横瀬智之，**山田耕三**：肺癌治療耐性獲得後再生検におけるT790M遺伝子検出に関与する因子解析．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

29　**臼井　亮**，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**斎藤春洋**，**山田耕三**：当院で進行非小細胞肺癌に対してPD-1阻害薬投与によって発症した副腎皮質機能低下症の2例．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

30　**中原善朗**，小野沢博登，**臼井　亮**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**齋藤春洋**，横瀬智之，**山田耕三**：ALK検査法がALK阻害剤の効果に及ぼす影響．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

31　野崎　要，糸谷　涼，松本慎吾，西野和美，小谷昌広，原聡志，**加藤晃史**，新行内雅斗，後藤功一：リキッドバイオプシーに基づいたEGFR阻害薬の治療効果・耐性機序の予測に関する検討．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

32　山本信之，**加藤晃史**，尾崎正彦，濱田昌宏，竹内紀子，山田知子，川野正記，神谷　哲，神田錦吾，伊藤雄一郎，前川慎一郎：Japanese Post-Marketing Surveillance of Pembrolizumab Monotherapy in NSCLC．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

33　松本慎吾，葉　清隆，瀬戸貴司，宮本信吾，駄賀晴子，小谷昌広，井谷英敏，**加藤晃史**，古屋直樹，後藤功一：MET exon 14 skipping陽性肺癌101例の臨床病理学的特徴．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

34　宇田川響，松本慎吾，大江裕一郎，里内美弥子，古屋直樹，金　永学，瀬戸貴司，副島研造，早川乃介，**加藤晃史**，宮本信吾，葉　清隆，後藤功一：実臨床におけるEGFR-TKIの使い分けとシーケンスEGFR/HER2 exon20挿入変異陽性肺癌に対する既存の薬物療法の効

果．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

35　内藤智之，成田翔子，宇田川響，後藤功一，宮脇太一，豆鞘伸昭，中島和寿，釵持広知，下川路伊亮，**加藤晃史**，箱崎泰貴，大熊裕介，中山優子，渡辺裕一，楠本昌彦，大江裕一郎，堀之内秀仁：自己免疫疾患・高齢者・全身状態不良例に対する免疫治療　非小細胞肺癌患者におけるニボルマブ治療の免疫関連肺障害および放射線肺臓炎のリコール現象に関する研究．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

36　糸谷　涼，宇田川響，松本慎吾，西野和美，宮本信吾，久山彰一，新行内雅斗，仲地一郎，海老規之，**加藤晃史**，原　聡志，福井基成，後藤功一：実臨床におけるリキッドバイオプシーの役割　非小細胞肺癌における腫瘍組織と血漿遊離DNAを用いたNGS解析の一致率に関する検討（LC-SCRUM-Liquid）．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

37　岡本　勇，**加藤晃史**，今村文生，山本信之，西尾誠人，安宅信二，平島智徳，田中洋史，福原達朗，中原保治，片上信之，岡田守人，倉田宝保，堀之内秀仁，宇田川響，笠原寿郎，阿達則昭，野口一夫，Piperdi Bilal，菅原俊一：Pembrolizumab Plus Chemotherapy in 1st line Metastatic Squamous NSCLC：KEYNOTE-407 Japanese subgroup．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

38　内藤智之，宇田川響，佐藤　潤，堀之内秀仁，**村上修司**，後藤　悌，神田慎太郎，藤原　豊，山本　昇，善家義貴，桐田圭輔，松本慎吾，葉　清隆，仁保誠治，元井紀子，大江裕一郎，石井源一郎，後藤功一：非扁平上皮非小細胞肺癌に対するNivolumabの効果予測におけるPD-L1発現評価に必要な生検検体数と腫瘍細胞数．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

39　丹澤　盛，久保　寿夫，野上尚之，別所昭宏，深松伸明，池尾　聡，横山俊秀，市川靖子，藤本伸一，**村上修司**，解良恭一，原田敏之，中村香葉，岩澤俊一郎，下川恒生，木浦勝行，山下夏美，岡本浩明：進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ナブパクリタキセル+ベバシズマブの第Ⅱ相試験．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

40　里内美弥子，**村上修司**，瀬戸貴司，西尾誠人，林　秀敏，中川和彦，朝戸臣敬，橋上美香，Zhang Pingkuan，大江裕一郎：Preliminary results of brigatinib in Japanese who previously received alectinib．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

41　森田絢子，市川靖子，別所昭宏，太田修二，宮崎和人，**中原善朗**，四方田真紀子，岩澤俊一郎，時　高章，関順彦，岡本浩明：PS2進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン＋アブラキサン併用化学療法の第Ⅱ相試験（TORG1426）．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

42　伊藤　淳，太田春彦，**臼井　亮**，谷澤　徹，大久保憲一：術後気管支断端がR1で術後8年無再発生存している右下葉大細胞神経内分泌癌の一例．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12

43　田中明美，**村上修司**，永岡澄音，村松美穂，平山麻実子，須原 広子，藤井理恵薫，**山田耕三**：肺癌アファチニブ治療患者に対する外来栄養指導時の栄養評価と体組成変化率の評価．第23回日本病態栄養学会年次学術集会，京都，2020/1

44　甲斐康夫，**村上修司**：全科共通免疫チェックポイント阻害薬パスを運用する為の取り組み．第20回日本クリニカルパス学会学術集会，熊本，2020/1

呼吸器外科

発表論文

1　**Isaka T**, **Ito H**, **Nakayama H**, **Yokose T**, **Katayama K**, **Yamada K**, Masuda M. Efficacy of platinum based adjuvant chemotherapy on prognosis of pathological stage Ⅱ / Ⅲ lung adenocarcinoma based on EGFR mutation status: a propensity score matching analysis. Mol Diagn Ther. 2019 Oct; 23(5): 657-665.

2　**Samejima J**, **Ito H**, **Nakayama H**, **Nagashima T**, Osawa J, Inafuku K, **Suzuki M**, **Yokose T**, **Yamada K**, Masuda M. Which Window Setting Is Best for Estimating Pathologic Invasive Size and Invasiveness? Ann Thorac Surg. 2019 Aug; 108(2): 384-391

3　**Nagata M**, **Ito H**, **Yokose T**, Tokushige A, Ueda S, **Nakayama H**. Effect of progressive sarcopenia during postoperative 6 months on long-term prognosis of completely resected lung cancer. J Thorac Dis. 2019 Aug; 11(8): 3411-3420.

4　Inafuku K, **Yokose T**, **Ito H**, **Eriguchi D**, **Samejima J**, **Nagashima T**, **Nakayama H**, **Suzuki M**, **Yamada K**, Masuda M. Two cases of lung neuroendocrine carcinoma with carcinoid morphology. Diagn Pathol. 2019 Sep 12; 14(1): 104

5　**Samejima J**, **Yokose T**, **Ito H**, **Nakayama H**, **Nagashima T**, **Suzuki M**, Hamanaka R, **Yamada K**, Masuda M. Prognostic significance of blood and lymphatic vessel invasion in pathological stage IA lung adenocarcinoma in the 8th edition of the TNM classification. Lung Cancer. 2019 Nov; 137: 144-148.

6　Maezawa Y, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Kano K, Aoyama T, Hiroshima Y, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, **Ito H**, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. High gamma glutamyl hydrolase and low folylpolyglutamate synthetase expression as prognostic biomarkers in patients with locally advanced gastric cancer

who were administrated postoperative adjuvant chemotherapy with S 1. J Cancer Res Clin Oncol. 2019 Nov 21. doi: 10. 1007/s00432-019-03087-8.

7 **Nagashima T**, **Ito H**, **Samejima J**, **Nemoto D**, **Eriguchi D**, **Nakayama H**, Woo T, Masuda M Postoperative changes of the free pericardial fat pad for bronchial stump coverage. J Thorac Dis 2019; 11(12): 5228-5236.

8 **Inafuku K**, **Yokose T**, **Ito H**, **Narimatsu H**, **Samejima J**, **Nagashima T**, **Nakayama H**, **Suzuki M**, **Yamada K**, Masuda M. Should Pathologically Noninvasive Lung Adenocarcinoma Larger Than 3cm Be Classified as T1a? Ann Thorac Surg. 2019 Dec; 108(6): 1678-1684.

9 **Samejima J**, **Ito H**, **Yokose T**, **Nagashima T**. Desmoid-type Fibromatosis Arising from Thoracotomy Incision Clin Case Rep. 2019; 00: 12.

10 Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, Hiroshima Y, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, **Ito H**, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in StageⅡ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo. 2020 Jan-Feb; 34(1): 461-467.

11 Ito M, Miyata Y, Tsutani Y, **Ito H**, **Nakayama H**, Imai K, Ikeda N, Okada M. Positive EGFR mutation status is a risk of recurrence in pN0 1 lung adenocarcinoma when combined with pathological stage and histological subtype: A retrospective multi-center analysis Lung Cancer. 2020 Mar; 141: 107-113.

12 Watanabe H, Hayashi T, Komori K, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Shimoda Y, Fujikawa H, Aoyama T, Yamada T, Yamamoto N, Cho H, **Ito H**, Shiozawa M, Yukawa N, Morinaga S, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Impact of postoperative complications on recurrence in patients with stage Ⅱ/Ⅲ gastric cancer who received adjuvant chemotherapy with S-1. Anticancer Res. 2020 Mar; 40(3): 1683-1690.

学会発表

1 Hattori A, Suzuki K, Takamochi K, Koike T, Wakabayashi M, Aokage K, Saji H, Yoshioka H, Zenke Y, Tsutani Y, **Ito H**, Aoki T, Nakagawa K, Okami J, Okada M, Mizutani T, Fukuda H, Watanabe S. Validation study to evaluate the prognostic impact of the presence of a ground glass opacity component in clinical stage ⅠA non-small cell lung cancer: Supplementary analysis of Japan Clinical Oncology Groups trial, JCOG 0201. American Association for Thoracic Surgery, 99th Annual Meeting, Toronto, Canada 2019/4/5

2 **Ito H**, **Nakayama H**, **Nagashima T**, **Samejima J**, **Eriguchi D**, **Nemoto D**, **Tsuboi T**. Surgery for cT4 and cN2 disease: Multimodality treatment for locally advanced lung cancer. The 10th Biennial Conference of Asian Thoracic Surgical Club, Kazusa Akademia Hall, Chiba, Japan. 2019/9/28

3 **Tsuboi T**, **Eriguchi D**, **Nemoto D**, **Samejima J**, **Nagashima T**, **Ito H**, **Nakayama H**. Prognosis and clinicopathologic characteristics of skip N2 metastasis in completely resected non-small cell lung cancer the IASLC 2019 World Conference on Lung Cancer, Barcelona, Spain, 2019/9/9

4 **Nemoto D**, **Ito H**, **Tsuboi T**, **Eriguchi D**, **Samejima J**, **Nagashima T**, **Nakayama H**, Masuda M. Outcome of Surgical Treatment for Clinical N1 Non-Small Cell Lung Cancer.the IASLC 2019 World Conference on Lung Cancer, Barcelona, Spain 2019/9/9

5 **Nagashima T**. Thoracoscopic segmentectomy using perfusion area-detector three-dimensional imaging simulation and the indocyanine green intravenous injection method. The 10th Biennial Conference of Asian Thoracic Surgical Club (ATSC), Kazusa Akademia Hall, Chiba, Japan, 2019/9/27

6 **Tsuboi T**, **Eriguchi D**, **Nemoto D**, **Samejima J**, **Nagashima T**, **Ito H**, **Nakayama H**, **Kato H**, **Yoshida D**, **Tsuchida K**, **Yamada K**. Comparison of the therapeutic effects of reduction surgery and stereotactic radiotherapy in elderly patients 75 years or older. The 10th Biennial Conference of Asian Thoracic Surgical Club (ATSC), Kazusa Akademia Hall, Chiba, Japan 2019/9/28

7 **Nemoto D**, **Ito H**, **Tsuboi T**, **Eriguchi D**, **Samejima J**, **Nagashima T**, **Nakayama H**, Masuda M. Surgical or perioperative factors may affect outcome of clinical N1 non-small cell lung cancer. The 10th Biennial Conference of Asian Thoracic Surgical Club (ATSC), Kazusa Akademia Hall, Chiba, Japan, 2019/9/28

8 **Samejima J**, **Ito H**, **Nagashima T**, **Nemoto D**, **Eriguchi D**, **Tsuboi T**, **Yokose T**, **Yamada K**, **Nakayama H**, Masuda M. Prognostic effect of 4L lymph node dissection in patients with left upper lung cancer. The 10th Biennial Conference of Asian Thoracic Surgical Club (ATSC), Kazusa Akademia Hall, Chiba, Japan, 2019/9/28

9 **Isaka T**, **Ito H**, **Nakayama** H, Ishikawa Y, **Yokose T**, Masuda M. The significance of epidermal growth factor receptor mutation on 8th TNM classification of early-staged non-small cell lung cancer. The 10th Biennial Conference of Asian Thoracic Surgical Club

(ATSC), Kazusa Akademia Hall, Chiba, Japan 2019/9/28

10 Shimada Y, Tsutani Y, Mimae T, **Ito H**, Maehara S, Kudo Y, Miyata Y, **Nakayama H**, Okada M, Ikeda N. Smoking extent and cessation on glucose uptake activity in patients with non-small cell lung cancer. Society of Thoracic Surgeons (STS) 56th Annual Meeting 2020, Ernest N. Memorial Convention Center, New Orleans, USA, 2020/1/25

11 **鮫島譲司**、**横瀬智之**、**伊藤宏之**、**中山治彦**、**永島琢也**、**稲福賢司**、**江里口大介**、**矢ヶ崎秀彦**、**山田耕三**、益田宗孝．肺癌の転移リンパ節における免疫担当細胞の発現と術後再発の相関．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/15

12 **永島琢也**、**伊藤宏之**、**矢ヶ崎秀彦**、**江里口大介**、**稲福賢司**、**鮫島譲司**、**中山治彦**、益田宗孝．心膜合併切除・再建を伴った完全鏡視下左肺舌区域切除．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/15

13 **永島琢也**、**伊藤宏之**、**矢ヶ崎秀彦**、**江里口大介**、**稲福賢司**、**鮫島譲司**、**中山治彦**、益田宗孝．PA支配領域の3D画像シミュレーションとICG静注法を用いた肺区域切除．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，ワークショップ，2019/5/16

14 岡見次郎、新谷　康、奥村明之進、**伊藤宏之**、大塚崇、豊岡伸一、森　毅、渡辺俊一、中西良一、永安　武、伊達洋至、淺村尚生、遠藤俊輔、千田雅之、横井香平、宮岡悦良、吉野一郎．第7次事業2010年肺癌外科切除18972例の報告．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/16

15 見前隆洋、津谷康大、宮田義浩、今井健太郎、**伊藤宏之**、**中山治彦**、池田徳彦、岡田守人．Solid 腫瘍径2 cmはmixed GGOを伴うcT1N0 肺腺癌症例の予後を層別する．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/16

16 **江里口大介**、**矢ヶ崎秀彦**、**稲福賢司**、**鮫島譲司**、**永島琢也**、**伊藤宏之**、**中山治彦**．小型肺癌胸膜浸潤例に対する縮小手術のアプローチについての検討．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/16

17 **伊藤宏之**、**中山治彦**、**永島琢也**、**鮫島譲司**、**稲福賢司**、**矢ヶ崎秀彦**．TNM第8版の病理病期ⅠB期肺腺癌Lepidic predominantには補助化学療法は不要である．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/17

18 **永田　仁**、**伊藤宏之**、**横瀬智之**、**中山治彦**．肺癌根治切除後半年のSkeletal muscle indexの減少率は術後半年以降の長期予後不良因子である．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/16

19 **伊坂哲哉**、石川善啓、禹　哲漢、**伊藤宏之**、**中山治彦**、**益田宗孝**．EGFR exon 18 G719X およびEGFR exon 20 insertion肺癌とEGFR major mutation 肺癌との予後比較．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/17

20 **稲福賢司**、**横瀬智之**、**伊藤宏之**、**矢ヶ崎秀彦**、**江里口大介**、**鮫島譲司**、**永島琢也**、**中山治彦**、**山田耕三**、益田宗孝．肺神経内分泌癌においてソマトスタチン受容体発現は予後因子となるか？第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/17

21 **矢ヶ崎秀彦**、**伊藤宏之**、**鮫島譲司**、**永島琢也**、**稲福賢司**、**江里口大介**、**加藤弘之**、**吉田大作**、**土田佳祐**、**山田耕三**、**中山治彦**．75歳以上の高齢者に対する縮小手術と定位放射線照射の治療効果比較．第36回日本呼吸器外科学会総会，大阪，2019/5/17

22 石川善啓，**伊藤宏之**，禹　哲漢，澁谷泰介，**伊坂哲哉**，鈴木伸一，益田宗孝．アプローチ法選択に苦慮した巨大胸膜孤立性繊維腫の1切除例．第180回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，東京，2019/6/8

23 **小野沢博登**、**斎藤春洋**、**臼井　亮**、**中原善朗**、**村上修司**、**近藤哲郎**、**加藤晃史**、**壺井貴朗**、**江里口大介**、**根元大士**、**鮫島譲司**、**永島琢也**、**伊藤宏之**、**横瀬智之**、**山田耕三**．原発性肺癌との鑑別が術前に困難であった肺胞蛋白症疑いの症例．第185回日本肺癌学会関東支部学術集会，2019/7/6

24 **Isaka T**，**Ito H**，**Nakayama H**，Ishikawa Y, Woo T, Masuda M．Impact of EGFR gene mutation on prognosis for clinical stage ⅠA primary adenocarcinoma of the lung（8th TNM classification）．第72回日本胸部外科学会定期学術集会，京都，2019/11/1

25 **伊坂哲哉**、**伊藤宏之**、**中山治彦**、石川善啓、禹　哲漢、益田宗孝．EGFR 遺伝子変異が原発性肺腺癌clinical stageⅠA（第8版）の予後に与える影響．第72回日本胸部外科学会定期学術集会，京都，2019/11/1

26 **伊坂哲哉**，**伊藤宏之**，**中山治彦**，石川善啓，萬　哲漢，益田宗孝．EGFR遺伝子変異が原発性 肺腺癌clinical stageⅠA（第8版）の予後に与える影響．第72回日本胸部外科学会定期学術集会，京都，2019/11/1

27 **根本大士**，**壺井貴朗**、**江里口大介**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**伊藤宏之**，**中山治彦**、**横瀬智之**、益田宗孝．肺癌術後に生じた胸壁デスモイド型繊維腫症の1例．第181回日本胸部外科学会関東甲信越地方会（東京）2019/11/9

28 **永島琢也**，**伊藤宏之**，**壺井貴朗**，**江里口大介**，**根本大士**，**鮫島譲司**，益田宗孝．中葉中枢発生転移性肺腫瘍に対し、完全鏡視下右中葉管状切除を施行した1例．第81回日本臨床外科学会総会，高知，2019/11/14

29 **江里口大介**，**壺井貴朗**，**根本大士**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**伊藤宏之**，**中山治彦**．デジタル胸腔ドレナージシステムによる低陰圧管理による安全性、有益性の検討．第81回日本臨床外科学会総会，高知，2019/11/15

30 **鮫島譲司**，**伊藤宏之**，**中山治彦**，**永島琢也**，**根本大士**，**江里口大介**，**壺井貴朗**，益田宗孝．呼吸器外科における術式別の手術収支．第81回日本臨床外科学会総会，高知 2019/11/15

31 **根本大士**，**壺井貴朗**，**江里口大介**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**伊藤宏之**，**中山治彦**，益田宗孝．電気メス絶縁部破

損部からの漏電による胸腔鏡下手術中の肺動脈損傷．第81回日本臨床外科学会総会，高知，2019/11/15

32　**壺井貴朗**，**江里口大介**，**根本大士**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**伊藤宏之**，**中山治彦**．当院における肺切除後に発症した脳梗塞の検討．第81回日本臨床外科学会総会，高知，2019/11/15

33　服部有俊，鈴木健司，高持一矢，若林将史，青景圭樹，佐治　久，津谷康大，**伊藤宏之**，青木　正，中川加寿夫，岡見次郎，岡田守人，水谷友紀，渡辺俊一．GGOの有無と予後の関連に関する妥当性研究：JCOG0201副次的解析．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/6

34　**近藤哲郎**，**中原善朗**，**臼井　亮**，**村上修二**，**加藤晃史**，**齋藤春洋**，**伊藤宏之**，**横瀬智之**，**山田耕三**．肺癌治療耐性獲得後再生検におけるT790M遺伝子検出に関与する因子解析．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/6

35　牧　佑歩，塩野知志，**伊藤宏之**，佐藤寿彦，山下芳典，田川　努，上野　剛，末久　弘，澤田茂樹，山下素弘．肺癌術後症例に対する経過観察クリニカルパスの有用性の検証．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/6

36　**永島琢也**，**伊藤宏之**，**壷井貴朗**，**江里口大介**，**根本大士**，**鮫島譲司**，**中山治彦**，益田宗孝．ICG静注法を用いた肺区域切除における実際の切離断端距離と３D画像による腫瘍区域間距離の比較．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/7

37　**江里口大介**，**壷井貴朗**，**根本大士**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**伊藤宏之**，**中山治彦**．非小細胞肺癌N1/N2症例におけるリンパ節転移個数での予後解析．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/7

38　**鮫島譲司**，**伊藤宏之**，**中山治彦**，**永島琢也**，**根本大士**，**江里口大介**，**壷井貴朗**，**鈴木理樹**，**横瀬智之**，**山田耕三**，益田宗孝．ⅠB期肺腺癌に対するUFTによる術後補助化学療法の有効性は脈管侵襲の有無によって異なるか．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/7

39　見前 隆洋，宮田義浩，津谷康大，今井健太郎，**伊藤宏之**，**中山治彦**，池田徳彦，岡田守人．高齢者早期非小細胞肺癌症例におけるリンパ節郭清を伴わない楔状切除の位置付け．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/7

40　**根本大士**，**壷井貴朗**，**江里口大介**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**伊藤宏之**，**中山治彦**，**山田耕三**，**横瀬智之**，益田宗孝．pN0であった肺大細胞神経内分泌癌切除例37 例の検討．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/8

41　**小野沢博登**，**斎藤春洋**，**臼井　亮**，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**壷井貴朗**，**江里口大介**，**根本大士**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**伊藤宏之**，**山田耕三**．肺癌術後 oligo-recurrence metastasisに対する局所治療の有用性の検討．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/8

42　**伊藤宏之**，鈴木健司，水谷友紀，青景圭樹，佐治　久，津谷康大，青木　正，岡見次郎，中川加寿夫，高持一矢，塩野知志，吉岡弘鎮，中山治彦，岡田守人，渡辺俊一．薄切CTに基づくcT1N0肺癌に対する肺葉切除 後の長期成績―JCOG0201研究における10年フォローの分析―．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/8

43　**壺井貴朗**，**江里口大介**，**根本大士**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**横瀬智之**，**伊藤宏之**，**中山治彦**．尿膜管癌肺転移に対して外科切除を施行した３例の検討．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/8

44　朝倉啓介，新谷　康，岡見次郎，奥村明之進，**伊藤宏之**，大塚崇，豊岡伸一，横井香平，淺村尚生，永安武，宮岡悦良，吉野一郎．c-Ⅰ期非小細胞肺癌における予後因子としてのスリガラス様陰影―第７次全国肺癌登録．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019/12/7

45　**小野沢博登**、**齋藤春洋**、**臼井　亮**、**中原善朗**、**村上修司**、**近藤哲郎**、**加藤晃史**、**壺井貴朗**、**江里口大介**、**根本大士**、**鮫島譲司**、**永島琢也**、**伊藤宏之**、**鈴木理樹**、**横瀬智之**、**山田耕三**．肺原発良性血管周囲類上皮細胞腫（PEComa, benign）・淡明細胞腫（CCT）の切除例．第186回日本肺癌学会関東支部学術集会，東京．2019/12/14

46　**江里口大介**，**伊藤宏之**，**壺井貴朗**，**根本大士**，**鮫島譲司**，**永島琢也**，**中山治彦**．胸椎浸潤肺癌に対し側臥位のまま胸椎合併切除した１例．胸部外科地方会，2020/3/7

血液・腫瘍内科（血液）

発表論文

1　Tachibana T, Koyama S, Andou T, Ishiyama Y, Tanaka M, Nakajima H, Kanamori H. Salvage and bridging to allogeneic hematopoietic cell transplantation with ponatinib in patients with relapsed or refractory Philadelphia chromosome-positive leukemia. Int J Hematol, 109(2): 162-168, 2019.

2　Tachibana T, Kanda J, Ishizaki T, Najima Y, Tanaka M, Doki N, Fujiwara SI, Kimura SI, Onizuka M, Takahashi S, Saito T, Mori T, Fujisawa S, Sakaida E, Matsumoto K, Aotsuka N, Goto M, Watanabe R, Shono K, Usuki K, Tsukada N, Kanamori H, Kanda Y, Okamoto S; Kanto Study; Group for Cell Therapy (KSGCT). Prognostic index for patients with relapsed or refractory acute myeloid leukemia who underwent hematopoietic cell transplantation: a KSGCT multicenter analysis. Leukemia, 33(11): 2610-2618, 2019.

3　Ando T, Fujisawa S, Teshigawara H, Ogusa E, Ishii Y, Miyashita K, Motohashi K, Miyazaki T, Tachibana T, Hagihara M, Matsumoto K, Tanaka M, Hashimoto C, Koharazawa H, Fujimaki K, Taguchi J, Fujita H, Kanamori H, Yamazaki E, Nakajima H; Yokohama Cooperative Study Group for Hematology (YACHT). Impact of treatment-related weight changes from

diagnosis to hematopoietic stem-cell transplantation on clinical outcome of acute myeloid leukemia. Int J Hematol, 109(6): 673-683, 2019.

4 Shimomura Y, Hara M, Tachibana T, Ohashi K, Sakura T, Fukuda T, Nakazawa H, Iwato K, Kanda Y, Ikeda T, Eto T, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Ishikawa T, Ishiyama K. Outcomes of second allogeneic haematopoietic stem cell transplantation in patients with relapse of myelodysplastic syndrome. Br J Haematol, 186(1): 86-90, 2019.

5 Sakai R, Ohmachi K, Sano F, Watanabe R, Takahashi H, Takasaki H, Tanaka M, Hattori Y, Kimura H, Takimoto M, Tachibana T, Tanaka E, Ishii Y, Ishiyama Y, Hagihara M, Miyazaki K, Yamamoto K, Tomita N, Ando K. Bendamustine-120 plus rituximab therapy for relapsed or refractory follicular lymphoma: a multicenter phase Ⅱ study. Ann Hematol, 98(9): 2131-2138, 2019.

6 Sato S, Tanaka E, Tachibana T, Fukai R, Kamio T, Ichiba S, Sato M, Tamai Y. Successful lung transplantation after long-term ventilator and extracorporeal membrane oxygenation support in a patient with severe bronchiolitis obliterans following allogeneic bone marrow transplantation. Rinsho Ketsueki, 60(8): 920-923, 2019.

7 Nishiwaki S, Mizuta S, Ohashi K, Fukuda T, Uchida N, Tachibana T, Onizuka M, Ozawa Y, Onishi Y, Takahashi S, Eto T, Nakamae H, Tanaka J, Ichinohe T, Atsuta Y, Kako S; Adult Acute Lymphoblastic Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Different impact of BCR-ABL transcripts on allogeneic hematopoietic cell transplantation from different graft sources for Ph＋ALL with minimal residual disease. Am J Hematol, 94(11): E301-E305, 2019.

8 Harada K, Tachibana T, Ohashi K, Ozawa Y, Sawa M, Kondo T, Ishikawa J, Onizuka M, Imada K, Fujisaki T, Tanaka J, Fukuda T, Atsuta Y, Kako S. The effect of melphalan dose and total body irradiation as reduced-intensity conditioning for acute lymphoblastic leukemia patients undergoing allogeneic stem cell transplantation. Leuk Lymphoma, 60(14): 3521-3528, 2019.

9 Konuma T, Kanda J, Inamoto Y, Hayashi H, Kobayashi S, Uchida N, Sugio Y, Tanaka M, Kobayashi H, Kouzai Y, Takahashi S, Eto T, Mukae J, Matsuhashi Y, Fukuda T, Takanashi M, Kanda Y, Atsuta Y, Kimura F. Improvement of early mortality in single-unit cord blood transplantation for Japanese adults from 1998 to 2017. Am J Hematol. 2019

10 Arai Y, Kondo T, Fuse K, Shibasaki Y, Masuko M, Sugita J, Teshima T, Uchida N, Fukuda T, Kakihana K, Ozawa Y, Eto T, Tanaka M, Ikegame K, Mori T, Iwato K, Ichinohe T, Kanda Y, Atsuta Y. Using a machine learning algorithm to predict acute graft-versus-host disease following allogeneic transplantation. Blood Adv. 3(22): 3626-3634. 2019.

11 Akahoshi Y, Nishiwaki S, Mizuta S, Ohashi K, Uchida N, Tanaka M, Fukuda T, Ozawa Y, Takahashi S, Onizuka M, Shiratori S, Nakamae H, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Kako S; Adult Acute Lymphoblastic Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Tyrosine kinase inhibitor prophylaxis after transplant for Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. Cancer Sci. 110(10): 3255-3266. 2019.

12 Nakasone H, Kawamura K, Yakushijin K, Shinohara A, Tanaka M, Ohashi K, Ota S, Uchida N, Fukuda T, Nakamae H, Matsuoka KI, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Inamoto Y, Seo S, Kimura F, Ogata M. BM is preferred over PBSCs in transplantation from an HLA-matched related female donor to a male recipient. Blood Adv. 3(11): 1750-1760. 2019.

13 Shimizu R, Takeuchi M, Sakaida E, Ohwada C, Toyosaki M, Machida S, Onizuka M, Shono K, Onoda M, Saito T, Yano S, Tanaka M, Fujisawa S, Mori T, Usuki K, Takahashi S, Kanamori H, Nakaseko C, Okamoto S. Efficacy and safety of oral deferasirox treatment for transfusional iron overload in pure red cell aplasia patients after allogeneic stem cell transplantation. Ann Hematol. 98(7): 1781-1783. 2019.

14 Yanada M, Konuma T, Kuwatsuka Y, Kondo T, Kawata T, Takahashi S, Uchida N, Miyakoshi S, Tanaka M, Ozawa Y, Sawa M, Nakamae H, Aotsuka N, Kanda J, Takanashi M, Kanda Y, Atsuta Y, Yano S. Unit selection for umbilical cord blood transplantation for adults with acute myeloid leukemia in complete remission: a Japanese experience. Bone Marrow Transplant. 54(11): 1789-1798. 2019.

15 Harada K, Konuma T, Machida S, Mori J, Aoki J, Uchida N, Ohashi K, Fukuda T, Tanaka M, Ikegame K, Ozawa Y, Iwato K, Eto T, Onizuka M, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S. Risk Stratification and Prognosticators of Acute Myeloid Leukemia with Myelodysplasia-Related Changes in Patients Undergoing Allogeneic Stem Cell Transplantation: A Retrospective Study of the Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Biol Blood Marrow Transplant. 25(9): 1730-1743. 2019.

16 Mori T, Onishi Y, Ozawa Y, Kato C, Kai T, Kanda Y, Kurokawa M, Tanaka M, Ashida T, Sawayama Y, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yamazaki H. Outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in adult patients with hepatitis-associated aplastic anemia. Int J Hematol. 109(6): 711-717. 2019.
17 Yanada M, Mori J, Aoki J, Masuko M, Harada K, Uchida N, Doki N, Fukuda T, Sakura T, Kanamori H, Sawa M, Kondo T, Katayama Y, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S. Allogeneic hematopoietic cell transplantation for patients with a history of multiple relapses of acute myeloid leukemia. Ann Hematol. 98(9): 2179-2186. 2019.
18 Kurosawa S, Yamaguchi T, Oshima K, Yanagisawa A, Fukuda T, Kanamori H, Mori T, Takahashi S, Kondo T, Kohno A, Miyamura K, Umemoto Y, Teshima T, Taniguchi S, Yamashita T, Inamoto Y, Kanda Y, Okamoto S, Atsuta Y. Resolved versus Active Chronic Graft-versus-Host Disease: Impact on Post-Transplantation Quality of Life. Biol Blood Marrow Transplant. 25(9): 1851-1858. 2019.
19 Miyamura K, Yamashita T, Atsuta Y, Ichinohe T, Kato K, Uchida N, Fukuda T, Ohashi K, Ogawa H, Eto T, Inoue M, Takahashi S, Mori T, Kanamori H, Yabe H, Hama A, Okamoto S, Inamoto Y. High probability of follow-up termination among AYA survivors after allogeneic hematopoietic cell transplantation. Blood Adv. 3(3): 397-405. 2019.
20 Wakamatsu M, Terakura S, Ohashi K, Fukuda T, Ozawa Y, Kanamori H, Sawa M, Uchida N, Ota S, Matsushita A, Kanda Y, Nakamae H, Ichinohe T, Kato K, Murata M, Atsuta Y, Teshima T; GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Impacts of thymoglobulin in patients with acute leukemia in remission undergoing allogeneic HSCT from different donors. Blood Adv. 3(2): 105-115. 2019.
21 Harada K, Yanada M, Machida S, Kanamori H, Onizuka M, Ozawa Y, Kobayashi H, Sawa M, Katayama Y, Ohashi K, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S. Prognostic impact of melphalan dose and total body irradiation use in patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic stem cell transplantation with reduced-intensity conditioning. Leuk Lymphoma. 60(6): 1493-1502. 2019
22 Yokoyama H, Kanda J, Kato S, Kondo E, Maeda Y, Saji H, Takahashi S, Onizuka M, Onishi Y, Ozawa Y, Kanamori H, Ishikawa J, Ohno Y, Ichinohe T, Takanashi M, Kato K, Atsuta Y, Kanda Y; HLA Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Effects of HLA mismatch on cytomegalovirus reactivation in cord blood transplantation. Bone Marrow Transplant. 54(7): 1004-1012. 2019.
23 Konuma T, Harada K, Yamasaki S, Mizuno S, Uchida N, Takahashi S, Onizuka M, Nakamae H, Hidaka M, Fukuda T, Ohashi K, Kohno A, Matsushita A, Kanamori H, Ashida T, Kanda J, Atsuta Y, Yano S; Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Upfront allogeneic hematopoietic cell transplantation (HCT) versus remission induction chemotherapy followed by allogeneic HCT for acute myeloid leukemia with multilineage dysplasia: A propensity score matched analysis. Am J Hematol. 94(1): 103-110. 2019.
24 Kurosawa S, Yamaguchi T, Oshima K, Yanagisawa A, Fukuda T, Kanamori H, Mori T, Takahashi S, Kondo T, Fujisawa S, Onishi Y, Yano S, Onizuka M, Kanda Y, Mizuno I, Taniguchi S, Yamashita T, Inamoto Y, Okamoto S, Atsuta Y. Employment status was highly associated with quality of life after allogeneic hematopoietic cell transplantation, and the association may differ according to patient age and graft-versus-host disease status: analysis of a nationwide QOL survey. Bone Marrow Transplant. 54(4): 611-615. 2019.
25 Yanada M, Masuko M, Mori J, Aoki J, Mizuno S, Fukuda T, Kakihana K, Ozawa Y, Ota S, Kanamori H, Mori T, Nakamae H, Eto T, Shiratori S, Maeda T, Iwato K, Ichinohe T, Kanda Y, Tanaka J, Atsuta Y, Yano S. Patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic hematopoietic cell transplantation: trends in survival during the past two decades. Bone Marrow Transplant. 54(4): 578-586. 2019.

学会等発表

1 Naomi Kawashima, Yuichi Ishikawa, Yoshiko Atsuta, Masashi Sawa, Yukiyasu Ozawa, Masaki Hayashi, Akio Kohno, Akihiro Tomita, Tomoya Maeda, Emiko Sakaida, Kensuke Usuki, Maki Hagihara, Heiwa Kanamori, Hiroshi Matsuoka, Miki Kobayashi, Norio Asou, Shigeki Ohtake, Itaru Matsumura, Yasushi Miyazaki, Tomoki Naoe, Hitoshi Kiyoi. Prospective evaluation of allogeneic HSCT at the first remission for younger adults with FLT3-ITD positive acute myeloid leukemia: The JALSG AML209-FLT3-SCT Study. ASH Annual Meeting. Orland, 2019. Dec.

2 Shinichi Kako, Fumihiko Hayakawa, Kiyotoshi Imai, Junji Tanaka, Shuichi Mizuta, Satoshi Nishiwaki, Heiwa Kanamori, Noriko Doki, Naoyuki Uchida, Kazuhiro

Ikegame, Takahiro Fukuda, Tatsuo Ichinohe, Shuichi Ota, Yoshinori Tanaka, Tohru Murayama, Shingo Kurahashi, Toru Sakura, Noriko Usui, Shigeki Ohtake, Hitoshi Kiyoi, Itaru Matsumura, Yasushi Miyazaki, Yoshiko Atsuta. The optimal treatment strategy for adult patients with Philadelphia chromosome-negative acute lymphoblastic leukemia in first complete remission in the era of high-intensity chemotherapy. ASH Annual Meeting. Orland, 2019. Dec.

3　安藤太基，石山泰史，立花崇孝，田中正嗣，金森平和，中島秀明．同種造血幹細胞移植後のCMV再活性化と移植成績．第41回日本造血細胞移植学会総会．大阪，2019年3月．

4　石山泰史，安藤太基，立花崇孝，田中正嗣，金森平和，中島秀明．当院における移植後HHV-6再活性化と脳炎・脊髄炎の後方視的解析．第41回日本造血細胞移植学会総会．大阪，2019年3月．

5　金森平和．コーディネートの期間短縮の現状と課題．造血幹細胞移植推進事業フォーラム．第41回日本造血細胞移植学会総会．大阪，2019年3月．

6　赤星　佑，西脇聡史，水田秀一，大橋一輝，内田直之，金森平和，福田隆浩，小澤幸泰，神田善伸，一戸辰夫，熱田由子，賀古真一．Ph陽性急性リンパ性白血病の同種移植後MRD陰性症例におけるTKI予防投与の有用性についての検討．第41回日本造血細胞移植学会総会．大阪，2019年3月．

7　賀古真一，神田善伸，鬼塚真仁，青墳信之，臼杵憲祐，立花崇孝，小林　武，加藤　淳，矢野真吾，清水啓明，鐘野勝洋，田中正嗣，塚本祥吉，森　毅彦，山崎悦子，岡本真一郎．フルダラビン，減量シクロフォスファミド，低用量サイモグロブリンを用いた再生不良性貧血に対する同種移植．第41回日本造血細胞移植学会総会．大阪，2019年3月．

8　Kaito Harada, Takaaki Konuma, Shinichiro Machida, Junichi Mori, Jun Aoki, Naoyuki Uchida, Kazuhiko Kakihana, Takahiro Fukuda, Heiwa Kanamori, Kazuhiro Ikegame, Yukiyasu Ozawa, Makoto Onizuka, Tatsuo Ichinohe, Yoshiko Atsuta, Shingo Yano. Allogeneic stem cell transplantation in acute myeloid leukemia with myelodysplasia-related changes. 第41回日本造血細胞移植学会総会．大阪，2019年3月．

9　安藤太基，石山泰史，立花崇孝，田中正嗣，金森平和，中島秀明．臍帯血移植における前処置強度が免疫再構築と移植成績に及ぼす影響．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

10　立花崇孝，名島悠峰，赤星　佑，平林茂樹，原田介斗，大橋一輝，内田直之，福田隆浩，澤　正史，緒方正男，田中淳司，一戸辰夫，熱田由子，賀古真一．Ph陽性急性リンパ性白血病同種移植におけるBCR-ABL遺伝子変異の予後的意義．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

11　大橋卓馬，青木　淳，安藤太基，石山泰史，石井好美，宮下和甫，中嶋ゆき，立花崇孝，萩原真紀，松本憲二，田中正嗣，金森平和，藤澤　信，中島秀明．喫煙が同種造血幹細胞移植に与える臨床学的影響．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

12　菊池　拓，森　毅彦，松元加奈，大和田千桂子，小野田昌弘，清水啓明，横山洋紀，鬼塚真仁，名島悠峰，立花崇孝，森田邦彦，岡本真一郎．移植前治療における1日4回投与の静注ブスルファンの薬物動態．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

13　原田介斗，立花崇孝，大橋一輝，小澤幸泰，澤　正史，近藤忠一，石川　淳，鬼塚真仁，今田和典，藤崎智明，田中淳司，福田隆浩，熱田由子，賀古真一．急性リンパ性白血病に対するfludarabine/melphalanを用いた強度減弱前処置におけるmelphalan総投与量の比較．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

14　勅使川原晴佳，萩原真紀，寺中　寛，青木　淳，小山哲，高橋寛行，中嶋ゆき，國本博義，立花崇孝，宮崎拓也，松本憲二，田中正嗣，山崎悦子，田口　淳，藤澤信，金森平和，中島秀明．骨髄異形成症候群における同種造血幹細胞移植の予後予測因子の後方視的検討．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

15　藤　重夫，大島久美，大橋一輝，澤　正史，齋藤　健，衛藤徹也，田中正嗣，鬼塚真仁，中前博久，白鳥聡一，小澤幸泰，日高道弘，長村登紀子，田中秀則，福田隆浩，一戸辰夫，熱田由子，緒方正男．臍帯血移植における抗HLA抗体の生着に与える影響．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

16　柳田正光，小沼貴晶，鍬塚八千代，近藤忠一，河田岳人，高橋　聡，内田直之，宮腰重三郎，田中正嗣，小澤幸泰，澤　正史，中前博久，青墳信之，諫田淳也，高梨美乃子，神田善伸，熱田由子，矢野真吾．成人急性骨髄性白血病に対する同種造血細胞移植に用いる臍帯血ユニット選択に関する検討．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

17　西脇聡史，水田秀一，大橋一輝，福田隆浩，内田直之，金森平和，鬼塚真仁，小澤幸泰，田中淳司，一戸辰夫，熱田由子，賀古真一．TKI時代のPh+ALLに対する同種移植においてBCR切断点の影響が非血縁者間移植ソースにより異なる．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

18　水野昌平，柳田正光，河村浩二，水谷元紀，増子正義，内田直之，小澤幸泰，岩戸康治，大橋一輝，池亀和博，金　成元，金森平和，衛藤徹也，神田善伸，福田隆浩，熱田由子，矢野真吾，高見昭良．フィラデルフィア染色体陽性急性骨髄性白血病の同種移植成績：JSHCT AML WG study．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

19　川島直実，石川裕一，熱田由子，澤　正史，小澤幸

泰，林　正樹，河野彰夫，冨田章裕，前田智也，堺田惠美子，臼杵憲祐，萩　真紀，金森平和，松岡　広，小林美希，麻生範雄，大竹茂樹，松村　到，宮崎泰司，直江知樹，清井　仁．FLT3-ITD変異陽性AMLに対する第一寛解期での同種造血幹細胞移植；JALSG AML209-FLT3-SCT study結果．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

20　杉浦　勇，土岐典子，波多智子，趙　龍桓，伊藤俊朗，末廣陽子，金森平和，賀古真一，松田光弘，横山寿行，谷口康博，萩原真紀，小澤幸泰，藤澤　信，土橋史明，八田善弘，淺田　騰，大橋一輝，大西　康，康　史朗，西脇聡史，熱田由子，早川文彦，大竹茂樹，宮崎泰司．初発 Ph+ALLに対するダサチニブ併用二段化学療法の臨床第Ⅱ相試験JALSG Ph+ALL213．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

21　賀古真一，早川文彦，今井陽俊，田中淳司，水田秀一，西脇聡史，金森平和，大橋一輝，内田直之，池亀和博，福田隆浩，一戸辰夫，太田秀一，田中芳紀，村山　徹，倉橋信悟，佐倉　徹，薄井紀子，大竹茂樹，清井　仁，松村　到，宮崎泰司，熱田由子．高強度化学療法時代における、フィラデルフィア染色体陰性急性リンパ性白血病第１寛解期の至適治療．第81回日本血液学会学術集会．東京，2019年10月．

その他

1　2019 Highlights of ASH in Asia-Pacific in Bangkok（2019年２月23日－24日）

2　立花崇孝．Introduce my article．臨床血液，60(8)：1000-1001，2019．

血液・腫瘍内科（腫瘍）

発表論文

1　Yamaguchi M, Suzuki R, Miyazaki K, Amaki J, Takizawa J, Sekiguchi N, Kinoshita S, Tomita N, Wada H, Kobayashi Y, Niitsu N, Ando T, Maeda T, Saito B, Matsuoka H, **Sakai R**, Kubota N, Masaki Y, Kameoka Y, Asano N, Oguchi M, Katayama N: Improved prognosis of extranodal NK/T cell lymphoma,nasal type of nasal origin but not extranasal origin. Ann Hematol98(7): 1647-1655, 2019

2　Iwasaki H, Yamazaki H, Takasaki H, Suganuma N, **Sakai R**, Nakayama H, Hatori S, Toda S, Masudo K: Treatment outcomes of differentiated thyroid cancer with distant metastasis improve by tyrosine kinase inhibitors. Oncol Lett17(6): 5292-5300, 2019

3　Iwasaki H, Yamazaki H, Takasaki H, Suganuma N, **Sakai R**, Nakayama H, Toda S, Masudo K: Renal dysfunction in patients with radioactive iodine-refractory thyroid cancer treated with tyrosine kinase inhibitors: A retrospective study. Medicine 98(42): e17588, 2019

4　Ando T, Fujisawa S, Teshigawara H, Ogusa E, Ishii Y, Miyashita K, **Motohashi K**, Miyazaki T, Tachibana T, Hagihara M, Matsumoto K, Tanaka M, Hashimoto C, Koharazawa H, Fujimaki K, Taguchi J, Fujita H, Kanamori H, Yamazaki E, Nakajima H: Yokohama Cooperative Study Group for Hematology (YACHT): Impact of treatment-related weight changes from diagnosis to hematopoietic stem-cell transplantation on clinical outcome of acute myeloid leukemia. Int J Hematol 109(6): 673-683, 2019

5　Mizuno S, Kawamura K, Hanamura I, Sunami K, Mori T, Nakamura F, Iida S, Nakazawa H, Makita M, Kako S, Sawa M, Ueda Y, **Takahashi H**, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Takamatsu H, Takami A: Efficacy and safety of autologous stem cell transplantation in patients aged ≥65 years with multiple myeloma in the era of novel agents. Bone Marrow Transplant 54(10): 1595-1604, 2019

6　**Sakai R**, Ohmachi K, Sano F, Watanabe R, **Takahashi H**, Takasaki H, Tanaka M, Hattori Y, Kimura H, Takimoto M, Tachibana T, Tanaka E, Ishii Y, Ishiyama Y, Hagihara M, Miyazaki K, Yamamoto K, Tomita N, Ando K: Bendamustine-120 plus rituximab therapy for relapsed or refractory follicular lymphoma: a multicenter phase Ⅱ study. **Ann Hematol** 98(9): 2131-2138, 2019

7　Kato H, Samukawa S, **Takahashi H**, Nakajima H: Diagnosis and treatment of Pneumocystis jirovecii pneumonia in HIV-infected or non-HIV-infected patientsddifficulties in diagnosis and adverse effects of trimethoprim-sulfamethoxazole. **J Infect Chemother** 25(11): 920-924, 2019

8　Asai C, Watanabe Y, Mukaijo J, Takamura N, Okawa T, Yamaguchi Y, **Matsumura A**, Matsumoto K, Aihara M: Case of toxic epidermal necrolysis occurring after bone marrow transplantation accompanied by engraftment failure. J Dermatol 46(6): 540-543, 2019

9　**Matsumura A**, Miyazaki T, Tachibana T, Ando T, Koyama M, Koyama S, Ishii Y, **Takahashi H**, Nakajima Y, Numata A, Yamamoto W, **Motohashi K**, Hagihara M, Matsumoto K, Fujisawa S, Nakajima H: Predictive values of early suppression of tumorigenicity 2 for acute GVHD and transplant-related complications after allogeneic stem cell transplantation: prospective observational study. Turk J Haematol 37(1): 20-29, 2020

10　Ohwada C, Sakaida E, Igarashi A, Kobayashi T, Doki N, Mori T, Kato J, Koda Y, Kanamori H, Tanaka M, Tachibana T, Fujisawa S, Nakajima Y, Numata

A, Toyosaki M, Aoyama Y, Onizuka M, Hagihara M, Koyama S, Kanda Y, Nakasone H, Shimizu H, Kato S, Watanabe R, Shono K, **Sakai R**, Saito T, Nakaseko C, Okamoto S: A Prospective, Longitudinal Observation of the Incidence, Treatment, and Survival of Late Acute and Chronic Graft-versus-Host Disease by National Institutes of Health Criteria in a Japanese Cohort. Biol Blood Marrow Transplant26(1): 162-170, 2020

11 Suzuki M, Muroi A, Nojima M, Numata A, Takasaki H, **Sakai R**, Yokose T, Miyagi Y, Koshikawa : Utility of a Reverse Phase Protein Array to Evaluate Multiple Biomarkers in Diffuse Large B-Cell Lymphoma. Proteomics Clin14(1): e1900091, 2020

12 Kusumoto S, Tanaka Y, Suzuki R, Watanabe T, Nakata M, **Sakai R**, Fukushima N, Fukushima T, Moriuchi Y, Itoh K, Nosaka K, Choi I, Sawa M, Okamoto R, Tsujimura H, Uchida T, Suzuki S, Okamoto M, Takahashi T, Sugiura I, Onishi Y, Kohri M, Yoshida S, Kojima M, **Takahashi H**, Tomita A, Atsuta Y, Maruyama D, Tanaka E, Suzuki T, Kinoshita T, Ogura M, Ueda R, Mizokami M: Ultra-high Sensitivity HBsAg Assay Can Diagnose HBV Reactivation Following Rituximab-Based Therapy in Patients With Lymphoma. J Hepatol17: S0168-8278(20) 30167-7, 2020

13 **佐久間敬之**, 高崎啓孝, 沼田　歩, **本橋賢治**, 鷲見公太, 河内香江，中村直哉，酒井リカ，中島秀明：CCND1及びMYC再構成を伴うマントル細胞リンパ腫の一例. 神奈川血液研究会誌 vol39：23-26，2019

14 金子紀子，嶋村麻利子，高石祐美子，矢島智志，**高橋寛行**，宮崎拓也，萩原真紀，中島秀明，山崎悦子：マルチカラーフローサイトメトリーを用いた多発性骨髄腫の微小残存病変測定の試み．神奈川血液研究会誌 vol39：32-34，2019

15 若松真央，宮崎拓也，**松村彩子**，勅使河原晴佳，根来暁子，小山　哲，**高橋寛行**，國本博義，萩原真紀，松本憲二，山崎悦子，中島秀明：同種造血幹細胞移植後の後期に特発性血小板減少性紫斑病を発症した一例．神奈川血液研究会誌 vol39：35-37，2019

16 酒井リカ：濾胞性リンパ腫の clinical question．神奈川血液研究会誌．vol39，58-60，2019.

17 **佐久間敬之**, **本橋賢治**, 沼田　歩, 高崎啓孝, 鷲見公太, 横瀬智之，中村直哉，酒井リカ，中島秀明：硬膜に病変を有したMTX-LPDの一例．神奈川血液研究会誌 vol39，68-70，2019

18 若松真央，**松村彩子**，小山　哲，**高橋寛行**，國本博義，江中牧子，宮崎拓也，萩原真紀，松本憲治，山崎悦子，中島秀明：免疫不全症で発症した診断、治療に難渋したT細胞性リンパ腫の一例．神奈川血液研究会誌 vol39：73-76，2019.

19 斎藤さとみ，東　真理子，八馬慶子，黒沢貴之，矢島智志，**高橋寛行**，宮崎拓也，中島秀明，山崎悦子：メトトレキセート大量投与時のL-FABP推移の検討．神奈川血液研究会誌 vol39：92-94，2019

学会等発表

1 Mizuno S, Kawamura K, Hanamura I, Sunami K, Mori T, Nakamura F, Iida S, Nakazawa H, Makita M, Kako S, Sawa M, Ueda Y, **Takahashi H**, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Takamatsu H, Takami A: Efficacy and Safety of Autologous Stem Cell Transplantation in Elderly Patients with Multiple Myeloma in The Era of Novel Agents; JSHCT MM WG study. The 44th annual meeting of the Japanese Society of Myeloma, Nagoya, 5/2019

2 Miyazaki T, **Matsumura A**, Tachibana T, Ando T, Koyama M, Koyama S, Ishii Y, **Takahashi H**, Nakajima Y, Numata A, Yamamoto W, **Motohashi K**, Hagihara M, Matsumoto K, Fujisawa S, Nakajima H:Predictive Values of Early ST2 for Acute Graft-Versus-Host Disease and Transplant-Related Complications after Allogeneic Stem Cell Transplantation. 61st ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando FL, 12/2019

3 Cho I, Yamauchi N, Maruyama D, Atsuta Y, **Sakai R**, Miyashita K，Moriuchi Y，Tsujimura H，Kubota N，Yamamoto G，Igarashi T，Izutsu K，Yoshida S，Kojima K，Uchida T，Inoue　Y，Tsukamoto N，Otsuka E, Suzuki S, Inaguma Y, Ichikawa S, Gomyo H, Ushijima Y, Nosaka K, Kurata M, Tanaka Y，Ueda R，Mizokami M，Kusumoto S: Clinical impact of antiviral prophylaxis on outcome of HBsAg-positive DLBCL in the rituximab era. 第81回日本血液学会学術集会, 東京, 10/2019

4 **佐久間敬之**，**本橋賢治**，沼田　歩，高崎啓孝，鷲見公太，横瀬智之，中村直哉，**酒井リカ**，中島秀明：硬膜に病変を有したMTX関連リンパ増殖性疾患の一例．第34回悪性リンパ腫治療研究会，横浜，4/2019.

5 前田晃樹，坂本佳奈，日比谷孝志，江中牧子，**高橋寛行**，渡邉裕子，山中正二，竹内賢吾，大橋健一：異なる形態像を示す芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の 2 例．第108回日本病理学会総会，東京，5/2019

6 **髙橋寛行**，上條亜紀，若松真央，勅使川原晴佳，**松村彩子**，寺中　寛，小山　哲，國本博義，宮崎拓也，瀧澤かすみ，黒沢英里，小峰弘美，岩上　薫，原田佐保，萩原真紀，松本憲二，山崎悦子，中島秀明：複数回の血液型不一致同種移植で反復してドナー由来凝集素に起因する無症候性溶血をきたした急性白血病. 第67回日本輸血・細胞治療学会学術総会，熊本，5/2019

7 小峰弘美，瀧澤かすみ，黒沢英里，岩上　薫，原田佐保，宮崎拓也，**髙橋寛行**，萩原真紀，松本憲二，柴　徳生，上條亜紀：当院における不規則抗体スクリーニング

の検査法選択のための検討．第67回日本輸血・細胞治療学会学術総会，熊本，5/2019

8　**髙橋寛行**，江中牧子，若松真央，**松村彩子**，小山哲，宮崎拓也，萩原真紀，松本憲二，山中正二，竹内賢吾，中島秀明：非典型的な免疫表現型と組織像を呈したnodal lymphoma of T follicular helper cell origin. 第59回日本リンパ網内系学会総会，出雲，6/2019

9　**酒井リカ**，高崎啓孝，**本橋賢治**，沼田　歩，**佐久間敬之**，**高橋寛行**，中島秀明：Amrubicin-monotherapy for patients with platinum-refractory extrapulmonary neuroendocrine carcinoma. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，7/2019

10　山口素子，鈴木律朗，小口正彦，宮崎香奈，田口千藏，天木　惇，前田　猛，久保田靖子，丸山　大，照井康仁，関口　和，瀧澤　淳，塚本裕之，村山　徹，安藤寿彦，松岡　広，長谷川正俊，和田秀穂，**酒井リカ**，亀井吉弘，塚本憲史，崔　日承，正木康史，島田和之，福原規子，内海貴彦，魚嶋伸彦，鏡味良豊，浅野直子，片山直之（NKEA project）：NK/T細胞リンパ腫の長期予後と診断―治療間隔（DTI）：NKEA研究．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019

11　**佐久間敬之**，**酒井リカ**，沼田　歩，**本橋賢治**，高崎啓孝，鷲見公太，横瀬智之，中島秀明：硬膜に病変を有したMTX関連リンパ増殖性疾患の一例．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019

12　**本橋賢治**，**酒井リカ**，**佐久間敬之**，**松村彩子**，**高橋寛行**，沼田　歩，高崎啓孝，安藤　潔，中島秀明：ALCLにおいてALK陽性、MIB1高発現は予後良好因子となりうる．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019

13　若松真央，宮崎拓也，**松村彩子**，勅使川原晴佳，寺中寛，小山　哲，**高橋寛行**，國本博義，江中牧子，上村大輔，萩原真紀，松本憲二，山崎悦子，中島秀明：インターフェロンアルファが奏効したErdheim-Chester病の一例．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019

14　服部友歌子，沼田　歩，渡辺玲奈，仲里朝周，高崎啓孝，石井好美，岸本久美子，安藤太基，萩原真紀，伊藤仁美，**高橋寛行**，宮下和甫，小山　哲，藤田浩之，**酒井リカ**，中島秀明：移植適応未治療多発性骨髄腫患者に対するVCD療法臨床第2相試験．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019

15　勅使川原晴佳，萩原真紀，寺中　寛，青木　淳，小山哲，**高橋寛行**，中嶋ゆき，國本博義，立花崇孝，宮崎拓也，松本憲二，田中正嗣，山崎悦子，田口　淳，藤澤　信，金森平和，中島秀明：骨髄異形成症候群における同種造血幹細胞移植の予後予測因子の後方視的検討．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019

16　伊藤　歩，中野伸亮，田中　喬，藤　重夫，牧山純也，井上明威，崔　日承，中前博久，長藤宏司，高瀬　謙，町田真一郎，高橋　勉，澤山　靖，上村智彦，加藤光次，河北敏郎，緒方正男，**酒井リカ**，白鳥聡一，稲本賢弘，内丸　薫，宇都宮與，福田隆浩：ATL前向きコホート研究：アグレッシブATLに対する臍帯血移植・ハプロ移植と非血縁者間移植の比較．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019

17　崔　日承，山内寛彦，丸山　大，熱田由子，**酒井リカ**，宮下和甫，森内幸美，辻村秀樹，久保田靖子，山本　豪，五十嵐忠彦，伊豆津宏二，吉田真一郎，小島研介，内田俊樹，井上佳子，塚本憲史，大塚英一，鈴木左知子，稲熊容子，市川　聡，五明広志，牛島洋子，野坂生郷，倉田美穂，田中靖人，上田龍三，溝上雅史，楠本　茂：核酸アナログ製剤の予防投与がHBs抗原陽性DLBCLの予後に与える影響：多施設後方視的解析．第81回日本血液学会学術集会，東京，10/2019

18　**高橋寛行**，**佐久間敬之**，**松村彩子**，大久保陽一郎，**本橋賢治**，岸田　健，横瀬智之，**酒井リカ**：腺分化した肝転移巣を有した腎盂癌の一例．第656回日本内科学会関東地方会，東京，12/2019

消化器内科（消化管）

学会等発表

1　**石田彩花**，**井口靖弘**，**林　慧**，**金田義弘**，**林　公博**，前田　愼：切除不能進行・再発小腸癌の2次化学療法としてのFOLFIRI療法．第657回日本内科学会関東地方会，東京，2/2020

2　**金田義弘**，**井口靖弘**，**林　慧**，**石田 彩花**，**林　公博**：腹膜転移を有する胃癌患者における当院の治療成績と腹水の検討．神奈川胃癌治療研究会，横浜，9/2019

消化器内科（肝胆膵）

発表論文

1　**森本　学**，**上野　誠**，**小林　智**，**福島泰斗**，**河野邦幸**，**佐野裕亮**，**浅間 宏之**，**大川伸一**，加藤弘之，吉田大作：肝癌診療と超音波：最新の治療支援と効果判定テクニック　肝がんへの新規治療オプションとしての重粒子線治療．超音波医学（1346-1176）46巻Suppl．Page S306，2019

2　**小林　智**，**上野　誠**，**森本　学**：【肝疾患を取り巻くAI・技術革新】新たな分子標的薬の実際．肝臓クリニカルアップデート（2189-4469）5巻1号 Page57-62，2019

3　**上野　誠**：【膵癌・胆道癌最新動向―変わる！膵癌周術期化学療法と免疫チェックポイント阻害剤―】膵癌・胆道癌の遺伝子的・免疫的特徴　抗PD-1抗体ペムブロリズマブのMSI-Highを有する固形癌への適応拡大．肝・胆・膵（0389-4991）78巻5号 Page791-795，2019

4　**佐野裕亮**，**上野　誠**，**森本　学**：【腫瘍随伴症候群とオンコロジーエマージェンシー ―病態や治療に伴う多彩な症状】局所症状を呈するオンコロジーエマージェン

シー 閉塞性黄疸，胆管炎．内科（0022-1961）124巻 2 号 Page1575-1577，2019

5 **小林 智**，**上野 誠**：【胆膵癌に対する抗腫瘍療法の現状と展望】非切除膵癌に対する全身化学療法．消化器・肝臓内科（2432-3446）6 巻 3 号Page185-191，2019

6 **森本 学**，**小林 智**，**上野 誠**：【進化する肝細胞癌の薬物療法-2019 Update（Part 2）】TACEと分子標的治療薬の併用療法の臨床試験 TACEと分子標的治療薬の併用療法のこれから．肝・胆・膵（0389-4991）79巻 3 号 Page449-452，2019

7 **上野 誠**，佐々木 隆：肝臓癌・胆道癌・膵臓癌において、遺伝子パネル検査の役割は？遺伝子変異の検出率は10%と低率であるが、積極的な利用が勧められる．日本医事新報（0385-9215）4976号 Page50，2019

8 **上野 誠**：【新しいバイオマーカーとコンパニオン診断薬】各臓器がん別にみる新しいバイオマーカーとコンパニオン診断薬 肝胆膵がんにおけるバイオマーカー別開発の現状．腫瘍内科（1881-6568）24巻 5 号 Page439-442，2019

9 **小林 智**，**上野 誠**：【術前治療時代の膵癌診断・治療戦略】術前化学療法の有害事象マネージメント．胆と膵（0388-9408）40巻11号 Page981-9843，2019

10 Kondo M, **Kobayashi S**, et al: Randomized, Phase Ⅱ Trial of Sequential Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy and Sorafenib Versus Sorafenib Alone as Initial Therapy for Advanced Hepatocellular Carcinoma: SCOOP-2 Trial. BMC Cancer. 15; 19(1): 954. doi: 10. 1186/s12885-019-6198-8, 2019

11 **Ueno M**, Morizane C, Ikeda M, Okusaka T, Ishii H, Furuse J: A review of changes to and clinical implications of the eighth TNM classification of hepatobiliary and pancreatic cancers. Jpn J Clin Oncol. pii: hyz150. doi: 10.1093/jjco/hyz150, 2019

12 **Kobayashi S**: A Multicenter Retrospective Study of Gemcitabine Plus Nab-Paclitaxel for Elderly Patients With Advanced Pancreatic Cancer. et al. Pancreas. 49(2): 187-192. doi: 10. 1097/MPA. 0000000000001484, 2020

著書

1 Katsuda M, Miyazawa M, Ojima T, Katanuma A, Hakamada K, Sudo K, Asahara S, Endo I, **Ueno M**, Hara K, Yamada S, Fujii T, Satoi S, Ioka T, Ohira M, Akahori T, Kitano M, Nagano H, Furukawa M, Adachi T, Yamaue H: A double-blind randomized comparative clinical trial to evaluate the safety and efficacy of dendritic cell vaccine loaded with WT1 peptides (TLP0-001) in combination with S-1 in patients with advanced pancreatic cancer refractory to standard chemotherapy. Trials. 27; 20(1): 242. doi: 10.1186/s13063-019-3332-5, 2019

2 Miura S, Naito T, Mitsunaga S, Omae K, Mori K, Inano T, Yamaguchi T, Tatematsu N, Okayama T, Morikawa A, Mouri T, Tanaka H, Kimura M, Imai H, Mizukami T, Imoto A, Kondoh C, Shiotsu S, Okuyama H, **Ueno M**, Takahashi T, Tsuji T, Aragane H, Inui A, Higashiguchi T, Takayama K.: A randomized phase Ⅱ study of nutritional and exercise treatment for elderly patients with advanced non-small cell lung or pancreatic cancer:the NEXTAC-TWO study protocol. BMC Cancer. 31; 19(1): 528. doi: 10.1186/s12885-019-5762-6, 2019

3 Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, **Ueno M**, Furukawa M, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Kodama Y, Morizane C, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Tsuchiya Y, Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Sakaguchi M, Ishii H, Kojima Y, Matsuo K, Yoshitomi H, Nakamori S, Yanagimoto H, Yatabe Y, Furuse J, Mizuno N: Surgery for Pancreatic Neuroendocrine Tumor G3 and Carcinoma G3 Should be Considered Separately. Ann Surg Oncol. 2019 May; 26(5): 1385-1393. doi: 10.1245/s10434-019-07252-8. Epub, 2019

4 **Ueno M**, Ikeda M, Morizane C, Kobayashi S, Ohno I, Kondo S, Okano N, Kimura K, Asada S, Namba Y, Okusaka T, Furuse J: Nivolumab alone or in combination with cisplatin plus gemcitabine in Japanese patients with unresectable or recurrent biliary tract cancer: a non-randomised, multicentre, open-label, phase 1 study. Lancet Gastroenterol Hepatol. 4(8): 611-621. doi: 10.1016/S2468-1253(19) 30086-X. Epub, 2019

5 Doi T, Yoh K, Shitara K, Takahashi H, **Ueno M**, **Kobayashi S**, **Morimoto M**, Okusaka T, Ueno H, Morizane C, Okano N, Nagashima F, Furuse J: First-in-human phase 1 study of novel dUTPase inhibitor TAS-114 in combination with S-1 in Japanese patients with advanced solid tumors. Invest New Drugs. 37(3): 507-518. doi: 10.1007/s10637-018-0697-3, 2019

6 **Ueno M**, Nagashima F, Ueno H, Ikeda M, Ohkawa S, Mizuno N, Ioka T, Omuro Y, Nakajima TE, Furuse J.: Phase Ⅰ / Ⅱ Study: Experience with the Late Onset of Acute Pancreatitis after the Start of Chemotherapy with Gemcitabine Plus nab-Paclitaxel for Metastatic Pancreatic Cancer.Intern Med. 15; 58(20): 2957-2962. doi: 10. 2169/internalmedicine. 2362-18, 2019

7 **Ueno M**, Morizane C, Ikeda M, Okusaka T, Ishii H, Furuse J: Randomized phase Ⅲ trial of post-operative chemotherapy for patients with stage Ⅰ / Ⅱ / Ⅲ small

bowel adenocarcinoma (JCOG1502C, J-BALLAD). Jpn J Clin Oncol. 11. pii: hyz150. doi: 10.1093/jjco/hyz150, 2019

8　**小林　智**：膵癌（GEM+S-1，GEM+Nab-PTX，胆道癌S-1,）消化器がん薬物療法　副作用マネージメントプロのコツ，MEDICAL VIEW社，2019

その他出版物

1　佐藤　杏，羽田恵梨，**上野　誠**，菅沼伸康，山下年成，成松宏人：がん遺伝子パネル検査を契機に診断された遺伝性乳がん卵巣がん症候群の１家系．日本遺伝カウンセリング学会誌（1347-9628）40巻２号 Page126，7/2019

2　**手塚　瞬**，**上野　誠**，**佐野祐亮**，**河野邦幸**，**福島泰斗**，**浅間宏之**，**小林　智**，**森本　学**，**大川伸一**：術後５年無再発が得られた癌性腹水合併MCNの一例．膵臓（0913-0071）34巻３号 Page A355-A356，6/2019

3　**佐野裕亮**，**上野　誠**，**河野邦幸**，**福島泰斗**，**浅間宏之**，**小林　智**，**森本　学**：化学療法・化学放射線療法により病理学的CRが得られた局所進行膵癌の１例．膵臓（0913-0071）34巻３号 Page A321，6/2019

4　**浅間宏之**，**上野　誠**，**小林　智**，**福島泰斗**，**河野邦幸**，**佐野裕亮**，**森本　学**：GEM+nab-PTX療法を施行した切除不能膵癌の予後と骨格筋量の関連についての検討．膵臓（0913-0071）34巻３号 Page A242，6/2019

5　**小林　智**，**上野　誠**，高橋秀明，池田公史：高齢膵癌患者に対するゲムシタビン+ナブパクリタキセル併用療法．膵臓（0913-0071）34巻３号 Page A158，6/2019

6　**上野　誠**，橋本裕輔，**小林　智**，田中舞紀，池田公史：切除不能局所進行膵癌：化学療法と化学放射線療法　局所進行膵癌におけるゲムシタビン+ナブパクリタキセル+腫瘍溶解性ウイルス療法．膵臓（0913-0071）34巻３号，6/2019

7　**上野　誠**：膵癌治療、特に手術と化学療法の有無について　各国、地域の現状と将来展望　日本における膵癌化学療法の現状（Treatments for pancreatic cancer, especially surgery and/or chemotherapy-current status and future perspectives in each country and region　Current status of pancreatic cancer chemotherapy in Japan）（英語）．膵臓（0913-0071）34巻３号 Page A26，6/2019

学会等発表

1　Ioka T, Nakamori S, Sugimori K, Kanai M, Ikeda M, Ozaka M, Furukawa M, Okusaka T, Kawabe K, Furuse J, Komatsu Y, Sato A, Shimizu S, Chugh P, Tang R, **Ueno M**, : Liposomal irinotecan (nal-IRI) plus 5-fluorouracil/levoleucovorin (5 FU/LV) vs 5-FU/LV in Japanese patients (pts) with gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer (mPAC) Annals of Oncology 30 (suppl_9): ix42-ix67. 10. 1093/annonc/mdz422., 2019

2　Kawamoto Y, Nakamura Y, Ikeda M, Bando H, Esaki T, **Ueno M**, Nishina T, Kagawa Y, Oki E, Denda T, Mizukami T, Takahashi N, Okano N, Miki I, Sakamoto Y, M. I. Lefterova, J. I. Odegaard, Taniguchi H, Morizane C, Yoshino T: Biological difference of tumor mutational burden (TMB) and microsatellite instability (MSI) status in patients (pts) with somatic vs. germline BRCA1/2-mutated advanced gastrointestinal (GI) cancers using cell-free DNA (cfDNA) sequencing analysis in the GOZILA study. Annals of Oncology 30 (suppl_5): v25-v54. 10. 1093/annonc/mdz239, 2019

3　Hashimoto Y, Hijioka S, Hirooka Y, Ohno E, Ioka T, **Kobayashi S**, Okusaka T, Maruki Y, Yashika J, Ashida R, Furuse J, Ikeda M, Kasuya H, Tanaka M, **Ueno M**: Results from phase I study of the oncolytic viral immunotherapy agent Canerpaturev (C-REV) in combination with gemcitabine plus nab-paclitaxel as first-line treatment of unresectable pancreatic cancer. Annals of Oncology 30 (suppl_5): v253-v324. 10.1093/annonc/mdz247., 2019

4　Ozaka M, **Kobayashi S**, Ikeda M, **Ueno M**: Multicenter retrospective study of gemcitabine plus nab-paclitaxel for elderly patients with advanced pancreatic cancer. Annals of Oncology 30 (suppl_5): v253-v324. 10.1093/annonc/mdz247, 2019

5　Okano N, **Ueno M**, Morizane C, Yamanaka T, Ojima H, Ozaka M, Sasaki M, Takahara N, **Kobayashi S**, **Morimoto M**, Hosoi H, Nakai Y, Ikeda M, Maeno S, Nagashima F, Okusaka T, Furuse J: Multicenter phase Ⅱ trial of axitinib monotherapy for advanced biliary tract cancer refractory to gemcitabine-based chemotherapy. Annals of Oncology 30 (suppl_5): v253-v324. 10.1093/annonc/mdz247, 2019

6　**Kobayashi S**, Koizume S, Miyagi Y, **Ueno M**, **Morimoto M**: Cancer-associated thrombosis in patients with pancreatic cancer and its correlation with plasma tissue factor level: A Japanese prospective cohort study. Annals of Oncology 30 (suppl_5): v253-v324.10.1093/annonc/mdz247[n1], 2019

7　Mitsunaga S, Nomura S, Hara K, Takayama Y, **Ueno M**, Hanada K, Miki I, Takahashi S, Kuwahara T, Nomoto T, Sudo T, Myomoto A, Sudo H, Takizawa S, Kojima M.: Serum microRNA signatures for the detection of pancreatobiliary cancer.. J Clin Oncol 37 (suppl; abstr e15718.), 2019

8　Yung-Jue Bang, **Ueno M**, David Malka, Hyun Cheol Chung, Adnan Nagrial, Robin Kate Kelley, Sarina Anne Piha-Paul, Willeke Ros, Antoine Italiano, Nakagawa K, Hope S. Rugo, Filippo G. De Braud, Andrea I. Varga, Aaron Richard Hansen, Chao Gao, Suba Krishnan,

Kevin Norwood, Doi T: Pembrolizumab (pembro) for advanced biliary adenocarcinoma: Results from the KEYNOTE-028 (KN028) and KEYNOTE-158 (KN158) basket studies. J Clin Oncol 37 (suppl; abstr 4079), 2019

9 **Ueno M**, Morizane C, Okusaka T, Ogawa G, Sato Y, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Nishina T, Ishii H, Furuse J.: The influence of renal function on gemcitabine-based chemotherapy for advanced biliary tract cancer: An exploratory subgroup analysis of JCOG1113. J Clin Oncol 37 (suppl 4; abstr 368), 2019

10 Hashimoto Y, **Ueno M**, Tanaka M, Ikeda M.: Results from phase I study of theoncolytic viral immunotherapy agent canerpaturev (C-REV) in combination with gemcitabine plus nab-paclitaxel for unresectable pancreatic cancer. J Clin Oncol 37 (suppl 4; abstr 325), 2019

11 Ikeda M, **Ueno M**, Morizane C, **Kobayashi S**, Ohno I, Kondo S, Okano N, Kimura K, Asada S, Namba Y, Okusaka T, Furuse J.: A multicenter, open-label, phase Ⅰ study of nivolumab alone or in combination with gemcitabine plus cisplatin in patients with unresectable or recurrent biliary tract cancer. J Clin Oncol 37 (suppl 4; abstr 306), 2019

12 Ioka T, **Ueno M**, Do-Youn Oh, Fujiwara Y, Jen-Shi Chen, Doki Y, Mizuno N, Keunchil Park, Asagi A, Hayama M, Nii M, Komuro K, Sugimoto M, Gordana Vlahovic, Ikeda M: Evaluation of safety and tolerability of durvalumab (D) with or without tremelimumab (T) in patients (pts) with biliary tract cancer (BTC). J Clin Oncol 37 (suppl 4; abstr 387), 2019

13 **Kobayashi S**, **Ueno M**, Ogawa G, Fukutomi A, Ikeda M, Okusaka T, Sato T, Ito Y, Kadota T, Ioka T, Sugimori K, Sata N, Nakamori S, Shimizu K, Mizuno N, Ishii H, Furuse J: Impact of renal function on the efficacy and safety of S-1 with concurrent radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer. J Clin Oncol 37 (suppl 4; abstr 301), 2019

14 Yamada I, Morizane C, Okusaka T, Ogawa G, Sato Y, **Ueno M**, Ikeda M,Sugimori K, Fukutomi A, Shimizu S, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Nishina T, Ishii H, Furuse J :. The clinical outcomes of combination chemotherapy in elderly patients with advanced biliary tract cancer: An exploratory subgroup analysis of JCOG1113. J Clin Oncol 37 (suppl 4; abstr 349), 2019

15 **森本　学**，**上野　誠**，**小林　智**，**福島泰斗**，**河野邦幸**，**佐野裕亮**，**浅間宏之**，**大川伸一**，加藤弘之，吉田大作：肝がんへの新規治療オプションとしての重粒子線治療. 日本超音波医学会第92回学術集会, パネルディスカッション，東京，5/2019

16 工藤正俊，奥坂拓志，本村健太，大野　泉，**森本　学**，瀬尾　智，和田幸之，佐藤新平，山下竜也，古川正幸，新槇　剛，灘野成人，大川和良，藤井博文，工藤敏啓，古瀬純司，髙井弘基，本間剛介，吉川麗月，Andrew X. Zhu：ソラフェニブ後のAFP高値進行肝細胞癌に対するラムシルマブ：2つの国際共同無作為化第3相試験の併合解析における日本人患者の有効性と安全性．第20回日本肝がん分子標的治療研究会，長崎，6/2019

17 **森本　学**，Josep M. Llovet，Chia-Jui Yen，Richard S. Finn，Yoon-Koo Kang，Peter Galle，Eric Assenat，Marc Pracht，Ho Yeong Lim，Kun-Ming Rau，Christophe Borg，Jean-Baptiste Hiriart，Bruno Daniele，Thomas Berg，Hyun Cheol Chung，Nathalie Godinot，Chunxiao Wang，Yanzhi Hsu，本間剛介，篠崎健太，William Schelman，Andrew Zhu，工藤正俊：AFP高値進行肝細胞癌　日本人患者に対するラムシルマブ治療：無作為化第3相試験におけるソラフェニブ前治療の中止理由別のサブグループ解析．第55回日本肝癌研究会，東京，7/2019

18 **小林　智**：Hepatic arterial infusion chemotherapy―current status and future perspective―．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，7/2019

19 **小林　智**：膵癌における血中組織因子による血栓塞栓症発症予測．第2回日本腫瘍循環器学会学術集会，旭川，9/2019

20 Kudo M, PR Galle, Motomura K, E Assenat, P Merle, G Brandi, B Daniele, Okusaka T, J Tomasek, C Borg, V Zagonel, **Morimoto M**, M pracht, RS Finn, JM Llovet, Homma G, MH Jen, Shiozaki K, Yoshikawa R, AX Zhu.: Efficacy and safety of ramucirumab for advanced hepatocellular carcinoma with elevated alpha-fetoprotein following sorafenib across age subgroup in two global phase 3 trials. ESMO 2019 Spain, 9/2019

21 **Kobayashi S**: Cancer-associated thrombosis in patients with pancreatic cancer and its correlation with plasma tissue factor level: A Japanese prospective cohort study. ESMO 2019, Spain, 9/2019

22 池田公史，Andrew X. Zhu，奥坂拓志，本村健太，**森本　学**，瀬尾　智，和田幸之，佐藤新平，山下竜也，古川正幸，新槇　剛，Chunxiao Wang，Ryan Widau，篠崎健太，吉川麗月，工藤正俊：ソラフェニブ前治療後のAFP高値肝細胞癌に対するラムシルマブによるALBIスコアへの影響：REACH試験及びREACH-2試験の日本人部分集団の併合解析．第21回日本肝がん分子標的治療研究会，東京，1/2020

消化器外科（胃食道）

発表論文

1 **Shimoda Y**, **Yamada T**, **Komori K**, **Watanabe H**, Osakabe H, **Kano K**, **Fujikawa H**, Hayashi T, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Ota Y, Katsumata K, Tsuchida A, **Ogata T** and **Oshima T**. Effect of Muscle Mass Loss After Esophagectomy on Prognosis of Oesophageal Cancer.Anticancer Res. 2020 Mar; 40(3): 2275-2281.

2 **Watanabe H**, Hayashi T, **Komori K**, Hara K, Maezawa Y, Kano K, **Shimoda Y**, **Fujikawa H**, Aoyama T, **Yamada T**, Yamamoto N, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, Morinaga S, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, **Ogata T** and **Oshima T**. Impact of Postoperative Complications on Recurrence in Patients with Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Who Received Adjuvant Chemotherapy With S-1. Anticancer Res. 2020 Mar; 40(3): 1683-1690.

3 Hara K, Aoyama T, **Yamada T**, Nakazono M, Nagasawa S, **Shimoda Y**, **Kumazu Y**, Numata M, Hayashi T, Tamagawa H, Shiozawa M, Morinaga S, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Ogata T** and **Oshima T**. The Prognostic Value of the Perioperative Systemic Inflammation Score for Patients with Advanced Gastric Cancer. Anticancer Res. 2020 Mar; 40(3): 1503-1512.

4 **Kano K**, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, **Fujikawa H**, Hiroshima Y, **Yamada T**, Tamagawa H, Yamamoto N, **Ogata T**, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y and **Oshima T**. Impact of the *ESM-1* Gene Expression on Outcomes in StageⅡ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo. 2020 Jan-Feb; 34(1): 461-467.

5 Oneyama M, Sakamoto N, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, **Kano K**, Aoyama T, **Fujikawa H**, **Yamada T**, Tamagawa H, Yamamoto N, **Ogata T**, Cho H, Ito H, Yukawa N, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Yasui W and **Oshima T**. Clinical Significance of KIAA1199 as a Novel Target for Gastric Cancer Drug Therapy. Anticancer Res. 2019 Dec; 39(12): 6567-6573.

6 Maezawa Y, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, **Kano K**, Aoyama T, Hiroshima Y, **Yamada T**, Yamamoto N, **Ogata T**, Ito H, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y and **Oshima T**. High gamma-glutamyl hydrolase and low folylpolyglutamate synthetase expression as prognostic biomarkers in patients with locally advanced gastric cancer who were administrated postoperative adjuvant chemotherapy with S-1. J Cancer Res Clin Oncol. 2020 Jan; 146(1): 75-86.

7 Hashimoto I, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, **Kano K**, Aoyama T, **Yamada T**, Yamamoto N, **Ogata T**, Ito H, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, **Oshima T**. Clinical Significance of *PRKCI* Gene Expression in Cancerous Tissue in Patients with Gastric Cancer. Anticancer Res. 2019 Oct; 39(10): 5715-5720.

8 Hiroshima Y, Kasajima R, Kimura Y, Komura D, Ishikawa S, Ichikawa Y, Bouvet M, Yamamoto N, **Oshima T**, Morinaga S, Singh SR, Hoffman RM, Endo I, Miyagi Y. Novel targets identified by integrated cancer-stromal interactome analysis of pancreatic adenocarcinoma. Cancer Lett. 2020 Jan 28; 469: 217-227

10 **Kano K**, Aoyama T, Maezawa Y, Hayashi T, **Yamada T**, Tamagawa H, Sato T, Cho H, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, **Oshima T**, **Ogata T**. Postoperative Level of C-Reactive Protein Is a Prognosticator After Esophageal Cancer Surgery With Perioperative Steroid Therapy and Enhanced Recovery After Surgery Care. In Vivo. 2019 Mar-Apr; 33(2): 587-594.

11 **Yamada T**, **Kumazu Y**, Nakazono M, Hara K, Nagasawa S, **Shimoda Y**, Hayashi T, Rino Y, Masuda M, Shiozawa M, Morinaga S, **Ogata T** and **Oshima T**. Feasibility and safety of laparoscopy-assisted distal gastrectomy performed by trainees supervised by an experienced qualified surgeon. Surg Endosc. 2020 Jan; 34(1): 429-435.

12 Hara K, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, **Shimoda Y**, **Kumazu Y**, **Yamada T**, Yamamoto N, Shiozawa M, Morinaga S, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, **Ogata T** and **Oshima T**. An easy and reliable method to close Petersen's defect using barbed suture to prevent internal hernia from developing after gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction. Asian J Endosc Surg. 2020 Apr; 13(2): 238-241.

13 Maezawa Y, Aoyama T, **Kano K**, Tamagawa H, Numata M, Hara K, Murakawa M, **Yamada T**, Sato T, **Ogata T** and **Oshima T**, Yukawa N, Yoshikawa T, Masuda M, Rino Y. Impact of the Age-adjusted Charlson comorbidity index on the short- and long-term outcomes of patients undergoing curative gastrectomy for gastric cancer. J Cancer. 2019 Aug 29; 10(22): 5527-5535.

14 Higuchi A, Aoyama T, Kazama K, Murakawa M,

Atsumi Y, Katayama Y, Numata K, Sawazaki S, Numata M, Sato S, Sugano N, Tamagawa H, Mushiake H, **Oshima T**, Yukawa N, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Shiozawa M. Beppu's Nomogram Score Is an Independent Prognostic Factor for Colorectal Liver Metastasis Receiving Perioperative Chemotherapy and/or Targeted Therapy. In Vivo. 2019 Jul-Aug; 33(4): 1301-1306.

15 Maezawa Y, Aoyama T, **Kano K**, Tamagawa H, Numata M, Hara K, Murakawa M, **Yamada T**, Sato T, **Ogata T**, **Oshima T**, Yukawa N, Yoshikawa T, Masuda M, Rino Y. Impact of the Age-adjusted Charlson comorbidity index on the short- and long-term outcomes of patients undergoing curative gastrectomy for gastric cancer. J Cancer. 2019 Aug 29; 10(22): 5527-5535.

16 Aoyama T, Atsumi Y, Hara K, Tamagawa H, Tamagawa A, **Komori K**, Hashimoto I, Maezawa Y, Kazama K, **Kano K**, Murakawa M, Numata M, **Oshima T**, Yukawa N, Masuda M, Rino Y. Risk Factors for Postoperative Anastomosis Leak After Esophagectomy for Esophageal Cancer. In Vivo. 2020 Mar-Apr; 34(2): 857-862.

17 Aoyama T, Kazama K, Atsumi Y, Tamagawa H, Tamagawa A, **Komori K**, Machida D, Maezawa Y, **Kano K**, Hara K, Murakawa M, Numata M, **Oshima T**, Yukawa N, Masuda M, Rino Y. Anticancer Res. 2020 Jan; 40(1): 443-449. Clinical Influence of Anastomotic Leakage on Esophageal Cancer Survival and Recurrence.

18 Aoyama T, Hara K, Kazama K, Atsumi Y, Tamagawa H, Tamagawa A, Machida D, **Komori K**, Maezawa Y, **Kano K**, Hashimoto I, **Oshima T**, Murakawa M, Numata M, Yukawa N, Masuda M, Rino Y. The Short- and Long-term Outcomes of Esophagectomy for Esophageal Cancer in Patients Older than 75 Years. Anticancer Res. 2020 Feb; 40(2): 1087-1093.

19 Tamagawa H, Aoyama T, Kano K, Numata M, Atsumi Y, Hara K, Kazama K, **Koumori K**, Murakawa M, Hashimoto I, Maezawa Y, **Yamada T**, Yukawa N, Yoshikawa T, **Masuda M**, **Oshima T**, **Rino Y**. The Impact of Intraoperative Blood Loss on the Long-term Prognosis after Curative Resection for Borrmann Type Ⅳ Gastric Cancer: A Retrospective Multicenter Study. Anticancer Res. 2020 Jan; 40(1): 405-412.

20 Numata M, Sawazaki S, Aoyama T, Tamagawa H, Godai T, Sato T, Saeki H, Saigusa Y, Taguri M, Mushiake H, **Oshima T**, Yukawa N, Shiozawa M, Masuda M, Rino Y. Laparoscopic surgery in patients diagnosed with clinical N2 colon cancer. Surg Today. 2019 Jun; 49(6): 507-512.

21 Numata M, Sawazaki S, Aoyama T, Tamagawa H, Sato T, Saeki H, Saigusa Y, Taguri M, Mushiake H, **Oshima T**, Yukawa N, Shiozawa M, Rino Y, Masuda M. D3 lymph node dissection reduces recurrence after primary resection for elderly patients with colon cancer. Int J Colorectal Dis. 2019 Apr; 34(4): 621-628.

22 Tamagawa H, Aoyama T, **Kano K**, Numata M, Atsumi Y, Hara K, Kazama K, **Koumori K**, Murakawa M, Hashimoto I, Maezawa Y, **Yamada T**, Yukawa N, Yoshikawa T, Masuda M, **Oshima T**, Rino Y. The Impact of Intraoperative Blood Loss on the Long-term Prognosis after Curative Resection for Borrmann Type IV Gastric Cancer: A Retrospective Multicenter Study. Anticancer Res. 2020 Jan; 40(1): 405-412.

23 Yoshikawa T, Aoyama T, Sakamaki K, **Oshima T**, Lin J, Zhang S, Sapari NS, Soong R, Tan I, Chan XB, Bottomley D, Hewitt LC, Arai T, Teh BT, Epstein D, **Ogata T**, Kameda Y, Miyagi Y, Tsuburaya A, Morita S, Grabsch HI, Tan P. Comprehensive biomarker analyses identifies *HER2, EGFR, MET* RNA expression and thymidylate synthase 5' UTR SNP as predictors of benefit from S-1 adjuvant chemotherapy in Japanese patients with stage Ⅱ/Ⅲ gastric cancer. J Cancer. 2019 Aug 28; 10(21): 5130-5138.

24 Aoyama T, Yoshikawa T, Ida S, Cho H, Sakamaki K, Ito Y, Fujitani K, Takiguchi N, Kawashima Y, Nishikawa K, **Oshima T**, Nunobe S, Hiki N. J Cancer. Effects of perioperative Eicosapentaenoic acid-enriched oral nutritional supplement on lean body mass after total gastrectomy for gastric cancer. 2019 Jan 29; 10(5): 1070-1076.

25 Katai H, Mizusawa J, Katayama H, Morita S, **Yamada T**, Bando E, Ito S, Takagi M, Takagane A, Teshima S, Koeda K, Nunobe S, Yoshikawa T, Terashima M, Sasako M: Survival Outcomes After Laparoscopy-Assisted Distal Gastrectomy Versus Open Distal Gastrectomy With Nodal Dissection for Clinical Stage IA or IB Gastric Cancer (JCOG0912): A Multicentre, Non-Inferiority, Phase 3 Randomised Controlled Trial. Lancet Gastroenterol Hepatol. 5(2): 142-151, 2020

26 Yoshikawa T, Terashima M, Mizusawa J, Nunobe S, Nishida Y, **Yamada T**, Kaji M, Fukushima N, Hato S, Choda Y, Yabusaki H, Yoshida K, Ito S, Takeno A, Yasuda T, Kawachi Y, Katayama H, Fukuda H, Boku N, Sano T, Sasako M. Four Courses Versus Eight Courses of Adjuvant S-1 for Patients With Stage Ⅱ Gastric Cancer (JCOG1104 [OPAS-1]): An Open-Label, Phase 3, Non-Inferiority, Randomised Trial. Lancet Gastroenterol Hepatol. 4(3): 208-216, 2019.

27 Tanaka C, Kanda M, Murotani K, Yoshikawa T, Cho H, Ito Y, Matsui T, Nakayama H, **Yamada T**, Kobayashi D, Fujiwara M, Kodera Y. Long-term Quality of Life and Nutrition Status of the Aboral Pouch Reconstruction After Total Gastrectomy for Gastric Cancer: A Prospective Multicenter Observational Study (CCOG1505). Gastric Cancer 22(3): 607-616, 2019.

28 Aoyama T, Yoshikawa T, Sato T, Hayashi T, **Yamada T**, Ogata T, Cho H. Equivalent Feasibility and Safety of Perioperative Care by ERAS in Open and Laparoscopy-Assisted Distal Gastrectomy for Gastric Cancer: A Single-Institution Ancillary Study Using the Patient Cohort Enrolled in the JCOG0912 Phase Ⅲ Trial. Gastric Cancer. 22(3): 617-623, 2019

29 Hirohito Fujikawa, Keisuke Koumori, **Hayato Watanabe**, Kazuki Kano, Yota Shimoda, Toru Aoyama, **Takanobu Yamada**, Tamagawa hiroshi, Naoto Yamamoto, Haruhiko Cho, Manabu Shiozawa, Takaki Yoshikawa, Souichiro Morinaga, Yasushi Rino, Munetaka Masuda, **Takashi Ogata**, **Takashi Oshima**. The Clinical Significance of Lymphovascular Invasion in Gastric Cancer. in vivo, 34: 1533-1539, 2020.

30 Aoyama T, Yoshikawa T, Maezawa Y, **Kano K**, Numata M, Hara K, **Komori K**, **Yamada T**, Hayashi T, Sato T, Tamagawa H, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Ogata T**, Cho H, **Oshima T**. The postoperative lean body mass loss at one month leads to a poor survival in patients with locally advanced gastric cancer. J Cancer. 2019 May 28; 10(11): 2450-2456.

31 Tamagawa A, Aoyama T, Tamagawa H, Ju M, **Komori K**, Maezawa Y, **Kano K**, Kazama K, Murakawa M, Atsumi Y, Sawazaki S, Hara K, Numata M, Sato T, Yukawa N, Masuda M, Rino Y. Influence of Postoperative Pneumonia on Esophageal Cancer Survival and Recurrence. Anticancer Res. 2019 May; 39(5): 2671-2678.

32 Aoyama T, Yoshikawa T, Maezawa Y, Segami K, Kano K, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Fujikawa H, Komori K, Hayashi T, Sato T, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Ogata T**, Cho H, **Oshima T**. Influence of Postoperative Surgical Complications After Gastrectomy on Body Weight and Body Composition Changes in Patients With Gastric Cancer. Anticancer Res. 2019 Feb; 39(2): 1073-1078.

33 Kazunari Misawa , Takaki Yoshikawa, Seiji Ito, Haruhiko Cho, Yuichi Ito, **Takashi Ogata**. Safety and Feasibility of Linear Stapling Device with Bioabsorbable Polyglycolic Acid Sheet for Duodenal Closure in Gastric Cancer Surgery: A Multi-institutional Phase Ⅱ Study World J Surg. 2019 Jan; 43(1): 192-198.

34 Mitsumi Terada , Hiroki Hara , Hiroyuki Daiko , Junki Mizusawa, Tomohiro Kadota, Keisuke Hori, Hirofumi Ogawa, **Takashi Ogata**, Katsuyuki Sakanaka, Takeshi Sakamoto , Ken Kato , Yuko Kitagawa. Phase Ⅲ Study of Tri-Modality Combination Therapy With Induction Docetaxel Plus Cisplatin and 5-fluorouracil Versus Definitive Chemoradiotherapy for Locally Advanced Unresectable Squamous-Cell Carcinoma of the Thoracic Esophagus (JCOG1510: TRIANgLE). Japanese Journal of Clinical Oncology, 49(11): 1055-1060, 2019.

その他出版物

1 遠藤和也，青山 徹，前澤幸男，朱 美和，杉山敦彦，**公盛啓介**，澤崎 翔，沼田正勝，佐藤 勉，玉川 洋，**大島 貴**，湯川寛夫，小澤幸弘，益田宗孝，利野 靖：巨大胃神経鞘腫を腹腔鏡下手術で切除した1例．癌と化学療法， 6 (10)：1662-1664，2019

2 朱 美和，青山 徹，遠藤和也，杉山敦彦，森 佳織，佐藤 勉，玉川 洋，**大島 貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野 靖：胆嚢腫瘍からの出血に対して腹腔鏡下胆嚢切除を施行した1例．癌と化学療法，46(10)：1650-1652，2019

3 天野新也，沼田正勝，額田 卓，富田啓人，前澤幸男，田中彩乃，片山雄介，澤崎 翔，青山 徹，玉川 洋，佐藤 勉，**大島 貴**，大佛智彦，虫明寛行，湯川寛夫，神 康之，益田宗孝，利野 靖：虫垂粘液産生腫瘍に対して腹腔鏡下手術を行った4例の検討．癌と化学療法，46(10)：1638-1640，2019

4 原 健太朗，青山 徹，森田順也，川邉泰一，沼田正勝，玉川 洋，佐藤 勉，山仲一輝，羽鳥慎祐，**大島 貴**，湯川寛夫，利野 靖，益田宗孝，谷 和行，白石龍二：胸下経横隔膜穿刺にてラジオ波焼灼療法を行った肝細胞癌の1例，癌と化学療法，46(13)：1963-1965，2019.

5 原 健太朗，青山 徹，額田 卓，**公盛啓介**，田中彩乃，天野新也，片山雄介，沼田正勝，玉川 洋，佐藤 勉，**大島 貴**，神 康之，湯川寛夫，利野 靖，益田宗孝：集学的治療で寛解し得た小腸原発悪性リンパ腫穿孔の1例．癌と化学療法，46(13)：1972-1974，2019

6 澤崎 翔，沼田正勝，朱 美和，森田順也，**公盛啓介**，前澤幸男，天野新也，青山 徹，玉川 洋，佐藤 勉，**大島 貴**，虫明寛行，湯川寛夫，益田宗孝，利野 靖：再発大腸癌化学療法中に5-Fluorouracilに起因する高アンモニア血症および意識障害を認めた1例．癌と化学療法，46(10)：1632-1634，2019

7 杉山敦彦，青山 徹，遠藤和也，朱 美和，公盛啓介，前澤幸男，小野由香利，澤崎 翔，沼田正勝，佐藤 勉，玉川洋，小澤幸弘，**大島 貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野 靖：早期胃癌に対して腹腔鏡下幽門側胃切除術後早期に急速進行性糸球体腎炎を発症した1例．癌と化学療

法，46(10)：1626-1628，2019

8　森　佳織，青山　徹，森田順也，前澤幸雄，天野新也，澤崎翔，沼田正勝，玉川　洋，佐藤　勉，**大島　貴**，吉川貴己，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：Ramucirumab＋Paclitaxel療法中に腫瘍出血を来し胃切除を施行した進行胃癌の1例．癌と化学療法，46(3)：586-588, 2019

9　淺利昌大，青山　徹，**公盛啓介**，内山　護，前澤幸男，澤崎　翔，沼田正勝，玉川　洋，佐藤　勉，大佛智彦，谷　和行，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：高齢者大腸癌手術におけるD3リンパ節郭清の意義．癌と化学療法，47(2)：259-261，2020

10　森　佳織，沼田正勝，青山　徹，澤崎　翔，**公盛啓介**，前澤幸雄，虫明寛行，玉川　洋，益田宗孝，利野　靖：IgG4関連疾患を合併した盲腸癌に対し腹腔鏡下回盲部切除術を行った1例．癌と化学療法，46(10)：1668-1670，2019

11　田邉美恵，澤崎　翔，沼田正勝，**公盛啓介**，前澤幸男，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：腸回転異常症を伴うS状結腸癌に対して腹腔鏡下S状結腸切除術を施行した1例．癌と化学療法，46(10)：1659-1661，2019

12　**公盛啓介**，神　康之，渡辺卓央，蓮尾公篤，利野靖，益田宗孝：S状結腸癌術後経過観察中に発症したCitrobacter spp. による脾臓摘出後重症感染症（OPSI）の1例．癌と化学療法，46(10)：1653-1655，2019

13　**渡邊勇人**，國崎主税，田中優作，佐藤　渉，佐藤　圭，宮本　洋，湯川寛夫，小坂隆司，秋山浩利，益田宗孝，遠藤　格：胃癌患者の化学療法に伴う倦怠感に対するL-カルニチンの有用性の検討．癌と化学療法，47(3)：490-492，2020

14　**渡邊勇人**，沼田幸司，上岡祐人，加藤　綾，土田知史，佐伯博行，松川博史，河野尚美，利野　靖，益田宗孝：低異型度虫垂粘液性腫瘍と虫垂杯細胞カルチノイドが併存した1例．日本消化器外科学会雑誌，52(9)：544-550，2019

15　利野　靖，佐藤　勉，青山　徹，前澤幸男，玉川　洋，沼田正勝，澤崎　翔，**公盛啓介**，朱　美和，湯川寛夫，益田宗孝：非開胸での食道癌根治手術の手技と短期成績 食道癌根治術に、まだ開胸は必須か?．横浜医学，70(2)：101-106，2020

16　**山田貴允**，中園真聡，原　健太朗，長澤伸介，**下田陽太**，熊頭勇太，青山　徹，林　勉，**尾形高士**，**大島　貴**：消化器疾患に対する機能温存・再建手】上部消化管領域　機能温存の観点からみた幽門切除術におけるRoux-en Y法の意義（解説/特集）．外科（0016-593X），81（5）：440-443，4/2019

学会等発表

1　**大島　貴**，木村弥生，渥美陽介，原　健太朗，中園真聡，長澤伸介，**下田陽太**，**熊頭勇太**，青山　徹，林　勉，**山田貴允**，玉川　洋，佐藤　勉，山本直人，湯川寛夫，塩澤　学，森永聡一郎，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，宮城洋平：リキッドバイオプシーを用いたStageⅢ局所進行胃癌における高度リンパ節転移補助診断法の構築．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019，（サージカルフォーラム）

2　中園真聡，林　勉，原　健太朗，**下田陽太**，長澤伸介，**熊頭勇太**，**山田貴允**，青山　徹，佐藤　勉，山本直人，利野　靖，益田宗孝，塩澤　学，森永聡一郎，**尾形高士**，**大島　貴**：胃切除後の合併症によるエネルギー摂取量の変化:経口摂取量調査票（FFQW82）による定量化．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019．

3　青山　徹，吉川貴己，**大島　貴**，**尾形高士**，円谷　彰，宮城洋平，新井富夫，ハイカグラビッシュ：胃癌の微小環境における間質線維細胞の生物学的意義の検討．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019．

4　四元宏和，山本直人，神谷真梨子，井上広英，村川正明，青山　徹，沼田正勝，林　勉，山田貴允，**尾形高士**，**大島　貴**，塩澤　学，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：膵神経内分泌腫瘍切除例の解析．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019．

5　井上広英，宮城洋平，神谷真梨子，四元宏和，山本直人，**大島　貴**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：Heat shock protein 105が膵癌における予後や抗癌剤耐性に与える影響．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019．

6　前澤幸男，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，**尾形高士**，長晴彦，**大島　貴**，湯川寛夫，吉川貴己，利野　靖，益田宗孝：術後感染性合併症が胃癌治癒切除後の長期成績に与える影響．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019．（ワークショップ）

7　佐藤　勉，**山田貴允**，前澤幸男，**神尾一樹**，青山　徹，林　勉，村上仁志，五代天偉，玉川　洋，山本直人，佐伯博行，**大島　貴**，湯川寛夫，吉川貴己，利野靖，益田宗孝：根治切除可能な大型3型・4型，bulky N2 進行胃癌に対する術前Docetaxel/Cisplatin/TS-1 併用療法の長期成績．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019．（サージカルフォーラム）

8　玉川　洋，青山　徹，沼田正勝，澤崎　翔，佐藤　勉，前澤幸男，**公盛啓介**，利野　靖，益田宗孝，林　勉，山田貴允，**大島　貴**：4型胃癌手術症例の臨床病理学的特徴と治療成績　横浜外科臨床研究グループ多施設共同後ろ向き研究．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，2019，4.

9　渥美陽介，利野　靖，渡邊勇人，浅利昌大，渡辺卓央，大佛智彦，虫明寛行，湯川寛夫，青山　徹，玉川洋，**大島　貴**，益田宗孝：胃癌術後骨密低下のリスク因子の検討．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019．（サージカルフォーラム）

10　原　健太朗，青山　徹，**下田陽太**，中園真聡，長澤伸介，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，佐藤　勉，塩澤　学，森永聡一郎，利野　靖，**尾形高士**，益田宗孝，大島　貴：胃癌術後のD dimer 上昇は長期予後予測因子となる．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019．（サージカルフォーラム）

11　山本直人，村川正明，神谷真梨子，井上広英，四元宏和，青山徹，沼田正勝，山田貴允，林　勉，佐藤　勉，尾形高士，**大島　貴**，塩澤　学，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：根治切除が行われた肝内胆管癌の予後因子の検討．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，2019，4.

12　神谷真梨子，山本直人，四元宏和，井上広英，村川正明，青山　徹，沼田正勝，林　勉，山田貴允，佐藤　勉，尾形高士，**大島　貴**，湯川寛夫，塩澤　学，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：短期・長期成績からみた膵全摘術の妥当性．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

13　熊頭勇太，林　勉，山田貴允，原　健太朗，下田陽太，中園真聡，長澤伸介，塩澤　学，森永聡一郎，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：リンパ節転移陰性胃癌患者におけるリンパ節郭清・検査個数による予後への影響．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

14　利野　靖，**山田貴允**，青山　徹，沼田正勝，前澤幸男，**大島　貴**，佐藤，勉，湯川寛夫，吉川貴己，益田宗孝：ロボット支援胃癌手術の合併症と予防について．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

15　**山田貴允**，**熊頭勇太**，原　健太朗，**下田陽太**，中園真聡，長澤伸介，青山　徹，林　勉，佐藤　勉，山本直人，塩澤　学，森永聡一郎，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，**大島　貴**：技術認定医指導下に修練中の外科医が行う腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の忍容性．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

16　**神尾一樹**，青山　徹，前澤幸男，林　勉，山田貴允，玉川　洋，佐藤　勉，**尾形高士**，佐伯博行，長　晴彦，**大島　貴**，湯川寛夫，吉川貴己，利野　靖，益田宗孝：初回手術が悪性疾患であった残胃癌手術症例の検討．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

17　長澤伸介，**尾形高士**，原　健太朗，**下田陽太**，中園真聡，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，塩澤　学，山本直人，森永聡一郎，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**大島　貴**：切除可能な進行食道癌の横断面による腫瘍局在性は長期予後に影響する．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

18　**下田陽太**，**尾形高士**，原健太郎，長澤伸介，中園真聡，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，塩澤　学，森永聡一郎，**大島　貴**：食道癌に対する食道切除後の筋肉量減少が予後に与える影響．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

19　**渡邊勇人**，國崎主税，千田圭悟，田中優作，佐藤　渉，佐藤　圭，宮本　洋，大佛智彦，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：胃癌手術におけるPOSSUMの有用性 Usefulness of POSSUM for gatric cancer surgery．第119会日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

20　澤崎　翔，沼田正勝，玉川　洋，森　佳織，**公盛啓介**，前澤 幸男，青山　徹，佐藤　勉，益田宗孝，利野　靖：重症併存疾患を有する患者における腹腔鏡下大腸切除術の安全性．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

21　沼田正勝，澤崎　翔，森　佳織，**公盛啓介**，前澤幸男，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，虫明寛行，塩澤　学，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：確実な自律神経温存を目指したロボット支援下直腸授動　7 ステップから成る定型化 Ro-TME．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

22　**大島　貴**：ポスター 12　症例・その他 4　司会．第40回癌免疫外科研究会，金沢，5/2019

23　**尾形高士**，**下田陽太**，長澤伸介，中園真聡，原　健太朗，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，**大島　貴**：食道胃接合部癌に対する食道切除症例の検討（Her2陽性を含む検討）．第40回癌免疫外科研究会，金沢，5/2019

24　杉山敦彦，青山　徹，朱　美和，遠藤和也，沼田正勝，玉川　洋，**大島　貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：早期胃がんに対して腹腔鏡下幽門側胃切除術後早期に急速進行性糸球体腎炎を発病した一例．第40回癌免疫外科研究会，金沢，5/2019

25　玉川綾子，青山　徹，玉川　洋，澤崎　翔，沼田正勝，佐藤　勉，**大島　貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：10年間の食道粘膜下腫瘍経過観察中に発生した食道癌の一例．第40回癌免疫外科研究会，金沢，5/2019

26　澤崎　翔，沼田正勝，朱　美和，**公盛啓介**，前澤幸男，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，益田宗孝，利野　靖：10年間の食道粘膜下腫瘍経過観察中に発生した食道癌の一例．第40回癌免疫外科研究会，金沢，5/2019

27　淺利昌大，青山　徹，朱　美和，**公盛啓介**，内山　譲，前澤幸男，澤崎　翔，沼田正勝，玉川　洋，佐藤　勉，大佛智彦，虫明寛行，谷　和行，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：高齢者大腸がんにおけるD3リンパ節郭清の意義．第40回癌免疫外科研究会，金沢，5/2019

28　**公盛啓介**，渡辺卓央，神　康之，蓮尾公篤，利野　靖，益田宗孝：S 状結腸癌術後に発症したCitrobacter spp. による脾臓摘出後重症感染症（OPSI）の 1 例．第40回癌免疫外科研究会，金沢，5/2019

29　田邊美恵，澤崎　翔，沼田正勝，**公盛啓介**，前澤幸男，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，益田宗孝，利野　靖：腸回転異常を伴う S 状結腸切除を施行した 1 例．第40回癌免疫外科研究会，金沢，5/2019

30　森　佳織，沼田正勝，青山　徹，澤崎　翔，**公盛啓介**，前澤幸男，虫明寛行，玉川　洋，益田宗孝，利野　靖：IgG4 関連疾患を合併した盲腸癌に対し腹腔鏡下回盲部切除を行った一例．第40回癌免疫外科研究会，金沢，

5/2019

31　中村一博，**尾形高士**：食道癌手術後反回神経麻痺症例の社会復帰のための音声機能改善手術．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

32　**尾形高士**：座長．一般演題ポスター 122，第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

33　青山　徹，前澤幸男，**神尾一樹**，佐藤　勉，沼田正勝，利野　靖：10年間の食道粘膜下腫瘍経過観察中に発生した食道癌の一例．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

34　前澤幸男，青山　徹，**神尾一樹**，**山田貴允**，玉川　洋，佐藤　勉，**大島　貴**，益田宗孝，利野　靖：当科での経縦隔下食道癌根治術の導入と短期成績．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

35　**神尾一樹**，**尾形高士**，青山　徹，**山田貴允**，玉川　洋，佐藤　勉，吉川貴己，利野　靖，益田宗孝，**大島　貴**：食道癌術後感染症合併症が予後に与える悪影響は、術前化学療法の奏効より相殺される．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

36　佐藤　勉，前澤幸男，青山　徹，林　勉，**山田貴允**，玉川　洋，**大島　貴**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：Clinical outcome of salvage esophagectomy after definitive chemoradiotherapy．第73回日本食道学会学術集会，福岡，2019．6

37　**山田貴允**，長澤伸介，中園真聡，**下田陽太**，原　健太朗，**熊頭勇太**，林　勉，利野　靖，**尾形高士**，**大島　貴**：早期食道胃接合部線癌に対する腹腔鏡補助下噴門側胃切除術後再建の工夫．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

38　長澤伸介，**尾形高士**，原　健太朗，**下田陽太**，中園真聡，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，利野　靖，**大島　貴**：食道癌の横断面による壁在性は術後の無再発生存に影響する．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

39　**下田陽太**，**尾形高士**，林　勉，原　健太朗，中園真聡，長澤伸介，**熊頭勇太**，**山田貴允**，土田明彦，**大島　貴**：食道癌に対する術前化学療法後血清プレアルブミン値と術後長期成績．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

40　林　勉，**尾形高士**，安田茂雄，原　健太朗，長澤伸介，中園真聡，**下田陽太**，**熊頭勇太**，**山田貴允**，**大島　貴**：早期食道癌に対する重粒子線治療後遠隔期局所再発症例に対して救済手術を施行した１例．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

41　**尾形高士**，**下田陽太**，長澤伸介，中園真聡，原　健太朗，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，**大島　貴**：食道癌手術症例における頭頸部重複がん治療戦略とスクリーニング．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

42　**熊頭勇太**，長谷川慎一，林　勉，**山田貴允**，原　健太朗，**下田陽太**，長澤伸介，中園真聡，**尾形高士**，**大島　貴**：食道癌胃接合部癌手術の合併書リスク因子の検討．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

43　中村一博（日本大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野），**尾形高士**，：食道癌手術後反回神経麻痺症例の社会復帰のための音声機能改善手術．第73回日本食道学会学術集会，福岡，6/2019

44　田中優作，**渡邊勇人**，國崎主税，佐藤　渉，佐藤　圭，宮本　洋，大佛智彦，武田和永，小坂隆司，秋山浩利，遠藤　格；胃癌患者の化学療法に伴う倦怠感に対するL-カルニチンの有用性の検討．第28回日本癌病態治療研究会，川越，6/2019

45　**渡邊勇人**，國崎主税，田中優作，佐藤　渉，佐藤　圭，宮本　洋，大佛智彦，湯川寛夫，遠藤　格，利野　靖，益田宗孝；胃癌患者の化学療法に伴う倦怠感に対するL-カルニチンの有用性の検討．第28回日本癌局所療法研究会，岡山，6/2019（主題）

46　**尾形高士**，**下田陽太**，長澤伸介，中園真聡，原　健太朗，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，**大島　貴**：食道癌術後縫合不全に対する細径内視鏡を用いた経鼻経瘻孔膿瘍ドレナージ．第44回日本外科系連合学会学術集会，金沢，6/2019（ビデオシンポジウム）

47　吉川貴己，林　勉，青山　徹，**山田貴允**；胃癌周術期の栄養管理．第44回日本外科系連合学会学術集会，金沢，6/2019（ワークショップ）

48　青山　徹，林　勉，佐藤　勉，**山田貴允**，長　晴彦，**尾形高士**，吉川貴己：第三相試験臨床試験の登録症例での腹腔鏡下幽門側胃切除と開腹幽門側胃切除の術後体組成変化の比較．第56回日本外科代謝栄養学会，神戸，2019．6（一般演題）

49　**大島　貴**；胃癌に対する薬物療法―現状とこれからの治療戦略―．第74回日本消化器外科学会学術集会，品川，7/2019（ランチョンセミナー）

50　**大島　貴**，木村弥生，大上直秀，林　勉，**山田貴允**，**尾形高士**，利野　靖，益田宗孝，安井　弥，宮城洋平：リキッドバイオプシーを用いた局所進行胃癌の高度リンパ節転移に対する新規補助診断法の開発．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019．（ワークショップ）

51　**大島　貴**；座長．消化管外科領域における新規バイオマーカー２（下部）．第74回日本消化器外科学会学術集会，品川，7/2019（主題関連演題）

52　長澤伸介，**尾形高士**，原　健太郎，**下田陽太**，中園真聡，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，利野　靖，**大島　貴**：食道癌の横断面による壁在性は術後の無再発生存に影響する．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019．

53　前澤幸男，青山　徹，沼田正勝，**山田貴允**，玉川　洋，佐藤　勉，**大島　貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖，当院での胃癌に対するロボット支援下手術と腹腔鏡下手術における短期成績の比較．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019．

54　原　健太朗，**山田貴允**，**下田陽太**，中園真聡，長澤伸介，**熊頭勇太**，林　勉，利野　靖，**尾形高士**，**大島　貴**：胃

癌周術期のSystemic inflammation score と予後の関係．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

55　**熊頭勇太**，大庭幸治，林　勉，原　健太朗，**下田陽太**，長澤伸介，中園真聡，**山田貴允**，**尾形高士**，**大島　貴**：胃癌における手術の待機時間は長期生存に影響を与えるか? 第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

56　林　勉，原　健太朗，**下田陽太**，中園真聡，長澤伸介，**熊頭勇太**，**山田貴允**，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：術中大量出血と術後感染性合併症が長期成績に与える影響．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.（要望演題）

57　利野　靖，前澤幸男，佐藤　勉，玉川　洋，青山　徹，湯川寛夫，**山田貴允**，**尾形高士**，**大島　貴**，益田宗孝：経縦隔経路での胸部食道癌手術での工夫について．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

58　**下田陽太**，原　健太朗，長澤伸介，中園真聡，**熊頭勇太**，林　勉，**山田貴允**，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：Conversion Surgery によって長期生存が期待できるStage Ⅳ胃癌症例の検討．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

59　**山田貴允**，**熊頭勇太**，長澤伸介，中園真聡，原　健太朗，**下田陽太**，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，**大島　貴**：腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の修練開始前の腹腔鏡手術経験数は術後合併症発生に影響するか．第74回日本消化器外科学会総会，東京，2019，7.

60　佐藤純人，塩澤　学，菅野伸洋，風間慶祐，片岡幸三，森永聡一郎，**大島　貴**，利野　靖，益田宗孝：回結腸動静脈周囲の郭清範囲縮小は腹腔鏡下手術でどこまで許容されるのか．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

61　神谷真梨子，山本直人，四元宏和，井上広英，塩澤　学，**大島　貴**，湯川寛夫：2、利野　靖：2、益田宗孝：2、森永聡一郎：1．膵癌根治切除術後の再発形式と予後の検討．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

62　佐藤　勉，前澤幸男，青山　徹，沼田正勝，山田貴允，玉川　洋，**大島　貴**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：根治的放射線化学療法後の食道癌サルベージ手術の治療成績．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

63　中園真聡，林　勉，原　健太朗，**下田陽太**，長澤伸介，**熊頭勇太**，**山田貴允**，利野　靖，**尾形高士**，**大島　貴**：胃癌術後補助化学療法による術後エネルギー摂取量への影響；食物摂取頻度調査票（FFQW82）を用いた検討．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

64　**神尾一樹**，**大島　貴**，坂巻顕太郎，青山　徹，**山田貴允**，玉川　洋，**尾形高士**，吉川貴己，利野　靖，益田宗孝：根治的胃切除術とS-1補助化学療法を受けたStage Ⅱ/Ⅲ胃癌におけるESM-1発現の臨床的意義．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

65　青山　徹，神谷真梨子，山本直人，沼田正勝，玉川　洋，**大島　貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖，森永聡一郎：膵頭十二指腸切除症例に対するEnhanced Recovery after Surgery プログラム導入の安全性と忍容性の検討．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

66　**渡邊勇人**，國崎主税，田中優作，佐藤　渉，佐藤　圭，宮本　洋，大佛智彦，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：pStageⅡ/Ⅲ食道癌術後の予後規定因子の解析からみた治療戦略～術後感染合併症との観点から～．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

67　朱　美和，沼田正勝，**公盛啓介**，前澤幸男，澤崎　翔，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，利野　靖，益田宗孝：狭窄性非閉塞性大腸癌に対するアルゴリズム管理の有用性．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

68　**公盛 啓介**，青山　徹，朱　美和，前澤幸男，澤崎　翔，沼田正勝，玉川　洋，佐藤　勉，利野　靖，益田宗孝：80歳以上の高齢者胃癌における臨床病理学的特徴の検討．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

69　**大島　貴**；リキッドバイオプシーを用いたStageⅢ局所進行胃癌における高度リンパ節転移の術前補助診断法の構築．第27回日本がん検診・診断学会総会，新横浜，8/2019（シンポジウム）

70　**神尾一樹**；胃上部胃癌に対する術中内視鏡を併用した腹腔鏡下胃亜全摘術（極小残胃の幽門側胃切除術）の手技．第54回神奈川胃癌治療研究会，横浜，9/2019

71　鈴木章浩，垣内美和子，田頭　周，河村大輔，加藤洋人，山本尚吾，辰野健二，**大島　貴**，深山正久，利野　靖，中島　淳，石川俊平，油谷浩幸；CDH1の生殖細胞変質はアジア人の胃癌の遺伝学的素因となる．第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019.（cancer genome/genetics）

72　鵜飼翔一，坂本直也，本間りりの，**大島　貴**，谷山大樹，高島剛志，仙谷和弘，大上直秀，安井　弥；5-Fu耐性胃がんオルガノイドの樹立及びその解析．第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019.（Cancer stem cell）

73　風間慶祐，塩澤　学，内山　譲，加藤　綾，佐藤純人，菅野伸洋，沼田正勝，青山　徹，玉川　洋，湯川寛夫，**大島　貴**，利野　靖，益田宗孝；実臨床におけるFOLEOXIRI＋Bevacizumabの治療成績と今後の課題．第74回日本大腸肛門病学会学術集会．東京，10/2019（ワークショップ）

74　佐藤純人，塩澤　学，菅野伸洋，加藤　綾，内山　譲，風間慶祐，**大島　貴**，利野　靖，益田宗孝；大腸癌多発肺肝転移に対し手術、化学療法およびラジオ波焼灼療法の集学的治療で長期CRを得られた1例．第74回日本大腸肛門病学会学術集会．東京，10/2019（一般演題ポスター）

75　渡辺卓央，渡邉　純，井上　栞，**渡邊勇人**，福岡宏倫，浅利昌大，柿添　学，諏訪宏和，樅山将士，石部敦士，虫明寛行，湯川寛夫，武田和永，太田貢由，利野　靖，國崎主税，遠藤　格，益田宗孝；直腸癌術後局所再発症例の治療成績．第74回日本大腸肛門病学会学術集会．東

京，10/2019（一般演題口演）

76　朱　美和，沼田正勝，**公盛啓介**，澤崎　翔，青山　徹，玉川　洋，利野　靖：狭窄性非閉塞性大腸癌に対するアルゴリズム管理．第74回日本大腸肛門病学会学術集会，東京，10/2019.

77　**渡邊勇人**，渡邊　純，井上　栞，福岡宏倫，浅利昌大，渡辺卓央，柿添　学，諏訪宏和，樅山将士，石部敦士，虫明寛行，湯川寛夫，武田和永，太田貢由，利野　靖，國崎主税，遠藤　格，益田宗孝；大腸癌手術における一時的回腸人工肛門の周術期成績と合併症の検討．第74回日本大腸肛門病学会学術集会．東京，10/2019（要望演題）

78　井上　栞，渡邉　純，千田圭悟，**渡邊勇人**，福岡宏倫，浅利昌大，渡辺卓央，柿添　学，諏訪宏和，樅山将士，石部敦士，虫明寛行，湯川寛夫，武田和永，太田貢由，國崎主税，遠藤　格；腹腔鏡下大腸手術における表層SSIの発生頻度とリスク因子の検討．第74回日本大腸肛門病学会学術集会．東京，10/2019（シンポジウム）

79　**尾形高士**，**下田陽太**，**神尾一樹**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**藤川寛人**，**山田貴允**，**大島　貴**：食道癌手術周術期管理に必要なNST/管理栄養士の関わりについて．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.（ワークショップ）

80　**山田貴允**，**熊頭勇太**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**下田陽太**，利野靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：修練開始前の腹腔鏡手術経験数は、腹腔鏡下幽門側胃切除の短期成績に影響するか．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.（要望演題）

81　**下田陽太**，**公盛啓介**，**渡邉勇人**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，**山田貴允**，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：当科における傍大動脈リンパ節郭清を伴う胃切除術の手技と成績．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

82　**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**公盛啓介**，**下田陽太**，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：胃癌に対する幽門側胃切除の再建術式によるエネルギー摂取量の変化：食物摂取頻度調査票（FFQW82）による検討．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

83　渥美陽介，利野　靖，田邉美恵，原　健太朗，風間慶祐，沼田正勝，青山　徹，玉川　洋，湯川寛夫，**大島　貴**，益田宗孝：胃癌術後患者において術前BMIは術後骨密度低下率と相関する．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

84　山本直人，村川正明，神谷真梨子，上岡祐人，渥美陽介，**山田貴允**，**尾形高士**，**大島　貴**，塩澤　学，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：膵頭十二指腸切除術における腸瘻チューブ留置の安全性に関する検討．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

85　**大島 貴**，木村弥生，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，**山田貴允**，山本直人，塩澤　学，森永聡一郎，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，宮城洋平：リキッドバイオプシーを用いた局所進行胃癌の高度リンパ節転移に対する補助診断法の開発．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.（主題関連演題）

86　**藤川寛人**，末松秀明，風間慶祐，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**神尾一樹**，**山田貴允**，**尾形高士**，**大島　貴**，利野 靖，益田宗孝：原発巣切除後に肝転移巣の自然退縮を認めたAFP産生胃癌の１例．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

87　**神尾一樹**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**熊頭勇太**，**藤川寛人**，**利野　靖**，**益田宗孝**，**尾形高士**，**大島　貴**：75歳以上の高齢者に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の検討．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

88　**公盛啓介**，**神尾一樹**，**渡邉勇人**，**下田陽太**，**藤川寛人**，**山田貴允**，**利野　靖**，**益田宗孝**，**尾形高士**，**大島　貴**：腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行したpN+，pStageⅡ，Ⅲ胃癌症例の検討．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

89　**大島　貴**：胃癌：症例報告２．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019．座長（ポスター）

90　神谷真梨子，山本直人，上岡祐人，四元宏和，井上広英，村川正明，**大島　貴**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎，当院で経験した膵腺扁平上皮癌の臨床病理学的特徴―膵腺癌との比較：第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

91　青山　徹，**神尾一樹**，前澤幸男，山田貴允，玉川　洋，吉川貴己，益田宗孝，利野　靖，尾形高士，**大島　貴**:「腫瘍細胞/間質細胞」比の胃癌における臨床病理学的役割．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

92　**下田陽太**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邉勇人**，**神尾一樹**，**熊頭勇太**，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：ステージ４胃癌に対するConversion Surgeryの予後因子．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

93　山本直人，村川正明，神谷真梨子，上岡祐人，渥美陽介，青山　徹，**山田貴允**，**大島　貴**，塩澤学，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：浸潤性膵管癌StageⅠ症例の治療成績．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

94　**尾形高士**，**下田陽太**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**熊頭勇太**，**山田貴允**，**大島　貴**：切除困難が予想される食道癌のコンバージョン手術について．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

95　**公盛啓介**，青山　徹，**神尾一樹**，原　健太朗，渥美陽介，前澤幸男，沼田正勝，**山田貴允**，玉川　洋，佐藤　勉，**尾形高士**，**大島　貴**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：高齢者に対する胃切除術の安全性と忍容性．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

96　末松秀明，**藤川寛人**，玉川　洋，**大島　貴**，利野　靖，益田宗孝：完全鏡視下胃切除術における術中Ｘ線透視による胃切離線の決定法．第57回日本癌治療学会学術集会，

福岡，10/2019.

97　原　健太朗，青山　徹，**下田陽太**，**熊頭勇太**，沼田正勝，**山田貴允**，玉川　洋，山本直人，塩澤　学，森永聡一郎，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，大島　貴：胃癌術後のD-dimer 上昇と術後再発・生存の関係．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

98　**神尾一樹**，**尾形高士**，**下田陽太**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**熊頭勇太**，青山　徹，**山田貴允**，玉川　洋，長　晴彦，湯川寛夫，吉川貴己，利野　靖，益田宗孝，**大島　貴**：食道癌術後感染性合併症の予後悪化の影響は術前化学療法の治療効果によって抑止できる．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

99　**渡邊勇人**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**神尾一樹**，**下田陽太**，**熊頭勇太**，**尾形高士**，**大島　貴**，利野　靖，益田宗孝：胃癌に対するニボルマブ治療のおける根治リンパ節郭清を伴う胃切除の効果．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

100　**山田貴允**，林　勉，井口靖弘，**熊頭勇太**，**下田陽太**，長澤伸介，中園真聡，原　健太郎，林　公博，仲ありさ，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：胃がんニボルマブ療法における治療前の好中球リンパ球数比の重要性．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

101　渥美陽介，青山　徹，玉川綾子，玉川　洋，朱　美和，**公盛啓介**，前澤幸男，**神尾一樹**，風間慶祐，村川正明，沼田正勝，佐藤　勉，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：食道癌患者における術後肺炎が長期予後に与える影響．第57回日本癌治療学会学術集会抄録集，福岡，10/2019.

102　高橋雅信，加藤　健，岡田守人，陳　勁松，門脇重憲，浜本康夫，土岐祐一郎，久保田祐太郎，川上尚人，**尾形高士**，原　浩樹，武藤　学，中島雄一郎，北川雄光：食道がんに対するニボルマブの開発状況について．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

103　**大島　貴**，吉川貴己，森田智視，円谷　彰，吉田和弘，木村弥生，利野　靖，益田宗孝７、宮城洋平，坂本純一：局所進行胃癌に対するバイオマーカーを用いた術前・術後補助化学療法の個別化治療．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.（シンポジウム）

104　**下田陽太**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**；Stage 4 胃癌に対するコンバージョン手術における予後因子．第49回胃外科・術後障害研究会，鹿児島，10/2019（シンポジウム）

105　**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**公盛啓介**，**下田陽太**，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**；胃癌に対する胃全摘のアプローチによるエネルギー摂取量の変化：食物摂取頻度調査票（FFQW82）による検討．第49回胃外科・術後障害研究会，鹿児島，10/2019（要望演題）

106　前澤幸男，青山　徹，玉川　洋，土田知史，**尾形高士**，長　晴彦，**大島　貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖；胃癌治癒切除後における術後感染症合併症の長期成績への影響．第49回胃外科・術後障害研究会，鹿児島，10/2019

107　**公盛啓介**，**神尾一樹**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**；胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術，D2 郭清の当院における成績．第49回胃外科・術後障害研究会，鹿児島，10/2019

108　**神尾一樹**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**藤川寛人**，**尾形高士**，**大島　貴**；胃上部胃癌に対する術中内視鏡を併用した腹腔鏡下胃亜全摘術の手技．第49回胃外科・術後障害研究会，鹿児島，10/2019（ワークショップ）

109　玉川　洋，青山　徹，沼田正勝，原　健太朗，渥美陽介，風間慶祐，**公盛啓介**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝；80歳以上の高齢者胃癌における臨床病理学的特徴の検討．第49回胃外科・術後障害研究会，鹿児島，10/2019（要望演題）

110　**大島　貴**；座長，小腸４．JDDW 2019 KOBE，神戸 11/2019（デジタルポスターセッション）

111　Aoyama T, Hayashi T, Sato T, **Yamada T**, **Ogata T**, Cho H, Yoshikawa T: Equivalent feasibility and safety of perioperative care by ERAS in open and laparoscopy-assisted distal gastrectomy for gastric cancer: A single-institution ancillary study using the patient cohort enrolled in the JCOG0912 phase Ⅲ trial. JDDW 2019 KOBE, 神戸, 11/2019. (International Poster Session)

112　井上　栞，渡邉　純，**渡邊勇人**，福岡宏倫，渡辺卓央，柿添　学，諏訪宏和，樅山将士，鈴木紳祐，石部敦士，虫明寛行，湯川寛夫，武田和永，太田貢由，國崎主税，遠藤　格；抗血小板薬継続下での腹腔鏡下大腸切除術の安全性の検討．JDDW 2019 KOBE，神戸，11/2019（デジタルポスターセッション）

113　利野　靖，玉川綾子，青山　徹，玉川　洋，朱　美和，**公盛啓介**，前澤幸男，**神尾一樹**，風間慶祐，渥美陽介，村川正明，澤崎　翔，沼田正勝，佐藤　勉，湯川寛夫，益田宗孝；食道癌の生存と再発に対する術後肺炎の影響．JDDW 2019 KOBE，神戸，11/2019（デジタルポスターセッション）

114　佐藤純人，塩澤　学，菅野伸洋，風間慶祐，加藤　綾，内山　譲，森永聡一郎，**大島　貴**，利野　靖，益田宗孝；中結腸根リンパ節（No223）転移を伴う結腸癌の治療成績．JDDW 2019 KOBE，神戸，11/2019（デジタルポスターセッション）

115　渡辺卓央，渡邉　純，井上　栞，**渡邊勇人**，福岡宏倫，浅利昌大，柿添　学，諏訪宏和，樅山将士，石部敦士，虫明寛行，湯川寛夫，武田和永，太田貢由，利野　靖，國崎主税，遠藤　格，益田宗孝；pT1 大腸癌内視鏡治療後、追加外科切除症例の検討．JDDW 2019 KOBE，神戸，

11/2019（デジタルポスターセッション）

116 **渡邊勇人**，渡邉　純，井上　栞，福岡宏倫，浅利昌大，渡辺卓央，柿添　純，諏訪宏和，樅山将士，石部敦士，虫明寛行，湯川寛夫，武田和永，太田貢由，利野　靖，國崎主税，遠藤　格，益田宗孝；結腸癌における機能的端端吻合（FEEA）前の近赤外光観察を用いた腸管血流評価の検討．JDDW 2019 KOBE，神戸，11/2019（デジタルポスターセッション）

117 **神尾一樹**，**尾形高士**，前澤幸男，青山　徹，林　勉，**山田貴允**，玉川　洋，佐藤　勉，利野　靖，益田宗孝，大島　貴；食道癌術後感染性合併症の再発リスクは術前化学療法の治療効果によって抑止される．JDDW 2019 KOBE，神戸，11/2019（デジタルポスターセッション）

118 A. Suzuki, M. Kakiuchi, A. Tagashira, H. Kato, D. Komura, S. Yamamoto, K. Tatsino, E. Sakai, **T. Oshima**, Y. Rino, A. Nakajima, M. Fukuyama, S. Ishikawa, H. Aburatani; Defined Lifestyle and Germline Fators Predispose AsianPopulations to Gastric Cancer．JDDW 2019 KOBE, 神 戸，11/2019（International Poster Session）

119 柿添　学，渡邉　純，井上　栞，**渡邊勇人**，福岡宏倫，浅利昌大，鈴木紳祐，渡辺卓央，諏訪宏和，樅山将士，石部敦士，武田和永，虫明寛行，湯川寛夫，太田貢由，國崎主税，遠藤　格；術前MRIによる直腸CRM予測の妥当性と前治療による予測距離変化の検討．JDDW 2019 KOBE, 神戸, 11/2019（デジタルポスターセッション）

120 **尾形高士**，**下田陽太**，**神尾一樹**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**藤川寛人**，**山田貴允**，**大島　貴**；がん専門病院におけるNST ／管理栄養士の役割〈チーム医療への係わり〉．第22回神奈川NSTフォーラム，横浜，11/2019（一般演題）

121 **神尾一樹**，**尾形高士**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，熊頭勇太，**藤川寛人**，**山田貴允**，**大島　貴**：食道癌術後感染症合併症が除脂肪体重に与える影響．第32回日本外科感染症学会総会学術集会，ギル，11/2019（ポスター）

122 渥美陽介, 利野　靖, 田邊美恵, 原　健太朗, 風間慶祐, 沼田正勝，青山　徹，玉川　洋，湯川寛夫，**大島　貴**，益田宗孝；胃癌術後患者において術前BMIは術後骨密度低下率と相関する．第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 11/2019

123 **神尾一樹**，**尾形高士**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**熊頭勇太**，**藤川寛人**，**山田貴允**，**大島　貴**：食道癌術後感染性合併症が除脂肪体重に与える影響．32回日本外科感染症学会総会，岐阜，2019，11．

124 **山田貴允**：Mini Oral 6　胃・十二指腸悪性　症例１司会．第32回日本内視鏡外科学会総会，横浜，12/2019

125 **渡邊勇人**，**神尾一樹**，**公盛啓介**，**下田陽太**，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**；胃癌に対する胃全摘のアポローチによるエネルギー摂取量の変化：食物摂取頻度調査票（FFQW82）による検討．第32回日本内視鏡外科学会総会，横浜，12/2019

126 **神尾一樹**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**熊頭勇太**，**藤川寛人**，青山　徹，玉川　洋，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**；胃上部胃癌に対する術中内視鏡を併用した腹腔鏡下亜全摘術の手技．第32回日本内視鏡外科学会総会，横浜，12/2019

127 **公盛啓介**，**神尾一樹**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**；胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術、D2郭清の当院における成績．第32回日本内視鏡外科学会総会，横浜，12/2019

128 **山田貴允**，**熊頭勇太**，**下田陽太**，**神尾一樹**，**渡邊勇人**，**公盛啓介**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**；腹腔鏡手術経験数は腹腔鏡下幽門側胃切除の短期成績に影響するか．第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜，12/2019

129 **下田陽太**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，**尾形高士**，**大島　貴**；当科における早期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘の再建手技と成績．第32回日本内視鏡外科学会総会，横浜，12/2019

130 前澤幸男，青山　徹，**公盛啓介**，原　健太朗，**神尾一樹**，沼田正勝，**山田貴允**，玉川　洋，土田知史，佐藤　勉，長　晴彦，**大島　貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：当院での胃癌に対するロボット支援下手術と従来型腹腔鏡下手術における短期成績の検討．第32回日本内視鏡外科学会総会，横浜，12/2019

131 **下田陽太**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：当科における早期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術の再建手技と成績．第16回日本消化管学会総会学術集会, 兵庫，2/2020.

海外学会：筆頭演者

1 **T. Yamada**, Y. Kumazu, M. Nakazono, K. Hara, S. Nagasawa, **Y. Shimoda**, T. Hayasyi, Y. Rino, M. Masuda, M. Shiozawa, S. Morinaga, **T. Ogata**, **T. Oshima**：The feasibility and safety of laparoopy-assisited distal gastrectomy performed by trainee supervised by a technically qualified surgeon．IGCC 2019, Prague, Czech Republic, May 5-8/2019.

2 **Y. Shimoda**, **T. Yamada**, K. Hara, S. Nagasawa, M. Nakazono, **Y. Kumazu**, M. Shiozawa, S. Morinaga, T. Hayashi, K. Katsumata, A. Tsuchida, **T. Ogata**, **T. Oshima**：Prognostic factors of conversion surgery for unresectable gastric cancer．IGCC 2019, Prague, Czech Republic, May 5-8/2019.

3 **T. Ogata**, **Y. Shimoda**, S. Nagasawa, M. Nakazono, K. Hara, **Y. Kumazu**, T. Hayashi, **T. Yamada**, **T. Oshima**：Evaluation of prognostic factors after esophagectomy in which preoperative chemotherapy was successful.

ASCO 2019, Chicago Illinois, May 31-June 4/2019.

4 **K. Kano**, **Keisuke Koumori**, **Hayato Watanabe**, **Yota Shimoda**, **Hirohito Fujikawa**, **Takanobu Yamada**, Yasushi Rino, Munetaka Masuda, **Takashi Ogata**, **Takashi Oshima**: :Neoadjuvant chemotherapy can eliminate the negative impact of postoperative infections complications recurrence in patients with esophageal cancer ESMO Congress 2019 Barcelona Spain, Spt 27- Oct 24/2019

5 **H. Fujikawa**, **T. Yamada**, **K. Koumori**, **H. Watanabe**, **K. Kano**, **Y. Shimoda**, Y. Rino, M. Masuda, **T. Ogata**, **T. Oshima**：The clinical prognostic significance of lymphovascular invasion in gastric cancer. 2020 ASCO-GI. San Francisco USA, January 23-25/2020.

6 **T. Yamada**, H. Murakami, M. Taguri, S. Hasegawa, T. Yamanaka, Y. Rino, H. Mushiake, **T. Oshima**, H. Matsukawa, K. Tani, Y. uzuki, Y. Ozawa, H. Tanabe, T. Sato, H. Tamagawa, N. Yukawa, T. Yoshikwa, T. Imada, M. Masuda, Y. Y amamoto: The short-term outcomes from TOP-G trial:Ramdomised phase 2 noninferiority trial comparing gastrectomy with omentectomy and omentum preserving gastrectomy for advanced gastric cancer. 2020 ASCO-GI. San Francisco USA, January 23-25/2020.

7 **H. Watanabe**, T. Hayashi, **K. Koumori**, **K. Kano**, **Y. Shimoda**, **H. Fujikawa**, **T. Yamada**, Y. Rino, M. Masuda, **T. Ogata**, **T. Oshima**: I mpact of postoperative complications on recurrence in pathological stage Ⅱ/Ⅲ gastric cancer patients who received curative resection followed by adjuvant S-1 chemotherapy. 2020 ASCO-GI. San Francisco USA, January 23-25/2020.

8 **Keisuke Komori**, **Kazuki Kano**, **Hayato Watanabe**, **Yota Shimoda**, **Hirohito Fujikawa**, **Takanobu Yamada**, Yasushi Rino, Munetaka Masuda, **Takashi Ogata**, **Takashi Oshima**: Impact of intraoperative staging of gastric cancer on long-term survival. 2020 ASCO-GI. San Francisco USA, January 23-25/2020.

9 Katai H, Mizusawa J, Katayama H, Morita S, **Yamada T**, Bando E, Misawa K, Takagi M, Takagane A, Teshima S, Koeda K, Nunobe S, Yoshikawa T, Terashima M, Sasako M. Randomized phase Ⅲ trial of laparoscopy-assisted versus open distal gastrectomy with nodal dissection for clinical stage I A/ I B gastric cancer (JCOG0912). 2019 The American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, Chicago, 5/2019

10 Tokunaga M, Kurokawa Y, Doki Y, Machida R, Takiguchi S, Sato Y, Katai H, Fukushima N, Nishida Y, Cho H, **Yamada T**, Kaji M, Fujita J, Boku N, Yoshikawa T, Terashima M. The impact of postoperative complications on survival outcomes in patients with cT3/4a gastric cancer. 2019 The American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, Chicago, 5/2019

消化器外科（大腸）

発表論文

1 **Sato S**, Sekine R, Kagoshima H, Kazama K, **Kato A**, **Shiozawa M** and Tanaka J: All-in-one Raman spectroscopy approach to diagnosis of colorectal cancer: analysis of spectra in the fingerprint regions. Journal of The Anus Rectum and Colon, 3(2): 84-90, 2019.

2 **Sato S**, **Shiozawa M**, **Uchiyama M**, **Sugano N**, Rino Y, Masuda M: Correlation between endoscopic features of the anastomosis after low anterior resection and postsurgical anorectal function. Journal of Gastrointestinal Oncology, 10(2): 188-193, 2019.

3 Numata M, Sawazaki S, Aoyama T, Tamagawa H, Sato T, Saeki H, Saigusa Y, Taguri M, Mushiake H, Oshima T, Yukawa N, **Shiozawa M**, Rino Y, Masuda M: D3 lymph node dissection reduces recurrence after primary resection for elderly patients with colon cancer. International Journal of Colorectal Disease, 34(4): 621-628, 2019.

4 Yamada T, Kumazu Y, Nakazono M, Hara K, Nagasawa S, Shimoda Y, Hayashi T, Rino Y, Masuda M, **Shiozawa M**, Morinaga S, Ogata T, Oshima T: Feasibility and safety of laparoscopy-assisted distal gastrectomy performed by trainees supervised by an experienced qualified surgeon. Surgical Endoscopy, 1-7, 2019.

5 Kataoka K, Ysebaert H, **Shiozawa M**, Reynders D, Ikeda M, Tomita N, Goetghebeur E, Ceelen W: Prognostic significance of number versus location of positive mesenteric nodes in stage iii colon cancer. European Journal of Surgical Oncology, 45: 1862-1869, 2019.

6 Numata M, Sawazaki S, Aoyama T, Tamagawa H, Godai T, Sato T, Saeki H, Saigusa Y, Taguri M, Mushiake H, Oshima T, Yukawa N, **Shiozawa M**, Masuda M, Rino Y: Laparoscopic surgery in patients diagnosed with clinical N2 colon cancer. Surgery Today, 49(6): 507-512, 2019.

7 Hara K, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Yamada T, Yamamoto N, **Shiozawa M**, Morinaga S, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: An easy and reliable method to close Petersen's defect using barbed suture to prevent internal hernia from developing after gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction. Asian

Journal of Endoscopic Surgery, 1-4, 2019.

8 Higuchi A, Aoyama T, Kazama K, Murakawa M, Atsumi Y, Katayama Y, Numata K, Sawazaki S, Numata M, **Sato S**, **Sugano N**, Tamagawa H, Mushiake H, Oshima T, Yukawa N, Morinaga S, Rino Y, Masuda M and **Shiozawa M**: Beppu's Nomogram Score Is an Independent Prognostic Factor for Colorectal Liver Metastasis Receiving Perioperative Chemotherapy and/or Targeted Therapy. In vivo, 33(4): 1301-1306, 2019.

9 Yoshino T, Yamanaka T, Oki E, Kotaka M, Manaka D, Eto T, Hasegawa J, Takagane A, Nakamura M, Kato T, Munemoto Y, Takeuchi S, Bando H, Taniguchi H, Gamoh M, **Shiozawa M**, Mizushima T, Saji S, Maehara Y, Ohtsu A, Mori M: Efficacy and Long-term Peripheral Sensory Neuropathy of 3 vs 6 Months of Oxaliplatin-Based Adjuvant Chemotherapy for Colon Cancer The ACHIEVE Phase 3 Randomized Clinical Trial. JAMA Oncology, 5(11): 1574-1581, 2019.

10 Hashimoto I, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, **Shiozawa M**, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y and Oshima T: Clinical Significance of PRKCI Gene Expression in Cancerous Tissue in Patients With Gastric Cancer. Anticancer Research, 39(10): 5715-5720, 2019.

11 Maezawa Y, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Kano K, Aoyama T, Hiroshima Y, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Cho H, **Shiozawa M**, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: High gamma-glutamyl hydrolase and low folylpolyglutamate synthetase expression as prognostic biomarkers in patients with locally advanced gastric cancer who were administrated postoperative adjuvant chemotherapy with S-1. Journal of Cancer Research and Clinical Oncology, 2019.

12 Kobayashi T, Baghdadi M, Han N, Murata T, Hama N, Otsuka R, Wada H, **Shiozawa M**, Yokose T, Miyagi Y, Takano A, Daigo Y and Seino K: Prognostic value of IL-34 in colorectal cancer patients. Immunological Medicine, 1-7, 2019.

13 Oneyama M, Sakamoto N, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Fujikawa H, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Yukawa N, **Shiozawa M**, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Yasui W, Oshima T: Clinical Significance of KIAA1199 as a Novel Target for Gastric Cancer Drug Therapy. Anticancer Research, 39(12): 6567-6573, 2019.

14 Hara K, Aoyama T, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, **Shiozawa M**, Morinaga S, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T : Postoperative D-dimer elevation affects tumor recurrence and the long-term survival in gastric cancer patients who undergo gastrectomy. International Journal of Clinical Oncology, 2019.

15 Numata K, Katayama Y, Sawazaki S, Higuchi A, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, **Shiozawa M**: Utility of Preoperative Imaging for Predicting Pelvic Lateral Lymph Node Metastasis in Lower Rectal Cancer. Indian Journal of Surg Oncology, 10(4): 582-586, 2019.

16 Yamada T, Kumazu Y, Nakazono M, Hara K, Nagasawa S, Shimoda Y, Hayashi T, Rino Y, Masuda M, **Shiozawa M**, Morinaga S, Ogata T, Oshima T: Feasibility and safety of laparoscopy-assisted distal gastrectomy performed by trainees supervised by an experienced qualified surgeon. Surgical Endoscopy, 34(1): 429- 435, 2020.

17 Maezawa Y, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Kano K, Aoyama T, Hiroshima Y, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Cho H, **Shiozawa M**, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: High gamma-glutamyl hydrolase and low folylpolyglutamate synthetase expression as prognostic biomarkers in patients with locally advanced gastric cancer who were administrated postoperative adjuvant chemotherapy with S-1. Journal of Cancer Research and Clinical Oncology, 146(1): 75-86, 2020.

18 Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, Hiroshima Y, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, **Shiozawa M**, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo, 34(1): 461-467, 2020.

19 Kazama K, Otake J, Satoyoshi T, **Shiozawa M**, **Sugano N**, **Sato S**, Atsumi Y, Kano K, Murakawa M, Maezawa Y, Hashimoto I, Numata M, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Sasada T, Masuda M: Distribution of Regulatory T-Cells and Other Phenotypes of T-Cells in Tumors and Regional Lymph Nodes of Colorectal Cancer Patients. In Vivo, 34(2): 849-856, 2020.

20 Hara K, Aoyama T, Yamada T, Nakazono M,

Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Numata M, Hayashi T, Tamagawa H, **Shiozawa M**, Morinaga S, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: The Prognostic Value of the Perioperative Systemic Inflammation Score for Patients With Advanced Gastric Cancer. Anticancer Research, 40(3): 1503-1512, 2020.

21 Watanabe H, Hayashi T, Komori K, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Shimoda Y, Fujikawa H, Aoyama T, Yamada T, Yamamoto N, Cho H, Ito H, **Shiozawa M**, Yukawa N, Morinaga S, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Impact of Postoperative Complications on Recurrence in Patients With Stage Ⅱ / Ⅲ Gastric Cancer Who Received Adjuvant Chemotherapy With S-1. Anticancer Research, 40(3): 1683-1690, 2020.

22 四元宏和，山本直人，神谷真梨子，井上広英，村川正明，青山　徹，沼田正勝，林　勉，山田貴允，大島　貴，**塩澤　学**，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：GEM+Nab-PTX療法で画像上肝転移が消失し根治切除が可能となった膵頭部癌の１例．癌と化学療法，46(1)：169-171，2019.

23 **内山　護**，**佐藤純人**，**塩澤　学**，**菅野伸洋**，**加藤　綾**，利野　靖，益田宗孝：腹腔鏡手術後の５mmポート孔に生じたヘルニア嵌頓の一例．横浜医学，70：123-127，2019.

24 小口　翼，山本弥生，阿武　和，吉田哲雄，**佐藤純人**，**塩澤　学**，**内山　護**：腹腔鏡下Ｓ状結腸切除後にポートサイトヘルニアを発症した１例．臨床放射線，64(9)：1181-1184，2019.

著書

1 **塩澤　学**，**菅野伸洋**，**佐藤純人**，**加藤　綾**，**内山護**，**岡本浩直**，**高村卓志**：右側結腸癌に対する郭清範囲 SMV左縁 vs SMA左縁 SMA左縁の立場から．消化器外科，へるす出版，42(9)：1369-1380，2019.

その他出版物

1 **塩澤　学**（監修），藤井理恵薫（監修），沼津りえ：手術後すぐから、普通の食事まで 大腸を切った人のための毎日おいしいレシピ200．学研プラス，164-187，2019.

2 **塩澤　学**，笹尾正人，田村哲郎：座談会　専門医が語る「大腸がん検査」の重要性　大腸がんに打ち勝とう，神奈川新聞，12-13，2019.

学会等発表

1 Takii Y, Mizusawa J, Kanemitsu Y, Komori K, **Shiozawa M**, Ohue M, Nishimura Y, Ikeda S, Takiguchi N, Kobatake T, Ike H, Sato T, Tomita N, Ota M, Masaki T: A randomized controlled trial of the conventional technique versus the no-touch isolation technique for primary tumor resection in patients with colon cancer: Primary analysis of Japan Clinical Oncology Group study JCOG1006. ASCO Annual Meeting, Chicago, 6/2019.

2 Nakamura Y, Yamashita R, Okamoto W, Narita Y, Komatsu Y, Kagawa Y, Takahashi N, Esaki T, Kato T, Sunakawa Y, Denda T, Nishina T, Takashima A, Kobayashi T, **Shiozawa M**, Oki E, Satoh T, Adachi Y, Odegaard J, Yoshino T: Genomic alterations after EGFR blockade in patients with RAS wild-type metastic colorectal cancer: Combined tissue and blood-based analysis from SCRUM-Japan GI-SCREEN and GOZILA. ASCO Annual Meeting, Chicago, 6/2019.

3 Ishikawa T, Oki E, Shinto E, Shimokawa M, Yamaguchi S, Ishiguro M, Hasegawa S, Takii Y, Ishida H, Kusumoto T, Morita M, Tomita N, **Shiozawa M**, Tanaka M, Ozawa H, Hashiguchi Y, Ohnuma S, Tada S, Matsushima T, Hase K: The 55 STAR study: Prognostic and predictive value of the 55-gene classifier (55GC) in stage Ⅲ colon cancer. ASCO Annual Meeting, Chicago, 6/2019.

4 Shida D, Kuchiba A, Shibata T, Hamaguchi T, Yamasaki S, Ito M, Kobatake T, Takiguchi N, Masaki T, **Shiozawa M**, Takii Y, Uetake H, Okamura S, Ojima H, Nishizawa Y, Takeyama H, Kanato K, Shimada Y, Murakami Y, Kanemitsu Y: The genomic landscape and its prognostic significance for stage Ⅲ colorectal cancer in Japan: An ancillary study of JCOG910 trial-JCOG1506A1. ASCO Annual Meeting, Chicago, 6/2019.

5 Sunakawa Y, Usher J, Jaimes Y, Tsuji A, **Shiozawa M**, Watanabe T, Satake H, Ota H, Kochi M, Ohori H, Manaka D, Matsuura M, Takeuchi M, Danenberg P, Fujii M, Ichikawa W, Lenz H, Danenberg K: Clinical verification of circulating tumor RNA (ctRNA) as novel pretreatment predictor and tool for quantitative monitoring of treatment response in metastatic colorectal cancer (mCRC): A biomarker study of the DEEPER trial. ASCO Annual Meeting, Chicago, 6/2019.

6 Takashima A, Miyamoto K, Sato Y, Okita N, **Shiozawa M**, Yamaguchi S, Inada R, Nishizawa Y, Ohue M, Takiguchi N, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura K, Shibata T, Fukuda H, Shimada Y, Kanemitsu Y, Hamaguch T: Efficacy of aspirin for stage Ⅲ colorectal cancer: A randomized double-blind placebo-controlled trial (JCOG1503C, EPISODE-Ⅲ trial). ASCO Annual Meeting, Chicago, 6/2019.

7 Taniguchi H, Yuki S, **Shiozawa M**, Masuishi T, Nishina T, Kagawa Y, Takahashi N, Yasui H, Denda T, Sunakawa Y, Yamazaki K, Esaki T, Kawakami H,

Kato T, Yoshida K, Takashima A, Ohmiya H, Nomura S, Ohtsu A, Yoshino T: Plasma VEGF-D and PlGF levels according to prior use of biologics among metastatic colorectal cancer: Preliminary results from GI-SCREEN CRC-Ukit study. Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 1/2020.

8　片岡幸三，寺田参省，**塩澤　学**，池田正孝，冨田尚裕，中村健一，金光幸秀，寺島雅典：アカデミア主導国際共同臨床試験における外科医の役割．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

9　沼田正勝，澤崎　翔，森　佳織，公盛啓介，前澤幸男，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，虫明寛行，**塩澤　学**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：確実な自律神経温存を目指したロボット支援下直腸授動～７ステップから成る定型化Ro-TME ～．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

10　中園真聡，林　勉，原　健太朗，下田陽太，長澤伸介，熊頭勇太，山田貴允，青山　徹，佐藤　勉，山本直人，利野　靖，益田宗孝，**塩澤　学**，森永聡一郎，尾形高士，大島　貴：胃切除後の合併症によるエネルギー摂取量の変化：経口摂取量調査票（FFQW82）による定量化．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

11　四元宏和，山本直人，神谷真梨子，井上広英，村川正明，青山　徹，沼田正勝，林　勉，山田貴允，尾形高士，大島　貴，**塩澤　学**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：膵神経内分泌腫瘍切除例の解析．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

12　大島　貴，木村弥生，渥美陽介，原　健太朗，中園真聡，長澤伸介，下田陽太，熊頭勇太，青山　徹，林　勉，山田貴允，玉川　洋，佐藤　勉，山本直人，湯川寛夫，**塩澤　学**，森永聡一郎，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，宮城洋平：リキッドバイオプシーを用いたStageⅢ局所進行胃癌における高度リンパ節転移補助診断法の構築．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

13　原　健太朗，青山　徹，下田陽太，中園真聡，長澤伸介，熊頭勇太，林　勉，山田貴允，佐藤　勉，**塩澤　学**，森永聡一郎，利野　靖，尾形高士，益田宗孝，大島　貴：胃癌術後のD-dimer上昇は長期予後予測因子となる．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

14　**菅野伸洋**，**塩澤　学**，**佐藤純人**，**加藤　綾**，**内山　護**，利野　靖，益田宗孝：当院におけるアフリベルセプトの使用経験．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

15　山本直人，村川正明，神谷真梨子，井上広英，四元宏和，青山　徹，沼田正勝，山田貴允，林　勉，佐藤　勉，尾形高士，大島　貴，**塩澤　学**，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：根治切除が行われた肝内胆管癌の予後因子の検討．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

16　神谷真梨子，山本直人，四元宏和，井上広英，村川正明，青山　徹，沼田正勝，林　勉，山田貴允，佐藤　勉，尾形高士，大島　貴，湯川寛夫，**塩澤　学**，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：短期・長期成績からみた膵全摘術の妥当性．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

17　熊頭勇太，林　勉，山田貴允，原　健太朗，下田陽太，中園真聡，長澤伸介，**塩澤　学**，森永聡一郎，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，大島　貴：リンパ節転移陰性胃癌患者におけるリンパ節郭清・検査個数による予後への影響．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

18　山田貴允，熊頭勇太，原　健太朗，下田陽太，中園真聡，長澤伸介，青山　徹，林　勉，佐藤　勉，山本直人，**塩澤　学**，森永聡一郎，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，大島　貴：技術認定医指導下に修練中の外科医が行う腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の忍容性．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

19　長澤伸介，尾形高士，原　健太朗，下田陽太，中園真聡，熊頭勇太，林　勉，山田貴允，**塩澤　学**，山本直人，森永聡一郎，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，大島　貴：切除可能な進行食道癌の横断面による腫瘍局在性は長期予後に影響する．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

20　下田陽太，尾形高士，原　健太朗，長澤伸介，中園真聡，熊頭勇太，林　勉，山田貴允，**塩澤　学**，森永聡一郎，大島　貴：食道癌に対する食道切除後の筋肉量減少が予後に与える影響．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪，4/2019.

21　片岡幸三，**塩澤　学**，金光幸秀，池田正孝，Florian Lordick，Serge Evrard：EORTIC2 試験（CLIMB, DREAM 試験）からみるEUにおける切除不能大腸癌肝転移に対する治療の現状．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

22　**佐藤純人**，**塩澤　学**，**菅野伸洋**，風間慶祐，片岡幸三，森永聡一郎，大島　貴，利野　靖，益田宗孝：回結腸動静脈周囲の郭清範囲縮小は腹腔鏡下手術でどこまで許容されるのか．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

23　神谷真梨子，山本直人，四元宏和，井上広英，**塩澤　学**，大島　貴，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：膵癌根治切除術後の再発形式と予後の検討．第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019.

24　**菅野伸洋**，**塩澤　学**，**内山　護**，**加藤　綾**，**佐藤純人**，利野　靖，益田宗孝：横行結腸癌に対する腹腔鏡下CME．第74回日本大腸肛門病学会学術集会，東京，10/2019.

25　**佐藤純人**，**塩澤　学**，**菅野伸洋**，**加藤　綾**，**内山　護**，風間慶祐，大島　貴，利野　靖，益田宗孝：大腸癌多発肺肝転移に対し手術，化学療法およびラジオ波焼灼療法の集学的治療で長期CRを得られた１例．第74回日本大腸肛門病学会学術集会，東京，10/2019.

26　**加藤　綾**，**塩澤　学**，**内山　護**，**佐藤純人**，**菅野伸洋**，利野 靖，益田宗孝：大腸癌に対するFOLFOXIRI療法中に高アンモニア血症を認めた2例．第74回日本大腸肛門病学会学術集会，東京，10/2019.

27　**内山　護**，**加藤　綾**，**佐藤純人**，**菅野伸洋**，**塩澤　学**，利野　靖：当科における直腸NET手術切除症例の短期治療成績の検討．第74回日本大腸肛門病学会学術集会，東京，10/2019.

28　中村路夫，**塩澤　学**，田中吏佐，小澤大牾，牧山明資，松橋延壽，賀川義規，大庭幸治，吉野孝之，吉田和弘，前原喜彦，山崎健太郎，沖 英次，高橋孝夫：JFMC51：切除不能大腸癌標準治療不応例に対するFTD/TPI＋BEV併用療法の第Ⅱ相試験．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

29　片岡幸三，寺田参省，高橋侑子，盛　啓太，池田正孝，**塩澤　学**，木下敬弘，寺島雅典，金光幸秀，Laurence Collette，福田治彦，中村健一，Denis Lacombe: Current perspective of JCOG-EORTC collaboration ―From the five-years' experience of the liaison between JCOG and EORTC―．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

30　佐藤真帆，**塩澤　学**，沼田正勝，佐伯博行，五代天偉，**菅野伸洋**，**佐藤純人**，大庭真梨：臨床試験に関する研究者の意識調査とCRCによる支援の取り組み―KYCC活動報告―．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

31　風間慶祐，**塩澤　学**，**岡本浩直**，**内山　護**，**加藤　綾**，**佐藤純人**，**菅野伸洋**，沼田正勝，青山　徹，玉川 洋，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：実臨床におけるFOLFOXIRI＋Bevacizumabの治療成績と、今後の課題．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，2019，10.

32　山本直人，村川正明，神谷真梨子，上岡祐人，渥美陽介，青山　徹，山田貴允，大島　貴，**塩澤　学**，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：浸潤性膵管癌StageⅠ症例の治療成績．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，2019，10.

33　**菅野伸洋**，**塩澤　学**，**佐藤純人**，**加藤　綾**，**高村卓志**，**内山　護**，**岡本浩直**，益田宗孝：局所進行直腸癌に対する術前FOLFOXIRI療法の短期成績．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

34　**高村卓志**，**菅野伸洋**，**佐藤純人**，**加藤　綾**，**内山　護**，**岡本浩直**，**塩澤　学**：FOLFIRI＋Aflibercept併用療法の治療効果及び忍容性に対する実臨床における検討．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

35　水上拓郎，高橋雅樹，砂川　優，結城敏志，賀川義規，高島淳生，舛石俊樹，原 浩樹，傳田忠道，森脇俊和，**塩澤　学**，沖　英次，岡本　渉，吉野孝之，中島貴子：結腸直腸癌の原発部位別遺伝子プロファイル解析 GI-Screen 2013-01-CRC 付随究．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

36　原　健太朗，青山　徹，下田陽太，熊頭勇太，沼田正勝，山田貴允，玉川　洋，山本直人，**塩澤　学**，森永聡一郎，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，大島　貴：胃癌術後のD-dimer上昇と術後再発・生存の関係．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

37　沼田正勝，風間慶祐，田邉美恵，原　健太朗，渥美陽介，澤崎　翔，青山　徹，玉川　洋，五代天偉，佐伯博行，湯川寛夫，**塩澤　学**，利野　靖，益田宗孝：ロボット支援下手術は高難度直腸切除術における縫合不全を減少させる．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019.

38　**加藤　綾**，**塩澤　学**，**内山　護**，**岡本浩直**，**高村卓志**，**佐藤純人**，**菅野伸洋**，利野　靖，益田宗孝：StageⅣ大腸癌に対する原発巣切除の意義．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

39　**岡本浩直**，**塩澤　学**，**菅野伸洋**，**内山　護**，**加藤　綾**，**高村卓志**，**佐藤純人**，利野　靖，益田宗孝：直腸肛門部悪性黒色腫の術後鼠経リンパ節再発に対し切除及びNivolumabによる術後補助化学療法を施行した1例．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

40　**菅野伸洋**，**塩澤　学**，**佐藤純人**，**加藤　綾**，**高村卓志**，**内山　護**，**岡本浩直**，利野 靖，益田宗孝：側方リンパ節郭清後の難治性側方腔リンパ漏に対し、OK432を用いた癒着療法が奏功した一例．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

41　山本直人，村川正明，神谷真梨子，上岡祐人，渥美陽介，山田貴允，尾形高士，大島　貴，**塩澤　学**，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：膵頭十二指腸切除術における腸瘻チューブ留置の安全性に関する検討．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

42　大島　貴，木村弥生，公盛啓介，渡邊勇人，下田陽太，神尾一樹，藤川寛人，山田貴允，山本直人，**塩澤　学**，森永聡一郎，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，宮城洋平：リキッドバイオプシーを用いた局所進行胃癌の高度リンパ節転移に対する補助診断法の開発．第81回日本臨床外科学会総会，高知，11/2019.

43　**佐藤純人**，**塩澤　学**，**菅野伸洋**，風間慶祐，**加藤　綾**，**内山　護**，森永聡一郎，大島　貴，利野　靖，益田宗孝：中結腸根リンパ節（No 223）転移を伴う結腸癌の治療成績．第27回日本消化器関連学会週間，兵庫，2019, 11.

44　**塩澤　学**，片山佳代子，山本浩史，菊池信矢，宮城洋平：大腸がん治癒切除患者における血漿中アミノ酸濃度に基づく検査AICS（大腸）の術前後変化と再発予後との関連性．第27回日本消化器関連学会週間，兵庫，11/2019.

45　**菅野伸洋**，**塩澤　学**，**佐藤純人**，**加藤　綾**，**内山　護**，**高村卓志**，**岡本浩直**，利野　靖，益田宗孝：腹腔鏡下右半結腸切除術におけるSMAに沿ったD3郭清のコツ．第32回日本内視鏡外科学会総会，神奈川，12/2019.

消化器外科（肝胆膵）

発表論文

1 **Yotsumoto H**, **Yamamoto N**, **Kamiya M**, **Inoue H**, Washimi K, Okubo Y, Oike N, Yokose T, Rino Y, Masuda M, **Morinaga S**: A Case of Long-Term Survival after Multidisciplinary Treatment for Gastrointestinal Neuroendocrine Carcinoma. Gan To Kagaku Ryoho. 2019; 46(13): 2270-2272.

2 Watanabe H, Hayashi T, Komori K, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Shimoda Y, Fujikawa H, Aoyama T, Yamada T, **Yamamoto N**, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, **Morinaga S**, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Impact of Postoperative Complications on Recurrence in Patients With Stage Ⅱ / Ⅲ Gastric Cancer Who Received Adjuvant Chemotherapy With S-1. Anticancer Res. 2020; 40(3): 1683-1690. doi: 10.21873/anticanres. 14120.

3 Hara K, Aoyama T, Yamada T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Numata M, Hayashi T, Tamagawa H, Shiozawa M, **Morinaga S**, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T:The Prognostic Value of the Perioperative Systemic Inflammation Score for Patients With Advanced Gastric Cancer. Anticancer Res. 2020; 40(3): 1503-1512. doi: 10. 21873/anticanres. 14095.

4 Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, Hiroshima Y, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, **Morinaga S**, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ / Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo. 2020; 34(1): 461-467. doi: 10. 21873/invivo. 11796.

5 Murakawa M, Yamamoto N, Kamioka Y, Kamiya M, Kobayashi S, Ueno M, Morimoto M, Atsumi Y, Aoyama T, Tamagawa H, Yukawa N, RinoY, Masuda M, **Morinaga S**: Clinical Implication of Pre-operative C-reactive Protein-Albumin Ratio as a Prognostic Factor of Patients With Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Single-institutional Retrospective Study. In Vivo. 2020; 34(1): 347-353. doi: 10. 21873/invivo. 11780.

6 Hara K, Aoyama T, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Shiozawa M, **Morinaga S**, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Postoperative D-dimer elevation affects tumor recurrence and the long-term survival in gastric cancer patients who undergo gastrectomy. Int J Clin Oncol. 2020; 25(4): 584-594. doi: 10.1007/s10147-019-01603-x.

7 Numata K, Katayama Y, Sawazaki S, Higuchi A, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Shiozawa M: Utility of Preoperative Imaging for Predicting Pelvic Lateral Lymph Node Metastasis in Lower Rectal Cancer. Indian J Surg Oncol. 2019; 10(4): 582-586. doi: 10.1007/s13193-019-00947-0.

8 Oneyama M, Sakamoto N, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Fujikawa H, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Yukawa N, Shiozawa M, Yoshikawa T, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Yasui W, Oshima T: Clinical Significance of KIAA1199 as a Novel Target for Gastric Cancer Drug Therapy. Anticancer Res. 2019; 39(12): 6567-6573. doi: 10.21873/anticanres. 13872.

9 Okamura Y, Yasukawa S, Narimatsu H, Boku N, Fukutomi A, Konishi M, **Morinaga S**, Toyama H, Kaneoka Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sata N, Yamakita K, Takahashi A, Kainuma O, Hishinuma S, Yamaguchi R, Nagino M, Hirano S, Yanagisawa A, Mori K, Uesaka K: Human equilibrative nucleoside transporter-1 expression is a predictor in patients with resected pancreatic cancer treated with adjuvant S-1 chemotherapy. Cancer Sci. 2020; 111(2): 548-560. doi: 10. 1111/cas. 14258.

10 Maezawa Y, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Kano K, Aoyama T, Hiroshima Y, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, **Morinaga S**, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: High gamma-glutamyl hydrolase and low folylpolyglutamate synthetase expression as prognostic biomarkers in patients with locally advanced gastric cancer who were administrated postoperative adjuvant chemotherapy with S-1. J Cancer Res Clin Oncol. 2020; 146(1): 75-86. doi: 10. 1007/s00432-019-03087-8.

11 Okubo S, Kojima M, Matsuda Y, Hioki M, Shimizu Y, Toyama H, **Morinaga S**, Gotohda N, Uesaka K, Ishii G, Mino-Kenudson M, Takahashi S: Area of residual tumor (ART) can predict prognosis after post neoadjuvant therapyresection for pancreatic ductal adenocarcinoma. Sci Rep. 2019 Nov 20; 9(1): 17145. doi: 10.1038/s41598-019-53801-2.

12 Hiroshima Y, Kasajima R, Kimura Y, Komura D, Ishikawa S, Ichikawa Y, Bouvet M, Yamamoto N, Oshima T, **Morinaga S**, Singh SR, Hoffman RM, Endo I, Miyagi Y: Novel targets identified by integrated

cancer-stromal interactome analysis of pancreatic adenocarcinoma. Cancer Lett. 2020 28; 469: 217-227. doi: 10.1016/j.canlet.2019.10.031.
13 Hashimoto I, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Shiozawa M, **Morinaga S**, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: Clinical Significance of PRKCI Gene Expression in Cancerous Tissue in Patients With Gastric Cancer. Anticancer Res. 2019; 39(10): 5715-5720. doi: 10.21873/anticanres.13771.
14 Hara K, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Yamada T, Yamamoto N, Shiozawa M, **Morinaga S**, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: An easy and reliable method to close Petersen's defect using barbed suture to prevent internal hernia from developing after gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction. Asian J Endosc Surg. 2020 ;13(2): 238-241. doi: 10.1111/ases.12732.
15 Higuchi A, Aoyama T, Kazama K, Murakawa M, Atsumi Y, Katayama Y, Numata K, Sawazaki S, Numata M, Sato S, Sugano N, Tamagawa H, Mushiake H, Oshima T, Yukawa N, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Shiozawa M: Beppu's Nomogram Score Is an Independent Prognostic Factor for Colorectal Liver Metastasis Receiving Perioperative Chemotherapy and/or Targeted Therapy. In Vivo. 2019; 33(4): 1301-1306. doi: 10.21873/invivo.11603.
16 Yamada T, Kumazu Y, Nakazono M, Hara K, Nagasawa S, Shimoda Y, Hayashi T, Rino Y, Masuda M, Shiozawa M, **Morinaga S**, Ogata T, Oshima T: Feasibility and safety of laparoscopy-assisted distal gastrectomy performed by trainees supervised by an experienced qualified surgeon. Surg Endosc. 2020; 34(1): 429-435. doi: 10.1007/s00464-019-06786-y.

学会等発表

国際学会

1 Expression of long noncoding RNA and clinical outcomes of pancreatic cancer patients who received adjuvant chemotherapy by S-1 or GEM after curative resection. **Kamiya M**, Miyagi Y, **Yotsumoto H**, **Inoue H**, Nakamura Y, Yoshihara M, **Yamamoto N**, Yukawa N, Oshima T, Rino Y, Masuda M, **Morinaga S**：ESMO, Barcelona, 9/2019, 国外, poster

国内学会

1 短期・長期成績から見た膵全摘術の妥当性．Validity of total pancreatectomy from short and long-term prognosis．**神谷真梨子**，**山本直人**，**四元宏和**，**井上広英**，**村川正明**，青山　徹，沼田正勝，山田貴允，佐藤　勉，大島　貴，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**：第119回日本外科学会総会，大阪，4/2019，国内，poster
2 根治切除が行われた肝内胆管癌の予後因子の検討，**山本直人**，**村川正明**，**神谷真梨子**，**井上広英**，**四元宏和**，青山　徹，沼田正勝，山田貴允，林　勉，佐藤　勉，尾形高士，大島　貴，塩澤　学，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**．第119回日本外科学会定期学術集会，大阪、4/2019，国内，ポスター
3 Heat shock protein 105が膵癌における予後や抗癌剤耐性に与える影響：**井上広英**，宮城洋平，**神谷真梨子**，**四元宏和**，*山本直人*，大島　貴，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**：第119回日本外科学会総会，大阪，2019，4．国内，poster
4 膵神経内分泌腫瘍切除例の解析　**四元宏和**, **山本直人**，**神谷真梨子**，**井上広英**，**村川正明**，青山　徹, 沼田正勝, 林　勉，山田貴允，尾形高士，大島　貴，塩澤　学, 湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**：第119回日本外科学会総会，大阪，2019，4．国内，poster
5 Usefulness of Water-jet dissecting device（ERBE JET®2）in liver surgery．**山本直人**，**村川正明**，**神谷真梨子**，**渥美陽介**，青山　徹，湯川寛夫，利野　靖，**森永聡一郎**，益田宗孝．第31回日本肝胆膵外科学会総会，2019．6，国内，ポスター
6 Short- and long-term clinical outcomes of elderly patients (over 80 years) who underwent pancreatic resection for pancreatic cancer. **Kamiya M**, **Yamamoto N**, **Yotsumoto H**, **Inoue H**, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Morinaga S**：第31回日本肝胆膵外科学会総会，6/2019，国内，ポスター
7 膵癌根治切除術後の再発形式と予後の検討．**神谷真梨子**，**山本直人**，**四元宏和**，**井上広英**，青山　徹，大島　貴，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**：第74回日本消化器外科学会総会，東京，7/2019，国内，口頭
8 当院で経験した膵腺扁平上皮癌の臨床病理学的特徴―膵腺癌との比較．**神谷真梨子**，**山本直人**，**上岡祐人**，**四元宏和**，**井上広英**，**村川正明**，大島　貴，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**：第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，10/2019，国内，口頭
9 浸潤性膵管癌Stage I 症例の治療成績．**山本直人**，**村川正明**，**神谷真梨子**，**上岡祐人**，**渥美陽介**，青山　徹，山田貴允，大島　貴，塩澤　学，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**．第57回日本癌治療学会学術集会，福岡10/2019，国内，ポスター
10 The hENT1 evaluated by SP120 and 10D7G2 had the potential to predict the prognosis in the patients with pancreatic cancer treated with adjuvant gemcitabine: Collaborative study of the JASPAC 01 trial（和訳中）（英

語）岡村行泰, 安川　覚, 成松宏人, 朴　成和, 福冨　晃, 小西　大, **森永聡一郎**, 外山博近, 金岡祐次, 中森正二, 佐田尚宏, 山北圭介, 坂本裕彦, 柳澤昭夫, 上坂克彦, 膵癌補助化学療法グループ：第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10/2019, 国内, 口頭

11　膵頭十二指腸切除術における腸瘻チューブ留置の安全性に関する検討. **山本直人**, **村川正明**, **神谷真梨子**, **上岡　祐人**, 山田貴允, 塩澤　学, 尾形高士, 大島　貴, 利野　靖, 益田宗孝, **森永聡一郎**. 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 11/2019, 国内, 口頭

12　胆管に発生したgranular cell tumorの１切除例, **上岡祐人**, **山本直人**, **神谷真梨子**, **井上広英**, **村川正明**, 利野靖, 益田宗孝、**森永聡一郎**, 第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019/11/14, 国内, 口頭

13　充実性偽乳頭状腫瘍 Solid-pseudopapillary neoplasm（SPN）切除例の臨床病理学的特徴、**四元宏和**, **山本直人**, **神谷真梨子**, **井上広英**, 横田徳靖, 利野　靖, 益田宗孝, 赤池　信, **森永聡一郎**：第81回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019/11/14, 国内, 口頭

14　膵癌切除後のS-1補助化学療法患者においてhENT1高発現は独立した予後不良因子である（hENT1 expression is a prognostic factor in patients with pancreatic cancer treated with adjuvant S-1 chemotherapy）（英語）岡村行泰（静岡県立静岡がんセンター 肝･胆･膵外科）, 安川　覚, 成松宏人, 朴　成和, 福冨　晃, 小西　大, **森永聡一郎**, 外山博近, 金岡祐次, 清水泰博, 中森正二, 佐田尚宏, 上坂克彦：第78回日本癌学会総会, 京都, 9/2019, 国内, 口頭

15　膵術後食導入後の評　秋山紘槻, 伊藤洋平, 藤井理恵薫, 堀井三儀, **上岡祐人**, **神谷真梨子**, **村川正明**, **山本真人**, **森永聡一郎**　第23回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2020.1.24. 国内, ポスター

16　切除検体にて異所性肝細胞癌の重複が確認された膵頭部癌の一例　浅間宏之, 上野　誠, 小林　智, 福島泰斗, 田中　聡, 河野邦幸, 佐野裕亮, 長島周平, 横瀬智之, **山本直人**, **森永聡一郎**, 森本　学：日本消化器病学会関東支部第357回例会, 東京, 2019.12.7, 国内, 口演

精神腫瘍内科

学会発表等

1　谷島和美, 高橋有子, 伊藤和美, 下小牧明香, 佐藤愛梨, 尾形高士, **横尾実乃里**, 上遠野小夏：食道がん術後せん妄ハイリスクパスの評価と修正の検討. 第20回日本クリニカルパス学会, 熊本, 1/2020

脳神経外科

学会等発表

1　佐藤秀光, 山田幸子, ：術中照射施行した巨大転移性頭蓋骨腫瘍の一例, 横浜, 2/2020

頭頸部外科

発表論文

1　Naoki N, Yasushi F, Mariko H, Takashi M, Hidenori T, Nobuaki M, Sayaka Y, Akihisa W, **Madoka F**, Masaki F, Michihiko S: Diagnosis of cervical lymph node metastases in head and neck cancer with ultrasonic measurement of lymph node volume. Auris Nasus Larynx 46(6); 889-895, 2019.

2　**古川まどか**：パネルディスカッション５男女共同参画委員会特別企画「気管食道科学会で目指そう, みんなのキャリアアップ・スキルアップ」３. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科医のキャリアアップ・スキルアップ―エキスパートを目指そう―. 日気食会報, 70(2)；143-144, 2019.

3　**古川まどか**：JABTS39/特別企画　ウルトラサウンドクイズ「基礎･体表全般」唾液腺【症例１】～【症例２】. 乳腺甲状腺超音波医学, 8(1)：31-33、2019.

4　**古川まどか**：特集　甲状腺・副甲状腺―知りたいこと・知っておかねばならないこと.【診断】甲状腺・副甲状腺疾患の画像検査　超音波検査の読み方とコツ. JOHNS, 35(6)：673-677, 2019.

5　**古川まどか**：特集　甲状腺腫瘍の診療最前線.《診断法の最近の動向》超音波診断. 耳喉頭頸, 91(7)：528-532, 2019.

6　**古川まどか**：特集　舌がん・口腔がん治療の最前線.《診断》超音波検査―腫瘍の厚みはどのくらい診断できるのか. 耳喉頭頸, 91(13)：1104-1109, 2019.

7　**古川まどか**：この１冊で安心！周術期の生理機能検査丸ごとガイド　３.周術期における生理検査の実際　４）頭頸部がんの周術期超音波検査. Medical Technology, 47(13)：1469-1475, 2019.

8　**古川まどか**：頸部領域　３. 唾液腺　必修エコー―体表から“せまる”全身エコーのアプローチ法―. 診断と治療（増刊号）108 Suppl. 233-236, 2020

9　**古川まどか**：特集11　パネルディスカッション4「咽喉頭・気管食道科診察に直結する診断技法」１. 気管食道・咽喉頭領域の超音波診断. 日気食会報71(2)；180-182, 2020.

10　**古川まどか**：『リンパ節超音波診断の標準化を目指して』リンパ節超音波診断に必要な用語及び基本手技について. 乳腺甲状腺超音波医学 9 (1)11-14, 2020.

著書

1　古川まどか：Ⅶ　体表領域（甲状腺、副甲状腺、唾液腺、リンパ節）．レジデント・臨床検査技師のためのはじめての超音波検査第2版　1冊でわかる全科のエコーのポイント．編集　森　秀明、平井都始子　245-266、文光堂（東京）2019.

2　古川まどか：8．頸部　1day POCUSレクチャー＆ライブコース　セミナーテキスト．第7回POCUS研究会　p36-40．POCUS研究会事務局（栃木）2019.

3　古川まどか：Point-of-care 超音波研究会認定　領域横断ちょいあてエコー活用術．監修　谷口信行　編集　山田博胤．第8章POC表在エコー．p103-115，MCメディカ出版（大阪）2019.

学会等発表

1　**Madoka Furukawa**: International Symposium: The present and future aspects of the head and neck ultrasound of Asia. The 42th Japan Association of Breast and Thyroid Sonology, Tokyo, 5/2019.

2　**Madoka Furukawa**: Ultrasound diagnosis criteria for cervical lymph node metastasis of head and neck squamous cell carcinoma. Educational lecture 1, The 35th Congress of the Pan-pacificSurgucal Aassociation Japan Chapter, (Honolulu, Hawaii) 2/2019.

3　古川まどか：領域横断シンポジウム POCUSによるむくみのトリアージ．むくみのPOC頸部エコー．第6回POCUS研究会，東京，1/2019.

4　古川まどか：2頸部領域のPOCUS．第6回POCUS研究会，東京，1/2019.

5　古川まどか：General POCUS 1-day Seminar　POC表在臓器エコー Lecture．第6回POCUS研究会．東京，1/2019.

6　古川まどか：超音波検査による甲状腺がん術前評価と術後フォローアップ．Thyroid Cancer Network IN 中和，奈良，1/2019.

7　古川まどか：頭頸部超音波セミナー　頭頸部超音波のコツと注意点について．第29回日本頭頸部外科学会．仙台，1/2019.

8　古川まどか：医学生・臨床研修医への耳鼻咽喉科診療体験ハンズオンレクチャー．頭頸部の超音波診断と穿刺（初級）講師．第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（大阪）5/2019.

9　古川まどか：シンポジウム「唾液腺超音波診断の標準化に向けて」1．唾液腺超音波診断の標準化に必要なこと．第42回日本乳腺甲状腺超音波医学会．東京，2019．5.

10　古川まどか：特別企画【甲状腺・頭頸部疾患のイメージリーディング】．日本超音波医学会第31回関東甲信越地方会学術集会．東京，2019，10.

11　古川まどか：JABTS42リンパ節診断研究部会企画「リンパ節超音波診断の標準化を目指して」1．リンパ節超音波診断に必要な用語および基本手技について．第42回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会，東京，5/2019.

12　古川まどか：JABTS42領域横断シンポジウム「体表乳房超音波検査、撮像のPitfall．―一皮むけた超音波検査のために―」4．リンパ節、唾液腺の超音波検査、撮像のPitfall．第42回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会，東京，5/2019.

13　古川まどか：頭頸部超音波セミナー　頭頸部超音波の頭頸部癌診療に対する活用．第43回日本頭頸部癌学会，金沢，6/2019.

14　古川まどか：ハンズオンセミナー．頭頸部超音波診断の基礎から臨床応用まで　講師．第81回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会（名古屋），6/2019.

15　古川まどか：『甲状腺疾患の超音波診断ー術前評価とフォローアップ』．第19回京滋臨床甲状腺懇話会，京都，6/2019.

16　古川まどか：1-day POCUS POC表在臓器エコー（講義・ライブLecture）．第7回POCUS研究会，東京，2019，7.

17　古川まどか：頸部のPOCUS（講演・ライブLecture，ハンズオンセミナー）．第7回POCUS研究会，東京，7/2019.

18　古川まどか：パネルディスカッション頭頸部「咽・喉頭疾患における超音波診断の積極的活用について」2．口腔・咽喉頭悪性腫瘍の超音波診断．日本超音波医学会第92回学術集会，東京，5/2019.

19　古川まどか：日常よく遭遇する疾患シリーズ第3回甲状腺嚢胞性病変3　頸部に発生する甲状腺外の嚢胞性疾患、嚢胞状腫瘤．第43回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会，福島，10・2019.

20　古川まどか：リンパ 節診断研究部会企画　シンポジウム　超音波を用いたリンパ節診断および治療の新手法開発．2頭頸部扁平上皮癌頸部リンパ節転移超音波診断に関する多施設共同研究の概要報告．第43回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会，福島，2019，10.

21　古川まどか：特別企画【甲状腺・頭頸部疾患の イメージリーディング】．日本超音波医学会 第31回関東甲信越地方会学術集会，東京，2019，10.

22　古川まどか：超音波エコー講習会．症例検討と超音波を用いた診断の考え方．令和元年度第3回日本超音波医学会頸部リンパ節研究会・第26回頭頸部超音波研究会，高槻，11/2019.

23　古川まどか：超音波研究会関連の研究活動について．平成31年・令和元年度第3回日本超音波医学会頸部リンパ節研究会・第26回頭頸部超音波研究会，高槻，11/2019.

24　古川まどか：パネルディスカッション4　咽喉頭・気管食道科診療に直結する診断技法　1．気管食道領域の超音波診断．第71回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会，宇都宮，11/2019.

25　古川まどか：特別講演『頸部超音波エコーによる質的

診断』．令和元年度第３回日本超音波医学会頸部リンパ節研究会・第26回頭頸部超音波研究会，高槻，11/2019．

形 成 外 科

学会等発表

1　**清水　調**：乳房下溝形成の方法および選択．第62回日本形成外科学会総会・学術集会，札幌，5/2019

乳腺内分泌外科（乳腺）

発表論文

1　André F, Ciruelos E, Rubovszky G, Campone M, Loibl S, Rugo HS, Iwata H, Conte P, Mayer IA, Kaufman B, **Yamashita T**, Lu YS, Inoue K, Takahashi M, Pápai Z, Longin AS, Mills D, Wilke C, Hirawat S, Juric D: Alpelisib for PIK3CA-Mutated, Hormone Receptor-Positive, Advanced Breast Cancer. N Engl J Med. 380(20): 1929-1940. 2019

2　Niikura N, Nakatukasa K, Amemiya T, Watanabe KI, Hata H, Kikawa Y, Taniike N, **Yamanaka T**, Mitsunaga S, Nakagami K, Adachi M, Kondo N, Shibuya Y, Hayashi N, Naito M, Kashiwabara K, **Yamashita T**, Umeda M, Mukai H, Ota Y: Oral Care Evaluation to Prevent Oral Mucositis in Estrogen Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer Patients Treated with Everolimus (Oral Care-BC): A Randomized Controlled Phase Ⅲ Trial. Oncologist. Oct 8; theoncologist. 2019-0382. 2019 [Epub ahead of print]

3　Modi S, Saura C, **Yamashita T**, Park Y. H, Kim S. B, Tamura K, André F, Iwata H, Ito Y, Tsurutani J, Sohn J, Denduluri N, Perrin C, Aogi K, Tokunaga E, Im S. A, Lee K. S, Hurvitz S. A, Cortes J, Lee C, Chen S, Zhang L, Shahidi J, Yver A, Krop I: Trastuzumab Deruxtecan in Previously Treated HER2-Positive Breast Cancer. N Engl J Med. 382(7): 610-621. 2020

4　Mezawa Y, Daigo Y, Takano A, Miyagi Y, Yokose T, **Yamashita T**, Morimoto C, Hino O, Orimo A: CD26 expression is attenuated by TGF-β and SDF-1 autocrine signaling on stromal myofibroblasts in human breast cancers. Cancer Med. 8(8): 3936-3948. 2019

5　Asaoka M, Narui K, **Suganuma N**, Chishima T, Yamada A, Sugae S, Kawai S, Uenaka N, Teraoka S, Miyahara K, Kawate T, Sato E, Nagao T, **Matsubara Y**, Gandhi S, Takabe K, Ishikawa T: Clinical and pathological predictors of recurrence in breast cancer patients achieving pathological complete response to neoadjuvant chemotherapy. Eur J Surg Oncol. Dec; 45(12): 2289-2294. 2019

6　Masuda N, Ohtani S, Takano T, Inoue K, Suzuki E, Nakamura R, Bando H, Ito Y, Ishida K, **Yamanaka T**, Kuroi K, Yasojima H, Kasai H, Takasuka T, Sakurai T, Kataoka TR, Morita S, Ohno S, Toi M: A randomized, 3-arm, neoadjuvant, phase 2 study comparing docetaxel + carboplatin + trastuzumab + pertuzumab (TCbHP), TCbHP followed by trastuzumab emtansine and pertuzumab (T-DM1+P), and T-DM1+P in HER2-positive primary breast cancer. Breast Cancer Research and Treatment. 180: 135-146. 2020

7　Inoue K, Takahashi M, Mukai H, **Yamanaka T**, Egawa C, Sakata Y, Ikezawa H, Matsuoka T, Tsurutani J: Effectiveness and safety of eribulin in Japanese patients with HER2-negative, advanced breast cancer: a 2-year post-marketing observational study in a real-world setting. Invest New Drugs. 2020 Jan 16. doi: 10.1007/s10637-019-00890-5. Online ahead of print.

著書

1　**山中隆司**，**山下年成**：【新規抗悪性腫瘍薬の開発】新しい標的　PI3K阻害薬（解説/特集）腫瘍内科．科学評論社，24巻１号：39-45, 2019

学会等発表

1　**山下年成**，山本　豊：「HER2陽性早期乳がんでペルツズマブが必要な症例とは？」ランチョンセミナー LS-4-2．第119回日本外科学会定期学術集会 2019年４月18日－20日（大阪）

2　内藤陽一，吉野孝之，**山下年成**，増田慎三，岩田広治：乳癌ゲノム医療の推進に向けた取り組み　乳がんにおけるSCRUM-Japanの新展開（ワークショップ WS-17-3）．第119回日本外科学会定期学術集会 2019年４月18日－20日（大阪）

3　成井一隆（横浜市立大学附属市民総合医療センター乳腺甲状腺外科），石川　孝，浅岡真理子，長谷川善枝，新倉直樹，河野範男，**菅沼伸康**，千島隆司，海瀬博史，山田公人，山田顕光，菅江貞亨，田辺美樹子，市川靖史，遠藤　格：乳癌に対する術前化学療法完全奏功例に対する手術省略は可能か．第119回日本外科学会定期学術集会，2019年４月18日－20日（大阪）

4　**Takashi Yamanaka**, **Toshinari Yamashita**, **Yuka Matsubara**, **Kaori Kohagura**, **Haruhiko Yamazaki**, **Yuko Sugawara**, **Ayumi Yamanaka**, **Nobuyasu Suganuma**, Hirotaka Nakayama, Tatsuya Yoshida, Yasushi Rino, Munetaka Masuda: THE EFFICACY OF TRASTUZUMAB-EMTANSINE AFTER PRIOR USE OF PERTUZUMAB. AMONG PATIENTS WITH HER2 POSITIVE METASTATIC BREAST CANCER, Global Breast Cancer Conference. Apr. 25-27. 2019 (Incheon, Korea)

5　**Yuka Matsubara**, **Takashi Yamanaka**, **Toshinari Yamashita**, **Kaori Kohagura**, **Haruhiko Yamazaki**, **Yuko Sugawara**, Hirotaka Nakayama, **Nobuyasu Suganuma**, Tatsuya Yoshida, **Hiroyuki Iwasaki**, Yasushi Rino, Munetaka Masuda: RE-SENTINEL LYMPH NODE BIOPSY FOR BREAST RECURRENCE AFTER BREASTCONSERVING SURGERY. Global Breast Cancer Conference. Apr. 25-27. 2019 (Incheon, Korea)

6　**山中隆司**、**菅沼伸康**、**古波蔵かおり**、**松原由佳**、山﨑春彦、**菅原裕子**、**山中　歩**、**吉田達也**、中山博貴、**山下年成**、益田宗孝：再発乳癌治療におけるPalbociclibの副作用に関する検討．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

7　**菅沼伸康**、**古波蔵かおり**、**松原由佳**、**山﨑春彦**、**菅原裕子**、**山中隆司**、**山下年成**、**山中　歩**、中山博貴、**吉田達也**、利野　靖、益田宗孝：当院におけるパルボシクリブの治療成績の検討．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

8　吉田匡宏、**菅沼伸康**、**山下年成**、**山中隆司**、志賀淑子、山本大悟、戸田一真、小島未央、中川剛士、小田剛史、吉村亮一：SAVIを用いたAPBIの前向き多施設臨床試験の早期有害事象報告．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

9　**松原由佳**、**山下年成**、**古波蔵かおり**、**菅原裕子**、**山﨑春彦**、**山中隆司**、**菅沼伸康**、利野　靖、益田宗孝：当院におけるdose dense AC療法施行症例の検討．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

10　**菅原裕子**、**菅沼伸康**、**古波蔵かおり**、**松原由佳**、**山﨑春彦**、**山中隆司**、**山下年成**、**岩崎博幸**、中山博貴、吉田達也、益田宗孝：乳房温存療法後に発症した放射線誘発血管肉腫の１例．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

11　渡邊健一、中務克彦、雨宮　傑、秦　浩信、木川雄一郎、谷池直樹、**山中隆司**、光永幸代、中上和彦、足立守安、近藤直人、渋谷恭之、林　直輝、内藤真理子、柏原康佑、**山下年成**、梅田正博、向井博文、太田嘉英、新倉直樹：エベロリムス治療における予後予測因子の検討～Oral Care-BC登録症例での解析～．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

12　**古波蔵かおり**、**山下年成**、**松原由佳**、**山﨑春彦**、**菅原裕子**、**山中隆司**、**菅沼伸康**、利野　靖、益田宗孝：HER2陽性，cStageⅢB及びⅢC乳癌に対してペルツズマブを用いた術前化学療法を行った症例の検討．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

13　**吉田達也**、**菅沼伸康**、**中山博貴**、**山下年成**、**宮城洋平**、利野　靖、益田宗孝：triple negative乳癌における術前化学療法の効果とEZH2発現との関連．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

14　**羽田恵梨**、**佐藤　杏**、**瀬畑善子**、**菅沼伸康**、**山中隆司**、**菅原裕子**、**山﨑春彦**、**松原由佳**、**古波蔵かおり**、**清水　哲**、**山下年成**：コンパニオン診断のためのBRCA1/2遺伝子検査における当院の取り組み．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

15　**山中　歩**、**山中隆司**、**古波蔵かおり**、**松原由佳**、**山﨑春彦**、**菅原裕子**、**菅沼伸康**、中山博貴、**吉田達也**、**山下年成**、益田宗孝：Capecitabine+Cyclophosphamideが著効したBRCA変異陰性TNBCの１例．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

16　太田嘉英、中務 克彦、雨宮　傑、渡邊健一、秦　浩信、木川雄一郎、谷池直樹、**山中隆司**、光永幸代、中上和彦、足立守安、近藤直人、渋谷恭之、林　直輝、内藤真理子、柏原康佑、**山下年成**、梅田正博、向井博文、新倉直樹：がんに対する薬物療法における歯科介入効果のエビデンス（ランダム化第３相臨床試験Oral Care-BC）．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

17　内藤陽一、吉野孝之、増田慎三、**山下年成**、岩田広治：乳腺専門医とゲノム医療『乳がんにおけるがんゲノム医療の展望』乳がんにおけるSCRUM-Japanの新展開．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

18　岩瀬まどか、安藤正志、青儀健二郎、有賀智之、井上賢一、下村昭彦、徳永えり子、増田慎三、山内英子、**山下年成**、岩田広治：Carboplatin併用術前化学療法の長期予後の検討．27回日本乳癌学会総会，2019年７月11日－13日（東京）

19　Iwata H, **Yamashita T**, Inoue K, Takahashi M, Masuda N, Yamauchi T, Yamamoto Y, Takano T, Niikura N, Nakayama T, Takashima S, Matsumoto K, Sagara Y, Fujii T, Hattori T, Sekiguchi R, Wilke C: Alpelisib (ALP) + Fulvestrant (FUL) in Patients From Japan With Advanced Breast Cancer (ABC): Subgroup Analysis of SOLAR-1 Trial. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，2019年７月18日－20日（京都）

20　**山下年成**, Sunil Verma, Javier Cortes, 大谷彰一郎, 金子耕司, 伊藤良則, 髙橋將人, 井上賢一, 岩田広治, Javad Shahidi, Caleb Lee, Kongming Wang, 齊藤　格, 明畠佑典, 鶴谷純司：Phase 3 study of [fam-] trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) vs T-DM1 in advanced HER2-positive breast cancer．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，2019年７月18日－20日（京都）

21　**山下年成**：ホルモン受容体陽性再発乳がん治療の現状と展望（ランチョンセミナー１）．第78回日本癌学会，2019年９月26日～28日（京都）

22　Rugo H. S, Andre' F, **Yamashita T**, Cerda H, Toledano I, Stemmer S, Cruz Jurado J, Juric D, Mayer I, Ciruelos E. M, Iwata H, Conte P. F, Campone M, Wilke C, Mills D, Lorenzo I, Miller M, Loibl S: Alpelisib (ALP) 1 fulvestrant (FUL) for patients with hormone receptor-positive (HR1), HER22 advanced breast cancer (ABC): Management and time course of key adverse events of special interest (AESIs) in SOLAR-1. ESMO Congress

2019, Sep.27-Oct.01 2019 (Barcelona)

23 **Matsubara Y**, **Yamanaka T**, **Yamashita T**, **Okamoto S**, **Toda S**, **Kohagura K**, **Sugawara Y**, Nakayama H, **Suganuma N**, **Yoshida T**, Rino Y, Masuda M: Re-sentinel node biopsy for local recurrence after breast-conserving surgery. ESMO Congress 2019, Sep.27-Oct.01 2019 (Barcelona)

24 Campone M, Rugo H S, Rubovszky G, André F, Loibl S, Iwata H, Conte P F, Mayer I, Juric D, **Yamashita T**, Lorenzo I, Ridolfi A, Cirueloss EM: Alpelisib + Fulvestrant in Hormone Receptor-Positive, Human Epidermal Growth Factor Receptor-2- Negative Advanced Breast Cancer: Subgroup Analysis by Presence of Visceral Metastasis in the SOLAR-1 Trial. ESMO Congress 2019, Sep. 27-Oct. 01 2019 (Barcelona)

25 **菅沼伸康**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**菅原裕子**，**山中隆司**，**山下年成**，佐藤　杏，羽田恵梨，成松宏人：BRACAnalysis診断システムに対する診療体制の構築とOlaparibの治療経験．第57回日本癌治療学会学術集会2019年10月24日－26日（福岡）

26 **菅沼伸康**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**菅原裕子**，**山中隆司**，**山下年成**，岩崎博幸，吉岡恵美，河内香江，横瀬智之，宮城洋平，利野　靖，益田宗孝：乳癌手術標本に対するタイムスタンプシステムの導入．第81回日本臨床外科学会総会 2019年11月14日－16日（高知）

27 **松原由佳**、**山中隆司**、**山下年成**、**岡本　咲**、**戸田宗治**、**古波蔵かおり**、**菅原裕子**、**菅沼伸康**、利野　靖、益田宗孝：乳癌の孤立性肺転移に対し手術を行い長期生存を得ている 3 症例．第81回日本臨床外科学会総会 2019年11月14日－16日（高知）

28 Krop I, Saura C, **Yamashita T**, Park Y.H, Kim S.-B, Tamura K, André F, Iwata H, Ito Y, Tsurutani J, Sohn J, Denduluri N, Perrin C, Aogi K, Tokunaga E, Im S.-A, Lee K.S, Hurvitz S. A, Cortes J, Lee C, Chen S, Zhang L, Shahidi J, Yver A, Modi S: [Fam-] trastuzumab deruxtecan (T-DXd; DS8201a) in subjects with HER2-positive metastatic breast cancer previously treated with T-DM1: A phase 2, multicenter, open-label study (DESTINY-Breast01). The San Antonio Breast Cancer Symposium2019, Dec. 10-14. 2019 (San Antonio)

29 **Yamashita T**, Shimomura A, Takano T, Sagara Y, Watanabe J, Tokunaga E, Kikumori K, Kamiyama E, Kamio T, Nakamura R, Shinkai T, Takahashi S: A phase 1, multicenter, open-label study to assess the effect of [fam-] trastuzumab deruxtecan (T-DXd; DS-8201a) on QTc and pharmacokinetics in subjects with HER2-expressing metastatic and/or unresectable breast cancer. The San Antonio Breast Cancer Symposium 2019, Dec. 10-14. 2019 (San Antonio)

30 Nakayama T, Kawaguchi H, Masuda N, Saji S, Yamamoto Y, Aogi K, Anan K, Ito Y, Ohtani S, Sato N, Takano T, Tokunaga E, Nakamura S, Hasegawa Y, Hattori M, Fujisawa T, Yamaguchi M, Yamashita H, **Yamashita T**, Yotsumoto D, Morita S, Toi M, Ohno S: Influence of the adjuvant hormonal therapy on hormone sensitivity and survival outcomes in ER+ and HER2 − advanced breast cancer: A subgroup analysis of the JBCRG-C06 Safari study. The San Antonio Breast Cancer Symposium 2019, Dec. 10-14. 2019 (San Antonio)

31 Hagi M, Kawaguchi H, Masuda N, Saji S, Yamamoto Y, Nakayama T, Aogi K, Anan K, Ito Y, Ohtani S, Sato N, Takano T, Tokunaga E, Nakamura S, Hasegawa Y, Hattori M, Fujisawa T, Yamaguchi M, Yamashita H, **Yamashita T**, Yotsumoto D, Morita S, Toi M, Ohno S: Outcomes of fulvestrant therapy among Japanese women with ER-positive HER2-positive advanced or metastatic breast cancer: A subgroup analysis of the JBCRG-C06 Safari study. he San Antonio Breast Cancer Symposium2019, Dec. 10-14. 2019 (San Antonio)

32 Ishikawa T, Sakamaki K, Narui K, Nishimura H, Sangai T, Tamaki K, Hasegawa Y, Watanabe K, **Suganuma S**, Michisita S, Sugae S, Aihara T, Tsugawa K, Kaise H, Mukai H: Prospective cohort study of febrile neutropenia in breast cancer patients with neoadjuvant and adjuvant chemotherapy: CSPOR-BC FN Study. The San Antonio Breast Cancer Symposium2019, Dec. 10-14. 2019 (San Antonio)

33 **古波蔵かおり**、**山下年成**、**岡本　咲**、**戸田宗治**、**松原由佳**、**菅原裕子**、**山中隆司**、**菅沼伸康**、利野　靖、益田宗孝：Olapalibが著効したG-CSF産生乳癌の一例．第16回日本乳癌学会関東地方会，2019年12月 7 日（大宮）

34 **岡本　咲**、**戸田宗治**、**古波蔵かおり**、**松原由佳**、**菅原裕子**、**山中隆司**、**菅沼伸康**、**山下年成**：術後dose dense AC療法中に器質化肺炎をきたした 1 例．第16回日本乳癌学会関東地方会，2019年12月 7 日（大宮）

35 **松原由佳**、**岡本　咲**、**古波蔵かおり**、**戸田宗治**、**菅原裕子**、**山中隆司**、**菅沼伸康**、**山下年成**：皮膚転移で診断された男性潜在性乳癌の一例．第16回日本乳癌学会関東地方会，2019年12月 7 日（大宮）

乳腺内分泌外科（内分泌）

発表論文

1 **H. Iwasaki**, **S. Toda**, **H. Ito**, **D. Nemoto**, **D. Murayama**, **Y. Okubo**, H. Hayashi, **T. Yokose**, A Case of Unresectable Papillary Thyroid Carcinoma Treated with Lenvatinib as Neoadjuvant Chemotherapy, Case Reports in Endocrinology 2020 6438352, 2020

2　**H. Iwasaki**, **S. Toda**, **N. Suganuma**, D. Murayama, H. Nakayama, K. Masudo, Lenvatinib vs. palliative therapy for stage IVC anaplastic thyroid cancer, Mol Clin Oncol 12(2) 138-143, 2020

3　H. Yamazaki, **T. Yokose**, H. Hayashi, **H. Iwasaki**, S. Osanai, **N. Suganuma**, H. Nakayama, K. Masudo, Y. Rino, M. Masuda, Expression of fibroblast growth factor receptor 4 and clinical response to lenvatinib in patients with anaplastic thyroid carcinoma: a pilot study, Eur J Clin Pharmacol 76(5) 703-709, 2020

4　**H. Iwasaki**, H. Yamazaki, H. Takasaki, **N. Suganuma**, **R. Sakai**, H. Nakayama, S. Hatori, **S. Toda**, K. Masudo, Treatment outcomes of differentiated thyroid cancer with distant metastasis improve by tyrosine kinase inhibitors, Oncol Lett 17(6) 5292-5300, 2019

5　**H. Iwasaki**, H. Yamazaki, H. Takasaki, **N. Suganuma**, **R. Sakai**, H. Nakayama, **S. Toda**, K. Masudo, Renal dysfunction in patients with radioactive iodine-refractory thyroid cancer treated with tyrosine kinase inhibitors: A retrospective study, Medicine (Baltimore) 98(42) e17588, 2019

6　H. Yamazaki, **H. Iwasaki**, H. Takasaki, **N. Suganuma**, **R. Sakai**, K. Masudo, H. Nakayama, Y. Rino, M. Masuda, Efficacy and tolerability of initial low-dose lenvatinib to treat differentiated thyroid cancer, Medicine (Baltimore) 98(10) e14774, 2019

7　**S. Toda**, **H. Iwasaki**, **N. Suganuma**, **Y. Okubo**, H. Hayashi, K. Masudo, H. Nakayama, M. Masuda, Occult Thyroid Carcinoma without Malignant Thyroid Gland Findings during Preoperative Examination: Report of Three Cases, Case Rep Endocrinol 2020　4249067, 2020

8　H. Yamazaki, **H. Iwasaki**, **Y. Okubo**, **N. Suganuma**, K. Masudo, H. Nakayama, Y. Rino, M. Masuda, Two cases of thyroid gland invasion by upper mediastinal carcinoma, Endocrinol Diabetes Metab Case Rep 2019(1), 2019

9　H. Yamazaki, **H. Iwasaki**, **N. Suganuma**, **S. Toda**, K. Masudo, H. Nakayama, Y. Rino, M. Masuda, Anaplastic thyroid carcinoma diagnosed after treatment of lenvatinib for papillary thyroid carcinoma, Endocrinol Diabetes Metab Case Rep 2019, 2019

10　**岩崎博幸**，**菅沼伸康**，山崎春彦，【甲状腺・副甲状腺―知りたいこと・知っておかねばならないこと】TSH抑制療法の適応と有用性，JOHNS 35(6)706-708，2019

その他出版物

1　**岩崎博幸**、「甲状腺癌における分子標的薬治療が必要な患者像」CLINICIAN no. 678，67(1)p.29-35、2020

2　**岩崎博幸**、「手術数でわかるいい病院2020」週刊朝日MOOK, P.261-262, 2020

学会等発表

1　**H. Iwasaki**, H. Yamazaki,　D. Nemoto, **N. Suganuma**, H. Nakayama, **S. Toda**, and K. Masudo: Possibility of lenvatinib as a new treatment for anaplastic thyroid cancer. 3rd World Congress of Thyroid Cancer 19-23 June 2019, Rome, Italy

2　**H. Iwasaki**, **S. Toda**, **N. Suganuma**, H. Nakayama, and K. Masudo Relationship between development of distant metastasis from differentiated thyroid cancer and prognosis: A retrospective study from long-term follow-up 48th World Congress of Surgery 11-15 August 2019, Krakow, Poland

3　**菅原裕子**，**菅沼伸康**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，山崎春彦，**山中隆司**，**山下年成**，**岩崎博幸**：急速に増大した甲状腺癌骨転移巣に対しレンバチニブを使用した１例．第31回日本内分泌外科学会学術集会，2019/6/13-14（東京）

4　**菅沼伸康**，**岩崎博幸**，**山下年成**，**山中隆司**，**菅原裕子**，山崎春彦，**松原由佳**，**古波蔵かおり**，中山博貴，益戸功彦，利野　靖，益田宗孝：甲状腺未分化癌におけるレンバチニブ再増量時の治療成績．第31回日本内分泌外科学会学術集会，2019/6/13-14（東京）

5　山崎春彦，**岩崎博幸**，**菅沼伸康**，**戸田宗治**，益戸功彦，中山博貴，利野　靖，益田宗孝：上縦隔悪性腫瘍の甲状腺浸潤：甲状腺原発との鑑別．第31回日本内分泌外科学会学術集会，2019/6/13-14（東京）

6　**松原由佳**，**菅沼伸康**，**古波蔵かおり**，**山崎春彦**，**菅原裕子**，**山中隆司**，**山下年成**，**岩崎博幸**：上行結腸癌甲状腺転移の１例．第31回日本内分泌外科学会学術集会，2019/6/13-14（東京）

7　中山博貴，吉田達也，山崎春彦，**菅沼伸康**，**岩崎博幸**，益戸功彦，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**菅原裕子**，利野　靖，益田宗孝：緊急気道確保を要した甲状腺悪性リンパ腫の２症例．第31回日本内分泌外科学会学術集会，2019/6/13-14（東京）

8　**戸田宗治**，**岩崎博幸**，**岡本　咲**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**菅原裕子**，**山中隆司**，中山博貴，**菅沼伸康**，**山下年成**，利野　靖，益田宗孝：当院におけるMSIの検討．第62回日本甲状腺学会学術集会，2019/10/10-12（前橋）

9　松井愛唯，**岩崎博幸**，**菅沼伸康**，山崎春彦，**戸田宗治**，益戸功彦，中山博貴，佐伯博行，利野　靖，益田宗孝：術前の針生検で診断し得た甲状腺濾胞癌の１例．第52回日本甲状腺外科学会学術集会，2019/10/17-18（東京）

10　**松原由佳**，**菅沼伸康**，**菅原裕子**，**戸田宗治**，**岡本　咲**，**古波蔵かおり**，**山中隆司**，**山下年成**，**河内香江**，**岩崎博幸**：当院における転移性甲状腺癌の検討．第52回日本甲状腺外科学会学術集会，2019/10/17-18（東京）

11　**菅原裕子**，**菅沼伸康**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**山中隆司**，**山下年成**，**岩崎博幸**，益田宗孝：濾胞癌骨転移を併存した甲状腺未分化癌の１例．

第52回日本甲状腺外科学会学術集会，2019/10/17-18（東京）

12　T. Shidahara，**H. Iwasaki**，**N. Suganuma**，**S. Toda**，T. Suganuma，S. Okada，K. Nakatani，Y. Takayama，R. Matsumoto，M. Masuda: Long-term survival in two patients with Stage IV-C anaplastic thyroid carcinoma treated with lenvatinib. 第57回日本がん治療学会学術集会，2019/10/24-26（福岡）

13　**岩崎博幸**，**戸田宗治**，**菅原裕子**，**菅沼伸康**，角谷芽依，小野由香利，大沼静香，羽鳥慎祐：手術機会を逸した甲状腺良性疾患の臨床経過から学ぶこと．第36回甲状腺病態生理研究会，2020/1/25（東京）

婦　人　科

発表論文

1　Tetsuya Hasegawa, Megumi Furugori, Kazumi Kubota, Mikiko Sato, Aiko Yashiro Kawano, **Hisamori Kato**, Yuka Oi, Hiroyuki Shigeta, Keiko Segawa, Masakazu Kitagawa, Yuko Mine, Haruya Saji, Reiko Numazaki, Yasuyo Maruyama, Emi Ohnuma, Hanako Taniguchi, Ken Sugiura, Etsuko Miyagi, Tatsuya Matsunaga: Does the extension of the type of hysterectomy contribute to the local control of endometrial cancer?. International Journal of Clinical Oncology, 24, 1129- 1136, 2019

2　Shin Nishio, Koji Matsuo, Takeo Shibata, Satoshi Yamagichi, Hiroyuki Kanao, Kazuhiro Takehara, Nobuhiro Kado,Akiko Tozawa, Hideki Tokunaga, Tatsuya Matsunaga, **Hisamori Kato**, Koji Horie, Akira Kikuchi, Takayuki Enomoto and Mikio Mikami: Changes in the Clinicopathological Demographics of Vulvar Cancer in Japan:Increasing Oldest-Old,Stage Shifting, and Decreasing Cohort-Level Survival. Journal of Clinical Medicine 29; 8(12): 2081, 2019

3　○Hiraku Endo, Naoki Hama. Muhammad Baghdadi. Kozo Ishikawa. Ryo Otsuka. Haruka Wada. Hiroshi Asano. Daisuke Endo. Tatsuya Kato. Hidemichi Watari. Akiko Tozawa. NaoSuzuki. Tomoyuki Yokose. Atsushi Takano. **Hisamori Kato**. Yohei Miyagi. Yataro Daigo and Ken-ichiro Seino: Interleukin-34 expression in ovarian cancer a possible correlation with disease progression. International Immunology 32: 175-186, 2020

4　Matsumoto K. Kamiura S, Takehara K, Horie K, Tasaka N, Sonoda K, Takei Y, Aoki Y, **Konnai K**, Katabuchi H, Nakamura K, Ishikawa M, Watari H, Yoshida H, Matsumura N, Nakai H, Shigeta S, Takahashi F, Noda K, Yoshikawa H: MINT Study Group. Reduction in HPV16/18 prevalence among young women with high-grade cervical lesions following the Japanese HPV vaccination program. Cancer Science 110(12): 3811-3820. 2019

5　沼崎令子，吉田　浩，ルイズ横田奈朋，杉浦　賢，大原樹，高田恭臣，木挽貢慈，佐々木　康，米山剛一，林康子，平澤　猛，森岡　幹，磯崎太一，渡邊豊治，三上幹男，**加藤久盛**，中野真佐男，高橋恒男：平成30年度神奈川産科婦人科学会　婦人科悪性腫瘍登録集計報告．神奈川県産科婦人科学会誌56（2）：50-58，2019

6　**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：広汎子宮全摘の実際―神奈川県立がんセンター．産科と婦人科 6 ：725-730，2019

7　**上野悠太**，**小澤雅代**，**上原萌美**，**内山亜弥**，**最上多恵**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：細胞診を契機に外陰 Paget 病再発の診断に至った 1 例．神奈川県臨床細胞学会誌，24：29-35，2019

8　**小澤雅代**，**内山亜弥**，**上野悠太**，**上原萌美**，**最上多恵**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：全身転移を伴う卵巣癌と子宮体癌の重複癌における癌性腹水の原発巣推定にセルブロック法が有用であった 1 例．神奈川県臨床細胞学会誌24：21-28，2019

その他出版物

国立がんセンターがん情報サービス
各種がん　141　でんし冊子
子宮頸がん ―受診から診断、治療、経過観察への流れ―
執筆／査読協力：全国がんセンター協議会 2019年10月作製
分担執筆担当：加藤久盛

学会等発表　シンポジウム（S）ワークショップ（W）

1　Emiko Yoshida, Yasuhisa Terao, Yosuke Ito, Tsuyoshi Ota, Daiki Ogishima, Hiroshi Kaneda, Soshi Kusunoki, Kazunari Fujino, Takashi Hirayama, **Hisamori Kato**, Satoru Takeda, Atsuo Itakura: Novel initiatives for clinical application: Intraoperative-prediction of lymph node metastasis for uterine cancer using isothermal nucleic acid amplification technology. The 71st Annual Congress of Japan Society of Obstetrics and Gynecology. Nagoya, 4/2019

2　Shin Nishio, Satoshi Yamaguchi, Hiroyuki Kanao, Kazuhiro Takehara, Nobuhiro Kado, Aiko Tozawa, Hideki Tokunaga, Tatsuya Matsunaga, **Hisamori Kato**, Koji Horie, Akira Kikuchi, Mikio Mikami, Toru Sugiyama.: Investigation of the clinicopathological features of vulva cancer: A retrospective survey of theJapanese Gynecologic Oncology Group (JGOG) Net Work Study. The 71st Annual Congress of Japan Society of Obstetrics and Gynecology. Nagoya, 4/2019

3　Asuna Yumori, Etsuko Miyagi, Masakazu Kitagawa,

Yukihide Ota, Hideya Sakakibara, Masaki Nakayama, **Hisamori Kato**, Masayo Endo, Masahiko Ishikawa, Mika Okuda, Haruya Saji, Tomoo Hirabuki, Reiko Numazaki, Ken Sugiura, Mikiko Sato, Hiroyujki Shigeta: Reproductive and Endocrine Outcomes after Fertility-Sparing Surgery with Adjuvant Chemotherapy for Malignant Ovarian Tumor. The 71st Annual Congress of Japan Society of Obstetrics and Gynecology. Nagoya, 4/2019

4　**小澤雅代**，**最上多恵**，**上野悠太**，**上原萌美**，**内山亜弥**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：再発・進行子宮頸癌に対するベバシズマブ併用化学療法の安全性・有効性の検討．第71回日本産科婦人科学会学術講演会，名古屋，4/2019

5　**上野悠太**，**内山亜弥**，**小澤雅代**，**上原萌美**，**最上多恵**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：術後リンパ漏に対するオクトレオチドの使用経験．第71回日本産科婦人科学会学術講演会，名古屋，4/2019

6　**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**上野悠太**，**小澤雅代**，**上原萌美**，**内山亜弥**，**最上多恵**，**加藤久盛**：子宮原発血管肉腫の１症例．第60回日本臨床細胞学会総会春期大会，東京，6/2019

7　**杉崎加奈**，**酒井麻衣**，**那須隆二**，**北村和久**，**鈴木理樹**，**小澤雅代**，**加藤久盛**，**横瀬智之**：高異型度神経内分泌癌と類内膜癌からなる子宮体部混合癌の一例．第38回神奈川県臨床細胞学会学術集会．神奈川．10/2019

8　**小澤雅代**，**上原萌美**，**上野裕太**，**内山亜弥**，**最上多恵**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：分葉状頸管腺過形成（LEGH）の臨床細胞学的検討．第60回日本臨床細胞学会総会春期大会，東京，6/2019

9　**北川雅一**，**内山亜弥**，**上野悠太**，**小澤雅代**，**上原萌美**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**吉岡恵美**，**大久保陽一郎**，**河内香江**，**横瀬智之**，**酒井麻衣**，**北村和久**，**加藤久盛**．子宮頸部癌肉腫の一例：第38回神奈川県臨床細胞学会学術集会．神奈川．10/2019

10　**土田圭祐**，**溝口信貴**，**芹澤慈子**，**加藤久盛**，**加藤弘之**，**吉田大作**：子宮頸癌に対する３次元画像誘導小線源治療の治療成績．The clinical outcomes of 3D Image-guided brachytherapy（IGBT）for cervical cancer．第61回日本婦人科腫瘍学会．新潟．7/2019

11．**上野悠太**，**内山亜弥**，**小澤雅代**，**上原萌美**，**最上多恵**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：当院における再発卵巣癌に対するOlaparibの使用経験．第61回日本婦人科腫瘍学会．新潟．7/2019

12　**近内勝幸**，**上野悠太**，**小澤雅代**，**上原萌美**，**内山亜弥**，**北川雅一**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：腹腔鏡下準広汎子宮全摘術にInfrared illumination system（IRIS）を使用した子宮体癌の３症例．第59回日本産科婦人科内視鏡学会.京都．9/2019

13　**上野悠太**，**小澤雅代**，**上原萌美**，**内山亜弥**，**最上多恵**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**，**加藤久盛**：術後リンパ漏に対するオクトレオチドの使用経験．日本医科大学産婦人科同窓会研究会．東京．12/2019

14　**加藤久盛**，**上原萌美**，**小澤雅代**，**上野裕太**，**内山亜弥**，**最上多恵**，**近内勝幸**，**小野瀬亮**：検診における細胞診のフォローアップ成績　神奈川県における対策型子宮頚がん検診の状況報告及び職域検診の実施状況について．シンポジウム(S)．第60回日本臨床細胞学会総会春期大会，東京，6/2019

泌尿器科

発表論文

英文

1　Mikami S, Mizuno R, Kondo T, Shinohara N, Nonomura N, Ozono S, Eto M, Tatsugami K, Takayama T, Matsuyama H, Kishida T, Oya M; Japanese Society of Renal Cancer. Clinical significance of programmed death-1 and programmed death-ligand 1 expression in the tumor microenvironment of clear cell renal cell carcinoma. Cancer Sci. Jun; 110(6): 1820-1828. 2019

2　Suzuki H, Jinnouchi S, Kaji Y, Kishida T, Kinoshita H, Yamaguchi S, Tobe T, Okamura T, Kawakita M, Furukawa J, Otaka A, Kakehi Y: Diagnostic performance of 18F-fluciclovine PET/CT for regional lymph node metastases in patients with primary prostate cancer: a multicenter phase Ⅱ clinical trial. Jpn J Clin Oncol. Sep 1; 49(9): 803-811. 2019

3　Otsuka A, Suzuki T, Aki R, Matsushita Y, Tamura K, Motoyama D, Ito T, Sugiyama T, Miyake H: Clinical characteristics of self-reported nocturia in patients with interstitial cystitis, and effects of bladder hydrodistention (with fulguration of Hunner lesions) on nocturia. Low Urin Tract Symptoms 11: O141-O146, 2019.

4　Ohashi N, Isobe S, Matsuyama T, Ishigaki S, Suzuki T, Tsuji T, Otsuka A, Kato A, Miyake H, Yasuda H: The Intrarenal Renin-angiotensin System Is Activated Immediately after Kidney Donation in Kidney Transplant Donors. Intern Med 58: 643-648, 2019.

5　Funahashi Y, Takahashi R, Mizoguchi S, Suzuki T, Takaoka E, Ni J, Wang Z, DeFranco DB, de Groat WC, Tyagi P, Yoshimura N: Bladder overactivity and afferent hyperexcitability induced by prostate-to-bladder cross-sensitization in rats with prostatic inflammation. J Physiol 597: 2063-2078, 2019.

6　Ni J, Mizoguchi S, Bernardi K, Suzuki T, Kurobe M, Takaoka E, Wang Z, DeFranco DB, Tyagi P, Gu B, Yoshimura N: Long-lasting bladder overactivity and bladder afferent hyperexcitability in rats with

chemically-induced prostatic inflammation. Prostate 79: 872-879, 2019.
7 Mizoguchi S, Wolf-Johnson AS, Ni J, Mori K, Suzuki T, Takaoka E, Mimata H, DeFranco DB, Wang Z, Birder LA, Yoshimura N: The role of prostaglandin and E series prostaglandin receptor type 4 receptors in the development of bladder overactivity in a rat model of chemically induced prostatic inflammation. BJU Int 124: 883-891, 2019.
8 Kwon J, Suzuki T, Takaoka E, Shimizu N, Shimizu T, Takai S, Toshikawa S, de Groat WC, Yoshimura N: Analysis of continence reflexes by dynamic urethral pressure recordings in a rat stress urinary incontinence model induced by multiple simulated birth traumas. Am J Physiol Renal Physiol 317: F781-788, 2019.
9 Otsuka A, Suzuki T, Matsushita Y, Watanabe H, Tamura K, Motoyama D, Ito T, Sugiyama T, Miyake H.: Therapeutic Endoscopic Treatment Plus Maintenance Dimethyl Sulfoxide Therapy Prolongs Recurrence-Free Time in Patients With Hunner Type Interstitial Cystitis: A Pilot Study. Int Neurourol J 23: 327-333, 2019.
10 Sawada Y, Kikugawa T, Iio H, Sakakibara I, Yoshida S, Ikedo A, Yanagihara Y, Saeki N, Győrffy B, Kishida T, Okubo Y, Nakamura Y, Miyagi Y, Saika T, Imai Y.Sawada Y, et al.: GPRC5A facilitates cell proliferation through cell cycle regulation and correlates with bone metastasis in prostate cancer. Int J Cancer. 2020 Mar 1; 146(5): 1369-1382.

和文

1 梅本 晋，野口 剛，堤 壮吾，小林幸太，逢坂公人，岸田 健：末梢血リンパ球数は尿路上皮癌化学療法における効果および予後予測因子である．日本泌尿器科学会雑誌110巻3号，Page160-167，2019
2 藪沼知之（神奈川県立がんセンター泌尿器科），村岡研太郎，軸屋良介，橋爪章仁，安井将人，水野伸彦，梅本 晋，河合正記，岸田 健：GC療法による膀胱癌術前抗がん剤治療の有効性の検討 術前抗がん剤の効果による予後予測．臨床泌尿器科73巻6号，Page401-40，2019
3 堤 壮吾，大久保陽一郎，滝沢明利，安井将人，野口剛，梅本 晋，加藤晃史，岸田 健：ニボルマブによる間質性肺炎発症後も有効性が維持されている転移性腎癌の一例．日本泌尿器科学会雑誌110巻2号，Page124-128，2019
4 小泉充之、西村玲応奈、藤川 敦：尿管ステント・尿道カテーテルによる経尿道的ドレナージにて改善した気腫性腎盂腎炎と気腫性膀胱炎の併発例．泌尿器外科，32：1307-1310，2019.
5 柴田洋佑，安井将人，田尻下紘直，古屋一裕，舩橋 亮，太田純一，小野響子：乳癌の腫瘍内転移をきたした腎細胞癌の一例．日本泌尿器科学会雑誌，110(4)，239-243，2019

総説

1 岸田 健【泌尿器科周術期パーフェクト管理】腫瘍関連の手術：腎根治的腎摘除術（開腹）臨床泌尿器科 73巻4号，044-047．2019
2 岸田 健【まるごと泌尿器科エキスパートに学ぶ!術式の選択基準と周術期アセスメント】精巣 精巣腫瘍 Uro-Lo：泌尿器 Care & Cure 24巻2号，184-187．2019
3 岸田 健：高校保健ニュース 若年男性に多いがん“精巣腫瘍”．少年写真新聞社編，2019. 8. 8号，No.664，2019
4 岸田 健，平山和代：【まるごと 泌尿器科患者の疑問に答えるQ&A 検査・診断・手術・合併症・副作用】泌尿器科手術に関する患者さんからよくある質問 精巣腫瘍における合併症（副作用）医師より精巣腫瘍の検査や治療の提案を受けました。合併症（副作用）や痛みなどが不安なのですが、教えていただけますか？（Q&A/特集）．Uro-Lo：泌尿器 Care&Cure 24巻3号，301-303．2019
5 岸田 健：【これだけは押さえておきたい！泌尿器腫瘍に対する抗がん剤の基本】分子標的治療 腎癌に対する分子標的薬のマネジメント．臨床泌尿器科(0385-2393) 73巻6号，374-377．2019
6 鈴木孝尚、大塚篤史、三宅秀明：排尿障害Update BPH・BOOの診断および治療効果予測因子 Urology Today．26(3)，2019
7 岸田 健：ステージⅠの術後補助療法の考え方― Beyond Guidelines― Genitourinary Cancer Today，No.1；6-7，2019

著書

1 岸田 健：今日の治療指針 精巣腫瘍 医学書院 1214-1215，2019年版
2 岸田 健：今日の診断指針 第8版 精巣腫瘍 医学書院，1742-1743，2019年

学会等発表

1 Noguchi G. Nakaigawa N. Kobayashi K. Shibata Y. Tsutsumi S. Ohtake S. Suzuki T. Osaka K. Muraoka K. Umemoto S. Hasumi H. Kondo K. Sasada T. Yao M. Kishida T: CRP at 1 month after treatment of nivolumab as a predictive marker of efficacy in advanced renal cell carcinoma. 11th European Multidisciplinary Congress on Urological Cancers-Vienna 11/2019.

2　Osaka K. Noguchi G., Kishida T. Yao M Surgical management and outcomes of von Hippel-Lindau disease associated renal cell carcinoma: A single institution experience according to the 2cm rule. 11th European Multidisciplinary Congress on Urological Cancers-Vienna 11/2019.

3　Kishida T., Noguchi G. Ohsaka K. Umemoto S. Shibata Y. Suzuki T. Kobayashi K: Analysis on dose adjustment of axitinib for metastatic renal cell carcinoma. 11th European Multidisciplinary Congress on Urological Cancers-Vienna 11/2019.

4　Suzuki T, Saito T, Shimizu T, Shimizu N, Goins W, de Groat W, Glorioso J, Yoshimura N: Gene therapy with herpes simplex virus vectors encoding mutant glycine receptors activated by exogenous application of ivermectin improves lower urinary tract dysfunction in mice with spinal cord injury. 49th International Continence Society, Göteborg, 9/2019.

5　Saito T, Shimizu N, Goins W, Suzuki T, Shimizu T, Wada N, Ishizuka O, Glorioso J, Yoshimura N: Ivermectin-induced activation of mutant glycine receptors delivered to Aδ-fiber bladder afferents by herpes simplex virus vectors driven by a subpopulation-specific neurofilament promoter improves detrusor-sphincter dyssynergia and inefficient voiding in mice with spinal cord injury. 49th International Continence Society, Göteborg, 9/2019.

6　Kurobe M, Takaoka E, Suzuki T, Yoshikawa S, Kadekawa K, Kitta T, Miyazaki J, Nishiyama H, Yoshimura N: Differential effects of simulated birth trauma and estrogen deficiency on urethral functional, structural, and molecular expression changes in two different rat models of stress urinary incontinence. 49th International Continence Society, Göteborg, 9/2019.

7　柴田洋佑, 安井将人, 田尻下紘直, 古屋一裕, 舩橋　亮, 太田純一, 小野響子, 林　宏之：当院におけるALA-PDD併用TURBTの初期治療経験．第107回日本泌尿器科学会総会，愛知，4/2019

8　柴田洋佑, 安井将人, 田尻下紘直, 古屋一裕, 舩橋　亮, 太田純一, 小野響子, 林　宏之：当院における排尿ケアチームの立ち上げと活動実績．第31回日本老年泌尿器科学会，北海道，2019/6

9　柴田洋佑，鈴木考尚，野口　剛，梅本　晋，逢坂公人，岸田　健：IrAE中止後ニボルマブ再投与により再度PRが得られた転移性腎癌の一例. 第60回日本泌尿器科学会，神奈川地方会，横浜，9/2019

10　小泉充之，西村玲応奈，藤川　敦：当施設での前立腺肥大症に対するツリウムレーザーを用いた経尿道的蒸散･核出術の検討．第107回日本泌尿器科学会総, 名古屋, 4/2019.

11　沢田雄一郎，菊川忠彦，飯尾浩之，榊原伊織，吉田周平，池戸　葵，柳原裕太，佐伯法学，Gyorffy Balazs，岸田　健，大久保陽一郎，中村圭靖，宮城洋平，雑賀隆史，今井祐記．GPRC5Aは前立腺癌の細胞増殖および骨転移を促進する．第37回日本骨代謝学会学術集会, 神戸, 10/2019.

12　鈴木孝尚，清水信貴，高井　峻，清水孝洋，高岡栄一郎，齊藤徹一，溝口晋輔，黒部匡広，岸田　健，矢尾正祐，吉村直樹：イベルメクチン感受性変異グリシン受容体をコードする複製欠損単純ヘルペスウイルスベクターを用いた遺伝子治療は脊髄損傷マウスの下部尿路機能障害を改善する．第26回日本排尿機能学会，9/2019，東京

13　沢田雄一郎（愛媛大学 医学部泌尿器科学講座），飯尾浩之, 柳原裕太, 佐伯法学, 池戸　葵, 榊原伊織, 岸田　健, 宮城洋平，菊川忠彦，雑賀隆史，今井祐記：GPRC5Aは前立腺癌の細胞増殖と骨転移を促進する（GPRC5A facilitates cell proliferation and bone metastasis of prostate cancer）. 第71回西日本泌尿器科学会総会, 島根, 11/2019.

14　岸田　健：複合免疫療法の可能性～完全寛解と長期生存への期待～．第71回西日本泌尿器科学会総会，教育セミナー，島根，11/2019.

15　大久保陽一郎，野口　剛，宮城洋平，吉岡恵美，鈴木理樹，鷲見公太，河内香江，岸田　健，亀田陽一，横瀬智之：前立腺生検における生検前MRIの臨床病理学的意義．日本病理学会会誌（0300-9181）108巻 1 号，Page402，4/2019.

16　高橋寛行，佐久間敬之，松村彩子，大久保陽一郎，本橋賢治，岸田　健，横瀬智之，酒井リカ：腺分化した肝転移巣を有した腎盂癌の 1 例．日本内科学会関東地方会656回，12/2019.

17　野口　剛，岸田　健，小林幸太，堤　壮吾，逢坂公人，梅本　晋，中井川　昇，矢尾正祐：NLRの低下は腎細胞癌に対する免疫治療のiPFS予測因子である．第50回腎癌研究会，品川，7/2019.

18　小林幸太，堤　壮吾，野口　剛，逢坂公人，梅本　晋，実臨床においてAxitinibは適切な用量調整により有効性を維持している．第50回腎癌研究会，品川，7/2019.

19　中井川　昇，野口　剛，田部井正志，近藤慶一，蓮見壽史，林　成彦，槙山和秀，小林一樹，岸田　健，矢尾正祐：IO時代の腎癌治療の実臨床　Nivolumab monotherapy時代の進行性腎細胞癌治療成績．第50回腎癌研究会，品川，7/2019.

20　堤　壮吾，小林幸太，野口　剛，逢坂公人，梅本　晋，岸田　健：上部尿路癌合併は膀胱全摘術時の骨盤内リンパ節転移陽性の予測因子である．第107回日本泌尿器科学会総会，名古屋，4/2019.

21　植村公一，軸屋良介，篠木理沙，堤　壮吾，河原崇司，村上貴之，小林一樹，岸田　健，上村博司，矢尾正祐，

三好康秀：Ra-223を 6 コース完遂したmCRPC症例の予後予測におけるBSIの有用性の検討．第107回日本泌尿器科学会総会，名古屋，4/2019.

22　梅本　晋，小林幸太，堤　壮吾，野口　剛，逢坂公人，岸田　健，村岡研太郎，中井川　昇，矢尾正祐：Pembrolizumab療法を施行した転移性尿路上皮癌における予後予測因子の検討．第107回日本泌尿器科学会総会，名古屋，4/2019.

23　逢坂公人，小林幸太，堤　壮吾，野口　剛，梅本　晋，岸田　健，中井川　昇，矢尾正祐：横浜膀胱腫瘍研究会における膀胱小細胞癌の臨床的検討．第107回日本泌尿器科学会総会，名古屋，4/2019.

24　安井将人，軸屋良介，堤　壮吾，蓼沼知之，野口　剛，梅本　晋，阪口昌彦，片山佳代子，成松宏人，岸田　健地域がん登録を使った局所前立腺癌の治療成績の検討：第107回日本泌尿器科学会総会，名古屋，4/2019.

25　野口　剛，河原崇司，小林幸太，堤　壮吾，大竹慎二，逢坂公人，梅本　晋，中井川　昇，岸田　健，矢尾正祐：Psoas muscle indexは淡明細胞型腎細胞癌の術後再発予測因子である．第107回日本泌尿器科学会総会，名古屋，4/2019.

26　小林幸太，堤　壮吾，野口　剛，梅本　晋，逢坂公人，岸田　健：進行性胚細胞腫瘍に対する導入化学療法において１コース目、高齢者、クレアチニンクリアランス低値は発熱性好中球減少症の発症予測因子である．第107回日本泌尿器科学会総会，名古屋，4/2019.

27　鈴木孝尚，柴田洋佑，野口　剛，逢坂公人，岸田　健：術後難治性下痢の治療に苦慮した後腹膜Ganglioneuromaの１例．第97回神奈川県泌尿器科医会，横浜，11/2019.

28　鈴木孝尚，清水信貴，高井　峻，清水孝洋，高岡栄一郎，齊藤徹一，溝口晋輔，黒部匡広，岸田　健，矢尾正祐，吉村直樹：イベルメクチン感受性変異グリシン受容体をコードする複製欠損単純ヘルペスウイルスベクターを用いた遺伝子治療は脊髄損傷マウスの下部尿路機能障害を改善する．第26回日本排尿機能学会，東京2019年 9 月

29　鈴木孝尚，柴田洋佑，野口　剛，逢坂公人，岸田　健：術後難治性下痢の治療に苦慮した後腹膜Ganglioneuromaの１例：第97回神奈川県泌尿器科医会，横浜，11/2019.

30　野口　剛：CRP at 1 month after treatment of nivolumab as a predictive marker of efficacy in advanced renal cell carcinoma. 第50回腎癌研究会，品川，7/2019.

骨軟部腫瘍外科

学会等発表

1　浅野尚文，**比留間　徹**，ほか：表在性類上皮肉腫の臨床病理学的特徴．第52回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会，川越市，2019. 7. 12.

放射線診断・IVR科

発表論文

1　Hiroki Matsumoto, Yukie Yoshii, Atsumi Baden, Emi Kaneko, Hiroki Hashimoto, Hisashi Suzuki, Kazunori Kawamura, Ming-Rong Zhang, Tatsuya Higashi, **Hiroaki Kurihara**. Preclinical Pharmacokinetic and Safety Studies of Copper-Diacetyl-Bis(N 4-Methylthiosemicarbazone) (Cu-ATSM): Translational Studies for Internal Radiotherapy. Transl Oncol 2019 12(9): 1206-1212.

その他出版物

1　**栗原宏明**、日本の核医学の現状と今後、RadFan、vol.17，No.4，65-68，2019

学会等発表

1　**栗原宏明**、核医学専門医教育セミナー核医学指導者コース 腫瘍核医学（本邦における最新のトピック）、第19回日本核医学会春季大会、東京、4/2019

2　**栗原宏明**、核医学専門医教育セミナー PETエキスパートコース、第19回日本核医学会春季大会、東京、4/2019

3　**小嶋大地**、IVRハンズオンセミナー、第455回日本医学放射線学会関東地方会定期大会、神奈川，6/2019

4　**栗原宏明**、がんの分子イメージング研究とPET、第1回分子イメージング診断治療研究会、鎌倉、6/2019

5　**小嶋大地**、膵尾部切除術後の腹腔内出血を治療後、早期に再出血した１例、第31回関東IVR研究会、東京、7/2019

6　雫石達也、**栗原宏明（座長）**、押さえておきたいFDG-PET/CTの基礎知識、JCRミッドサマーセミナー 2019、神戸、7/2019

7　**伊藤宏之**、**栗原宏明**、肺がんのPET/CTは術前診断と予後予測に寄与できるか？第27回日本がん検診・診断学会総会、横浜、9/2019

8　**小嶋大地**、陰茎周囲腫瘤の画像診断 ～造影検査を含む～、第57回小田急Ｘ線カンファレンス、神奈川、10/2019

9　**栗原宏明**、神奈川県立がんセンターにおける放射線診断・IVR科の取り組み、神奈川県放射線医会総会・第60回例会、横浜、10/2019

10　**栗原宏明**、放射性薬剤 ^{64}Cu-ATSM を用いた悪性脳腫瘍に対する新たなRI治療法の開発、第59回日本核医学会学術総会、愛媛、11/2019

11　**栗原宏明**、Theranosticsで個別化医療に踏み出す：低酸素を標的とする放射性薬剤^{64}Cu-ATSMを用いた新たなRI治療法の開発、第39回呼吸器核医学研究会、横浜、1/2020

12　**栗原宏明**、正当化とリスク、放射線障害へと対応、日本診療放射線技師会2019年度医療放射線安全管理責任者

講習会、東京、1/2020

13 Mitsuyoshi Yoshimoto$_2$, N Honda, K Takahashi, **H Kurihara**, H Fujii: Synthesis of 4-borono-2-^{18}F-fluoro-phenylalanine using copper-mediated nucleophilic radiofluorination, USA, 6/2019

放射線治療科

学会等発表

1 **高草木陽介**、**加納希生**、**阿武　和**、**溝口信貴**、**芹澤慈子**、**吉田大作**、**鎌田　正**、**加藤弘之**：前立腺癌に対するスポットスキャニング法を用いた重粒子線治療の初期成績．第33回日本放射線腫瘍学会、名古屋、11/2019

2 **Yosuke Takakusagi**, **Kio Kano**, **Wataru Anno**, **Keisuke Tsuchida**, **Nobutaka Mizoguchi**, **Itsuko Serizawa**, **Daisaku Yoshida**, **Tadashi Kamada**, **Hiroyuki Katoh**: Preliminary result of carbon ion radiation therapy using spot scanning method for prostate cancer. PTCOG-AO2019, Oosaka, 11/2019

3 **溝口信貴**、**加納希生**、**阿武　和**、**土田圭祐**、**高草木陽介**、**芹澤慈子**、古川まどか、久保田　彰、加藤弘之、**鎌田　正**、**吉田大作**：頭頸部腺様嚢胞癌に対する放射線治療の検討．第33回日本放射線腫瘍学会、名古屋、11/2019

4 **Mizoguchi N**, **Anno W**, **Tsuchida K**, **Takakusagi Y**, **Serizawa I**, Furukawa M, Kubota A, **Yoshida D**, **Kamada T**, **Katoh H**. Outcomes and prognostic factors in adenoid cystic carcinoma of the head and neck. PTCOG-AO2019, Oosaka, 11/2019

5 **土田圭祐**、**高草木陽介**、**加納希生**、**阿武　和**、**溝口信貴**、**芹澤慈子**、**吉田大作**、**鎌田　正**、**加藤弘之**：子宮頸癌に対する3次元画像誘導小線源治療の治療成績．第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、新潟　7/2019

6 **土田圭祐**、**高草木陽介**、**加納希生**、**阿武　和**、**溝口信貴**、**芹澤慈子**、**吉田大作**、**鎌田　正**、**加藤弘之**、同室CTを用いた前立腺癌重粒子線治療の線量分布検証．第33回日本放射線腫瘍学会、名古屋、11/2019

7 **Tsuchida K**, Minohara S, **Serizawa I**, **Mizoguchi N**, **Anno W**, **Takakusagi Y**, **Furukawa M**, **Kubota A**, **Yoshida D**, **Kamada T**, **Katoh H**. Verification of dose distribution in carbon-ion radiotherapy for prostate cancer using daily in-room computed tomography. PTCOG-AO2019, Oosaka, 11/2019

8 **芹澤慈子**、**土田圭祐**、**高草木陽介**、**加納希生**、**阿武　和**、**溝口信貴**、**吉田大作**、**鎌田　正**、**加藤弘之**：手術不能な原発性骨軟部腫瘍に対する重粒子線治療．第33回日本放射線腫瘍学会、名古屋、11/2019

9 **Serizawa I**, **Mizoguchi N**, **Anno W**, **Tsuchida K**, **Takakusagi Y**, **Kubota A**, **Yoshida D**, **Kamada T**, **Katoh H**: Carbon Ion Radiotherapy for Unresectable Bone and Soft Tissue Sarcomas. PTCOG-AO2019, Oosaka, 11/2019

10 **Kanou K**, Minohara S, Kusano Y, **Mizoguchi N**, **Anno W**, **Tsuchida K**, **Takakusagi Y**, **Serizawa I**, **Yoshida D**, **Kamada T**, **Katoh H**: Comparison of 4-port and 2-port methods for Carbon-ion Radiotherapy Treatment for Prostate Cancer. PTCOG-AO2019, Oosaka 11/2019

11 **Anno W**, **Kanou K**, **Tsuchida K**, **Takakusagi Y**, **Mizoguchi N**, **Serizawa I**, **Yoshida D**, **Kamada T**, **Katoh H**: Carbon-ion radiotherapy for hepatocellular carcinoma, delivered with pencil-beam scanning and respiratory-gated irradiation method. PTCOG-AO2019, Oosaka, 11/2019

12 **吉田大作**、**土田圭祐**、**加藤弘之**：化学放射線療法後デュルバルマブ併用Ⅲ期非小細胞肺癌の急性期有害事象．第33回日本放射線腫瘍学会、名古屋、11/2019

13 **吉田大作**、**土田圭祐**、**加藤弘之**：Ⅲ期非小細胞肺癌に対する強度変調放射線治療の急性期有害事象の検討．第60回日本肺癌学会学術集会、大阪、12/2019

14 **阿武　和**、**加納希生**、**芹澤慈子**、**土田圭祐**、**高草木陽介**、**溝口信貴**、**吉田大作**、**鎌田　正**、**加藤弘之**：当院における舌癌に対する動注併用化学放射線療法の遡及的解析．第33回日本放射線腫瘍学会、名古屋、11/2019

東洋医学科

著書

1 田中耕一郎・奈良和彦・千葉浩輝：循環器（動悸）．臨床漢方治療学，共立出版，Page1-11，11/2019

2 田中耕一郎・奈良和彦・千葉浩輝：悪性腫瘍（がん、癌）．臨床漢方治療学，共立出版，Page215-226，11/2019

その他出版物

1 喩　静，田中耕一郎，**板倉英俊**：東洋医学各家学説講座第5回：隋・唐・五代における中国医学の発展．月刊誌「漢方研究」，297-301，9/2019

学会等発表

1 **板倉英俊**：乳がん患者の関節痛 苓姜朮甘湯の症例．第70回日本東洋医学会学術総会，東京，6/2019

免疫療法科

発表論文

1 Suekane S, Yutani S, Yamada A, **Sasada T**, Matsueda S, Takamori S, Toh U, Kawano K, Yoshiyama K, Sakamoto S, Sugawara S, Komatsu N, Yamada T, Naito M, Terasaki M, Mine T, Itoh K, Shichijo S, Noguchi M: Identification of Biomarkers for Personalized Peptide Vaccination in 2,588 Cancer Patients. Int J Oncol. 56(6): 1479-1489, 2020.

2 Kazama K, Otake J, Satoyoshi T, Shiozawa M, Sugano N, Sato S, Atsumi Y, Kano K, Murakawa M, Maezawa Y, Hashimoto I, Numata M, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, **Sasada T**, Masuda M: Distribution of Regulatory T-Cells and Other Phenotypes of T-Cells in Tumors and Regional Lymph Nodes of Colorectal Cancer Patients. In Vivo. 34(2): 849-856, 2020.

3 Noguchi M, Arai G, Egawa S, Ohyama C, Naito S, Matsumoto K, Uemura H, Nakagawa M, Nasu Y, Eto M, Suekane S, **Sasada T**, Shichijo S, Yamada A, Kakuma T, Itoh K: Mixed 20-peptide cancer vaccine in combination with docetaxel and dexamethasone for castration-resistant prostate cancer: a randomized phase Ⅱ trial. Cancer Immunol Immunother. 69(5): 847-857, 2020.

4 Ohkuma R, Yada E, Ishikawa S, Komura D, Ishizaki H, Tamada K, Kubota Y, Hamada K, Ishida H, Hirasawa Y, Ariizumi H, Satoh E, Shida M, Watanabe M, Onoue R, Ando K, Tsurutani J, Yoshimura K, Yokobori T, **Sasada T**, Aoki T, Murakami M, Norose T, Ohike N, Takimoto M, Izumizaki M, Kobayashi S, Tsunoda T, Wada S: High expression of olfactomedin-4 is correlated with chemoresistance and poor prognosis in pancreatic cancer. PLoS One. 15(1): e0226707, 2020.

5 Shimizu Y, Yoshikawa T, Kojima T, Shoda K, Nosaka K, Mizuno S, Wada S, Fujimoto Y, **Sasada T**, Kohashi K, Bando H, Endo I, Nakatsura T: Heat shock protein 105 peptide vaccine could induce antitumor immune reactions in a phase I clinical trial. Cancer Sci. 110(10): 3049-3060, 2019.

6 Hirakawa Y, Ogata T, **Sasada T**, Yamashita T, Itoh K, Tanaka H, Okuda K: Immunological consequences following splenectomy in patients with liver cirrhosis. Exp Ther Med. 18(1): 848-856, 2019.

7 Iiizumi S, Ohtake J, Murakami N, Kouro T, Kawahara M, Isoda F, Hamana H, Kishi H, Nakamura N, **Sasada T**: Identification of Novel HLA Class Ⅱ-Restricted Neoantigens Derived from Driver Mutations. Cancers (Basel). 11(2), 2019.

8 Narita Y, Arakawa Y, Yamasaki F, Nishikawa R, Aoki T, Kanamori M, Nagane M, Kumabe T, Hirose Y, Ichikawa T, Kobayashi H, Fujimaki T, Goto H, Takeshima H, Ueba T, Abe H, Tamiya T, Sonoda Y, Natsume A, Kakuma T, Sugita Y, Komatsu N, Yamada A, **Sasada T**, Matsueda S, Shichijo S, Itoh K, Terasaki M: A randomized, double-blind, phase Ⅲ trial of personalized peptide vaccination for recurrent glioblastoma. Neuro Oncol. 21(3): 348-359, 2019.

9 Matsuo N, Azuma K, Hattori S, Ohtake J, Kawahara A, Ishii H, Tokito T, Yamada K, Shibata Y, Shimokawaji T, Kondo T, Kato T, Saito H, Yamada K, **Sasada T**, Hoshino T: Association between soluble immune mediators and tumor responses in patients with nonsmall cell lung cancer treated with anti-PD-1 inhibitor. Int J Cancer. 144(5): 1170-1179, 2019.

10 Matsuo N, Azuma K, **Sasada T**: Assessment of soluble immune mediators as potential biomarkers during immune checkpoint inhibitor therapy. Oncotarget. 10(20): 1866-1867, 2019.

11 Nakahara Y, Kouro T, Igarashi Y, Kawahara M, **Sasada T**: Prospects for a personalized peptide vaccine against lung cancer. Expert Rev Vaccines. 18(7): 703-709, 2019.

12 紅露 拓，**笹田哲朗**：遺伝子変異由来ネオアンチゲンを標的とした特異的免疫療法．医学のあゆみ 271(2)：163-168，2019.

13 松尾規和，**笹田哲朗**：がん免疫療法のバイオマーカーの現状および今後の展望．実験医学 増刊 Vol.37 No.15「がん免疫療法の個別化を支える新・腫瘍免疫学」180-188，2019.

その他出版物

1 **笹田哲朗**，西川博嘉：がん免疫成立の基礎となるCancer-Immunity Cycle．Trends in Cancer Immunology 2(1)：2-5，2019.

2 **氷室秀知**：オゾンの腸管上皮に及ぼす影響について医療・環境オゾン研究 26(1)：21-22，2019.

学会等発表

1 Ryotaro Ohkuma, Erica Yada, Yutaro Kubota, Kazuyuki Hamada, Hiroo Ishida, Yuya Hirasawa, Hirotsugu Ariizumi, Etsuko Satoh, Junji Tsurutani, Kiyoshi Yoshimura, **Tetsuro Sasada**, Takeshi Aoki, Masahiko Murakami, Tomoko Norose, Nobuyuki Ohike, Masafumi Takimoto, Takuya Tsunoda, Satoshi Wada：High expression of Olfactomedin-4 correlates with chemoresistance and poor prognosis for pancreatic cancer. AACR Annual Meeting 2019, 米国・アトランタ，4/2019

2 Mikiya Ishihara, Shigehisa Kitano, Hiroyoshi Hattori, Yoshihiro Miyahara, Hidefumi Kato, Hideyuki Mishima, Noboru Yamamoto, Takeru Funakoshi, Takashi Kojima, **Tetsuro Sasada**, Eiichi Sato, Sachiko Okamoto, Daisuke Tomura, Hideto Chono, Ikuei Nukaya, Junichi Mineno, Hiroaki Ikeda, Takashi Watanabe, Shinichi Kageyama, Hiroshi Shiku：Tumor responses and early onset cytokine release syndrome in synovial sarcoma patients treated with a novel affinity-enhanced NY-ESO-1-targeting TCR-redirected T cell transfer.

ASCO Annual Meeting 2019，米国・シカゴ，6/2019

3　Mikiya Ishihara，Hiroyoshi Hattori，Eisuke Arai，Yoshihiro Nishida，Kohichi Takada，Makoto Emori，Akira Kawai，Takafumi Ueda，Makoto Endo，Yoshihiro Matsumoto，**Tetsuro Sasada**，Eiichi Sato，Tomomi Yamada，Akihiko Matsumine，Yasuhiro Nagata，Naozumi Harada，Hiroshi Shiku，Shinichi Kageyama：Phase Ⅰ/Ⅱclinical trial of NY-ESO-1-specific TCR-engineered T-cell transfer combined with a novel T-cell stimulator CHP: NE1 for patients with refractory soft tissue sarcoma．ASCO Annual Meeting 2019，米国・シカゴ，6/2019

4　Matsuo N，Azuma K，Murotani K，Ishii H，Tokito T，Yamada K，Shibata Y，Shimokawaji T，Nakahara Y，Kondo T，Kato T，Saito H，Yamada K，**Sasada T**，Hoshino T：Early changes in plasma CXCL2 and MMP2 levels predicts the response to anti-PD-1 therapy in non-small-cell lung cancer．2019 World Conference on Lung Cancer，スペイン・バルセロナ，9/2019

5　Azuma K, Nakahara Y, Matsuo N, Ishii H, Tokito T, Murotani K，Hoshino T, **Sasada T**：Changes of BCR Repertoire Are Predictive Biomarker for the Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitor in NSCLC．2019 World Conference on Lung Cancer, スペイン･バルセロナ，9/2019

6　Hiroyoshi Hattori，Mikiya Ishihara，Shigehisa Kitano，Yoshihiro Miyahara，Hidefumi Kato，Hideyuki Mishima，Noboru Yamamoto，Takeru Funakoshi，Takashi Kojima，**Tetsuro Sasada**，Eiichi Sato，Sachiko Okamoto，Daisuke Tomura，Hideto Chono，Ikuei Nukaya，Junichi Mineno，Hiroaki Ikeda，Takashi Watanabe，Shinichi Kageyama，and Hiroshi Shiku:　A novel affinity-enhanced NY-ESO-1-targeting TCR-redirected T cell transfer exhibited early-onset cytokine release syndrome and subsequent tumor responses in synovial sarcoma patients．ESMO 2019 Congress，スペイン・バルセロナ，9/2019

7　**Sasada T**，Iiizumi S，Kouro T，Kawahara M，Nakamura N：Immunogenicity of HLA class Ⅱ-restricted neoantigens derived from driver mutations. Fifth CRI-CIMT-EATI-AACR International Cancer Immunotherapy Conference，フランス・パリ，9/2019

8　Yuko Nakamura，Susumu Iizumi，Hiroki Ueda，Shogo Yamamoto，Kenji Tatsuno，Aya Nakayama，Kazuki Yamamoto，Taku Koro，Kyoko Hasegawa，Norihiro Nakamura，Hiroyuki Aburatani，**Tetsuro Sasada**，Takeshi Kawamura:　Proteogenomics-based identifying neoantigens in refractory cancers using xenograft mice. 18th Human Proteome Organization World Congress，オーストラリア・アデレード，9/2019

9　**Himuro H**，Matsumura H，Abe T: The effect of ozone on colonic epithelial cells．24th IOA Ozone World Congress & Exhibition，フランス・ニース，10/2019

10　Norikazu Matsuo，Koichi Azuma，Kenta Murotani，Yoshiko Naito，Hidenobu Ishii，Takaaki Tokito，Tadasuke Shimokawaji，Yoshiro Nakahara，Tetsuro Kondo，Terufumi Kato Haruhiro Saito，Kouzo Yamada，**Tetsuro Sasada**，Tomoaki Hoshino：Changes in plasma CXCL2 and MMP2 levels reflect response to anti-PD-1 therapy in non-small-cell lung cancer patients．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，東京，7/2019

11　Yoshiro Nakahara，Norikazu Matsuo，Koichi Azuma，Yoshiko Naito，Hidenobu Ishii，Takaaki Tokito，Yuka Igarashi，Taku Kouro，Ryo Usui，Tadasuke Shimokawaji，Tetsuro Kondo，Terufumi Kato，Haruhiro Saito，KouzoYamada，Tomoaki Hoshino，**Tetsuro Sasada**：Changes of BCR repertoire are predictive biomarker for the efficacy of immune checkpoint inhibitor in NSCLC．第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，東京，7/2019

12　Susumu Iiizumi，Junya Ohtake，Taku Kouro，Mamoru Kawahara，Yuka Igarashi，Norihiro Nakamura，**Tetsuro Sasada**：Immunogenicity of frequent driver mutations; identification of novel HLA class Ⅱ-restricted neoantigens．第23回日本がん免疫学会総会，高知，8/2019

13　五十嵐友香，中原善朗，松尾規和，東　公一，**笹田哲朗**：Ｂ細胞受容体（BCR）のレパトア解析は非小細胞肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤のバイオマーカーとして有用である．第23回日本がん免疫学会総会，高知，8/2019

14　Taku Kouro，Shoutaro Tsuji，Kohzoh Imai，**Tetsuro Sasada**：Optimization of chimeric antigen receptor construct targeting malignant mesothelioma antigen. 第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019

15　Taku Kouro，Kohzoh Imai，**Tetsuro Sasada**: Optimization of CAR T cells recognizing malignant mesothelioma specific antigen．第48回日本免疫学会学術集会，浜松，12/2019

16　Yuka Igarashi，Junya Ohtake，Yuki Fujimoto，**Tetsuro Sasada**:　Enhanced lymphocyte accumulation through chemokine overexpression in tumor microenvironment．第48回日本免疫学会学術集会，浜松，12/2019

17　**氷室秀知**：オゾン注腸による腸炎に対する影響の検討．第23回日本統合医療学会，鹿児島，12/2019

歯科口腔外科

発表論文

1　Niikura N, Nakatukasa K, Amemiya T, Watanabe KI, Hata H, Kikawa Y, Taniike N, Yamanaka T, **Mitsunaga S**, Nakagami K, Adachi M, Kondo N, Shibuya Y, Hayashi N, Naito M, Kashiwabara K, Yamashita T, Umeda M, Mukai H, Ota Y. Oral Care Evaluation to Prevent Oral Mucositis in Estrogen Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer Patients Treated with Everolimus (Oral Care-BC): A Randomized Controlled Phase Ⅲ Trial. Oncologist 24(11): 1-8, 2019.

その他出版物

1　**光永幸代**：「患者さんに伝えたい医科歯科連携のための食と栄養」第1回：はじめに．株式会社モリタ　デンタルライフデザイン https://d.dental-plaza.com/archives/3984，6/2019.

2　**光永幸代**：「患者さんに伝えたい医科歯科連携のための食と栄養」第2回：ヒトにとっての「栄養」とその使い道は？．株式会社モリタ　デンタルライフデザイン https://d.dental-plaza.com/archives/4084，7/2019.

3　**光永幸代**：「患者さんに伝えたい医科歯科連携のための食と栄養」第3回：貯蔵エネルギーとの付き合い方．株式会社モリタ　デンタルライフデザイン https://d.dental-plaza.com/archives/4256，7/2019.

4　**光永幸代**：「患者さんに伝えたい医科歯科連携のための食と栄養」第4回：重さより、中身で勝負．株式会社モリタ　デンタルライフデザイン https://d.dental-plaza.com/archives/4390，8/2019.

5　**光永幸代**：「患者さんに伝えたい医科歯科連携のための食と栄養」第5回：タンパク質、しっかり取れていますか？．株式会社モリタ　デンタルライフデザイン https://d.dental-plaza.com/archives/4520，8/2019.

6　**光永幸代**：「患者さんに伝えたい医科歯科連携のための食と栄養」第6回：口から始まる食と栄養、そして健康へ．株式会社モリタ　デンタルライフデザイン https://d.dental-plaza.com/archives/4828，9/2019.

学会等発表

1　**光永幸代**, 秋山紘槻, 藤井理恵薫, **柳田　健**, **小栗千里**：病棟管理栄養士による口腔スクリーニングと栄養障害の関連．第5回日本がん口腔支持療法学会学術大会, 東京, 12/2019.

2　**光永幸代**，秋山紘槻，藤井理恵薫：がん専門病院における栄養障害リスク評価と口腔アセスメントの関連．第35回日本静脈経腸栄養学会学術集会，京都，2/2020.

3　**柳田　健**，**小栗千里**，出田ゆか，大橋伸英，**光永幸代**，廣田　誠，光藤健司：下顎再建に用いた血管柄付遊離肩甲骨皮弁に植立したインプラント周囲組織から生じた口腔癌の1例．第38回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会，東京，1/2020.

リハビリテーション科

発表論文

1　**上原立資**，**水落和也**：転移性腫瘍に伴う高齢脊髄不全損傷患者への理学療法士の関わり．理学療法2019；36（8）：705-712

2　稲田雅也，**水落和也**，中村　健：慢性期片麻痺患者の上肢麻痺に対する改良型スパイダー装具を使用した作業療法の試み．義装会誌2020；36（1）：54-56

著書

1　**水落和也**：社会資源の活用．正門由久，高木誠編，脳卒中　基礎知識から最新リハビリテーションまで，pp558-564，2019，医歯薬出版

2　**水落和也**：福祉機器．正門由久，高木誠編，脳卒中基礎知識から最新リハビリテーションまで，pp565-569，2019，医歯薬出版

3　**水落和也**，坂本安令：関節リウマチ．伊藤利之，江藤文夫編，新版日常生活活動（ADL）第2版，pp217-234，2020，医歯薬出版

学会等発表

1　**上原立資**，**渡邉知美**，**水落和也**：AYA世代患者に対するリハビリテーションサービス．第86回神奈川リハビリテーション研究会．横浜，4/2019

2　**水落和也**，大曽根有三：がん診療連携拠点病院における補装具サービス―体幹装具を中心に―．第86回神奈川リハビリテーション研究会．横浜．4/2019

3　**水落和也**，**山増正樹**，**薄井さとみ**，**遠原まりえ**，**上原立資**，**斎藤未来**，**萩尾裕希恵**，**松本光寿**，**朝山信司**：造血幹細胞移植患者に対する運動療法の安全性と実行可能性．第44回日本運動療法学会学術集会，東京，6/2019

4　**水落和也**，大曽根有三：がん患者に対する体幹装具療法．第35回日本義肢装具学会学術大会，仙台，7/2019

5　**水落和也**：造血幹細胞移植治療患者に対する無菌病棟におけるリハビリテーション治療の安全性．第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会．静岡，11/2019

病理診断科

発表論文

1　**Okubo Y**. Gangliocytic Paraganglioma. An Overview and Future Perspective. World J Clin Oncol, 10(9): 300-302, 2019

2　Furuya M, Iribe Y, Nagashima Y, Kambe N, Ohe C, Kinoshita H, Sato C, Kishida T, **Okubo Y**, Numakura

K, Nanjo H, Nakaigawa N, Makiyama K, Hasumi H, Iwashita H, Ohta J, Kitamura H, Nakajima T, Yoshida T, Nakagawa M, Tanaka R, Yao M. Clinicopathological and molecular features of hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer-associated renal cell carcinomas. J Clin Pathol, Online ahead of print, 2020

3 **Suzuki M**, Muroi A, Nojima M, Numata A, Takasaki H, Sakai R, **Yokose T**, Miyagi Y, Koshikawa N. Utility of a Reverse Phase Protein Array to Evaluate Multiple Biomarkers in Diffuse Large B-Cell Lymphoma. Proteomics Clin Appl, 14: 1900091, 2020

4 Tsubosaka A, Matsushima J, Ota M, **Suzuki M**, Yonemori Y, Ota S, Yoshino I, Tsushima K, Tatsumi K, Nakatani Y. Whole-lung pathology of pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE) in an explanted lung: Significance of elastic fiber-rich, non-specific interstitial pneumonia-like change in chemotherapy-related PPFE. Pathol Int, 69: 547-555, 2019

5 Sawada Y, Kikugawa T, Iio H, Sakakibara I, Yoshida S, Ikedo A, Yanagihara Y, Saeki N, Győrffy B, Kishida T, **Okubo Y**, Nakamura Y, Miyagi Y, Saika T, Imai Y. GPRC5A facilitates cell proliferation through cell cycle regulation and correlates with bone metastasis in prostate cancer. Int J Cancer, 146(5): 1369-1382, 2020

6 Inafuku K, **Yokose T**, Ito H, Narimatsu H, Samejima J, Nagashima T, Nakayama H, **Suzuki M**, Yamada K, Masuda M. Should pathologically non-invasive lung adenocarcinoma larger than 3cm be classified as T1a? Ann Thorac Surg 108: 1678-84, 2019

7 Inafuku K, **Yokose T**, Ito H, Eriguchi D, Samejima J, Nagashima T, Nakayama H, **Suzuki M**, Yamada K, Masuda M. Two cases of lung neuroendocrine carcinoma with carcinoid morphology. Dign Pathol 14: 104, 2019

その他出版物

1 **鈴木理樹**：【細胞診に必要な病態学的基礎知識 Return to the basics】肺腺癌の組織像と細胞像．Medical Technology 47(9)：895-900, 2019

学会等発表

1 **鷲見公太**，**河内香江**，**吉岡恵美**，**鈴木理樹**，**大久保陽一郎**，**横瀬智之**：未分化肉腫の予後解析．第108回日本病理学会総会，東京，5/2019

2 **鈴木理樹**、笠島理加、**横瀬智之**、山口　類、井元清哉、**吉岡恵美**、**鷲見公太**、**大久保陽一郎**、**河内香江**、宮城洋平：全エクソーム解析による高悪性度胎児型肺腺癌の遺伝子異常の解明．第108回日本病理学会総会，東京，5/2019

3 **吉岡恵美**、**河内香江**、**鷲見公太**、**鈴木理樹**、**大久保陽一郎**、**横瀬智之**、宮城洋平：上皮成分も悪性であった悪性葉状腫瘍の一例．第108回日本病理学会総会，東京，5/2019

4 **大久保陽一郎**、野口　剛、宮城洋平、**吉岡恵美**、**鈴木理樹**、**鷲見公太**、**河内香江**、岸田　健、亀田陽一、**横瀬智之**：前立腺生検における生検前MRIの臨床病理学的意義．第108回日本病理学会総会，東京，5/2019

5 **鈴木理樹**，室井　敦，野島正寛，酒井リカ，**横瀬智之**，宮城洋平，越川直彦：びまん性大細胞B細胞性リンパ腫における新規診断補助ツールとしての逆相蛋白質アレイの有用性について．第78回日本癌学会総会，京都，9月

6 酒井麻衣，内山亜弥，那須隆二，杉崎加奈，能條　潤，北村和久，岩撫成子，**大久保陽一郎**，加藤久盛，**横瀬智之**：ASC-USの判定を再考してみる 当院におけるASC-USの現状とそこからみえる細胞像．第60回日本臨床細胞学会総会，東京，6/2019

遺伝診療科

発表論文

1 Nakamura S, **Narimatsu H**, Nakata Y, Sakaguchi M, Konta T, Watanabe M, Ueno Y, Ishizawa K, Yamashita H, Kayama T, Yoshioka T. Efficiency score from data envelopment analysis can predict the future onset of hypertension and dyslipidemia: A cohort study. Sci Rep. 2019; 9(1): 16309. Epub 2019/11/11

2 Nakata Y, Watanabe Y, **Narimatsu H**, Yoshimura T, Otake H, Sawa T. Japanese surgical resource utilization in 2016. Int J Health Care Qual Assur. 2019;32(6):1013-21. Epub 2019/07/10

3 Okamura Y, Yasukawa S, **Narimatsu H**, Boku N, Fukutomi A, Konishi M, Morinaga S, Toyama H, Kaneoka Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sata N, Yamakita K, Takahashi A, Kainuma O, Hishinuma S, Yamaguchi R, Nagino M, Hirano S, Yanagisawa A, Mori K, Uesaka K. The hENT1 expression is a predictor in patients with resected pancreatic cancer treated with adjuvant S-1 chemotherapy. Cancer science. 2019. Epub 2019/11/30

4 **成松宏人**：ゲノム研究の進歩とがん検診 ―今までの道のりと未来への期待―．日本がん検診・診断学会誌，27(2)：134-7，2020

学会等発表

1 **羽田恵梨**，**佐藤　杏**，瀬畑善子，清水　哲，谷島和美，**成松宏人**：小学生の娘へ遺伝性乳がん卵巣がん症候群を伝えた1症例．第25回日本家族性腫瘍学会学術集会，東京，6/2019

2 **羽田恵梨**，**佐藤　杏**，瀬畑善子，菅沼伸康，山中隆司，菅原裕子，山﨑春彦，松原由佳，古波蔵かおり，清水　哲，

山下年成：コンパニオン診断のための*BRCA1/2* 遺伝子検査における当院の取り組み．第27回日本乳癌学会学術総会，東京，7/2019

3　**佐藤　杏**，**羽田恵梨**，上野　誠，菅沼伸康，山下年成，**成松宏人**：がん遺伝子パネル検査を契機に診断された遺伝性乳がん卵巣がん症候群の１家系．第43回日本遺伝カウンセリング学会学術集会，札幌，8/2019

4　**Ann Sato**, **Eri Haneda**, Nobuyasu Suganuma, **Hiroto Narimatsu**: Preliminary screening for hereditary breast and ovarian cancer using a chatbot augmented intelligence genetic counselor. 64th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, Nagasaki, 11/2019

5　**佐藤　杏**　MSI検査の現状と課題．令和元年度第１回総合キャンサーボード，神奈川県立がんセンター講堂，9/2019

6　斎藤裕麿，施　建明，中村　翔，**成松宏人**：凸包とデータの距離による２型糖尿病の判別. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2020年春季研究発表会，奈良，3/2020

7　阪口昌彦，中村　翔，**成松宏人**：DEAを用いた予防医療確立への挑戦．OR学会秋季研究発表会，東広島芸術文化ホールくらら，広島，2019

8　**成松宏人**：ゲノム研究の進歩とがん検診～今までの道のりと未来への期待～．第27回日本がん検診・診断学会総会ランチョンセミナー４，神奈川，9/2019

9　**成 松 宏 人**：“Hybrid” Genomic Cohort Study：A Novel Approach for Innovation．復旦大学公共衛生学院セミナー，中国・上海（Fudan University），4/2019

10　**成松宏人**：がんと遺伝～遺伝情報を治療と予防に活かす～．日本海総合病院遺伝カウンセリング研修会，5/2019

11　**成松宏人**:「ハイブリッドゲノムコホート」―イノベーションのための新しいアプローチ―，千葉県がんセンター研究所第867回集談会,千葉（千葉県がんセンター），10/2019

12　**成松宏人**：がん予防でいちばん大事なこと―今までの役割、未来への期待―．令和元年度保健医療セミナー，神奈川（足柄上合同庁舎），10/2019

13　**成松宏人**：“ハイブリッド”コホート研究から発信するヘルスイノベーションの可能性　未病社会の取り組み．国際シンポジウム「ME-BYOサミット神奈川2019」分科会２．神奈川（湯本富士屋ホテル），11/2019

14　**成松宏人**：“ハイブリッド”コホート研究から発信するME-BYOのデザイン　ME-BYOでデザインするまちづくり．国際シンポジウム「ME-BYOサミット神奈川2019」分科会７，横浜（パシフィコ横浜），11/2019

15　**成松宏人**：「疫学研究のつくりかた」超入門・公衆衛生学講座．2019年未病産業研究会有料講座，横浜（日本丸メモリアルパーク訓練センター），12/2019

がんゲノム診療科

発表論文

1　Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, **Hiroshima Y**, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo. 2020 Jan-Feb; 34(1): 461-467. IF=1.609

2　Oneyama M, Sakamoto N, Oue N, Kimura Y, **Hiroshima Y**, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Fujikawa H, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Yukawa N, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Yasui W, Oshima T. Clinical Significance of KIAA1199 as a Novel Target for Gastric Cancer Drug Therapy. Anticancer Res. 2019 Dec; 39(12): 6567-6573. IF=1.935

3　Maezawa Y, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Kano K, Aoyama T, **Hiroshima Y**, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. High gamma-glutamyl hydrolase and low folylpolyglutamate synthetase expression as prognostic biomarkers in patients with locally advanced gastric cancer who were administrated postoperative adjuvant chemotherapy with S-1. J Cancer Res Clin Oncol. 2019 Nov 21. IF=3.332

4　**Hiroshima Y**, Kasajima R, Kimura Y, Komura D, Ishikawa S, Ichikawa Y, Bouvet M, Yamamoto N, Oshima T, Morinaga S, Singh SR, Hoffman RM, Endo I, Miyagi Y. Novel targets identified by integrated cancer-stromal interactome analysis of pancreatic adenocarcinoma. Cancer Lett. 2019 Oct 24. pii: S0304-3835(19) 30534-8. IF=6.508

5　Igarashi K, Kawaguchi K, Murakami T, Miyake K, Kiyuna T, Miyake M, **Hiroshima Y**, Higuchi T, Oshiro H, Nelson SD, Dry SM, Li Y, Yamamoto N, Hayashi K, Kimura H, Miwa S, Singh SR, Tsuchiya H, Hoffman RM. Patient-derived orthotopic xenograft models of sarcoma. Cancer Lett. 2019 Oct 19. pii: S0304-3835(19) 30525-7. IF=6.508

6　Hashimoto I, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, **Hiroshima Y**, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Aoyama T, Yamada T, Yamamoto N, Ogata T, Ito H, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi

Y, Oshima T. Clinical Significance of PRKCI Gene Expression in Cancerous Tissue in Patients With Gastric Cancer. Anticancer Res. 2019 Oct; 39(10): 5715-5720. IF=1.935

7 Kubo H, **Hiroshima Y**, Mori R, Saigusa Y, Murakami T, Yabushita Y, Sawada Y, Homma Y, Kumamoto T, Matsuyama R, Endo I. MiR-194-5p in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Peritoneal Washings is Associated with Peritoneal Recurrence and Overall Survival in Peritoneal Cytology-Negative Patients. Ann Surg Oncol. 2019 Dec; 26(13): 4506-4514. IF=3.857

8 Murakami T, **Hiroshima Y**, Miyake K, Kiyuna T, Endo I, Zhao M, Hoffman RM. Efficacy of Tumor-Targeting Salmonella typhimurium A1-R against Malignancies in Patient-Derived Orthotopic Xenograft (PDOX) Murine Models. Cells. 2019 Jun 16; 8(6). pii: E599. Review. IF=5.656

9 Miyake K, Higuchi T, Oshiro H, Zhang Z, Sugisawa N, Park JH, Razmjooei S, Katsuya Y, Barangi M, Li Y, Nelson SD, Murakami T, Homma Y, **Hiroshima Y**, Matsuyama R, Bouvet M, Chawla SP, Singh SR, Endo I, Hoffman RM. The combination of gemcitabine and docetaxel arrests a doxorubicin-resistant dedifferentiated liposarcoma in a patient-derived orthotopic xenograft model. Biomed Pharmacother. 2019 Sep; 117: 109093. IF=3.743

10 Kawaguchi D, **Hiroshima Y**, Kumamoto T, Mori R, Matsuyama R, Ichikawa Y, Inayama Y, Endo I. Effect of Portal Vein Ligation Plus Venous Congestion on Liver Regeneration in Rats. Ann Hepatol. 2019 Jan - Feb; 18(1): 89-100. IF=1.895

11 Murakami T, **Hiroshima Y**, Matsuyama R, Homma Y, Hoffman RM, Endo I. Role of the tumor microenvironment in pancreatic cancer. Ann Gastroenterol Surg. 2019 Jan 4; 3(2): 130-137. IF=

12 Kikuchi Y, Matuyama R, **Hiroshima Y**, Murakami T, Bouvet M, Morioka D, Hoffman RM, Endo I. Surgical and histological boundary of the hepatic hilar plate system: basic study relevant to surgery for hilar cholangiocarcinoma regarding the "true" proximal ductal margin. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2019 May; 26(5): 159-168. IF=2.353

13 Miyake K, Kiyuna T, Kawaguchi K, Higuchi T, Oshiro H, Zhang Z, Wangsiricharoen S, Razmjooei S, Li Y, Nelson SD, Murakami T, **Hiroshima Y**, Matsuyama R, Bouvet M, Chawla SP, Singh SR, Endo I, Hoffman RM. Regorafenib regressed a doxorubicin-resistant Ewing's sarcoma in a patient-derived orthotopic xenograft (PDOX) nude mouse model. Cancer Chemother Pharmacol. 2019 May; 83(5): 809-815. IF=3.008

14 Miyake K, Kiyuna T, Li S, Han Q, Tan Y, Zhao M, Oshiro H, Kawaguchi K, Higuchi T, Zhang Z, Razmjooei S, Barangi M, Wangsiricharoen S, Murakami T, Singh AS, Li Y, Nelson SD, Eilber FC, Bouvet M, **Hiroshima Y**, Chishima T, Matsuyama R, Singh SR, Endo I, Hoffman RM. Combining Tumor-Selective Bacterial Therapy with Salmonella typhimurium A1-R and Cancer Metabolism Targeting with Oral Recombinant Methioninase Regressed an Ewing's Sarcoma in a Patient-Derived Orthotopic Xenograft Model. Chemotherapy. 2019; 63(5): 278-283. 2019 Jan 23. IF=1.45

15 Miyake K, Kiyuna T, Miyake M, Kawaguchi K, Zhang Z, Wangsiricharoen S, Razmjooei S, Oshiro H, Higuchi T, Li Y, Nelson SD, Murakami T, **Hiroshima Y**, Kumamoto T, Matsuyama R, Bouvet M, Singh SR, Chawla SP, Endo I, Hoffman RM. Gemcitabine combined with docetaxel precisely regressed a recurrent leiomyosarcoma peritoneal metastasis in a patient-derived orthotopic xenograft (PDOX) model. Biochem Biophys Res Commun. 2019 Feb 19; 509(4): 1041-1046. IF=2.705

学会等発表

1 **廣島幸彦**、笠島理加、木村弥生、河村大輔、石川俊平、遠藤　格、宮城洋平：Impact of comprehensive cancer-stromal interactome analysis in pancreatic cancer. 第78回日本癌学会学術総会，京都，9/2019

放射線診断技術科

学会等発表

1 **木幡良子**：夏休み中学生対象講座"君もレントゲン博士"放射線技師の目線から．第58回全国自治体病院学会，徳島，10/2019

2 **長瀬智明**：放射性ヨウ素カプセル溶解の危険性評価．第39回日本核医学技術学会総会学術大会，愛媛，10/2019

放射線治療技術科

学会等発表

1 小倉昌也，加藤弘之，蓑原伸一，鴇矢祐治，大澤幸夫，井手紳介：重粒子線治療における省力的なスケジューリングシステムの構築．日本放射線腫瘍学会第32回学術大会，名古屋，11/2019

2 綿貫宗壽，白戸友和，谷口大樹，大澤幸夫，井手紳介：全身照射のバックアップシステム構築に向けた検討．第58回全国自治体病院学会，徳島，10/2019

物理工学科

学会等発表

1　**Y. Kusano**，**S. Minohara**，**Y. Matsuzaki**，**Y. Miyasaka**，**Y. Takayama**，D. Yoshida，T. Kamada，H. Katoh：Clinical use of In-Room CT in i-ROCK，第118回日本医学物理学会学術大会，福井，9/2019

2　只野喬介、豊原尚実、**蓑原伸一**、下野義章、五東弘昭：PVA-KIゲルの重粒子線に対する線量応答とLET 依存性との関係性の解明、日本化学会第9回CSJ化学フェスタ、東京、10/2019

3　林　和哉、豊原尚実、**蓑原伸一**、下野義章、五東弘昭：重粒子線に対する色素ゲル線量計の線量応答評価、日本化学会第9回CSJ 化学フェスタ、東京、10/2019

4　只野喬介、林　和哉、豊原尚実、五東弘昭、**蓑原伸一**、**草野陽介**、下野義章：各種3Dゲル線量計の重粒子線に対する線量応答の比較と3D分布 第8回3Dゲル線量計研究会、東京、11/2019

5　豊原尚実、五東弘昭、林　和也、只野喬介、**蓑原伸一**、下野義章：重粒子線を照射したゲル線量計の呈色とラジカル濃度の考察、第8回3Dゲル線量計研究会、東京、11/2019

6　**宮坂友侑也**、**草野陽介**、**蓑原伸一**、加藤弘之、吉田大作、鎌田　正：頭頸部癌粒子線治療のRobust治療計画のための最適なCT値置換法の検討、日本放射線腫瘍学会第32回学術大会、名古屋、11/2019

7　土田圭祐、**蓑原伸一**、**草野陽介**、加納希生、阿武　和、高草木陽介、溝口信貴、芹澤慈子、吉田大作、鎌田　正、加藤弘之：同室CTを用いた前立腺癌重粒子線治療の線量分布検証、日本放射線腫瘍学会第32回学術大会、名古屋、11/2019

8　加納希生、**蓑原伸一**、**草野陽介**、阿武　和、高草木陽介、溝口信貴、芹澤慈子、吉田大作、鎌田　正、加藤弘之：前立腺癌に位する重粒子線治療計画における2門照射方の確立、日本放射線腫瘍学会第32回学術大会、名古屋、11/2019

9　豊原尚実、五東弘昭、三橋舞子、林　和哉、只野喬介、**蓑原伸一**、下野義章、宮本真哉：炭素線ビームを照射したゲル線量計の三次元吸収線量分布の評価、日本原子力学会2019年秋の大会、富山、11/2019

10　**Y. Matsuzaki**, **S. Minohara**, **E. Takeshita**, T. Shimoju, **Y. Kusano**, **Y. Miyasaka**, **Y. Takayama**：Simulation of practical dose distribution with respiratory-gated carbon-ion radiotherapy by PCR method, Particle Therapy Co-operative Group Asia-Oceania, Osaka, 12/2019

11　K. Tsuchida, **S. Minohara**, **Y. Kusano**, K. Kano, W. Anno, Y. Takakusagi, N. Mizoguchi, I. Serizawa, D. Yoshida, T. Kamada1, H. Katoh：Verification of dose distribution in carbon-ion radiotherapy for prostate cancer using daily in-room computed tomography, Particle Therapy Co-operative Group Asia-Oceania, Osaka, 12/2019

12　K. Kano, **S. Minohara**, **Y. Kusano**, W. Anno, Y. Takakusagi, N. Mizoguchi, I. Serizawa, D. Yoshida, T. Kamata, H. Katoh：Comparison of 4-port and 2-port methods for Carbon-ion Radiotherapy Treatment for Prostate Cancer, Particle Therapy Co-operative Group Asia-Oceania, Osaka, 12/2019

13　**S.Minohara**, **Y. Kusano**, **E. Takeshita**, **Y. Matsuzaki**, **Y. Miyasaka**, **Y. Takayama**：Facility performance for initial three years in i-ROCK, Particle Therapy Co-operative Group Asia-Oceania, Osaka, 12/2019

14　豊原尚実、五東弘昭、林　和哉、只野喬介、**蓑原伸一**、**草野陽介**、下野義章、宮本真哉：治療計画により重粒子線を照射したゲル線量計の吸収線量分布測定の検討、日本原子力学会2020年春の年会、福島、3/2020

その他出版物

1　蓑原伸一：第117回日本医学物理学会学術大会報告、医学物理Vo.39(2)、pp.50-53、2019

2　蓑原伸一：「腫瘍の「顔」をとらえる―生物学的不均一性に応じた放射線治療の幕開け―」特集号に寄せて、医学物理Vol.40(1)、pp.1-2、2020

検　査　科

学会等発表

1　**酒井麻衣**、内山亜弥、**那須隆二**、**杉﨑加奈**、能條　潤、**北村和久**、**岩撫成子**、大久保陽一郎、加藤久盛、横瀬智之：当院におけるASC-USの現状とそこからみえる細胞像、第60回日本臨床細胞学会春期大会、新宿、6/8・9

2　**杉﨑加奈**、**酒井麻衣**、**那須隆二**、**北村和久**、鈴木理樹、小澤雅代、加藤久盛、横瀬智之：高異型度神経内分泌癌と類内膜癌からなる子宮体部混合癌の一例、第38回神奈川県臨床細胞学会学術集会、横浜、11/23

3　**酒井麻衣**：スライドカンファレンス　出題、第38回神奈川県臨床細胞学会学術集会、横浜、11/23

4　**岡部雅一**：患者安全ガイド（輸血編）Version2.0を作成して、第67回日本輸血･細胞治療学会学術総会、熊本、5/23・24・25

5　**金　錦麗**：当院のコンピュータークロスマッチ導入効果について、第58回全国自治体病院学会、徳島、10/24・25

栄養管理科

学会等発表

1　**田中明美**, **永岡澄音**, **村松美穂**, **平山麻実子**, **須原広子**, **藤井理恵薫**, 村上修司　山田耕三：アファチニブの「副

作用；消化器症状」の対策におけるチーム医療．第22回神奈川NSTフォーラム，神奈川県，11/2019

2　**阿部栞里**，**伊藤洋平**，**藤井理恵薫**，成川明子，村田美梨，緒方文子，得みさえ，大野瑞穂，小林　智，上野　誠：膵がん・胆道がん教室～栄養料理教室の取り組み．膵がん教室ワークショップ，大阪府，12/2019

3　**秋山紘槻**，**伊藤洋平**，**藤井理恵薫**，堀井三儀，神谷真梨子，上岡祐人，村川正明，山本直人，森永総一郎：膵術後食導入後の評価，日本病態栄養学会，京都府，1/2020

4　**田中明美**，**永岡澄音**，**村松美穂**，**平山麻実子**，**須原広子**，**藤井理恵薫**，村上修司　山田耕三：アファチニブ治療患者に対する外来栄養指導時の栄養評価と体組成変化率の評価，日本病態栄養学会，京都府，1/2020

5　**永岡澄音**　**藤井理恵薫**：大腸がん術後患者の退院後一年までの体重と摂取量の推移，日本病態栄養学会，京都府，1/2020

6　**伊藤洋平**，**藤井理恵薫**，光永幸代，尾形高志：がん専門病院における同種造血幹細胞移植前患者のGLIM criteriaを用いた栄養状態の検討，第35回日本臨床栄養代謝学会，京都，2/2020

7　**秋山紘槻**，**伊藤洋平**，**田中明美**，**平山麻実子**，**村松美穂**，**藤井理恵薫**　尾形高志：がん専門病院における膵術前患者のGLIM criteriaを用いた栄養状態の検討，第35回日本臨床栄養代謝学会，京都，2/2020

8　**田中明美**，**伊藤洋平**，**平山麻実子**，光永幸代，尾形高志，**藤井理恵薫**：当院NSTにおける栄養評価基準の検討―GLIMとMUSTとの適合性，第35回日本臨床栄養代謝学会，京都，2/2020

9　**秋山紘槻**，**伊藤洋平**，**村松美穂**，**永岡澄音**，**藤井理恵薫**，堀井三儀，神谷真梨子，上岡祐人，村川正明，山本直人，森永総一郎：膵術後患者における栄養サポートの新体制導入とその結果及び現状，第39回食事療法学会，千葉県，3/2020

著書

1　**藤井理恵薫**：化療を乗り切る料理教室．臨床栄養医歯薬出版，6/2019

2　塩澤　学，**藤井理恵薫**：大腸を切った人のための毎日おいしいレシピ200．株式会社学研プラス，10/2019

薬　剤　科

学会等発表

1　**京谷充崇**：外来化学療法室における薬剤師業務の現状と課題，第17回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，7/2019（ポスター発表）

2　**原田智彦**：神奈川県立病院機構薬剤師レジデント制度の取組みとその評価，第58回全国自治体病院学会学術集会，徳島，10/2019（ポスター発表）

3　**原田智彦**：メルファランを含む造血幹細胞移植前処置治療の悪心・嘔吐に対するオランザピン5mgの有用性の検討，第29回日本医療薬学会学術集会，福岡，11/2019（口頭発表）

4　**齊藤圭祐**：冷所保存の毒薬抗がん剤注射におけるRFIDを使用した在庫管理システム導入後の現状報告，第29回日本医療薬学会学術集会，福岡，11/2019（ポスター発表）

5　**近藤美樹**：MDV analyzerを用いたメルファランを含む造血幹細胞移植前処置治療に対する制吐療法の実態調査，第9回日本薬剤師レジデントフォーラム，東京，3/2020（ポスター発表）

6　**相馬光里**：セツキシマブによる低Mg血症に対し血清Mg値のコントロールに難渋した一例，第9回日本薬剤師レジデントフォーラム，東京，3/2020（ポスター発表）

7　**西崎百合恵**：DA-EPOCH-R療法に対する異なるG-CSF製剤の影響，第9回日本薬剤師レジデントフォーラム，東京，3/2020（ポスター発表）

8　**丸田愛美**：ゲムシタビン＋ナブパクリタキセル併用療法における投与調節方法の比較と影響因子の検討，第9回日本薬剤師レジデントフォーラム，東京，3/2020（ポスター発表）

看　護　局

著書

1　**池内一也**：後腹膜リンパ節郭清術　術前術後の看護．泌尿器 Care＆Cure Uro-Lo 2020 vol.25 no.01，株式会社メディカ出版，125-127，2/2020

2　**谷島和美**：抗精神病薬を使用する患者をケアするうえでの注意点，緩和ケア，青海社，295-301，7/2019

患者医療対話推進室

その他出版物

1　**平田京子**，伊藤清子：「医療メディエーター」の配置と「相談・苦情対策検討会議」の設立による，医療職が働きやすい環境の整備，厚労省いきサポ，4/2020

学会等発表

1　**平田京子**，**金森平和**，**森本　学**，**坂本由紀**，**得　みさえ**：神奈川県立がんセンターにおける相談・苦情検討会議の取組み．第9回日本医療コンフリクト・マネージメント学会，富山，1/2020

第３節　その他の学術講演

テレビ・ラジオ・Web等（メディア）

氏　名	題　　名	メディア名	年　月　日	形　式
〈婦人科〉 加藤久盛	子宮体癌の最新治療と今後の可能性 免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療が本格的にスタート	がんサポート	令和元年７月	取材
〈東洋医学科〉 板倉英俊	漢方フォーラム	記者クラブ	令和元年６月	発表
〈免疫療法科〉 笹田哲朗	ガンの予兆	FLASH（フラッシュ）	令和元年４月23日号	取材
笹田哲朗	「肉腫」治験の対象患者募集 治療法確立へ　県立がんセンター	朝日新聞	令和元年６月	取材
笹田哲朗	味の素、次世代がん治療・診断へ共同研究	日本経済新聞	令和元年11月	取材

講演会等

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
〈腫瘍内科〉 酒井リカ	チーム医療で取り組むがん治療	がん撲滅チャリティー第11回サザンアミシャンソン	令和元年４月	講演
酒井リカ	がん薬物療法部会ピアレビュー； 神奈川県の取り組み	愛知県がん診療連携協議会　第１回PDCAサイクル推進検討部会	令和元年９月	講演
酒井リカ	がん薬物療法にかかわるピアレビュー； 神奈川県がんの取り組み	令和元年度都道府県指導者養成研修・フォローアップ研修	令和元年10月	講演
高橋寛行	移植適応骨髄腫の現状、課題、そして未来	かながわ血液がんフォーラム2019，NPO法人キャンサーネットジャパン	令和元年11月	講演
〈呼吸器外科〉 伊藤宏之	右上葉N2-SST肺癌の根治的放射線化学療法後局所再発に対するサルベージ手術	第20回胸骨正中経路による肺癌手術懇話会，東京	平成31年４月	
伊藤宏之	呼吸器外科手術中の緊急事態に対する対処 ～いつも味方だったものが凶器に変わった瞬間～	第10回イノベーション研究会，大阪，	令和元年５月	
伊藤宏之	CRES3T有害事象報告	第13回N2肺癌･SSTに対する術前導入療法後手術の臨床試験に関する会議，東京	令和元年７月	
伊藤宏之	肺がん外科治療における新たな低侵襲時代 ～胸腔鏡とロボット支援下手術～	第27回日本がん検診・診断学会コーヒーブレイクセミナー，横浜	令和元年９月	

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
根本大士、伊藤宏之、壷井貴朗、江里口大介、鮫島譲司、永島琢也、中山治彦	上大静脈狭窄を伴う胚細胞腫瘍縦隔リンパ節転移 肺転移の１切除例.	第12回神奈川呼吸器外科研究会，横浜,	令和元年11月	
永島琢也、伊藤宏之、壷井貴朗、江里口大介、根本大士、鮫島譲司、中山治彦	PA支配領域の3D画像シミュレーションとICG静注法を用いた肺区域切除.	第12回神奈川呼吸器外科研究会，横浜,	令和元年11月	
永島琢也	左分岐部郭清後の上部消化管運動機能障害.	第１回東京呼吸器外科ビデオ鑑賞会，東京	令和２年１月	
永島琢也	肺癌低侵襲手術　―当院における手術の変遷と展望―.	第13回General Thoracic Surgical Forum，東京	令和２年１月	
		第二回神奈川次世代呼吸器外科医の会(K-NEXT)横浜	令和元年７月	
		第一回横浜呼吸器外科手術ビデオの会（YL-Video）横浜	令和元年５月	
〈消化器外科・胃食道〉大島　貴	臨床検体を用いたトランスレーショナルリサーチ	横浜市立大学大学院	令和元年７月	講義
大島　貴	胃癌の診断と治療	横浜市立大学	令和元年10月	講義
大島　貴	胃癌治療の現在と未来	福島県立医科大学	令和元年10月	講演
大島　貴	胃癌に対する薬物療法 ―現状とこれからの治療戦略―	第74回日本消化器外科学会学術集会（東京）	令和元年７月	ランチョンセミナー
大島　貴	最近の胃癌治療における化学療法について	第109回消化器内視鏡学会関東支部例会（東京）	令和元年12月	ランチョンセミナー
大島　貴	癌免疫療法におけるバイオマーカー	第２回がん免疫療法セミナー（横浜）	平成31年４月	講演
大島　貴	胃癌検体を用いたトランスレーショナルリサーチ	Gastric Cancer Conference in Yokohama（横浜）	令和元年11月	講演
尾形高士	食道癌の治療について	Japan Esophageal Cancer Expert Input Forum（東京）	平成31年４月	講演
尾形高士	新しい牽引デバイスを用いた食道ESDの経験	第93回神奈川食道疾患研究会（横浜）	令和元年４月	講演

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
尾形高士	食道癌患者の栄養管理	第125回輸液・栄養管理研修会（川越）	令和元年６月	講義
山田貴允	胃癌の化学療法	横浜胃癌臨床基礎セミナー（横浜）	令和元年８月	講演
神尾一樹	胃癌の化学療法	第１回LAGファーラム（横浜）	令和元年７月	講演
〈頭頸部外科〉 古川まどか		平成31年・令和元年度第１回 日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会（第23回頭頸部超音波研究会），金沢	令和元年６月	研究会
古川まどか		平成31年・令和元年度第２回 日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会，名古屋	令和元年６月	研究会
古川まどか		平成31年・令和元年度第３回 日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会（第24回頭頸部超音波研究会），高槻	令和元年11月	研究会
古川まどか		平成31年・令和元年度日本超音波医学会第４回頸部リンパ節転移超音波診断基準研究会，沖縄	令和２年１月	研究会
〈精神腫瘍科〉 横尾実乃里	がん患者さんの死にたい気持ちを考える	静岡県浜松緩和ケア研修会	令和元年９月	講演
〈乳腺内分泌外科〉 岩崎博幸	局所再発・転移分化型甲状腺癌の集学的治療	第31回日本内分泌外科学会（東京）	令和元年６月	ランチョンセミナー
岩崎博幸	実臨床の経験から導き出されたDTC肺転移の導入判断／予後延長のためのATC治療戦略	LENVIMA甲状腺癌Webセミナー（東京スタジオ）	令和２年８月	Webセミナー
岩崎博幸	分子標的薬治療を見据えた局所再発・転移分化型九条線がん手術の考え方術の考え方	第51回日本甲状腺外科学会（東京）	令和元年10月	ランチョンセミナー
岩崎博幸	甲状腺がんにおける分子標的薬の最適な導入タイミングと治療成績	甲状腺がんMeet the expert（仙台市）	令和元年11月	講演
岩崎博幸	QOSに寄与できる最適なTKI導入タイミング	GUNMA Thyroid Cancer Clinical Conference Seminar（前橋市）	令和２年１月	セミナー
岩崎博幸	実臨床の経験から導き出されたDTCのTKI導入判断	福岡甲状腺研究会（福岡市）	令和２年２月	
岩崎博幸	経験とエビデンスに裏打ちされたDTCの治療戦略	第48回中国四国甲状腺外科研究会（下関市）	令和２年２月	ランチョンセミナー

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
〈泌尿器科〉 野口　剛	IO→Axitinib治療中下痢症状のコントロールに難渋した１例	Yokohama Conference in Urology ―RCC― （ファイザー講演会）		講演
野口　剛	TKI治療を行なったmRCCの２例	Kanagawa mRCC Skill Up Seminar 2019 （ノバルティス講演会）		講演
野口　剛	神奈川県立がんセンターにおけるUpfront Abirateronの使用成績	T第２回相模原・西湘エリアHNPC講演会 （アストラゼネカ）		講演
横浜市民病院 青木俊太郎 田尻下紘直 安井将人 寺尾秀行 舩橋　亮 太田純一	pembrolizumab投与後に重度の末梢神経障害を発症した尿管癌の一例	第45回二俣川カンファレンス	令和元年６月	
梅本　晋	Pembrolizumab療法を施行した転移性尿路上皮癌における予後予測因子の検討	第45回二俣川カンファレンス	令和元年６月	
横須賀共済病院 田部井　正	当院における人工尿道括約筋植え込み術の導	第45回二俣川カンファレンス	令和元年６月	
大学院２年 三留　拓	クロマチンリモデリング遺伝子群の異常と腎癌の腫瘍発生	第45回二俣川カンファレンス	令和元年６月	
鈴木孝尚	私と排尿障害	第45回二俣川カンファレンス	令和元年６月	
野口　剛	腎癌におけるニボルマブ治療の解析	第45回二俣川カンファレンス	令和元年６月	
横浜市大 大学院２年 軸屋良介	腎癌関連遺伝子FLCN（folliculin）の機能解析 ―研究の進捗状況と展望―	第45回二俣川カンファレンス	令和元年６月	
岸田　健	M0 Pcaに対する内分泌療法	第45回二俣川カンファレンス	令和元年６月	
野口　剛	11th European multidisciplinary congress on urological cancers@Vienna学会報告	第46回二俣川カンファレンス	令和元年12月	
横浜市大 中井川　昇	選択肢が広がった腎癌複合免疫療法をどう考えるか ―ここでしか話せないこと	第46回二俣川カンファレンス	令和元年12月	
横浜市立大学 大学院博士課程 ２年 軸屋良介	家族性腎癌の解析に基づく発癌メカニズムの解明 ―大学院研究の進捗と展望―	第46回二俣川カンファレンス	令和元年12月	
横浜市大 蓮見壽史	腎癌研究の進捗報告	第46回二俣川カンファレンス	令和元年12月	

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
横浜市民病院 安井将人	経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術によるpT1膀胱癌における深達度分類による予後の検討、および当院におけるALA-PDD補助下TURBTの治療経験	第46回二俣川カンファレンス	令和元年12月	
横浜市民病院 安井将人	新規予後予測モデルから見たオリゴメタ前立腺癌の予後	第46回二俣川カンファレンス	令和元年12月	
〈東洋医学科〉 板倉英俊	がんと漢方	神奈川県女性薬剤師会	平成31年４月	講義
板倉英俊	漢方の使い方	瀬谷区医師会学術講演会	平成31年４月	講義
板倉英俊	温病について	藤門会	令和元年５月	講義
板倉英俊	高齢者の漢方	横浜市旭区勉強会	令和元年６月	講義
板倉英俊	夏季にみられる不定愁訴	港北医師会	令和元年７月	講義
板倉英俊	がんと漢方	実践東洋医学講座	令和元年９月	講義
板倉英俊	がんサポートケアと漢方医学	名古屋市立大東洋医学研究会	令和元年10月	講義
板倉英俊	漢方サポーセンターの取組について	放送大学	令和元年12月	講義
〈免疫療法科〉 笹田哲朗	がん免疫治療を知る	第60回科学技術週間　第32回県民のための公開講演会「がん免疫療法の現状と最近の進歩」（横浜）	平成31年４月	講演
笹田哲朗	がん免疫療法の現状とがんワクチン・免疫センターでの取組み	放送大学神奈川学習センター（横浜）	令和元年12月	講演
〈歯科口腔外科〉 光永幸代	病態下の静脈・経腸栄養	第11回神奈川NST専門療法士連絡会 第11回NST専門療法士志望者対象勉強会	令和元年９月	講演
光永幸代	がん専門病院における口腔支持療法の実際	第13回神奈川県歯科医師会・口腔外科　学術集会	令和元年11月	講演
光永幸代	がんの治療を支えるお口のケア～かかりつけ歯科で日頃からお口の管理を！～がん治療での歯科のサポート　薬物療法では？	横浜市歯科医師会市民公開講座	令和元年11月	講演
光永幸代	双方向に意義のある周術期の医科歯科連携を目指して	横浜市泉区歯科医師会医科歯科連携研修会	令和元年12月	講演
光永幸代	乳がん治療に沿った がん医科歯科連携について	鎌倉市歯科医師会医科歯科連携研修会	令和２年１月	講演
〈リハビリテーション科〉 水落和也	教育講演　関節拘縮の基礎とリハビリテーション治療	第３回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会（静岡）	令和元11月	講演
松本充寿	肺がん患者の周術期呼吸管理―呼吸器外科手術における周術期マネジメント―	第４回秋田県肺がんチーム医療研修会（秋田）	令和元年11月	講演

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
須藤奈津子	肺がん患者の周術期呼吸管理 ―合併症の対応、反回神経麻痺―	第４回秋田県肺がんチーム医療研修会（秋田）	令和元年11月	講演
水落和也	がんのリハビリテーションの概要	第３回神奈川がんリハビリテーション研修会（みなと赤十字病院）	令和元年９月	講義
薄井さとみ	周術期リハビリテーション ―乳癌、頭頚部がん―	第３回神奈川がんリハビリテーション研修会（みなと赤十字病院）	令和元年９月	講義
水落和也	化学療法・放射線療法の合併症とリスク管理、骨転移患者への対応	第３回神奈川がんリハビリテーション研修会（みなと赤十字病院）	令和元年９月	講義
渡邉知美	ADL/IADL障害に対する対応とリハビリテーション	第３回神奈川がんリハビリテーション研修会（みなと赤十字病院）	令和元年９月	講義
結城　士	作業療法演習	神奈川県立保健福祉大学作業療法科非常勤講師作業療法演習	令和元年10月	演習
水落和也	がんのリハビリテーションと栄養管理	NST専門療法士実地修練講義（神奈川県立がんセンター）	令和元年10月	講義
須藤奈津子	摂食嚥下・嚥下評価	NST専門療法士実地修練講義（神奈川県立がんセンター）	令和元年10月	講義
水落和也	がんのリハビリテーション概論	令和元年度がん患者支援講座（県立保健福祉大実践教育センター）	令和元年12月	講義
上原立資， 結城　士	基礎知識から病期別のリハビリテーションの実際	令和元年度がん患者支援講座（県立保健福祉大実践教育センター）	令和元年12月	講義
〈がんゲノム診療科〉 廣島幸彦	がんゲノム医療とは ―遺伝子パネル検査保険収載に向けて―	第１回神奈川県がん相談員研修会	令和元年５月	講演
〈物理工学科〉 蓑原伸一	Performance of facility operation at i-ROCK	2019 Yonsei Cancer Center - QST NIRS Joint Symposium,（Seoul）	平成31年４月	招待講演
草野陽介	放射線治療の吸収線量（絶対値）の測定	放射線医学総合研究所第13回医学物理コース（千葉）	令和元年７月	講演
蓑原伸一	Facility set up and introduction, Physics, i-ROCK, Kanagawa	International Training Course on Carbon-ion Radiotherapy 2019（前橋）	令和元年11月	講演

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
〈放射線治療技術科〉 鴇矢祐治	水吸収線量計算とＭＵ値計算	神奈川放射線治療技術研究会	令和元年６月	講演
鴇矢祐治	画像誘導放射線治療　IGRT	第18回神奈川放射線学術大会スキルアップセミナー	令和２年２月	セミナー
〈検査科〉 酒井麻衣	体腔液、骨・軟部	令和元年度神奈川県生活習慣病検診等従事者研修会	令和元年９月	講義・実習
那須隆二	顕鏡実習（細胞診全般）	細胞診専門医資格試験直前講習	令和元年11月	講義
〈栄養管理科〉 藤井理恵薫	症例検討「がん」	病態栄養専門管理栄養士更新用教育セミナー	令和元年６月	講義
藤井理恵薫	がん予防の食生活、がん治療中の食生活の工夫	平成31年度がん患者支援講座	令和元年12月	講義
藤井理恵薫	チーム医療	神奈川県栄養士会生涯教育研修会	令和元年８月	講義
藤井理恵薫	第６回モーニングセミナー「がん治療中の食事の工夫」	那須栄養リハビリ研究会	令和元年９月	講演
〈看護局〉 清水夕子	事例を用いたリスク状態及び多重課題を想定した看護実践	統合分野　医療安全 （神奈川県立よこはま看護専門学校）	令和元年12月	演習
植村敏子	がん看護	がん看護方法論（神奈川県立衛生看護専門学校）	令和元年７月	講義
大川早苗	がん看護	がん看護方法論（神奈川県立衛生看護専門学校）	令和元年10月	講義
中村佐知子	看護過程演習	実習指導者養成講習会（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター）	令和元年８月	グループワークアドバイザー
古矢尚子	ペインコントロールと看護	がん性疼痛緩和（神奈川県立衛生看護専門学校）	令和元年10月	講義
出井あゆみ	女性生殖器機能障害をもつ人の看護　乳腺	成人看護方法論Ⅳ（神奈川県立衛生看護専門学校）	令和元年11月	講義
市川　淳	呼吸器病棟看護師の介入の実際	肺癌周手術期における呼吸機能管理（第３回秋田県肺がんチーム医療研究会）	令和元年11月	講義
浅野あさみ	終末期の看護について	成人看護学Ⅵ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	令和元年６月	講義・病棟見学

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
浅野あさみ	終末期のがん患者のこどもへの関わり	2019年度 訪問看護のための緩和ケア研修会（神奈川県立がんセンター緩和ケアセンター）	令和元年12月	講義
浅野あさみ	緩和ケア	2019年度がん看護専門研修ベーシックコース（神奈川県立がんセンター看護局）	令和２年１月	講義
大政智枝	成人期の看護問題と看護の専門性について（がん看護）	成人看護学（急性期）（神奈川県立保健福祉大学）	令和元年11月	講義
大政智枝	造血幹細胞移植を受ける患者の看護	がん看護学特講Ⅲ（横浜市立大学大学院）	令和元年12月	講義
瀬畑善子	乳がん看護の質の向上を目指した取り組み～外来の活動を通して～	ランチョンセミナー（第17回乳癌学会近畿地方会）	令和元年12月	講演
渡邊千景	「急性疼痛マネジメントについて」	成人看護学（急性期）Ⅱ 神奈川県立保健福祉大学	令和元年５月	講義
大高良子	最新の放射線療法の看護	2019年度がん患者支援講座（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター）	令和元年９月	講義
大高良子	がん放射線療法の看護	がん看護ベーシック講座（神奈川県立がんセンター）	令和元年６月	講義
大高良子	放射線療法をうけている人の看護	第16回がんとともに生きる人の看護③（神奈川県立平塚看護大学校）	令和２年１月	講義
シュワルツ史子	最新の放射線療法の看護	2019年度がん患者支援講座（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター）	令和元年９月	講義
シュワルツ史子	放射線治療とその看護	がん看護化学特論Ⅲ（横浜市立大学大学院医学研究科）	令和元年10月	講義
シュワルツ史子	コンサルテーションと組織の課題	コンサルテーション論（東京慈恵会医科大学大学院）	令和元年12月	講義
シュワルツ史子	がん看護の魅力を語る	ナーシング･サイエンス･カフェ（第34回日本がん看護学会学術集会）	令和２年２月	講演
関　宣明	訪問看護師のためのストーマケア	訪問看護師養成講習会（神奈川県看護協会）	令和元年６月	講義・演習

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
関　宣明	ストーマサイトマーキング・ストーマケア演習	神奈川ストーマリハビリテーション講習会（神奈川ストーマ研究会）	令和元年７月	演習
関　宣明	ストーマケア	成人看護学Ⅱ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	令和元年９月	講義・演習
関　宣明	ストーマとそのケアに関する基礎知識	介護サービス担当者のためのストーマケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和元年９月	講義・演習
関　宣明	ストーマとそのケアに関する基礎知識	介護サービス担当者のためのストーマケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和２年１月	講義・演習
山本香奈恵	終末期の看護	成人看護学Ⅳ（神奈川県立衛生看護専門学校）	令和元年10月	講義
坪井　香	がん看護分野におけるがん化学療法を受ける患者の症状マネジメントと安全な薬物の管理	臨床薬理（北里大学大学院看護学研究科）	令和元年５月	講義
坪井　香	がん薬物療法看護学演習	がん看護学演習２（横浜市立大学大学院）	令和元年６月	講義
坪井　香	がん看護援助論	がん看護学特講３、５（横浜市立大学大学院）	令和元年10月	講義
坪井　香	化学療法を受けている人の看護	健康段階別看護論Ⅱ（神奈川県立平塚看護大学校）	令和２年１月	講義
勝呂加奈子	基礎研修Ⅲ	がん専門相談員基礎研修（国立がん研究センターがん対策情報センター）	令和元年９月	GWファシリテーター
勝呂加奈子	研修企画	がん専門相談員指導者研修（国立がん研究センターがん対策情報センター）	令和元年６月	GWファシリテーター
勝呂加奈子	がんの親を持つ子どもへ病気を伝えること	訪問看護のための緩和ケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和元年12月	講義
勝呂加奈子	がん相談支援センターにおけるAYA世代への支援	第11回市民公開講座（神奈川県立がんセンター）	令和２年１月	講義
村田　美梨	“自分らしく”を支える ～がんと共に生きる　治療と生活の両立～	がん患者支援講座（神奈川県立保健福祉大学・実践教育センター実践教育部）	令和２年２月	講義
得　みさえ	都道府県がん診療連携拠点病院、県内のがんゲノム医療に関する相談体制について	情報提供相談支援部会（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会）	令和元年12月	講演

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
山内桂子	第６回院内における地域連携の現状とあり方 第７回ケースから見る院内調整をめぐる諸問題とその関わり	在宅看護論Ⅳ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	平成31年４月	講義
山内桂子	第18回がんとともに生きる人の看護⑤療養生活に向けた看護	健康段階別看護論Ⅱ（神奈川県立平塚看護大学校）	令和２年１月	講義
山内桂子	療養場所の選択と地域連携	緩和ケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和元年９月	講義・グループワーク
山内桂子	在宅療養支援～がん患者の在宅への移行支援について（医療保険、介護保険を中心に）	がん看護専門研修ベーシックコース（神奈川県立がんセンター）	令和元年12月	講義
山口里枝	終末期の看護の実際	成人看護学Ⅵ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	令和元年６月	講義
山口里枝	がん患者への支援	第12回神奈川県立がんセンター緩和ケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和元年９月	講義
舛田佳子	ストーマケア	訪問看護師養成講習会（神奈川県看護協会）	令和元年６月	講義・演習
舛田佳子	緩和ストーマケア	神奈川ストーマリハビリテーション講習会（神奈川ストーマ研究会）	令和元年７月	講義
舛田佳子	ストーマケア	成人看護学Ⅱ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	令和元年９月	演習
舛田佳子	ストーマの異常	介護サービス担当者のためのストーマケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和元年９月	講義・演習
舛田佳子	ストーマとそのケアに関する基礎知識	介護サービス担当者のためのストーマケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和２年１月	講義・演習
谷島和美	１　社会人として求められるコミュニケーション ２　ストレスとセルフケア	自己支援研修ⅡⅢ（神奈川県立循環器呼吸器病センター）	令和元年５月、９月	講義 グループワーク
谷島和美	１　自分のことを知ろう ２　ストレスマネジメントについて考えよう ３　看護師になるみなさんに伝えておきたいこと	“看護学生のメンタルヘルス”（神奈川県立よこはま看護専門学校）	平成31年３月、令和元年６月、12月	講義 グループワーク

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
谷島和美	がん患者および家族の精神的看護	がん看護特講Ⅰ（横浜市立大学大学院）	令和元年７月	講義
谷島和美	がん専門病院におけるリエゾンナースの活動	精神看護特講Ⅳ（横浜市立大学大学院）	令和元年７月	講義
谷島和美	サイコオンコロジー領域におけるコンサルテーション活動	コンサルテーション（横浜市立大学大学院）	令和元年11月	講義
平澤真弓	ストーマサイトマーキング・ストーマケア演習	神奈川ストーマリハビリテーション講習会（神奈川ストーマ研究会）	令和元年７月	演習
平澤真弓	ストーマケア	成人看護学Ⅱ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	令和元年９月	講義・演習
平澤真弓	ストーマとそのケアに関する基礎知識	介護サービス担当者のためのストーマケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和元年９月	講義・演習
平澤真弓	ストーマとそのケアに関する基礎知識	介護サービス担当者のためのストーマケア研修会（神奈川県立がんセンター）	令和２年１月	講義・演習
古谷亜由美	学内演習	感染管理認定看護師教育課程（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター）	令和元年11月	演習
塩澤　綾	看護倫理	看護のための倫理学（神奈川県立よこはま看護専門学校）	令和元年10月、11月	講義・演習
塩澤　綾	がん薬物療法看護学：消化器がん（大腸がん）の薬物療法と有害事象のマネジメント）	がん看護学特講Ⅴ（横浜市立大学大学院）	令和元年11月	講義・演習
清水奈緒美	がん診療連携拠点病院の役割と地域連携	がん患者支援講座（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター）	令和元年９月	講義
清水奈緒美	がん患者の就労支援	肺癌治療における患者サポートを考える会（神奈川県立循環器呼吸器病センター）	令和元年10月	講義
清水奈緒美	がん看護学特講Ⅲ	がん看護CNSコース（横浜市立大学大学院）	令和元年10月	講義
清水奈緒美	がん看護学特講Ⅳ	がん看護CNSコース（横浜市立大学大学院）	令和元年10月	講義
清水奈緒美	がん患者の意思決定支援	教育研修会（神奈川県看護協会）	令和元年11月	講義・演習

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
清水奈緒美	看護管理における倫理	認定看護管理者教育課程セカンドレベル（神奈川県看護協会）	令和元年11月	講義・演習
清水奈緒美	がん看護学演習Ⅲ	がん看護CNSコース（神奈川県立保健福祉大学大学院）	令和元年12月	演習
清水奈緒美	特別企画　癌患者の就労支援	第60回日本肺癌学会学術集会（日本肺癌学会）	令和元年12月	パネルディスカッション
清水奈緒美	がん患者の就労支援	がん看護インテンシブコースⅡ（中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム）	令和元年12月	シンポジウム
清水奈緒美	外来で治療を受けている人の看護	健康段階別看護論Ⅱ（神奈川県立平塚看護大学校）	令和２年１月	講義
清水奈緒美	高齢がん患者の意思決定支援「はじめの一歩」	第15回看護職のための神奈川緩和ケア研究会研修会（看護職のための神奈川緩和ケア研究会）	令和元年12月	講義・演習
清水奈緒美	働き世代のがんサバイバー支援	がんプロ看護セミナー（琉球大学医学部）	令和２年１月	講義
清水奈緒美	がん患者の思い・意思決定を支えるコミュニケーションスキル（実践編）	第４回臨床看護スキルアップセミナー（名桜大学看護実践教育センター）	令和２年１月	講義
丹下純子	統合演習Ⅲ	サードレベル（神奈川県立保健福祉大学　実践教育センター認定看護管理者教育課程）	令和元年９月	グループワーク
丹下純子	統合演習Ⅱ	セカンドレベル（神奈川県看護協会認定看護管理者教育課程）	令和元年11月、12月、令和２年１月、２月	グループワーク

第４節　公的研究費による研究一覧

１　厚生労働省・文部科学省・日本医療研究開発機構

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立
主任研究者名(所属)：淺村尚生
分担研究者名(所属)：伊藤宏之（呼吸器外科）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：非浸潤または小型非小細胞肺がんに対する機能温存手術の確立に関する研究
主任研究者名(所属)：渡辺俊一
分担研究者名(所属)：伊藤宏之（呼吸器外科）

研　究　費　名：東京大学医科学研究所　治験実施業務委託費
課　　題　　名：非小細胞肺がんの根治に向けた術後補助化学療法後の新規ペプチドワクチン維持療法の開発研究
主任研究者名(所属)：醍醐弥太郎
分担研究者名(所属)：伊藤宏之（呼吸器外科）

研　究　費　名：厚生労働科学研究費補助金
課　　題　　名：未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性および安全性に関する他施設共同研究
主任研究者名(所属)：武藤　学（京都大学）
分　担　課　題：未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性および安全性に関する他施設共同研究 JCOG1009/1010
分担研究者名(所属)：井口靖弘（消化器内科）

研　究　費　名：厚生労働科学研究費補助金
課　　題　　名：消化管悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究
主任研究者名(所属)：島田安博（国立がん研究センター中央病院）
分　担　課　題：食道癌術後難治性吻合部狭窄に対するステロイド併用EBDおよびステロイド併用RICのランダム化比較第Ⅱ/Ⅲ相試験　JCOG1207
分担研究者名(所属)：井口靖弘（消化器内科）

研　究　費　名：厚生労働科学研究費補助金
課　　題　　名：成人固形がんに対する標準治療確立のための基礎研究
主任研究者名(所属)：飛内賢正（国立がん研究センター中央病院）
分　担　課　題：早期食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄予防を目的とする ステロイド内服療法およびステロイド局注療法のランダム化比較第Ⅲ相試験　JCOG1217
分担研究者名(所属)：井口靖弘（消化器内科）

研　究　費　名：厚生労働科学研究費補助金
課　　題　　名：成人固形がんに対する標準治療確立のための基礎研究
主任研究者名(所属)：武藤学（京都大学）
分　担　課　題：臨床病期ＩＡ食道癌の深達度診断における超音波内視鏡の有用性に関する非ランダム化検証的試験 JCOG1604
分担研究者名(所属)：井口靖弘（消化器内科）

研　究　費　名：厚生労働科学研究費補助金
課　　題　　名：成人固形がんに対する標準治療確立のための基礎研究
主任研究者名(所属)：武藤　学（京都大学）
分　担　課　題：局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌（pT1癌）に対するカペシタビン併用放射線療法の単群検証的試験　JCOG1612
分担研究者名(所属)：井口靖弘（消化器内科）

研　究　費　名：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）助成金
課　　題　　名：Connected Industries推進のための協調領域データ共有・AIシステム開発促進事業
主任研究者名(所属)：医療法人ただともひろ胃腸科・肛門科院長 多田智裕
分　担　課　題：AIによる内視鏡画像自動診断システムの実証実験
分担研究者名(所属)：井口靖弘、金田義弘、石田彩花、林　慧（消化器内科）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究
主任研究者名(所属)：金光幸秀（国立がん研究センター）
分　担　課　題　名：小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））、塩澤　学（消化器外科（大腸））

研　究　費　名：臨床研究・治験推進研究事業
課　　題　　名：産学連携全国がんゲノムスクリーニング（SCRUM-Japan）患者レジストリを活用したHER2陽性の切除不能または再発胆道癌に対する医師主導治験
主任研究者名(所属)：森実千種（国立がん研究センター）
分　担　課　題　名：臨床研究・医師主導治験の体制整備
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：革新的がんバイオマーカーラミニンγ2単鎖測定による高悪性度膵がん診断の実用化研究
主任研究者名(所属)：山下太郎（金沢大学）
分　担　課　題　名：血清ラミニンγ2単鎖を用いた高悪性度膵がん診断法の確立
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：急速進行性がん患者・家族と医師の共感的コミュニケーション促進のための統合支援プログラムの有効性を検証する無作為化比較試験
主任研究者名(所属)：藤森麻衣子（国立がん研究センター）
分　担　課　題　名：質問促進リスト（QPL）作成、介入マニュアル作成、プロトコール作成、プロトコール論文作成、QPLと介入マニュアルを用いた介入者養成プログラムを開発、プログラムの実施可能性と予備的有用性を検討、データ集積およびデータ分析によりプログラムの有効性を検討、論文作成、ガイドライン・研修会への反映
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：文部科学省科学研究費助成事業　基盤（B）
課　　題　　名：Precision medicine に向けたゲノム解析に基づく胃がん新分類の試み
主任研究者(所属)：吉田和弘先生（岐阜大学）
分担研究者名：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費助成事業　基盤（C）
課　　題　名：食道胃接合部癌腺癌における個別化治療を目的としたバイオマーカー解析
主任研究者（所属）：佐藤　勉（横浜市立大学）
分担研究者名：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：局所進行食道癌に対して治療の有効性向上を目指した新しい術前治療を確立する研究
主任研究者（所属）：加藤　健（国立がんセンター）
分担研究者名：尾形高士（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：病理学的StageⅡ/Ⅲでvulnerableな80歳以上の高齢者胃癌に対する開始減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験
主任研究者（所属）：吉田和弘先生（岐阜大学）
分担研究者名：山田貴允（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：SS/SEの切除可能胃癌を対象とし大網切除に対する大網温存の無再発生存期間における非劣性を多施設共同ランダム化比較第Ⅲ相試験にて検証
主任研究者（所属）：吉川貴己（国立がんセンター）
分担研究者名：山田貴允（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究
主任研究者名（所属）：金光　幸秀（国立がん研究センター）
分担課題名：小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究
分担研究者名（所属）：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：化学療法にて消失した大腸癌肝転移病変のDW-MRIを用いた術前診断能の妥当性に関する研究
主任研究者名（所属）：塩澤　学（消化器外科・大腸）
分担課題名：日本側の研究の統括と被験者の安全性の確保
分担研究者名（所属）：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：大腸癌肝転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究
主任研究者名（所属）：清水泰博（愛知県がんセンター）
分担課題名：大腸癌肝転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究
分担研究者名（所属）：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：超高齢者社会における治癒困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究
主任研究者名（所属）：濱口哲弥（埼玉医科大学国際医療センター）
分担課題名：高齢者社会における治癒困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究
分担研究者名（所属）：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発
主任研究者名(所属)：伊藤雅昭（国立がん建久センター東病院）
分 担 課 題 名：症例登録
分担研究者名（所属）：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：Borderline resectable 膵癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究
分担研究者名(所属)：森永聡一郎（消化器外科肝胆膵）

研　究　費　名：革新的医療シーズ実用化研究事業
課　　題　　名：日本発放射性薬剤64Cu-ATSMを用いた悪性脳腫瘍に対する革新的治療法の開発研究
主任研究者名(所属)：栗原宏明（放射線診断・IVR科）
分 担 課 題 名：子治験の実施
分担研究者名(所属)：佐藤秀光（脳神経外科）

研　究　費　名：平成31年度（2019年度）基盤研究（C）
課　　題　　名：甲状腺未分化癌患者由来オルガノイドによる新規薬剤感受性予測とバイオマーカーの確立
主任研究者名(所属)：岩崎博幸（乳腺内分泌外科）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構
課　　題　　名：H30 ～ R3・次世代がん医療創生研究事業
主任研究者名(所属)：寺尾泰久（順天堂大学産婦人科）
分 担 課 題 名：子宮体がんリンパ節転移予測診断マーカーを用いた術中迅速検査技術の開発～がんと向き合う女性に優しい個別化医療を目指して～
分担研究者名(所属)：加藤久盛．上野悠太．小澤雅代

研　究　費　名：日本医療研究開発機構
課　　題　　名：H31 ～ R3・新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業
主任研究者名(所属)：松本光司（昭和大学産婦人科）
分 担 課 題 名：思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究
分担研究者名(所属)：近内勝幸．加藤久盛．上野悠太．小澤雅代．内山亜弥．北川雅一．
小野瀬亮

研　究　費　名：日本医療研究開発機構
課　　題　　名：H31 ～ R3・革新的がん医療実用化研究事業
主任研究者名(所属)：渡利英道（北海道大学産婦人科）
分 担 課 題 名：シスプラチンを含む化学療法を施行される子宮がん患者の嘔気・嘔吐に対する六君子湯の効果―プラセボ対照無作為化二重盲検比較検証試験
分担研究者名(所属)：内山亜弥．上野悠太．小澤雅代．北川雅一．近内勝幸．小野瀬亮．加藤久盛

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）
課　　題　　名:ネオアンチゲン特異的な抗腫瘍免疫応答の解析と個別化がん免疫治療への応用（平成29－令和元年度）
主 任 研 究 者 名：笹田哲朗（免疫療法科）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金　挑戦的研究（萌芽）
課　　題　　名：抗PD－１抗体治療後の末梢血Ｂ細胞のレパトア解析と抗原特異性の解明（平成30－令和元年度）
主 任 研 究 者 名：笹田哲朗（免疫療法科）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金　若手研究（B）
課　　題　名：IL-22BP依存性制御性Ｂ細胞がアブスコパル効果に及ぼす影響の検討（平成28－令和元年度）
主任研究者名：氷室秀知（免疫療法科）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
課　　題　名：アミノ酸プロファイルによるがん免疫微小環境の代謝リプログラミング評価とがん免疫治療患者層別化技術の開発（令和元年－令和５年度）
主任研究者名：笹田哲朗（免疫療法科）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：難治性がんにおけるペプチドミクス解析によるネオアンチゲン同定法の確立と個別化がん免疫療法への応用（平成29－令和元年度）
主任研究者名：笹田哲朗（免疫療法科）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　名：難治性肉腫に対するワクチン併用TCR遺伝子改変T細胞輸注療法の多施設共同医師主導治験（平成29－令和元年度）
主任研究者名：影山慎一（三重大学）
分担課題名：治験プロトコルと治験届、治験の実施
分担研究者名：笹田哲朗（免疫療法科）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構・次世代がん医療創生研究事業
課　　題　名：新規マーカーによる悪性中皮腫の精密・早期診断の開発（平成28－令和３年度）
主任研究者名：今井浩三（神奈川県立がんセンター）
分担研究者名：笹田哲朗（免疫療法科）

研　究　費　名：科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　名：膵癌微小環境におけるTGFβシグナリングの制御と腫瘍免疫との関連（2019-2021年度）
主任研究者名：廣島幸彦（がんゲノム診療科）

研　究　費　名：科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　名：膵癌における癌局所免疫が果たす役割の解明（2019-2021年度）
主任研究者名：遠藤　格（横浜市立大学）
分担研究者名：廣島幸彦（がんゲノム診療科）

研　究　費　名：科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　名：膵癌・膵前癌病変における神経軸索ガイダンス因子CRMP4の機能解明（2017-2019年度）
主任研究者名：藪下泰宏（横浜市立大学）
分担研究者名：廣島幸彦（がんゲノム診療科）

2　その他

研　究　費　名：国立がん研究センター研究開発費
課　　題　名：「特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対する標準治療開発に関する研究」
主任研究者（所属）：岡本　勇（九州大学病院呼吸器科）
分担課題名：特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン＋nab－パクリタキセル＋ニンテダニブ療法とカルボプラチン＋nab－パクリタキセル療法のランダム化比較試験
分担研究者名（所属）：加藤晃史（呼吸器内科）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課　　題　名：原発不明がんの検討
主任研究者名(所属)：酒井リカ（腫瘍内科）
分担研究者名(所属)：本橋賢治、高橋寛行、松村彩子、佐久間弘之（腫瘍内科）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課　　題　名：神奈川エリアT細胞リンパ腫レジストリ
主任研究者名(所属)：中村直哉（東海大学）
分　担　課　題　名：当院におけるT細胞リンパ腫と診断された症例の登録事業
分担研究者名(所属)：酒井リカ、本橋賢治、高橋寛行、松村彩子、佐久間弘之（腫瘍内科）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課　　題　名：新たに診断された濾胞性リンパ腫患者に関する多施設前方視的観察研究
主任研究者名(所属)：伊豆津浩二（国立がん研究センター）
分　担　課　題　名：当院において新たに診断された濾胞性リンパ腫患者の登録事業
分担研究者名(所属)：酒井リカ、本橋賢治、高橋寛行、松村彩子、佐久間弘之（腫瘍内科）

研　究　費　名：基盤研究（B）
課　　題　名：腸肝型ヘリコバクター感染と胆道がん・膵がんリスク
主任研究者名(所属)：菊地正悟（愛知医科大学）
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金助成金
課　　題　名：膵癌および胆道癌に対する胆管ステント留置後の閉塞性胆管炎についての研究
主任研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：プロテオミクスによる癌患者の新規血清診断マーカーの開発（臨床応用に向けてのリキッドバイオプシーを用いた局所進行胃癌の高度リンパ節移転に対する補助診断法の開発）
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：胃癌におけるMSI1の術前補助化学療法のレジメン選択マーカーとしての有用性のメカニズム
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：胃癌におけるPRKCⅠ遺伝子の臨床的意義
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：StageⅡ/Ⅲ胃癌におけるESM-1遺伝子の臨床的意義
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：腹腔内洗浄液中microRNA解析による胃癌再発予測マーカーの探索
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：胃癌Patient Derived Tumor Organoid（PDTO）を用いた新規標的分子の探索　かながわ県立病院がん基金助成金
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：腹腔内洗浄液中microRNA解析による胃癌再発予測マーカーの探索
研究担当者名(所属)：渡邊勇人（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金助成事業
課　　題　名：消化器癌症例におけるIGF2BP3の術前補助化学療法のレジメン選択マーカーとしての有用性のメカニズム
主任研究者名(所属)：塩澤　学
分担課題名：
分担研究者名(所属)：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：分葉状頸管過形成（LEGH）の臨床的研究
主任研究者名(所属)：小澤雅代（神奈川県立がんセンター婦人科）
分担課題名：分葉状頸管過形成（LEGH）の臨床的研究
分担研究者名(所属)：内山亜弥．上野悠太．北川雅一．近内勝幸．小野瀬　亮．加藤久盛

研　究　費　名：神奈川県立がんセンター病院臨床研究所共同研究
課　　題　名：膀胱癌におけるEphA2発現の免疫組織学的研究
主任研究者名(所属)：逢坂公人（泌尿器科）

研　究　費　名：神奈川県立がんセンター病院臨床研究所共同研究
課　　題　名：腎細胞癌に対するnivolumab治療における倍マーカー探索
主任研究者名(所属)：野口　剛（泌尿器科）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：進行性尿路上皮癌に対する薬物療法の実態調査
主任研究者名(所属)：岸田　健（泌尿器科）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：腎細胞癌の臨床的特徴と予後に関する後ろ向き観察研究
主任研究者名(所属)：岸田　健（泌尿器科）

研　究　費　名：AMED革新的医療シーズ実用化研究事業
課　　題　名：日本発放射性薬剤64Cu-ATSMを用いた悪性脳腫瘍に対する革新的治療法の開発研究
主任研究者名(所属)：栗原宏明（放射線診断・IVR科）
分担課題名：治験の実施
分担研究者名(所属)：山本弥生、日野彩子（放射線診断・IVR科）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　名：未分化多型肉腫の病理学的所見と予後との関連性に関する解析
主任研究者名(所属)：鷲見公太（病理診断科）

第５節　主催学会・セミナー

セミナー名称：平成30年度　神奈川県がん診療連携協議会
　　がん薬物療法部会ピアレビュー研修
主　　催：神奈川県がん診療連携協議会　がん薬物療法部会長　酒井リカ
学 会 規 模：出席者36名
開催年月日：平成30年８月２日
開 催 場 所：神奈川県立がんセンター管理研究棟５階講堂

セミナー名称：第21回肺がん画像診断セミナー 2018
世　話　人：山田耕三（神奈川県立がんセンター　呼吸器内科）
代　　表：山田耕三／関　順彦（神奈川県立がんセンター／帝京大学医学部腫瘍内科）
学 会 規 模：出席者（スタッフ・講師含め）100名
開催年月日：2018年９月16日～ 17日
開 催 場 所：新横浜プリンスホテル（横浜市）

セミナー名称：第４回神奈川婦人科腫瘍カンファレンス
代表世話人：加藤久盛（神奈川県立がんセンター　婦人科）
当番世話人：西井　修（帝京大学溝の口病院　産婦人科）
学 会 規 模：出席者　約60名
開催年月日：2018年２月15日
開 催 場 所：横浜ロイヤルパークホテル

学 会 名 称：第117回日本医学物理学会学術大会／JRC2019合同学術大会として開催
学　会　長：蓑原伸一（物理工学科）
学 会 規 模：医学物理学会会員数2,584名、出席者1,025名／JRC2019全体の参加者数13,000名
開催年月日：2019年４月11日～４月14日
開 催 場 所：パシフィコ横浜（神奈川県）

第６節　県民のための公開行事

Ⅰ　かながわサイエンスサマー行事

テーマ：第６回「君もレントゲン博士！」
日　時：令和元年７月28日㈰
場　所：神奈川県立がんセンター管理・研究棟5階
　　講堂　他
参加者：中学生21人（選抜せず）保護者21人
講　師：放射線診断IVR科：
　　栗原宏明、小嶋大地
　　放射線治療科：阿武　和
　　放射線診断技術科：
　　渡邊　優、片野克彦、大塚叔宏、長瀬智明、
　　清本龍正、青柳佐和子
　　物理工学科：蓑原伸一
　　他施設より：
　　吉田哲雄（神奈川県立足柄上病院）、岡田洋一（都立豊島病院）、永田延江（たちばな台病院）、牧野朋子（癌研有明病院）、黒木一典（杏林大学病院）、立石秀勝（杏林大学病院）、小野貴史（聖マリアンナ医科大学）、竹山信之（昭和大学藤が丘病院）、平井千裕（横浜市立横浜市民病院）
　　その他：
　　郷司綾子（看護部）、高橋佑輔（重粒子線治療管理室）、岩崎将人（総務企画課）、富士フィルムメディカル社員３名
内　容：X線写真、X線透視画像、CT、MRIの画像の成り立ちについて。CTデーターから3Dイメージを作る。IVRについて。IVRの実際を模擬血管で試してみよう。超音波ガイドで針を刺す。など

Ⅱ　市民公開講座等公開行事

第11回市民公開講座「がんを知る」
テーマ：「AYA世代（若年者）のがんを学ぼう」
日　時：令和２年１月18日㈯
場　所：新都市ホール
演題と講師：
１．AYA世代とがん　金森　平和
２．急性白血病　田中　正嗣
３．悪性リンパ腫　本橋　賢治
４．精巣腫瘍　鈴木　孝尚
５．骨軟部腫瘍　比留間　徹
６．婦人科がん　北川　雅一
７．がん相談支援センターにおけるAYA世代への支援
　　勝呂加奈子
８．AYA世代の小児がん患者・経験者の体験を理解すること　竹之内直子（こども医療センター）
来場者数：190名

キッズセミナー
テーマ：「ブラックジャックセミナー」
開催日：令和元年８月３日㈯
場　所：神奈川県立がんセンター　管理・研究棟　講堂
参加者：県内の小中高生42名
講　師：院内関係者
内　容：手術縫合体験、自動縫合器・吻合器の操作演習、内視鏡トレーニング、超音波メスによる模擬手術体験、病理検査体験、手術室体験、重粒子線治療

神奈川糖尿病デー 2019　市民講演会
テーマ：「糖尿病とがん？そんなの関係…あるんです！」
開催日：令和元年11月
場　所：横浜
講　師：堀井三儀

第3章　所　内　研　究　会

第1節　所内カンファレンス一覧（臓器ボード含む）

曜日	名称	時間	場所
月	血液内科腫瘍内科合同抄読会	8：05～	管理研究棟総合診断室
	放射線診断技術科連絡会	8：15～	病院棟1階中央操作室
	放射線治療科新患カンファレンス	8：15～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	緩和ケア病棟入退棟判定会議	11：30～	7E病棟カンファレンス室
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	呼吸器内科病棟カンファレンス	16：00～	総合診断室
	消化器内科肝胆膵カンファレンス	17：00～	4W病棟
	婦人科放射線治療科合同カンファレンス	17：00～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	婦人科医局会	17：15～	管理研究棟総合診断室
火	放射線治療科抄読会	8：15～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	腫瘍分子生物検査室抄読会	9：30～	腫瘍分子生物検査室
	呼吸器外科カンファレンス	15：00～	6W病棟
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	泌尿器科臨床検討会	16：00～	5E病棟
	消化器疾患カンファレンス（大腸・肝胆膵）	16：00～	管理研究棟総合診断室
	緩和ケアチームカンファレンス	16：00～	504会議室
	重粒子線治療計画カンファレンス	16：00～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	腫瘍内科症例検討会	16：15～	5W病棟カンファレンス室
	呼吸器科化学療法カンファレンス	16：30～	呼吸器科医局
	消化管術前症例検討会	17：00～	内視鏡読影室
	乳腺・甲状腺手術症例カンファレンス	17：00～	504会議室
	血液内科・腫瘍内科・移植症例合同カンファレンス	17：00～	7W病棟カンファレンス室
	臨床病理肝胆膵カンファレンス	17：00～19：00（第4）	病理診断部門カンファレンス室
	腫瘍内科放射線治療科合同カンファレンス	17：00～（第2、4週）	重粒子線治療棟カンファレンス室
	腫瘍内科抄読会	17：30～	医局応接室
	消化管術後症例検討会カンファレンス	18：00～	内視鏡読影室
	臨床研究所抄読会（各部門別）	原則各週1回	原則臨床研究所作業室
	臨床研究所研究報告会	16：00～（第2、第4）	管理研究棟中会議室
水	腫瘍免疫化学療法抄読会	8：15～	管理研究棟総合診断室
	緩和ケア病棟入退棟判定会議	11：30～	7E病棟カンファレンス室
	リハビリテーションカンファレンス	16：00～	リハビリテーションセンター
	NST症例検討会	13：00～	301会議室
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	消化器疾患カンファレンス（食道・胃）	16：00～	管理研究棟総合診断室
	前立腺腫瘍カンファレンス（泌尿器科・病理）	17：00～（隔月）	泌尿器科外来
	乳腺術後カンファレンス	17：30～	504会議室
	病理CPC	18：00～（不定期）	病理診断部門カンファレンス室
	MMG読影会	17：00～（不定期）	202会議室
	免疫療法科カンファレンス	17：00～（隔週）	管理研究棟がんワクチン･免疫センター
	エキスパートパネル	17：30～	重粒子線治療棟カンファレンス室
木	泌尿器科抄読会リサーチカンファレンス	7：30～	管理研究棟総合診断室
	頭頸部外科放射線治療科合同カンファレンス	8：00～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	消化器切出症例画像カンファレンス	8：30～	病院棟1階読影室
	がん分子病態学部カンファレンス	13：00～（隔週）	臨床研究所ミーティング室
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	婦人科症例カンファレンス及び病理検討会	16：00～17：30	管理研究棟総合診断室→病理診断室
	腫瘍内科病理検討会	16：00～17：00（第3）	病理診断部門カンファレンス室
	重粒子線治療計画カンファレンス	16：00～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	血液内科症例検討会	17：00～（不定期）	管理研究棟総合診断室
	呼吸器科CT読影カンファレンス	17：00～	病院棟1階読影室
	検査科合同抄読会	17：30～18：30（第4）	検査科技術室
	消化管術前症例検討会	17：30～	内視鏡読影室
	甲状腺薬物療法カンファレンス	17：30～（第2・4）	504会議室
	乳腺・内分泌外科webカンファレンス	19：00～（第3）	504会議室
	遺伝診療科カンファレンス	17：00～（第3）	E03（外来）診察室
	泌尿器科放射線治療科合同カンファレンス	17：30～（第1、3週）	重粒子線治療棟カンファレンス室
	内視鏡治療カンファレンス	18：00～	内視鏡読影室
	胃食道外科抄読会・研究カンファレンス	18：00～	医局応接室
	消化管病棟カンファレンス	18：30～	内視鏡読影室
	神奈川骨軟部腫瘍臨床病理カンファレンス	18：30～（第4）	病理診断部門カンファレンス室
金	肝胆膵血管造影カンファレンス	8：00～8：30	IVR室
	呼吸器科抄読会	8：00～8：30	管理研究棟総合診断室
	麻酔科ICU科勉強会	8：00～8：20	麻酔科医局
	放射線治療科医局会	8：15～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	気管支鏡フィルム検討会	8：30～	管理研究棟総合診断室
	放射線グループカンファレンス	8：30～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	緩和ケア病棟入退棟判定会議	11：30～	7E病棟カンファレンス室
	呼吸器外科抄読会	15：00～16：00	管理研究棟総合診断室
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	臨床病理検討会	15：30～17：00（第4、不定期）	管理研究棟総合診断室
	呼吸器グループカンファレンス	16：00～18：00	管理研究棟総合診断室
	放射線診断技術科技術カンファレンス	17：15～（不定期）	病院棟1階中央捜査室

第2節　所内研究会

1　病院・研究所研究会

研究会名称	演題	演者・講師（所属）	開催年月日
第298回肺がん・呼吸器研究会	最新治療、再診治験のホットなこと！	齋藤春洋（呼吸器内科）	2019. 4. 18
第299回肺がん・呼吸器研究会	肺がんの画像診断 肺癌、肺炎の鑑別	佐藤　功(宇多津病院放射線科)	2019. 5. 16
第300回肺がん・呼吸器研究会	肺がんの胸腔鏡治療：3D画像とICGを用いて	永島琢也（呼吸器外科）	2019. 6. 20
第301回肺がん・呼吸器研究会	Cancer VTE ～その特徴・診断から治療～	波多野　将（東京大学重症心不全治療開発講座特認准教授）	2019. 7. 18
第302回肺がん・呼吸器研究会	肺癌における腫瘍免疫療法の最新情報	倉田宝保（関西医科大学呼吸器腫瘍内科教授）	2019. 9. 19
第303回肺がん・呼吸器研究会	PET-CTの進歩と最新情報！	栗原宏明（放射線科）	2019. 10. 17
第304回肺がん・呼吸器研究会	ゲノム遺伝子パネルをどう活かすか？	廣島幸彦（がんゲノム診療センター）	2019. 11. 21
第305回肺がん・呼吸器研究会	肺がんバイオマーカー検査の現状と課題	横瀬智之（病理診断科）	2019. 12. 19
第306回肺がん・呼吸器研究会	ここまで変わつた肺がんの放射線治療！	吉田大作（放射線治療科）	2020. 1. 16
第307回肺がん・呼吸器研究会	高齢者やIP合併肺癌等の合併症の患者さんに対する肺癌の個別化治療！	池田　慧（神奈川県立循環器呼吸器病センター）	2020. 2. 20
第２回横浜西部消化器カンファランス	早期胃癌に対するESDの実際	井口靖弘（消化器内科）	2019. 7. 11
第３回横浜西部消化器カンファランス	当科におけるサムスカの使用状況	井口靖弘（消化器内科）	2019. 11. 28
第22回神奈川脳神経外科集談会	術中照射施行した巨大転移性頭蓋骨腫瘍の一例	佐藤秀光（脳神経外科）	2020. 2. 15
第２回横浜西部消化器カンファレンス	がんゲノム医療とは―遺伝子パネル検査保険収載に向けて―	廣島幸彦（がんゲノム診療科）	2019. 7. 10
第304回神奈川肺癌・呼吸器研究会	がんゲノム医療とは―遺伝子パネル検査をどう活かすか？	廣島幸彦（がんゲノム診療科）	2019. 11. 21
がんゲノム診療センター・キックオフミーティング	がんゲノム診療センター概要、先進医療NCCオンコパネルの報告他	金森平和（副院長）他	2019. 4. 11
第１回がんゲノムプロファイリング検査・説明会	がんゲノムプロファイリング検査とC-CATの概要、検査の手順他	廣島幸彦(がんゲノム診療科)他	2019. 7. 4
第２回がんゲノムプロファイリング検査・説明会	がんゲノムプロファイリング検査とC-CATの概要、検査の手順他	廣島幸彦(がんゲノム診療科)他	2019. 7. 19

研　究　会　名　称	演　　題	演者・講師（所属）	開催年月日
第3回がんゲノムプロファイリング検査・説明会	がんゲノムプロファイリング検査とC-CATの概要、検査の手順他	廣島幸彦(がんゲノム診療科)他	2019. 8. 5
第1回がん遺伝子パネル検査実施体制研修会	遺伝子パネル検査実施の実際とC-CATへの臨床情報登録他	廣島幸彦(がんゲノム診療科)他	2020. 2. 18

2　看護研究会

研 究 会 名 称	開催年月日	内　　容	演者・講師	出席者数
第1回 看護研究発表会	2019. 9. 25	実践報告 1 「ロボット支援型手術の安全な導入に向けた取り組みについて」 2 「ロボット支援型手術導入における看護師への教育について」	 1　石橋優友　他 2　新家　修　他	59名
第2回 看護研究発表会	2019. 12. 10	看護研究 1 「国内におけるがん患者の就労および就労支援に関する研究の動向と課題の検討（文献レビュー）」 2 「がん看護外来の看護実践内容の分析」 3 「食道がん術後せん妄ハイリスクパスの評価と修正の検討」 4 「重粒子線治療を受けた前立腺がん体験者の情報ニーズと情報探索行動」 ～治療終了後6カ月に焦点を当てて～ 実践報告 1 「全科共通パスを適切に運用していく上で必要なこと」 業務改善 1 「コスト入力漏れについての取り組み」 2 「5Ｓ改善に向けた取り組み」 ～環境整備の習慣化を目指して～ 3 「効率的な人員配置を目指して」 ～内視鏡看護の質向上のために～ 4 「入院当日の入院前問診を通しての学び」 5 「緩和ケア病棟での、安全な食の支援への取り組み」	 1　成川明子 2　山口里枝 3　谷島和美 4　シュワルツ史子・塩澤　綾 1　甲斐康夫 1　松田さゆり 2　角田育子 3　山田裕美 4　加藤里紗 5　谷口真紀	65名
第3回 看護研究発表会	2020. 2. 26 （紙上発表）	実践報告 1 「夜勤業務におけるスタッフ連携強化へのとりくみ」 ～優しい気持ちの確保～ 2　救急外来を受診し入院した「がん患者」への支援に関する研究 ～入院に至った経緯に焦点を当てて～	 1　中村佐知子 2　中村佐知子	

3　臨床腫瘍セミナー

	開催年月日	テーマ	講　　師（所属）	参加者数
第１回	令和元年６月５日	悪性リンパ腫	本橋賢治（血液・腫瘍内科）	25名
第２回	令和元年６月12日	多発性骨髄腫	高橋寛行（血液・腫瘍内科）	31名
第３回	令和元年６月19日	白血病	立花崇孝（血液・腫瘍内科）	25名
第４回	令和元年６月26日	現在の食道がん診療について	尾形高士（消化器外科）	25名
第５回	令和元年７月３日	膵がんの外科治療	山本直人（消化器外科）	35名
第６回	令和元年７月10日	胃がん（外科）	山田高允（消化器外科）	22名
第７回	令和元年７月17日	肺がんの外科治療	永島琢也（呼吸器外科）	25名
第８回	令和元年７月24日	肺がんの薬物治療	村上修司（呼吸器内科）	37名
第９回	令和元年７月31日	頭頸部腫瘍	古川まどか（頭頸部外科）	25名
第10回	令和元年９月４日	大腸がん（外科）	菅野伸洋（消化器外科）	21名
第11回	令和元年９月11日	胆膵がん	小林　智（消化器内科）	23名
第12回	令和元年９月18日	肝がん	福島泰斗（消化器内科）	22名
第13回	令和元年９月25日	胃がん（内科）	林　公博（消化器内科）	14名
第14回	令和元年10月２日	乳がん	山中隆司（乳腺内分泌外科）	41名
第15回	令和元年10月９日	甲状腺がん	菅沼伸康（乳腺内分泌外科）	15名
第16回	令和元年10月16日	子宮がん	上野悠太（婦人科）	21名
第17回	令和元年10月23日	卵巣がん	北川雅一（婦人科）	13名
第18回	令和元年10月30日	前立腺がん	逢坂公人（泌尿器科）	21名
第19回	令和元年11月６日	腎がん	野口　剛（泌尿器科）	20名
第20回	令和元年11月20日	骨軟部腫瘍	比留間　徹（骨軟部腫瘍外科）	16名
第21回	令和元年12月11日	転移性脳腫瘍	山田幸子（脳神経外科）	17名
第22回	令和元年12月18日	原発不明がん	酒井リカ（血液・腫瘍内科）	25名

4　学術セミナー

	開催年月日	テ　ー　マ	講　　師（所属）	参加者数
第１回	平成31年４月10日	ゲノム医療の出口戦略としての 第Ⅰ相試験の可能性などについて	清水俊雄（国立がん研究センター中央病院先進医療科医長）	71名
第２回	令和元年５月15日	核医学 ― Eternal Frontier in Radiology ―	栗原宏明（放射線診断・IVR科部長）	29名
第３回	令和元年５月22日	重粒子線治療：先進医療から保険診療の時代へ	鎌田　正（重粒子線治療センター長）	51名
第４回	令和元年５月29日	患者支援センターでの取り組み『がんを持つ親と子どもへのサポート』クライムプログラムの実施報告	緒方文子、勝呂加奈子（患者支援センターMSW，看護師）	31名

統　　計　　編

（令和元年）

凡　　例

1　記述内容は各暦年の数値である。

2　当センターのカルテは一患者一診療録としている。

3　この内容における字句の定義および算出方法は次のとおりである。

新　患　数	外来における新患者数
外来患者延数	暦年内における毎日の外来患者数を合計した数
一日平均患者数	
外来患者	暦年内の外来患者延数を実外来診療日数で除した数
入院患者	暦年内の入院患者延数を暦日で除した数
入院患者数	暦年内における毎日の新入院患者を合計した数
退院患者数	暦年内における退院患者数（死亡退院も含む。）
入院患者延数	暦年内における毎日（24時現在）の在院患者数を合計した数
病床利用率	病床数に対する入院患者の割合。次の算出方法によった。

$$病床利用率 = \frac{一日平均患者数}{病床数} \times 100 = \frac{入院患者数}{定床数 \times 暦日数} \times 100$$

平均在院日数　　1人の患者が入院してから退院するまでの在院日数で次の算出方法によった。

$$平均在院日数 = \frac{入院患者延数}{（入院患者数 + 退院患者数）\times \frac{1}{2}}$$

病床回転率　　利用病床（病床数×病床利用率）の暦年内回転数で次の算出方法によった。

$$病床回転率 = \frac{（入院患者数 + 退院患者数）\times \frac{1}{2}}{病床数 \times 病床利用率} = \frac{暦日数}{平均在院日数}$$

平均通院回数　　1人の患者の初診から転帰までの通院回数で次の算出方法によった。

$$平均通院回数 = \frac{外来患者延数}{新患実数}$$

院内死亡率　　暦年内における退院患者に対する年間死亡数の比率で次の算出方法によった。

$$院内死亡率 = \frac{年間死亡患者数}{退院患者数} \times 100$$

解剖率　　院内死亡者に対する解剖件数の割合。次の算出方法によった。

$$解剖率 = \frac{年間解剖数}{年間死亡患者数} \times 100$$

表1　診療業務総括表

区分＼年度			令和元年度	平成30年度
病床数（A）			415床	415床
稼働病床数（B）			※※※415床	※※※415床
入院患者	延患者数（C）		137,159人	131,031人
	前年度からの繰越患者数（D）		300人	291人
	当年度内新入院患者数（E）		11,862人	11,478人
	当年度内退院患者数（F）		11,846人	11,469人
	病床利用率	病床 $\frac{(C)}{(A)\times 暦日数}\times 100$	90.3%	86.5%
		稼働 $\frac{(C)}{(B)\times 暦日数}\times 100$	90.3%	86.5%
	平均在院日数 $\frac{(C)}{1/2\,(E+F)}$（G）		11.6	11.4
	病床回転率 $\frac{暦日数}{(G)}$		31.6回	32.0回
外来患者	実患者数（H）		26,477人	25,998人
	延患者数（I）		258,824人	243,867人
	平均通院日数 $\frac{(I)}{(H)}$		9.8日	9.4日
入院・外来患者比率 $\frac{(I)}{(C)}$			1.89	1.86

※　平成23年11月５日より稼動387床
※※　平成24年５月８日より稼動393床
※※※平成25年11月２日より稼動415床

表２　収益的収入及び支出（令和元年度）

⑴がんセンター

収　　入

区　　分	平成 30 年度	令和元年度	増　　減
営業収益	20,380,942,050	22,470,379,185	2,089,437,135
医業収益	18,139,364,743	19,895,472,147	1,756,107,404
入院収益	9,603,913,778	10,129,399,211	525,485,433
外来収益	7,569,780,153	8,641,632,025	1,071,851,872
その他医業収益	965,670,812	1,124,440,911	158,770,099
補助金等収益	19,451,000	36,320,000	16,869,000
運営費負担金収益	2,118,696,000	2,440,286,000	321,590,000
寄附金収益	19,040,124	23,874,333	4,834,209
資産見返負債戻入	84,390,183	74,426,705	△　9,963,478
営業外収益	239,969,463	264,250,565	24,281,102
受取利息及び配当金	1,180	1,101	△　79
運営費負担金収益	133,543,000	147,282,000	13,739,000
その他営業外収益	106,425,283	116,967,464	10,542,181
臨時利益	0	0	0
収入合計	20,620,911,513	22,734,629,750	2,113,718,237

費　　用

区　　分	平成 30 年度	令和元年度	増　　減
営業費用	21,092,314,325	21,742,832,463	650,518,138
医業費用	20,152,377,130	20,635,598,607	483,221,477
給与費	7,583,686,838	7,418,791,723	△　164,895,115
材料費	6,937,007,323	7,656,744,502	719,737,179
うち薬品費	5,711,376,970	6,350,304,270	638,927,300
うち診療材料費	1,207,650,043	1,288,601,402	80,951,359
経費	3,221,560,440	3,297,024,377	75,463,937
減価償却費	1,697,693,610	1,445,971,425	△　251,722,185
研究研修費	712,428,919	817,066,580	104,637,661
寄附金支出	16,884,176	21,099,649	4,215,473
控除対象外消費税	923,053,019	1,086,134,207	163,081,188
営業外費用	267,301,458	213,878,040	△　53,423,418
支払利息及び病院債取扱諸費	267,301,458	213,150,780	△　54,150,678
雑支出	0	727,260	727,260
臨時損失	5,636,622	2,700,758	△　2,935,864
固定資産除却損	5,636,622	2,700,758	△　2,935,864
費用合計	21,365,252,405	21,959,411,261	594,158,856

収　　支

区　　分	平成 30 年度	令和元年度	増　　減
医業損益	△　2,013,012,387	△　740,126,460	1,272,885,927
営業損益	△　711,372,275	727,546,722	1,438,918,997
経常損益	△　738,704,270	777,919,247	1,516,623,517
純損益	△　744,340,892	775,218,489	1,519,559,381

表２　収益的収入及び支出（令和元年度）

⑵重粒子線治療施設

収　　入

区　　分	平成 30 年度	令和元年度	増　　減
営業収益	673,379,404	1,541,670,203	868,290,799
医業収益	601,486,662	933,651,618	332,164,956
入院収益	26,125,000	122,375,000	96,250,000
外来収益	574,473,325	809,971,158	235,497,833
その他医業収益	888,337	1,305,460	417,123
運営費負担金収益	0	536,132,000	536,132,000
資産見返負債戻入	71,892,742	71,886,585	△　6,157
営業外収益	42,495,000	41,855,000	△　640,000
運営費負担金収益	42,495,000	41,855,000	△　640,000
その他営業外収益	0	0	0
臨時利益	0	0	0
収入合計	715,874,404	1,583,525,203	867,650,799

費　　用

区　　分	平成 30 年度	令和元年度	増　　減
営業費用	1,387,474,430	1,601,420,526	213,946,096
医業費用	1,340,398,248	1,548,291,656	207,893,408
給与費	71,116,392	296,013,120	224,896,728
材料費	12,942,648	14,782,266	1,839,618
うち薬品費	673,065	1,022,511	349,446
うち診療材料費	10,315,583	13,759,755	3,444,172
経費	540,163,955	521,337,462	△ 18,826,493
減価償却費	716,175,253	716,158,808	△ 16,445
控除対象外消費税	47,076,182	53,128,870	6,052,688
営業外費用	84,997,004	84,708,025	△ 288,979
支払利息及び病院債取扱諸費	84,997,004	84,708,025	△ 288,979
費用合計	1,472,471,434	1,686,128,551	213,657,117

収　　支

区　　分	平成 30 年度	令和元年度	増　　減
医業損益	△　738,911,586	△　614,640,038	124,271,548
営業損益	△　714,095,026	△　59,750,323	654,344,703
経常損益	△　756,597,030	△　102,603,348	653,993,682
純損益	△　756,597,030	△　102,603,348	653,993,682

表３　診療報酬診療行為別割合（令和元年度）

外　来　収　益　　（単位：円）

行為別＼年度	令和元年度	平成30年度	前年度比
初診料	22,795,087	21,365,523	106.7%
再診料	125,246,220	119,560,221	104.8%
指導料	319,433,101	286,464,607	111.5%
投薬料	366,839,628	292,397,148	125.5%
注射料	4,847,371,662	4,230,784,018	114.6%
検査料	1,225,112,789	1,078,540,929	113.6%
処置及び手術料	139,428,900	122,893,824	113.5%
放射線料	2,187,195,990	1,691,290,155	129.3%
輸血料	24,606,620	30,694,550	80.2%
麻酔料	37,650	34,840	108.1%
その他	76,129,509	72,596,707	104.9%
合計	9,334,197,156	7,946,622,522	117.5%

入　院　収　益　　（単位：円）

行為別＼年度	令和元年度	平成30年度	前年度比
入院料 重症者特別加算 特別食	5,703,931,809	5,511,055,706	103.5%
初診料	492,020	482,220	102.0%
指導料	113,307,483	118,448,807	95.7%
投薬料	122,402,249	83,279,749	147.0%
注射料	688,531,237	551,801,174	124.8%
検査料	155,861,463	152,219,766	102.4%
処置及び手術料	2,357,025,044	2,188,192,783	107.7%
放射線料	311,219,860	260,567,615	119.4%
輸血料	305,882,801	330,770,800	92.5%
麻酔料	406,510,450	391,044,180	104.0%
その他	50,069,126	56,236,473	89.0%
合計	10,215,233,542	9,644,099,273	105.9%

表 4　診療科別外来患者数

科別		区分＼月別	1	2	3	4	5	6
循環器内科		新患者数	1	0	1	2	1	0
		再来患者数	484	528	526	548	540	538
		延患者数	485	528	527	550	541	538
糖尿病内科		新患者数	0	0	1	0	0	0
		再来患者数	198	180	206	206	210	234
		延患者数	198	180	207	206	210	234
呼吸器内科		新患者数	76	90	93	101	81	79
		再来患者数	1,839	1,767	1,823	1,938	1,827	1,718
		延患者数	1,915	1,857	1,916	2,039	1,908	1,797
呼吸器外科		新患者数	9	7	5	9	2	6
		再来患者数	573	701	697	775	738	756
		延患者数	582	708	702	784	740	762
血液・腫瘍内科	血液	新患者数	14	14	10	21	17	10
		再来患者数	361	316	362	299	317	335
		延患者数	375	330	372	320	334	345
	腫瘍	新患者数	18	19	19	26	20	15
		再来患者数	1,016	920	1,052	900	1,032	961
		延患者数	1,034	939	1,071	926	1,052	976
消化器内科	消化管	新患者数	70	64	77	86	56	72
		再来患者数	1,457	1,661	1,686	1,426	1,332	1,440
		延患者数	1,527	1,725	1,763	1,512	1,388	1,512
	肝・胆・膵	新患者数	77	71	83	90	91	63
		再来患者数	2,118	2,095	2,233	2,160	2,119	2,083
		延患者数	2,195	2,166	2,316	2,250	2,210	2,146
消化器外科	胃食道	新患者数	16	12	15	17	15	15
		再来患者数	842	1,013	981	963	1,000	1,006
		延患者数	858	1,025	996	980	1,015	1,021
	大腸	新患者数	17	20	21	18	8	16
		再来患者数	1,031	987	997	1,105	1,151	1,161
		延患者数	1,048	1,007	1,018	1,123	1,159	1,177
	肝・胆・膵	新患者数	2	2	2	4	6	3
		再来患者数	342	331	373	345	362	356
		延患者数	344	333	375	349	368	359
精神腫瘍科		新患者数	0	0	0	0	0	0
		再来患者数	116	99	114	112	120	104
		延患者数	116	99	114	112	120	104
脳神経外科		新患者数	5	3	1	2	2	3
		再来患者数	150	169	135	164	144	169
		延患者数	155	172	136	166	146	172
頭頸部外科（耳鼻・口腔）		新患者数	22	22	23	18	24	25
		再来患者数	634	728	747	679	679	638
		延患者数	656	750	770	697	703	663
眼科		新患者数	0	0	0	0	0	0
		再来患者数	0	0	0	0	0	0
		延患者数	0	0	0	0	0	0
形成外科		新患者数	0	0	1	1	0	0
		再来患者数	108	103	96	114	113	119
		延患者数	108	103	97	115	113	119
皮膚科		新患者数	2	2	2	0	0	0
		再来患者数	130	123	126	129	113	124
		延患者数	132	125	128	129	113	124

（平成31年／令和元年）

（単位：人）

7	8	9	10	11	12	計	1日平均	構成比（%）
1 637 638	0 619 619	1 563 564	0 621 621	1 598 599	0 582 582	8 6,784 6,792	28.1	2.6%
0 251 251	0 225 225	0 188 188	0 213 213	0 201 201	0 216 216	1 2,528 2,529	10.5	1.0%
83 1,841 1,924	86 1,714 1,800	87 1,706 1,793	106 1,980 2,086	95 1,849 1,944	103 1,806 1,909	1,080 21,808 22,888	94.6	8.9%
5 718 723	3 731 734	4 666 670	9 836 845	8 758 766	5 820 825	72 8,769 8,841	36.5	3.4%
10 334 344	17 314 331	18 296 314	18 352 370	11 323 334	10 304 314	170 3,913 4,083	16.9	1.6%
17 1,141 1,158	29 998 1,027	22 1,032 1,054	15 1,106 1,121	19 1,023 1,042	19 1,017 1,036	238 12,198 12,436	51.4	4.8%
79 1,452 1,531	78 1,254 1,332	61 1,203 1,264	60 1,406 1,466	60 1,099 1,159	83 1,158 1,241	846 16,574 17,420	72.0	6.8%
84 2,263 2,347	79 2,270 2,349	75 2,034 2,109	96 2,368 2,464	92 2,178 2,270	97 2,180 2,277	998 26,101 27,099	112.0	10.5%
13 1,035 1,048	6 1,202 1,208	9 1,008 1,017	15 991 1,006	9 1,027 1,036	14 993 1,007	156 12,061 12,217	50.5	4.7%
19 1,101 1,120	13 1,019 1,032	11 1,081 1,092	23 1,240 1,263	15 1,101 1,116	21 1,152 1,173	202 13,126 13,328	55.1	5.2%
3 374 377	4 352 356	2 395 397	1 415 416	7 368 375	4 405 409	40 4,418 4,458	18.4	1.7%
0 104 104	0 110 110	0 109 109	0 128 128	0 116 116	0 106 106	0 1,338 1,338	5.5	0.5%
2 167 169	1 122 123	1 155 156	2 151 153	2 145 147	1 151 152	25 1,822 1,847	7.6	0.7%
36 906 942	26 789 815	35 658 693	29 740 769	36 776 812	28 823 851	324 8,797 9,121	37.7	3.5%
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0.0	0.0%
0 107 107	0 106 106	1 86 87	0 99 99	0 90 90	1 101 102	4 1,242 1,246	5.1	0.5%
1 129 130	0 129 129	0 117 117	1 106 107	1 106 107	1 121 122	10 1,453 1,463	6.0	0.6%

表 4　診療科別外来患者数

（つづき）

科別		区分＼月別	1	2	3	4	5	6
乳腺内分泌外科		新患者数	94	84	75	90	81	70
		再来患者数	2,471	2,470	2,618	2,629	2,660	2,452
		延患者数	2,565	2,554	2,693	2,719	2,741	2,522
婦人科		新患者数	40	50	50	50	38	44
		再来患者数	1,136	1,247	1,184	1,325	1,303	1,255
		延患者数	1,176	1,297	1,234	1,375	1,341	1,299
泌尿器科		新患者数	94	88	70	87	97	100
		再来患者数	1,230	1,106	1,178	1,049	1,212	1,207
		延患者数	1,324	1,194	1,248	1,136	1,309	1,307
骨軟部腫瘍外科		新患者数	30	32	42	28	47	29
		再来患者数	350	422	513	392	381	425
		延患者数	380	454	555	420	428	454
放射線診断・IVR科		新患者数	2	2	0	0	2	0
		再来患者数	5	3	4	3	2	4
		延患者数	7	5	4	3	4	4
放射線治療科	光子線	新患者数	8	7	7	3	4	9
		再来患者数	1,392	1,824	1,552	1,551	1,585	1,613
		延患者数	1,400	1,831	1,559	1,554	1,589	1,622
	重粒子	新患者数	0	0	0	0	1	0
		再来患者数	550	616	583	538	524	622
		延患者数	550	616	583	538	525	622
東洋医学科		新患者数	2	3	8	5	2	6
		再来患者数	312	334	347	370	374	382
		延患者数	314	337	355	375	376	388
免疫療法科		新患者数	0	0	0	0	0	0
		再来患者数	1	0	0	0	0	1
		延患者数	1	0	0	0	0	1
麻酔科		新患者数	1	0	1	1	0	0
		再来患者数	116	104	98	106	121	105
		延患者数	117	104	99	107	121	105
緩和ケア内科		新患者数	2	4	3	2	4	1
		再来患者数	50	45	51	67	53	40
		延患者数	52	49	54	69	57	41
歯科口腔外科		新患者数	58	57	49	61	61	55
		再来患者数	431	492	522	532	541	499
		延患者数	489	549	571	593	602	554
リハビリテーション科		新患者数	0	2	0	0	0	0
		再来患者数	75	84	71	71	83	67
		延患者数	75	86	71	71	83	67
遺伝診断科		新患者数	0	0	0	0	0	0
		再来患者数	12	6	11	16	10	13
		延患者数	12	6	11	16	10	13
がんゲノム診療科		新患者数				0	0	0
		再来患者数				0	0	0
		延患者数				0	0	0
合計		**新患者数**	**660**	**655**	**659**	**722**	**660**	**621**
		再来患者数	**19,530**	**20,474**	**20,886**	**20,512**	**20,646**	**20,427**
		延患者数	**20,190**	**21,129**	**21,545**	**21,234**	**21,306**	**21,048**

（平成31年／令和元年）

（単位：人）

7	8	9	10	11	12	計	1日平均	構成比（%）
77 2,656 2,733	91 2,674 2,765	88 2,519 2,607	100 2,601 2,701	100 2,604 2,704	88 2,549 2,637	1,038 30,903 31,941	132.0	12.4%
65 1,441 1,506	48 1,252 1,300	46 1,297 1,343	54 1,413 1,467	44 1,197 1,241	56 1,316 1,372	585 15,366 15,951	65.9	6.2%
96 1,339 1,435	108 1,232 1,340	95 1,097 1,192	108 1,218 1,326	84 952 1,036	103 1,131 1,234	1,130 13,951 15,081	62.3	5.8%
41 387 428	36 374 410	27 415 442	38 379 417	31 376 407	29 440 469	410 4,854 5,264	21.8	2.0%
1 3 4	1 19 20	1 7 8	1 2 3	2 6 8	4 4 8	16 62 78	0.3	0.0%
6 1,797 1,803	7 1,867 1,874	5 1,276 1,281	10 1,548 1,558	9 1,571 1,580	10 1,623 1,633	85 19,199 19,284	79.7	7.5%
1 774 775	0 787 787	1 770 771	1 908 909	2 872 874	0 913 913	6 8,457 8,463	35.0	3.3%
2 426 428	3 412 415	3 393 396	2 387 389	5 405 410	0 411 411	41 4,553 4,594	19.0	1.8%
1 1 2	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 3 4	0.0	0.0%
0 125 125	0 117 117	1 104 105	1 131 132	1 109 110	0 128 128	6 1,364 1,370	5.7	0.5%
5 56 61	5 44 49	2 48 50	1 52 53	3 44 47	3 71 74	35 621 656	2.7	0.3%
87 569 656	62 608 670	56 506 562	78 562 640	53 553 606	54 543 597	731 6,358 7,089	29.3	2.7%
2 71 73	0 59 59	0 72 72	1 97 98	1 92 93	1 85 86	7 927 934	3.9	0.4%
0 11 11	0 25 25	0 25 25	0 22 22	0 21 21	0 26 26	0 198 198	0.8	0.1%
0 0 0	2 1 3	2 3 5	3 4 7	3 2 5	3 5 8	13 15 28	0.1	0.0%
737 **22,216** **22,953**	**705** **21,425** **22,130**	**654** **19,829** **20,483**	**773** **22,076** **22,849**	**694** **20,562** **21,256**	**738** **21,180** **21,918**	**8,278** **249,763** **258,041**	**1,066.3**	**100.0%**

表５　外来新患者年齢別数（平成31年／令和元年）

（単位：人）

月別 / 年齢別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
～19	2	0	2	8	1	3	3	6	7	3	3	4	42	0.5%
20～29	15	11	14	19	21	13	15	13	13	18	14	13	179	2.2%
30～39	34	28	37	26	26	22	33	34	28	33	33	38	372	4.5%
40～49	72	67	95	78	70	64	94	82	58	85	85	87	937	11.3%
50～59	87	90	102	113	101	99	122	114	101	128	90	103	1,250	15.1%
60～64	64	65	63	70	82	57	59	60	68	73	72	73	806	9.7%
65～69	82	99	110	100	97	80	96	92	80	100	77	96	1,109	13.4%
70～74	117	121	90	115	90	102	106	98	102	137	120	110	1,308	15.8%
75以上	187	174	146	193	172	181	209	206	197	196	200	214	2,275	27.5%
合　計	**660**	**655**	**659**	**722**	**660**	**621**	**737**	**705**	**654**	**773**	**694**	**738**	**8,278**	**100.0%**

表６　外来新患者地域別数（平成31年／令和元年）

（単位：人）

月別 / 市町村別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
横浜市	401	399	433	442	406	387	479	414	419	490	432	479	5,181	62.6%
鶴見区	11	6	3	11	5	5	8	11	4	7	4	5	80	1.0%
神奈川区	11	7	19	19	10	6	10	17	13	15	7	15	149	1.8%
西区	6	6	14	8	3	1	12	6	7	9	8	8	88	1.1%
中区	4	8	8	7	6	6	4	5	5	6	5	2	66	0.8%
南区	9	4	6	9	12	5	16	12	15	18	12	10	128	1.5%
港南区	13	19	11	8	9	13	14	8	8	7	13	10	133	1.6%
保土ヶ谷区	36	33	44	32	27	39	33	29	31	48	26	36	414	5.0%
旭区	132	121	135	130	142	135	174	137	147	152	134	169	1,708	20.6%
磯子区	8	11	5	5	6	5	5	13	7	11	13	10	99	1.2%
金沢区	7	6	6	6	5	3	4	5	3	2	1	8	56	0.7%
港北区	15	12	7	14	11	13	9	11	10	15	12	12	141	1.7%
緑区	14	20	14	9	15	13	22	10	11	23	19	20	190	2.3%
戸塚区	45	31	38	32	39	35	36	36	34	39	28	35	428	5.2%
瀬谷区	43	49	46	60	48	43	48	54	54	59	72	58	634	7.7%
栄区	2	8	6	6	6	5	0	5	4	6	9	4	61	0.7%
泉区	30	34	47	59	38	47	49	37	46	49	49	55	540	6.5%
青葉区	4	12	12	9	15	6	22	9	11	11	11	10	132	1.6%
都筑区	11	12	12	18	9	7	13	9	9	13	9	12	134	1.6%
川崎市	15	23	15	25	21	9	16	14	19	18	12	16	203	2.5%
横須賀市	12	13	13	16	15	13	9	15	12	14	14	19	165	2.0%
平塚市	7	6	4	3	5	5	5	3	3	4	1	8	54	0.7%
鎌倉市	12	11	5	8	13	12	6	10	11	5	6	8	107	1.3%
藤沢市	27	25	31	29	19	25	33	31	28	32	28	22	330	4.0%
小田原市	3	4	4	4	3	2	4	5	7	2	2	5	45	0.5%
茅ヶ崎市	15	8	10	11	9	8	9	10	7	12	10	8	117	1.4%
逗子市	3	5	0	0	1	0	2	0	1	1	3	0	16	0.2%
相模原市	32	24	22	29	35	26	36	33	17	36	24	36	350	4.2%
三浦市	1	3	5	2	3	2	1	0	2	2	3	2	26	0.3%
秦野市	7	4	4	6	2	3	1	4	3	1	5	7	47	0.6%
厚木市	9	9	7	11	4	8	6	4	7	16	17	10	108	1.3%
大和市	34	28	36	41	34	39	29	43	40	45	36	34	439	5.3%
伊勢原市	1	3	3	2	1	5	5	1	2	3	1	2	29	0.4%
海老名市	17	21	10	17	13	17	15	16	18	16	17	11	188	2.3%
座間市	12	14	14	10	13	11	10	22	6	14	10	9	145	1.8%
南足柄市	2	3	0	2	2	2	3	3	3	1	3	2	26	0.3%
綾瀬市	11	8	4	11	11	7	14	17	5	9	12	11	120	1.4%
葉山町	0	0	2	1	0	0	0	0	0	2	1	1	7	0.1%
寒川町	1	1	0	3	4	2	3	3	1	4	2	1	25	0.3%
愛川町	2	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	3	10	0.1%
清川村	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0.0%
大磯町	0	1	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0	6	0.1%
二宮町	0	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	9	0.1%
中井町	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3	0.0%
大井町	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0.0%
松田町	0	0	0	2	2	0	1	0	1	2	0	0	8	0.1%
山北町	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	4	0.0%
開成町	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2	3	0	8	0.1%
箱根町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0%
真鶴町	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.0%
湯河原町	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0.0%
県内計	**625**	**616**	**625**	**681**	**621**	**587**	**692**	**652**	**615**	**732**	**644**	**697**	**7,787**	**94.1%**
県外計	**35**	**37**	**34**	**41**	**39**	**34**	**45**	**53**	**39**	**41**	**50**	**41**	**489**	**5.9%**
総計	**660**	**653**	**659**	**722**	**660**	**621**	**737**	**705**	**654**	**773**	**694**	**738**	**8,276**	**100.0%**

表７　診療科別入院・退院患者数

科別		区分＼月別	1	2	3	4	5	6
循環器内科		入院	0	0	0	0	0	0
		退院	0	0	0	0	0	0
		在院延数	0	0	0	0	0	0
呼吸器内科		入院	110	114	117	97	121	103
		退院	104	101	117	98	105	116
		在院延数	848	825	1,061	834	1,019	1,037
呼吸器外科		入院	36	42	45	42	40	46
		退院	29	39	45	45	37	42
		在院延数	293	367	449	403	384	449
血液・腫瘍内科	血液	入院	25	25	17	25	30	24
		退院	24	19	20	28	31	25
		在院延数	813	739	989	803	823	815
	腫瘍	入院	46	46	44	48	44	54
		退院	38	38	52	44	41	60
		在院延数	686	692	741	727	691	830
消化器内科	消化管	入院	145	118	105	109	110	107
		退院	122	121	120	105	95	116
		在院延数	1,306	1,173	1,128	1,088	967	843
	肝・胆・膵	入院	215	192	202	202	202	189
		退院	187	194	191	197	187	194
		在院延数	1,468	1,395	1,398	1,528	1,558	1,549
消化器外科	胃食道	入院	77	71	72	72	73	59
		退院	61	69	78	73	64	69
		在院延数	949	987	956	920	847	882
	大腸	入院	44	57	45	53	47	54
		退院	37	49	56	53	43	50
		在院延数	600	670	688	733	797	903
	肝・胆・膵	入院	30	20	15	24	21	19
		退院	15	23	19	23	23	23
		在院延数	425	397	393	389	375	310
脳神経外科		入院	14	3	10	12	8	6
		退院	11	6	7	11	7	9
		在院延数	234	147	229	239	155	111
頭頸部外科		入院	28	37	42	33	40	45
		退院	26	29	47	36	39	44
		在院延数	503	496	670	520	472	479
形成外科		入院	5	5	5	5	5	3
		退院	3	5	7	5	5	2
		在院延数	18	20	24	20	20	25
皮膚科		入院	0	0	0	0	0	0
		退院	0	0	0	0	0	0
		在院延数	0	0	0	0	0	0
乳腺内分泌外科		入院	76	60	65	73	69	63
		退院	63	59	69	70	70	53
		在院延数	628	617	605	738	644	695

（平成31年／令和元年）

（単位：人）

7	8	9	10	11	12	計	平均在院日数	構成比（%）
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	—	0.0%
109 98 818	110 109 1,112	106 104 1,003	127 103 1,092	105 114 1,119	99 110 986	1,318 1,279 11,754	9.1	8.5%
50 58 484	42 35 326	37 43 394	49 46 417	41 37 350	51 57 537	521 513 4,853	9.4	3.5%
26 23 896	23 25 855	19 18 813	25 24 769	24 26 786	20 26 772	283 289 9,873	34.5	7.2%
68 59 1,008	75 67 1,053	62 61 1,086	58 62 925	56 63 941	61 68 894	662 653 10,274	15.6	7.4%
106 93 964	92 99 943	100 89 1,058	94 92 1,084	72 80 864	80 89 730	1,238 1,221 12,148	9.9	8.8%
205 187 1,319	185 196 1,297	184 164 1,148	181 180 1,319	232 215 1,514	234 226 1,704	2,423 2,318 17,197	7.3	12.5%
74 64 815	69 72 979	77 73 991	63 73 886	59 47 757	50 63 882	816 806 10,851	13.4	7.9%
52 50 921	54 57 1,091	40 48 830	46 47 734	63 55 863	38 52 666	593 597 9,496	16.0	6.9%
28 21 413	20 25 368	17 18 317	24 20 396	21 21 472	25 33 572	264 264 4,827	18.3	3.5%
10 8 165	7 7 120	7 5 139	11 13 158	11 10 211	9 11 288	108 105 2,196	20.6	1.6%
54 45 533	54 53 749	56 61 620	48 46 510	46 47 578	41 48 469	524 521 6,599	12.6	4.8%
7 8 30	0 0 0	0 0 0	2 1 7	3 3 11	2 3 24	42 42 199	4.7	0.1%
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	—	0.0%
71 67 771	65 71 707	67 64 620	71 67 730	64 69 639	65 73 635	809 795 8,029	10.0	5.8%

表７　診療科別入院・退院患者数

（つづき）

科別		区分＼月別	1	2	3	4	5	6
婦人科		入院	50	44	55	52	64	62
		退院	40	46	48	52	58	63
		在院延数	650	613	727	724	763	770
泌尿器科		入院	109	98	95	82	84	94
		退院	88	94	107	81	85	92
		在院延数	813	725	844	813	669	688
骨軟部腫瘍外科		入院	27	28	24	34	28	34
		退院	22	24	35	31	25	31
		在院延数	350	429	424	344	397	499
放射線治療科	光子線	入院	0	0	0	0	0	0
		退院	0	0	0	0	0	0
		在院延数	0	0	0	0	0	0
	重粒子	入院	0	0	0	0	0	0
		退院	0	0	0	0	0	0
		在院延数	0	0	0	0	0	0
緩和ケア内科		入院	0	9	10	9	7	4
		退院	20	27	27	28	28	21
		在院延数	586	529	609	554	537	594
合計		**入院**	**1,037**	**969**	**968**	**972**	**993**	**966**
		退院	**890**	**943**	**1,045**	**980**	**943**	**1,010**
		在院延数	**11,170**	**10,821**	**11,935**	**11,377**	**11,118**	**11,479**

（平成31年／令和元年）

（単位：人）

7	8	9	10	11	12	計	平均在院日数	構成比（%）
64	64	62	55	58	78	708		
61	67	53	57	66	76	687	12.8	6.5%
704	713	859	867	757	797	8,944		
103	94	101	120	97	97	1,174		
99	86	97	113	109	102	1,153	7.9	6.6%
792	737	782	862	727	721	9,173		
32	29	30	25	25	24	340		
32	32	27	24	27	28	338	14.1	3.5%
413	446	440	355	298	368	4,763		
0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	—	0.0%
0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	—	0.0%
0	0	0	0	0	0	0		
5	1	6	5	7	5	68		
29	19	22	21	34	29	305	22.2	4.9%
599	610	591	603	486	476	6,774		
1,064	984	971	1,004	984	979	11,891		
1,002	1,020	947	989	1,023	1,094	11,886	11.6	100.0%
11,645	12,106	11,691	11,714	11,373	11,521	137,950		

表 8　入院患者年齢階級別数（平成31年／令和元年）

（単位：人）

月別 / 年齢別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
～ 19	2	2	2	4	2	4	1	5	2	1	4	5	34	0.3%
20 ～ 29	16	15	11	17	14	7	12	12	15	14	17	16	166	1.4%
30 ～ 39	18	27	25	30	27	25	30	34	32	37	32	34	351	3.0%
40 ～ 49	80	65	80	90	61	86	106	83	77	73	68	80	949	8.0%
50 ～ 59	141	133	134	157	164	137	158	161	159	142	156	135	1,777	14.9%
60 ～ 64	126	100	109	94	104	119	125	101	110	111	105	127	1,331	11.2%
65 ～ 69	150	172	163	180	175	183	188	151	156	159	146	151	1,974	16.6%
70 ～ 74	198	190	175	176	188	166	179	167	167	217	209	186	2,218	18.7%
75以上	306	265	269	224	258	239	265	270	253	250	247	245	3,091	26.0%
合　計	**1,037**	**969**	**968**	**972**	**993**	**966**	**1,064**	**984**	**971**	**1,004**	**984**	**979**	**11,891**	**100.0%**

表９　入院患者地域別数（平成31年／令和元年）

（単位：人）

市町村別＼月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
横浜市	617	583	578	569	589	577	636	573	592	577	562	579	7,032	59.1%
鶴見区	13	7	7	11	11	8	12	10	10	12	19	11	131	1.1%
神奈川区	20	20	24	22	20	20	20	16	25	25	20	23	255	2.1%
西区	12	10	5	8	8	9	13	2	8	11	11	5	102	0.9%
中区	12	9	7	8	6	8	4	8	4	1	5	3	75	0.6%
南区	23	13	9	10	10	14	13	7	18	13	10	18	158	1.3%
港南区	19	17	11	11	10	14	19	17	19	9	12	16	174	1.5%
保土ヶ谷区	41	48	53	51	41	47	50	45	42	44	35	54	551	4.6%
旭区	182	172	176	185	186	188	192	191	180	179	150	173	2,154	18.1%
磯子区	15	14	11	14	13	9	18	9	16	12	15	9	155	1.3%
金沢区	8	6	10	7	6	4	8	5	4	5	5	6	74	0.6%
港北区	19	19	18	12	18	19	18	11	16	15	12	19	196	1.6%
緑区	25	22	23	27	34	19	26	25	26	25	30	19	301	2.5%
戸塚区	50	48	51	52	50	47	58	52	47	52	46	43	596	5.0%
瀬谷区	68	64	70	64	69	61	59	63	89	73	81	80	841	7.1%
栄区	15	12	13	2	8	17	7	10	12	7	12	10	125	1.1%
泉区	68	64	50	47	55	60	76	64	47	63	61	55	710	6.0%
青葉区	9	13	12	20	19	18	29	24	14	17	17	19	211	1.8%
都筑区	18	25	28	18	25	15	14	14	15	14	21	16	223	1.9%
川崎市	18	16	19	22	19	21	21	14	17	20	21	12	220	1.9%
横須賀市	10	29	15	18	24	19	23	21	17	20	24	27	247	2.1%
平塚市	5	8	18	11	11	8	5	7	4	5	8	15	105	0.9%
鎌倉市	18	19	17	16	17	12	10	23	10	16	8	9	175	1.5%
藤沢市	51	47	49	52	51	46	39	50	40	48	46	50	569	4.8%
小田原市	3	5	6	8	4	9	9	6	3	6	5	4	68	0.6%
茅ヶ崎市	14	21	13	14	21	18	14	8	8	18	18	17	184	1.5%
逗子市	5	3	2	2	1	3	0	0	0	2	4	1	23	0.2%
相模原市	48	38	41	44	47	43	65	52	44	51	61	54	588	4.9%
三浦市	2	3	2	0	5	4	5	5	3	2	4	4	39	0.3%
秦野市	7	11	12	10	7	6	3	6	5	9	11	7	94	0.8%
厚木市	10	10	9	15	17	14	13	11	9	9	13	18	148	1.2%
大和市	62	45	61	68	58	57	68	54	64	68	55	43	703	5.9%
伊勢原市	4	4	4	3	0	1	6	1	7	2	1	5	38	0.3%
海老名市	32	29	21	27	16	22	39	33	29	28	33	27	336	2.8%
座間市	35	27	28	27	35	26	27	25	26	30	22	27	335	2.8%
南足柄市	3	3	3	4	3	2	5	5	7	4	7	2	48	0.4%
綾瀬市	27	16	16	9	7	18	16	25	20	17	19	17	207	1.7%
葉山町	1	1	0	1	1	1	0	0	0	2	1	0	8	0.1%
寒川町	3	5	3	5	4	5	6	9	12	7	10	4	73	0.6%
愛川町	3	0	1	1	6	4	7	4	1	3	2	1	33	0.3%
清川村	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	6	0.1%
大磯町	0	1	0	1	0	1	1	1	1	4	0	0	10	0.1%
二宮町	0	1	2	1	0	1	0	0	0	1	1	1	8	0.1%
中井町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.0%
大井町	2	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	0	7	0.1%
松田町	0	0	0	1	2	1	0	0	1	1	2	0	8	0.1%
山北町	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	1	0	6	0.1%
開成町	1	0	0	0	2	1	1	2	1	2	3	3	16	0.1%
箱根町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.0%
真鶴町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.0%
湯河原町	0	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	5	0.0%
県内計	**982**	**927**	**921**	**930**	**948**	**924**	**1,020**	**937**	**926**	**956**	**943**	**929**	**11,343**	**95.4%**
県外計	**55**	**42**	**47**	**42**	**45**	**42**	**44**	**47**	**45**	**48**	**41**	**50**	**548**	**4.6%**
総計	**1,037**	**969**	**968**	**972**	**993**	**966**	**1,064**	**984**	**971**	**1,004**	**984**	**979**	**11,891**	**100.0%**

表10　科別死亡退院患者数・剖検数

月別		1			2			3			4			5			6		
科別＼性別		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
内科		**2**	**1**	**3**	**1**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**2**	**0**	**2**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**	**1**
		18	**15**	**33**	**13**	**6**	**19**	**17**	**6**	**23**	**22**	**5**	**27**	**16**	**5**	**21**	**18**	**12**	**30**
消化器内科	消化管	5	2	7	4	1	5	5		5	3		3	4		4	3	1	4
	肝胆膵	6	9	15	8	3	11	9	3	12	7	2	9	7	3	10	5	8	13
呼吸器内科		1		1														1	1
		5	2	7	1		1	2	1	3	6	1	7	2	2	4	5	3	8
血液科											2		2						
						1	1	1		1	4	1	5	1		1	3		3
腫瘍内科		1		1															
		2	2	4		1	1		2	2	2	1	3	2		2	2		2
循環器内科																			
外科		**1**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
		7	**3**	**10**	**3**	**4**	**7**	**9**	**6**	**15**	**3**	**5**	**8**	**5**	**2**	**7**	**2**	**4**	**6**
消化器外科	胃食道	1		1															
		2	1	3							1		1	2		2			
	大腸										1		1						
		1		1	1		1	1	2	3	1		1	1	1	2			
	肝胆膵																		
		1		1															
呼吸器外科																			
					2		2												
乳腺内分泌外科																			
						2	2	1	1	2								1	1
婦人科																			
			1	1		1	1		1	1		4	4					3	3
泌尿器科																			
		1	1	2				6	2	8		1	1	1	1	2			
皮膚科																			
頭頸部外科																			
		1		1				1		1				1		1	2		2
形成外科																			
脳神経外科																			
		1		1															
骨軟部腫瘍外科																			
						1	1				1		1						
放射線腫瘍科																			
緩和ケア内科		9	9	18	9	16	25	10	10	20	14	10	24	16	9	25	9	9	18
合計		**3**	**1**	**4**	**1**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**3**	**0**	**3**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**	**1**
		34	**27**	**61**	**25**	**26**	**51**	**36**	**22**	**58**	**39**	**20**	**59**	**37**	**16**	**53**	**29**	**25**	**54**

※　ゴシックは各科合計数　　※　外来剖検数　なし

（令和元年）

上段の数字は剖検数　　剖検率2.4%　（単位：人）

7			8			9			10			11			12			合　計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	2	1	0	1	0	0	0	8	3	11
9	4	13	13	7	20	18	6	24	16	4	20	15	5	20	13	4	17	188	79	267
																		0	0	0
2		2	2		2	1	3	4	3	1	4	3		3	1		1	36	8	44
												1		1				2	1	3
2	2	4	4	1	5	5	2	7	5	1	6	6	3	9	4	2	6	68	39	107
									1		1							2	1	3
5		5	4	3	7	6	1	7	7		7	4	1	5	4		4	51	14	65
										1	1							2	1	3
	1	1	1		1	2		2		1	1	1		1	1		1	14	4	18
						1		1										2	0	2
	1	1	2	3	5	4		4	1	1	2	1	1	2	3	2	5	19	14	33
																		0	0	0
																		0	0	0

0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	1	0	0	0	3	2	5
7	8	15	7	8	15	7	9	16	6	4	10	3	5	8	2	6	8	61	64	125
									1		1							2	0	2
1	1	2	2		2	3		3	5		5		1	1		1	1	16	4	20
													1	1				1	1	2
2		2	3		3		3	3	1		1	1	1	2				12	7	19
										1	1							0	1	1
										1	1							1	1	2
																		0	0	0
1		1																3	0	3
																		0	0	0
	5	5	1	3	4	1	2	3		2	2		2	2		1	1	3	19	22
																		0	0	0
	1	1		5	5		3	3		1	1		1	1		3	3	0	24	24
																		0	0	0
1	1	2				2		2				1		1		1	1	12	7	19
																		0	0	0
																		0	0	0
																		0	0	0
												1		1	1		1	7	0	7
																		0	0	0
																		0	0	0
																		0	0	0
1		1	1		1		1	1							1		1	4	1	5
																		0	0	0
1		1				1		1										3	1	4

																		0	0	0
																		0	0	0
																		0	0	0
10	16	26	8	9	17	7	12	19	13	5	18	18	11	29	12	14	26	135	130	265

0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	4	1	1	2	0	0	0	11	5	16
26	28	54	28	24	52	32	27	59	35	13	48	36	21	57	27	24	51	384	273	657

表11－(1)　臓器別・部位別手術件数（平成31年／令和元年）

（単位：件）

臓器別分類	診療科	形成外科	呼吸器外科	乳腺内分泌外科	骨軟部腫瘍外科	消外胃食道	消外肝胆膵	消外大腸	頭頸部外科	脳神経外科	泌尿器科	皮膚科	婦人科	血液内科	腫瘍内科	合計
中枢神経系	脳									55				1		56
顔面頭頸部	咽頭								23							23
	喉頭								13							13
	舌・口腔								23							23
	副鼻腔															0
	唾液腺								13							13
内分泌	甲状腺			147												147
乳房胸部呼吸器	乳腺	3		28												31
	乳房	41		407												448
	気管			1		5		1	17							24
	胸腺		5													5
	縦隔		26			4										30
	肺		466			2										468
消化器	食道					75										75
	胃					169	4	1							1	175
	胃＋肝胆膵					5										5
	肝臓						35	14								49
	胆道						7									7
	胆嚢					2	16	2						1		21
	膵臓						135									135
	十二指腸						1									1
	小腸					1	6	8			1		1			17
	大腸	1				9	9	330			1		1			351
	腹膜				2	9	8	10			8		3		1	41
泌尿器生殖	腎										66					66
	腎・尿管	1									20					21
	膀胱										169		1			170
	前立腺				1						407					408
	睾丸・会陰							1			18					19
	子宮												213			213
	卵巣							1					63			64
	外陰												1			1
骨筋肉	悪性軟部				108											108
	悪性骨				15				6	2						23
	良性軟部				32											32
	良性骨				17					1						18
	転移骨				10											10
造血	骨髄													18		18
	リンパ	66		12		3	2	2	21		5					111
皮膚組織	頭部・頸部															0
	四肢				32											32
	皮下	24		6	7			4	1		2		1		1	46
	皮膚	3		5	1					1						10
全体	その他	1	11	3	3	9	8		9		1		3		1	49
総計		140	508	609	228	293	231	374	126	59	698	0	287	20	4	3,577

表11－(2)　科別手術件数（令和元年）

（単位：件）

月別 / 診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計	構成比（%）
形成外科	14	12	10	13	20	11	15	9	8	9	11	8	**140**	3.9%
呼吸器外科	34	39	44	41	38	46	50	36	41	47	35	56	**507**	14.2%
総合内科内分泌				1									**1**	0.0%
骨軟腫瘍外科	17	21	15	24	18	22	23	22	20	16	16	13	**227**	6.3%
消外胃食道	29	25	24	25	23	23	26	22	23	21	23	27	**291**	8.1%
消外肝胆膵	23	20	13	20	20	15	20	15	16	22	22	25	**231**	6.5%
消外大腸	27	24	28	34	32	36	33	32	31	27	38	31	**373**	10.4%
消内肝胆膵													**0**	0.0%
消内消化管					1						1	2	**4**	0.1%
頭頸部外科	8	12	15	9	7	12	12	14	13	4	11	8	**11**	0.3%
乳腺科	50	51	48	56	55	49	52	48	47	50	53	49	**608**	17.0%
脳神経外科	6	6	6	9	4	1	3	1	3	7	6	5	**57**	1.6%
泌尿器科	47	54	57	51	53	62	66	59	57	64	59	68	**697**	19.5%
皮膚科													**0**	0.0%
婦人科	23	20	24	26	21	21	29	30	24	19	27	23	**287**	8.0%
血液内科	1	1	1	1	1		2	3	1	5	1	3	**20**	0.6%
腫瘍内科									2	2			**4**	0.1%
その他	1			2	1							1	**5**	0.1%
合　計	**280**	**285**	**285**	**312**	**294**	**298**	**331**	**291**	**286**	**293**	**303**	**319**	**3,577**	**100.0%**

表12　麻酔別手術件数（令和元年）

（単位：件）

月別 / 麻酔法	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計	構成比（%）
全身麻酔	245	252	250	280	249	250	296	254	239	263	265	284	**3,127**	87.4%
局所麻酔	17	14	14	18	24	19	13	13	20	10	14	9	**185**	5.2%
腰椎麻酔	1	3	1	4	1	2		1	2	2			**17**	0.5%
静脈麻酔	17	16	20	10	20	27	22	23	25	18	24	26	**248**	6.9%
未分類														
合　計	**280**	**285**	**285**	**312**	**294**	**298**	**331**	**291**	**286**	**293**	**303**	**319**	**3,577**	**100.0%**

表13　放射線検査件数

撮影別＼月別		1　月		2　月		3　月		4　月		5　月		6　月		7　月	
		件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数
単純撮影	頭部	15	34	9	22	17	37	13	35	12	24	7	14	8	16
	胸部	3,053	4,002	3,121	4,124	3,257	5,545	3,321	4,334	3,158	4,134	3,068	3,991	3,305	4,186
	腹部	1,030	1,763	1,037	1,799	992	1,677	1,129	1,928	1,126	1,910	1,027	1,743	1,129	1,915
	椎骨	37	74	39	75	34	65	24	46	51	91	34	59	36	57
	四肢骨	89	158	84	129	113	206	76	133	80	137	74	127	88	155
	乳房	291	1,985	311	2,157	310	2,048	306	2,186	291	1,997	262	1,795	311	2,150
	乳房生検	4	45	1	12	1	12	3	18	2	24	6	64	7	57
	軟部組織	37	77	35	78	34	71	38	84	39	85	30	59	37	78
	計	4,556	8,138	4,637	8,396	4,758	9,661	4,910	8,764	4,759	8,402	4,508	7,852	4,921	8,614
造影撮影	食道・胃	111	2,731	116	2,898	95	2,536	81	1,555	78	1,641	66	1,547	72	1,776
	注腸法	24	466	30	576	25	553	24	328	21	334	16	270	11	162
	胆嚢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ＰＴＣＤ	29	138	29	135	21	100	28	581	53	262	39	181	54	215
	ＥＲＣＰ	136	610	103	466	135	533	111	545	134	734	131	670	139	568
	泌尿器	28	135	31	117	25	139	40	189	29	156	30	145	26	101
	ミエロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血管	38	6,317	46	10,046	45	7,135	42	7,793	40	6,016	42	5,789	50	7,696
	その他	3	20	2	9	8	89	9	65	8	50	2	8	3	11
	計	369	10,417	357	14,247	354	11,085	335	11,056	363	9,193	326	8,610	355	10,529
特殊撮影	断層	72	74	56	56	52	52	66	66	68	68	55	55	92	94
	ＣＴ単純	2,323	251,702	2,078	224,176	2,180	223,139	2,209	230,936	2,255	225,057	2,189	221,006	2,823	286,175
	ＣＴ造影	3,784	450,109	3,868	454,878	3,874	455,615	3,423	392,262	3,927	419,483	3,765	430,830	4,163	469,776
	ＭＲＩ	726	158,832	758	168,163	767	169,332	709	160,556	789	175,320	803	179,181	854	188,983
	計	6,905	860,717	6,760	847,273	6,873	848,138	6,407	783,820	7,039	819,928	6,812	831,072	7,932	945,028
総合計		11,830	879,272	11,754	869,916	11,985	868,884	11,652	803,640	12,161	837,523	11,646	847,534	13,208	964,171

（平成31年／令和元年）

8　月		9　月		10　月		11　月		12　月		合　計		1日平均		構成比（%）	
件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数
1	2	9	20	17	36	11	24	20	46	139	310	0.7	1.6	0.09%	0.00%
3,201	4,152	3,099	3,965	3,358	4,286	3,182	3,972	3,495	4,381	38,618	51,072	193.1	255.4	26.07%	0.37%
1,118	1,929	1,132	1,981	1,149	1,971	1,053	1,709	1,289	2,097	13,211	22,422	66.1	112.1	8.92%	0.16%
33	59	42	81	44	71	29	50	37	66	440	794	2.2	4.0	0.30%	0.01%
90	147	78	136	108	191	73	127	77	140	1,030	1,786	5.2	8.9	0.70%	0.01%
338	2,324	276	1,924	273	1,875	329	2,203	266	1,833	3,564	24,477	17.8	122.4	2.41%	0.18%
8	81	6	55	2	13	4	36	3	39	47	456	0.2	2.3	0.03%	0.00%
31	66	36	73	40	89	37	78	33	72	427	910	2.1	4.6	0.29%	0.01%
4,820	8,760	4,678	8,235	4,991	8,532	4,718	8,199	5,220	8,674	57,476	102,227	287.4	511.1	38.80%	0.74%
73	1,447	70	1,321	76	299	70	288	69	272	977	18,311	4.9	91.6	0.66%	0.13%
15	288	19	334	12	56	7	34	12	53	216	3,454	1.1	17.3	0.15%	0.02%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00%	0.00%
38	172	22	119	25	109	36	109	43	132	417	2,253	2.1	11.3	0.28%	0.02%
109	497	109	503	131	301	179	406	178	509	1,595	6,342	8.0	31.7	1.08%	0.05%
33	119	29	134	40	143	29	114	48	147	388	1,639	1.9	8.2	0.26%	0.01%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00%	0.00%
38	5,643	35	3,648	50	9,783	44	9,599	49	7,384	519	86,849	2.6	434.2	0.35%	0.62%
3	20	1	3	0	0	4	12	5	26	48	313	0.2	1.6	0.03%	0.00%
309	8,186	285	6,062	334	10,691	369	10,562	404	8,523	4,160	119,161	20.8	595.8	2.81%	0.86%
77	77	54	54	73	74	70	70	53	53	788	793	3.9	4.0	0.53%	0.01%
2,450	250,770	2,529	260,173	2,869	286,546	2,677	269,131	2,809	280,517	29,391	3,009,328	147.0	15,046.6	19.84%	21.64%
4,066	452,754	3,826	412,181	4,079	456,934	3,884	419,635	3,995	3,787,076	46,654	8,601,533	233.3	43,007.7	31.49%	61.84%
846	188,952	758	164,514	883	179,064	884	173,045	893	169,310	9,670	2,075,252	48.4	1,0376.3	6.53%	14.92%
7,439	892,553	7,167	836,922	7,904	922,618	7,515	861,881	7,750	4,236,956	865,03	13,686,906	432.5	6,8434.5	58.39%	98.41%
12,568	909,499	12,130	851,219	13,229	941,841	12,602	880,642	13,374	4,254,153	148,139	13,908,294	740.7	6,9541.5	100.0%	100.0%

表14　放射線治療件数（光子線）（令和元年）

⑴第１リニアック

区分	月別	2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数	4	3	4	2		1			1	3	4	5	27
	件数	4	3	4	2		1			1	3	4	5	27
	延人数	25	9	33	20		10			15	26	34	28	200
	延回数	100	36	132	80		40			60	104	136	112	800
頭頸部	人数	3	3	4	2	2	1	1	3	2	2	3	3	29
	件数	3	3	4	2	2	1	1	3	2	2	3	3	29
	延人数	19	43	30	23	29	13	19	40	35	13	50	49	363
	延回数	37	86	60	46	58	26	76	112	70	26	83	80	760
乳房	人数	28	38	31	25	23	29	32	35	23	25	28	28	345
	件数	35	52	46	41	38	49	60	52	32	33	40	46	524
	延人数	330	547	437	444	386	489	654	534	225	346	467	500	5,359
	延回数	1,235	1,976	1,458	1,491	1,254	1,655	2,152	1,832	862	1,317	1,666	1,674	18,572
胸部	人数		1											1
	件数		1											1
	延人数		10											10
	延回数		40											40
消化器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
婦人科	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨／軟部	人数											1	1	2
	件数											1	1	2
	延人数											1	1	2
	延回数											2	2	4
血／リンパ	人数				1	1	1	1	2	1				7
	件数				1	1	1	2	2	1				8
	延人数				10	3	19	8	18	17				75
	延回数				20	6	38	16	18	17				115
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数									1				1
	件数									1				1
	延人数									10				10
	延回数									20				20
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
全身	延人数	10	15	9	6	3	3	13	13	6	7	6	6	97
	延回数	38	60	34	24	12	12	50	48	24	26	24	24	376
合計	人数	35	45	39	30	26	32	34	40	28	30	36	37	412
	件数	42	59	54	46	41	52	63	57	37	38	48	55	592
	延人数	384	624	509	503	421	534	694	605	308	392	558	584	6,116
	延回数	1,410	2,198	1,684	1,661	1,330	1,771	2,294	2,010	1,053	1,473	1,911	1,892	20,687

⑵第２リニアック

区分 ＼ 月別		2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数	1	1	2	5	1	4	4	7	2		2	5	34
	件数	1	1	2	5	1	4	4	7	2		2	5	34
	延人数	15	11	10	50	4	25	21	52	22		10	29	249
	延回数	30	22	20	144	16	84	80	179	72		40	116	803
頭頚部	人数	1	1		1			1	1	1				6
	件数	1	1		1			1	2	1				7
	延人数	19	6		1			10	21	4				61
	延回数	38	12		1			40	84	16				191
乳房	人数	3	6	11	8	6	11	11	9	8	7	8	9	97
	件数	5	9	15	13	10	17	17	13	9	8	8	10	134
	延人数	30	123	113	114	90	132	158	91	44	82	73	86	1,136
	延回数	129	398	358	350	289	431	558	293	150	260	314	290	3,820
胸部	人数	14	20	19	11	15	8	9	13	15	14	10	7	155
	件数	18	30	23	14	16	12	9	16	18	18	12	10	196
	延人数	190	240	172	103	146	76	59	179	88	128	121	60	1,562
	延回数	540	696	524	345	426	209	189	584	314	445	390	179	4,841
消化器	人数	15	15	12	9	13	12	12	13	20	13	15	13	162
	件数	17	18	17	9	16	16	16	16	27	16	15	16	199
	延人数	154	173	102	91	126	145	144	179	202	120	108	191	1,735
	延回数	552	640	363	292	398	510	542	608	624	323	357	617	5,826
泌尿器	人数	1	1		3	4	1		2	3	2	2		19
	件数	1	1		3	7	1		2	3	2	2		22
	延人数	4	9		33	68	2		11	18	17	18		180
	延回数	8	18		132	227	8		22	54	68	31		568
前立腺	人数					1	1	1						3
	件数					1	2	1						4
	延人数					8	20	7						35
	延回数					48	120	42						210
婦人科	人数	5	6	7	4	3	3	6	6	8	8	10	7	73
	件数	11	8	8	6	6	4	11	13	11	10	17	10	115
	延人数	68	48	86	35	33	39	81	85	59	105	126	70	835
	延回数	204	136	310	122	86	146	298	232	196	378	439	229	2,776
骨／軟部	人数	1	5	9	12	6	6	7	17	19	13	11	9	115
	件数	1	7	13	12	6	8	8	19	23	16	15	10	138
	延人数	13	45	74	72	38	46	51	118	98	94	84	77	810
	延回数	26	91	182	168	96	92	127	319	210	249	180	223	1,963
血／リンパ	人数	9	9	12	14	13	8	5	11	14	9	10	8	122
	件数	10	12	15	17	16	10	5	12	14	11	13	14	149
	延人数	85	60	155	133	94	116	44	65	88	79	82	128	1,129
	延回数	245	200	430	413	290	323	104	197	305	205	225	350	3,287
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数					2	1	2	1	3	1	2	1	13
	件数					2	1	2	1	3	1	2	1	13
	延人数					14	11	20	2	30	3	11	9	100
	延回数					55	55	40	4	60	6	34	45	299
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	50	64	72	67	64	55	58	80	93	67	70	59	799
	件数	65	87	93	80	81	75	74	101	111	82	86	76	1,011
	延人数	578	715	712	632	621	612	595	803	653	628	633	650	7,832
	延回数	1,772	2,213	2,187	1,967	1,931	1,978	2,020	2,522	2,001	1,934	2,010	2,049	24,584

⑶第３リニアック

区分＼月別		2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数	2	2	2	5	3	1	2	2	1	1			21
	件数	2	2	2	5	3	1	2	2	1	1			21
	延人数	11	9	16	16	33	2	23	12	3	7			132
	延回数	22	18	50	58	132	8	77	48	6	14			433
脳 IMRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頚部	人数	1				1					3	2		7
	件数	1				1					3	2		7
	延人数	5				5					13	3		26
	延回数	20				10					67	14		111
頭頂部 IMRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
乳房	人数		1		1		1	1					2	6
	件数		1		1		1	1					2	6
	延人数		5		2		5	1					5	18
	延回数		15		8		5	2					8	38
胸部	人数	1	2	3	6	3	2	4	5	2	1	5	4	38
	件数	1	2	3	7	3	2	4	5	3	1	5	4	40
	延人数	8	11	29	34	23	12	29	52	24	1	30	17	270
	延回数	16	23	58	91	84	24	66	163	96	4	62	42	729
胸部 IMRT	人数	1									2	3	5	11
	件数	1									2	3	5	11
	延人数	9									19	45	61	134
	延回数	18									38	105	173	334
消化器	人数	4	12	11	9	2	4	6	4	4	4	1	5	66
	件数	4	14	13	12	3	4	8	7	4	5	1	5	80
	延人数	36	104	130	86	9	42	48	70	32	53	15	32	657
	延回数	110	404	446	256	25	116	129	193	105	148	60	118	2,110
消化器 IMRT	人数	11	9	7	5	3	1			1	2	3	2	44
	件数	12	11	7	5	3	1			1	2	3	2	47
	延人数	121	100	108	35	28	18			5	24	34	18	491
	延回数	214	185	216	70	56	36			10	48	68	36	939
泌尿器	人数			2	1				2	1	1		1	8
	件数			3	2				3	1	2		1	12
	延人数			29	21				4	12	17		10	93
	延回数			76	84				14	48	58		40	320
泌尿器 IMRT	人数	1							1	2	3	2		9
	件数	2							1	2	3	2		10
	延人数	11							20	12	51	25		119
	延回数	11							40	24	102	50		227
前立腺	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺 IMRT	人数	7	7	8	8	13	11	12	13	5	10	9	9	112
	件数	7	7	8	8	14	11	12	14	5	10	10	9	115
	延人数	71	109	111	122	173	164	181	147	64	104	112	124	1,482
	延回数	104	164	153	192	296	261	290	259	114	159	189	235	2,416

区分 ＼ 月別		2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
婦人科	人数	8	6	7	3	5	5	3	4	7	4	2	1	55
	件数	11	9	9	3	7	6	6	4	9	8	2	1	75
	延人数	77	67	62	62	51	54	41	34	85	52	3	17	605
	延回数	247	209	216	208	188	194	112	136	308	178	12	51	2,059
婦人科IMRT	人数	1	1	1	1	3	4	3	2	2	2	3	4	27
	件数	1	1	1	1	3	5	4	2	2	3	4	5	32
	延人数	18	10	9	16	20	68	18	21	19	10	41	53	303
	延回数	36	20	18	32	40	136	33	42	38	20	98	116	629
骨／軟部	人数	5	6	3	3	4	6	12	13	3	8	7	12	82
	件数	6	8	3	5	6	7	12	13	4	13	10	13	100
	延人数	25	62	12	44	37	31	52	97	11	81	30	65	547
	延回数	50	147	25	120	74	62	115	207	22	172	60	135	1,189
骨／軟部IMRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
血／リンパ	人数	4	7	5	7	3	3	4	3	3	8	6	5	58
	件数	5	8	7	8	3	3	4	3	4	9	8	5	67
	延人数	53	57	49	77	35	30	30	11	50	70	50	25	537
	延回数	155	191	130	198	118	80	69	32	156	203	131	65	1,528
血／リンパIMRT	人数				1	1		1	1		2	3	3	12
	件数				1	2		1	1		2	3	3	13
	延人数				18	12		1	11		6	59	20	127
	延回数				36	24		2	22		18	139	48	289
原体	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数		1	1		1	2	1	1		1	1		9
	件数		2	1		1	2	1	1		1	1		10
	延人数		18	6		5	22	3	7		10	2		73
	延回数		36	12		10	61	12	28		30	6		195
その他IMRT	人数	1												1
	件数	1												1
	延人数	8												8
	延回数	16												16
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	47	54	50	50	42	40	49	51	31	52	47	53	566
	件数	54	65	57	58	49	43	55	56	36	65	54	55	647
	延人数	453	552	561	533	431	448	427	486	317	518	449	447	5,622
	延回数	1,019	1,412	1,400	1,353	1,057	983	907	1,184	927	1,259	994	1,067	13,562

⑷第４リニアック

区分＼月別		2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数		1											1
	件数		1											1
	延人数		5											5
	延回数		20											20
脳 IMRT	人数	1	1	1		1	1	1	1		1	1		9
	件数	2	1	2		1	1	2	1		1	1		12
	延人数	15	11	14		12	3	22	5		10	20		112
	延回数	30	11	21		24	6	44	10		20	40		206
脳 SRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頚部	人数		1	3	2				1		1	1	3	12
	件数		1	3	3				1		1	2	3	14
	延人数		2	17	13				5		2	4	14	57
	延回数		8	50	36				25		4	12	52	187
頭頚部 IMRT	人数	17	16	19	14	8	11	16	19	18	15	17	14	184
	件数	23	21	23	19	12	13	19	23	23	21	26	16	239
	延人数	211	206	225	167	108	119	201	255	180	215	245	148	2,280
	延回数	422	412	485	342	223	263	416	516	343	466	523	333	4,744
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
胸部	人数				2	2	1	1	1	1	1		1	10
	件数				2	2	1	1	1	1	1		1	10
	延人数				10	9	5	1	4	5	5		5	44
	延回数				26	27	15	2	8	20	25		10	133
胸部 IMRT	人数	11	4	5	5	8	6	3	4	8	6	7	6	73
	件数	11	4	5	6	8	6	3	5	8	6	7	8	77
	延人数	76	57	51	60	115	53	37	74	76	96	77	84	856
	延回数	154	150	124	173	270	106	74	220	200	199	177	198	2,045
胸部 SRT	人数	4	3	3	3	3	1		3	6	7	5	1	39
	件数	5	4	3	3	3	1		3	6	7	5	1	41
	延人数	18	14	12	12	16	4		12	21	30	17	4	160
	延回数	36	28	24	32	80	8		48	67	107	66	8	504
消化器 IMRT	人数	5	7	8	5	5	5	3	4	3	1	1	1	48
	件数	5	7	11	5	5	5	4	4	3	1	1	2	53
	延人数	35	99	92	66	49	57	42	53	30	1	5	21	550
	延回数	69	203	167	118	81	132	96	106	60	2	10	31	1,075
消化器 SRT	人数						1			1	1		1	4
	件数						1			1	1		1	4
	延人数						10			5	3		5	23
	延回数						20			35	21		10	86
消化器	人数	1			1	2					1	2		7
	件数	1			1	2					1	2		7
	延人数	6			4	6					17	13		46
	延回数	24			16	24					85	50		199
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
泌尿器 IMRT	人数								1	2			3	6
	件数								1	2			3	6
	延人数								17	13			40	70
	延回数								34	26			98	158
前立腺	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													

区分 ＼ 月別		2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
前立腺 IMRT	人数						1	1	4	6				12
	件数						1	1	4	6				12
	延人数						5	22	11	26				64
	延回数						10	44	21	42				117
婦人科 IMRT	人数				1	1		1	4	5	3	2		17
	件数				1	2		1	4	5	4	2		19
	延人数				8	17		10	17	48	39	5		144
	延回数				16	34		20	34	96	78	9		287
婦人科	人数										1	1		2
	件数										1	2		3
	延人数										6	19		25
	延回数										24	76		100
骨/軟部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨/軟部 IMRT	人数	2				1					1	1	1	6
	件数	3				1					1	1	1	7
	延人数	31				10					4	1	14	60
	延回数	80				10					12	3	28	133
血/リンパ	人数									1	2		1	4
	件数									1	2		1	4
	延人数									2	8		5	15
	延回数									10	25		10	45
血/リンパ IMRT	人数	1	1	1	2	4	7	4	1	3	6	2	2	34
	件数	1	2	1	2	5	7	4	1	3	6	2	2	36
	延人数	14	18	3	26	38	69	46	5	40	67	15	32	373
	延回数	28	36	6	52	94	182	100	5	61	151	32	86	833
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他 IMRT	人数		1	2	1						2	2	1	9
	件数		1	2	1						2	3	1	10
	延人数		11	9	20						30	24	11	105
	延回数		22	18	40						50	48	22	200
その他 SRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性 IMRT	人数											1		1
	件数											1		1
	延人数											15		15
	延回数											45		45
良性	人数										1			1
	件数										1			1
	延人数										5			5
	延回数										10			10
合計	人数	42	35	42	36	35	34	30	43	54	50	43	35	479
	件数	51	42	50	43	41	36	35	48	59	57	55	40	557
	延人数	406	423	423	386	380	325	381	458	446	538	460	383	5,009
	延回数	843	890	895	851	867	742	796	1,027	960	1,279	1,091	886	11,127

(5)小線源治療

区分	月別	2019 1	2	3	4	5	6
脳	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
頭頸部	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
乳房	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
胸部	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
消化器	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
泌尿器	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
前立腺	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
婦人科	人数						
	件数						
	延人数	9	13	4	4	9	19
	延回数	9	13	4	4	9	19
骨／軟部	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
血／リンパ	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
小児	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
その他	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
良性	人数						
	件数						
	延人数						
	延回数						
組織内	延人数	2	4	3	4	5	3
	延回数	2	4	3	4	5	3
合計	人数						
	件数						
	延人数	11	17	7	8	14	22
	延回数	11	17	7	8	14	22

7	8	9	10	11	12	1－12 合計
15 15	18 18	5 5	13 13	10 10	16 16	135 135
6 6	3 3	4 4	6 6	7 11	7 7	54 58
21 21	21 21	9 9	19 19	17 21	23 23	189 193

表15　放射線治療件数（重粒子線）（平成31年／令和元年）

⑴重粒子照射室１

区分	月別	2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頸部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
胸部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
消化器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数	18	13	21					10	19	23	19	20	143
	件数	18	13	21					10	19	23	19	20	143
	延人数	52	13	109					82	120	157	136	161	830
	延回数	52	13	109					82	120	157	136	161	830
婦人科	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨／軟部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
血／リンパ	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	18	13	21					10	19	23	19	20	143
	件数	18	13	21					10	19	23	19	20	143
	延人数	52	13	109					82	120	157	136	161	830
	延回数	52	13	109					82	120	157	136	161	830

（注）１．延人数：１部位の照射につき，１件とする．複数部位の場合は，その部位数に準じる．
２．延回数：運動照射の場合はアーク数とする．

⑵重粒子照射室 2

区分＼月別		2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頸部	人数	2		1										3
	件数	2		1										3
	延人数	14		2										16
	延回数	27		4										31
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
胸部	人数			1										1
	件数			1										1
	延人数			4										4
	延回数			8										8
消化器	人数	1		4	1									6
	件数	1		4	1									6
	延人数	1		20	2									23
	延回数	1		24	2									27
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数	19	30	33	34	25	27	40	35	30	36	30	28	367
	件数	19	30	33	34	25	27	40	35	30	36	30	28	367
	延人数	105	221	130	243	183	206	301	266	236	271	213	230	2,605
	延回数	105	221	130	243	183	206	301	266	236	271	213	230	2,605
婦人科	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨／軟部	人数			6										6
	件数			6										6
	延人数			30										30
	延回数			52										52
血／リンパ	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	22	30	45	35	25	27	40	35	30	36	30	28	383
	件数	22	30	45	35	25	27	40	35	30	36	30	28	383
	延人数	120	221	186	245	183	206	301	266	236	271	213	230	2,678
	延回数	133	221	218	245	183	206	301	266	236	271	213	230	2,723

1．延人数：1部位の照射につき，1件とする．複数部位の場合は，その部位数に準じる．
2．延回数：運動照射の場合はアーク数とする．

(3)重粒子照射室 3

区分	月別	2019 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頸部	人数	2	2	3	2	1	2	2	4	5	5	3	5	36
	件数	2	2	3	2	1	2	2	4	5	5	3	5	36
	延人数	9	28	9	19	11	5	27	24	51	42	29	69	323
	延回数	10	56	18	38	22	10	54	48	102	84	58	138	638
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
胸部	人数					1	2			1	1	1	4	10
	件数					1	2			1	1	1	4	10
	延人数					4	8			4	3	1	16	36
	延回数					8	16			8	6	2	32	72
消化器	人数	7	9	4	4	4	5	6	5	5	4	5	4	62
	件数	7	9	4	4	4	5	6	5	5	4	5	4	62
	延人数	24	42	18	30	20	36	51	24	22	11	51	14	343
	延回数	42	60	18	34	20	40	55	30	32	11	51	26	419
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数			2		4	9	8	4	2	2	4	7	42
	件数			2		4	9	8	4	2	2	4	7	42
	延人数			2		18	70	64	27	2	20	18	24	245
	延回数			2		18	70	64	27	2	20	18	24	245
婦人科	人数				2	2								4
	件数				2	2								4
	延人数				16	16								32
	延回数				17	23								40
骨／軟部	人数	3	3	6	4	1	2	7	9	3	4	7	5	54
	件数	3	3	6	4	1	2	7	9	3	4	7	5	54
	延人数	24	15	29	35	3	10	54	89	29	46	43	60	437
	延回数	30	29	51	70	6	14	82	112	38	46	67	74	619
血／リンパ	人数												1	1
	件数												1	1
	延人数												3	3
	延回数												6	6
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数	1	1							2	2			6
	件数	1	1							2	2			6
	延人数	9	7							4	28			48
	延回数	18	14							6	42			80
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	13	15	15	12	13	20	23	22	18	18	20	26	215
	件数	13	15	15	12	13	20	23	22	18	18	20	26	215
	延人数	66	92	58	100	72	129	196	164	112	150	142	186	1,467
	延回数	100	159	89	159	97	150	255	217	188	209	196	300	2,119

(注) 1．延人数：1部位の照射につき，1件とする．複数部位の場合は，その部位数に準じる．
2．延回数：運動照射の場合はアーク数とする．

⑷その他関連業務件数（重粒子）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
固定具作成	延人数	33	28	31	27	29	44	43	44	50	46	53	32	460
位置決めX線撮影	延人数	4	6	4	4	2	5	5	3	0	0	2	5	40
CTシミュレータ	延人数	32	34	31	26	30	43	42	46	47	49	51	36	467
治療関連	外部同期	7	6	4	3	3	6	7	3	5	4	3	7	58
	内部同期													0
保険	先進医療	7	6	4	5	3	5	6	3	4	4	2	8	57
	保険	20	24	23	23	16	31	34	41	35	44	37	36	364
	合計	27	30	27	28	19	36	40	44	39	48	39	44	421

表16　ラジオアイソトープ検査件数（体外測定）（平成31年／令和元年）

検査項目			月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
シンチグラム	脳		人数													0
			SPECT													0
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲状腺摂取率	^{123}I	人数	1												1
			部分シンチ	2												2
			業務件数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		^{99m}Tc	人数					1						1		2
			部分シンチ					1						1		2
			業務件数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
	甲状腺	^{131}I	人数	5	4	7	7	6	4	6	7	5	6	5	7	69
			全身シンチ	10	8	14	14	12	8	12	14	10	12	10	14	138
			部分シンチ													0
			SPECT		1	5	3	3	3	1	1	2	1	2	3	25
			業務件数	10	9	19	17	15	11	13	15	12	13	12	17	163
	副甲状腺		人数	1		1				2		1	1	3	1	10
			部分シンチ	4		4				8		4	4	12	4	40
			SPECT													0
			業務件数	4	0	4	0	0	0	8	0	4	4	12	4	40
	肺血流		人数		2	3		1		2	1		1			10
			部分シンチ		16	24		8		16	8		8			80
			SPECT		1	2		2		2	1		1			9
			業務件数	0	17	26	0	10	0	18	9	0	9	0	0	89
	心筋		人数	2	6	6	2	7	5	5	5	6	4	5	6	59
			部分シンチ	2	6	6	2	7	5	5	7	6	4	5	6	61
			SPECT	4	11	12	4	14	10	10	12	12	8	10	12	119
			業務件数	6	17	18	6	21	15	15	19	18	12	15	18	180
	肝・脾		人数								1					1
			部分シンチ								1					1
			SPECT													0
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	副腎		人数								1					1
			全身シンチ								2					2
			部分シンチ								2					2
			SPECT								1					1
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5
	骨		人数	64	56	58	64	63	59	73	64	59	54	71	58	743
			全身シンチ	128	112	116	128	126	118	144	128	118	108	142	116	1,484
			部分シンチ	189	170	174	192	189	175	226	192	177	162	214	174	2,234
			SPECT	3	2	3	3	1	3	1	3	4	1	1		25
			業務件数	320	284	293	323	316	296	371	323	299	271	357	290	3,743
	骨髄（ゼヴァリンの確認含）		人数													0
			全身シンチ													0
			部分シンチ													0
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腫瘍	^{67}Ga	人数			1										1
			全身シンチ			2										2
			部分シンチ													0
			SPECT			2										2
			業務件数	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		ソマトスタチン受容体 ^{111}In	人数	1		1	1	1	1	1		1	1	1	1	10
			全身シンチ	4		4	4	4	4	4		4	4	4	4	40
			部分シンチ	4		4	4	4	4	4		4	4	4	4	40
			SPECT	2		2	2	2	2	2		2	2	2	2	20
			業務件数	10	0	10	10	10	10	10	0	10	10	10	10	100
	その他（センチネル）		人数	27	29	21	28	28	26	29	20	24	34	24	26	316
			全身シンチ													0
			部分シンチ	86	98	63	86	89	78	87	60	78	111	78	81	995
			SPECT													0
			業務件数	86	98	63	86	89	78	87	60	78	111	78	81	995

（つづき）

検査項目		月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
動態シンチグラム	心臓	人数													0
		部分シンチ													0
		SPECT													0
		血流件数													0
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝胆道	人数													0
		部分シンチ													0
		SPECT													0
		血流件数													0
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎動態（レノグラム）	人数												1	1
		部分シンチ												2	2
		血流件数（動態）												1	1
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	腹部	人数		1			3								4
		部分シンチ		2			17								19
		SPECT					3								
		血流件数		1											1
		業務件数	0	3	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	23
	上下肢動態	人数													0
		部分シンチ													0
		血流件数													0
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	人数													0
		全身シンチ													0
		部分シンチ													0
		血流件数													0
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PET	PETCT	PET人数（早期）	185	180	195	183	176	189	207	218	210	234	225	211	2,413
		PET件数（早期）	7,320	7,050	7,660	7,215	6,909	7,445	8,467	8,666	8,270	9,240	8,919	8,365	95,526
		PET人数（後期）	21	21	13	16	10	9	12	6	6	4	3	4	125
		PET件数（後期）	260	165	115	235	160	135	180	145	155	45	70	170	1,835
		単純CT件数	206	201	208	199	186	198	219	224	216	238	228	215	2,538
		単純CT回数	46,668	44,433	47,566	45,801	43,236	46,311	51,290	53,612	51,573	56,342	55,929	52,844	595,605
		造影CT件数													0
		造影CT回数													0
		業務件数	54,248	51,648	55,341	53,251	50,305	53,891	59,937	62,423	59,998	65,627	64,918	61,379	692,966
合計		人数	286	278	293	285	286	284	325	317	306	335	335	311	3,641
		全身シンチ	142	120	136	146	142	130	160	144	132	124	156	134	1,666
		部分シンチ	287	292	275	284	315	262	346	270	269	293	314	271	3,478
		血流件数（動態）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		ECT	9	15	26	12	22	18	16	18	20	13	15	17	201
		業務件数	54,686	52,076	55,778	53,693	50,787	54,301	60,459	62,855	60,419	66,057	65,403	61,802	698,316

2日間にわたる検査でも1人とカウント。ゼヴァリンは撮影1人、治療1人とカウント。
PETの「業務件数」は「PET件数（早期）」「PET件数（後期）」「単純CT回数」の合計数。「単純CT件数」「単純CT回数」は別表の件数と単純スライス。合計の「ECT」と「データ処理」は別表から記入。

放射性同位元素内用療法人数（非密封線源治療）

区分		月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
内用療法	放射性同位元素	甲状腺治療（入院治療）	4	3	4	4	3	2	3	3	3	3	2	3	37
		甲状腺治療（外来アブレーション）	1	1	4	2	4	3	2	4	2	3	4	3	33
		骨転移疼痛緩和													0
		ゼヴァリンによるRI標識抗体療法													0
		塩化ラジウムを用いたRI内用療法			1	2	2	1	1	4	3	2	2	1	19
		放射性同位元素内用療法人数	5	4	9	8	9	6	6	11	8	8	8	7	89

表17－(1)　臨 床 検 査 統 計

分類		令和元年１月～12月の院内検査統計											
大分類	中分類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 一般	一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A．尿一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B．糞便一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C．髄液検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z．その他（穿刺液）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 血液	血液学的検査	5,611	5,582	5,700	5,867	5,820	5,670	5,999	5,939	5,693	6,079	5,785	5,962
	A．血液一般形態検査	5,425	5,365	5,485	5,636	5,620	5,460	5,750	5,736	5,490	5,865	5,584	5,740
	B．凝固・線溶検査	186	217	215	231	200	210	249	203	202	214	201	222
	C．血球化学検査	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	Z．その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 生化学	生化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A．蛋白・膠質反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B．酵素及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C．低分子・窒素化合物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	D．糖質及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	E、F．脂質及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	G．ビタミン及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H．電解質・血液ガス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	I．生体微量金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	J．生体色素関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	LM．薬物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z．その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再記	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（５～７）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（８～９）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（10以上）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 内分泌	内分泌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A．下垂体ホルモン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BC．甲状腺・副甲状腺H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	DE．副腎皮質・副腎髄質H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	F．性腺・胎盤H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	G．消化管H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	HZ．ホルモン受容体・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 免疫	免疫学的検査	4,688	4,762	4,744	4,735	4,245	4,257	4,656	4,569	4,384	4,345	4,523	4,785
	A．免疫グロブリン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B．補体及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C．血漿蛋白	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	D．腫瘍関連抗原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	E．非ウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	FG．ウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H．輸血免疫検査	4,310	4,444	4,493	4,589	4,083	4,125	4,521	4,428	4,269	4,151	4,312	4,529
	I．細胞性免疫検査	97	103	97	90	117	93	100	105	87	110	99	90
	J．サイトカイン												
	K,Z．その他	281	215	154	56	45	39	35	36	28	84	112	166
6 微生物	細菌学的検査	1,511	1,425	1,565	1,597	1,446	1,539	1,711	1,600	1,705	1,444	1,529	1,569
	A．塗抹・形態検査	285	292	299	326	278	285	308	319	311	301	305	325
	B．培養検査	577	586	592	615	581	626	674	622	649	602	579	604
	B．同定検査	389	354	424	416	376	404	472	410	468	321	394	392
	C．薬剤感受性（一般細菌）	256	189	244	236	207	220	255	247	275	218	249	246
	C．薬剤感受性（抗酸菌）												
	Z．その他	4	4	6	4	4	4	2	2	2	2	2	2
7 病理	病理学的検査	11,995	12,926	12,765	14,326	12,806	12,388	14,172	12,842	12,366	14,763	13,550	14,483
	A．細胞診検査	1,978	2,036	1,918	2,007	1,965	1,842	2,076	1,897	1,949	1,992	2,063	1,926
	B．病理組織（生検組織）検査	1,191	1,429	1,406	1,831	1,558	1,544	1,850	1,423	1,591	1,906	1,771	1,816
	B．病理組織（試験切除）検査	479	534	465	445	466	476	519	493	418	625	463	553
	B．病理組織（手術切除）検査	8,087	8,512	8,820	9,824	8,475	8,345	9,538	8,787	8,221	9,804	9,059	9,654
	C．迅速凍結組織検査	169	179	139	159	167	125	174	135	152	180	139	167
	D．電子顕微鏡検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z．病理組織（剖検）検査	87	235	17	58	175	56	15	107	34	252	53	367
	Z．解剖（体数）	4	1	0	2	0	0	0	0	1	4	2	0
8 その他	その他検体検査	14	15	10	10	10	24	6	11	13	14	24	15
	A．負荷試験・機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B．遺伝子関連検査	14	15	10	10	10	24	6	11	13	14	24	15
	C．腫瘍分子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Z．その他												
9 生理検査	生理機能検査	3,502	3,505	3,465	3,774	3,600	3,319	3,810	3,773	3,440	3,856	3,655	3,798
	A．循環器機能検査	943	933	906	1,014	927	849	961	985	901	977	924	953
	B．脳・神経機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C．呼吸器機能検査	978	988	940	1,038	974	890	1,004	1,036	986	1,138	1,026	1,072
	D．前庭・聴力検査	2	2	6	5	4	10	8	6	0	6	4	4
	F．超音波検査	1,579	1,582	1,613	1,717	1,695	1,570	1,837	1,746	1,553	1,735	1,701	1,769
	Z．その他												
合計		27,321	28,215	28,249	30,309	27,927	27,197	30,354	28,734	27,601	30,501	29,066	30,612

（令和元年）

（単位：件）

令和元年1月～12月の院内委託検査統計												各種検査総合計		
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内検査	院内委託	院内合計
4,879	4,787	4,889	5,161	5,256	5,162	5,559	5,058	5,052	5,513	4,920	5,070	0	61,306	61,306
4,693	4,592	4,696	4,966	5,057	4,961	5,386	4,855	4,856	5,326	4,719	4,940	0	59,047	59,047
93	81	97	76	66	46	40	35	30	38	32	32	0	666	666
56	60	60	72	104	124	92	120	128	116	136	68	0	1,136	1,136
37	54	36	47	29	31	41	48	38	33	33	30	0	457	457
22,466	22,511	22,886	22,823	23,624	22,914	24,569	23,959	23,063	24,461	23,222	24,167	69,707	280,665	350,372
16,786	16,618	17,121	17,586	17,448	17,053	18,044	17,791	17,121	18,190	17,308	17,898	67,156	208,964	276,120
5,663	5,873	5,750	5,217	6,160	5,848	6,511	6,151	5,920	6,249	5,893	6,246	2,550	71,481	74,031
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
17	20	15	20	16	13	14	17	22	22	21	23	0	220	220
175,252	173,362	177,711	183,682	182,561	178,089	189,220	186,126	178,662	190,910	180,897	187,468	0	2,183,940	2,183,940
19,431	19,181	19,719	20,432	20,193	19,753	21,061	20,607	19,862	21,399	20,201	21,046	0	242,885	242,885
59,286	58,526	59,976	62,231	62,025	60,416	64,225	62,876	60,767	65,091	61,720	64,101	0	741,240	741,240
25,394	25,131	25,802	26,611	26,503	26,004	27,663	26,986	25,934	27,618	26,145	27,068	0	316,859	316,859
9,608	9,448	9,686	9,982	9,908	9,700	10,312	10,105	9,780	10,460	9,885	10,248	0	119,122	119,122
4,258	4,444	4,259	4,392	4,382	4,309	4,353	4,451	3,981	4,319	4,184	4,045	0	51,377	51,377
26	25	28	35	34	36	31	34	22	36	36	33	0	376	376
42,456	41,877	43,085	44,437	44,097	42,957	45,681	45,042	43,326	46,087	43,624	45,286	0	527,955	527,955
775	793	848	759	741	722	718	814	752	732	699	688	0	9,041	9,041
13,822	13,690	13,990	14,560	14,474	14,006	14,976	14,965	13,972	14,968	14,236	14,754	0	172,413	172,413
196	247	318	243	204	186	200	246	266	200	167	199	0	2,672	2,672
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10,693	10,758	12,046	11,404	11,297	11,018	11,728	11,511	11,061	11,795	11,178	11,604	0	5,468	5,468
52	65	58	95	81	66	85	83	59	91	81	115	0	135	135
123	157	154	148	138	131	149	173	153	141	150	130	0	188	188
10,518	10,536	11,834	11,161	11,078	10,821	11,494	11,255	10,849	11,563	10,947	11,359	0	5,145	5,145
70	96	84	88	98	82	62	74	66	88	70	66	0	944	944
15	13	16	16	22	19	17	20	23	22	21	19	0	223	223
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	48	42	44	49	41	31	37	33	44	35	33	0	472	472
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	35	26	28	27	22	14	17	10	22	14	14	0	249	249
23,915	24,538	24,613	25,467	25,150	24,320	26,036	25,472	24,538	26,437	24,929	25,990	54,693	301,405	356,098
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10,133	9,943	10,238	10,549	10,453	10,139	10,809	10,645	10,311	10,964	10,352	10,823	0	125,359	125,359
9,783	10,301	10,333	10,456	10,756	10,322	10,966	10,717	10,328	11,261	10,618	10,957	0	126,798	126,798
1,644	1,771	1,663	1,793	1,561	1,542	1,711	1,641	1,558	1,664	1,553	1,653	0	19,754	19,754
2,355	2,523	2,379	2,669	2,380	2,317	2,550	2,469	2,341	2,548	2,406	2,557	0	29,494	29,494
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52,254	0	52,254
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,188	0	1,188
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,251	0	1,251
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18,641	0	18,641
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,634	0	3,634
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,307	0	7,307
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,820	0	4,820
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,842	0	2,842
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	0	38
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	159,382	0	159,382
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23,649	0	23,649
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,316	0	19,316
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,936	0	5,936
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107,126	0	107,126
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,885	0	1,885
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,456	0	1,456
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	14
93	313	99	86	84	88	112	78	68	70	77	56	166	1,224	1,390
93	299	80	63	65	64	85	78	68	70	77	56	0	1,098	1,098
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	166	0	166
0	14	19	23	19	24	27	0	0	0	0	0	0	126	126
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43,497	0	43,497
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11,273	0	11,273
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12,070	0	12,070
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	0	57
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,097	0	20,097
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
226,675	225,607	230,282	237,307	236,773	230,655	245,558	240,767	231,449	247,479	234,115	242,817	346,086	2,829,484	3,175,570

表17ー(2)　病理検査（7A ～ 7Z）詳細（令和元年）

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
7 A　細胞診　中計	1,978	2,036	1,918	2,007	1,965	1,842	2,076	1,897	1,949	1,992	2,063	1,926	23,649
婦人科　子宮膣・頚部	583	584	558	555	591	608	669	533	601	648	543	612	7,085
子宮体部	183	208	188	206	221	181	251	186	191	196	208	210	2,429
外陰・卵巣等	6	3	3	6	2	0	9	4	1	4	10	3	51
呼吸器科　喀　痰	4	10	0	4	0	4	0	12	16	0	20	4	74
気管支	113	110	154	172	115	97	120	136	150	136	173	112	1,588
穿　刺	16	12	14	14	12	10	4	17	17	4	10	20	150
消化器	76	91	108	102	82	67	71	88	88	91	115	104	1,083
泌尿器	172	181	175	114	143	142	147	121	109	130	86	101	1,621
体膣液．髄液	308	316	331	356	343	327	345	331	323	294	357	311	3,942
造血器．リンパ	73	117	66	69	83	107	93	80	126	107	111	56	1,088
乳腺	94	90	44	67	66	39	77	60	71	78	104	131	921
甲状腺	123	97	74	115	87	61	77	85	52	91	67	78	1,007
軟部組織	20	7	4	6	8	10	3	16	0	16	14	2	106
その他	10	2	0	7	4	4	2	7	6	4	6	0	52
免疫細胞診検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特殊染色	189	187	192	204	192	185	198	202	192	181	220	178	2,320
術中迅速細胞診	8	21	7	10	16	0	10	19	6	12	19	4	132
7 B　病理組織検査中計	9,757	10,475	10,691	12,100	10,499	10,365	11,907	10,703	10,230	12,335	11,293	12,023	132,362
7B-1　生検組織小計	1,191	1,429	1,406	1,831	1,558	1,544	1,850	1,423	1,591	1,906	1,771	1,816	19,316
1臓器	1,092	1,152	1,186	1,141	1,135	1,175	1,292	1,232	1,246	1,194	1,252	1,273	14,370
2臓器	98	262	205	509	337	319	459	183	254	614	441	453	4,134
3臓器	1	15	15	181	86	50	99	8	91	98	78	90	812
7B-2　試験切除小計	479	534	465	445	466	476	519	493	418	625	463	553	5,936
1臓器	312	396	352	318	316	318	349	329	282	420	336	319	4,047
2臓器	80	91	76	79	104	134	111	120	95	88	87	142	1,207
3臓器	87	47	37	48	46	24	59	44	41	117	40	92	682
7B-3　手　術　小　計	8,087	8,512	8,820	9,824	8,475	8,345	9,538	8,787	8,221	9,804	9,059	9,654	107,110
7B-3-1　手術切除	4,354	4,160	4,498	5,387	4,476	4,139	4,829	4,344	3,998	5,427	4,842	5,158	55,612
1臓器	645	673	511	885	1,054	862	986	900	769	797	777	984	9,843
2臓器	2,479	2,545	2,873	3,089	2,438	2,301	2,536	2,276	2,414	3,552	3,086	2,747	32,336
3臓器	1,230	942	1,114	1,413	984	976	1,307	1,168	815	1,078	979	1,427	13,433
7B-3-2　組織診断のみ	803	999	773	1,192	951	1,086	1,167	1,258	1,365	1,209	1,015	1,183	13,001
組織診断	803	999	773	1,192	951	1,086	1,167	1,258	1,365	1,209	1,015	1,183	13,001
7B-3-3　免疫組織・特殊	2,930	3,353	3,549	3,245	3,048	3,120	3,542	3,185	2,858	3,168	3,202	3,313	38,497
免疫組織化学検査	1,148	1,482	1,508	1,450	1,276	1,347	1,634	1,506	1,211	1,239	1,272	1,355	16,428
特殊染色	1,494	1,496	1,640	1,470	1,433	1,456	1,550	1,364	1,280	1,596	1,637	1,647	18,063
特殊免疫染色①（ER/PgR/Her-2）	196	274	299	231	249	225	266	245	260	237	229	235	2,946
特殊免疫染色②（EGFR）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特殊免疫染色③（DISH）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
FISH	50	51	50	44	48	52	48	38	42	38	20	38	519
ALK結合ﾀﾝﾊﾟｸ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PDL-1	42	48	52	48	42	40	38	30	65	58	40	38	541
EWSR1・MDM2	0	2	0	2	0	0	6	2	0	0	4	0	16
MDM2	169	179	139	159	167	125	174	135	152	180	139	167	1,885
組織検査	158	159	123	147	153	109	141	106	133	160	131	153	1,673
特殊染色	11	20	16	12	14	16	33	29	19	20	8	14	212
7 D　電子顕微鏡検査中計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電顕　透過型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 Z　解剖中計	87	235	17	58	175	57	15	107	34	252	53	367	1,457
7Z-1　解剖（体数）	4	1	0	2	0	1	0	0	1	4	2	0	15
7Z-2　剖検　小計	83	234	17	56	175	56	15	107	33	248	51	367	1,442
剖検切除組織	39	210	0	36	116	54	10	70	2	243	0	107	887
免疫組織化学検査	12	20	16	9	25	0	5	17	11	0	12	63	190
特殊染色	32	4	1	11	34	2	0	20	20	5	39	197	365
合　計	11,991	12,925	12,765	14,324	12,806	12,389	14,172	12,842	12,365	14,759	13,548	14,483	159,353

病理組織件数

病理組織	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
生検件数	626	689	678	724	674	685	684	670	641	671	663	677	8,082
試切件数	118	119	99	105	113	116	131	124	105	132	120	115	1,397
手術件数	187	192	202	222	192	201	229	195	204	203	212	225	2,464
合　計	931	1,000	979	1,051	979	1,002	1,044	989	950	1,006	995	1,017	11,943

細胞診検査件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
婦人科件数	396	386	366	366	392	393	429	355	399	431	362	0	4,275
その他件数	359	372	350	350	339	320	327	332	320	341	350	0	3,760
合　計	755	758	716	716	731	713	756	687	719	772	712	0	8,035

表17ー(3)　血液形態検査（2A ～ 2B・5I・8B）詳細（令和元年）

（単位：件）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
2A	血液形態小計	5,351	5,294	5,422	5,568	5,544	5,396	5,684	5,661	5,425	5,786	5,512	5,683	67,156
	血液像	5,162	5,118	5,276	5,410	5,366	5,238	5,540	5,487	5,269	5,605	5,349	5,551	64,371
	骨髄像	74	71	63	68	76	64	66	75	65	79	72	57	830
	骨髄細胞数	74	71	63	68	76	64	66	75	65	79	72	57	1,660
	特殊染色	41	34	20	22	26	30	12	24	26	23	19	18	295
2B	血液凝固小計	186	217	215	231	200	210	249	203	201	214	201	222	2,549
	出血時間	186	217	215	231	200	210	249	203	201	214	201	222	2,549
5I	細胞性免疫小計	97	101	97	90	117	91	100	103	87	110	99	90	1,182
	造血器悪性腫瘍	79	78	67	67	92	71	65	78	68	87	71	66	889
	Ｔｗｅ-ｃｏｌｏＴ	5	1	6	7	9	4	4	5	4	3	8	3	59
	細胞百分率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	B細胞表面マーカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	13	22	24	16	16	16	31	20	15	20	19	20	232
8B	染色体小計	14	15	10	10	10	9	6	11	13	14	24	15	151
	異性間染色体	4	10	7	5	6	4	4	6	8	7	12	5	78
	その他	10	5	3	5	4	5	2	5	5	7	12	10	73
合　計		5,648	5,627	5,744	5,899	5,871	5,706	6,039	5,978	5,726	6,124	5,836	6,010	71,038

表17ー(4)　細菌検査（6A ～ 6Z）詳細（令和元年）

（単位：件）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
一般細菌小計		1,217	1,063	1,231	1,262	1,142	1,193	1,336	1,253	1,305	1,130	1,197	1,252	14,581
	塗沫	246	214	241	266	241	251	268	265	260	253	252	282	3,039
	培養	326	306	322	344	318	318	341	331	302	338	302	332	3,880
	同定	389	354	424	416	376	404	472	410	468	321	394	392	4,820
	感受性	256	189	244	236	207	220	255	247	275	218	249	246	2,842
好酸菌小計		39	78	58	60	37	34	40	54	51	48	53	43	595
	塗沫	39	78	58	60	37	34	40	54	51	48	53	43	595
	培養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液培養小計		251	280	270	271	263	308	333	291	347	264	277	272	3,427
	培養	251	280	270	271	263	308	333	291	347	264	277	272	3,427
環境・感染症他小計		285	219	160	60	49	43	37	38	30	86	114	168	1,289
	クロストリジウムD－1毒素	33	32	29	20	19	23	29	23	14	26	18	15	281
	大腸菌ベロトキシン検出検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ	227	165	104	23	16	7	1	6	9	47	83	134	822
	ノロウイルス	12	14	13	0	0	0	1	0	0	9	10	9	68
	肺炎球菌莢膜抗原	5	2	4	7	5	6	2	5	3	2	1	4	46
	レジオネラ抗原	4	2	4	6	5	3	2	2	2	0	0	4	34
	HHV－6													0
	その他	4	4	6	4	4	4	2	2	2	2	2	2	38
合　計		1,792	1,640	1,719	1,653	1,491	1,578	1,746	1,636	1,733	1,528	1,641	1,735	19,892

表17ー(5)　生理機能・超音波検査（9A ～ 9Z）詳細（令和元年）

（単位：件）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
9A	心電図検査	943	933	906	1,014	927	849	961	985	901	977	924	953	11,273
	標準心電図	886	888	853	962	865	792	895	936	860	922	869	890	10,618
	ポータブル心電図	24	19	14	20	21	19	17	13	14	21	23	24	229
	ホルター型心電図	12	7	18	11	20	19	22	11	8	16	8	12	164
	トレッドミル負荷心機能検査	21	19	21	21	21	19	27	25	19	18	24	27	262
	タリウムシンチ負荷心機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9B	脳波検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	覚醒脳波	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	覚醒・睡眠脳波	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9C	呼吸機能検査	978	988	940	1,038	974	890	1,004	1,036	986	1,138	1,026	1,072	12,070
	肺気量分画測定	441	446	418	464	430	396	450	451	440	497	448	475	5,356
	フローボリウム（強制呼出曲線）	441	446	418	464	430	396	450	451	440	497	448	475	5,356
	機能的残気量	48	48	52	55	57	49	52	67	53	72	65	61	679
	肺拡散能力検査	48	48	52	55	57	49	52	67	53	72	65	61	679
	最大換気量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クロージングボリウム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9D	聴力9F眼科	2	2	6	5	4	10	8	6	0	6	4	4	57
	標準純音聴力検査	1	1	3	3	2	5	4	3	0	3	2	2	29
	チンパノメトリー	1	1	3	2	2	5	4	3	0	3	2	2	28
9F	超音波検査	1,579	1,582	1,613	1,717	1,695	1,570	1,837	1,746	1,553	1,735	1,701	1,769	19,067
	心臓断層+Mモード法	215	214	234	230	215	208	230	234	210	229	220	202	2,641
	心臓Pドップラー法	206	206	223	219	203	203	226	230	199	222	212	193	2,542
	頚部断層撮影法	157	205	188	233	199	184	237	208	185	216	201	226	2,439
	頚部Pドップラー法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳房断層撮影法	222	214	218	223	218	188	224	233	222	215	257	234	2,668
	乳房Pドップラー法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹部断層撮影法	191	205	180	226	212	208	230	226	180	215	230	269	2,572
	腹部Pドップラー法	2	1	0	2	0	2	1	2	3	3	0	0	16
	他の断層撮影法	46	43	39	42	49	60	54	55	52	57	53	43	593
	他のPドップラー法	9	15	11	10	15	17	14	14	18	14	16	8	161
	造影エコー	26	24	20	32	21	20	26	34	20	30	23	13	289
	婦人科断層法	203	175	208	205	261	190	238	204	206	226	199	211	2,526
	泌尿器科	105	93	95	71	83	93	106	110	73	84	79	97	1,089
	放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手術室	53	51	52	45	42	54	67	50	54	54	67	66	655
	その他（血管エコー）	68	63	71	83	79	62	87	64	62	78	65	94	876
	その他（フィブロスキャン+血管Pドップラー）	76	73	74	96	98	81	97	82	69	92	79	113	1,030
	合計	3,502	3,505	3,465	3,774	3,600	3,319	3,810	3,773	3,440	3,856	3,655	3,798	42,467

表17ー(6) 治験検体処理検査（8C）詳細（令和元年）

（単位：件）

分類	項　　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
検体種類	末梢血	1,010	981	1,023	1,161	1,186	912	1,080	1,042	938	1,010	1,040	1,155	12,538
	尿	16	21	14	12	7	4	6	13	9	7	12	10	131
	骨髄血	2	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	8
	胆汁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	子宮頚部擦過細胞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	唾液	3	7	6	3	2	1	1	1	0	0	0	0	24
	気管支擦過・洗浄液	26	24	33	41	27	0	0	0	0	0	0	0	151
	胸水	0	0	0	0	0	0	6	4	2	2	0	0	14
	便	15	15	12	9	18	14	13	9	11	13	10	8	147
	組織	33	35	35	38	21	22	29	25	37	34	39	30	378
	その他	1	1	1	0	0	1		9	29	36	21	21	120
	再生医療製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	検体種別合計	**1,106**	**1,086**	**1,124**	**1,264**	**1,263**	**954**	**1,135**	**1,103**	**1,026**	**1,104**	**1,122**	**1,224**	**13,511**
特殊作業	有核細胞採取	5	2	5	11	17	9	4	8	4	3	1	0	
	標本作成	29	26	24	32	36	15	15	13	9	12	13	9	
	トロポニン測定	23	14	14	17	15	6	8	8	5	2	3	3	
	尿定性	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合　計	**60**	**43**	**46**	**60**	**68**	**30**	**27**	**29**	**18**	**17**	**17**	**12**	**427**
依頼件数	遺伝外来（その他）	9	10	6	4	7	14	13	22	13	8	12	7	125
	治　　験	184	175	199	192	210	154	186	174	153	194	159	171	2,151
	研　　究	257	255	266	272	250	212	268	234	261	258	285	302	3,120
	合　計	**450**	**440**	**471**	**468**	**467**	**380**	**467**	**430**	**427**	**460**	**456**	**480**	**5,396**

表17ー(7) 輸血検査（5H）詳細（令和元年）

(1)輸血検査件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
ABO式及びRh式血液型	978	999	1,004	1,046	939	943	1,029	1,021	987	959	995	1,040	11,940
不規則抗体検査	978	999	1,004	1,046	939	943	1,029	1,021	987	959	995	1,040	11,940
交差試験（バッグ数）	62	71	97	44	50	45	65	65	37	32	39	37	644
コンピュータークロスマッチ（バッグ数）	271	302	274	309	216	252	266	210	240	246	241	290	3,117
直接クームス	0	1	1	2	1	3	1	1	0	1	1	1	13
間接クームス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不規則抗体同定	3	5	6	6	10	8	8	2	7	4	12	4	75
同種血球凝集素価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液型亜型	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3

(2)血液製剤使用状況

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
赤血球製剤	使用	バッグ	276	291	302	261	239	265	286	244	241	242	243	275	3,165
		単位	552	582	604	522	478	530	572	488	482	484	486	550	6,330
	廃棄	バッグ	0	4	3	1	0	3	2	2	0	0	0	2	17
		単位	0	8	6	2	0	6	4	4	0	0	0	4	34
新鮮凍結血漿	使用	バッグ	13	13	10	3	12	29	32	13	164	22	19	34	364
		ℓ	3.12	3.12	2.4	0.72	2.88	6.96	7.68	3.12	72.96	5.28	4.56	8.16	120.96
	廃棄	バッグ	0	2	0	3	0	6	0	0	0	1	0	0	12
		ℓ	0	0.48	0	0.72	0	1.44	0	0	0	0.24	0	0	2.88
濃厚血小板	使用	バッグ	183	233	268	141	115	141	189	174	172	139	168	160	2,083
		単位	1,880	2,375	2,715	1,450	1,175	1,420	1,920	1,745	1,690	1,390	1,655	1,725	21,140
	廃棄	バッグ	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	4
		単位	0	0	10	10	0	20	0	0	0	0	0	0	40
自己血（全血）	採取	バッグ	9	4	17	13	14	15	22	13	13	22	18	12	172
		単位	17	7	33	26	28	30	41	25	23	42	35	24	331
	使用	バッグ	13	3	10	10	10	7	14	11	8	19	15	12	132
		単位	25	5	20	19	20	14	26	22	15	34	29	24	253
	廃棄	バッグ	4	3	0	0	3	8	3	5	4	1	2	3	36
		単位	8	6	0	0	6	16	6	10	12	2	4	6	76
アルブミン製剤	使用	25% 50ml（本）	40	30	50	46	47	43	62	24	39	62	46	66	555
		5% 250ml（本）	17	23	12	31	34	13	41	6	18	27	15	48	285
		合計g	713	663	775	963	1,013	700	1,288	375	713	1,113	763	1,425	10,500

赤血球製剤（赤血球液、洗浄赤血球液、解凍赤血球液、合成血液、人全血液）

表17 ー(8)　委託検査の概要（令和元年）

⑴委託検査依頼患者数　　（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
依頼患者数　外　来	11,259	11,311	11,564	12,071	12,253	11,559	12,300	12,053	11,386	12,583	11,663	11,940	141,942
依頼患者数　入　院	5,080	5,125	5,393	5,454	5,284	5,301	5,646	5,412	5,228	5,221	5,420	5,758	64,322
依頼患者数　内日直	921	776	892	801	828	813	848	835	1,013	841	922	1,103	10,593
依頼患者数　全　体	16,339	16,436	16,957	17,525	17,537	16,860	17,946	17,465	16,614	17,804	17,083	17,698	206,264
稼働1日平均患者数	527	587	547	584	566	562	579	563	554	574	569	571	565
稼　働　日　数	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365
外来／入院（%）	2.22	2.21	2.14	2.21	2.32	2.18	2.18	2.23	2.18	2.41	2.15	2.07	2.21

⑵委託検査患者数の年動態　　（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
H22年　依頼患者数	8,126	8,221	9,212	8,549	7,981	8,810	8,474	8,862	8,814	8,539	8,836	8,398	102,822
H23年　依頼患者数	8,357	8,237	8,969	8,478	7,926	8,511	7,722	8,464	7,965	8,180	8,217	7,916	98,942
H24年　依頼患者数	7,698	8,039	8,569	8,041	8,823	8,452	8,883	8,947	8,250	9,244	8,603	8,307	101,856
H25年　依頼患者数	8,648	8,244	8,699	9,082	9,407	8,714	9,625	9,134	8,780	8,989	10,715	11,589	111,626
H26年　依頼患者数	11,717	11,327	12,312	12,384	12,808	12,971	13,223	12,508	13,230	14,281	12,241	13,219	152,221
H27年　依頼患者数	13,196	12,807	14,512	13,815	12,927	14,369	14,898	14,146	13,862	15,147	14,430	14,449	168,558
H28年　依頼患者数	13,948	14,816	15,778	14,483	14,478	15,546	14,698	16,130	15,552	15,795	15,702	15,146	182,072
H29年　依頼患者数	14,882	14,901	16,802	14,586	15,353	15,977	15,116	16,482	15,191	16,360	16,400	15,923	187,973
H30年　依頼患者数	15,040	15,009	16,340	15,102	16,698	15,651	16,224	17,542	15,236	17,122	16,919	16,100	192,983
R 1年　依頼患者数	16,339	16,436	16,957	17,525	17,537	16,860	17,946	17,465	16,614	17,804	17,083	17,698	206,264

⑶委託検査　生化学丸め検査件数　　（単位：人）

項　目　数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
包括項目1　5～7	58	56	86	55	81	66	85	83	59	91	81	115	916
包括項目2　8～9	192	192	223	166	138	131	149	173	153	141	150	130	1,938
包括項目3　10～14	4,493	4,265	4,669	4,427	4,602	4,597	4,837	4,727	4,502	4,685	4,424	4,658	54,886
包括項目3　15～19	4,500	4,450	4,864	4,323	5,645	5,387	5,813	5,733	5,595	6,048	5,725	5,902	63,985
包括項目3　20以上	734	741	801	776	831	837	844	795	752	830	798	799	9,538
合　計	9,977	9,704	10,643	9,747	11,297	11,018	11,728	11,511	11,061	11,795	11,178	11,604	131,263
15～29項目合計	5,234	5,191	5,665	5,099	6,476	6,224	6,657	6,528	6,347	6,878	6,523	6,701	63,098

表17ー⑼　日直・当直検査の詳細（令和元年）

⑴土曜・祭日等休日および当直の輸血検査業務内容　（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
日直日数・当直日数	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365
血液型・交差試験（人）	215	234	217	177	199	180	205	225	247	205	223	249	2,576
入庫件数	25	25	29	17	24	20	20	33	24	19	16	19	271
出庫件数	112	116	108	65	84	96	99	76	104	97	88	112	1,157
返品件数	5	5	3	11	7	5	4	2	3	5	2	12	64
血培（人）塗沫、グラム（土）	6	7	8	7	7	7	5	6	12	4	10	9	88
インフルエンザ（人）	87	63	43	5	10	3	1	2	1	27	37	73	352
ノロウイルス（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検体預かり（人）	179	144	177	178	185	184	164	165	180	183	195	204	2,138
病理処理（人）	12	18	12	11	8	2	7	6	8	7	5	8	104

＊交差試験・入庫・照射・出庫の件数はそれぞれ１人１件として数えています。

⑵土曜・祭日等休日および当直の委託検査への検査依頼患者数　（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
日直日数・当直日数	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365
検体検査外来患者数	170	112	159	119	117	138	134	171	143	146	163	192	1,764
検体検査入院患者数	751	664	733	682	711	675	714	664	870	695	759	911	8,829
検体検査合計患者数	921	776	892	801	828	813	848	835	1,013	841	922	1,103	10,593

表18　内視鏡室実績（2019年）

（単位：件（前年比））

平成31年，令和元年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
EGD	510	548	527	561	490	527	497	495	436	477	482	500	6,050 (+11)
CS	145	154	143	160	151	170	162	181	156	178	153	185	1,938 (+36)
食道EMR・ESD[+]	5	11	6	6	5	6	9	7	4	5	5	2	71 (+7)
胃・十二指腸EMR・ESD[++]	20	23	20	20	20	17	17	12	12	21	16	13	211 (+17)
大腸EMR・ESD[+++] ・polypectomy	62	52	48	53	70	74	74	81	79	91	87	89	860 (+44)
消化管バルーン拡張	19	14	13	18	11	12	11	14	10	19	13	11	165 (+10)
消化管ステント	8	9	8	7	11	8	9	8	10	6	12	11	107 (+13)
胃瘻造設・交換	3	3	3	3	1	2	2	3	7	1	0	4	32 (+12)
内視鏡的止血術*	9	13	17	10	17	25	16	8	18	19	13	11	176 (+31)
緊急内視鏡	62	65	69	77	87	72	91	85	91	81	88	103	971 (+64)
生検件数	276	270	237	249	223	249	194	205	194	249	198	179	2,723 (-461)

* 止血内訳（EMR・ESD後予防的止血含む）

[+]食道EMR・ESD内訳

EMR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (±0)
ESD	5	11	6	6	5	6	9	7	4	5	5	2	71 (+7)

[++]胃・十二指腸EMR・ESD内訳

EMR	0	0	2	1	2	1	2	0	3	0	0	1	12 (+2)
ESD	20	23	18	19	18	16	15	12	9	21	16	12	199 (+15)

[+++]大腸EMR+cold polypectomy・ESD内訳

EMR + polypectomy	51	44	45	44	65	69	72	73	67	82	80	84	776 (+19)
ESD	11	8	3	9	5	5	2	8	12	9	7	5	84 (+25)

表19　外来化学療法室／処置室／外来採血室実績（令和元年）

⑴外来化学療法室業務量　（単位：件）

月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来化学療法	1,947	2,007	1,944	1,909	2,001	1,966	2,249	1,975	1,967	2,152	1,991	2,191	24,299
注射（皮下、筋肉）	492	566	503	692	583	472	541	501	502	437	482	573	6,344

⑵処置室業務量　（単位：件）

月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
点滴	130	141	117	151	151	139	137	123	123	111	126	114	1,563
輸血	45	49	51	55	39	39	42	45	40	37	34	60	536
処置等	377	403	346	400	373	325	341	330	325	337	372	366	4,295

※ 処置には、ネブライザーなどの件数も含む

⑶外来化学療法数の年次推移（平成19年度～令和元年度）　（単位：件）

年度別	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年
化学療法	12,012	12,130	12,323	11,747	11,785	11,624	12,565	15,067	16,377	18,594	19,933	22,403	24,299

⑷外来採血室業務量

月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
採血（件）	8,352	8,286	8,440	8,651	8,761	8,409	9,072	8,740	8,267	9,223	8,475	8,628	103,304
日平均件数（件）	440	436	422	412	438	421	412	416	435	439	424	432	5,127

表20　薬剤科業務統計

⑴薬剤件数

⑴－１　調剤数

薬剤内訳＼月別		1月	2月	3月	4月	5月	6月
外来	処方箋枚数	807	723	771	760	814	765
	調剤数	1,347	1,264	1,359	1,399	1,459	1,296
	延剤数	16,334	14,944	17,491	17,738	17,396	17,046
入院	処方箋枚数	7,768	8,097	8,492	8,704	8,270	8,521
	調剤数	15,359	15,568	16,167	16,407	15,817	16,140
	延剤数	111,227	109,534	115,065	116,136	109,843	115,680
院外	処方箋枚数	7,036	6,810	7,194	7,263	7,246	6,855
計	処方箋枚数	15,611	15,630	16,457	16,727	16,330	16,141
	調剤数	16,706	16,832	17,526	17,806	17,276	17,436
	延剤数	127,561	124,478	132,556	133,874	127,239	132,726

⑴－２　注射箋枚数

	1月	2月	3月	4月	5月
注射箋枚数	52,606	50,888	56,190	53,888	54,422
（うち麻薬注射箋枚数）	1,758	1,518	1,621	1,895	1,794
入院化学療法無菌製剤件数	1,974	1,907	1,952	1,990	2,049
外来化学療法無菌製剤件数	956	924	847	772	805

⑴－３　注射剤本数

（単位：本）

区分	室温保存薬品				冷所保存薬品			合計
	100mℓ未満	100mℓ～500mℓ未満	500mℓ以上	計	100mℓ未満	100mℓ以上	計	
年計	706,278	293,615	198,697	1,198,590	80,497	94	80,591	1,279,181
日平均	2,895	1,203	814	4,912	330	0	330	5,243

⑵医薬品情報（D.I）業務件数

項目＼月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月
薬品名	32	29	31	30	32	31
新薬・治験薬	0	0	0	0	0	0
効能・効果	64	57	62	61	65	61
用法・用量	322	287	308	304	324	306
使用方法	3	1	3	2	3	2
副作用	1	1	1	2	1	1
保管方法	1	2	2	2	1	1
使用期限	2	1	0	1	0	0
他剤併用（他科）	2	3	1	0	0	1
他剤併用（他院）	2	0	1	0	0	0
他剤併用（市販薬）	1	1	1	1	0	0
配合変化	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	430	382	410	403	426	403

⑶薬剤管理指導業務

		1月	2月	3月	4月	5月
外来	人数	805	718	771	760	811
	薬剤情報提供料算定件数	322	298	343	295	289
入院	人数	698	666	709	753	699
	薬剤管理指導料算定件数	795	699	670	708	674
	（うち退院加算件数）	2	4	0	3	0
	（うち麻薬加算件数）	21	26	28	19	13
	実施回数	1,220	1,035	1,128	1,157	1,211

（2019年）

今年は244日　　（単位：件）

7月	8月	9月	10月	11月	12月	一日平均	構成比（%）
870	821	783	823	817	816	39.2	
1,606	1,419	1,310	1,349	1,490	1,407	68.5	4.9
19,159	18,732	17,308	18,285	18,856	17,852	865.3	
8,983	9,023	8,187	8,812	7,647	4,629	398.1	
17,294	17,531	16,113	16,928	13,081	12,277	773.3	50.1
121,636	123,295	115,848	117,757	71,055	66,630	5,302.1	
7,545	7,505	7,161	7,925	7,310	7,505	358.0	45.0
17,398	17,349	16,131	17,560	15,774	12,950	795.3	
18,900	18,950	17,423	18,277	14,571	13,684	841.8	
140,795	142,027	133,156	136,042	89,911	84,482	6,167.4	

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　　計
53,494	55,210	56,496	55,912	56,385	54,002	57,081	656,574
1,828	1,889	2,033	2,144	1,707	1,384	2,054	21,625
1,985	1,970	2,049	2,016	2,297	2,038	2,038	24,265
868	968	1,017	966	1,008	928	847	10,906

(1)ー 4　製剤数

区　　分	内用液剤（mℓ）	外用液剤（g）	軟膏剤（g）	注射剤（mℓ）	坐薬（個）	ｶﾞｰｾﾞ（含抗生物質）（枚）
非　滅　菌　製　剤	0	155,230	13,120	0	0	0
滅　菌　製　剤	0	229,750	0	10	0	60
合　計	0	384,980	13,120	10	0	60

（単位：件）

7月	8月	9月	10月	11月	12月	一日平均	構成比（%）
35	33	31	33	31	33	1.6	7.5
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
70	66	63	66	63	65	3.1	15.1
348	328	313	328	314	326	15.6	75.3
3	2	1	1	2	2	0.1	0.5
2	1	2	3	0	0	0.1	0.3
2	3	2	2	3	3	0.1	0.5
1	1	0	1	3	1	0.0	0.2
2	0	2	0	2	3	0.1	0.0
1	0	0	0	1	2	0.0	0.0
0	0	0	1	1	1	0.0	0.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
464	434	414	435	420	436	20.7	

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　　計
765	870	819	783	821	786	814	9,523
298	354	328	323	303	316	321	3,790
647	672	658	653	676	298	332	7,461
645	644	595	568	608	528	508	7,642
1	0	0	0	0	0	0	10
24	8	12	12	6	12	5	186
1,160	1,047	1,007	959	1,145	528	508	12,105

⑷麻薬使用数量

	単位	1月	2月	3月	4月	5月
アヘンチンキ	mℓ	70	39	84	96.5	202.5
イーフェンバッカル錠 50μg	錠	62	190	189	228	110
イーフェンバッカル錠 100μg	錠	37	80	225	101	88
イーフェンバッカル錠 200μg	錠		75			
MSコンチン錠 10mg	錠	275	206	272	65	24
MSコンチン錠 30mg	錠			31	3	
オキシコドン徐放錠 5mg	錠	1,412	1,328	1,652	1,240	1,412
オキシコドン徐放錠 10mg	錠	2,222	1,615	1,753	2,800	1,765
オキシコドン徐放錠 40mg	錠	353	346	430	673	542
オキノーム散 2.5mg	包	1,482	873	1,296	1,221	1,045
オキノーム散 5mg	包	791	784	1,043	1,043	1,038
オキノーム散 10mg	包	897	852	1,013	1,119	618
オキノーム散 20mg	包	151	265	664	635	128
オプソ内服液 5mg	包	247	552	1,020	574	356
オプソ内服液 10mg	包	45		109	163	243
タペンタ錠 25mg	錠		8	49		60
タペンタ錠 50mg	錠	358	211	187	575	250
ナルサス錠 2mg	錠	241	315	224	266	146
ナルサス錠 6mg	錠	80	10	132	89	104
ナルラピド錠 1mg	錠	148	277	382	586	365
モルペス細粒2% 10mg/包	包	320	354	620	318	125
コデインリン酸塩錠 20mg	錠	299	430	612	296	561
内服トータル		9,490	8,810	11,987	12,091.5	9,182.5
アンペック坐剤 10mg	個	17	44	8	5	7
アンペック坐剤 20mg	個			5		
フェンタニルクエン酸塩テープ 1mg	枚	338	340	334	382	452
フェンタニルクエン酸塩テープ 2mg	枚	133	214	247	259	251
フェンタニルクエン酸塩テープ 4mg	枚	28	72	75	91	102
フェンタニルクエン酸塩テープ 6mg	枚		7	22	59	7
フェンタニルクエン酸塩テープ 8mg	枚	22	17	18	7	35
フェントステープ 4mg	枚	35				
フェントステープ 6mg	枚		5	16		
外用トータル		573	699	725	803	854
塩酸モルヒネ注射10mg「タケダ」	A		139	45	118	135
塩酸モルヒネ注射10mg「シオノギ」	A	104	10			
塩酸モルヒネ注射 50mg	A	208	150	114	207	266
オキファスト 10mg	A	90	18	13	47	96
オキファスト 50mg	筒	149	104	99	127	93
ケタラール 200mg 20mℓ	mℓ					
ケタラール静注用 50mg	A		1	1	3	
ナルベイン注 2mg	A		18	147	2	14
ナルベイン注 20mg	A			14		
フェンタニル注射液 0.1mg	V	728	757	801	1,088	828
フェンタニル注射液 0.5mg	A	349	366	598	464	411
ペチジン塩酸塩注射液 35mg	A	219	230	220	235	200
塩酸モルヒネ注射液 200mg	A	45	9	16	21	25
レミフェンタニル静注用 2mg	A	315	322	316	348	317
注射トータル	本	2,207	2,124	2,384	2,660	2,385

今年は365日

6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	計	1 日平均
121	72.5	141		15.5	20	64	926	2.54
85	109	368	283	105	183	177	2,089	5.72
109	294	84	21	154	96	14	1,303	3.57
	28	56	14		40	198	411	1.13
29	91	165	181	57	227	18	1,610	4.41
	56	155	78		316	108	747	2.05
1,448	1,516	1,955	1,224	2,047	2,387	1,994	19,615	53.74
2,334	2,605	3,364	2,449	2,871	2,300	2,504	28,582	78.31
786	505	562	550	612	543	470	6,372	17.46
1,366	1,481	1,571	1,105	1,713	1,375	1,657	16,185	44.34
1,400	1,891	2,122	1,471	851	1,081	1,161	14,676	40.21
1,122	916	1,143	1,054	850	786	864	11,234	30.78
212	251	321	541	263	218	616	4,265	11.68
154	683	1,035	828	610	672	1,034	7,765	21.27
	40	171	106	107	271	141	1,396	3.82
92	87	159	84	23	26	48	636	1.74
196	154	272	98	168	128	198	2,795	7.66
136	146	326	139	119	245	116	2,419	6.63
26	47	158	69	113	162	124	1,114	3.05
66	221	610	325	263	487	166	3,896	10.67
78	209	353	108	150	236	385	3,256	8.92
590	859	766	648	944	752	667	7,424	20.34
10,350	12,261.5	15,857	11,376	12,035.5	12,551	12,724	138,716	380.04
2		94	60	69	35	39	380	1.04
					1	4	10	0.03
349	450	485	497	504	328	276	4,735	12.97
194	147	185	200	263	384	306	2,783	7.62
93	96	65	89	191	97	108	1,107	3.03
49	49	20	27	10		8	258	0.71
42	17	10	12	21	40	200	441	1.21
							35	0.10
							21	0.06
729	759	859	885	1,058	885	941	9,770	26.77
113	90	354	181	127	167	69	1,538	4.21
							114	0.31
305	251	283	502	258	313	292	3,149	8.63
117	56	189	137	137	145	85	1,130	3.10
228	184	179	424	353	201	217	2,358	6.46
			40	340		40	420	1.15
	4						9	0.02
73	49	12	3			3	321	0.88
							14	0.04
803	1,027	811	817	826	787	890	10,163	27.84
439	415	325	322	313	331	478	4,811	13.18
213	228	235	216	219	219	224	2,658	7.28
111	52	10	35	80	87	175	666	1.82
327	379	318	313	322	330	348	3,955	10.84
2,729	2,735	2,716	2,990	2,975	2,580	2,821	31,306	85.77

表21－(1)　患 者 給 食 数（令和元年）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	1日平均	構成比
常　　食	7,950	7,762	8,715	8,959	8,432	9,554	9,744	9,580	9,388	8,977	9,392	8,848	107,301	293.2	37%
軟 流 動	3,595	3,152	3,173	3,401	3,184	3,038	3,221	3,582	3,543	3,054	3,073	3,194	39,210	107.1	13%
（ 全 粥 ）	1,910	1,642	1,722	2,152	1,941	1,743	1,958	2,113	1,799	1,610	1,849	1,682	22,121	60.4	8%
（ 5 分 粥 ）	690	552	734	539	458	535	599	669	739	638	464	776	7,393	20.2	3%
（ 3 分 粥 ）	580	443	377	330	482	448	304	466	509	393	340	417	5,089	13.9	2%
（ 流 動 食 ）	415	515	340	380	303	312	360	334	496	413	420	319	4,607	12.6	2%
がん治療支援食	6,043	6,271	6,669	5,489	5,831	5,716	5,456	5,943	5,692	6,673	5,084	5,447	70,314	192.1	24%
特別食（治療食）	6,058	6,017	6,622	5,851	5,900	6,117	5,915	6,279	5,623	6,038	5,861	6,919	73,200	200.0	25%
検　　食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190	6.0	1%
総　　数	23,832	23,370	25,365	23,880	23,533	24,605	24,522	25,570	24,426	24,928	23,590	24,594	292,215	798	100%

がん治療支援食とは、特別食には該当しないが、がん治療中の栄養状態維持を目的に症状、病態に合わせて準備している食種を分類した。

表21－(2)　栄養相談・指導数（令和元年）

区分＼月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
外　　来	指 導 件 数	271	228	247	288	304	275	284	267	237	267	268	278	3,214
入　　院	指 導 件 数	777	778	714	600	601	609	642	638	603	644	651	590	7,847
総　　数	指 導 件 数	1,048	1,006	961	888	905	884	926	905	840	911	919	868	11,061

表22　退院患者年齢階級別性別数（令和元年）

（単位：人）

年齢別＼月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
～19	男	1	1	2	1	3	2	1	3	1	2	1	3	21	
	女	1		1	1	1		1	3		2	1	3	14	0.3
	計	2	1	3	2	4	2	2	6	1	4	2	6	35	
20～24	男	6	4	5	4	3	1	2	1	6	3	3	2	40	
	女		5	3	1	5	1	2	1	5	2	2	1	28	0.6
	計	6	9	8	5	8	2	4	2	11	5	5	3	68	
25～29	男	7	2	4	8	5	5	4	5	3	5	8	11	67	
	女	3	3		4	2	3	3	1	3	3	3	2	30	0.8
	計	10	5	4	12	7	8	7	6	6	8	11	13	97	
30～34	男	3	1		2	1	5	4	5	4	14	7	11	57	
	女	6	2	7	7	6	2	7	10	9	4	11	9	80	1.2
	計	9	3	7	9	7	7	11	15	13	18	18	20	137	
35～39	男	5	4	5	8	3	7	7	9	5	8	4	5	70	
	女	3	13	16	12	16	14	9	9	10	13	13	9	137	1.7
	計	8	17	21	20	19	21	16	18	15	21	17	14	207	
40～44	男	12	6	20	13	12	13	15	14	9	10	15	9	148	
	女	20	18	12	19	8	13	22	17	16	14	9	20	188	2.8
	計	32	24	32	32	20	26	37	31	25	24	24	29	336	
45～49	男	14	21	23	24	21	23	33	13	20	20	24	31	267	
	女	22	21	30	29	25	31	35	32	30	27	29	33	344	5.1
	計	36	42	53	53	46	54	68	45	50	47	53	64	611	
50～54	男	27	28	23	27	30	32	33	36	42	36	41	31	386	
	女	20	36	38	39	39	35	44	41	34	41	50	38	455	7.1
	計	47	64	61	66	69	67	77	77	76	77	91	69	841	
55～59	男	34	37	38	39	54	47	40	54	37	45	41	39	505	
	女	24	46	42	33	38	39	39	28	35	30	34	38	426	7.8
	計	58	83	80	72	92	86	79	82	72	75	75	77	931	
60～64	男	63	64	62	69	52	88	68	70	66	69	62	76	809	
	女	40	43	38	43	37	33	45	47	34	51	44	63	518	11.2
	計	103	107	100	112	89	121	113	117	100	120	106	139	1,327	
65～69	男	79	93	117	106	97	110	96	115	110	111	99	92	1,225	
	女	66	62	73	66	75	76	61	65	50	37	53	72	756	16.7
	計	145	155	190	172	172	186	157	180	160	148	152	164	1,981	
70～74	男	107	118	119	124	111	128	114	122	106	132	142	143	1,466	
	女	66	63	72	64	56	59	58	52	52	63	70	84	759	18.7
	計	173	181	191	188	167	187	172	174	158	195	212	227	2,225	
75～79	男	106	106	124	91	86	90	94	111	98	91	88	111	1,196	
	女	53	49	65	48	53	46	46	61	49	51	64	63	648	15.5
	計	159	155	189	139	139	136	140	172	147	142	152	174	1,844	
80～	男	61	56	69	57	66	68	72	57	67	68	62	56	759	
	女	41	41	37	42	38	39	47	39	46	38	43	40	491	10.5
	計	102	97	106	99	104	107	119	96	113	106	105	96	1,250	
合計	男	525	541	611	573	544	619	583	615	574	614	597	620	7,016	
	女	365	402	434	408	399	391	419	406	373	376	426	475	4,874	100.0
	計	890	943	1,045	981	943	1,010	1,002	1,021	947	990	1,023	1,095	11,890	

表23　退院患者地域別数（令和元年）

（　）は上皮内癌　退院内数　（単位：人）

地区別＼主部位別	計				食道	胃	結腸	直腸	肝	胆道・胆嚢	膵	肺	乳	子宮頚	子宮体	前立腺	膀胱	甲状腺	悪性リンパ腫	白血病（MDS）	他	悪性腫瘍構成比（%）	地区別構成比（%）
	合計	悪性新生物	上皮内	非悪性新生物																			
計	11,890	11,136	(250)	754	855 (2)	861 0	465 (22)	380 (8)	557 0	421 0	1,481 (2)	1,674 (5)	663 (50)	307 (58)	212 0	451 0	309 (63)	171 0	509 0	247 (32)	1,573 (8)	93.7	
横浜市	7,035	6,573	(181)	462	576 (1)	552	285 (14)	235 (7)	281	210	752	974 (2)	507 (43)	181 (41)	139	360	195 (54)	84	282	85 (11)	875 (8)	55.3	59.2
鶴見区	128	122	(1)	6	8	10	2	2	3	12	14	15	5	1 (1)	16	1	2	2	2	7	20	1.0	1.1
神奈川区	255	241	(5)	14	23	9	13	12 (1)	7	3	40	54	26 (1)	7 (2)	1	7	1 (1)	1	9	7	21	2.0	2.1
西区	101	98	(1)	3	5	7	12	3	6		16	12	11	7 (1)	6	4		1	1		7	0.8	0.8
中区	75	69	(2)	6	10	4	2	1 (1)	10	5	1	9	7	1 (1)		3			6		10	0.6	0.6
南区	159	148	(7)	11	4	10	10		12		13	33	12 (4)	4 (2)	8	15	5	2	2		(3) (1)	1.2	1.3
保土ヶ谷区	561	527	(9)	34	52	49	22 (1)	24	26	29	85	50	46 (2)	19 (1)	2	33	13 (5)	6	18	2	51	4.4	4.7
磯子区	155	143	(3)	12	17	18		2	7	5	9	24	16 (2)	7	6	10		6	2	4	10 (1)	1.2	1.3
金沢区	72	68	(1)	4	14	1	3	2	1	2	16	2	5	1			2 (1)	2			17	0.6	0.6
港北区	199	185		14	23	7	5		2	10	40	33	5	20	7	6	1	1	7	2	16	1.6	1.7
戸塚区	603	566	(18)	37	56	53	26 (3)	21	14	27	52	86 (1)	32 (3)	18 (5)	18	16	14 (4)	3	47	11 (1)	72 (1)	4.8	5.1
港南区	170	161	(2)	9	27	20	13	4	3	1	15	17	13 (1)	1 (1)	5	3	6	5	11	1	16	1.4	1.4
旭区	2,146	1,982	(75)	164	143	197	105 (5)	80 (5)	86	39	181	320	171 (15)	50 (12)	27	164	99 (28)	22	58	13 (6)	301 (4)	16.7	18.0
緑区	305	295	(2)	10	26	32	11 (1)	2	12	15	61	23	15	7 (1)	4	15	6	1	21	1	43	2.5	2.6
瀬谷区	838	782	(31)	56	68 (1)	59	24 (2)	27	22	17	63	153	62 (9)	17 (7)	15	50	22 (11)	12	24	10	137 (1)	6.6	7.0
栄区	127	121	(4)	6	29	1	1	6	5	2	5	12	4	3 (2)	3	2	6	3		5 (2)	34	1.0	1.1
泉区	705	651	(18)	54	26	60	18 (1)	37	44	20	39	95 (1)	67 (6)	15 (4)	18	19	12 (4)	12	48	22 (2)	99	5.5	5.9
青葉区	213	203	(2)	10	17	9	5 (1)	3	8	2	46	23	5	1 (1)	2	11	6	4	14		47	1.7	1.8
都筑区	223	211		12	28	6	13	9	13	21	56	13	5	2	1	1		1	12		30	1.8	1.9
川崎市	216	198	(1)	18	4	7	3	7	9	10	30	25	4	5 (1)		6	9	4	19		56	1.7	1.8
横須賀市	241	227		14	16	18	4	7	14	19	67	23	3		7	2	2	5	15	3	22	1.9	2.0
平塚市	104	89	(3)	15	5	10	2	2	9	5	11	23	2	1 (1)				3	6	2 (2)	8	0.7	0.9
鎌倉市	179	168	(1)	11	14	19	4	1	5		17	28 (1)	3	1	2	5	14	7		7	41	1.4	1.5
藤沢市	568	547	(12)	21	51	38	7 (1)	2	36	14	89	86	24 (2)	28	6	8	14 (2)	15	24	38 (7)	67	4.6	4.8
小田原市	67	63	(2)	4	3	2		2	3	1	14	10		1	3	1	5 (2)	6	7		5	0.5	0.6
茅ヶ崎市	186	175	(4)	11	11	5	3 (1)	6	3	5	20	31	3	1	4	4		5	5	33 (3)	36	1.5	1.6
逗子市	24	22		2			2	3	4	1	4	3				1			3	1	0	0.2	0.2
相模原市	592	558	(12)	34	24	39	27 (2)	13	26	31	109	46	7	9 (6)	14	12	27	8	61	36 (4)	69	4.7	5.0
三浦市	39	37		2		2	1		2	6	11	1									14	0.3	0.3
秦野市	94	88	(1)	6	8	16	2	4	15	3	13	2	3	1 (1)	1		2	1			17	0.7	0.8
厚木市	146	138	(1)	8		15	9 (1)	10	9	12	34	27	7			3		1	2		9	1.2	1.2
大和市	705	670	(11)	35	61 (1)	48	27 (1)	23	33	38	72	161 (1)	35 (3)	31 (4)	1	14	20 (1)	6	14	12	74	5.6	5.9
伊勢原市	39	37	(1)	2		1	2 (1)		6	4	10	2	2		1	2	1				6	0.3	0.3
海老名市	336	313	(2)	23	34	21	31	21	34	12	44	19	23	11 (1)	8	6	3 (1)	3	1		42	2.6	2.8
座間市	333	310	(2)	23	13	22	12	14	14	21	39	31	10	14 (1)	2	5	7	3	20	9 (1)	74	2.6	2.8
南足柄市	47	44	(1)	3			1	1			5	24 (1)				3	5	2			3	0.4	0.4
綾瀬市	208	197	(5)	11	20	17	9	6 (1)	19	3	43	29	9 (1)	5	1	4	2 (1)	1	1	2 (2)	26	1.7	1.7
三浦郡	8	8	(1)		1				1	1	2			1 (1)							2	0.1	0.1
高座郡	72	71		1		2			4	1	12	11	3	1	4			2	8		23	0.6	0.6
愛甲郡	39	38		1			7		1	7	4	7			6			1			5	0.3	0.3
中郡	18	17	(3)	1		2					2 (2)	7	1 (1)						2	3	0	0.1	0.2
足柄上郡	39	34		5		2		2	1		2	10	1		10				2		4	0.3	0.3
足柄下郡	7	7						3				1						1	1		1	0.1	0.1
県外	548	507	(6)	41	14	23	27 (1)	18	28	17	75	93	16	16 (1)	3	15	3 (2)	13	36	16 (2)	94	4.3	4.6

表24－(1)　退院患者（延）疾病分類(1)

（令和元年）

疾病別				計		男		女	
				全退院	死亡	全退院	死亡	全退院	死亡
合計				**11,890**	**658**	**7,016**	**384**	**4,874**	**274**
Ⅰ	A00～B99	感染症及び寄生虫症		11	0	5		6	
	A15～A19	結核（再掲）		0	0				
	B15～B19	ウィルス肝炎（再掲）		0	0				
Ⅱ	C00～D48	新生物	悪性新生物（C00～C97）	10,886	649	6,511	376	4,375	273
			その他の新生物（D00～D48）	768	4	398	4	370	
Ⅲ	D50～D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害		3	0	1		2	
Ⅳ	E00～E90	内分泌、栄養および代謝疾患		36	0	6		30	
	E10～E14	糖尿病（再掲）		1	0	1			
Ⅴ	F00～F99	精神および行動の障害		1	0			1	
Ⅵ	G00～G99	神経系の疾患		1	0	1			
Ⅶ	H00～H59	眼および付属器の疾患		0	0				
Ⅷ	H60～H95	耳および乳様突起の疾患		0	0				
Ⅸ	I00～I99	循環器系の疾患		9	1	3	1	6	
	I10～I15	高血圧性の疾患（再掲）		0	0				
	I20～I25	虚血性心疾患（再掲）		1	0			1	
	I30～I52	その他の型の心疾患（再掲）		3	1	3	1		
	I60～I69	脳血管疾患（再掲）		4	0			4	
Ⅹ	J00～J99	呼吸器系の疾患		26	4	20	3	6	1
Ⅺ	K00～K93	消化器系の疾患		65	0	33		32	
	K25～K27	胃・十二指腸潰瘍（再掲）		3	0	2		1	
	K70～K74	肝硬変・慢性肝炎（再掲）		3	0	1		2	
	K80～K81	胆石症・胆のう炎（再掲）		8	0	4		4	
Ⅻ	L00～L99	皮膚および皮下組織の疾患		7	0	3		4	
ⅩⅢ	M00～M99	筋骨格系および結合組織の疾患		11	0	7		4	
ⅩⅣ	N00～N99	尿路性器系の疾患		24	0	3		21	
	N00～N39	泌尿器（再掲）		4	0	2		2	
	N40～N51	男性性器（再掲）		1	0	1			
	N70～N77 N80～N98	女性性器（再掲）		19	0			19	
ⅩⅤ	O00～O99	妊娠・分娩および産じょく〈褥〉		0	0				
ⅩⅥ	P00～P96	周産期に発生した病態		0	0				
ⅩⅦ	Q00～Q99	先天奇形、変形および染色体異常		1	0			1	
ⅩⅧ	R00～R99	症状、兆候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		1	0	1			
ⅩⅨ	S00～T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響		3	0	1		2	
ⅩⅩ	V01～Y98	傷病および死亡の外因		0	0				
ⅩⅪ	Z00～Z99	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用		37	0	23		14	
	Z520	血液提供者〈ドナー〉（再掲）		7	0	11		5	
	Z523	骨髄提供者〈ドナー〉（再掲）		18	0	11		7	
	Z526	肝臓提供者〈ドナー〉（再掲）		4	0	1			

死亡は全退院の内数

表24－(2)　退院患者（延）疾病分類(2)
悪性新生物部位別内訳

	部位	計					男					女				
		全退院			死亡		全退院			死亡		全退院			死亡	
		悪性	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS	小計	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS	小計	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS
C00 ～ C97	**総数**	11,136	10,886	250	(649)	(4)	6,613	6,511	102	(376)	(4)	4,523	4,375	148	(273)	
C00 ～ C14	**口唇・口腔及び咽頭　計**	354	351	3	(10)	0	284	282	2	(8)	0	70	69	1	(2)	0
C00	口唇	0														
C01	舌根〈基底〉部	2	2				2	2								
C02	その他及び部位不明の舌	43	42	1	(1)		32	32				11	10	1	(1)	
C03	歯肉	42	42		(2)		34	34		(1)		8	8		(1)	
C04	口腔底	6	6				6	6								
C05	口蓋	5	5				2	2				3	3			
C06	その他及び部位不明の口腔	10	10				8	8				2	2			
C07	耳下腺	2	2				2	2								
C08	その他及び部位不明の大唾液腺	4	4				2	2				2	2			
C09	扁桃	3	3									3	3			
C10	中咽頭	94	93	1	(4)		83	82	1	(4)		11	11			
C11	鼻〈上〉咽頭	35	35				8	8				27	27			
C12	梨状陥凹〈洞〉	65	65		(1)		63	63		(1)		2	2			
C13	下咽頭	43	42	1	(2)		42	41	1	(2)		1	1			
C14	その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭	0														
C15 ～ C26	**消化器　計**	5,080	5,043	37	(335)		3,332	3,304	28	(217)	0	1,748	1,739	9	(118)	0
C15	食道	855	853	2	(40)		710	708	2	(35)		145	145		(5)	
C16	胃	861	861		(53)		617	617		(38)		244	244		(15)	
C17	小腸	54	51	3	(2)		36	33	3	(2)		18	18			
C18	結腸	465	443	22	(29)		222	207	15	(12)		243	236	7	(17)	
C19	直腸Ｓ状結腸移行部	80	80		(2)		43	43		(2)		37	37			
C20	直腸	300	292	8	(16)		207	201	6	(13)		93	91	2	(3)	
C21	肛門及び肛門管	5	5		(1)		1	1				4	4		(1)	
C22	肝及び肝内胆管	557	557		(46)		408	408		(32)		149	149		(14)	
C23	胆のう〈嚢〉	97	97		(7)		43	43		(3)		54	54		(4)	
C24	その他及び部位不明の胆道	324	324		(22)		226	226		(15)		98	98		(7)	
C25	膵	1,481	1,479	2	(116)		819	817	2	(65)		662	662		(51)	
C26	その他及び部位不明確の消化器	1	1		(1)							1	1		(1)	
C30 ～ C39	**呼吸器及び胸腔内臓器　計**	1,807	1,801	6	(119)	0	1,256	1,254	2	(84)	0	551	547	4	(35)	0
C30	鼻腔及び中耳	5	5				2	2				3	3			
C31	副鼻腔	46	46		(1)		36	36				10	10		(1)	
C32	喉頭	41	40	1			35	35				6	5	1		
C33	気管	0														
C34	気管支及び肺	1,674	1,669	5	(115)		1,153	1,151	2	(82)		521	518	3	(33)	
C37	胸腺	22	22		(3)		12	12		(2)		10	10		(1)	
C38	心臓、縦隔及び胸膜	19	19				18	18				1	1			
C39	その他及び部位不明確の呼吸器及び胸腔内臓器	0														
C40 ～ C41	**骨及び関節軟骨　計**	57	57	0	(3)	0	29	29	0	(1)	0	28	28	0	(2)	0
C40	(四) 肢の骨及び関節軟骨	34	34		(3)		9	9		(1)		25	25		(2)	
C41	その他及び部位不明の骨及び関節軟骨	23	23				20	20				3	3			
C43 ～ C44	**皮膚の黒色腫及びその他　計**	48	48	0	(2)	0	9	9	0	0	0	39	39	0	(2)	0
C43	皮膚の黒色腫	44	44		(2)		5	5				39	39		(2)	
C44	皮膚のその他	4	4				4	4				0				
C45 ～ C49	**中皮及び軟部組織　計**	277	277	0	(7)	0	155	155	0	(3)	0	122	122	0	(4)	0
C45	中皮腫	45	45		(1)		31	31		(1)		14	14			
C46	カポジ〈Kaposi〉肉腫	0														
C47	末梢神経及び自律神系	1	1									1	1			
C48	後腹膜及び腹膜	84	84		(5)		25	25		(1)		59	59		(4)	
C49	その他の結合組織及び軟部組織	147	147		(1)		99	99		(1)		48	48			

（つづき）　　死亡・上皮内癌は全退院の内数　　上皮内にMDSも含む　　（令和元年）

	部位	計					男					女				
		全退院			死亡		全退院			死亡		全退院			死亡	
		悪性	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS	小計	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS	小計	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS
C50	**乳房　計**	**663**	**613**	**50**	**(37)**	**0**	**2**	**2**				**661**	**611**	**50**	**(37)**	
C51 ～ C58	**女性性器　計**	**648**	**589**	**59**	**(43)**	**0**						**648**	**589**	**59**	**(43)**	**0**
C51	外陰	8	8		(4)							8	8		(4)	
C52	膣	3	2	1								3	2	1		
C53	子宮頚（部）	307	249	58	(17)							307	249	58	(17)	
C54	子宮体部	212	212		(8)							212	212		(8)	
C55	子宮の部位不明	1	1		(1)							1	1		(1)	
C56	卵巣	115	115		(13)							115	115		(13)	
C57	その他及び部位不明の女性性器	2	2									2	2			
C58	胎盤	0														
C60 ～ C63	**男性性器　計**	**518**	**518**	**0**	**(11)**	**0**	**518**	**518**	**0**	**(11)**	**0**					
C60	陰茎	7	7				7	7								
C61	前立腺	451	451		(10)		451	451		(10)						
C62	精巣〈睾丸〉	60	60		(1)		60	60		(1)						
C63	その他及び部位不明の男性性器	0														
C64 ～ C68	**尿路　計**	**552**	**489**	**63**	**(22)**	**0**	**407**	**357**	**50**	**(13)**	**0**	**145**	**132**	**13**	**(9)**	**0**
C64	腎盂を除く腎	120	120		(9)		83	83		(4)		37	37		(5)	
C65	腎盂	76	76		(2)		37	37		(2)		39	39			
C66	尿管	45	45		(2)		29	29				16	16		(2)	
C67	膀胱	309	246	63	(9)		256	206	50	(7)		53	40	13	(2)	
C68	その他及び部位不明の泌尿器	2	2				2	2								
C69 ～ C72	**眼，脳及び中枢神経系のその他　計**	**16**	**16**	**0**	**(1)**	**0**	**6**	**6**	**0**	**0**	**0**	**10**	**10**	**0**	**(1)**	**0**
C69	眼及び付属器	0														
C70	髄膜	0														
C71	脳	16	16		(1)		6	6				10	10		(1)	
C72	脊髄，脳神経及び中枢神経系のその他の部位	0														
C73 ～ C75	**甲状腺及びその他の内分泌腺　計**	**179**	**179**	**0**	**(11)**	**0**	**65**	**65**	**0**	**(7)**	**0**	**114**	**114**	**0**	**(4)**	**0**
C73	甲状腺	171	171		(9)		57	57		(5)		114	114		(4)	
C74	副腎	4	4		(2)		4	4		(2)						
C75	その他の内分泌腺及び関連組織	4	4				4	4								
C76 ～ C80	**部位不明確，続発部位及び部位不明　計**	**147**	**147**	**0**	**(9)**	**0**	**95**	**95**	**0**	**(5)**	**0**	**52**	**52**	**0**	**(4)**	**0**
C76	その他及び部位不明確	1	1				1	1								
C77	リンパ節の続発性及び部位不明	2	2									2	2			
C78	呼吸器及び消化器の続発性	56	56				35	35				21	21			
C79	その他の部位の続発性	16	16		(2)		9	9		(1)		7	7		(1)	
C80	部位の明示されないもの	72	72		(7)		50	50		(4)		22	22		(3)	
C81 ～ C96	**リンパ組織，造血組織及び関連組織　計**	**790**	**758**	**32**	**(39)**	**(4)**	**455**	**435**	**20**	**(27)**	**(4)**	**335**	**323**	**12**	**(12)**	**0**
C81	ホジキン〈Hodgkin〉リンパ腫	23	23				10	10				13	13			
C82	ろ〈濾〉胞性リンパ腫	49	49		(3)		19	19		(2)		30	30		(1)	
C83	非ろ〈濾〉胞性リンパ腫	288	288		(11)		176	176		(7)		112	112		(4)	
C84	成熟 T/NK 細胞リンパ腫	16	16		(2)		7	7		(1)		9	9		(1)	
C85	非ホジキン〈non-Hodgkin〉リンパ腫のその他及び詳細不明の型	107	107		(5)		58	58		(4)		49	49		(1)	
C86	T/NK 細胞リンパ腫のその他の明示された型	23	23				13	13				10	10			
C88	悪性免疫増殖性疾患	3	3				2	2				1	1			
C90	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞腫瘍	34	34		(4)		17	17		(2)		17	17		(2)	
C91	リンパ性白血病	103	103		(6)		65	65		(5)		38	38		(1)	
C92	骨髄性白血病	118	86	32	(7)	(4)	75	55	20	(5)	(4)	43	31	12	(2)	
C93	単球性白血病	4	4				2	2				2	2			
C94	細胞型の明示されたその他の白血病	7	7				4	4				3	3			
C95	細胞型不明の白血病	14	14		(1)		7	7		(1)		7	7			
C96	リンパ組織，造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明	1	1									1	1			
C97	**独立した（原発性）多部位**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**

表25　院内がん登録

表25ー(1)　院内がん新登録（平成30年）

A：手術（開創・体腔鏡・内視鏡）　B：放治　C：化学療法（ホルモン剤他を含む）　手術内訳は開創・体腔鏡・内視鏡の重複も含む　（単位：人）

ICD10　悪性新生物　※1	総数（再掲）			外来（再掲）			初回治療状況									手術内訳			年内死亡		
部位別 ＼ 合計	計	男	女	計	男	女	A	B	C	A+B	A+C	B+C	A+B+C	他	無	開創	体腔鏡	内視鏡	計	男	女
	4,799 (308)	2,692 (103)	2,107 (205)	1,801	1,167	634	1,262	366	795	51	681	239	115	139	1,150	1,136	691	230	307	195	112
C00 ～ C14　口唇・口腔及び咽頭の悪性新生物　小計	**141 (9)**	**97 (8)**	**44 (1)**	**61**	**41**	**20**	**21**	**18**	**7**	**2**	**3**	**39**	**0**	**2**	**49**	**19**	**0**	**8**	**5**	**4**	**1**
C00　口唇	0 0			0															0		
C01　舌根〈基底〉部	5 0	4	1	2	2			1				2			2				1	1	
C02　その他及び部位不明の舌	34 (1)	23 (1)	11	14	8	6	7		1		3	8		1	14	10			1	1	
C03　歯肉	18 (1)	8 (1)	10	8	5	3	5	4		1		1			7	6			0		
C04　口腔底	4 0	1	3	2		2		1	1						2				1		1
C05　口蓋	2 0	2		0					1					1		1			0		
C06　その他及び部位不明の口腔	4 0	3	1	2	2				1			1			2				0		
C07　耳下腺	7 0	2	5	6	1	5	1	1							5	1			0		
C08　その他及び部位不明の大唾液腺	4 0	1	3	3	1	2		2		1					1	1			0		
C09　扁桃	2 0	2		1	1							1			1				0		
C10　中咽頭	18 0	13	5	2	1	1	1	2	1			13			1			1	0		
C11　鼻〈上〉咽頭	4 0	1	3	1	1			1				2			1				0		
C12　梨状陥凹〈洞〉	27 (5)	26 (4)	1 (1)	14	14		5	4	1			8			9			5	0		
C13　下咽頭	12 (2)	11 (2)	1	6	5	1	2	2	1			3			4			2	2	2	
C14　その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭	0 0			0															0		
C15 ～ C26　消化器の悪性新生物　小計	**1,785 (54)**	**1,151 (34)**	**634 (20)**	**552**	**356**	**196**	**545**	**28**	**390**	**2**	**257**	**60**	**8**	**68**	**427**	**373**	**244**	**222**	**175**	**111**	**64**
C15　食道	229 (7)	194 (4)	35 (3)	64	52	12	58	8	31	1	28	39	4	1	59	46	7	40	19	15	4
C16　胃	427 (5)	291 (4)	136 (1)	86	59	27	227		76		60			1	63	91	78	128	23	15	8
C17　小腸	23 (1)	11 (1)	12	5	4	1	14		2		2				5	11	1	5	2	1	1
C18　結腸	239 (23)	118 (14)	121 (9)	78	41	37	97		17		54			3	68	53	76	30	9	4	5
C19　直腸S状結腸移行部	54 (3)	33 (2)	21 (1)	9	7	2	27		4		16			1	6	13	26	8	3	3	
C20　直腸	113 (5)	81 (4)	32 (1)	33	26	7	47		7		28	2	1		28	19	49	10	2	2	
C21　肛門及び肛門管	7 (1)		7 (1)	5		5	2					5					1	1	0		
C22　肝及び肝内胆管	215 0	156	59	96	76	20	27	18	44		1	1		59	65	26	2		29	21	8
C23　胆のう〈嚢〉	37 (1)	15	22 (1)	14	2	12	10		14		2				11	10	2		11	3	8
C24　その他及び部位不明の胆道	79 (1)	51	28 (1)	27	20	7	16		34	1	3		1	1	23	21			13	10	3
C25　膵	360 (6)	200 (4)	160 (2)	134	69	65	19	2	161		63	13	2	2	98	83	1		64	37	27
C26　その他及び部位不明確の消化器	2 (1)	1 (1)	1	1		1	1								1		1		0		
C30 ～ C39　呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物　小計	**733 (23)**	**483 (7)**	**250 (16)**	**232**	**169**	**63**	**260**	**66**	**138**	**2**	**72**	**43**	**5**	**4**	**143**	**6**	**315**	**0**	**53**	**45**	**8**
C30　鼻腔及び中耳	10 0	5	5	6	2	4		5				2			3				0		
C31　副鼻腔	4 0	2	2	1		1		2				1			1				1		1
C32　喉頭	21 (1)	18 (1)	3	12	10	2	3	8				5		1	4				1	1	
C33　気管	0 0			0															0		
C34　気管支及び肺	676 (22)	447 (6)	229 (16)	209	154	55	243	51	136	2	71	35	4	3	131	5	315		51	44	7
C37　胸腺	18 0	8	10	1	1		14		2				1		1				0		
C38　心臓、縦隔及び胸腺	4 0	3	1	3	2	1					1				3	1			0		
C39　その他及び部位不明確の呼吸器系及び胸腔内臓器	0 0			0															0		
C40 ～ C41　骨及び関節軟骨の悪性新生物　小計	**11 0**	**5 0**	**6 0**	**8**	**4**	**4**	**1**	**4**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**5**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C40　（四）肢の骨及び関節軟骨	2 0		2	0			1		1							1			0		
C41　その他及び部位不明の骨及び関節軟骨	9 0	5	4	8	4	4		4							5				0		
C43 ～ C44　皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物　小計	**11 (2)**	**7 (2)**	**4 0**	**7**	**4**	**3**	**3**	**1**	**1**	**0**	**0**	**2**	**0**	**0**	**4**	**3**	**0**	**0**	**1**	**1**	**0**
C43　皮膚の悪性黒色腫	4 0	3	1	3	2	1		1	1						2				1	1	
C44　皮膚のその他	7 (2)	4 (2)	3	4	2	2	3					2			2	3			0		
C45 ～ C49　中皮及び軟部組織の悪性新生物　小計	**109 0**	**60 0**	**49 0**	**53**	**31**	**22**	**32**	**8**	**12**	**4**	**10**	**0**	**0**	**2**	**41**	**28**	**0**	**0**	**2**	**1**	**1**
C45　中皮腫	13 0	11	2	10	9	1			4						9				1	1	
C46　カポジ〈Kaposi〉肉腫	0 0			0															0		
C47　末梢神経及び自律神経	4 0	4		4	4										4				0		
C48　後腹膜及び腹膜	27 0	7	20	15	4	11	3	1	6		8				9	11			1		1

C49	その他の結合組織及び軟部組織		65	0	38		27		24	14	10	29	7	2	4	2			2	19	17			0			
C50	**乳房の悪性新生物**	**小計**	**572**	**(78)**	**5**		**567**	**(78)**	**153**	**1**	**152**	**100**	**29**	**42**	**21**	**209**		**89**	**3**	**79**	**421**	**1**		**8**		**8**
C51 ～ C58	**女性性器の悪性新生物**	**小計**	**298**	**(77)**	**0**	**0**	**298**	**(77)**	**64**	**0**	**64**	**140**	**15**	**13**	**3**	**52**	**16**	**7**	**2**	**50**	**186**	**18**	**0**	**15**	**0**	**15**
C51	外陰		6	0			6		4		4	1	1							4	1			1		1
C52	膣		4	(1)			4	(1)	2		2		1		1	1				1	2			0		
C53	子宮頚（部）		145	(72)			145	(72)	21		21	87	13	2	2		16	7		18	91	5		3		3
C54	子宮体部		88	0			88		16		16	41		4		30			1	12	60	12		6		6
C55	子宮の部位不明		0	0					0															0		
C56	卵巣		53	(4)			53	(4)	21		21	10		7		20			1	15	30	1		5		5
C57	その他及び部位不明の女性性器		2	0			2		0			1				1					2			0		
C58	胎盤		0	0					0															0		
C60 ～ C63	**男性性器の悪性新生物**	**小計**	**513**	**0**	**513**	**0**	**0**	**0**	**426**	**426**	**0**	**65**	**181**	**58**	**0**	**11**	**67**	**0**	**3**	**128**	**15**	**63**	**0**	**9**	**9**	**0**
C60	陰茎		4	0	4				3	3		1								3	1			0		
C61	前立腺		488	0	488				410	410		59	181	57		8	67		3	113	6	63		7	7	
C62	精巣〈睾丸〉		20	0	20				12	12		4		1		3				12	7			2	2	
C63	その他及び部位不明の男性性器		1	0	1				1	1		1									1			0		
C64 ～ C68	**尿路の悪性新生物**	**小計**	**212**	**(44)**	**152**	**(34)**	**60**	**(10)**	**77**	**52**	**25**	**53**	**3**	**11**	**2**	**56**	**3**	**1**	**12**	**71**	**14**	**49**	**0**	**12**	**8**	**4**
C64	腎盂を除く腎		56	0	41		15		16	11	5	35		3	1		2		1	14	10	30		3	3	
C65	腎盂		27	(2)	15	(2)	12		11	5	6	6		5	1	4				11	3	8		2	2	
C66	尿管		21	(2)	15	(2)	6		9	6	3	9		1		3				8	1	11		1		1
C67	膀胱		105	(40)	79	(30)	26	(10)	39	29	10	3	3	2		49	1	1	11	35				6	3	3
C68	その他及び部位不明の泌尿器		3	0	2		1		2	1	1									3				0		
C69 ～ C72	**眼、脳及び中枢神経系のその他の悪性新生物**	**小計**	**11**	**(4)**	**4**	**(2)**	**7**	**(2)**	**7**	**3**	**4**	**2**	**1**	**0**	**0**	**1**	**2**	**0**	**0**	**5**	**3**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C69	眼及び付属器		1	0			1		1		1		1											0		
C70	髄膜		1	(1)			1	(1)	0			1									1			0		
C71	脳		9	(3)	4	(2)	5	(1)	6	3	3	1				1	2			5	2			0		
C72	脊髄、脳神経及び中枢神経系のその他の部位		0	0					0															0		
C73 ～ C75	**甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物**	**小計**	**109**	**(2)**	**40**	**(2)**	**69**	**0**	**39**	**19**	**20**	**37**	**3**	**4**	**15**	**7**	**0**	**4**	**1**	**38**	**63**	**1**	**0**	**4**	**1**	**3**
C73	甲状腺		105	0	37		68		37	17	20	36	3	4	14	7		4	1	36	62			4	1	3
C74	副腎		2	0	1		1		0			1			1						1	1		0		
C75	その他の内分泌腺及び関連組織		2	(2)	2	(2)			2	2										2				0		
C76 ～ C80	**部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物**	**小計**	**28**	**(1)**	**15**	**0**	**13**	**(1)**	**16**	**6**	**10**	**1**	**1**	**9**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**16**	**2**	**0**	**0**	**5**	**2**	**3**
C76	その他及び部位不明確		4	(1)	2		2	(1)	2		2	1				1				2	2			1		1
C77	リンパ節の続発性及び部位不明		0	0					0															0		
C78	呼吸器及び消化器の続発性		0	0					0															0		
C79	その他の部位の続発性		0	0					0															0		
C80	部位の明示されないもの		24	0	13		11		14	6	8		1	9						14				4	2	2
C81 ～ C96	**リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物**	**小計**	**266**	**(14)**	**160**	**(14)**	**106**	**0**	**106**	**55**	**51**	**2**	**8**	**109**	**0**	**2**	**7**	**1**	**42**	**94**	**2**	**0**	**0**	**18**	**13**	**5**
C81	ホジキン〈Hodgkin〉病		10	0	5		5		4	2	2		1	2			4			3				1	1	
C82	ろ〈濾〉胞性リンパ腫		31	0	10		21		20	4	16		1	5						25				0		
C83	非ろ〈濾〉胞性リンパ腫		82	0	53		29		16	7	9			63		1	2	1	3	12	2			3	3	
C84	成熟T/NK細胞リンパ腫		1	0			1		1		1									1				0		
C85	非ホジキン〈non-Hodgkin〉リンパ腫のその他及び詳細不明の型		15	0	6		9		5	2	3			10						5				3	1	2
C86	T／NK細胞リンパ腫のその他の明示された型		11	0	7		4		5	4	1			3		1	1		1	5				2	1	1
C88	悪性免疫増殖性疾患		19	0	10		9		16	9	7	3	5	1					1	9				0		
C90	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞腫瘍		16	0	7		9		7	2	5		1	5					4	6				0		
C91	リンパ性白血病		17	0	13		4		4	4				6					7	4				1		1
C92	骨髄性白血病		35	0	25		10		17	12	5			10					13	12				3	2	1
C93	単球性白血病		4	0	3		1		1	1				2					1	1				1	1	
C94	細胞型の明示されたその他の白血病		2	0	2				0										2					0		
C95	細胞型不明の白血病		6	0	5		1		0					1					3	2				2	2	
C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明		17	(14)	14	(14)	3		10	8	2			1					7	9				2	2	
C97	**独立した（原発性）多部位の悪性新生物**	**小計**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**

※1　登録対象は、C00 ～ C97（悪性）、D00 ～ D090、D45 ～ D46，D47（0, 1, 3, 4, 5, 9）、D（境界悪性および上皮内）は総数の再掲。

※2　セカンドオピニオンは登録対象外。

表25－(2)　年次別院内がん登録数及び追跡調査状況

部位別＼年次別・性別		S38～45		S46～50		S51～55		S56～60		S61～63		H1～5		H6～10		H11～15	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
口唇・口腔・咽頭の悪性新生物		39	23	27	14	36	10	24	6	49	21	125	41	207	64	288	93
消化器の悪性新生物																	
	食道	64	10	55	19	74	16	79	23	118	19	242	38	327	57	504	62
	胃	606	374	606	335	464	337	472	271	372	187	691	304	821	391	957	426
	結腸	18	18	41	32	66	72	102	71	73	61	226	165	285	188	359	224
	直腸	48	45	41	44	40	35	52	55	74	38	150	92	201	118	255	141
	肝臓	7	2	22	7	41	18	65	21	97	28	207	77	239	74	267	104
	胆のう・胆管	8	13	6	15	21	30	21	33	19	18	30	51	42	38	64	33
	膵臓	12	10	25	14	30	21	25	19	33	24	48	42	63	50	140	75
	その他	13	6	13	6	5	6	6	2	5	3	12	6	7	7	14	12
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物																	
	鼻腔・中耳・副鼻腔・喉頭	22	12	19	16	9	1	5		34	7	85	14	120	17	112	18
	肺	119	37	225	91	301	91	354	147	326	144	586	185	806	339	1,243	591
	その他	3	3	6	2	8	2	4	5	9	4	12	7	18	9	21	15
骨及び関節軟骨の悪性新生物		2	2	1	3			1		15	7	21	11	31	13	32	23
皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物		15	12	2	5	9	3	3	4	10	24	30	41	31	28	59	44
中皮及び軟部組織の悪性新生物		5	4	4	4	6	5		2	17	17	41	25	49	43	99	65
乳房の悪性新生物		1	343	1	397		535	3	612	3	409	4	799	2	968	6	1,543
女性性器の悪性新生物																	
	子宮頸部		590		635		633		665		375		633		723		820
	子宮体部		26		59		70		117		89		170		211		272
	その他		38		68		70		95		75		126		153		196
男性性器の悪性新生物																	
	前立腺	8		29		26		43		49		90		141		355	
	その他	17		16		10		12		13		22		28		46	
尿路の悪性新生物																	
	膀胱	23	8	48	22	58	29	61	24	42	7	92	30	108	33	164	35
	その他	3	5	13	13	24	11	29	15	35	6	79	38	92	42	154	49
眼・脳及び中枢神経系のその他の悪性新生物																	
	脳	2	4	5	4		2	6	2	27	13	29	25	35	27	41	36
	その他	1		1	1					2	4	1	2	7	5	3	1
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物																	
	甲状腺	5	7	6	15	7	13	7	21	8	27	36	90	33	121	64	189
	その他の内分泌腺						2		2	1	1	4	2	1	3	4	2
部位不明確・続発部位及び部位不明の悪性新生物		26	18	21	17	19	21	13	12	16	16	30	18	49	19	39	31
リンパ組織・造血組織及び関連組織の悪性新生物																	
	ホジキン病	4	2	7	5	3	3	10	1	7	4	4	5	12	5	9	6
	非ホジキンリンパ腫	28	20	19	7	28	10	24	22	51	35	89	71	97	66	123	103
	白血病	7	4	11	7	9	4	15	10	54	27	101	70	93	59	77	67
	その他	1	1	4	2	1	4	2	2	7	3	10	6	17	6	19	8
合計		1,107	1,637	1,274	1,859	1,295	2,054	1,438	2,259	1,566	1,693	3,097	3,184	3,962	3,877	5,518	5,284

（平成30年）

（単位：人）

H16 ～ H20		H21 ～ H25		H26		H27		H28		H29		H30		S38 ～ H30	死亡判明数
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合　計	S38 ～ H30末
390	118	370	115	88	39	110	31	115	42	92	37	97	44	2,755	1,545
516	61	614	109	179	36	198	27	191	43	183	45	194	35	4,138	2,508
1,307	516	1,392	591	324	156	374	136	363	148	316	147	291	136	13,811	6,980
485	314	451	357	120	120	150	113	146	115	136	93	118	121	4,840	1,947
320	186	371	215	100	46	120	60	104	70	124	56	114	53	3,368	1,235
334	126	489	191	112	40	111	53	116	39	134	51	156	59	3,287	2,318
102	74	190	114	48	30	72	47	55	29	64	49	66	50	1,432	991
294	182	467	321	156	128	154	123	149	139	170	155	200	160	3,429	2,407
23	13	41	20	11	3	7	5	9	10	17	15	12	20	329	152
166	18	165	21	34	6	36	6	26	6	31	11	25	10	1,052	534
1,384	693	1,521	854	344	187	379	248	431	235	443	262	447	229	13,242	7,835
24	19	29	16	7	5	10	5	14		11	6	11	11	296	147
46	19	34	30	2	5	4	6	13	1	12	4	5	6	349	180
46	36	66	45	13	13	21	13	24	18	9	11	7	4	646	280
126	104	141	116	34	35	47	27	50	24	44	39	60	49	1,282	509
5	1,900	4	2,255	1	507	1	522	1	600	2	567	5	567	12,563	3,143
	808	0	823		190		215		213		183		145	7,651	2,393
	388	0	395		98		87		101		101		88	2,272	595
	246	0	255		70		56		61		57		65	1,631	882
608		668	0	216		271		358		394		488		3,744	896
58		73	0	13		10		18		22		25		383	88
179	51	240	68	72	18	76	24	92	19	75	20	79	26	1,823	884
181	60	215	91	63	24	52	25	55	36	71	36	73	34	1,624	759
51	37	23	14	8	5	1	3	7	5	5	4	4	5	430	329
6		1	4		2			1		1	3		2	48	28
93	229	125	246	29	66	44	138	49	112	39	85	37	68	2,009	448
2	2	2	2	3		4		1				3	1	42	24
52	31	68	39	18	14	20	11	22	6	23	11	15	13	708	478
12	11	11	11	3	5	2	5	3	1	2	4	5	5	167	55
201	156	278	248	64	68	69	67	78	55	74	78	85	73	2,387	915
103	71	119	75	28	23	37	19	37	17	32	22	48	16	1,262	844
20	10	47	27	8	10	13	11	14	20	26	14	22	12	347	176
7,134	6,479	8,215	7,668	2,098	1,949	2,393	2,083	2,542	2,165	2,552	2,166	2,692	2,107	93,347	41,320

表25－(3)　新登録患者数（主要部位別・性別・年齢階級別）

上皮内癌、良性の一部を含む　平成30年（単位：人）

部位 / 性別 / 年齢別	全部位（上皮内癌またはMDS再掲）			食　道			胃			結　腸			直　腸			肝　臓			胆のう・胆管			膵　臓		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全年齢	4,799 (310)	2,692 (103)	2,107 (207)	229	194	35	427	291	136	239	118	121	167	114	53	215	156	59	116	66	50	360	200	160
～19	8　0	5	3	0			0			0			0			0			0			0		
20～24	12　0	8	4	0			0			1		1	0			0			0			0		
25～29	29　(6)	15	14　(6)	0			2	1	1	2	2		1	1		1	1		0			0		
30～34	48　(16)	8　(2)	40　(14)	0			0			2	1	1	0			0			1		1	1		1
35～39	79　(22)	20	59　(22)	0			4	1	3	7	2	5	3	2	1	0			0			3	1	2
40～44	138　(22)	39　(1)	99　(21)	0			5	2	3	6	3	3	7	2	5	5	3	2	0			8	4	4
45～49	226　(30)	81　(5)	145　(25)	6	5	1	13	5	8	7	7		10	7	3	7	5	2	6	3	3	6	5	1
50～54	307　(24)	124　(7)	183　(17)	9	5	4	16	11	5	23	13	10	11	5	6	10	7	3	4	2	2	13	10	3
55～59	329　(23)	164　(5)	165　(18)	18	15	3	25	13	12	21	12	9	17	13	4	9	6	3	5	2	3	25	18	7
60～64	470　(25)	276　(10)	194　(15)	27	24	3	29	25	4	18	7	11	23	19	4	26	18	8	7	6	1	33	22	11
65～69	797　(43)	464　(22)	333　(21)	56	47	9	88	59	29	34	18	16	30	21	9	26	15	11	19	12	7	68	29	39
70～74	843　(30)	556　(16)	287　(14)	38	32	6	86	64	22	37	19	18	29	19	10	38	32	6	22	12	10	72	45	27
75～79	804　(42)	510　(24)	294　(18)	40	37	3	78	57	21	38	19	19	18	14	4	49	32	17	29	17	12	70	36	34
80以上	709　(27)	422　(11)	287　(16)	35	29	6	81	53	28	43	15	28	18	11	7	44	37	7	23	12	11	61	30	31

部位 / 性別 / 年齢別	肺			乳　房			子宮頚		子宮体		前立腺		膀　胱			甲状腺			悪性リンパ腫			白血病			その他		
	計	男	女	計	男	女	計	女	計	女	計	男	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全年齢	676	447	229	572	5	567	145	145	88	88	488	488	105	79	26	105	37	68	168	90	78	61	61	0	638	346	292
～19	0			0			0		0		0		0			2	1	1	0			3	3		3	1	2
20～24	0			0			0		0		0		0			1		1	0			4	4		6	4	2
25～29	0			0			7	7	0		0		0			2		2	5	4	1	1	1		8	5	3
30～34	0			7		7	15	15	0		0		0			2		2	7	1	6	2	2		11	4	7
35～39	5	3	2	17		17	19	19	0		0		0			1		1	4	2	2	0			16	9	7
40～44	5	4	1	32		32	29	29	2	2	0		1	1		5	1	4	4	2	2	2	2		27	15	12
45～49	13	8	5	71		71	18	18	6	6	5	5	3	1	2	6	2	4	4	2	2	7	7		38	19	19
50～54	29	17	12	71		71	12	12	19	19	12	12	0			8	2	6	11	4	7	9	9		50	27	23
55～59	38	24	14	53	1	52	7	7	17	17	28	28	5	3	2	6	3	3	14	5	9	1	1		40	20	20
60～64	69	42	27	66	2	64	6	6	15	15	49	49	10	9	1	8	4	4	19	8	11	6	6		59	35	24
65～69	117	73	44	92		92	4	4	10	10	100	100	12	9	3	15	4	11	19	13	6	14	14		93	50	43
70～74	146	106	40	73	1	72	9	9	11	11	120	120	19	15	4	20	10	10	27	19	8	4	4		92	58	34
75～79	133	84	49	52	1	51	11	11	3	3	114	114	28	22	6	16	8	8	24	13	11	4	4		97	52	45
80以上	121	86	35	38		38	8	8	5	5	60	60	27	19	8	13	2	11	30	17	13	4	4		98	47	51

表25－(4)　新登録患者数（地区別）

平成30年（単位：人）

全登録数（a）		食　道		胃		結腸		直腸		肝		胆のう胆道		膵		肺		乳		子宮頚		子宮体		前立腺		膀胱		甲状腺		悪性リンパ腫		白血病（MDS含）		他	
4,799	部位別登録（b）	229		427		239		167		215		116		360		676		572		145		88		488		105		105		168		81		618	
	部位別構成比 b/a%	4.8		8.9		5.0		3.5		4.5		2.4		7.5		14.1		11.9		3.0		1.8		10.2		2.2		2.2		3.5		1.7		12.9	
地区名	地区別登録数(c)	(c)構成比 c/a%	地区別部位別登録数(d)	(d)構成比 d/b%																														
横浜市	2,904	60.5	151	65.9	280	65.6	130	54.4	92	55.1	113	52.6	56	48.3	169	46.9	406	60.1	435	76.0	99	68.3	66	75.0	296	60.7	67	63.8	43	41.0	104	61.9	38	46.9	359	58.1
鶴見区	51	1.1	2	0.9	4	0.9	4	1.7			2	0.9	2	1.7	6	1.7	6	0.9	8	1.4			1	1.1	2	0.4			1	1.0	4	2.4	2	2.5	7	1.1
神奈川区	66	1.4	6	2.6	6	1.4	2	0.8	1	0.6	4	1.9	2	1.7	3	0.8	11	1.6	10	1.7	4	2.8			5	1.0			2	1.9	1	0.6	4	4.9	5	0.8
西区	42	0.9	1	0.4	4	0.9	1	0.4							6	1.7	4	0.6	6	1.0	4	2.8	2	2.3	3	0.6	3	2.9	1	1.0	2	1.2	1	1.2	4	0.6
中区	49	1.0	4	1.7	5	1.2	1	0.4			3	1.4	1	0.9	2	0.6	11	1.6	1	0.2	1	0.7			9	1.8	1	1.0	1	1.0	1	0.6			8	1.3
南区	78	1.6	4	1.7	8	1.9	5	2.1	1	0.6	4	1.9			5	1.4	15	2.2	16	2.8	1	0.7	2	2.3	4	0.8			4	3.8					9	1.5
保土ヶ谷区	243	5.1	19	8.3	30	7.0	11	4.6	10	6.0	13	6.0	3	2.6	16	4.4	25	3.7	44	7.7	6	4.1	2	2.3	14	2.9	7	6.7	3	2.9	7	4.2	2	2.5	31	5.0
磯子区	52	1.1	5	2.2	8	1.9	1	0.4	3	1.8	3	1.4	3	2.6	2	0.6	6	0.9	11	1.9					6	1.2					1	0.6			3	0.5
金沢区	32	0.7			1	0.2	1	0.4			1	0.5	3	2.6			3	0.4	3	0.5	1	0.7			6	1.2			2	1.9			1	1.2	10	1.6
港北区	95	2.0	10	4.4	6	1.4	3	1.3			8	3.7	2	1.7	10	2.8	14	2.1	4	0.7	5	3.4	1	1.1	13	2.7			3	2.9	3	1.8	1	1.2	12	1.9
戸塚区	249	5.2	8	3.5	29	6.8	14	5.9	7	4.2	4	1.9	6	5.2	8	2.2	34	5.0	32	5.6	16	11.0	9	10.2	19	3.9	6	5.7	4	3.8	13	7.7	7	8.6	33	9.2
港南区	88	1.8	4	1.7	7	1.6	5	2.1			1	0.5			3	0.8	15	2.2	12	2.1	5	3.4	4	4.5	11	2.3			4	3.8	5	3.0	3	3.7	9	1.5
旭区	892	18.6	33	14.4	89	20.8	45	18.8	40	24.0	27	12.6	15	12.9	53	14.7	120	17.8	150	26.2	26	17.9	19	21.6	106	21.7	32	30.5	9	8.6	23	13.7	8	9.9	97	15.7
緑区	104	2.2	6	2.6	10	2.3	7	2.9			8	3.7	3	2.6	13	3.6	15	2.2	8	1.4	1	0.7	2	2.3	13	2.7					6	3.6			12	1.9
瀬谷区	353	7.4	17	7.4	30	7.0	13	5.4	9	5.4	8	3.7	5	4.3	16	4.4	71	10.5	54	9.4	12	8.3	8	9.1	37	7.6	10	9.5	2	1.9	12	7.1	5	6.2	44	7.1
栄区	47	1.0	2	0.9			1	0.4	2	1.2	9	4.2			1	0.3	8	1.2	3	0.5	2	1.4	2	2.3	6	1.2	3	2.9			2	1.2	1	1.2	5	0.8
泉区	328	6.8	17	7.4	33	7.7	10	4.2	13	7.8	11	5.1	6	5.2	9	2.5	39	5.8	64	11.2	13	9.0	11	12.5	25	5.1	4	3.8	7	6.7	18	10.7	3	3.7	45	7.3
青葉区	73	1.5	6	2.6	6	1.4	4	1.7	5	3.0	2	0.9	2	1.7	10	2.8	5	0.7	6	1.0			3	3.4	12	2.5	1	1.0			1	0.6			10	1.6
都筑区	62	1.3	7	3.1	4	0.9	2	0.8	1	0.6	5	2.3	3	2.6	6	1.7	4	0.6	3	0.5	2	1.4			5	1.0					5	3.0			15	2.4
川崎市	96	2.0	2	0.9	4	0.9			2	1.2	3	1.4	2	1.7	13	3.6	17	2.5	8	1.4	3	2.1			12	2.5	4	3.8	7	6.7	2	1.2	2	2.5	15	2.4
横須賀市	101	2.1	9	3.9	6	1.4	3	1.3	6	3.6	7	3.3	3	2.6	13	3.6	10	1.5	5	0.9			1	1.1	8	1.6	1	1.0	6	5.7	2	1.2	4	4.9	17	2.8
平塚市	48	1.0	2	0.9	4	0.9	3	1.3			3	1.4	5	4.3	6	1.7	7	1.0			1	0.7	1	1.1	3	0.6	1	1.0	4	3.8	1	0.6	1	1.2	6	1.0
鎌倉市	89	1.9	6	2.6	14	3.3	2	0.8	1	0.6	3	1.4	3	2.6	10	2.8	14	2.1	4	0.7	1	0.7	1	1.1	6	1.2	2	1.9	5	4.8	1	0.6			16	2.6
藤沢市	202	4.2	11	4.8	20	4.7	5	2.1	5	3.0	11	5.1	5	4.3	18	5.0	41	6.1	21	3.7	7	4.8	5	5.7	10	2.0	6	5.7	7	6.7	4	2.4	4	4.9	22	3.6
小田原市	26	0.5	4	1.7			1	0.4			1	0.5	2	1.7	2	0.6	5	0.7	1	0.2	2	1.4			5	1.0	1	1.0			1	0.6			1	0.2
茅ヶ崎市	66	1.4	3	1.3	3	0.7	1	0.4	3	1.8	3	1.4	1	0.9	7	1.9	10	1.5	5	0.9	2	1.4	2	2.3	1	0.2	1	1.0	1	1.0	1	0.6	9	11.1	13	2.1
逗子市	12	0.3			1	0.2			2	1.2	2	0.9			1	0.3			1	0.2			1	1.1			1	1.0					1	1.2	2	0.3
相模原市	184	3.8	4	1.7	17	4.0	9	3.8	3	1.8	5	2.3	9	7.8	29	8.1	15	2.2	11	1.9	7	4.8	1	1.1	13	2.7	3	2.9	6	5.7	16	9.5	5	6.2	31	5.0
三浦市	9	0.2			1	0.2	1	0.4							3	0.8	1	0.1	1	0.2											1	0.6			1	0.2
秦野市	30	0.6			5	1.2	3	1.3			7	3.3	1	0.9	1	0.3	4	0.6	2	0.3					2	0.4	3	2.9	1	1.0					1	0.2
厚木市	65	1.4	1	0.4	9	2.1	6	2.5	6	3.6	5	2.3	1	0.9	11	3.1	5	0.7	3	0.5	2	1.4	1	1.1	8	1.6							1	1.2	6	1.0
大和市	259	5.4	13	5.7	20	4.7	20	8.4	8	4.8	12	5.6	8	6.9	16	4.4	51	7.5	23	4.0	12	8.3	3	3.4	9	1.8	6	5.7	8	7.6	14	8.3	3	3.7	33	5.3
伊勢原市	18	0.4					1	0.4			1	0.5	2	1.7	1	0.3			2	0.3					4	0.8	1	1.0			2	1.2			4	0.6
海老名市	98	2.0	6	2.6	10	2.3	5	2.1	8	4.8	3	1.4	3	2.6	7	1.9	16	2.4	16	2.8	1	0.7			5	1.0	2	1.9	3	2.9	1	0.6			12	1.9
座間市	96	2.0	3	1.3	8	1.9	20	8.4	13	7.8	7	3.3	3	2.6	6	1.7	8	1.2	7	1.2	1	0.7			4	0.8			2	1.9	2	1.2	2	2.5	10	1.6
南足柄市	10	0.2			1	0.2									2	0.6	6	0.9							1	0.2									
綾瀬市	103	2.1	5	2.2	10	2.3	7	2.9	3	1.8	9	4.2	3	2.6	14	3.9	14	2.1	7	1.2	2	1.4			5	1.0	3	2.9	2	1.9	4	2.4	3	3.7	12	1.9
三浦郡	5	0.1			1	0.2											1	0.2											1	1.0			2	0.3
高座郡	18	0.4	1	0.4	1	0.2	1	0.4	1	0.6	1	0.5			1	0.3	6	0.9	1	0.2					2	0.4			1	1.0	1	0.6			1	0.2
愛甲郡	7	0.1							1	0.6					1	0.3	1	0.1	1	0.2			1	1.1											2	0.3
中郡	10	0.2	2	0.9													4	0.6							3	0.6									1	0.2
足柄上郡	23	0.5	1	0.4	1	0.2	2	0.8			3	1.4					6	0.9	1	0.2	1	0.7	1	1.1	3	0.6					1	0.6			3	0.5
足柄下郡	3	0.1					1	20.1							1	13.3													1	45.7						
県外	317	6.6	5	2.2	11	2.6	18	7.5	13	7.8	16	7.4	9	7.8	28	7.8	29	4.3	16	2.8	4	2.8	4	4.5	88	18.0	3	2.9	7	6.7	10	6.0	8	9.9	48	7.8

表26ー(1)ー１　がん罹患数・粗罹患率・年齢調整罹患率（人口10万対）

―部位・性別―

平成28年

部位	国際疾病分類(ICD-10)	罹患数			粗罹患率		年齢調整罹患率（日本人人口）		年齢調整罹患率（世界人口）	
		男	女	計	男	女	男	女	男	女
全部位	**C00-C96,D06**	**38,473**	**29,953**	**68,426**	**853.5**	**660.7**	**471.3**	**385.8**	**327.3**	**288.1**
口唇	C00	2	4	6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
舌	C01-C02	242	120	362	5.4	2.7	3.5	1.6	2.6	1.2
歯肉	C03	85	91	176	1.9	2.0	1.0	0.7	0.7	0.5
口腔底	C04	42	18	60	0.9	0.4	0.6	0.2	0.4	0.2
口蓋	C05	32	12	44	0.7	0.3	0.4	0.2	0.3	0.1
その他及び不明の口腔	C06	32	29	61	0.7	0.6	0.4	0.3	0.3	0.2
耳下腺	C07	47	37	84	1.0	0.8	0.7	0.5	0.5	0.4
大唾液腺	C08	28	22	50	0.6	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2
扁桃	C09	40	11	51	0.9	0.2	0.6	0.2	0.5	0.1
中咽頭	C10	124	13	137	2.8	0.3	1.7	0.2	1.3	0.2
鼻＜上＞咽頭	C11	36	15	51	0.8	0.3	0.6	0.2	0.5	0.1
梨状陥凹＜洞＞	C12	193	13	206	4.3	0.3	2.5	0.2	1.8	0.2
下咽頭	C13	125	11	136	2.8	0.2	1.6	0.1	1.1	0.1
部位不明確な口腔・咽頭	C14	8	1	9	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
食道	C15	1,559	352	1,911	34.6	7.8	19.2	3.8	13.2	2.7
胃	C16	5,916	2,509	8,425	131.3	55.3	69.4	24.6	46.8	17.0
小腸	C17	180	113	293	4.0	2.5	2.4	1.4	1.7	1.0
結腸	C18	5,535	4,166	9,701	122.8	91.9	69.3	43.2	48.2	30.2
直腸	C19-C20	2,725	1,505	4,230	60.5	33.2	36.6	18.7	26.3	13.7
肛門及び肛門管	C21	31	38	69	0.7	0.8	0.4	0.4	0.3	0.3
肝及び肝内胆管	C22	1,455	696	2,151	32.3	15.4	17.3	5.8	11.8	3.8
胆のう及び肝外胆管	C23-C24	697	579	1,276	15.5	12.8	7.8	4.7	5.2	3.1
膵	C25	1,358	1,150	2,508	30.1	25.4	16.6	10.5	11.5	7.1
その他及び部位不明の消化器	C26	8	6	14	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0
鼻腔・中耳・副鼻腔	C30-C31	67	35	102	1.5	0.8	1.0	0.4	0.7	0.3
喉頭	C32	268	15	283	5.9	0.3	3.3	0.2	2.3	0.1
気管・気管支・肺	C33-C34	4,832	2,389	7,221	107.2	52.7	56.5	24.1	38.6	16.8
胸膜・胸腺・心・縦隔	C37-C38	99	41	140	2.2	0.9	1.5	0.5	1.2	0.4
その他及び部位不明確な呼吸器	C39	—	—	—	—	—	—	—	—	—
骨及び関節軟骨	C40-C41	34	30	64	0.8	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5
皮膚の黒色腫	C43	75	61	136	1.7	1.3	0.9	0.9	0.6	0.7
皮膚、その他	C44	822	831	1,653	18.2	18.3	9.2	7.4	6.1	5.1
中皮腫	C45	101	21	122	2.2	0.5	1.1	0.2	0.8	0.2
カポジ肉腫	C46	1	1	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
末梢神経・自律神経	C47	2	—	2	0.0	—	0.0	—	0.0	—
後腹膜・腹膜	C48	36	88	124	0.8	1.9	0.6	1.1	0.5	0.9
結合組織、他軟部組織	C49	111	75	186	2.5	1.7	1.7	1.0	1.3	0.9

（つづき）

部位	国際疾病分類(ICD-10)	罹患数			粗罹患率		年齢調整罹患率（日本人人口）		年齢調整罹患率（世界人口）	
		男	女	計	男	女	男	女	男	女
乳房	C50	53	7,433	7,486	1.2	164.0	0.7	116.5	0.5	89.6
子宮	C53-C55	・	1,804	1,804	・	39.8	・	30.2	・	23.3
子宮頸部（上皮内がんを除く）	(C53)	・	651	651	・	14.4	・	11.5	・	9.0
子宮体部	(C54)	・	1,126	1,126	・	24.8	・	18.5	・	14.1
子宮、部位不明	(C55)	・	27	27	・	0.6	・	0.3	・	0.2
卵巣	C56	・	873	873	・	19.3	・	14.6	・	11.7
外陰・膣・他女性性器	C51-C52, C57	・	118	118	・	2.6	・	1.3	・	1.0
胎盤	C58	・	1	1	・	0.0	・	0.0	・	0.0
子宮頸部（上皮内がん）	D06	・	1,214	1,214	・	26.8	・	28.1	・	23.1
前立腺	C61	5,647	・	5,647	125.3	・	64.9	・	43.4	・
睾丸	C62	145	・	145	3.2	・	3.2	・	2.7	・
陰茎他男性性器	C60・C63	71	・	71	1.6	・	0.8	・	0.6	・
腎盂を除く腎	C64	866	345	1,211	19.2	7.6	11.8	4.0	8.6	2.8
膀胱	C67	1,985	543	2,528	44.0	12.0	23.3	5.1	15.9	3.4
その他の泌尿器	C65-C66, C68	426	212	638	9.5	4.7	4.9	1.8	3.2	1.2
眼	C69	10	6	16	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2
脳	C71	174	186	360	3.9	4.1	2.6	2.8	2.2	2.4
その他・部位不明の神経系	C70・C72	17	18	35	0.4	0.4	0.2	0.3	0.2	0.3
甲状腺	C73	226	607	833	5.0	13.4	3.7	10.0	2.8	7.9
その他の内分泌腺	C74・C75	19	10	29	0.4	0.2	0.4	0.3	0.5	0.4
その他及び不明確な部位	C76	14	8	22	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
リンパ節、続発性及び部位不明	C77	3	3	6	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
続発性の呼吸器及び消化器	C78	8	12	20	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0
続発性のその他の部位不明	C79	—	—	—	—	—	—	—	—	—
部位不明	C80	256	257	513	5.7	5.7	3.0	2.1	2.1	1.4
ホジキン病	C81	39	28	67	0.9	0.6	0.7	0.5	0.6	0.5
ろ胞性非ホジキンリンパ腫	C82	127	132	259	2.8	2.9	1.9	1.7	1.4	1.2
びまん性非ホジキンリンパ腫	C83	520	391	911	11.5	8.6	6.7	4.6	4.7	3.3
皮膚T細胞リンパ腫	C84	88	44	132	2.0	1.0	1.2	0.5	0.9	0.3
非ホジキン詳細不明	C85	158	117	275	3.5	2.6	1.9	1.1	1.4	0.8
多発性骨髄腫・形質細胞腫	C90	184	189	373	4.1	4.2	2.3	1.9	1.6	1.3
リンパ性白血病	C91	110	82	192	2.4	1.8	2.0	1.3	2.1	1.4
骨髄性白血病	C92	287	172	459	6.4	3.8	4.1	2.3	3.1	1.9
単球性白血病	C93	32	14	46	0.7	0.3	0.4	0.2	0.3	0.2
その他の白血病	C94	14	7	21	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1
細胞型不明の白血病	C95	28	22	50	0.6	0.5	0.4	0.2	0.3	0.2
リンパ、造血、関連組織のその他及び詳細不明	C96	—	1	1	—	0.0	—	0.0	—	0.1

表26－(1)－２　罹　患　数

―主要部位・性・年齢階級別―

平成28年

部　位 ICD-10	全部位 C00-C96, D06			口腔・咽頭 C00-C14			食　道 C15			胃 C16			結　腸 C18			直　腸 C19-C20			肝・肝内胆管 C22			胆のう・胆管 C23, C24			膵 C25		
年　齢	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全年齢	38,473	29,953	68,426	1,036	397	1,433	1,559	352	1,911	5,916	2,509	8,425	5,535	4,166	9,701	2,725	1,505	4,230	1,455	696	2,151	697	579	1,276	1,358	1,150	2,508
0 － 4	25	23	48	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
5 － 9	19	8	27	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
10－14	13	17	30	2	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
15－19	18	22	40	－	－	－	－	－	－	1	1	2	－	1	1	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－
20－24	26	64	90	1	1	2	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	1	1	－	－	－	1	－	1	－	1	1
25－29	57	192	249	－	2	2	－	－	－	2	2	4	4	2	6	3	2	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－
30－34	104	388	492	11	2	13	－	－	－	5	2	7	9	9	18	6	7	13	3	1	4	1	－	1	3	－	3
35－39	189	775	964	10	11	21	1	2	3	14	8	22	26	24	50	20	14	34	2	1	3	1	2	3	2	10	12
40－44	446	1,430	1,876	24	15	39	7	2	9	44	26	70	81	59	140	51	46	97	4	2	6	4	4	8	11	5	16
45－49	730	2,055	2,785	36	22	58	17	6	23	74	48	122	148	101	249	100	58	158	18	8	26	8	5	13	25	12	37
50－54	1,140	1,813	2,953	59	30	89	37	10	47	120	62	182	210	143	353	150	100	250	33	6	39	10	10	20	48	25	73
55－59	1,814	1,839	3,653	63	18	81	86	22	108	231	103	334	292	200	492	207	106	313	76	13	89	17	7	24	76	33	109
60－64	3,110	2,170	5,280	116	38	154	144	31	175	418	156	574	509	267	776	300	148	448	135	30	165	47	30	77	107	58	165
65－69	6,508	3,912	10,420	212	34	246	302	58	360	948	344	1,292	942	603	1,545	546	229	775	240	66	306	93	45	138	239	126	365
70－74	7,168	3,728	10,896	177	39	216	350	60	410	1,167	383	1,550	979	645	1,624	478	261	739	236	85	321	127	76	203	258	194	452
75－79	7,413	3,925	11,338	157	43	200	328	68	396	1,213	459	1,672	1,070	726	1,796	432	198	630	260	135	395	131	100	231	229	195	424
80－84	5,611	3,411	9,022	107	55	162	185	46	231	981	404	1,385	778	630	1,408	268	174	442	266	157	423	132	108	240	212	210	422
85以上	4,082	4,181	8,263	60	87	147	102	47	149	696	511	1,207	487	756	1,243	164	161	325	182	191	373	125	192	317	148	281	429

部　位 ICD-10	喉　頭 C32			肺 C33, C34			骨 C40, C41			皮　膚 C43, C44			乳房 C50	子　宮				卵巣 C56	前立腺 C61	膀　胱 C67			腎 C64			白血病 C91-C95		
														C53-C55・D06	頸癌	体癌	上皮内										
年　齢	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	女	（再　掲）				女	男	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全年齢	268	15	283	4,832	2,389	7,221	34	30	64	897	892	1,789	7,433	3,018	651	1,126	1,214	873	5,647	1,985	543	2,528	866	345	1,211	471	297	768
0 － 4	－	－	－	－	－	－	1	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	2	14	11	25
5 － 9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5	2	7
10－14	－	－	－	－	－	－	2	2	4	－	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	4	4	8
15－19	－	－	－	－	－	－	5	1	6	－	－	－	－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－	－	4	4	8
20－24	－	－	－	1	－	1	2	1	3	1	1	2	5	17	2	1	14	13	－	1	1	2	－	－	－	5	4	9
25－29	－	－	－	1	1	2	－	－	－	1	2	3	27	110	10	1	99	16	－	－	－	－	1	－	1	7	4	11
30－34	－	1	1	5	3	8	－	－	－	2	2	4	68	233	33	11	188	17	－	3	－	3	5	1	6	7	5	12
35－39	1	－	1	10	10	20	－	1	1	5	6	11	220	347	57	27	263	37	1	6	－	6	9	6	15	12	6	18
40－44	－	－	－	29	22	51	3	2	5	12	17	29	654	388	71	63	253	71	－	17	7	24	32	8	40	22	14	36
45－49	4	1	5	66	46	112	－	4	4	9	23	32	1,067	389	92	129	168	107	10	29	6	35	34	9	43	22	9	31
50－54	8	－	8	93	69	162	2	1	3	25	27	52	786	308	68	161	78	103	65	47	7	54	65	16	81	24	5	29
55－59	18	2	20	188	91	279	1	2	3	33	27	60	631	261	45	176	40	81	171	81	24	105	69	31	100	25	20	45
60－64	21	－	21	367	161	528	－	2	2	39	36	75	678	202	55	116	27	74	389	157	27	184	73	18	91	36	20	56
65－69	64	－	64	840	391	1,231	3	1	4	107	94	201	1,012	259	74	149	35	103	1,060	298	76	374	153	50	203	53	31	84
70－74	59	2	61	907	376	1,283	3	4	7	131	114	245	770	161	44	98	19	91	1,300	344	69	413	137	55	192	58	29	87
75－79	43	3	46	915	413	1,328	3	3	6	175	135	310	673	156	42	93	18	54	1,342	382	109	491	125	48	173	67	33	100
80－84	32	1	33	766	373	1,139	6	－	6	161	146	307	423	92	24	52	10	44	797	335	98	433	96	53	149	65	37	102
85以上	18	5	23	644	433	1,077	3	5	8	196	262	458	419	95	34	49	2	55	512	285	119	404	65	50	115	41	59	100

表26－(1)－３　罹　患　率

―主要部位・性・年齢階級別―

平成28年

部　位 ICD-10	全部位 C00-C96, D06		口腔・咽頭 C00-C14		食　道 C15		胃 C16		結　腸 C18		直　腸 C19-C20		肝・肝内胆管 C22		胆のう・胆管 C23, C24		膵 C25		喉　頭 C32	
年　齢	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全年齢	327.3	288.1	10.2	3.5	13.2	2.7	46.8	17.0	48.2	30.2	26.3	13.7	11.8	3.8	5.2	3.1	11.5	7.1	2.3	0.1
粗罹患	853.5	660.7	23.0	8.8	34.6	7.8	131.3	55.3	122.8	91.9	60.5	33.2	32.3	15.4	15.5	12.8	30.1	25.4	5.9	0.3
0 － 4	13.4	13.0	―	―	―	―	0.5	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
5 － 9	9.7	4.3	0.5	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
10－14	6.5	8.9	1.0	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
15－19	8.0	10.5	―	―	―	―	0.5	0.5	―	0.5	―	―	―	0.5	―	―	―	―	―	―
20－24	10.4	28.2	0.4	0.4	―	―	0.4	―	―	―	―	0.4	―	―	0.4	―	―	0.4	―	―
25－29	22.5	83.0	―	0.9	―	―	0.8	0.9	1.6	0.9	1.2	0.9	―	―	―	―	―	―	―	―
30－34	36.2	143.9	3.8	0.7	―	―	1.7	0.7	3.1	3.3	2.1	2.6	1.0	0.4	0.4	―	1.0	―	―	0.4
35－39	57.7	249.4	3.0	3.5	0.3	0.6	4.6	2.6	7.9	7.7	6.1	4.5	0.6	0.3	0.3	0.6	0.6	3.2	0.3	―
40－44	112.8	380.7	6.1	4.0	1.8	0.5	11.1	6.9	20.5	15.7	12.9	12.2	1.0	0.5	1.0	1.1	2.8	1.3	―	―
45－49	194.8	593.4	9.6	6.4	4.5	1.7	19.8	13.9	39.5	29.1	26.7	16.7	4.8	2.3	2.1	1.4	6.7	3.5	1.1	0.3
50－54	354.7	615.4	18.4	10.2	11.5	3.4	37.3	21.0	65.3	48.5	46.7	33.9	10.3	2.0	3.1	3.4	14.9	8.5	2.5	―
55－59	703.5	748.1	24.4	7.3	33.4	9.0	89.6	41.9	113.2	81.4	80.3	43.1	29.5	5.3	6.6	2.9	29.5	13.4	7.0	0.8
60－64	1,179.7	818.0	44.0	14.7	54.6	11.7	158.5	58.8	193.0	100.6	113.8	55.7	51.2	11.3	17.8	11.3	40.6	21.8	8.0	―
65－69	2,068.5	1,170.3	67.4	10.2	96.0	17.4	301.3	102.9	299.4	180.3	173.5	68.8	76.3	19.7	29.6	13.5	76.0	37.7	20.3	―
70－74	2,883.2	1,334.5	71.1	14.0	140.7	21.5	469.5	137.1	393.9	230.8	192.5	93.4	94.9	30.4	51.1	27.2	103.7	69.4	23.7	0.7
75－79	3,848.2	1,738.5	82.0	19.0	170.1	30.1	630.7	203.2	555.0	321.9	224.1	87.7	134.9	59.8	68.0	44.3	118.8	86.3	22.3	1.3
80－84	4,384.7	1,930.4	84.4	31.1	145.3	26.0	766.2	228.6	607.6	356.4	209.3	99.0	207.8	88.8	103.1	61.1	165.6	118.8	25.0	0.6
85以上	4,734.0	2,261.7	69.6	47.1	118.3	25.4	807.2	276.4	564.8	409.4	190.2	87.1	211.1	103.3	145.0	103.8	171.6	152.0	20.9	2.7

部　位 ICD-10	肺 C33, C34		骨 C40, C41		皮　膚 C43, C44		乳房 C50	子　宮				卵巣 C56	前立腺 C61	膀　胱 C67		腎 C64		白血病 C91-C95	
								C53-C55，D06	頸癌	体癌	上皮内								
年　齢	男	女	男	女	男	女	女	（再　掲）				女	男	男	女	男	女	男	女
全年齢	38.6	16.8	0.6	0.5	6.8	5.8	89.5	46.4	9.0	14.1	23.1	11.7	43.3	15.8	3.4	8.6	2.8	6.1	3.7
粗罹患	107.2	52.7	0.8	0.7	19.9	19.7	164.0	66.6	14.4	24.8	26.8	19.3	125.3	44.0	12.0	19.2	7.6	10.5	6.6
0 － 4	―	―	0.5	0.6	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	1.1	―	7.5	6.2
5 － 9	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	2.6	1.1
10－14	―	―	1.0	1.0	―	―	―	―	―	―	―	1.6	―	―	―	―	―	2.0	2.1
15－19	―	―	2.2	0.5	―	―	―	―	―	―	―	1.9	―	―	―	―	―	1.8	1.9
20－24	0.4	―	0.8	0.4	0.4	0.4	2.2	7.5	0.9	0.4	6.2	5.7	―	0.4	0.4	―	―	2.0	1.8
25－29	0.4	0.4	―	―	0.4	0.9	11.6	47.7	4.3	0.4	43.0	6.9	―	―	―	0.4	―	2.8	1.7
30－34	1.7	1.1	―	―	0.7	0.7	25.2	86.4	12.2	4.1	69.7	6.3	―	1.0	―	1.7	0.4	2.4	1.9
35－39	3.0	3.2	―	0.3	1.5	1.9	70.8	111.7	18.4	8.7	84.7	11.9	0.3	1.8	―	2.7	1.9	3.6	1.9
40－44	7.3	5.9	0.8	0.5	3.0	4.5	174.3	103.2	18.9	16.8	67.3	18.9	―	4.3	1.9	8.1	2.1	5.6	3.7
45－49	17.6	13.3	―	1.2	2.4	6.6	308.1	112.5	26.5	37.2	48.8	30.9	2.7	7.7	1.7	9.1	2.6	5.9	2.6
50－54	28.9	23.4	0.6	0.3	7.8	9.2	267.0	104.5	23.1	54.6	26.5	34.9	20.2	14.6	2.4	20.2	5.4	7.5	1.7
55－59	72.9	37.0	0.4	0.8	12.8	11.0	256.7	106.2	18.3	71.6	16.3	33.0	66.3	31.4	9.8	26.8	12.6	9.7	8.1
60－64	139.2	61.0	―	0.8	14.8	13.6	255.4	76.1	20.7	43.7	10.2	27.9	147.5	59.9	10.2	27.7	6.8	13.7	7.5
65－69	267.0	116.9	1.0	0.3	34.0	28.1	302.7	77.5	22.1	44.6	10.5	30.8	336.9	94.7	22.7	48.6	15.0	16.9	9.3
70－74	364.6	134.9	1.2	1.4	52.7	40.8	275.6	57.6	15.8	35.1	6.8	32.6	522.9	138.3	24.7	55.1	19.7	23.3	10.4
75－79	474.6	182.8	1.6	1.3	90.8	59.8	298.0	69.1	18.6	41.2	8.0	23.9	696.6	198.1	48.3	64.8	21.3	35.3	14.6
80－84	599.1	211.0	4.7	―	125.7	82.6	239.3	52.1	13.6	29.4	5.7	24.9	622.5	261.6	55.5	75.0	30.0	50.8	20.9
85以上	746.9	234.2	3.5	2.7	227.3	141.7	226.6	51.4	18.4	26.5	1.1	29.8	593.8	330.5	64.4	75.4	27.0	47.6	31.9

全年齢は世界人口を用いた年齢調整罹患率

表26－(2)－1　罹　患　数

―主要部位・性・二次保健医療圏別―

平成28年

部位名	地域	神奈川県計			横浜北部			横浜西部			横浜南部			川崎北部			川崎南部		
	ICD-10	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全部位	C00-C96・D06	38,473	29,953	68,426	5,851	4,635	10,486	4,970	4,022	8,992	5,292	3,888	9,180	2,835	2,253	5,088	2,451	1,908	4,359
口腔・咽頭	C00-C14	1,036	397	1,433	163	61	224	126	49	175	149	50	199	66	24	90	62	22	84
食道	C15	1,559	352	1,911	262	55	317	184	55	239	232	41	273	121	27	148	92	30	122
胃	C16	5,916	2,509	8,425	852	330	1,182	726	330	1,056	860	336	1,196	418	190	608	355	191	546
結腸	C18	5,535	4,166	9,701	816	555	1,371	706	550	1,256	826	571	1,397	416	307	723	367	257	624
直腸	C19-C20	2,725	1,505	4,230	439	233	672	362	180	542	362	208	570	210	100	310	196	111	307
肝・肝内胆管	C22	1,455	696	2,151	192	94	286	170	80	250	203	87	290	91	51	142	118	41	159
胆のう・胆管	C23-C24	697	579	1,276	88	87	175	94	95	189	102	74	176	44	40	84	38	42	80
膵	C25	1,358	1,150	2,508	193	182	375	166	148	314	181	155	336	97	90	187	82	56	138
喉頭	C32	268	15	283	38	3	41	34	2	36	34	1	35	13	1	14	22	3	25
肺	C33-C34	4,832	2,389	7,221	672	325	997	669	288	957	630	304	934	368	170	538	337	193	530
骨	C40-C41	34	30	64	2	2	4	10	2	12	3	9	12	4	4	8	3	1	4
皮膚	C43-C44	897	892	1,789	146	151	297	112	108	220	127	125	252	68	67	135	38	63	101
乳房	C50	53	7,433	7,486	8	1,253	1,261	5	1,052	1,057	6	940	946	7	585	592	2	392	394
子宮	C53-C55・D06	・	3,018	3,018	・	540	540	・	413	413	・	336	336	・	220	220	・	202	202
卵巣	C56	・	873	873	・	135	135	・	111	111	・	106	106	・	76	76	・	59	59
前立腺	C61	5,647	・	5,647	952	・	952	782	・	782	729	・	729	421	・	421	328	・	328
腎	C64	866	345	1,211	135	52	187	101	51	152	114	53	167	70	19	89	68	23	91
膀胱	C67	1,985	543	2,528	328	86	414	264	88	352	238	67	305	148	43	191	130	36	166
脳	C71	174	186	360	32	31	63	27	26	53	27	28	55	9	12	21	12	14	26
甲状腺	C73	226	607	833	54	111	165	25	90	115	33	86	119	8	35	43	9	48	57
白血病	C91-C95	471	297	768	67	39	106	66	34	100	62	51	113	49	21	70	22	16	38

部位名	地域	横須賀・三浦			湘南東部			湘南西部			県央			相模原			県西		
	ICD-10	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全部位	C00-C96・D06	3,648	2,906	6,554	2,895	2,374	5,269	2,477	2,007	4,484	3,595	2,664	6,259	2,937	2,074	5,011	1,522	1,222	2,744
口腔・咽頭	C00-C14	88	42	130	95	33	128	69	28	97	110	41	151	76	33	109	32	14	46
食道	C15	123	31	154	119	26	145	88	27	115	150	24	174	123	20	143	65	16	81
胃	C16	543	242	785	474	181	655	370	151	521	581	236	817	508	188	696	229	134	363
結腸	C18	505	437	942	379	318	697	358	277	635	500	389	889	463	330	793	199	175	374
直腸	C19-C20	199	129	328	192	95	287	173	120	293	283	156	439	199	101	300	110	72	182
肝・肝内胆管	C22	150	58	208	85	58	143	97	58	155	162	60	222	106	66	172	81	43	124
胆のう・胆管	C23-C24	77	49	126	54	50	104	54	40	94	54	48	102	63	32	95	29	22	51
膵	C25	148	113	261	120	97	217	76	76	152	135	104	239	94	80	174	66	49	115
喉頭	C32	37	3	40	28	1	29	14	―	14	24	―	24	15	―	15	9	1	10
肺	C33-C34	472	267	739	355	183	538	344	171	515	432	208	640	361	191	552	192	89	281
骨	C40-C41	1	3	4	―	2	2	4	3	7	2	4	6	4	―	4	1	―	1
皮膚	C43-C44	118	107	225	56	52	108	63	74	137	83	73	156	50	37	87	36	35	71
乳房	C50	5	718	723	5	640	645	5	459	464	5	646	651	2	483	485	3	265	268
子宮	C53-C55・D06	・	257	257	・	260	260	・	182	182	・	288	288	・	193	193	・	127	127
卵巣	C56	・	69	69	・	75	75	・	62	62	・	85	85	・	61	61	・	34	34
前立腺	C61	502	・	502	425	・	425	367	・	367	512	・	512	428	・	428	201	・	201
腎	C64	79	33	112	59	18	77	48	25	73	91	32	123	58	29	87	43	10	53
膀胱	C67	214	52	266	163	44	207	118	35	153	161	37	198	143	33	176	78	22	100
脳	C71	11	16	27	9	14	23	12	10	22	14	20	34	14	9	23	7	6	13
甲状腺	C73	27	66	93	15	32	47	14	33	47	12	42	54	15	44	59	14	20	34
白血病	C91-C95	40	31	71	39	29	68	33	24	57	38	23	61	30	11	41	25	18	43

表26－(2)－２　粗罹患率（人口10万対）

―主要部位・性・二次保健医療圏別―

平成28年

部位名	地域	神奈川県		横浜北部		横浜西部		横浜南部		川崎北部		川崎南部	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	C00-C96・D06	853.1	660.4	747.0	595.8	919.9	719.2	1,024.0	741.1	697.9	550.9	760.7	633.6
口腔・咽頭	C00-C14	23.0	8.8	20.8	7.8	23.3	8.8	28.8	9.5	16.3	5.9	19.2	7.3
食道	C15	34.6	7.8	33.5	7.1	34.1	9.8	44.9	7.8	29.8	6.6	28.6	10.0
胃	C16	131.2	55.3	108.8	42.4	134.4	59.0	166.4	64.1	102.9	46.5	110.2	63.4
結腸	C18	122.7	91.9	104.2	71.3	130.7	98.4	159.8	108.9	102.4	75.1	113.9	85.3
直腸	C19-C20	60.4	33.2	56.1	30.0	67.0	32.2	70.1	39.7	51.7	24.5	60.8	36.9
肝・肝内胆管	C22	32.3	15.4	24.5	12.1	31.5	14.3	39.3	16.6	22.4	12.5	36.6	13.6
胆のう・胆管	C23-C24	15.5	12.8	11.2	11.2	17.4	17.0	19.7	14.1	10.8	9.8	11.8	14.0
膵	C25	30.1	25.4	24.6	23.4	30.7	26.5	35.0	29.6	23.9	22.0	25.5	18.6
喉頭	C32	5.9	0.3	4.9	0.4	6.3	0.4	6.6	0.2	3.2	0.2	6.8	1.0
肺	C33-C34	107.2	52.7	85.8	41.8	123.8	51.5	121.9	58.0	90.6	41.6	104.6	64.1
骨	C40-C41	0.8	0.7	0.3	0.3	1.9	0.4	0.6	1.7	1.0	1.0	0.9	0.3
皮膚	C43-C44	19.9	19.7	18.6	19.4	20.7	19.3	24.6	23.8	16.7	16.4	11.8	20.9
乳房	C50	1.2	163.9	1.0	161.1	0.9	188.1	1.2	179.2	1.7	143.1	0.6	130.2
子宮	C53-C55・D06	・	66.5	・	69.4	・	73.9	・	64.1	・	53.8	・	67.1
卵巣	C56	・	19.3	・	17.4	・	19.9	・	20.2	・	18.6	・	19.6
前立腺	C61	125.2	・	121.5	・	144.7	・	141.1	・	103.6	・	101.8	・
腎	C64	19.2	7.6	17.2	6.7	18.7	9.1	22.1	10.1	17.2	4.7	21.1	7.6
膀胱	C67	44.0	12.0	41.9	11.1	48.9	15.7	46.1	12.8	36.4	10.5	40.4	12.0
脳	C71	3.9	4.1	4.1	4.0	5.0	4.7	5.2	5.3	2.2	2.9	3.7	4.7
甲状腺	C73	5.0	13.4	6.9	14.3	4.6	16.1	6.4	16.4	2.0	8.6	2.8	15.9
白血病	C91-C95	10.4	6.6	8.6	5.0	12.2	6.1	12.0	9.7	12.1	5.1	6.8	5.3

部位名	地域	横須賀・三浦		湘南東部		湘南西部		県央		相模原		県西	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	C00-C96・D06	1,053.8	797.1	825.2	659.2	847.3	691.9	844.3	642.7	820.7	580.6	906.9	689.8
口腔・咽頭	C00-C14	25.4	11.5	27.1	9.2	23.6	9.7	25.8	9.9	21.2	9.2	19.1	7.9
食道	C15	35.5	8.5	33.9	7.2	30.1	9.3	35.2	5.8	34.4	5.6	38.7	9.0
胃	C16	156.9	66.4	135.1	50.3	126.6	52.1	136.5	56.9	142.0	52.6	136.5	75.6
結腸	C18	145.9	119.9	108.0	88.3	122.5	95.5	117.4	93.9	129.4	92.4	118.6	98.8
直腸	C19-C20	57.5	35.4	54.7	26.4	59.2	41.4	66.5	37.6	55.6	28.3	65.5	40.6
肝・肝内胆管	C22	43.3	15.9	24.2	16.1	33.2	20.0	38.1	14.5	29.6	18.5	48.3	24.3
胆のう・胆管	C23-C24	22.2	13.4	15.4	13.9	18.5	13.8	12.7	11.6	17.6	9.0	17.3	12.4
膵	C25	42.8	31.0	34.2	26.9	26.0	26.2	31.7	25.1	26.3	22.4	39.3	27.7
喉頭	C32	10.7	0.8	8.0	0.3	4.8	―	5.6	―	4.2	―	5.4	0.6
肺	C33-C34	136.4	73.2	101.2	50.8	117.7	59.0	101.5	50.2	100.9	53.5	114.4	50.2
骨	C40-C41	0.3	0.8	―	0.6	1.4	1.0	0.5	1.0	1.1	―	0.6	―
皮膚	C43-C44	34.1	29.4	16.0	14.4	21.6	25.5	19.5	17.6	14.0	10.4	21.5	19.8
乳房	C50	1.4	196.9	1.4	177.7	1.7	158.2	1.2	155.9	0.6	135.2	1.8	149.6
子宮	C53-C55・D06	・	70.5	・	72.2	・	62.7	・	69.5	・	54.0	・	71.7
卵巣	C56	・	18.9	・	20.8	・	21.4	・	20.5	・	17.1	・	19.2
前立腺	C61	145.0	・	121.2	・	125.5	・	120.3	・	119.6	・	119.8	・
腎	C64	22.8	9.1	16.8	5.0	16.4	8.6	21.4	7.7	16.2	8.1	25.6	5.6
膀胱	C67	61.8	14.3	46.5	12.2	40.4	12.1	37.8	8.9	40.0	9.2	46.5	12.4
脳	C71	3.2	4.4	2.6	3.9	4.1	3.5	3.3	4.8	3.9	2.5	4.2	3.4
甲状腺	C73	7.8	18.1	4.3	8.9	4.8	11.4	2.8	10.1	4.2	12.3	8.3	11.3
白血病	C91-C95	11.6	8.5	11.1	8.1	11.3	8.3	8.9	5.6	8.4	3.1	14.9	10.2

表26－(2)－３　年齢調整罹患率（標準人口は日本人人口を使用）

―主要部位・性・二次保健医療圏別―

平成28年

部位名	地域	神奈川県		横浜北部		横浜西部		横浜南部		川崎北部		川崎南部	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	C00-C96・D06	471.3	385.8	485.2	384.0	477.3	406.9	509.5	405.7	454.8	348.0	513.5	400.1
口腔・咽頭	C00-C14	14.0	4.7	14.7	4.0	14.3	3.9	15.6	5.2	11.5	3.1	13.7	4.9
食道	C15	19.1	3.8	21.9	4.2	17.7	4.3	22.6	3.8	19.8	3.0	19.5	6.5
胃	C16	69.3	24.6	68.7	22.8	65.7	23.1	78.0	26.3	64.3	23.4	72.5	33.2
結腸	C18	69.3	43.2	69.0	37.3	70.8	42.2	83.1	48.6	67.4	40.7	79.5	45.7
直腸	C19-C20	36.5	18.7	38.4	18.8	38.1	18.7	38.1	21.2	35.5	14.9	43.7	23.5
肝・肝内胆管	C22	17.3	5.8	15.8	5.4	15.5	5.3	18.9	5.0	14.3	6.1	25.5	6.6
胆のう・胆管	C23-C24	7.8	4.7	6.7	4.6	8.5	6.2	8.6	4.7	6.7	4.2	7.3	5.7
膵	C25	16.6	10.5	15.6	10.7	15.5	9.9	17.2	12.0	15.4	10.9	17.3	9.2
喉頭	C32	3.3	0.2	3.0	0.1	3.2	0.2	3.5	0.2	2.0	0.1	4.4	0.7
肺	C33-C34	56.5	24.1	54.2	21.9	60.7	22.5	57.1	24.3	57.4	21.8	67.3	33.8
骨	C40-C41	0.6	0.5	0.2	0.2	1.2	0.4	0.2	1.3	1.2	0.9	0.6	0.6
皮膚	C43-C44	10.1	8.3	11.1	9.4	10.1	7.4	10.9	10.2	10.0	7.3	7.3	9.9
乳房	C50	0.7	116.5	0.7	120.0	0.5	128.8	0.6	121.2	1.3	108.0	0.5	97.7
子宮	C53-C55・D06	・	58.2	・	60.8	・	67.4	・	55.0	・	44.5	・	59.5
卵巣	C56	・	14.6	・	13.5	・	15.8	・	14.5	・	15.1	・	15.7
前立腺	C61	64.9	・	75.7	・	70.2	・	65.6	・	64.3	・	65.7	・
腎	C64	11.8	4.0	12.0	3.7	10.2	4.1	13.3	5.4	12.7	2.8	15.6	4.4
膀胱	C67	23.3	5.1	26.4	5.6	24.1	6.0	20.3	4.3	24.0	4.8	26.0	6.6
脳	C71	2.6	2.8	3.2	3.1	3.1	3.4	3.8	3.5	1.7	1.9	2.7	2.6
甲状腺	C73	3.7	10.0	5.6	11.4	3.3	11.5	4.2	11.0	1.6	6.9	2.2	12.0
白血病	C91-C95	7.2	4.1	6.3	3.4	9.2	3.6	8.3	5.8	8.8	4.3	5.3	3.6

部位名	地域	横須賀・三浦		湘南東部		湘南西部		県央		相模原		県西	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	C00-C96・D06	463.1	404.1	450.7	398.7	429.6	384.5	478.5	388.6	445.6	344.1	424.7	354.1
口腔・咽頭	C00-C14	12.8	6.4	15.7	4.7	12.3	5.9	15.7	5.8	13.3	5.0	11.3	4.0
食道	C15	15.8	3.5	19.1	3.6	14.9	3.8	19.2	3.1	18.5	2.9	17.1	3.8
胃	C16	65.0	23.7	70.7	22.9	60.5	20.3	74.4	27.3	74.0	25.7	62.6	25.4
結腸	C18	67.1	46.7	58.8	43.5	63.2	43.5	66.7	45.9	69.9	44.9	56.4	37.3
直腸	C19-C20	30.2	15.9	33.9	15.1	33.7	20.9	40.1	21.3	33.4	16.1	34.6	20.4
肝・肝内胆管	C22	17.4	4.2	12.5	6.3	15.9	6.9	21.1	6.1	16.0	7.0	22.1	7.2
胆のう・胆管	C23-C24	9.1	3.7	7.6	5.8	8.2	4.3	6.9	4.4	8.8	3.8	7.0	3.1
膵	C25	19.2	9.1	19.1	11.1	13.2	10.2	18.5	11.0	14.9	9.5	17.5	10.8
喉頭	C32	5.4	0.4	4.5	0.0	2.5	―	3.5	―	2.5	―	2.7	0.2
肺	C33-C34	54.5	26.6	54.0	24.1	58.0	25.1	55.8	25.2	53.3	24.7	49.7	17.1
骨	C40-C41	0.1	0.3	―	0.6	0.9	0.6	0.7	0.8	1.2	―	1.0	―
皮膚	C43-C44	13.0	9.6	8.1	6.2	10.3	7.9	10.7	7.9	7.0	5.9	10.0	7.1
乳房	C50	0.7	128.0	0.8	129.5	0.9	112.8	0.6	112.1	0.4	99.0	1.1	102.7
子宮	C53-C55・D06	・	64.5	・	61.5	・	55.7	・	61.0	・	45.6	・	63.4
卵巣	C56	・	13.4	・	16.0	・	17.4	・	15.1	・	12.2	・	13.7
前立腺	C61	59.2	・	61.1	・	58.4	・	62.9	・	61.0	・	52.0	・
腎	C64	11.5	3.9	10.2	2.7	9.6	4.3	13.5	3.9	9.6	4.8	11.8	2.8
膀胱	C67	27.0	5.9	24.3	5.4	19.3	4.2	20.7	3.7	20.6	4.4	21.7	3.7
脳	C71	1.6	2.6	1.5	3.2	3.0	1.9	2.9	3.8	2.1	2.0	2.0	1.2
甲状腺	C73	4.9	13.3	2.6	6.4	3.4	8.2	2.3	8.0	3.1	9.0	4.3	9.3
白血病	C91-C95	6.0	3.2	7.1	5.8	6.9	4.9	6.1	3.8	6.0	1.6	9.8	5.5

表26－(3)　届出罹患者５年相対生存率

―主要部位・性別―

平成24年

患者種類	部位	ICD-10	5年相対生存率（%）		観察数（人）	
			男	女	男	女
届出罹患者	**全部位**	**C00-C96**	**64.6**	**71.2**	**29,679**	**20,754**
	口腔・咽頭	C00-C14	56.3	68.9	739	278
	食道	C15	45.7	55.4	1,324	231
	胃	C16	67.0	67.1	4,696	1,974
	結腸	C18	78.0	77.1	3,736	2,769
	直腸	C19-C20	74.5	76.9	2,076	1,075
	肝・肝内胆管	C22	35.3	34.3	1,314	630
	胆のう・胆管	C23-C24	29.3	21.4	595	430
	膵	C25	11.0	10.8	942	783
	喉頭	C32	79.9	91.1	282	22
	肺	C33-C34	30.1	49.3	3,829	1,705
	骨	C40-C41	52.8	58.5	29	18
	皮膚	C43-C44	93.8	91.5	574	569
	乳房	C50	83.8	91.4	41	5,242
	子宮	C53-C55	・	77.5	・	1,435
	（子宮頸）	C53	・	72.9	・	609
	（子宮体）	C54	・	81.7	・	811
	卵巣	C56	・	59.4	・	671
	前立腺	C61	98.0	・	4,522	・
	腎	C64	79.4	81.0	658	267
	膀胱	C67	84.5	78.9	1,574	415
	脳	C71	33.6	40.7	148	107
	甲状腺	C73	89.9	96.5	154	477
	白血病	C91-C95	43.1	51.0	389	245

届出罹患とは、医療機関より届出のあった、罹患情報

凡　例

表26－(1)から(3)の数表の記号は、次のような場合に使用した。

計数のない場合	―
統計項目のありえない場合	・
数値が微少（0.05未満）の場合	0.0

年報編集員

編集長　金森平和（病院長）

編集員　森本　学（副院長）
森永総一郎（医療技術部長）
齋藤春洋（呼吸器内科）
菊地慶司（臨床研究所）
安江佳子（看護局）
堀口早苗（検査科）
大川眞美（総務企画課）

事務局　総務企画課

神奈川県立がんセンター年報
（第35号）
令和２年12月
発行者　神奈川県立がんセンター
横浜市旭区中尾２－３－２
ＴＥＬ　045－520－2222（代表）
ＦＡＸ　045－520－2202
編集責任者　年報編集会議
印刷　文明堂印刷株式会社　横浜営業所
ＴＥＬ　045－731－1441

地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立がんセンター
横浜市旭区中尾二丁目3番2号　〒241-8515　電話 045-520-2222(代表)　FAX 045-520-2202